財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第369集

一般国道17号（高松立体）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

高崎城XV遺跡

2006

国　土　交　通　省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第369集

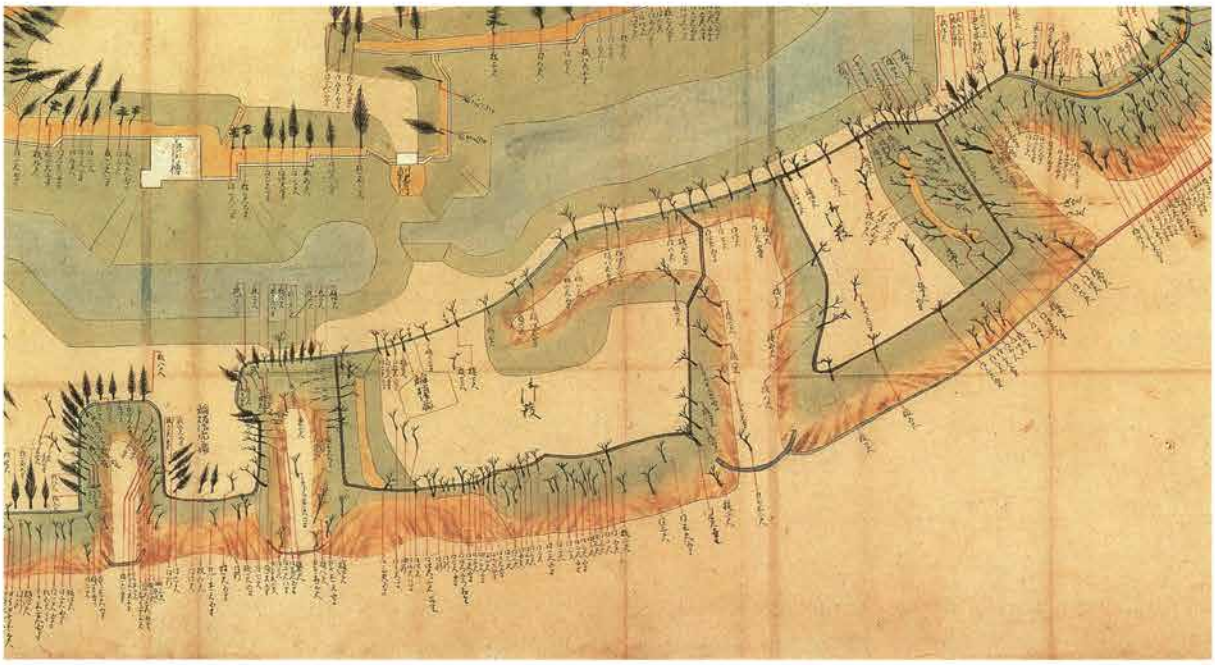
一般国道17号（高松立体）改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

高崎城XV遺跡

2006

国　土　交　通　省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

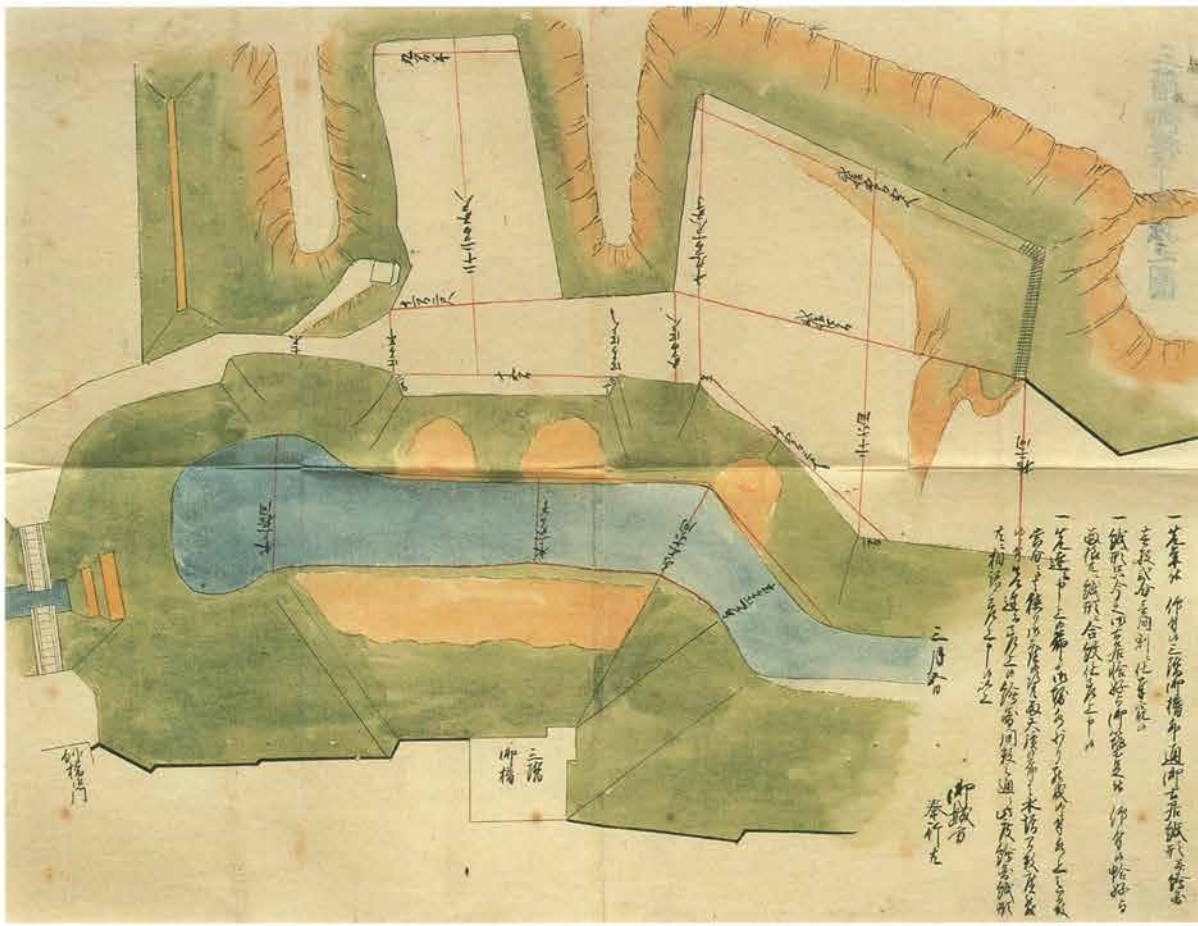
高崎城遺跡空中写真　西上空から撮影　三の丸を囲む堀と土塁が明瞭に見える（下が烏川）



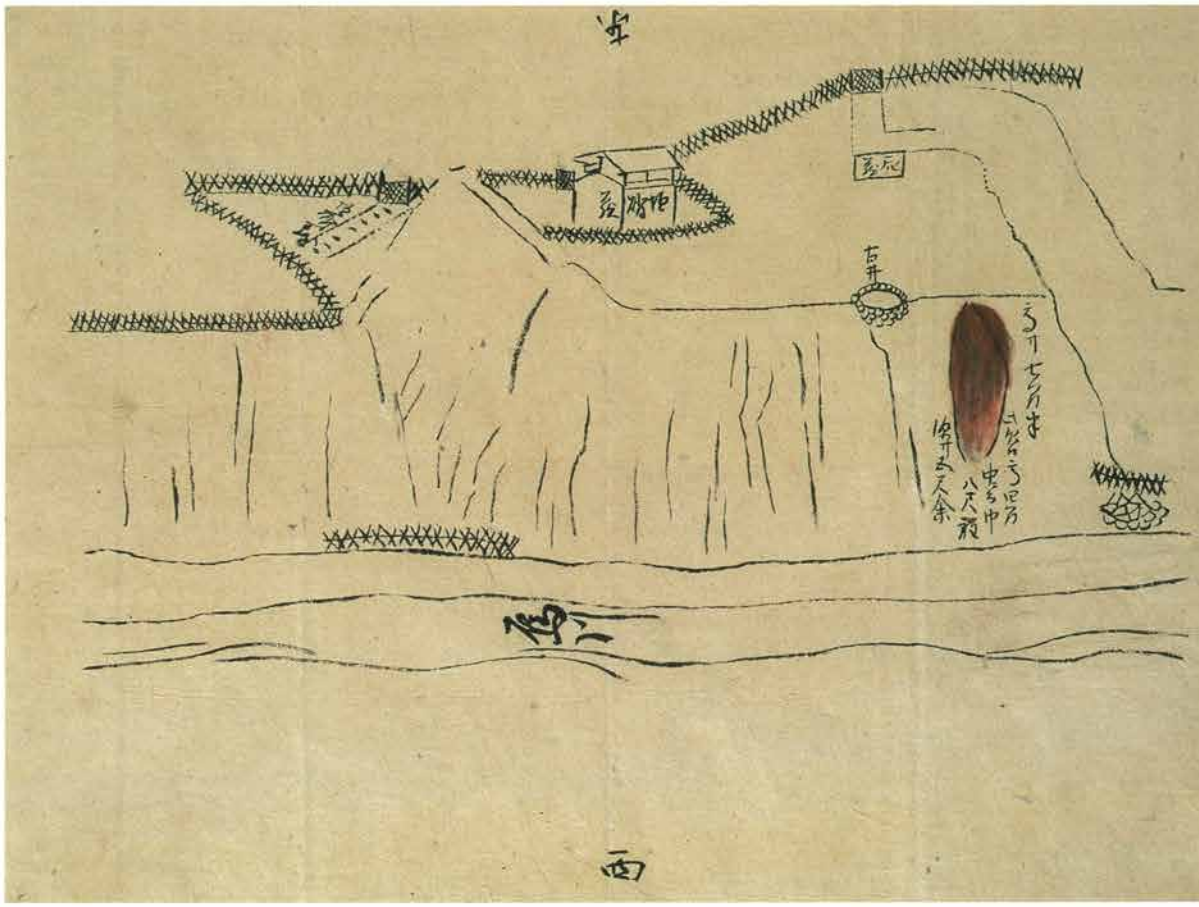
高崎城　「御城竪土居通御植物木尺附絵図」の調査区付近部分（下が烏川）

高崎市史資料担当写真提供　高崎市教育委員会蔵

口絵2



高崎城「三層御櫓下御堀ノ図」（上が西）２条の堀と中央の本丸堀の一部が調査された
高崎市史資料担当写真提供　高崎市教育委員会蔵



高崎城絵図「烏川沿焔硝蔵付近崩れ」中央が１区　古井は既に崩壊していたようで、確認されなかった。
高崎市史資料担当写真提供　高崎市教育委員会蔵

陶磁器　内面　　図番号のないものは非掲載

陶磁器　外面

口絵４

２区盛土　土層断面（東から）

２区盛土　土層断面近接　黒色土と泥流の境に石列（東から）

80図430

79図428

歯ブラシ先端と刻印近接（最小目盛りは１㎜）

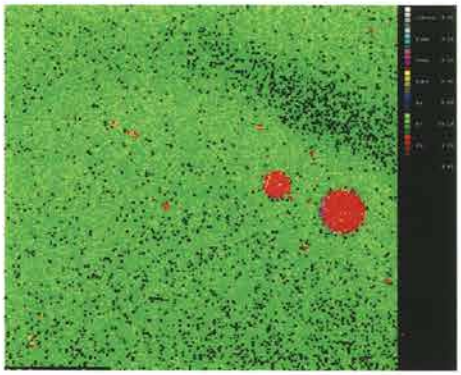
107図34

123図155

122図154

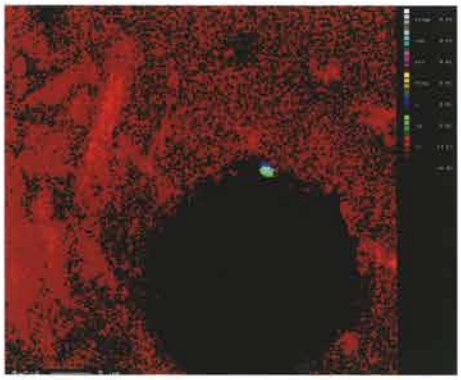
98図３

No. 3



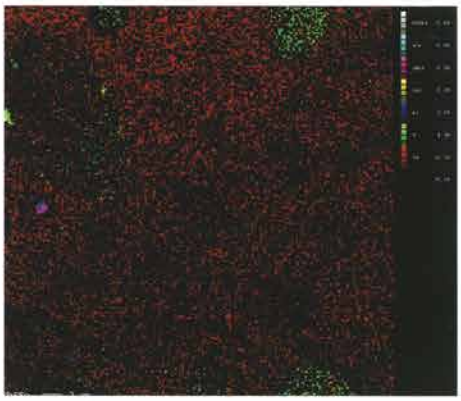
Cu・As・S

No. 5



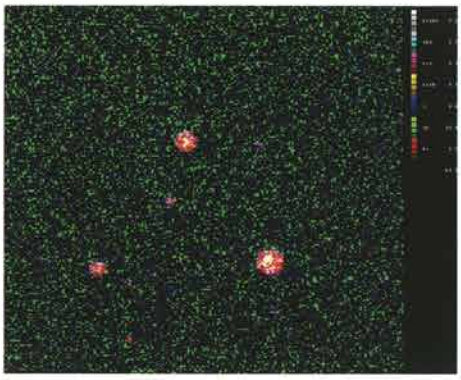
Fe・Cu・S

No. 7



Fe・Sb・S

No. 1



Fe・Sb・S

取鍋の外観と摘出した試料に含有される元素濃度分布の複合カラーマップ

序

『高崎城XV遺跡』は、高崎市高松町にある高崎城本丸と烏川との間に位置し、国道17号（高松立体）改築工事に伴い国土交通省から委託を受けた財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成14年度から平成15年度にかけて発掘調査を実施した遺跡です。

高崎城XV遺跡の存在する高崎城本丸西側は、高崎城が本丸から二ノ丸、三ノ丸、城下町と東に広がる構造であったため、高崎城の時代にはほとんど使用されない場所でありました。そのため、高崎城の煙硝蔵が絵図に描かれていたり、中世和田城の遺構が残っていると考えられてきました。また、旧高崎城内では弥生時代や平安時代の遺構も確認されていましたので、両時代の遺構が発見される可能性もありました。

発掘調査の結果、平安時代の竪穴住居跡、中世の畠や建物跡、城を造る際の大規模な土盛り跡、高崎城の堀跡などが発見されました。

本報告書は、これらの成果をまとめたものですが、注目されるものとして、「和田城櫓台跡」があります。和田城櫓台跡は、江戸時代の記録などから和田城時代のものとして考えられてきました。しかし、櫓台盛土の下から中世の畠が見つかり、更にその下から和田城時代の建物や鉄砲玉が見つかりました。これにより、従来和田城のものと考えられてきた櫓台跡がより新しい時代のものであったことが判明しました。

これらのことは、高崎市や高崎城、和田城の歴史を明らかにしていくうえで貴重な資料となり、考古学研究者や城郭研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの市民や県民の皆様にも大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、国土交通省、高崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成17年12月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　高　橋　勇　夫

例　　言

1．本書は、一般国道17号（高松立体）改築工事に伴う事前事業として、平成14年度から平成15年度にかけて実施した「高崎城XV遺跡」の発掘調査報告書である。

2．遺跡の所在地は、高崎市高松町38－1、39－1・3・5、40－2・3・4、41－1・2である。

3．発掘調査と整理事業は、国土交通省から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受けて行った。

4．発掘調査期間と発掘調査組織は以下のとおりである。

（1）事前（測量・写真）調査期間と担当者

期間：平成12年11月から同12月　1,500㎡

担当：石守　晃

地番：高松町39番地他

（2）発掘調査期間と発掘調査担当者

期間：平成14年4月1日から平成15年3月31日　6,327㎡

担当：大西雅広　山村英二

地番：高松町38－1、39－1、40－2

期間：平成15年4月1日から平成15年6月30日　2,330㎡

担当：大西雅広　土屋崇志

地番：高松町38－1

期間：平成15年11月1日から平成16年1月31日　3,232㎡

担当：大西雅広　土屋崇志

地番：高松町40－2・3・4、41－1・2

（3）調査年度と事務担当者

平成14年度

理 事 長　小野宇三郎

事務担当

常務理事　吉田　豊　事業局長　神保侑史

管理部長　萩原利通　　総務課長　植原恒夫

総 務 課　小山建夫　　高橋房雄　　須田朋子　　吉田有光　　森下弘美　　田中賢一

内山佳子　　若田　誠　　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　狩野真子　今井もと子

調査研究部長　巾　隆之　　調査研究第3課長　中沢　悟

平成15年度

理 事 長　小野宇三郎

事務担当

常務理事　住谷永市　　事業局長　神保侑史

管理部長　萩原利通　　総務課長　植原恒夫

総 務 課　竹内　宏　　高橋房雄　　須田朋子　　吉田有光　　阿久澤玄洋　田中賢一

内山佳子　　若田　誠　　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　狩野真子　今井もと子

調査研究部長　右島和夫　調査研究第２課長　関　晴彦

5．整理事業

整理期間　　平成17年４月１日から平成18年３月31日

理 事 長　小野宇三郎　　高橋勇夫

事務担当

常務理事　木村裕紀

管理部長　矢崎俊夫　　総務課長　宮前結城雄

総 務 課　須田朋子　　吉田有光

内山佳子　　若田　誠　　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　狩野真子　今井もと子

資料整理部長　中束耕志　　資料整理２課長　相京建史

編集担当　大西雅広

整理補助員　根井美智子　小林町子　伊藤幸代　真庭和子　中橋たみ子

遺物写真撮影　佐藤元彦

保存処理　関　邦一　土橋まり子　小材浩一　　津久井桂一　森田智子

三次元測定土器実測　田中精子　富沢スミ江

6．本書の執筆は以下のとおりである。

山村英二、赤沼英男、楢崎修一郎、上記以外大西雅広

7．委託業務

発掘調査

・遺構掘削工事は株式会社小出測量設計事務所に委託して行った。

・遺構測量の一部は、株式会社アコン測量設計に委託した。

・櫓台調査時の防護壁は、設計を株式会社小出測量設計事務所、施工を株式会社角籐に委託した。

・３号堀調査時の仮設土留工は、設計を株式会社小出測量設計事務所、施工を井上工業株式会社に委託した。

整理作業

・遺構図面デジタル編集は、一部を除き技研測量設計株式会社に委託した。

・遺物デジタルトレース・編集は、一部を除き株式会社測研に委託した。

・遺跡出土金属製品、金属生産関連遺物の自然科学分析は岩手県立博物館に研究委託を行った。なお、本分析に関しては赤沼英男・佐々木整氏に玉稿を頂いた。

8．発掘調査や報告書作成にあたっては、次の機関・諸氏からご協力・ご教示をいただいた。

高崎市教育委員会、高崎市史編さん室、高崎市総務部庶務課市史資料担当、三田市教育委員会、ヤマト株式会社

土屋喜英、森田秀策、村田敬一、時枝　務、阿部秀男、伊藤　肇、星野守弘、鹿沼栄輔、黒田　晃、藤澤良祐、山下峰司、茂木　渉、原　真、青木利文、清水　豊、秋本太郎、中島直樹、石神由貴、田中賢人、長谷部邦夫、宿谷尚代（敬称略、順不同）

9．出土遺物、遺構測量図、遺構写真、遺物写真などは、群馬県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　　例

1．発掘調査及び本書で使用した基準は以下のとおりである。
平面基準は、平面直角座標第Ⅸ系（日本測地系（Tokyo Datum））を使用した。
図中に示した方位は、日本測地系（Tokyo Datum）座標北である。

2．挿図の縮尺は、各図下部にスケールで示した。また、遺物写真の縮尺は挿図に近づけたが、一部異なるものがある。

3．遺構断面図及び等高線に記した数値は標高を表す。

4．土層注記及び遺物観察で使用した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局　監修、財団法人日本色彩研究所　色監修「新版　標準土色帖」1991を使用した。

5．遺物観察表で使用した「胎土」や内耳鍋・すり鉢などの「焼成」は以下のとおりである。

胎土

①内耳鍋、すり鉢、火鉢

A：角閃石と石英多く含む。
B：角閃石多く含み、石英少量含む。
C：角閃石含む。片岩細片と片岩に由来する雲母多く含む。
D：角礫含む。片岩細片と片岩に由来する雲母、石英少量含む。

②土器皿

A：９号土坑からまとまって出土。夾雑物少ない。
B：角閃石含む。片岩細片を少量、片岩に由来する雲母多く含む。
C：角閃石少量含む。片岩細片と片岩に由来する雲母少量含む。
D：角閃石非常に多く含み、器表に黒斑状を呈する部分もある。
E：角閃石僅かに含む。赤色粒多く含む。

③須恵器

A：角閃石含む。石英含む。雲母？多く含む。
B：角閃石含む。石英少量含む。雲母？少量含む。
C：角閃石極少量含む。

焼成（内耳鍋、火鉢、すり鉢）

A：断面がサンドイッチ状を呈する
B：還元炎焼成
C：酸化炎焼成
D：燻し焼成
E：黒色を呈する

6．遺物実測図中心線の破線は、口縁部又は底部の残存が1/2以下であることを示す。

目　次

口絵、序、例言、凡例
Ⅰ高崎城XV遺跡調査の経過 …… 1
1　発掘調査に至る経過 …… 1
2　調査の経過と方法 …… 1

Ⅱ遺跡の立地と周辺の遺跡 …… 4
1　遺跡の位置と立地 …… 4
2　周辺の遺跡 …… 4
3　調査成果の概要 …… 6

Ⅲ確認された遺構と遺物 …… 9
1　盛土上および高崎城期以降の遺構と遺物 …… 9
2　盛土と盛土内で確認された遺構と遺物 …… 21
3　盛土下で確認された畠状遺構と黒色土内出土遺物 …… 25
4　畠状遺構下で確認された遺構と遺物 …… 25

Ⅳ調査成果のまとめ …… 33

Ⅴ図表 …… 35
1　土坑・溝一覧表 …… 35
2　ピット一覧表 …… 38
3　確認された遺構図等 …… 45
4　確認された遺物図等 …… 107
5　出土遺物観察表 …… 178

Ⅵ自然科学分析 …… 223
1　高崎城XV遺跡出土獣骨 …… 223
2　高崎城XV遺跡出土銅関連資料の金属考古学的調査結果 …… 231

写真図版

遺構・遺物図版目次

第１図　遺跡位置図
第２図　周辺の遺跡
第３図　高崎市域と地形区分図
第４図　高崎泥流分布範囲
第５図　高崎城遺跡調査地点位置図
第６図　調査前現況図、高崎城縄張り図（部分）
第７図　１区・３区全体図、１号堀平面、断面図
第８図　２号堀・３号堀
第９図　６号堀
第10図　２区盛土上全体図、断面模式図
第11図　４号堀・５号堀
第12図　１号石敷遺構
第13図　『和田城櫓台跡』現況図、土層断面図
第14図　『和田城櫓台跡』残存状態
第15図　『和田城櫓台跡』盛土内石列
第16図　２区盛土内石列全体図、集石部部分図
第17図　２区盛土内石列平面図（１）、土層断面図
第18図　２区盛土内石列平面図（２）
第19図　２区盛土内石列土層断面図・断面図・側面図
第20図　２区盛土土層断面図
第21図　２区盛土下畠状遺構全体図
第22図　２区盛土下畠状遺構平面図（１）、土層断面図
第23図　２区盛土下畠状遺構平面図（２）
第24図　２区盛土下畠状遺構平面図（３）、断面図
第25図　２区盛土下畠状遺構平面図（４）
第26図　１号・２号・３号・４号土坑
第27図　５号・６号・７号・８号土坑
第28図　９号土坑
第29図　10号・11号・12号・13号・14号・15号土坑、２号竪穴住居
第30図　２区畠状遺構下遺構群平面割図
第31図　２区畠状遺構下遺構群平面図（１）
第32図　２区畠状遺構下遺構群平面図（２）
第33図　２区畠状遺構下遺構群平面図（３）
第34図　２区畠状遺構下遺構群平面図（４）
第35図　２区畠状遺構下遺構群平面図（５）
第36図　２区畠状遺構下遺構群平面図（６）
第37図　２区畠状遺構下遺構群平面図（７）
第38図　２区畠状遺構下遺構群平面図（８）
第39図　２区畠状遺構下遺構群平面図（９）
第40図　２区畠状遺構下遺構群平面図（10）
第41図　２区畠状遺構下遺構群平面図（11）
第42図　２区畠状遺構下遺構群平面図（12）
第43図　２区畠状遺構下遺構群平面図（13）
第44図　２区畠状遺構下遺構群平面図（14）
第45図　２区畠状遺構下遺構群平面図（15）
第46図　２区畠状遺構下遺構群平面図（16）
第47図　２区畠状遺構下遺構群平面図（17）
第48図　２区畠状遺構下遺構群平面図（18）
第49図　２区畠状遺構下遺構群平面図（19）
第50図　24・25号土坑、62・74・76号土坑遺物出土状態図
第51図　63・64・65号土坑、67号土坑遺物出土状態図
第52図　66号土坑、68・69号土坑、71・72・73号土坑遺物出土状態図
第53図　82・83号土坑、８号溝遺物出土状態図
第54図　４号竪穴住居、５～８号竪穴住居遺物出土状態図
第55図　２区畠状遺構下ピット群柱痕平面図（１）
第56図　２区畠状遺構下ピット群柱痕平面図（２）
第57図　２区畠状遺構下ピット群柱痕平面図（３）
第58図　２区畠状遺構下土坑群断面図（１）
第59図　２区畠状遺構下土坑群断面図（２）
第60図　２区畠状遺構下ピット群断面図（１）
第61図　２区畠状遺構下ピット群断面図（２）
第62図　２区畠状遺構下ピット群断面図（３）
第63図　２区畠状遺構下ピット群断面図（４）
第64図　２区畠下遺構群溝、３号竪穴住居断面図
第65図　１区１号堀上層出土遺物（１）
第66図　１区１号堀上層出土遺物（２）
第67図　１区１号堀上層出土遺物（３）
第68図　１区１号堀上層出土遺物（４）
第69図　１区１号堀上層出土遺物（５）
第70図　１区１号堀上層出土遺物（６）
第71図　１区１号堀上層出土遺物（７）
第72図　１区１号堀上層出土遺物（８）
第73図　１区１号堀上層出土遺物（９）
第74図　１区１号堀上層出土遺物（10）
第75図　１区１号堀上層出土遺物（11）
第76図　１区１号堀上層出土遺物（12）
第77図　１区１号堀上層出土遺物（13）
第78図　１区１号堀上層出土遺物（14）
第79図　１区１号堀上層出土遺物（15）
第80図　１区１号堀上層出土遺物（16）
第81図　１区１号堀中層出土遺物（１）
第82図　１区１号堀中層出土遺物（２）
第83図　１号堀下層から６号堀出土遺物（１）
第84図　１号堀下層から６号堀出土遺物（２）
第85図　１号堀下層から６号堀出土遺物（３）
第86図　１号堀下層から６号堀出土遺物（４）
第87図　１号堀下層から６号堀出土遺物（５）
第88図　１号堀下層から６号堀出土遺物（６）
第89図　１区遺構内出土遺物（１）
第90図　１区遺構内出土遺物（２）
第91図　１区遺構内出土遺物（３）
第92図　１区・３区遺構外出土遺物
第93図　２区盛土内出土遺物（１）
第94図　２区盛土内出土遺物（２）
第95図　２区盛土内出土遺物（３）
第96図　２区盛土内石列出土遺物（１）
第97図　２区盛土内石列出土遺物（２）
第98図　２区盛土内石列出土遺物（３）
第99図　２区盛土内石列出土遺物（４）
第100図　２区盛土内石列出土遺物（５）
第101図　２区盛土内石列出土遺物（６）
第102図　２区盛土内石列出土遺物（７）
第103図　２区盛土内石列出土遺物（８）
第104図　２区盛土内石列出土遺物（９）
第105図　２区畠状遺構黒色土内出土遺物（１）
第106図　２区畠状遺構黒色土内出土遺物（２）
第107図　２区畠状遺構黒色土内出土遺物（３）
第108図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１）
第109図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（２）
第110図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（３）
第111図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（４）
第112図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（５）
第113図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（６）
第114図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（７）
第115図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（８）
第116図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（９）
第117図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（10）
第118図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（11）

第119図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１２）
第120図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１３）
第121図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１４）
第122図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１５）
第123図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１６）
第124図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１７）
第125図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１８）
第126図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１９）
第127図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（２０）
第128図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（２１）
第129図　２区畠状遺構下遺構群出土古代遺物（１）
第130図　２区畠状遺構下遺構群出土古代遺物（２）
第131図　２区畠状遺構下遺構群出土古代遺物（３）
第132図　遺構外出土遺物（１）及び遺構内出土遺物補遺
第133図　遺構外出土遺物（２）
第134図　歩兵第十五連隊営内図（酒保・下士集会所部分）
第135図　昭和９年　歩兵第十五連隊平面図
第136図　昭和９年　歩兵第十五連隊平面図（部分）
第137図　前橋城、高崎城縄張り比較図

表目次

表１　土坑・溝一覧表
表２　ピット一覧表
表３　１号堀上層出土ガラス瓶観察表
表４　１号堀上層出土陶磁器類観察表
表５　１号堀上層出土釦類観察表
表６　１号堀上層出土金属製品等観察表
表７　１号堀上層出土歯ブラシ等観察表
表８　１号堀中層出土鉛弾観察表
表９　盛土および高崎城期の出土遺物観察表
表10　１区・３区堀以外出土遺物観察表
表11　２区盛土内出土遺物観察表
表12　２区盛土内石列出土遺物観察表
表13　２区盛土下畠状遺構黒色土内出土遺物観察表
表14　２区畠状遺構下遺構群出土遺物観察表
表15　２区畠状遺構下遺構群出土平安時代遺物観察表
表16　２区畠状遺構下遺構群出土遺物補遺、遺構外出土遺物観察表

写真図版目次

ＰＬ－１
１区調査前全景（東から）
２区調査前全景　奥に櫓台が見える（北から）
１区全景　手前の基礎跡は現代（北から）
１号（本丸西側）堀上層全景（西から）
１号（本丸西側）堀鉛円弾出土状態（北西から）
ＰＬ－２
１号（本丸西側）堀鉛円弾出土状態近接（東から）
１号（本丸西側）堀全景（南から）
１号（本丸西側）堀全景（北から）
１号（本丸西側）堀全景（北から）
１号（本丸西側）堀土層断面（北から）
１号（本丸西側）堀土層断面　左に古い堀（南から）
地形に反映する２・３号堀跡　中央の低い場所が堀跡
２・３号堀土層断面（南から）
ＰＬ－３
２・３号堀土層断面　右上には堀跡の凹みが擁壁となって残る（東から）
２・３号堀土層断面　右上も堀の立ち上がりが延びる（東から）
２・３号堀全景　古い３号堀は高崎城本丸方向に延びる（西から）
２・３号堀確認状態　南壁に特殊地下壕入り口が見える（北西から）
２・３号堀全景（北から）
ＰＬ－４
１号特殊地下壕全景（北から）
２号特殊地下壕床面近接（東から）
２号特殊地下壕全景（南から）
６号堀全景（東から）
６号堀全景（西から）
６号堀土層断面（東から）
６号堀東側底部付近立ち上がり（西から）
ＰＬ－５
４号堀全景　左と右の一部に立ち上がり（南東から）
４号堀北壁　垂直な立ち上がりで不自然（南から）
４号堀北壁際　現代瓦・磁器出土状態（南から）
５号堀北壁（南から）
５号堀北壁（左）と土層断面（西から）
１号石敷３面全景（東から）
１号石敷３面肥前磁器片出土状態（東から）
１号石敷掘方全景（南から）
ＰＬ－６
『和田城櫓台跡』調査前全景（西上空から）
『和田城櫓台跡』表土除去後全景（北から）
『和田城櫓台跡』１回目断ち割り状態（北から）
『和田城櫓台跡』１回目断ち割り土層断面（南から）
『和田城櫓台跡』石列確認状態（北から）
ＰＬ－７
『和田城櫓台跡』石列確認状態近接（北から）
『和田城櫓台跡』石列西側側面（北西から）
『和田城櫓台跡』石列断面（北から）
２区盛土土層断面（東から）
２区盛土土層断面近接　黒色土と泥流の境に石列（東から）
２区盛土土層断面（東から）
２区盛土土層断面　石の代わりに泥流塊を積む（東から）
２区盛土内石列全景（南から）
ＰＬ－８
２区盛土内石列全景（南から）
２区盛土内石列東半（西から）
２区盛土内石列北東端（北から）
同左近接　石の間に泥流塊も積む
２区盛土・石列断面　石列を境に盛土が変わる
２区盛土内石列　石列を境に盛土が変わる
２区盛土内石列
２区盛土内石列
ＰＬ－９
２区盛土下畠状遺構全景（南から）
２区盛土下畠状遺構全景（北から）
２区櫓台下畠状遺構全景（北から）
２区櫓台下畠状遺構全景（北から）
２区櫓台下畠状遺構近接
１区遺構群全景（北西から）
２区北半畠状遺構下遺構群調査風景（南から）
２区南半畠状遺構下遺構群全景（北から）
ＰＬ－10
１号土坑灰堆積状態断面
１号土坑全景（東から）
２号土坑遺物出土状態（南から）

3号土坑礫・遺物出土状態（南西から）
5号土坑全景　柱穴は掘方（西から）
7号土坑礫・遺物出土状態（南から）
7号土坑全景（南から）
11号土坑全景（北東から）
ＰＬ－11
9号土坑全景（南から）
9号土坑遺物出土状態（東から）
9号土坑西半遺物出土状態（南から）
9号土坑東半遺物出土状態（南から）
9号土坑壁際ピット5土層断面近接
9号土坑壁際ピット10土層断面近接
9号土坑壁際ピット1土層断面近接
9号土坑床面杭状痕（木根）壁際ピットとの比較
ＰＬ－12
24・25号土坑遺物出土状態（北東から）
24号土坑遺物出土状態（東から）
25号土坑遺物出土状態（西から）
25号土坑遺物出土状態（北西から）
24・25号土坑全景（北から）
29号土坑全景（南から）
30号土坑全景（南から）
ＰＬ－13
30号土坑北東隅遺物出土状態（南から）
30号土坑鮑出土状態
30号土坑大窯皿出土状態（東から）
32号土坑全景　遺物付近の色違いは4号溝
35号土坑全景（北から）
35号土坑灰層断面　灰層は床面より浮いている
39号土坑全景（南から）
40号土坑全景（東から）
ＰＬ－14
41・42・43号土坑全景（東から）
43号土坑貝出土状態
44・45号土坑遺物出土状態（東から）
45号土坑遺物出土状態近接　（東から）
51号土坑全景（東から）
43・54号土坑全景（東から）
59号土坑全景（北から）
62号土坑全景（南から）
ＰＬ－15
62号土坑遺物出土状態
62号土坑古瀬戸水滴（右中央）出土状態
63・64・65号土坑遺物出土状態（南から）
63号土坑遺物出土状態（南から）
64号土坑遺物出土状態（南から）
63・64号土坑遺物出土状態（南から）
63・64号土坑遺物出土状態近接（南から）
ＰＬ－16
65号土坑遺物出土状態全景（南から）
65号土坑鮑等出土状態（西から）
64号土坑全景（南から）
63号土坑全景（南から）
63・64・65号土坑全景（南から）
65号土坑全景（南から）
66号土坑全景（北から）
ＰＬ－17
67号土坑礫・遺物出土状態（南西から）
67号土坑礫・遺物出土状態（南から）
67号土坑全景（南西から）
68・69号土坑全景（北東から）
68号土坑遺物・獣骨出土状態
70号土坑全景（北から）
72・73号土坑遺物出土状態全景（南西から）
72号土坑遺物出土状態（南から）
ＰＬ－18
72号土坑遺物出土状態　底面より浮いた礫・遺物が多い（南から）
72号土坑黒色小円礫（中央）出土状態
73号土坑遺物出土状態（南から）
73号土坑遺物出土状態近接（南から）
73号土坑全景（西から）
74・75号土坑全景（東から）
77号土坑全景　左の62号土坑より古い（南から）
79号土坑、309号ピット全景（南から）
ＰＬ－19
82・83号土坑遺物出土状態（西から）
82・83号土坑遺物出土状態（南から）
82号土坑遺物出土状態近接
82号土坑遺物出土状態近接
82号土坑遺物出土状態近接
82号土坑遺物出土状態近接
ＰＬ－20
82・83号土坑全景（西から）
82・83号土坑全景（南から）
82号土坑青磁皿出土状態
84号土坑全景（北西から）
85号土坑全景　手前は10号溝（南から）
89号土坑全景（西から）
89号土坑遺物出土状態近接（東から）
90号土坑全景　10号溝、204ピットより古い（西から）
ＰＬ－21
1号井戸確認面全景
1号井戸底面付近
84号ピット遺物出土状態
88・91（奥側）号ピット柱痕確認状態
106号ピット柱痕確認状態
110号ピット柱痕確認状態
118号ピット柱痕確認状態
120号ピット柱痕確認状態
ＰＬ－22
121号ピット柱痕確認状態
141号ピット柱痕確認状態
154号ピット柱痕確認状態
155号ピット柱痕下部貝出土状態
302号ピット柱痕土層断面
319号ピット柱痕土層断面（9号溝より新しい）
4号溝全景（西から）
3号住居全景（西から）
ＰＬ－23
6号溝全景（北から）
8号溝礫・遺物出土状態（南から）
8号溝全景　9号溝より新しい（南から）
10号溝全景（東から）
ＰＬ－24
4号住居掘方全景（東から）
4号住居床下土坑（南から）
5号住居全景（西から）
5号住居竈　灰と焼土分布により確認
6号住居全景（西から）
5・6号住居掘方全景（西から）
5～7号住居掘方全景（西から）
8号住居全景　竈と貯蔵穴のみ確認

ＰＬ－25
　１号堀上層出土ガラス瓶
ＰＬ－26
　１号堀上層出土ガラス瓶
ＰＬ－27
　１号堀上層出土ガラス瓶類、陶磁器
ＰＬ－28
　１号堀上層出土陶磁器
ＰＬ－29
　１号堀上層出土陶磁器
ＰＬ－30
　１号堀上層出土歯ブラシ
ＰＬ－31
　１号堀上層出土歯ブラシ等
ＰＬ－32
　１号堀上層出土陶磁器
ＰＬ－33
　１号堀上層出土陶磁器、石製品、釦、金属製品
ＰＬ－34
　１号堀上層出土金属製品、中層出土鉛弾、４号堀出土遺物
　１区土坑出土遺物
ＰＬ－35
　１区土坑、２区盛土内、畠状遺構黒色土内出土遺物
ＰＬ－36
　２区畠状遺構黒色土内、２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物
ＰＬ－37
　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物
ＰＬ－38
　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物
ＰＬ－39
　２区畠状遺構下遺構群出土中世・古代遺物
ＰＬ－40
　２区畠状遺構下遺構群出土古代遺物、遺構外出土遺物
ＰＬ－41
　２区盛土、畠状遺構黒色土、畠状遺構下遺構群出土貝類
ＰＬ－42
　参考品

Ⅰ　高崎城XV遺跡調査の経過

1　発掘調査に至る経過

群馬県高崎市を縦断する一般国道17号では、烏川を渡河する和田橋や聖石橋に交通が集中し、朝夕のラッシュ時をピークに激しい交通渋滞が発生している。特に一般国道18号線の分岐点と近接し、高崎市中心市街地と住宅地を結ぶ県道藤木高崎線と交差する和田橋交差点は、県内最大の交通渋滞区間となっていた。こうした状況を改善するため、建設省関東地方整備局（当時）は和田橋交差点を立体化する高松立体事業を策定し、平成11年度に事業着手をした。事業は国道17号を地下化し、和田橋交差点を立体化するもので、実際に地下化される部分は現道下となるが、立体化工事期間中の切り回し道路部分が高崎城西郭部分に予定されていた。

平成12年６月、建設省関東地方建設局高崎工事事務所（当時）から群馬県教育委員会に「平成12年度高崎工事事務所管内の改築工事に伴う埋蔵文化財試掘調査について」の依頼、同８月には「一般国道17号（高松立体）改築工事の実施に伴う埋蔵文化財の所在について」の照会が行われた。

これに対し、群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部文化財保護課（当時）は、事業予定地が和田城の遺構が残る場所であると共に高崎市指定史跡「和田城櫓台跡」も存在するため、高崎市教育委員会との協議も行い、本格的な発掘調査が必要と判断した。

平成12年９月に建設省関東地方建設局高崎工事事務所長より群馬県教育委員会教育長あてに「一般国道17号高松立体事業に伴う事前の文化財調査（測量・写真）について」依頼があり、群馬県教育委員会の調整により財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、櫓台を中心とした現況測量と高崎城域の空中写真撮影を実施した。

平成13年度において発掘調査が計画されたが、用地の問題で発掘調査を開始することはできなかった。平成14年度には用地問題も一部を残して解決し、発掘調査が開始されることとなった。

今回の発掘調査にあたって平成14年度４月１日付けで国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の三者で「一般国道17号（高松立体）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が取り交わされ、協定書に沿って調査が進められた。

2　調査の経過と方法

平成12年度

先に述べたように事前調査とし調査区の現況測量と空中写真撮影を行った。

平成14年度

本年度の調査箇所は建設省高崎工事事務所跡地（１区）と和田橋交差点南に位置し高崎市が公園として使用していた高崎市指定史跡「和田城櫓台」が対象となっていた。当初の調査期間は平成14年４月１日から平成14年12月31日の９ヶ月であった。調査は、土地問題の解決していた１区から開始した。公園として利用されていた「和田城櫓台跡」部分には公園関連の構造物や多くの樹木が植えられていた。

５月16日の調整会議の中で、これらの樹木に関しては、平成13年度にパブリック インボルブメントなどによって移植・伐採の調整が行われており、移植の際の立ち会い調査の必要性と共に大径木の移植が11月とされた。そのため、「和田城櫓台跡」部分の本調査は11月以降となり、調査期間は平成15年３月31日とされた。旧建設省高崎工事事務所跡地（１区）南半の調査は６月で終了し、７・８月は「和田

城櫓台跡」の樹木移植立合調査や大径木根回し作業時に確認された石組溝（調査の結果底石下から近代遺物片出土）の調査を行った。９月からは１区北半の調査を開始し、２・３号堀の存在と共に、未買収地にまで堀が達していることが確認された。

樹木の移植が終了した11月から「和田城櫓台跡」の調査を開始した。調査の進行に伴い、郭部分が１ｍ以上の盛土造成や盛土に伴う石列遺構が確認され、更にその下には畠、中世の竪穴遺構、溝、土坑などが存在していることが明らかとなった。「櫓台」の調査とその下の遺構を考えると、３月終了は困難と判断され、１月29日に国土交通省高崎河川国道事務所、県教育委員会文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団との３者で調整会議を行い、調査期間を平成15年５月30日までとすることが決定した。

櫓台部分は、高崎市指定史跡「和田城櫓台跡」の中心をなす部分である。大部分は国道17号建設の際に削り取られ、僅かに烏川に面する部分が残されていた。国道側は高さ７ｍ、下部幅約25ｍの擁壁が構築されていた。この擁壁を崩しながらの調査を行うため、国道と擁壁の間に安全柵を設置し、擁壁片や土砂の転落防止を行った。

平成15年度その１

今年度の調査は、櫓台本体の調査が主体となるが、調査方法をはじめとして、確認された遺構について高崎市教育委員会、高崎市文化財調査委員の指導を受けながら調査を実施した。しかし、櫓台上部の幅は２ｍ程しかないうえに国道17号と烏川崖に挟まれた狭小な場所であり、一度に断面観察を行うことは不可能であった。このため、一度に1.5ｍ～2.0ｍを目安に櫓台西半をバックホーで崩し、断面測量を行った後に国道側を崩し、露出した擁壁を解体して撤去するという行程を繰り返す方法を採らざるをえなかった。

また、郭部盛土下の中世遺構群の遺構量が非常に多く、予定期間内の調査終了が困難となった。そこで、５月15日の調整会議において平成15年６月30日までの期間延長が決定し、６月30日に調査を終了した。

平成15年度その２

新たに用地買収と建造物撤去が終了した３区と平成14年度にその存在を確認して一旦埋め戻しておいた堀の調査を平成15年11月１日から平成16年１月31日の予定で行った。３区の調査は２区と逆で、国道に近接して堀が存在するため、17号線との間に土留め安全対策工事を行った。調査は危険を避けるため、深さ５ｍ以内で湧水が認められるまでという範囲内で行ない、平成16年１月31日調査予定地内すべての調査を終了した。

調査日誌抄

平成14年度

４月１日　発掘作業準備開始。

５月15日　作業員を入れ、１区遺構確認作業に入る。

５月27日　２区中低木移植作業開始を確認。移植作業時の立ち会い開始。

６月19日　１区南側調査終了し、埋め戻し開始。１号堀調査継続。

８月12日　170点以上の鉛円弾取り上げ。

９月５日　２区の大径木移植作業10月中に移植作業終了、11月から２区調査開始予定。
当初「調査不要」とされた箇所で堀を確認。協議の結果調査開始。（２・３号堀）

９月26日　煙硝蔵の可能性も考えた横穴は、調査の結果大戦末期の特殊地下壕の可能性が高く、その後に引き揚げ者が生活していたことが判明。２・３号堀の存在と新旧関係、未買地にも堀が続くことが判明し、未買地買収後に本調査を行うこととなる。危険防止のため、一旦埋め戻す。

11月７日　２区櫓台跡周辺草刈り工事開始。

11月21日　２区櫓台跡安全策設置工事。

11月28日　２区調査開始。４号堀調査。

１月８日　２区平坦部１ｍ以上の盛土と盛土内石列を確認。

１月29日　予想外の遺構が確認され、調整会議において来年度５月までの調査期間延長決定。

２月17日　国道17号に隣接し、道路面からの比高７ｍの櫓台調査に際し、擁壁や土砂の国道落下防止用安全対策工事入札を行う。

２月19日　盛土下で畠状遺構を確認。

２月25日　畠状遺構西半耕作土下遺構確認。土坑・柱穴が密集する。

３月28日　櫓台調査に向けて斜路を設置。

平成15年度

４月14日　櫓台断ち割り開始。

５月８日　櫓台下畠状遺構調査開始。

５月15日　調整会議において畠状遺構下の遺構量が非常に多く、６月30日まで調査期間再延長決定。

５月16日　櫓台部分畠状遺構下遺構確認開始。

６月30日　２区調査終了。
　　３区の買収、建物撤去が終了するまで中断。

11月４日　調査事務所設置。調査再開。国道17号付近の堀調査（地表か５ｍ間での調査を予定）のため、安全対策工事準備開始。

11月21日　６号堀調査開始。２号横穴も大戦末期特殊地下壕と判明し、本遺構の調査を中止。

12月16日　安全対策工事開始。

12月24日　３号堀調査開始。

１月11日　２・３号堀全景写真撮影。埋め戻し開始。

１月31日　調査終了。

Ⅱ　遺跡の立地と周辺の遺跡

1　遺跡の位置と立地

遺跡の位置

遺跡の所在する高崎市は、関東平野北端付近に位置する。関東平野北部は北を足尾山地に、北西部は秩父山地によって区切られている。関東平野北部、栃木・群馬県平野部のみを見た場合、北側の足尾山地により平地が二分されたような地形となり、足尾山地の東西に鬼怒川と利根川流域の平地が分岐して長く延びている。高崎市は、平野が分岐して山間部に至る分岐点付近西端に位置する。市域西側は丘陵部となり、丘陵部は次第に起伏を増して信越国境の山々へと続いていく。そのため、傾斜は西に向かって低く、碓氷川、鏑川、烏川が高崎市域に向かって流下し、利根川に合流する。当然のことながら、山間部を流れる河川に沿って平地や谷が延び、峠を越える重要な交通路となる。

この地形は現在の交通網にも影響を与えている。鉄道を例に取ると、鬼怒川合流部付近で高崎線と東北本線が分岐し、高崎駅では利根川に沿って新潟県に向かう上越線、碓氷川に沿って長野県に向かう信越線、鏑川に沿って甘楽郡に向かう上信電鉄が分岐する。また、高崎駅と指呼の位置にある新前橋駅では、群馬県吾妻郡に向かう吾妻線が更に分岐する。また、道路も川に沿う形で存在し、重要な道路となっている。

江戸時代では、中山道をはじめ、中山道から分岐して高崎を起点とする三国街道、中山道倉賀野宿を起点とする日光例幣使街道などが高崎を通っており、地形と位置から必然的に新潟と長野を結ぶ交通の要衝となったことが理解できる。

遺跡の立地

高崎市の地形は、西側が烏川右岸の岩野谷丘陵(観音山)、北側が緩傾斜の火山山麓扇状地、中央と東側が平坦な前橋台地となっている（第３図)。前橋台地のほぼ中央には、利根川の流路であった井野川低地帯が延びる。この低地帯の西側には、前橋泥流堆積物上には砂層や泥炭層が堆積し、上部には更に泥流堆積物が厚く堆積している。この泥流は高崎泥流と呼ばれ、1.1万年ほど前に堆積したと考えられている（第４図)。この井野川低地帯西側は高崎台地とも呼ばれている。(1)

遺跡の所在する高崎市高松町は、高崎泥流が堆積するほぼ中央西端に位置する。高崎台地西端は烏川によって泥流堆積物が浸食され、特に高松町付近では比高差８ｍにも及ぶ崖が形成され、自然の要害となりえた。

この点と先に述べたように、交通の要衝となりうる地理的環境にあったことにより、この地に和田城や高崎城が築かれたのである。

2　周辺の遺跡

高崎城は、慶長３年（1598年）井伊直正が幕命により箕輪より和田に移り築いたものである。高崎城は、戦国期の和田城の跡地を組み入れ、烏川の段丘上に構築された城で、三重の堀に囲まれていた。高崎城が完成したのは、安藤氏三代77年間（元和５年：1619年～元禄８年：1695年）といわれている。高崎城関連構造物は、三ノ丸堀・乾櫓・三ノ丸土塁と東門を残すのみとなっている。今回の発掘調査区は、高崎城の前身となった和田城の縄張り内に存在しており、西曲輪や和田城のものと推定される市指定史跡「櫓台跡」を含む地区である。

「高崎」という地名は、井伊直正が、慶長３年築

城の際、城内西方の烏川の崖上にそびえる古松にちなんで松が崎と名付けようとしたが、竜広寺の開山白庵和尚の「松は栄枯あり」という提言を入れて高崎と命名したという。また一説には地域を定めるときに鷹を飛ばせて決めたからだという。

明治以降、高崎城跡地には、群馬県庁を設置。県庁移転後は東京鎮台高崎分営が置かれ、明治17年（1884年）より陸軍歩兵第十五連隊が設置された。近年、本遺跡周辺では、新市庁舎建設計画をはじめ都市計画道路高崎駅西口線建設計画・土地区画整理事業・再開発事業等が計画・施工されており、それら事業に伴う発掘調査が実施されている。その結果、古代から近世に至るまでの遺跡が確認されている。

各時代の遺跡の概要は次のようになる。

弥生時代の遺跡を見ると、本遺跡の南方約1kmに所在する中期後半の竜見町式土器の標識遺跡である竜見町遺跡、南東2kmに所在する中期後半の土器が出土した競馬場遺跡などが存在する。

古墳時代の遺跡では、1974年に発掘された円墳である頼政神社古墳や、絵図等で前方後円墳と思われる古墳（浅間山）が記載されている場所で古墳が確認されている。

中世の城館址については、主な名称と推定される時期をあげる。烏川左岸では、和田下之城（16世紀後半）、倉賀野城（室町期）があげられる。観音山丘陵には多く城館址が存在する。寺尾上城（南北朝、戦国期）、寺尾中城（南北朝期頃か）、寺尾茶臼山城（南北朝期か）、根小屋城（永禄13年か、16世紀後半）、山名城(寺尾下城）（14・16世紀）、木部北城（戦国期）、木部城（16世紀）、などがあげられる。

弥生時代・中世の周辺遺跡

番号	遺跡名	所在地	主な文献
1	寺尾茶臼山城	高崎市寺尾町	『群馬県古城塁址の研究』上巻　山崎一1971
			新編『高崎市史』資料編３　高崎市　1996
2	根小屋城	高崎市山名町	同上
3	山名城（寺尾下城）	高崎市山名町	同上
4	木部城	高崎市木部町	同上
5	木部北城	高崎市阿久津町	同上
6	寺尾中城	高崎市寺尾町	『寺尾中城遺跡』2000　埋蔵文化財調査事業団事業団
			『群馬県古城塁址の研究』上巻　山崎一1971
7	寺尾上城	高崎市乗附町	『群馬県古城塁址の研究』上巻　山崎一1971
			新編『高崎市史』資料編３　1996　高崎市
8	竜見町遺跡	高崎市竜見町	『群馬県史』資料編２　1986　群馬県
9	高崎競馬場遺跡	高崎市上中居町	同上
10	和田下之城	高崎市下之城町	『群馬県古城塁址の研究』上巻　山崎一1971
			新編『高崎市史』資料編３　1996　高崎市

古墳時代の周辺遺跡

1	頼政神社古墳	高崎市宮元町	『国道17号線拡幅に伴う頼政神社古墳の調査』高崎市教委　1996
2	綜高崎市第218号古墳	高崎市若松町	『高崎市遺跡分布地図』1998　高崎市教育委員会
3	観音塚古墳	高崎市上和田町	新編『高崎市史』資料編１原始古代Ⅰ　1999　高崎市
4	神明塚	高崎市並榎町	同上
5	無縁塚	高崎市並榎町	同上
6	浅間山	高崎市高松町	同上　『高崎城三ノ丸遺跡』1994　高崎市教育委員会

高崎城遺跡調査一覧

遺　跡　名	遺　跡　の　概　要	文　献
高崎城Ⅰ遺跡		1・3
高崎城Ⅱ遺跡		2
高崎城Ⅲ遺跡　坪の枡形遺跡	古墳時代前期の土坑や江戸時代の井戸などを確認。	3

Ⅱ　遺跡の立地と周辺の遺跡

高崎城Ⅳ遺跡　坪の枡形及び三ノ丸遺跡	歩兵第十五連隊関連建物。江戸時代では陶磁器が1600点と1700点ほど出土した廃棄土坑と思われる遺構。坪ノ枡形堀の一部を確認。平安時代竪穴住居を確認。	3
高崎城Ⅴ遺跡　東門及び三ノ丸遺跡	近代では歩兵第十五連隊建物、送・配水管などを確認。江戸時代の大型建物、東門北側土塁、井戸などと中世と思われる幅８ｍ、深さ1.5ｍの堀が確認されている他には平安時代と古墳時代竪穴住居、弥生時代方形周溝墓が確認されている。	3
高崎城Ⅵ遺跡　三ノ丸遺跡	浅間山古墳周溝、奈良・平安時代竪穴住居や高崎城梅ノ木郭堀、二ノ丸堀が確認されている。二ノ丸堀底部には障子堀が認められる。量的には少ないようであるが中世土坑も確認されている。遺物としては古代瓦が多く出土している点が注目される。	4
高崎城Ⅶ遺跡　三ノ丸遺跡		5
高崎城Ⅷ遺跡　追手門遺跡	追手門跡と現存土塁間の石組み暗渠と土塁の調査。	6
高崎城Ⅸ遺跡　三ノ丸遺跡		5
高崎城Ｘ遺跡　梅ノ木郭遺跡	梅木郭内の調査、中世、近世の土坑を中心とした遺構が確認されている。中世遺物の出土が多いようである。	7
高崎城Ⅺ遺跡　高松地下駐車場遺跡		8
高崎城Ⅻ遺跡　三ノ丸遺跡	古墳時代から近代の土坑、溝、ピットを確認。調査面積は151㎡と狭い。近世陶磁器、木製品などが出土している。	9
高崎城ⅩⅢ遺跡　三ノ丸遺跡	平安時代から近世の土坑、溝、ピットなどを確認。調査面積は92.1㎡と狭い。近世陶磁器、五輪塔、板碑などが出土した。	9
高崎城ⅩⅣ遺跡	確実な近世遺構は高崎城二ノ丸堀南西端の一部が確認できたのみである。遺構の主体は古墳時代土坑で、滑石製品未製品が集中して出土している。平安時代の瓦が出土したとされているが詳細不明。	10
高崎城ⅩⅤ遺跡		本書
高崎城ⅩⅥ遺跡	高崎城堀を確認。礎石建物は近代か。	11

文　献

1．高崎市教育委員会「第10回埋蔵文化財展特別企画高崎城を掘る」『井野高縄遺跡　上並榎下松Ⅱ遺跡　石原鶴辺団地Ⅱ遺跡　飯塚東金井遺跡　埋蔵文化財展示業について発掘調査概要』高崎市文化財調査報告書第124集　1993
2．高崎市教育委員会『高崎城遺跡』高崎市文化財調査報告書第81集
3．高崎市教育委員会『高崎城遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ「坪の枡形遺跡　坪の枡形及び三ノ丸遺跡　東門及び三ノ丸遺跡」』高崎市文化財調査報告書　第107集　1990
4．高崎市教育委員会『高崎城Ⅵ「三ノ丸」遺跡』高崎市文化財調査報告書第104集
5．高崎市教育委員会『高崎城ⅦⅨ「高崎城三ノ丸遺跡」』高崎市文化財調査報告書第129集　1994
6．高崎市教育委員会『上佐野舟橋Ⅱ遺跡高崎城Ⅷ（追手門）遺跡　引間Ⅲ遺跡　島野明神遺跡　東町Ⅱ遺跡　南新波大道上遺跡　発掘調査概要』高崎市文化財調査報告書第121集　1992
7．高崎市教育委員会編『高崎城Ⅹ高崎城梅ノ木郭遺跡』高崎市遺跡調査会　1993
8．高崎市教育委員会『高松地下駐車場遺跡』高崎市文化財調査報告書第130集
9．高崎市教育委員会『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急調査報告書』高崎市文化財調査報告書第131集　1994
10．山武考古学研究所編『高崎城ⅩⅣ遺跡』高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第57集　高崎市遺跡調査会　1997
11．高崎市教育委員会『高崎城ⅩⅥ遺跡』高崎市文化財調査報告書第193集　2003

3　調査成果の概要

高崎城と和田城

慶長３年（1598）和田の廃城跡に城を構え、箕輪から町家や社寺を移して城下町の基礎を築き、地名を高崎と改めて高崎城と共に城下町が誕生したとされている。慶長５年に井伊氏が佐和山へ移った後、酒井氏・松平氏・安藤氏・大河内氏・間部氏などが城主となった。現在高崎城は、高崎市高松町に所在し、かつての城内には高崎市役所、群馬音楽センター、国立高崎病院などの公的施設が集中している。

この高崎城域を範囲とする高崎城遺跡は、1985年の高松中学校建設予定地をはじめとして、16次にわたる発掘調査がなされている。これらのうち、１～14次、16次は高崎市教育委員会、15次は群馬県埋蔵文化財調査事業団による調査である。

本書で報告するのは、高崎城の西端にあたる高崎城ⅩⅤ遺跡（15次）の調査結果である。高崎城ⅩⅤ遺跡は、国道17号線と烏川との間に位置し、ほぼ中央に和田橋が架かっている。高崎城の曲輪配置では、本丸と烏川崖との間にあたる。高崎城は西側の烏川崖を背にして本丸、二ノ丸、三ノ丸、城下町と東に

展開する構造である。これに対して遺跡の場所は本丸の西に位置することから西郭とも言われ、防御以外の機能はなく、人気のない郭であったと考えられている。このため、煙硝蔵が置かれたようで『高崎城大意』(2)や絵図（口絵参照）にその記載がある。

西郭は絵図や縄張り図からもわかるように、崖線とほぼ直交方向の4筋の堀とそれに伴う2箇所の土塁によって構造がやや複雑になっている。「西郭は一つの帯曲輪であって、：中略：ここでは錯綜した構造はかえって障碍になる筈であろう。つまり、この部分は改修の結果生まれたのではなく、それに先行する地形と考えねばならない」(3)とされ、これが高崎城築城以前に存在したとされる和田城の遺構と考えられてきた。

和田城の堀に関しては、前橋城本丸の堀形状との比較から大永年間（1521～1528）から天文年間（1532～同55）の約30年間に基本の縄張りが完成したとの考えも出されている(4)。この説は和田城の堀を新しく考える点で重要と考えられる。以上のように、発掘調査前の予測では、和田城主郭とされる堀と和田城櫓台が主な調査となり、状態が良ければ煙硝蔵が確認されると考えていた。しかし、調査の結果は予想外のものとなった。

和田城と考えられてきた堀

調査以前の予想どおりに烏川崖に直行する堀が4本（2・4・5・6号堀）確認できたが、調査範囲が狭いうえに交通量が多い国道17号に近く、堀底まで確認することは不可能であった。幅は、北から順に6号堀が9m、2・3号堀が16m、4号堀が22mと最大であった。相対的な堀の大きさは文化14年（1817）の絵図にほぼ一致する。5号堀は調査区の関係で確認できなかったが、絵図と確認された堀幅から10m前後の幅を有していたと推測される。いずれも埋没土下部に天明3年（1783）降下の浅間A軽石を認め、埋没状態も高崎城本丸西側堀（1号堀、以下本丸堀）と同様であった。この事実は、和田城と考えられていた堀も本丸堀と同様な維持管理がなされていたことを示している。

今回大きく予想と異なった点は、今までその存在が全く知られていなかった堀（3号堀）が確認されたことである。現在筆者が確認している範囲内ではあるが、この堀の存在は高崎城絵図に記載がない。3号堀は和田城主郭の北を区切ると考えられていた堀（2号堀）と同じ位置と幅で、本丸西側堀にまで達し、本丸堀に壊されていた。残念ながら出土遺物がなく時期を決定できなかった。更に、調査範囲の関係から発掘調査では確認できなかったが、和田城二の郭北側を区画する6号堀の延長線上にも古い堀が存在した可能性もあると推定される。

調査区ほぼ中央の和田橋交差点付近では、和田城主郭南側の大きく屈曲する堀（4号堀）の調査を行い、一部であるが22mという堀幅を確認できた。しかし、堀の規模が大きいうえに道路に近接しているため、底部や形状を確認することは不可能であった。堀先端部分の大半は和田橋交差点内に位置すると推定され、古い堀の存在や規模の違いを確認することは不可能であった。しかし、従来和田城の堀と考えてきた堀は、少なくとも江戸時代に規模を縮小して掘り直されたものであったことは確実視される。但し、確認された3号堀の規模と位置が一致することから、形状に関しては大きく改変していない可能性も考えられるが、今回の調査範囲では確認不可能であった。

和田城櫓台

高崎城XV遺跡の南半には、もう一つの主目的である「和田城櫓台跡」が存在する。この地点の調査結果は先の堀以上に予測と異なる結果であった。結論から言うと「和田城櫓台跡」とされていた土塁の築造年代が当初推定されていた年代より百年以上新しいことが判明した。

和田城は高崎城築城以前を描いた『和田城並びに興禅寺境内古絵図』(5)に「和田ノ城」として国道17号と烏川に挟まれた現在の和田橋交差点付近が記

されている。和田城築城に関する確かな記録はないが、応永25年（1418）和田信忠による築城、正長元年（1428）和田義信による築城などの説がある。和田城は上杉氏と武田氏による激しい争奪が行われた場所でもあり、記録では永禄６年（1563）から同９年（1566）頃に４回以上にわたって上杉氏の攻撃を受けている。その際、武田信玄が（永禄７年）和田城に「鉄放（砲）之薬・玉」などを運び込むことを命じた記録も残っている[6]。落城は天正18年（1590）とされる。その後、慶長３年（1598）井伊直政は家康の命により、交通の要衝である和田に城を築き高崎と命名し高崎城が誕生した。

次に調査結果であるが、調査の概略を確認された順に説明すると次のようになる。

１．「櫓台」とされていた土塁と二の郭盛土。従来和田城の遺構と考えられていた面。

２．盛土の下には旧表土が残り、地表が畠の畝状を呈していたことから一時期畠として利用されていた可能性が高い。

３．畠の耕作土下から発見された室町時代から戦国時代の土坑や建物の柱跡群。

これらの中で最も注目されるのは最下層の遺構群である。調査範囲が狭く建物の規模や構造は不明だが、火縄銃の弾や15世紀から16世紀の焼き物が出土している。年代の判明する遺物では1570年代後半から1580年代と推定される瀬戸・美濃産の皿が最も新しい年代である。

この事実は、最下層の遺構面が和田城に関する記録が多く残る時期にあたることを物語っている。今回の調査では最下層の中世遺構をもって城とする明確な根拠は得られなかったが、火縄銃の弾は和田城に鉄砲を運び込むことを命じた記録を想起させ、中国産染付皿や碗の出土量や鮑など貝類が出土する点は通常の集落とは考えにくい。

次に盛土造成と土塁築造時期であるが、下限を決定するには、盛土上に構築された遺構の年代が問題となる。しかし、盛土上からは江戸時代の染付磁器小片一点が出土した性格不明の石敷遺構一基が確認されたのみで、他は昭和時代の撹乱であった。遺構から時期決定はできなかったが、高崎城期において西曲輪は人気のない曲輪であったことからすると、遺構が存在しないのも不自然ではない。また、それを示すように江戸時代の遺物も調査区全体で小片が十数点しか出土していない。加えてこれらの大半は歩兵第十五連隊のゴミに混入して高崎城三ノ丸付近からもたらされたものである。この点を考慮すれば、和田城廃城から高崎城築城までの間が畠地として利用されていた可能性も否定できないのではないだろうか。

註

（1）中村　正芳「高崎の台地をつくる地層」『新編高崎市史　通史編１原始古代』高崎市　2003
（2）「高崎城大意」『新編高崎市史　資料編５近世Ⅰ』所収　高崎市　2002
（3）山崎　一『群馬古城塁址の研究　下巻』群馬県文化振興事業団　1978
（4）茂木　渉「和田城の縄張りについて - 復元への試み - 」『高崎市　市史編さんだより』第20号　2000
（5）『新編高崎市史　資料編３中世Ⅰ』高崎市　1996
（6）『新編高崎市史　通史編２中世』高崎市　2000

Ⅲ　確認された遺構と遺物

1　盛土上および高崎城期以降の遺構と遺物

概要

本遺跡で確認された遺構は江戸時代（高崎城期）と２区盛土下に代表される中世以前に大別される。１区と３区では盛土が確認されていないが、遺構と出土遺物の記載に当たり、高崎城の堀を前者に中世以前を中心とした土坑、ピット、竪穴住居を後者として説明を行う。なお、高崎城期に使用されていた２号堀より古い３号堀も説明の都合上前者に含めた。

堀

１号堀

遺構（第７図、ＰＬ－１・２）

１号堀は、和田橋交差点より北の１区東端で確認された。この地点は、絵図や縄張り図から和田城主郭南側を区切る屈曲した堀の先端付近が発見されると想定していた場所である。確認当初もこの堀であろうと考えていたが、調査長で26mと北に長く延びすぎることから疑問を感じ始めた。調査箇所から北は撹乱がひどく、プランを確認することは不可能であったが、撹乱外に堀埋土が残る場所が更に北に延び、調査区内だけで38mを確認することができ、和田城主郭の東側を区画するような位置関係となった。この位置関係からは、１号堀が高崎城本丸の西側堀としか考えられないとの結論に達した。そこで再度絵図（口絵参照）を確認すると、本丸西側堀には木橋が架かる場所があり、この箇所の堀幅が狭くなっていることが確認できる。一方、調査された１号堀をみると、南端部が調査区外に曲がる部分が確認でき、ここが木橋に向かって幅を減じ始める箇所であると判断した。

１号堀が位置や長さ、絵図との比較から本丸堀と確認できたことにより、現地と絵図とを対比する定点を得ることができた。また、今回の調査区内で「和田城主郭」の南側堀が確認できなかったが、地山の高崎泥流が二次堆積している可能性も考慮し、１区南東隅付近（和田橋交差点付近）にバックホーを用いて深さ１m以上のトレンチを入れたが、二次堆積土は認められなかった。この結果、「和田城主郭」南側堀は、縄張り図に認められるような整った形状ではない可能性が高くなった。

１号堀は西側の立ち上がり部分のみの調査であり、本丸堀の中心は現国道17号下に存在する。調査できた幅は上端で最大３m、深さは2.2mまでである。埋土上部には石炭ガラ中に近代遺物を多く含む層があり、下部付近には浅間Ａ軽石を多く含む層が認められた。堀壁の傾斜はセクションＢ計測地点で50°、後述する３号堀と重複するセクションＡ計測地点で25°であった。後者の25°という緩傾斜は、重複する３号堀埋土が砂を多く含んで崩れやすいことに起因すると考えられる。

出土遺物

１号堀上層出土遺物（第65～80図、ＰＬ－26～34）

出土遺物は、堀が埋没する過程の凹みに大量に廃棄された歩兵第十五連隊関連遺物が主体を占める。この近代人為堆積層は石炭ガラを主体とし、亜炭やガラス、陶磁器、金属製品、皮革製品、炭化物などが多く含まれていた。金属製品や皮革製品は腐食が激しく、取り上げ不可能なものがほとんどであった。ガラス製品のなかには被熱によって原形を留めないものも多く認められ、焼却処分されたゴミも廃棄されていたようである。近代遺物のなかには「酒保」などの文字を記した陶磁器が複数認められ、使用場所も明らかとなった。陶磁器の中に生産者番号が認められないことや陶磁器群の特徴、薬瓶に記された銘柄などから、一部の混入品を除き、主体は歩兵第

十五連隊期のものと考えられた。これらの遺物は量的にまとまっており、時期的にもほぼ大正期から歩兵第十五連隊終末の昭和15年頃と推定される点からも重要であり、以下に概要を紹介しておく。

A．ガラス製品（釦を除く）

ガラス製品の大半は瓶である。板ガラス片も少量出土したが図示しなかった。ガラス瓶は、当初の用途により薬品、文具、飲料、化粧品、不明などに大別される。瓶以外ではスライドガラス、鏡、照明具笠などがある。

①薬瓶

処方薬瓶

薬品瓶とした瓶にも売薬瓶と処方薬瓶の２種がある。処方薬瓶は医師の処方で出される飲み薬瓶である。すべて機械製瓶で型の合わせ痕が口元まで残る。目盛りはすべて長い目盛りと短い目盛り各本の計６本の目盛りを浮き出させている。蓋はすべてコルク栓であろう。大きさにより４種に分けられる。完形の19点を図示し、７点は最上部目盛りまで水を入れた重さから空瓶の重さを引き、１ｇ１ccとして容量を推定した。但し、内部の汚れや表面張力の問題があり、参考程度の数値である。

小型

26から38の13点がほぼ同じ大きさである。目盛りは長いものと短いものが各３本の計６本である点はすべて共通する。しかし、色調、目盛りの長さ、底部形状により細分される。

目盛りであるが、長い目盛りが型痕から型痕まで、短い目盛りが型痕から中央までの外周1/2－1/4型をⅠ類。長い目盛りが型痕から外周1/4、短い目盛りが1/8をⅡ類。基本的にはⅠ類であるが端部が型痕から明らかに離れているものをⅠ′類。目盛りの長さはⅡ類と同じであるが、端部が型痕から離れ、かつ目盛りのある側を正面とした場合、目盛りが右側に存在するものをⅡ′類とする。底部形状は土器でいう「蛇の目高台」状に幅広の高台状接地面を有し、中央がやや丸みを持って窪むものを１類。幅の狭い高台状の接地面を有し、中央の窪みが平坦なものを２類。陶磁器の蛇の目凹型高台状に２類の中央が更に円形に窪むものを３類とする。色調は薄青をａ類、透明をｂ類、どちらともつかないごく薄い青をｘ類とする。この異なった観点での分類を組み合わせると以下のようになる。

Ⅰ－１－ａ類：26、27、28。

Ⅰ－１－ｘ類：29。

Ⅱ－２－ｂ類：30、31、32、33、34、35。

Ⅱ－２－ｘ類：36。

Ⅱ′－２－ｂ類：37。

Ⅰ′－３－ｂ類：38。

Ⅱ－２－ｂ類の中でも目盛りの太さによって更に２分できるが、13点の瓶は４つに大別することが妥当であると考えられる。

容量はⅠ－１－ａ類：26が26.5cc。Ⅱ－２－ｂ類：34が25cc。Ⅱ′－２－ｂ類：37が26.8cc。Ⅰ′－３－ｂ類：38が28.8cc。

中型

中型は２点のみで、39はⅠ－１－ｂ類、40はⅡ－２－ｂ類に分類される。容量は39が48.6cc、40が52.8ccである。

大型

大型は３点存在するが、同一タイプは存在しない。44は目盛りを右側に刻むが、左側にはラベルを貼付するような長方形の窪みを設けている。この目盛りタイプをⅡ″とすると、44はⅡ″－２－ｂ類となる。41はⅡ－２－ｂ類。43も目盛りの刻みが小・中瓶には認められない1/2－1/8タイプである。これをⅠ″類とすると43はⅠ″－２－ｂ類となる。41の容量は86.7ccである。43にはコルク栓が残存している。

特大

42の１点のみで、容量は164.1ccである。Ⅱ″－２－ｂ類に属する。

売薬瓶

売薬瓶は形状・色調ともに多様である。瓶の浮き文字によって薬名が判明するものに「神薬」、「ロート目薬」、「全治水」、「旭丹」、「仁愛」がある。なお、

文字がない場合、売薬瓶と断定できないが、形状からここに含めたものがある。

「神薬」と「ロート目薬」は各地で出土が報じられており、ポピュラーな存在である。いずれも瑠璃色を呈する。「新薬」瓶は２点出土し、いずれも「資生堂製」の浮き文字があるが、複数存在した「資生堂」のうちどれかについては不明であるが、１は「東京日本橋」とあることから、「本町資生堂」か「室町資生堂」と推定される。(1) 機械製瓶で面取りされた長方形の対角線上に型痕が残る。

「ロート目薬」はロート製薬の前身「本舗山田安民薬房」が製造販売した目薬である。機械製瓶で対角線上に型痕が残る。瓶側面にはスポイトを収める窪みを備えている。『日本の新聞広告1000（明治24～昭和8年）』(2) によると、昭和７年の「ロート目薬」広告に新容器（ゴムを押さえて点眼するタイプ）の説明が大きく掲載され、昭和２年の広告には紹介されていない。また、『暮らしの中のガラスびん』(3) では昭和６年発売とされている。したがって、この目薬瓶の年代は、昭和６年頃以前と考えられる。

先に説明した処方薬瓶を小型にし、歪んだ広い口縁部を有する瓶が３点出土している。中型瓶の５は体部に「全治水」、「東京尾澤製」の浮き文字がある。全治水は「たむし、水虫、しらくも」をはじめ「一切の皮膚病に用いて大効あり」とされる皮膚病の万能薬である。製造元は東京牛込区尾澤豊太郎である(4)。４は全治水の瓶より小型、６は大型で文字がないが、同形態のためここに含めた。５・６は型の合わせ痕が残るが、４は型痕が見えない。

８から11の4点は無花果型を呈した瓶である。８・９は貼付されていたラベルがなく、薬名や製造所が不明である。10は浮き文字で「旭丹」、「松島一天堂」とある。松島一天堂は、『浪花ぶし赤垣源蔵薬広告』(5) によれば「江州甲賀郡大原　本舗　松島一天堂」とあり、四つの薬名が掲載されている。これらのひとつに「旭丹」があり、毒消しなどの効能をうたっている。11には浮き文字で「隆盛堂」、「登録商標　仁愛」と記されている。いずれも小粒の薬を入れたコルク栓瓶であろう。９を除き口元まで型痕が残る。

12から22は体部が棒状を呈した瓶である。本来ならば不明に含めるべきかもしれないが、容量が少ないことから薬瓶として分類した。12から15は器壁が薄く透明で、頸部が短い。16から22は器壁が厚く頸部が長い。17から22は透明薄青色を呈し頸部が長い。16のみ透明でやや太いうえ、頸部の長さも前者と後者の中間である。器壁は最も厚い。

24、25は瓶ではないが、薬瓶に付属するガラス棒であろう。24には薬と思われる白色物質がこびり付いている。

その他

７も瑠璃色を呈した瓶であるが、体部下半のみの残存で形状は不明である。機械製瓶で型痕が明瞭に残る。体部に「ムシトリ」の浮き文字が見える。殺虫剤の可能性があるが、ここで説明する。

23は平底で体部はやや厚い試験管のような形状である。上部は水平ではないが、端部に丸みがあり欠損ではない。この種の薬瓶も存在するためここに含めた。45はスライドガラスと考えられ、陸軍病院において検査用に使用された可能性を考慮してここに含めた。

②文具

インク瓶

インク瓶と糊瓶を文具とした。インク瓶は３種に大別される。体部水平断面が方形で、体部の中心に口を設けるタイプをⅠ類、体部水平断面が方形であるが、体部隅に口を設けるタイプをⅡ類、水平断面円形の体部外側に頸部を設けるタイプをⅢ類とする。この分類と処方薬瓶での色調分類を組み合わせて表記すると以下のようになる。Ⅰ類とⅡ類の底部には○内に「M」の浮き文字があり、Ⅱ類の側面には左から「実用新案登録」、「№3218」の浮き文字がある。Ⅲ－ｂ類底面にはエンボスの「＋」と小枝マークがある。すべての瓶の体部から頸部まで型痕が

明瞭に残る。

Ⅰ－a類：46から51。

Ⅰ－b類：52、53。

Ⅱ－b類：54。

Ⅲ－a類：60、61。

Ⅲ－b類：55。

糊瓶

薄い黄緑色がかった色調のヤマト糊瓶（56、57、62）およびヤマト糊瓶に形状と色調が似た58、63を糊瓶とした。ヤマト糊瓶に完形品はないが、残存状態が良好な62により全体の特徴を知ることができる。体部上段には右から「登録商（標）」、中段には「ヤマト糊」、下段には「木内製」、底部には「ヤマ（ト）」の浮き文字がある。56は文字の入らない側の体部から口縁部が残存する。底部には「（ヤ）マト」の一部が認められる。57は体部中段に右から「ト」の一部と「糊」、下段に「製」、底部に「ト」の浮き文字が残る。型痕残る。58、63は頸部２カ所に段を有し、ヤマト糊瓶に比して細く、器高が高い。底部にエンボスの☆マークがある。体部下端から口縁部まで型痕明瞭に残る。

ヤマト糊の商標登録が大正12年、東京都中央区に移転して「ヤマト糊工業株式会社」に改組したのが1938（昭和13年）である[6]。従って、56のヤマト糊が生産されたのは大正12年から昭和13年の間に限定することができる。また、57、62の２点も厚さが若干異なるものの、形態や色調、文字が近似しており、同年代の製品と推定される。

③化粧品瓶、用具

紙ラベルが残存しない中、確実に化粧品瓶と判明するものは59、68、71の３点のみである。59は小型広口瓶で、「君が代」の浮き文字から白毛、赤毛染めと分かる。黒色粉末の内容物が残っていた。東京市浅草区蔵前片町10番地　山吉商店の製品である。体部方口元まで型痕が残る。71の体部には「ホーカー液」、裏側の下部に「堀越」、底部にも「堀越」の浮き文字を入れている。ホーカー液は大正期に売れた東京神田和泉橋際　堀越嘉太郎商店による化粧水である。68は白色ガラスで天井部外面にエンボスで「CREME」、「LAIT」の文字と文様を描く。記された文字から、平尾賛平商店の「クレーム・レート」という肌用クリーム瓶の蓋ということが分かる。クレームレート（レートクレーム）の発売は明治42年からと長期間販売されているが、大正15年から昭和５年の新聞広告に見える蓋のデザインに近似している。67も白色不透明瓶という典型的なクリーム瓶で中身のクリームも残っている。商品名などは不明である。

64、65、66、69、70は形状から化粧瓶と推定した。64は共栓で装飾的な瓶である。66は薬瓶の可能性も考えられる。69は底部に右から「プレミヤ」の浮き文字があり、内部に白色物質がこびり付いている。70は水平断面円形の瓶で、化粧水か椿油などの瓶と推測される。65は共栓で、ラベルを貼付するために側面を窪ませている。70を除き型痕が明瞭に残る。

72、73、74は鏡と推定される板ガラスである。73は片面に塗膜がのこり、一部が鏡状に反射する。72は73と同じ形状を呈する。塗膜は残存しないが、塗膜痕跡と思われるくもりが認められる。共に鏡付き粉歯磨缶の鏡と同形・同大で、歯磨缶の鏡の可能性が高い。74は円形板ガラスであるが、72同様塗膜痕跡と思われるくもりが片面に残る。歯磨缶の鏡にも円形が認められ、同厚、同大である。

④飲料瓶

飲料瓶で内容物が特定できるのはサイダー、ラムネ、ビールの３種である。底部のキックなどからワインと推定される瓶は出土していない。

サイダー瓶は75から78の４点が図示可能であった。76、77、78は底部にエンボスで三ッ矢マークと「三ッ矢」の文字を表している。76は底部形状が異なり、「三ッ矢」の文字も左回りで、三ッ矢マーク中央に「Ｂ」の文字がある。75は口縁から肩部片で、頸部に突帯を巡らす。いずれも暗い緑がかった色調である。

中型で茶色の瓶をビール瓶とした。79は体部下端に「Sakura Beer」、右から「サクラ・ビール」の浮き文字がある。85には右から「大日本麦酒株式会社醸造」、「登録◎商標」の浮き文字がある。サクラビールは大正２年（1913）帝国ビール株式会社により発売され、1929年桜麦酒株式会社と名称変更した後、昭和18年（1943）に大日本麦酒株式会社と合併して姿を消している[7]。一方、大日本麦酒株式会社は明治29年（1906）に誕生し、昭和24年（1949）に過度経済力集中排除法により２分割されるまで続いた最大手メーカーである。なお、昭和11年に発行された『大日本麥酒株式會社三十年史』[8]に掲載された「當社の製品」ラベルには「DAINIPPON BREWERY」と記されており、85はより古い時期の瓶と考えられる。80、81は王冠栓ビール瓶の口縁から肩部である。82から84は底部で、84は浮き文字最下部で割れており製造所不明。82と83は文字がなく製造所は不明である。

ラムネ瓶は１点（87）のみ図示可能であった。88は透明瓶であるが、形状から洋酒瓶と思われる。

⑤飲食具

86は「剣先グラス」と称される、外面に蓮弁状の文様をカットグラス風に陰刻するグラスである。高台内の抉りは深く、底部はアーチ状を呈する。

⑥調味料瓶

明らかに調味料瓶と判明するのは１点（89）のみである。体部の一方に下から「LEA&PERRINS」、肩部に「(WORC)ESTERSHIRE (SAU)C(E)」（内欠損）の浮き文字があり、イギリス ウスターシャーのリーペリンソース瓶である。体部と頸部に型痕が明瞭に残る。

90、91、92はコルク栓で薄青色を呈したなで肩の瓶であり、調味料瓶の可能性がある。特に92は内部に黒い内容物が付着している。93、94も薄青色を呈したなで肩の機械栓瓶である。機械栓瓶は「日本酒、醤油、牛乳用の瓶に、大正末期から第二次大戦前まで盛んに」[3]使用されたようである。

⑦照明具笠

出土した照明具笠は、すべて電球の笠と推定される白色系のガラス製であった。器壁が薄いために接合率が悪く、６点のみ図示できた。白色ガラス製（104、105）、乳白色ガラス製（106、107）、貼り合わせガラス製（透明ガラス内面（電球側）に白色ガラスを貼る）（108、109）の３種がある。

⑧用途不明

110は水平断面円形のガラス棒中央に直径0.6㎜の穴が開いている。透明度が高く、温度計破片の可能性が高い。

90、91、101、102、は比較的器壁が薄い透明薄青色の瓶である。103は形状から薬品瓶の可能性が考えられる。102も肩部が張った形態である。底部にはエンボスの「☆」マークが認められる。101の体部は上に向かうに従い細くなっており、体部からなめらかに頸部に至る形状の瓶と考えられる。接合しないが、上部は91のような形状であろう。90もなで肩の瓶口縁部と考えられるが、二次的な被熱で変形している。調味料瓶であろうか。

95から99の５点は小型ネジ栓瓶である。口径に大きな違いは認められないが、高さは、95、96が低く、97が中間で98、99が高い。また、器高が高いほどネジ山が長く、２段部分が多い。100もネジ栓瓶であるが、大型で器壁が薄い。

113は小型シャーレのような形状の蓋である。112は合子のような形状の身である。両者共に透明度が非常に高く型痕が認められない。111は厚手の板ガラスで一方の角を面取りしている。

B．陶磁器類

出土陶磁器は、出土地点と文字資料から歩兵第十五連隊で使用されたものであることは確実視される。出土器種は、兵営生活を物語るように盃、徳利、湯飲み、碗、鉢、皿、急須などの飲食器の出土が主

体となっている。また、少量だが文房具、暖房用具が認められた。以下器種ごとに概要を述べる。

①磁器盃

本遺跡出土盃で注目されるのは酒保で使用された一群（114～120）である。盃はやや高めの高台から緩く内湾して開く形態で、白磁の見込みに青い上絵具で「酒保」と縦書きしている。上絵具は取れやすく、痕跡のみ残る個体もある。

また、口縁端部が小さく外反するタイプの白磁２片には、それぞれ「所准士」（122）の上絵痕、「兵第」（123）の黒色上絵が認められた。前者は文字間隔と後述する徳利の文字から「准士官下士集会所」、後者は「歩兵第十五連隊（酒保）」の文字が記されていたと推測される。

②磁器小碗

ここでは小碗としたが、用途としては湯飲みとぐい呑みが想定される。小碗にも酒保で使用されたもの（129、130、131、133）が出土している。すべて同じ器形で、白磁の体部外面に「酒」、「保」の二文字を青の上絵具で相対する側に書いている。128と132には文字が認められないが、欠損部に存在したと考えている。上絵は盃と同じ色調で、焼成若しくは上絵具の性質のせいか剥がれやすい。

他に湯飲みにしては小さすぎる小碗が３点あり、２点は吹き墨で１点は上絵である。１点に二次的な被熱痕が認められる。

③湯飲み

湯飲みには陶器、硬質陶器、磁器の３種がある。なかでも硬質陶器は本遺跡を特徴づける遺物である。調査範囲が狭いためか、湯飲み以外の硬質陶器は出土していない。本報告において、硬質陶器と陶器の区別は、胎土と釉の特徴、高台端部の施釉、吊り焼きの支えピン痕で行った。

硬質陶器は10点図示し得た。高台内には方形枠内に篆書風の「硬陶」銘を入れるもの（138、141）と「ＮＹ」を組み合わせたマーク上に「硬質陶器」と記すもの（146、147）がある。「硬陶」銘の141には口縁部外面に「☆」マークがある。「ＮＹ」マークの147にも「☆」マークの一部が認められ、両者共に陸軍用に生産された製品であることが分かる。前者は銘、文様共に呉須の色調であるが、後者は銘が黄緑色、文様が呉須の色調を呈している。口縁部片２点にも呉須による「☆」マークが施されているが、どちらの銘に伴うかは不明である。すべて下絵である。他の４点は残存部無文、無銘である。

硬質陶器に施された銘２種は、仙台城二の丸跡第12地点[9]における「１類」、「２b類」にあたり、ＮとＹを組み合わせたマークの後者は、日本硬質陶器株式会社の製品と考えられている。

磁器は19点図示可能であった。148から153の６点は軍用に生産されたと考えられる製品である。149は青の上絵具による「下」、「士」の２文字が残り、151には同じ上絵具で「（　）村」と記される。150は上絵文様の隣に黒色上絵具で「萩原」の名が記されている。152には「西澤」の上絵痕が残る。これら４点は使用者と使用場所が特定される遺物である。153は金色上絵具による圏線と陸軍を示す「☆」マークが描かれる。なお、☆マークは絵具が完全に剥落しており色は不明である。148は金色上絵具による圏線のみであるが、下士官以上の使用者が想定される。

154から159の６点は現存部白磁で、159は完形である。陸軍用に生産（上絵付け）された湯飲みと白磁湯飲みは、やや透明感のある外観や胎土、器形、厚さに共通点があり、同一産地（地区）で生産された可能性が高い。なお、通常の文様を描いた160、161、163も共通の特徴を有している。

166は１点のみ色調が白色不透明で異質である。文様も緑色下絵具による２本圏線を口縁部外面に施し、国民食器と称された器の特徴を有している。胎土、色調が唯一異質であること、図示していないが、表土から同種の破片が出土していることから混入の可能性が高いと考えている。

陶器は３点のみで相馬焼（168）以外は制作地不

詳である。

④碗

今回の報告中最も目立つ遺物として高台端部を除いて青緑色釉を施した磁器碗18点が（170～187）挙げられる。18点の胎土、色調は同じであるが、高台の大きさや腰部の丸みなど器形にばらつきが目立つ。また、数は2点（188、189）と少ないが、茶色釉を施した磁器碗も認められる。なお、188は平碗で雑な上絵が認められる。

染付磁器碗は3点のみで、型紙摺りの丸碗（192）、銅版転写の丸碗（190）、手描きの平碗（191）各1点である。192はやや大型で蓋が伴う可能性がある。

⑤鉢

図示可能な鉢10点はすべて磁器で、上絵が1点、型紙摺りが3点、他の6点は銅版転写である。銅版転写の6点は口縁部が内湾するもの（193、194）と外反するもの（196～199）に分けられる。更に後者の文様は鳳凰文と龍文の2種がある。型紙摺りの鉢は201と202が揃いである。

⑥徳利

本来はすべてに使用場所を示す上絵文字が記されていたと考えられる。上絵文字には「歩（兵）第十（五）連隊　酒保」（205）と「准士官下士集會所」（206）の2種があり、前者には高台内に「逸山精製」、後者には「幹山精製」の染付がある。

⑦急須、土瓶

急須はすべて陶器で、4点が万古風陶器、1点が施釉陶器である。土瓶3点はすべて磁器である。万古風急須の内1点（210）の体部には、盃や徳利と同じ青色上絵具で「見習士官用」の文字が大きく書かれている。また、口縁端部、取っ手端部、注ぎ口端部には金色上絵具で縁取りがなされる。付近からは、つまみ上部を金彩し、天井部に「歩十五」と青色上絵具で記した蓋が出土している。金彩が施されていることから、両者はセットになるものと考えられる。他の万古風急須には文字がなく、端部縁取りも透明釉もしくは灰釉と思われる釉を使用している。

土瓶の内1点(215)には青色上絵具で文字を記している。底部片は文字の一部のみであるが、同一個体と推測される体部片には「士」が見受けられる。

⑧火鉢

火鉢には陶器と磁器の2種があるが、陶器（225、226）も磁器を意識した製品で、白化粧後に染付、施釉している。すべて手あぶりとも称される小型火鉢である。

⑨その他

個体数の少ない焼き物としては、表裏二つの型を合わせて作る土人形の鯛持ち恵比寿やクローム青磁の朱肉入れ、箸立て、銅板転写の水滴などがある。また、数少ない調理具としてすり鉢、焙烙各1点が図示可能であった。

歩兵第十五連隊とは時期的に異なるが、幕末期の三田青磁（229）は注目される。型作りで外面に凹凸の大きい文様を付け、少なくとも2回青磁釉を施している。鉢の体部片と推定される。歩兵第十五連隊関連遺物の中に「酒保」[10]や「下士集会所」（第134図、第135図参照）で使用されたものが多く含まれ、江戸期の三田青磁も高崎城三の丸あたりで使用・廃棄されたものが連隊ゴミに混入して再び本丸堀に廃棄されたものと考えている。また、同様に高崎城三の丸付近からもたらされたと考えている資料に轆轤成形の焼塩壺（235）がある。

C．石製品

出土した石製品はすべて硯で、小型（249）が1点認められる。

D．釈

①金属製

緑青を吹いていることから銅又は銅合金製と考えられる。全て丸みを帯びた表側の内面に「Ω」形の糸金具を貼り付け、表側の裏には板状の裏金をはめ込む「合わせ釦」である。形状は全て同じであるが、大きさによって明確に区分できる。いずれもメッキの有無は不明である。

Ａ類：大型。33点出土し、状態が良好な10点を図示した。

Ｂ類：中型。18点出土し、状態が良好な８点を図示した。

Ｃ類：小型。２点出土し、状態が良好な１点を図示した。

他に、衣類に釦を付ける際に衣類裏側に付けると推定される金具１点も出土している。

②骨・角製

樹脂製ではないうえに、肉眼観察や実体顕微鏡観察に於いても木製品とは考えにくく、骨若しくは角製として報告する。

釦の基本形は糸穴周囲の形状と穴数から２種に大別され、周縁の形状から更に細分される。

ＩＡ類：糸を通す穴４つと中心の穴が貫通し、計５つの穴を有する。表側は糸穴の外側に接するように窪みを作る。周縁は丸みを帯びた幅広の土手状を成す。270、271､272の３点が本類に属する。

ＩＢ類：ＩＡ類と同様に糸を通す穴４つと中心の穴が貫通し、計５つの穴を有する。表側も糸穴の外側に接するように窪みを作る。しかし、周縁の高まりは丸みを帯びず平坦な点がＩＡ類と異なる。273、274の２点が本類に属する。

ⅡＡ-１類：糸穴は４つで、中心の穴は貫通していない。表側の糸穴周囲は広く平坦となる。また、周縁は幅２㎜程の丸みを持った土手状を呈する。最も数が多く、275、276、277、278、279、280、281、282、289の９点が本類に属する。

ⅡＡ-２類：ⅡＡ-１類の大きいタイプを本類とした。１点のみ（283）出土した。

ⅡＢ類：糸穴は４つで、中心の穴は貫通しない。表側糸穴周囲の平坦面は狭いものの、糸穴には接していない。糸穴部平坦面の外側には狭い溝を巡らし、周縁は幅３㎜程の丸みを持った土手状を呈する。284、285、286、287、288の５点が本類に属する。

③ガラス製

35点出土している。色調は白色不透明からやや灰色味を帯びた白色不透明で光沢を有し、一部に不純物を含む。歩兵第十五連隊防暑着等の釦であろう。直径は最小で約10.5㎜、最大で11.7㎜と１㎜程の範囲に収まる。また、最大厚は2.6㎜から3.0㎜と大きな違いはない。周縁部の厚さは0.8から2.0㎜と1.2㎜もの違いがあり、薄い個体と厚い個体の違いは一目瞭然である。しかし、計測値（0.2㎜単位スケールルーペで計測）を見ると数値にまとまりがなく連続している。糸穴部分の窪み平面形も仔細に観察すると円形と隅丸長方形の二者があるが、周縁厚さなどとの相関関係は認められない。従って、分類は不可能である。

Ｅ．金属製品

襟章・肩章

連隊番号４点と陸軍を示す☆マーク２点が出土している。いずれも緑青を吹き、銅又は銅合金製と考えられる。これらのうち連隊番号２点と☆マーク２点を図示した。いずれもメッキの有無は不明である。

連隊番号は襟章と推定され、「１」の上半と「５」の下2/3が残存する個体を図示している。連隊番号襟章は、０から９の10種用意され、その組み合わせで連隊番号を示す。従って、図示した襟章の「１」と「５」は歩兵第十五連隊を示すと考えられる。図示し得なかった２点は細片のため、数字の判読は不可能であった。

陸軍星マークは、凹凸が少なく谷間の切れ込みが浅い327と凹凸が大きく谷間の切れ込みが深いより立体的な328がある。襟章か肩章であろう。

その他

先に説明した徽章・襟章や釦以外の金属製品は、大きく銅・合金製品と鉄製品に分けられる。前者には煙管やライフル弾、がまぐち金具などがあり、後者には引き手、缶、ボルトなどがある（図示していない）。煙管の大半は刀豆煙管と呼ばれるタイプであるが、火を落とす際にかなり乱暴に扱っていたのか雁首上面が大きく凹み、変形が著しい。ライフル弾は二次的な被熱を受けており、鉛製弾芯が溶け出している個体が多い。また、薬莢の出土はない。

F．歯科衛生用品

歯ブラシと爪楊枝と推定される製品を歯科衛生用品とした。1区1号堀（高崎城本丸堀）上層から出土した製品はすべて肉眼観察で骨製と推定している。

歯ブラシ

近代骨製歯ブラシは仙台城二の丸跡第12地点から大量に出土している。本遺跡出土歯ブラシは、すべて舌苔を除去するための「舌こき」が付かない仙台城二の丸分類[9]のⅠ類にあたる。また、植毛部背面に溝を刻む、仙台城分類「A類」は2点と非常に少ない。このため、本遺跡では、全長、把柄部形態を中心とし、銘と植毛数を加味して分類を行った。前記2点以外の歯ブラシは、頭部先端から植毛列の穴下部を貫くように穿孔している。従って、植毛列数と頭部先端の穿孔数は必ず一致する。頭部先端穴の直径は約1.2㎜、植毛穴の直径は約1.4㎜である。一部であるが、頭部先端穴を同一素材で塞いでいる例がある（口絵4）が、すべての歯ブラシが塞がれていたか否かについては判断できない。

以下、同じ特徴を有する個体が複数存在するものについて4つに大分類し、単体のものはその他として概略を説明する。

Ⅰ類

全長15㎝前後と長く、把柄部横断面が厚い蒲鉾形を呈するものをⅠ類とした。Ⅰ類内の細分は、4列19：20：20：19行植毛を1類、4列20：21：21：20行植毛を2類植毛部側を左にして「CORBEILLE」の刻印を入れるものをa類、反対に植毛部を右にして「CORBEILLE」の刻印を入れるものをb類、「Super Fine」の文字を筆記体で刻印するものをc類とした。頭部が欠損した個体も分類したが、これは植毛行数こそ不明であるが、残存部の観察から4列植毛であることは確実視されたこと、植毛行数が多いⅠ－2－b類とは把柄尻から植毛端部までの距離に明らかな違いが認められたことによる。

Ⅰ－1－a類：377、378、379、380、(381、382、383、384、385)

Ⅰ－1－b類：386、387、388、389、390、(391)

Ⅰ－1－c類：392、393、394

Ⅰ－2－b類：395

Ⅱ類

全長が13㎝弱と短く、把柄部と頸部境に溝と装飾的な段差を設ける。完形品6点はすべて3列18：19：18行植毛である。背側に湾曲した個体もあるが、個体差が大きく当初の反りは不明である。全長は同じであるが、把柄部と頸部境の溝と把柄尻までの長さに違いが認められる。長い一群を1類、短い一群を2類とする。1類の刻印は「SUPERFINE」。2類は2点共に刻印は認められない。2類の刻印は摩滅している可能性もあるが、ルーペによる観察で痕跡すら確認されていないこと、1類のすべてで刻印が確認できることから、刻印が施されていなかった可能性が高いと考えられる。

Ⅱ－1類：396、397、398、399、400

Ⅱ－2類：401、402

Ⅲ類

全長13.2㎝程で、把柄部横断面形が三角形を呈することを特徴とする。全長は同じであるが、把柄部に厚みがあり中央の稜線が明瞭な一群を1類とする。1類の植毛は3列18：19：18行で刻印は「Extra Fine」である。2類は把柄部がやや薄く、中央稜線が鈍い。また、植毛は同じ3列であるが、

19：20：19行と１行多い。７点すべてに刻印が見あたらず、施されていなかった可能性が高い。417は把柄部形態のみではどちらに分類するか迷う個体であるが、植毛行数により２類とした。

Ⅲ－１類：403、404、405、406、407、408、409、410、411

Ⅲ－２類：412、413、414、415、416、417、418

Ⅳ類

全長13.3㎝程で、把柄部横断面形が幅の狭い蒲鉾形を呈する。把柄尻は尖る。頭部横断面形は長方形をなし、植毛は３列17：18：17行である。刻印は『SUPERFINE』。点数は２点と少ない。

Ⅳ類：419、420

その他

421と422は頭部背面に溝を切って植毛するタイプであるが、把柄部の特徴は全く異なる。また、421の植毛部は唯一内湾している。423は把柄部横断面形が三角形を呈する点はⅢ類に近いが、全長が１㎝ほど長い点や４列植毛である点が異なる。把柄部稜線を一部削って平坦面を作り、「TOKUSEIHIN」刻印を施す。形態は異なるが、424も刻印を打つ場所を設け、「SUPER FINE」と記している。また、424は本遺跡出土資料中最も多毛束植で、その数は４列25：26：26：25行である。

他に把柄部に特徴を有するものとして425、426、427、428、429がある。425と427は共に把柄部中央がくびれるが、厚さや形態に違いがあり、刻印も前者が「SUPERFINE」？、後者がマークを挟み「TRADE」と「MARK」、更に判読不能刻印と違いがある。576は細めの把柄部で頸部との境が不明瞭である。428は断面形状が楕円形、平面形状が紡錘形をなし、象マークと判読不能であるが刻印を入れている。429の把柄部は棒状を呈する。頭部は欠損しており不明である。430の把柄部には鳥羽根マークの左に「TRADE」右に「MARK」刻印を施す。431は唯一の大型で把柄部、頭部共に幅が広く、他用途のブラシの可能性があるが、材質や植毛方法などの製法は同一である。

楊枝

439は一方を細く加工した棒状をなす。440は羽子板状を呈し、先端を左右から削って尖らせている。材質は歯ブラシと同じ骨製と考えられる。

歯磨き粉

金属製品であるが、浅い缶状を呈した器の外面にガラス製鏡をはめ込んだものが出土（369～375）している。状態の良い個体を観察すると、鏡は蓋の天井部外面に付けられているようである。ガラス鏡の形状は、方形と円形の２種が確認できる。割れ口から観察できる鏡の大きさは、ガラス製品で説明した72、73、74と同じである。

確証はないが、類品に小林富治郎商店のライオン歯磨き缶（ＰＬ－42参照）がある。歯ブラシも多量に出土しており、歯磨き缶の可能性を考えておきたい。

同種の缶は小林商店発行『歯磨の歴史』(10) に「明治43年型録所載 粉製家庭用鏡付五號罐」として紹介されている。

なお、チューブ入り歯磨きは明治末に国内メーカーから発売されている (11) が、『歯磨の歴史』には「昭和七年には軍部方面の切なる要望に酬ひて、粉磨の外、新たにチューブ入り煉り歯磨きをも製造し、多大の好評を博してゐる。」とも記されている。しかし、今回の調査では練り歯磨きチューブの出土は確認できなかった。

Ｇ．円弾、椎実弾（第81・82図）

南端付近の確認面近くからは、円弾172点と椎実弾２点（第81図１・２）が直径３ｍ程の狭い範囲から集中して出土した。出土層位も同一で、浅間Ａ軽石を多く含む層の上位に位置していた。しかし、弾丸と同じ場所、同じ層位から近代遺物の出土はなく、調査時の所見では弾丸出土層位はより下位に位置す

ると判断された。これは、近代遺物包含層から円弾の出土が皆無であることや、弾丸集中箇所から近代遺物が出土していないことから考えても肯定されよう。ただ、弾丸以外の出土遺物がなく、調査所見のみからの年代は浅間Ａ軽石降下（1783年）後から大正時代頃としかいえない。

椎実弾には旋条痕が認められ、円弾には凹みやつぶれた個体が多く、重量計測でもつぶれていない個体と重さが変わらないことから、発射された際に物に当たって潰れたり変形したと考えられる。円弾を詳細に観察すると、変形していない個体にも幅２㎜から３㎜の平坦面が円周上を巡る個体が多く、平坦面に擦れ痕も認められる。このことからほとんどの円弾は発射されたものと解される。また、調査時には付近に円弾製作場所があった可能性も想定し、集中して出土した箇所の廃土を篩いにかけたが、細片や不良品、鉛小塊や鉛粒などは確認できなかった。

変形が認められない個体にも発射痕らしき痕跡が認められ、かつ大量に出土していることから、射撃練習に使用された可能性もある。昭和期の図では出土地点の北側に射撃場が存在したようである。

椎実弾が使用される時代でも、短距離の射撃練習には狭窄弾とよばれる円弾が使用されているが、第二次大戦期の狭窄弾直径は、より小さいようである。より古い時期の狭窄弾がどのような物であったかは今後の課題としておきたい。

焙烙

本丸西側は高崎城の曲輪配置からして人気のない曲輪であり、それを示すように近代以前の焼き物は内耳焙烙形が１点（第83図１）７層から出土したのみである。

２・３号堀

遺構（第８図、ＰＬ－２・３）

２号堀はＰＬ－２にも明らかなように、その痕跡が調査以前から比高差２ｍ程の段差となって残っていた。本堀は絵図や縄張り図から「和田城」主郭北側の区画溝に比定される。この場所は、調査開始時には事務所用地として使用していたり、未買地が存在したことから、１区南側の「和田城」主郭内部と１号堀から調査を開始し、１号堀と２号堀に重複する３号堀（１・２号堀より古い）を確認した段階でこの地点の作業を中断し、未買地が解決した時点で堀の調査を行った。調査にあたっては、３号堀の規模・形状・年代を知ることは、和田城、高崎城研究にとって重要と判断され、３号堀を少しでも多く調査するために国道17号との境に深さ５ｍまで掘削可能な仮設土留工事を行った。

この場所は構造物があったため、深さ２ｍ付近まで撹乱が複雑に及んでいることと調査範囲が狭く、確認面上端で調査可能長が27ｍであることから、堀を重複通りに調査することが不可能と判断し、新旧関係を確認した上で同時に掘削を行った。堀は存在を確認した段階で壁の傾斜が70°と急傾斜で人の出入りが不可能であることや確認面で２号堀と３号堀は幅が16.5ｍあることを確認していたので、掘削はほとんどロングアームのバックホーで行い、壁際の精査のみを人力で行った。調査地は烏川崖と県下最大の交通量を誇る国道17号線に挟まれた位置にあり、危険防止の観点からも底部は確認面から３ｍ、現地表からの深さ５ｍまで、湧水が認められた場合には上記以下の深さでも調査を中止することを前提に作業を開始した。

調査の結果、２号堀、３号堀の断面形状と幅は同じであり、埋まった３号堀の形状をなぞり、長さを短くして再掘削したのが２号堀であると判断された。２号堀埋土下部には１号堀同様浅間Ａ軽石を多く含む層があり、壁際の堆積土も１号堀と同じ特徴を有していた。このことは、高崎城時代においても「和田城」堀が本丸堀と同じように扱われ、決して荒れるに任せていた状態ではないことを伺わせる。２号堀断面を見ると下部に不整合があり、堀底の浚渫が行われたようである。調査を中止した面において、２号堀と３号堀の境が確認され、両者の深さに大きな違いがなかったことも判明した。

３号堀の埋土は、壁付近に壁崩落土や暗褐色土層

が堀の形状に沿って堆積していたが、その上部には砂主体の土が厚く堆積しており、洪水の影響を受けている可能性もある。

絵図や縄張り図で存在が確認できなかった３号堀が、規模・形状・方向共に２号堀と同様である点は注目される。この事実は、従来「和田城」の堀を改変せずに使用されていると推定されていた２号堀は、３号堀がかなり埋没した後に、形状を踏襲しつつも長さを短くして掘り直したことを示している。３号堀は高崎城本丸堀に壊されている部分までは調査で確認できたがその先が問題となる。この点については、城郭研究者の茂木渉氏のご教示によれば、かつて３号堀延長線上の本丸堀東側において工事が行われている際に堀状の落ち込みを確認しているとのことであった。この情報は３号堀が本丸堀を越えて更に東に伸びていた可能性が高いことを示している。残念ながら３号堀からの出土遺物が皆無で遺物から年代を決定することができなかったが、和田城を考える際に非常に重要な遺構であることに間違いない。

従来「和田城」の堀と考えられてきた２号堀が、高崎城本丸堀と同様に管理され、同様な埋没状態をしてしており、より古い３号堀が想像以上に長くのびている可能性が高くなった今、従来の和田城観は再考しなければならないだろう。

遺物（第83～88図３～13、16）

２号堀の浅間Ａ軽石を多く含む層より下位の狭い範囲から、瓦がパン箱３箱分出土したが、出土地点が調査区境であったため、一部を取り上げることしかできなかった。出土した瓦はすべて同じ胎土・焼成であり、時期差が少ないことが伺われる。他には五輪塔火輪と上臼が出土している。

３号堀からは細片すら出土しなかった。

６号堀

遺構（第９図、ＰＬ－４）

「和田城」北側二ノ郭の北を区画すると考えられていた堀である。調査地点は一段と調査区が狭くなる場所で、確認面で14.2mの長さしか調査できなかった。烏川と国道17号に挟まれた狭小な場所であったため、確認面からの深さ4.2m程で湧水の兆候が認められ、それ以上の調査は調査状の危険や国道17号への影響を考慮して調査を中止した。従って堀底は確認できていない。堀壁は上部が45°と緩やかで、中段に平坦面状の緩傾斜部を設けている。下位では70°と急に傾斜を増している。この急傾斜部分は砂層を壁としており、砂でほとんど埋没していた。おそらくこの部分は早い段階で埋没していたのであろう。

本堀も２号堀同様に古い堀が東に延びていた可能性もあるが、調査区の関係から確認できなかった。しかし、「和田城」北側二ノ郭部分を中心とした絵図『御三層櫓下之堀絵図』（口絵参照）を見ると、６号堀延長線状の本丸堀西壁が６号堀とほぼ同じ幅で緩傾斜部分が描かれている。同様な表現は３号堀部分にもあり、６号堀部分にも古い堀が存在した可能性は否定できないであろう。

遺物（第86図14）

やや発泡した黒色の石材を使用した茶臼型の下臼が出土している。

４号堀

遺構（第11図、ＰＬ－５）

「和田城」主郭南側を区画すると考えられていた堀である。堀の南側に関しては調査以前から２m程の段差が残り、その位置は明瞭であった。堀の走向は烏川崖に直交せず、やや南に下がっていた。

この堀は西を烏川崖、北を県道高崎藤木線、東を国道17号に囲まれた狭小な場所にあり、ごく一部を調査するに留まった。調査以前から存在が明らかであった南壁は明瞭に確認でき、50°の傾斜で立ち上がっている。壁は上端で長さ10mまで調査したが、西側は樹木移植痕で大きく抉られ、形状を留めていなかった。南壁は確認面から深さ6.2mまで掘削したが、６m付近でやっと浅間Ａ軽石を多く含む層を確認できた。調査地点は河川に近く、長期間埋めら

れずにいたようで、南壁確認面から４m付近までは昭和期のゴミを含んでいた。

北壁は南壁から22mの距離で幅２mのみ確認されたが、平面プランが直角に曲がるうえに傾斜角度も急であり、南壁際と埋土も異なっていた点が不自然であった。これを裏付けるように、南壁確認面から２m以上下部の壁に接して昭和期の飯碗と瓦が出土している。また、壁に接する埋土は軟らかく、自然に剥がれ落ちる状態であった。確認した南壁は、後世に改変されているようである。北側は県道に近接し、これ以上の調査は危険を伴うため、調査はこの時点で中止した。絵図に描かれる屈曲部の位置は調査範囲外（国道17号下）に存在するようである。

北壁確認面は南壁確認面に比して1.5m以上低いが、これは県道建設時に削平された結果であろう。

遺物（第83図２）

掘削範囲のほとんどが昭和期の埋土であり、昭和30年代を中心としたゴミの出土が多かった。しかし、１点のみ江戸期の肥前磁器香炉が出土した。この香炉は残存状態が良いうえに器表の光沢も強く、伝世品が昭和期に廃棄された可能性を考えている。

５号堀

遺構（第11図、ＰＬ－５）

「和田城」南側二ノ郭の南を区画する堀で、「和田城櫓台跡」に伴う堀である。本堀は調査区が次第に狭くなる南端付近に位置するため、北壁上幅3.5mのみを確認するに留まった。西が烏川崖、東が国道17号に接しているため、掘削は２mで中止せざるを得なかった。北壁傾斜は４号堀南壁同様50°である。調査区の関係から、南壁は確認できなかったが、堀の配置と絵図の記載から、規模は６号堀に近いと推測される。

調査を２mで中止したため、埋土はすべて昭和期のゴミを含む新しい堆積土のみであった。

遺物

出土遺物は皆無である。

盛土上で確認された遺構

概要

盛土が確認されたのは第10図に示した２区の４号堀南から「櫓台跡」の間である。盛土上では、１号石敷遺構以外はすべて昭和期の撹乱と樹木移植痕が確認されたのみであった。

１号石敷遺構

遺構（第12図、ＰＬ－５）

２区盛土上で唯一撹乱と判断できなかった施設である。南側が破壊されており全体は不明であるが、短辺3.9m、長辺４m以上の長方形を呈すると思われる。石は３層に敷かれ、１面と２面の間は５cm前後、２面と３面の間は10cm前後の間層がある。埋土、間層共に黒色土で高崎泥流は少量含むのみであり、締まりもなく叩き締められた形跡は認められない。礫は川原石で、直径数cmから20cmの礫を用いている。全体的には３面に敷かれた礫に大きいものが多いように見受けられる。

３面の石敷下には土を入れておらず、掘方面となっていた。掘方床面にはピットなどの施設は認められない。

遺物

遺物は３面に及ぶ敷石間に江戸時代の肥前磁器瓶類小片が１点あったのみである。この遺物は遺構に伴うものではなく石に混入したものと推定され、遺構の上限を示すにすぎない。したがって、構築時期は江戸以降ということになる。遺構の性格は不明。

2　盛土と盛土内で確認された遺構と遺物

概要

盛土は２区のみで確認された。２区は和田城二ノ郭南側の郭と推定されていた場所であり、ここで確認された遺構と層位関係は第10図右側に示したように、「櫓台跡」のみでなく平坦な郭部でも盛土造成が行われていた。盛土は石を並べながら行うという

類例の少ないものであった。盛土内には下部の遺構群に存在した遺物が含まれ、石列には周辺から集められたと推測される石製品も円礫と共に並べられていた。

石列

遺構（第15～19図、ＰＬ－６～８）

和田城二ノ郭南側の郭と推定されていた２区の調査において、烏川橋梁工事にかかる一部を先行調査した際、４号堀北壁に旧表土と思われる黒色土層が確認された。堀調査後に黒色土上の調査を行った結果、畝状の高まりが等間隔に並んでおり、畠状遺構であることが確認された。更に黒色土中には中世遺物が包含されており、黒色土上に堆積した高崎泥流や黒色土が人為的な盛土であることが確認された。本来ならば、「櫓台跡」と郭部盛土は一度に調査すべきであろうが、「櫓台跡」を含めた土量の問題や搬出路などの問題により、分割して調査せざるを得なかった。

当初、郭部（４号堀と櫓台跡の間）盛土はバックホーで除去しながら畠状遺構の確認を行う予定でいた。しかし、調査区唯一の搬出入路における橋梁工事の関係から、バックホーの搬入可能日が約１週間遅れる事態となった。これを機に、郭部西側の撹乱内で見つかっていた円礫と、盛土上に数個露出していた円礫が直線的に並ぶように見えた箇所に人力でトレンチを設定することにした。すると、設定したトレンチすべてで円礫が見つかり、直線的に並ぶ結果となった。そこで、トレンチを拡張したところ、更に石列が広がることが判明した。このため、重機による盛土除去を中止し、厚さ１ｍ以上に及ぶ盛土すべての人力掘削に変更した。

確認された石列は第16図に示したとおりである。盛土上面からの撹乱や樹木移植時の掘削により破壊されている箇所もあり、すべての石列を確認できた訳ではないが、全体の傾向は把握できる状態であったと考えている。使用された石のほとんどは烏川に認められる河床礫であり、極少量大型の角閃石安山岩と石造物を使用していた。直径数十㎝を超える角閃石安山岩は現在の烏川河床には認められず、石造物と共に前代に使用されていた石の再利用と推定される。

石は北西部ほど密に、高く積まれている。しかし、石垣のように面をそろえていないうえに裏込石もなく、片面を露出させた状態で自立する状態ではないことから石列と呼称した。石列の並びを見る限り、概ね南北方向を基準とし、その間を東西方向に区切っているようである。南北方向の列は東側ほど明瞭であるが、逆に西側は不明瞭となる傾向が伺える。調査区内において、南北方向の列は、ほぼ６ｍ間隔で４列並べられている。その間は1.5ｍから3.0ｍ間隔で東西に区切っている。また、東側南北列のほぼ中央付近には、短辺約１ｍ、長辺約2.5ｍ程の長方形区画が認められ、中央部に集石されているようであった。この部分は地鎮などの施設も考慮して精査したが、その痕跡は確認できなかった。

先に述べたように、石列は西に向かうほど石の密度が粗となるが、石の大きさも小さくなる傾向がある。更に西側を中心に石列延長線上に硬質な高崎泥流塊（第16図から18図のトーン部分）も確認され、礫の代用として使用されたことが考えられた。この点は、後に述べる盛土断面観察において断定されることとなった。

最も石が密に並べられている北東隅の石列側面図を第19図に示したが、石間の間隙が多いことがわかる。この部分では、間隙部分は黒色土主体であるが、部分的に高崎泥流塊（トーン部分）が詰め込まれており、ここでも石の代用として使用されていた。

なお、西側調査区境付近の空白部は、危険防止のための法面分と断面実測用のトレンチであり、石列の空白部が存在するわけではない。

４号堀との関係であるが、石列（盛土）は４号堀と同時期か古いことは確実である。これ以上については確証がないが、盛土の供給源や東西方向の石列が４号堀上端とほぼ平行することや、４号堀上端が曲がる部分において石列も方向を若干変えている

（宝筐印塔基礎、第16・18図１出土地点）ことを考慮すると、４号堀掘削時に石列を作りながら盛土造成を行った可能性が考えられる。

遺物（第96～104図、ＰＬ－口絵４）

石造物や石製品の使用部位に特徴は認められず、単に宝筐印塔や五輪塔、石臼、凹み石などが河床礫の代わりに使用されていたと考えられる。宝筐印塔には、１辺32㎝、高さ22㎝で、逆修であるが、「永享三年辛亥」（1431）の紀年を有する基礎（１）や月輪内に胎蔵界五仏を表す「ア」、「アン」、「アー」、「アク」の四方梵字を刻んだ塔身（３）が出土している。なお、月輪内は黒色に塗られている。（口絵参照）

五輪塔は地輪の破片（４）１点のみである。下面にはほぞ穴が穿たれ、正面は墨を円形に塗った後に梵字を刻んでいる。

石製品には、角閃石安山岩製の凹石や茶臼形・粉挽き形の石臼、石鉢（６）などがある。

盛土

遺構（第20図、ＰＬ－７～９、口絵４）

第20図に郭部西側の断面図を示した。断面図の４層から15層の1.2ｍ程が盛土である。９層以下に不整合があるが、これは危険防止のためここで段掘りを行っているためであり、盛土造成時に時間差があるわけではない。断面図では分かり難いが、盛土は高崎泥流を主体とする部分と黒色土を主体とする部分が比較的明瞭に分かれる。断面図で最も明瞭な部分（ポイントＡから１ｍ～７ｍ間）では、2.5ｍから４ｍ程のブロックが観察できる。左側のブロックが黒色土主体、右側のブロックが高崎泥流主体の盛土である。これらのブロックは、旧表土上又は薄い間層を挟んだ上に小さい土山を造り、その上に被せるように土盛りを行う行程が明瞭に観察できる（ＰＬ－７、口絵参照）。このＡポイントから１ｍの盛土境には、土の境に沿うように石が並べられている。また、断面図下段左側と中央部の盛土境には、高崎泥流塊（トーンで示した部分）が並べられていた。この断面には、石列が盛土造成過程において、盛土を行いながら土質境に並べられていったことが明瞭に現れている。また、造成過程で石が不足したためか、高崎泥流の硬い部分の塊を石の代用として使用していたことも明らかとなった。断面図で示した場所は盛土上の撹乱が多く、平面的に石列を捉えることが不可能であった。

盛土境と石列の関連は、第19図上段の断面図においても認められる。更に第17図に示したように平面的にも確認できた（方位マーク下の破線は高崎泥流主体盛土と黒色土主体盛土の境）。但し、盛土上のプラン確認時に盛土境が長方形区画として確認できなかったこと、断面でも盛土境が不明瞭な箇所もあることから、すべての区画で黒色土主体盛土と高崎泥流主体盛土を交互に行ったわけではないようである。

図示しなかったが、東側調査区境では約70㎝程の盛土が確認されたが、盛土上に砕石があり、全体に削平されているようである。しかし、盛土下旧表土の高さを見ると（第21図参照）西側が東側に比して30㎝程低く、東側の盛土は、西側に比して薄かったと考えられる。

遺物（第93・94図、ＰＬ－35）

盛土内出土遺物は、畠状遺構下で確認された古代から中世遺構群に伴うものと考えられ、盛土を確保するために古い遺構が壊された結果、混入したものと考えられる。

畠状遺構下出土遺物同様、中国製白磁皿Ｃ群（第93図１）や染付皿Ｂ１群（第93図３）、瀬戸・美濃製大窯皿（第93図２）、在地製内耳鍋形（第94図８他）、皿（第94図18・19）などが出土している。また、内耳鍋形体部片を使用した小円盤（第94図16）も出土している。第93図７は、古代の土釜に似た形状であるが、調整や胎土の特徴が内耳鍋形と同じことから中世の所産であろう。

「和田城櫓台跡」

概要

調査以前に最も注目されていた遺構である。しかし、現況図（第13図）を見ても明らかなように、国道17号と烏川崖との狭い空間に位置するため、国道側は高さ７ｍにも及ぶ擁壁で覆われ、南から西側は2.5ｍの石垣が積まれていた。上面は擁壁裏込めを抜くと、長さ幅２ｍから３ｍ、幅11ｍ、擁壁と石垣の間でも９ｍの長さしか残存していなかった。この残存状態の悪さと、県内随一の交通量を誇る国道17号と烏川崖に挟まれるという環境下を考えた場合、調査は不可能とも思えた。この劣悪な環境の元、櫓台の調査は、断面観察のみを目的とせざるを得なかった。

しかし、それとてもこの環境の下では困難を極めた。表土掘削といえども国道と至近距離にあるため、たとえ少量であっても土砂が国道側に落ちれば大事故につながる恐れがあり、河川側の表土掘削を行えば降雨時に土砂が流出する可能性があった。このため、西側の表土掘削は行わず、東側は土砂や擁壁取り壊し時のコンクリ塊転落防止用のＨ鋼（高さ７ｍ）を立てる安全対策工事を実施した。また、西側には作業員の転落を防止するためのフェンスも設置した。

櫓台の調査は、すでに終了した郭部（北側平坦部）を一旦埋め戻してバックホーのバケットが届くまでの斜路を作り、頂部の遺構確認と北側斜面の表土掘削を行って残存状態図（第14図）を作成した。その後、再び斜路を作り、約1.5ｍ毎に「西半掘削」、「断面観察、測量・写真撮影」、「東半掘削」、「擁壁破砕」、「擁壁片除去」という５行程を繰り返し行った。

遺構（第13～15図、ＰＬ－６・７）

調査の結果、「和田城櫓台跡」とされる土塁上で遺構は確認されなかった。土塁は、郭部の盛土同様、中央に小山を作り、更に上や両側の低い部分に土盛りするという方法で造られている。断面図をみても明らかなように、不整合部分もなく、古い土塁は含まれていない。また、土塁盛土が郭部盛土へと続く部分もあり、郭部盛土と同時期かつ計画的に築造されている。内部に土を突き固めたような形跡や土をブロック状にして積み上げたような形跡は認められなかった。盛土は、黒色土に比して高崎泥流が多く、深い部分で確認される泥流層も含まれており、堀を掘削した際の土を利用していると推定される。

土塁内においても郭部と同様な石列が確認された。状態が良好な１号石列は、頂部から２ｍ以上下がった東寄りに長さ８ｍ、高さ1.2ｍ以上にわたって積まれていた。頂部南側は多少バックホーにより石を除去してしまった可能性はあるが、石列の存在を想定しながら調査を行っており、８ｍにわたって石列上部を除去してしまった可能性はない。

１号石列の高さは約1.2ｍであるが、上部2/3程で石列がずれている。調査期間の都合で断面観察はこの１箇所のみであるが、この上下で盛土の質に変化が認められないため、時期差や大きな時間差などは想定していない。また、下部の扁平な石と比べると、石の大きさ半分程度のずれであり、郭部盛土断面に認められるように、斜めに石を並べることも行われており、この程度のずれに意味づけする必要性は感じていない。高崎泥流塊を石の代用として使用している点や石列を境に盛土の質が異なっている点が郭部の特徴と一致する。

２号石列は石の分布にばらつきがあるうえに広がりもなく、集石状を呈している。石列付近を境に黒色土を中心とした盛土と高崎泥流を中心とした盛土の境が存在するが、石列の場所と完全に一致する訳ではなく、盛土中の集石状遺構としたほうがよいかもしれない。

「櫓台跡」の南北断面（第13図）には、１号石列断面のような断面は認められず、土塁の幅ではなく、長さを区切った区割りを意識していたと考えられる。ただ、調査できた長さが中段でも11ｍしかなく、明瞭な石列も１箇所しか見つかっておらず、可能性を指摘するに留めたい。

遺物

出土遺物は郭部盛土との間に時期差が認められず、同一に扱った。

3　盛土下で確認された畠状遺構と黒色土内出土遺物

遺構（第21～25図、ＰＬ－９）

２区盛土下には旧表土が残っており、その表面は畝状を呈していた。畝はほぼ50cm間隔で直線的に伸びている。大規模な盛土が行われたわりに地表の乱れはなく、部分的に凹みはあるものの、踏みつけたような道状遺構は見受けられない。これは、盛土の供給源と推定される堀側から土を盛った結果であろうか。

畝状遺構は２区北西部と２区中央部の２箇所に大きく分かれ、前者はほぼ座標南北に沿っており、後者は座標北から71度ほど軸がずれている。両者の間と後者の南側には畝状遺構が見受けられない。しかし、両者の間には地表の状態に違いが認められる。２区北側東半の畝状遺構が認められない部分には、浅い凹みや旧地表を掘り込んだ土坑（17・18・19号土坑）や焼土の分布が認められ、やや荒れた地表の状態が見受けられる。２区南側の空白部には顕著な凹みはなく、自然な小さい凹凸が見受けられる程度であった。

１号焼土、２号焼土とした遺構の性格は不明であるが、断面観察の結果、旧表土上において火を焚いた結果生じた焼土と判断され、盛土造成時に伴う可能性もある。３号焼土は、浅い凹み部分に炭化物と焼土の分布が認められたが、旧表土黒色土内にも炭化物や焼土の広がりが確認でき、前者とは時期差が存在した可能性が高い。

２区南側の畝状遺構東側は畝がなくなり、空白部若しくは畝状遺構の境が存在するようである。この北側の破線で示した部分は、旧地表を数cm除去した箇所で、僅かな色調の違いにより畠状遺構が確認できたが、同じ黒色土内での確認であり、部分的な確認に留まった。この遺構は断面（第24図）においても確認でき、部分的な確認であったものの、古い時期の畠状遺構若しくは耕作痕？が存在した可能性が非常に高い。

遺物（第105～107図、ＰＬ－口絵３）

黒色土内からは、明代の染付皿、越州窯系青磁碗や大窯製品をはじめ、在地製の皿やすり鉢、火鉢などが出土している。１の染付皿は小野正敏氏分類によるＢ１群であろう。２・３は越州窯系青磁碗の口縁部と体部小片であり、高崎城遺跡における古代集落内では初見であろう。胎土・焼成・釉調共に酷似しており、同一個体と推測される。21の高台付鉢は中世の在地製で類例が少ない。県内では陶器をモデルとしたような在地系製品が少量認められ、本品もこうした製品の一つかもしれない。

鉄製品には、鉄鏃（31）と火打金（32）がある。他に時期不詳であるが、小型椀状滓も出土している。

石造物では、黒色の縁取りを施した五輪塔地輪（34）が出土している。正面には黒色で丸く塗りつぶした後に梵字を刻んでいる。この五輪塔は角閃石安山岩製のため、表面に凹凸が多く、梵字の判読が困難である。

4　畠状遺構下で確認された遺構と遺物

１区

概要

ここでは、盛土は確認されていないが、２区畠状遺構下で確認された遺構と同時期の遺構を含め、概要を記す。個々の形状や規模などは一覧表に記した。

１区は駐車場として利用されていた場所であり、舗装と砕石下には黒色土が全くなく、いきなり高崎泥流という状態であった。１区西側の烏川崖に残っていた大木の根元を観察したところ、遺構確認面より約50cm上に黒色土が観察され、深く掘り込まれた遺構のみが残存していたと考えられる。竪穴住居は非常に状態の悪い２号住居１軒のみ確認された。調査時には１号住居と呼称して調査を開始した箇所があるが、調査の進行に伴い、竪穴住居としての確証

が得られなかったので欠番とした。

土坑（第７・26～29図、ＰＬ－10・11・34・35）

１号土坑は径50㎝程の不整円形小土坑で、断面形状は深さ７・８㎝の皿状を呈する。埋土上部に木炭細片層があるが、底部は焼土化していない。出土遺物がなく時期不詳であるが、埋土の特徴から古代以前の可能性が高いと考えている。

２号土坑も小型円形土坑である。内部からはほぼ完形の須恵器坏（第89図１・２）が正位で出土しており、内１点には「真」の墨書が認められた。小型土坑であるが、須恵器坏片の出土が多く、第89図３～７の５点が図示し得た。前記１号土坑と共に竪穴住居一部であった可能性も考えられる。

３号土坑は２号堀に近い場所で確認され、浅い凹み状を呈した場所に大小の礫が廃棄されたような状態で出土した。出土遺物には古瀬戸（第89図８・９）や在地製内耳鍋形（第89図10・11）、在地製すり鉢（第89図12）がある。中世の所産である。他に、時期不詳であるが、製鉄に伴うと思われる流出滓片が出土している。本土坑の存在意義はその位置にある。高崎城の絵図では、２号堀の南に接して土塁が描かれており、この土塁の上限を示す資料となる。また、確認はできないものの、２号堀より古い３号堀に伴う土塁が存在した可能性を考慮した際も上限資料となりうる。

４号土坑、６号土坑、８号土坑は時期不詳である。

５号土坑は長方形を呈すると推定される竪穴遺構であろう。短軸は1.3m、長軸は2.45m以上である。西側短辺の壁際にピットが１基確認されている。このピットは断面観察においても伴うものと判断された。このピットには柱痕が明瞭に観察され、掘方には礫が詰められていた。出土遺物はすべて平安時代の須恵器と土師器細片であったが、埋土や遺構の特徴から中世に構築されたと推定される。

７号土坑は楕円形を呈する土坑で、小礫などが廃棄された状態で出土している。図示可能な遺物はないが、細片ながら在地土器皿が２点出土しており、形態や礫の廃棄状態が２区の中世土坑に似ている点などから中世遺構と考えられる。

９号土坑は長方形を呈する竪穴遺構と考えられる。１区中最も良好な状態で確認された遺構である。壁際ではないが、５号土坑同様に西側短辺寄りで柱穴が確認された。東側短辺は壁部分に柱穴と考えられるピットが確認され、深さも大きな違いはない。短辺側隅の小ピットについては同時期か否か不明である。また、等間隔ではないが、壁際に直径４㎝程の小ピットがプランで確認でき、中心を通るように断ち割りを行った。断面観察の結果、深さは10㎝から30㎝と幅があるが、断面Ｃポイント付近を除いて木根などによる撹乱ではない可能性が高いと判断された。やや平面形状が異なるが、床面状の黒色部の断ち割りも比較のために行った（ＰＬ－11）が、明らかに深さが異なっている。

壁際の下端を詳細に見ると、この小ピットの外側を廻るように波打っている。以上のことから、この小ピットは本遺構に伴うと考えられる。直径から考えて柱穴ではなく、杭状の物を打ち込んだ可能性が考えられる。南壁中央が撹乱で壊されているが、北壁と同じ場所に存在したと仮定すると16本存在したと推定される。小ピットの間隔は一様ではなく、西壁側ほど間隔が密で、東側に向かう程間隔が離れている。しかし、一部を除いて北壁と南壁の小ピットは対になるような場所で確認されている。このため、当初から不均一な配置であったと考えられる。

遺物は、西側から多く出土している。遺物のほとんどは在地製土器皿（第89図14～第91図49）であり、大・中・小の３種が認められた。出土した中世遺物の99％以上が皿であり、それ以外は在地製鍋形の底部小片（第91図50）が１点出土したのみである。国産陶器や中国製磁器なども出土していない。なお、出土した皿すべての器表に調整痕が明瞭に残り、明らかな使用痕も認められない。また、埋土中に焼土なども認められなかった。中世遺物に限れば、図示しなかった遺物は57点であり、すべて皿である。

10・11号土坑は近接して確認され、11号土坑内からは須恵器埦底部が出土している。両土抗は、埋土の特徴から古代以前と推定され、近接して存在することや形状から竪穴住居掘方の可能性もある。

12号土坑も１号土坑同様、木炭細片層が確認されている。鉄滓や鍛造剥片などの遺物は共に出土していない。古代以前の時期を想定している。

13号土坑は形状、時期共に不明である。礫のみで遺物は出土していない。

14・15号土坑も近接して存在し、断面形は皿状を呈する。図示しなかった遺物は、14号土坑では須恵器埦２点と羽釜１点、15号土坑では須恵器埦１点である。共に平安時代の遺物が出土しており、平安時代竪穴住居掘方の可能性がある。

竪穴住居（第29図）

２号竪穴住居は１区で確認された唯一確実な竪穴住居である。残存状態が非常に悪く、僅かでも壁の立ち上がりが確認できたのは竈部分のみであった。他は掘方の痕跡でプランが確認された状態である。竈部分も当然のことながら掘方である。竈は東側に構築されている。図示し得た遺物は第129図11の須恵器埦１点のみである。

２区

概要

盛土下畠状遺構の更に下から密集した状態で遺構が確認された。遺構は中世の柱穴と土坑が主体をなし、竪穴遺構と推定される方形土坑も認められた。土坑と柱穴は、重複関係から柱穴が土坑より新しい傾向が認められた。しかし、出土遺物が少なく、遺物から新旧関係を把握することは不可能であった。

土坑（竪穴遺構）

２区において土坑とした遺構には、性格不明の土坑と竪穴遺構と呼称した方が適切と思われる遺構の２者があるが、調査時の呼称と番号をそのまま使用して報告する。後者の竪穴遺構と考えられるのは、29号土坑、30号土坑、35土坑の３基であり、近接して構築されている。

29号土坑

遺構（第38～41図、ＰＬ－12）

29号土坑は、やや不整形な隅丸方形を呈するが、底面は平坦であり、竪穴遺構としたほうが良いかもしれない。ピット51・52との重複に関しては、ピットが新しいのは確実である。しかし、他のピットとの新旧関係は不明である。図示可能な遺物は存在しなかったが、灰釉陶器壺１点、同埦・皿１点、須恵器壺・甕22点、同埦・坏64点、土師器甕81点、古代瓦３点、羽釜５点というように古代遺物が多く出土している。中世遺物としては、在地製皿１点と内耳鍋形２点が出土しており、埋土の特徴から考えても中世の遺構と考えられる。古墳時代の遺物としては、埴輪片が８点出土している。

30号土坑

遺構（第39図・41図、ＰＬ－12・13）

30号土坑は、２区のほぼ中央、29号土坑の東約１ｍに位置する。一部撹乱で破壊されているが、長軸4.1ｍ、短軸3.1ｍ程の長方形を呈する。底面付近には高崎泥流を中心とした埋土が南側に厚く確認され、人為的埋土と推定された。遺物はこの人為的埋土状に礫と共に廃棄された状態で出土している。北西隅付近からは灰層が確認されているが、人為的埋土上の堆積層中に存在し、本土坑とは直接関係しないと考えられる。また、焼土は確認されていない。ピット59、86との新旧関係は確認できなかった。33号土坑は本土坑より古い。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39・41・口絵３）

出土遺物には西壁際から落ち込む状態で出土した大窯期の皿（４）や銅若しくは合金製の円弾と推定される球形金属製品（170）、鮑の殻（ＰＬ－41）等が出土している。また、平安時代の製品であるが、中国製白磁片（第129図１）も出土している。４の大窯期丸皿は、大窯編年第Ⅲ期に位置付けられ、Ⅲ期でも後半の可能性が高い。また、球形金属製品は火縄銃の弾と考えられ、「和田城」に関する文献史料にも鉄砲が見受けられることから、非常に重要な資料である。遺物は北壁よりに集中しており、礫の

分布と一致する。

図示しなかった中世遺物には内耳鍋形10点、在地製皿69点がある。古代以前では瓦２点、円筒埴輪８点、灰釉陶器９点などが出土している。

35号土坑

遺構（第39図、ＰＬ－13）

35号土坑は30号土坑の北70cmと近接し、長軸3.75ｍ、短軸2.2ｍの長方形を呈する。確認された深さは20cm程と浅い。新旧関係は、70号・72号・74号ピット、38号土坑が本土坑より新しい。また、81号ピットも灰の分布が途切れることから、本土坑より新しい。ピット89号・90号との新旧は不明であり、本土坑が新しい可能性もある。北東隅付近には図上で竈状に見える部分がある。しかし、この箇所は調査時の初見で本土坑には伴わないと判断しており、焼土・灰なども認められていない。南西隅では底面から５cm程上で灰層が認められた。しかし、付近での焼土分布は認められず、層位的にも本土坑には伴わない灰層と考えている。他の土坑でも認められた埋土中層付近に堆積する灰層と同様なものと考えられる。

遺物（第113図）

出土遺物中図示し得たのは92の内耳鍋形口縁部片1点のみである。図示しなかった遺物はすべて古代以前のもので、須恵器40点、土師器32点、灰釉陶器１点が出土している。しかし、すべて細片であるうえに埋土の特徴から、本遺構には伴わないと考えられる。

土坑

概要

性格不明の土坑は、楕円形を呈する大型土坑、小型円形土坑、長方形若しくは方形小土坑に大別される。ここでは、楕円形を呈する土坑を中心に遺構説明を行う。他の土坑に関しては特徴も少ないうえに出土遺物も少なく、時期決定も困難なものがほとんどである。したがって、円形・方形土坑などに関しては、本文説明を省いて一覧表のみとした。

楕円形を呈する土坑（第30図参照）は、調査区西側と南側に分布が偏っている。口絵の空中写真や第６図で明らかなように、２区の西側から南側は烏川崖であり、時期差は不明ながら地形に沿って配置されているように見受けられる。これらの土坑は、形態的な特徴のみでなく、礫や遺物の出土量が多い点も共通している。また、遺物出土層位も土坑底面ではなく、やや埋まった段階に礫や土器類が廃棄されている点や、堆積途中に灰層が認められるなどの点に共通性が見いだされる。

24・25号土坑

遺構（第37・38・50図、ＰＬ－12）

２区北西部で確認された。遺構は西側に延びるが、烏川への土砂流出防止の観点から拡張調査は行わなかった。しかし、遺構は崖際まで延びていることが推定され、烏川の浸食によって消失している遺構の存在も推定された。24・25号土坑は、楕円形を呈する土坑が重複していると考えられるが、新旧関係は判然としなかった。しかし、24号土坑内から続く灰層（第20図22層）が25号土坑部分まで延びていることを重視すれば、24号土坑が新しい可能性がある。規模はいずれも不明であるが、24号土坑の長軸は3.3ｍ＋、短軸は1.08ｍ＋、深さは71cmである。25号土坑の長軸は2.85ｍ＋、短軸は2.06ｍ＋、深さは94cmである。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39）

出土遺物は比較的豊富であり、灰層（22層）下からの出土である。他の楕円形土坑同様に河床礫を主体とした中に遺物が含まれる状態であった。礫の分布は、東壁際が密で中央に向かうに従って粗になると共に、出土レベルも低くなっている。同様な状態は後述する67号土坑でも見受けられた。埋土上層からは獣骨の一部も出土しており、解体された後に廃棄されたものと解される。

図示し得た遺物は40点にのぼり、細片であるが、大窯Ⅰ期の天目碗（１）や同時期の縁釉皿（５）といった施釉陶器が含まれていた。量的に最も多いのは在地製土器皿（22・27・36～39・42～44・46・47・49・51・53～55・58・63・73・76）である。内

耳鍋形片も同様に多いが、図示し得たのは５点（73・76・83・84・98）のみである。すり鉢は非常に少なく、図示し得たのは108の体部小片１点のみであった。石製品には127の硯、136、137の石臼が図示し得た。金属製品では、不明銅製品（188・190）や火打金（192）、釘（199）などが出土している。また、金属生産関連として、在地土器皿を利用した取鍋片が３点出土（160・163・164）している。図示し得なかった遺物のうち、板碑細片と思われる片岩を除くすべては古代以前の遺物である。古墳時代以前の遺物には円筒埴輪片８点と古式土師甕片１点がある。

62号土坑

遺構（第43・50図、ＰＬ－14・15）

76号土坑、９号溝と重複し、82号土坑に近接する。重複関係はいずれも本土坑が新しい。形状は不整円形で、立ち上がり角度も不均一である。南側と北側には壁が内側に突き出るような部分もあり、その間の底部が浅くなっている。東西に並行するように２基の土坑が重複していた可能性が高いと推定されるが、断面観察では確認できなかった。長軸は4.42m、短軸は3.7m、深さは67cmである。埋土中層の一部に灰層が認められたが、焼土は確認できなかった。本土坑も河床礫を中心とした礫と遺物が混在して出土している。他の土坑同様、礫や遺物は中層から出土している。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39・口絵３）

中国製品としては、白磁皿Ｂ群（９）、白磁小型皿（７）の２点がある。国産陶器では、古瀬戸後期の水滴（17）、大窯皿底部小片（６）、大窯Ｉ期の端反碗口縁部小片（32）などが出土している。在地製では、皿（25・30）、すり鉢（103・104・109）が出土し、石製品としては、角閃石安山岩製の球状製品（135）がある。他に、板碑と思われる片岩細片が４点出土しているが図示していない。

63号～65号土坑

遺構（第48・49・51図、ＰＬ－15・16）

63号土坑、64号土坑、65号土坑の３基は５号堀に沿って並ぶような位置に並行して確認された。67号土坑と重複するが、重複部分の深さが少ないうえに埋土が黒色土であることから判然としなかった。並行する３基も断面図には新旧を表したが、その差は不明瞭であった。この３基においても遺物と河床礫は土坑底部から浮いた状態で出土している。特に北寄りの礫は土坑がかなり埋まった状態でほぼ水平に分布している。本来の掘り込みは、より上部であろうが、確認面において礫が露出する状態であった。これらの礫分布は、北側が密で南ほど粗となり、出土レベルは北から南にやや下がっている傾向がある。礫や遺物が北側から廃棄されていると推測される。礫を取り除くと、個々の形状は明瞭となり、３基の楕円形土坑が並列した状態がわかる。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39）

63号土坑出土遺物のうち、内耳鍋形については３点（74・85・90）図示した。全体形状が判明するのは礫と同一レベルで潰れた状態で出土した74のみであり、口縁部がほとんど外反しない丸底を呈している。在地製すり鉢は101の口縁部小片が出土したのみである。

64号土坑も出土遺物が少なく、内耳鍋形２点（75・88）と在地製土器皿１点（31）、在地製？すり鉢１点（106）が図示できたのみである。

65号土坑出土遺物量も同様に少なく、在地製土器皿底部１点（50）、同すり鉢口縁部小片１点（99）、砥石１点（128）、茶臼形下臼１点（139）のみが図示可能であった。他には、図示していないが、鮑の殻（ＰＬ－41）が２点近接して出土している。

67号土坑

遺構（第48図、ＰＬ－17）

南西部は「櫓台跡」の擁壁により破壊されているが、楕円形を呈すると考えられる。埋土中層には63号土坑から続くと思われる河床礫が出土している。礫同士は重ならない部分が多いが、敷かれた状態とは明らかに異なる。出土レベルも壁際がやや高く、63号土坑側からの廃棄と考えられよう。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39・口絵３）

遺物は、礫の間に混じる状態で中国製染付皿（15）や在地製すり鉢体部片（100）が出土している。なお、染付皿は72号土坑出土片と接合している。

68・69号土坑

遺構（第48・52図、ＰＬ－17）

共に「櫓台跡」擁壁で西側を破壊されている。当初は一つの大型楕円形土坑として調査を開始したが、最深部の間に高い部分が存在したため、二つの土坑として扱った。両者の新旧関係は不明である。また、壁付近に存在するピットとの新旧関係も不明である。なお、66号土坑、67号土坑、71号土坑との関係については、いずれも68号土坑、69号土坑が古い。68号土坑、69号土坑共に断面は皿状を呈し、確認面からの深さは29㎝、12㎝と浅い。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39）

68号土坑からは、在地製土器皿底部（61）、粉挽き形下臼（140）、銭種不明銭貨（179）が出土している。他には獣骨も出土している。

69号土坑からは、在地製内耳鍋形（96）が出土している。

72号土坑、73号土坑

遺構（第45・46・52図、ＰＬ－17・18）

73号土坑は「櫓台跡」の擁壁により破壊されるが、両者共に不整円形を呈すると考えられる。72号土坑の規模は、長軸3.39m、短軸2.9、深さ36㎝である。73号土坑も近い規模を有していたと思われ、深さは31㎝とほぼ同じである。断面では新旧を表したが、色調の違いは不明瞭であり、確証はない。

本土坑も河床礫が多く出土しており、断面Ｂ′付近を見ると壁側から中央に向かって低く礫が出土する状態が表れている。深い土坑に比べると底面と礫との比高差は少ないが、底面からは離れて出土しており、確認面からの高さを基準とすれば、他の土坑同様、ある程度埋没した段階で礫や遺物が廃棄されている状態が見受けられる。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39・口絵３）

72号土坑からは、扁平で表面が平滑な黒色小石が８点（116～123、）まとまって出土（ＰＬ－18）している。なお、白色の石や貝を扁平に加工したものは出土していない。他に、古瀬戸卸皿口縁部片（19）、角閃石安山岩凹み石（133・146）などが出土している。

73号土坑からは在地土器皿（69）、在地製内耳鍋形（79・87・94）、砥石状の石製品（134）が出土している。

82号土坑

遺構（第43・53図、ＰＬ－19・20）

83号土坑より新しい。また、324号ピットは、82号土坑が完全に埋没した後に掘られている。ほぼ楕円形を呈すると思われる土坑である。規模は長軸5.17m、短軸2.3m以上、深さ85㎝である。西側は烏川への土砂流出を防ぐために掘り残した土手下に続いている。他の楕円形土坑同様に壁の立ち上がりは急で底面も深い。

埋土中層には灰層が認められ、灰層上には石造物や石臼を含む多量の河床礫が廃棄されていた。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39・口絵３・４）

礫中には石臼２点（138・143）、角閃石安山岩製五輪塔地輪３点（154～156）、板碑片１点（142）、凹み石１点（147）などが含まれていた。土器類は、在地製土器皿（48・56・57・60）、在地製内耳鍋形（86・89・95）が出土している。金属製品では、火打金が２点（194・195）埋土中層から出土し、同じ鉄製品では、紡錘車（205）と釘（201・204）も出土している。また、不明銅製品（187）も認められた。　中世遺物ではないが、上野国分寺と同型の軒丸瓦（第131図34）が出土している。底部付近からは、龍泉窯系青磁皿（16）が出土した。

82・83号土坑埋土中からは、在地土器皿（28・65・66）と在地製内耳鍋形口縁部片（97）が出土している。また、金属生産関連遺物として在地土器皿を使用した取鍋片（169）が出土している。

1号井戸

遺構（第38図、ＰＬ－21）

本遺跡で唯一確認された井戸である。「和田城」二ノ郭南側郭と推定されていた場所（２区）に位置する。２区の中でもやや西側に構築されている。直径1.7m程の円形を呈し、深さは確認面から約6.9mあり、地表からでは７m以上あったと考えられる。底部付近は砂礫層まで達していた。調査が渇水期であったためか、底部でも「湿っぽい」程度で湧水は認められなかった。２区の烏川崖下には少量の湧水が同一場所で認められ、本井戸も湧水位置には達していると考えられる。確認面から１m弱の埋土には空洞が認められ、危険防止のため、断面図の作成は行わなかった。

遺物（第108～128図、ＰＬ－36～39・40・口絵３）

本井戸は非常に深く掘削されており、土坑などのような調査は行えず、遺物のサンプリングエラーはかなり多いと考えている。掲載した以外にも多くの遺物が存在していたであろう。

本井戸からは、施釉陶器をはじめ、在地製の土器皿、鍋形、すり鉢や石製品が出土している。施釉陶器には大窯小型端反皿片（14）とすり鉢細片（21）があり、在地製皿には34・64、鍋形には72・80・81がある。石製品では粉挽き形臼が多く、５点（141・145・149・150・152）出土している。また、希少例としては中世の硯（126）が１点認められた。金属製品は出土していないが、在地製土器皿を使用した取鍋片２点が出土している。また、時期は不詳であるが、鉄滓と思われる細片（ＰＬ－40）も出土しており、分析を行った。

平安時代遺物も多く混入していたが、完形に近い須恵器埦１点（第130図22）のみ掲載した。

8号溝

遺構（第43・45・53図、ＰＬ－23）

82号土坑より古く、９号溝より新しい。62号土坑との新旧関係は、断面・プラン共に判断できず不明である。不整円形・楕円形土坑同様に礫の出土が多い。幅は0.9mから1.5mと一定せず、下端も直線的ではない。北は82号土坑、南は「櫓台跡」擁壁で破壊されており、長さ6.2mのみ確認された。

遺物（第123～128図、ＰＬ－39）

雁股型式の鉄鏃（197）や在地土器皿を転用した取鍋（167）、元豊通寶（183）などが出土している。また、石製品としては、黒色の不明石製品（124・125）、や上臼（144）が出土している。

平安時代の遺構と遺物

概要

出土遺物の少ない土坑や柱痕が不明なピットに関しては中世遺構と古代遺構の区別が不可能な場合が多く、ここに記載した以上の遺構が存在した可能性は非常に高い。また、密に分布する中世遺構によって破壊されている遺構も多いと推測される。しかし、今回の調査によって、烏川崖付近にまで平安時代集落が広がっていることが確認できた。遺物に関しては、図示し得ない細片の出土量が多く、盛土内にも細片が多く含まれており、堀の掘削によってもかなりの遺構が消失していることが想像される。

出土遺物の中で最も注目されるのは、蛇の目高台を有する白磁碗（第129図２）と越州窯系青磁碗片が２点出土（第105図２・３）していることである。白磁碗は、接合しないものの同一個体と考えられる体部片（第129図１）も出土している。また、古代瓦片も数十点出土しており、高崎城域内に広く散布していることが判明した。これらの中には第131図34の上野国分寺瓦新段階の軒丸も含まれていた。

3号竪穴住居

遺構（第36図、ＰＬ－22）

２区の北東で確認され、竈が存在すると思われる東側は調査区外に延び、国道建設に伴う擁壁工事で破壊されている。また、中央から北側を４号溝で壊されており、形状は不明である。深さは約60cmと、確認壁高は本遺跡中最も高い。住居内に図示したピットは、すべて本住居より新しく、中世の所産であろう。

遺物（第129～131図、ＰＬ－39・40）

床面中央付近から須恵器埦（17）や灰釉陶器碗か皿の底部（４）が出土している。なお、(36）は本住居には伴わないが、本遺跡出土遺物中特に古い時代のものであるため図示した。

４号竪穴住居

遺構（第46・48・54図、ＰＬ－24）

２区南東に位置し、東半は「櫓台跡」擁壁裏込めにより破壊されている。また、北側は70号土坑により掘方まで壊されている。２区南半分の東側は、黒色土中から遺物の出土が多かったが、遺構の重複が激しいためかプラン確認が困難を極め、高崎泥流面まで掘り下げて確認を行った。

本住居もプランを確認した時点で床面と推定される部分がごく一部しか残っておらず、掘方の調査から行う状態であった。南西隅付近には床下土坑と思われる円形の掘り込みがあり、平安時代の須恵器や土師器片が出土している。南壁際には壁溝が認められた。

掘方内で確認されたピットは、いずれも本住居より新しい。

遺物（第129～131図、ＰＬ－39）

図示し得た遺物は古代末の須恵器と考えられる（６）１点のみであった。

５号～７号竪穴住居

遺構（第43～46・54図、ＰＬ－24）

この部分は本遺跡中最もプラン確認が困難であった箇所である。高崎泥流自体の小さい凹凸もあり、プランは不明瞭で竈の確認により住居件数を決めた状態である。また、竈付近は10cm近い高さがあるが、他の場所では数cmと低く、断面観察によって新旧関係を確認することはできなかった。床面は不明瞭で、竈部分の灰層を確認して同一レベルで測図する状態であった。住居内で確認されたピットはすべて住居より新しく、中世の遺構と推定される。78土坑も本住居より新しい。また、７号住居竈の東側には、壁から少し突き出す状態で、埋土中に灰層が確認されたが、本住居より新しい土坑が存在したのであろう。

遺物（第129～131図、ＰＬ－39）

須恵器埦や杯（25～28）、須恵器皿（５・10・20）などが出土しているが、個々の時期を決定するような出土状態ではない。なお、(12）の皿は混入の可能性が高い。

８号竪穴住居

遺構（第41・54図、ＰＬ－24）

２区は調査の都合で南北に分けて調査したが、その南北境で確認された。竈北部分については、北側を調査した際には確認できなかった。竈と貯蔵穴部分のみの確認であったが、本遺跡では最も良好な状態で残っていた。竈は東壁南寄りに構築され、南東隅には貯蔵穴が穿たれており、底面から須恵器埦が正位で出土している。竈には焚き口両脇の石が立てられており、上部は被熱している。竈部分と貯蔵穴部分のピットは住居より新しい。

遺物（第129～131図、ＰＬ－40）

竈脇の貯蔵穴底部から須恵器坏２点（18・21）が出土している。竈内からも土器片が出土したが、細片のため図示し得なかった。

79号土坑

遺構（第43・44図、ＰＬ－18）

89号土坑内で確認され、埋土中に焼土が多く含まれていた。しかし、土坑底面が焼けておらず、この場所で生成された焼土ではないと考えられた。長軸1.8m、短軸1.2mの小さい土坑である。

遺物（第129～131図、ＰＬ－40）

出土遺物は多く、須恵器甕（第131図37・38）や灰釉陶器碗（第129図３）や瓶（第130図31）などが出土している。中世遺物は認められず、平安時代の土坑であろう。

Ⅳ　調査成果のまとめ

調査成果について、本文との重複を避け、時代順に簡略に記してまとめとしたい。

1．古代

調査により、高崎城三の丸から烏川岸に至るまで集落が広がっていたことが確認できた。古代瓦小片は40点ほど出土したが、上野国分寺新段階の軒丸瓦のみ図示した。瓦は接合率が悪く分布の中心域から外れていると考えている。他には、越州窯系青磁、定・邢窯系白磁碗の出土が注目される。初期貿易陶磁は、国府・国分寺周辺域を中心に分布するが、通常の小規模集落からの出土[12]も確認されている。本遺跡の場合、瓦との関連が不明であり、今後の周辺域調査結果に期待したい。

2．中世

畠状遺構下の遺構群（和田城）

遺構の密集度や陶磁器の質や量、鮑の出土などから、通常の集落とは考えにくく、興禅寺絵図から考えても本遺跡が和田城であった可能性は高い。和田城は、その名のとおり「和田氏」の居城として応永から正長年間（15世紀前半）に築城されたと推定されている。しかし、調査地点において15世紀前半に遡る資料はなく、中頃以降になると少量の古瀬戸や中国磁器、内耳鍋形が認められるが、中心は16世紀代である。遺構の年代に関しては、埋土中層や上層からの出土遺物が主体を占めることから困難である。しかし、竪穴遺構や土坑と柱穴との重複関係では柱穴が新しい例が多く、竪穴遺構・土坑から掘立柱建物主体へと変化している状況が看取できる。また、底部付近から16世紀の遺物が出土している土坑も存在し、遺構の中心も16世紀代であった可能性が高い。終末に関しては、最新遺物が大窯３期後半と考えられる。従って、今回の調査では和田城が廃城したとされる天正18年（1590）頃の遺物は含まれていないが、上杉氏の度重なる攻撃を受け、武田信玄が鉄砲の準備を命じた永禄７年（1564）頃に関しては、円弾の出土や土器・陶磁器の年代から、本遺構面が該当することは間違いない。縄張りに関しては、同時期の堀が確認できず不明である。

その後の盛土造成は武田氏滅亡後（天正10年）か慶長３年の高崎城築城時に行われたことになる。しかし、後に旧表土が畠として利用されていた可能性が高いことや、盛土上に明確な遺構がないことを考え合わせると、後者の可能性が高いのではないだろうか。

堀

新知見は、高崎城絵図に描かれていない堀（３号堀）を確認したことである。３号堀はかつて和田城主郭を区画する堀と考えられていた２号堀の延長線上で発見され、高崎城本丸堀の東側にまで延びていた可能性が非常に高い。これに対し、かつて和田城主郭を区切るとされていた北側の２号堀と南側の４号堀は、埋土が高崎城本丸堀と同一であり、高崎城構築時に掘削若しくは掘り直された堀であると判断された。４号堀に関しては、調査範囲が狭いことや畠状遺構や最下層の中世柱穴が堀に壊されていることから、新たな掘削か掘り直しかは定かではない。和田城の縄張りに関しては、茂木渉氏[13]が酒井氏期の前橋城本丸と和田城の遺構とされていた部分の比較から、大永年間から天文年間の約30年間に基本の縄張りが完成したとの考えを示されている。この意見は、今回確認された遺物の中心が16世紀前半から後半であることとも関連して興味深い。この点からすると、４号堀は高崎城築城に際して拡張して掘り直されていたのかもしれない。

推測に推測を重ねることになるが、１区において４号堀先端が確認されず、高崎城本丸西側堀（1号堀）の括れ部が和田橋交差点付近で確認されており、従来想定されていた位置（第137図参照）に比して、４号堀先端が北に延びていないことと括れ部（かつて木橋が架かっていた）がかなり南側に位置してい

たことが判明した。また、３号堀が高崎城本丸堀の東にまで達していた可能性が高いことも解っている。これらの点を考慮し、改めて前橋城と高崎城の縄張り図を見ると、酒井期前橋城との共通点がいっそう増してきたように思われる。いずれにしても、和田城に関しては近接地の調査を待たなければ結論は出せない。

盛土（石列）

２区は「和田城櫓台址」として高崎市の史跡に指定されており、後世の削平や撹乱を免れてきた。そのため、１ｍにも及ぶ盛土が良好に保たれてきた。この盛土は当初予想していなかったが、盛土の存在により、４号堀に対する土塁が存在しない（残土処理）という疑問はなくなった。

盛土内には石列が存在し、ほぼ長方形の区画を成していた。この石列区画を単位に盛土が成されたことは断面観察からも伺える。また、部分的であるが、高崎泥流塊を石の代用として使用していることも確認された。石を積みながらの盛土法は、堤が知られている[14]が、堤ほど強固な石積みではなく、堤築造技法との関連は薄いと推定している。時代は異なるが、古墳のマウンド築造に際しても石列で区画する技法[15]が注目されており、現段階では盛土の一技法と考えておきたい。

３．江戸時代

江戸時代の確実な遺構は堀のみである。遺物も歩兵第十五連隊のゴミに混じって廃棄されたものが少量出土した程度である。しかし、幕末頃の三田青磁小片は最東端の遺物[16]として注目される。

４．近代

１号堀上層から出土した良好な近代遺物は、遺物説明中に触れた以外にも、生産者番号が記された磁器や防衛食容器がすべて２区から出土していることからも、明治末から歩兵第十五連隊が衛戍した昭和15年頃の一括資料と考えている。兵営生活を如実に物語る一括資料は、今後の近代考古学研究にとって意義深いものになるであろう。

註

（１）庄司太一「謎の売薬『神薬』硝子壜覚書（第一部）」『横浜骨董ワールドガイドブックVol.３』横浜骨董ワールド事務局　2003
　　庄司太一「謎の売薬『神薬』硝子壜覚書（第二部）」『横浜骨董ワールドガイドブックVol.５』横浜骨董ワールド事務局　2004
（２）概要は、西野嘉章編『プロパガンダ1904-45新聞紙新聞誌新聞史』東京大学コレクションXⅧ　東京大学総合研究博物館　2005による。詳細は東京大学総合研究博物館データベースにより確認できる。
（３）ＧＫ道具学研究所『暮らしの中のガラスびん－びんからのぞいた生活誌－』　東洋ガラス株式会社　1994
（４）『売薬製法全書』艸楽新聞社　1917
（５）早稲田大学図書館蔵、西垣文庫
（６）ヤマト100周年記念誌編集委員会編『心をこめて感謝します』ヤマト株式会社　平成12年　及びヤマト株式会社研究開発室長谷部邦夫氏の御教示による
（７）『ビール百科』ビール酒造組合　平成11年
（８）『大日本麥酒株式會社三十年史』大日本麥酒株式會社　1936
（９）『東北大学埋蔵文化財調査年報11』東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1999
（10）『齒磨の歴史』株式会社小林商店　1935
（11）谷津三雄『歯学史資料圖鑑－目で見る歯学史－』医歯薬出版株式会社　1976
（12）『栅島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡』『笂井中屋敷遺跡』共に（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1997
（13）茂木　渉「和田城の縄張りについて - 復元への試み - 」『高崎市　市史編さんだより』第20号　2000
（14）堤に関する文献は原真氏にご教示いただいた。
（15）右島和夫・土生田純之・曺　永鉉・吉井秀夫『古墳構築の復元的研究』　雄山閣　2003
（16）黒澤照弘「群馬県内の三田青磁」『研究紀要22』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2004
　　『三田焼に関する基礎調査・史料調査事業報告書』《本文編》、《図版・文献資料》三田市教育委員会　2004

参考文献

・秋本太郎「上野と周辺地域との関係－在地土器の分布論から探る－」『海なき国々のモノとヒトの動き』第１回内陸遺跡研究会シンポジウム資料集　内陸遺跡研究会　2005
・浅川範之「旧日本陸軍における飲食器使用」『メタ・アーケオロジー』第２号　メタ・アーケオロジー研究会　2000
・大谷広明監修『新歯ブラシ事典』学建書院　2001
・小野正敏「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』№２　1982
・小橋良太・関野邦夫　『ピストルと銃の図鑑』池田書店　1972
・小林謙一・渡辺貴子「物質文化研究としての近代考古学の課題」『東京考古20』東京考古談話会　2002
・山崎　一『群馬古城塁址の研究　下巻』群馬県文化振興事業団　1978
・第13回特別展図録『高崎藩の考古学－近世城郭、城下町を読み解く－』　かみつけの里博物館　2005
・『圖説梵字－悉曇參究－』　徳山暉純　木耳社　1974
・『新編高崎市史　資料編５近世Ⅰ』　高崎市　2002
・『新編高崎市史　通史編２中世』高崎市　2000
・『新編高崎市史　資料編３中世１』高崎市　1996
・特別企画展図録『大正二年のせともの屋』瀬戸市歴史民俗資料館　2002
・『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第５輯』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター　1997
・『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第10輯』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター　2002

表1　土坑・溝一覧表

番号	調査区	平面掲載図番号	断面掲載図番号	形状	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	重複	出土遺物
1	1	26	26	不整	2.48	1.4～2	30		
2	1	26	26	楕円	2.08	1.88	50		89図1～7
3	1	26	26	楕円	3.35	1.55	16		89図8～13
4	1	26	26	長方形	1.9	0.76～1	95		
5	1	27	27	隅丸長	2.45(+)	1.32	18		
6	1	27	27	楕円	5.19	1.27	37		
7	1	27	27	楕円	4.24	1.8～2	30		
8	1	27	27	不整形	1.48(+)	0.96(+)	7		
9	1	28	28	長方形	5.36	2.35	30		89図14～22・90図23～37・91図38～50
10	1	29	29	楕円	0.48	0.34	13		
11	1	29	29	不整円	0.6	0.45	10		
12	1	29	29	楕円	0.59	0.5	8		
13	1	29	29	不整形	3.48(+)	1.18～1	22		
14	1	29	29	楕円	1.34	0.78	4		
15	1	29	29	不整円	1.42	0.45～1	7		
16	欠番	なし							後に石列の一部であることが判明。
17	2								
18	2								
19	2								
20	2	なし	なし	方形					衛生食容器、愛知トマト瓶、インク瓶
21	2	34・37		不整形	2.73	0.5(+)	14		128図196
22	2	38	58	楕円	0.74	0.63	10		126図171
23	2	32	58	円	0.5		25		
24	2	38・50		不整形	3.3(+)	1.08(+)	71		108図27
25	2	37・38・50	50	不整形	2.85(+)	1.3～2	94		109図36～39・110図59・126図160・163・129図1
24・25	2								108図1・5・22・109図42～44・46・47・49・51・53・110図54・55・58・63・111図73・112図76・113図83・84・114図98・115図108・116図127・117図136・137・126図164・172・173・128図188・190・192・199
26	2	40		不整形	1.51(+)	1.06(+)	21		
27	2	38	58	不整円	0.98	0.75	39	37・38Pとの新旧不明	
28	2	38		隅丸方	0.78	0.62	25		112図78
29	2	38・39・40・41	58	隅丸方	3.95	3.5	40		
30	2	39	58	長方形	4.1	3.08	50		108図4・8・13・23・33・111図70・115図113・116図129・126図170・174・127図175・176・128図189・193・200・202・129図2
31	2	40	58	不整形	1.45(+)	0.51(+)	19	29土より古	
32	2	36・56	58	不整形	1.1(+)	0.5(+)	25	4溝より新	
33	2	39	58	長方形	1.95	0.5(+)	16	30土より古	
34	2	39		楕円？	0.79	0.49	8		
35	2	39	58	長方形	3.77	2.15	20		113図92
36	2	38・40		不整形	3.84(+)	2.08(+)	7		
37	2	32・33	58	楕円	0.98	0.85	16	80土との新旧不明	
38	2	39	58	不整円	0.91	0.8	28	35土より新	
39	2	33・36	58	不整円	0.92	0.75	14		
40	2	35	58	楕円	2.14	1.83	28		129図7
41	2	34	58	楕円	0.69	0.5	13		
42	2	31・34	58	隅丸長	1.42	1.0	23		109図45
43	2	31	58	方形	1.2	1.1	49		
44	2	38	59	不整形	2.88	2.1(+)	24		
45	2	38	59	隅丸長	3.5	2.14	33		108図10・11・26・112図77・114図102・105・127図177・130図30

番号	調査区	平面掲載図番号	断面掲載図番号	形状	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	重複	出土遺物
46	2								
47	2	31	59	不整円	0.93	0.65(+)	17		
48	2	38	59	隅丸方	1.19	1.11	39		
49	2	34・35・38	59	楕円	4.35	1.7	20		110図62
50	2	34	59	楕円	0.75	0.54	10		
51	2	34	59	不整形	2.14	1.45	24		108図24・109図40・130図33
52	2	34	59	不整形	0.75	0.6	18		
53	2	34		不整形	1.78(+)	0.55	27		
54	2	31		不整形	1.13	0.78(+)	34	225Pより古	
55	2	34	59	不整円	1.64	1.5	7	55土より新	
56	2	34		不整形	0.54(+)	0.52(+)	9		
57	2	34		不整形	1.35(+)	0.23(+)	53		
58	2	34	59	楕円	0.59(+)	0.5(+)	5		
59	2	34		不整円	0.78	0.5	22		129図13
60	2	34		隅丸方	0.65	0.43(+)	18		
61	2	34		不整形	1.1(+)	0.2(+)	21		
62	2	42・50	50	隅丸長	4.42	3.7	67	9溝・76土より新	108図6・7・9・17・25・30・32・114図103・104・115図109・115・116図135
63	2	48・51	51	不整形	3.3	1.8	32	64土と新旧不明瞭	111図74・113図85・90・114図101
64	2	48・51	51	楕円	3.82	1.3	38	63・65土と新旧不明瞭	108図31・111図75・113図88・114図106
65	2	48・51	51	楕円？	3.22	1.58	37	64土と新旧不明、7溝より新	109図50・114図99・116図128・118図139
66	2	48・52	52	長方形	1.6	1.2	28	69土より新	127図178
67	2	48・51	51	楕円？	2.82(+)	2.46	65	69土より新	113図82・114図100
68	2	47・48・52	52	不整形	3.0(+)	1.85(+)	29	69土と新旧不明	110図61・118図140・127図179
69	2	48・52	52	不整形	3.52(+)	3.25(+)	12	68土と新旧不明	114図96
70	2	46		不整形	3.3	0.8(+)	9		127図180
71	2	48・52	52	隅丸長	2.11	1.25	18	69土より新	
72	2	45・52	52	不整円	3.39	2.9	36	73土と新旧不明	108図15・19・116図116～123・131・133・120図146・128図203
73	2	45・52	52	不整円	2.17(+)	1.9(+)	31	72土と新旧不明	108図3・110図69・113図87・114図94・116図134・122図79
74	2	45・50	50	長方形	1.76	1.3	32		
75	2	45・50	50	不整形	－	－	－		
76	2	45・50	－	不整形	－	－	12	62・76土との新旧不明	
77	2	42		楕円？	3.57	1.3(+)	58	62土より古	130図32
78	2	54	59	不整形	0.9	0.7(+)	14	71土より古	
79	2	42	59	隅丸長	1.9	1.35(+)	25	89土より新	129図3・15・16・130図31・131図37・38
80	2	45	59	不整形	1.86(+)	0.6(+)	22	73土より古	
81	2	54		楕円	0.68	0.53	40	261Pより古	

番号	調査区	平面掲載図番号	断面掲載図番号	形状	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	重複	出土遺物
82	2	42・53	53	不整形	5.17	2.3(+)	85	83土より新	108図16・109図48・110図56・57・60・113図86・89・114図95・116図130・132・117図138・118図142・119図143・120図147・121図151・122図154・123図155・124図156・127図181・128図187・194・195・201・204・205・131図34
83	2	42・53	53	不整形	－	－	27	82土より古	
82・83	2								108図28・110図65・66・113図91・114図97・126図169
84	2	46		不整形	0.9	0.65(+)	18	72土より古	
85	2	41		不整形	0.76	0.58(+)	5	10溝より古	
86	2	41		不整形	－	－	16		
87	2	45	59	不整円	0.99	0.6	22	住居下灰遺構	
88	2	43・46		不整形	－	－	－		
89	2	41・42・43・44	59	不整形	6.8(+)	2.9(+)	55	7住より古？	129図19・130図23・131図36
90	2	41・42		楕円	1.65	1.4	24	10溝より古	
91	2	41	59	不整形	1.08(+)	0.76(+)	68		
92	2	41		隅丸長	0.79	0.63	9		
93	2	41		不整円	1.3	1.14(+)	8		
94	2	41		隅丸方	0.7(+)	0.68(+)	13		
95	2	41		楕円？	0.93(+)	0.79	13		

番号	調査区	平面掲載図番号	断面掲載図番号	形状	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	重複	出土遺物
1溝	2								
2	2								
3	2								
4	2								127図182
5	2	なし						近現代	盛土上
6	2								115図114
7	2							65土より古	115図107
8	2	53			5.7(+)	1.08～1.45		9溝より新	108図20・35・114図93・116図124・125・119図144・126図167・127図183・128図191・197
9	2							8溝より古	128図198・129図8・9・14・130図24
10	2							90土より新	
11	2								

表2　ピット一覧表

番号	調査区	柱痕平面図番号	断面掲載図番号	平面掲載図番号	重複	長径(軸)(cm)	短径(軸)(cm)	深さ(cm)	出土遺物
1	1								
2	1								
3	1								
4	1								
5	1								
6	1								
7	1		29	29		34	28	42	
8	1			29		50	37	24	
9	1								
10	1								
11	1								
12	1								
13	1								
14	1								
15	1		29			30	29	25	
16	1								
17	1		29	29		38	30	40	
18	1								
19	1								
20	1			29		50	36	40	
21	1			29		40	34	−	
22	1								
23	2								
24	2		60	34		30	28	41	
25	2		60	34		40	35	50	
26	2		60	34		30(+)	30	58	
27	2		60	34		35	30	26	
28	2		60	34・37		30	30	19	
29	2		60	37		41	37	35	
30	2		60	34		42	35	42	
31	2	55	60	34		27	25	66	
32	2		60	34		54	48	93	
33	2		60	34	33Pとの新旧不明	35	30	66	
34	2		60	34	34Pとの新旧不明	30	26	18	
35	2		60	34		27	27	24	
36	2		60	34		35	35	37	
37	2		60	38・40	27土より新	27	26	19	
38	2		60	38	27土より新	40	35	14	
39	2		60	38		45	41	28	
40	2			38		37	30	−	
41	2			40		52(+)	45	38	
42	2			40		57	45	43	
43	2			40		50	40	53	
44	2			40		36(+)	19	50	
45	2			38・40		30	17(+)	30	
46	2			38		30	25	30	
47	2		60	38		45(+)	42	49	
48	2			38		35	31	40	
49	2			40		37	30	17	
50	2		58	40	29土より新	30	20	27	
51	2		58	40	29土より新	40	35	45	
52	2		58	41	29土より新	41	35	48	
53	2		60	39	29土より新	35	31	59	
54	2		60	41		36	30	77	
55	2		60	40		55	50	37	
56	2			40・41		42	37	4	

番号	調査区	柱痕平面図番号	断面掲載図番号	平面掲載図番号	重複	長径(軸)(cm)	短径(軸)(cm)	深さ(cm)	出土遺物
57	2	56	60	39・41	29土より新	50	45	29	
58	2		60	41		35	30	38	
59	2	56	60	39	30土より新	45	40	27	
60	2	56	60	39		57	51	72	
61	2	56	60	39		47	40	23	
62	2	56	60	39		59	54	27	
63	2			38		27	22	18	
64	2		60	39		42	40	33	
65	2	56	60	39		67	60	34	
66	2	56		39		—	—	25	
67	2	56	60	39		60	58	25	110図68
68	2		60	41	69Pより古	55	37	40	
69	2		60	41	68Pより新	40	25	39	
70	2	56	58	39	35土より新	47	40	61	
71	2	56	60	39		68	56	82	125図157
72	2	56	60	39		61	54	25	
73	2	56	60	36		68	52	96	
74	2	56	60	39		45	44	26	
75	2			38		40	30	8	
76	2			40		35	27(+)	34	
77	2		60	39		47	45	30	
78	2			41		25	20	21	
79	2		60	39		45	37	41	
80	2		58	33	37土との新旧不明	30	27	26	
81	2	56		39		45	45	25	
82	2	56	60	36		55	46	72	
83	2		60	33		42	37	30	
84	2	55	60	38		42	32	60	109図41・52・132図4
85	2		60	33		55	45	63	
86	2	56	60	39		57	50	73	115図12・127図184
87	2	56		33		57	50	25	
88	2	56	60	32	91Pより古	70	35(+)	40	
89	2		60	39		48	40	54	108図18・115図111
90	2		60	39		43	40(+)	36	
91	2		60	32	88Pより新	35	26(+)	37	
92	2			36		36	32	33	
93	2	56	60	32		52	48	57	127図185
94	2	56	60	32・33・35・36		52	51	37	
95	2	56	60	32		38	36	68	
96	2	56	60	35		46	36	45	
97	2	56	60	35		45	35	45	
98	2	56	60	35・36		47	46	45	
99	2	56	60	35		45	39	28	
100	2	56	60	33	2溝より新	36	26	37	
101	2		60	33	2溝より新	65	55	29	
102	2	56	60	36		60	55	38	
103	2		60	36		20	18	22	
104	2	56	60	36		41	28	25	
105	2	56	60	36・39		55	41	52	
106	2	56	60	32		38	35	41	
107	2	56	60	35		30	28	27	
108	2		60	36		55	35(+)	37	
109	2		60	36		50(+)	35	20	
110	2	56	60	36		55	45	88	
111	2	56	60	32		45	30	67	
112	2	56	60	33		35	25	27	
113	2			33		35	25	19	

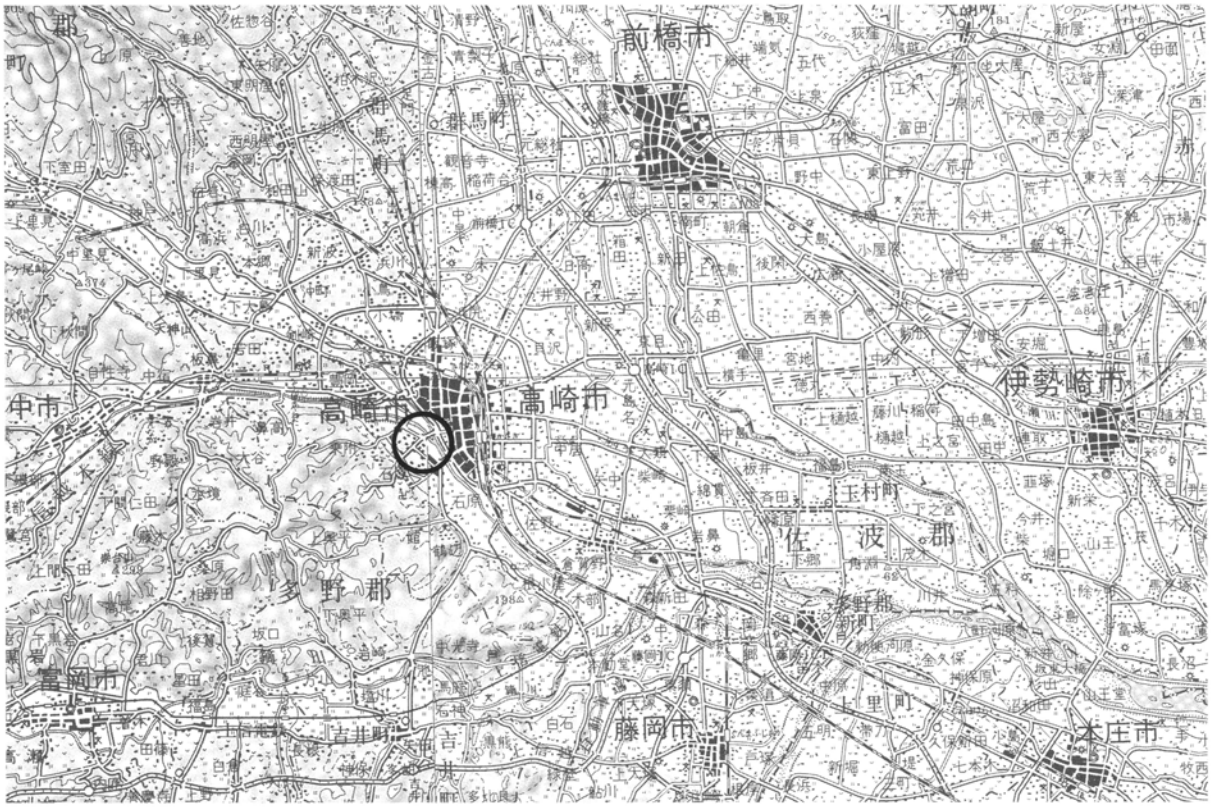
番号	調査区	柱痕平面図番号	断面掲載図番号	平面掲載図番号	重複	長径(軸)(cm)	短径(軸)(cm)	深さ(cm)	出土遺物
114	2		60	33		45	37	20	
115	2		60	36	3住より新	38	29	34	
116	2	56	60	33		60	55	43	
117	2	56	60	36		100	65	73	
118	2	56	61	36		40	35	74	
119	2	56	61	36		57	47	60	
120	2	56	61	35		28	25	28	
121	2	56	61	35		40	40	30	
122	2	56	61	36		55	42	56	
123	2	56	61	36		43	30	27	
124	2		61	35		35	32	31	
125	2	56	61	36		40	37	56	
126	2	56	61	36		35	30	25	
127	2	56	61	35・38		54	45	73	
128	2	56	61	36		78	55	92	
129	2	56	61	36		55(+)	50	87	
130	2	56	61	36		50	45(+)	37	
131	2	56	61	32		35	27	49	
132	2	56	61	35		59	52	50	
133	2	56	61	36	134Pより新	42	40(+)	47	
134	2	56	61	36	133Pより古	40	35	26	
135	2	56	61	35	135P	62	45	24	
136	2	56	61	35	136P	40	40	53	
137	2	56	61	36		50	45	40	
138	2	56	61	35		26	22	22	
139	2	56	61	−		−	−	82	
140	2	56	61	33		45	36	51	
141	2	56	61	35	169Pより新	50	40	55	
142	2	56	61	36	143Pより古	42	37	35	
143	2	56	61	36	142Pより新	42	37(+)	25	
144	2		61	36		36	30	5	
145	2	56	61	36		55	43	27	
146	2		61	39		25	24	15	
147	2	56	61	39		32	25	20	
148	2	56	61	39	新旧確認	47(+)	40	87	
149	2	56	61	39	新旧確認	50	47(+)	49	
150	2			36・39		30(+)	10(+)	35	
151	2	56	61	36	152Pより古	45	26(+)	42	
152	2	56	61	36	151Pより新	55	50	68	
153	2	56	61	36		50	36	25	
154	2	56	61	36		75	50	55	
155	2		61	38	182Pとの新旧不明	45(+)	45	64	
156	2		61	36		15	12	15	
157	2	56	61	36		55	35	64	
158	2	56	61	36		43	36	79	
159	2			36		20	15(+)	14	
160	2	56	61	36	161Pより古	43	35	20	
161	2		61	36	160Pより新	45	40	30	
162	2	56	61	38・39	163Pより新	50	40	65	108図29
163	2		61	38	162Pより古	58	38(+)	32	
164	2	56	61	38		40(+)	40	55	
165	2	56	61	38		50	45	43	
166	2	56	61	−		−	−	45	
167	2	56	61	−		−	−	20	
168	2	56	61	−		−	−	22	
169	2	56	61	35	141Pより古	52	30	49	
170	2	56	61	38	171Pより新	50	45	78	
171	2		61	38	170Pより古	55	37(+)	35	
172	2	56	61	38	173Pより新	30(+)	30	30	111図71

番号	調査区	柱痕平面図番号	断面掲載図番号	平面掲載図番号	重複	長径(軸)(cm)	短径(軸)(cm)	深さ(cm)	出土遺物
173	2		61	38	172Pより古	55	45	37	
174	2		61	−		−	−	25	108図2
175	2		61	38		30	29	36	
176	2		61	38		45	38	42	
177	2		64	33		68	52	62	
178	2	56	61	35		50	37	62	
179	2	56	61	35		31	31	33	
180	2	55	61	31		42	36	45	
181	2	56	61	35・38		35	32	41	
182	2	56	61	38	155Pとの新旧不明	45	40(+)	41	
183	2	56	61	38・39	184Pより新	50	45	53	
184	2	56	61	38・39	183Pより古	45	37	60	
185	2	56	61	38	195Pより古	35	26	34	
186	2	56	61	35	187Pより古	50	40	40	
187	2	56	61	35	186Pより新	41	35	60	
188	2		61	35		30	25	12	
189	2	56	61	38		40	35	68	
190	2			34		45	42	47	
191	2	56	61	38		80	40	60	
192	2	56	61	38		40(+)	32(+)	45	
193	2	56	61	38		40	32	20	
194	2	56	61	38		48	45	32	
195	2	56	61	38	185Pより新	35	30	36	
196	2	55	61	38	206Pとの新旧不明	65	50	35	
197	2			38		45	32	−	
198	2	56	61	38		68	32(+)	18	
199	2	55	61	38		31	30	18	
200	2	55	61	38		30	30	32	127図186
201	2		61	38		45	42	20	
202	2	55	61	38		30	25	37	
203	2		61	38		42	32	50	
204	2	56	61	35		27	25	16	
205	2		61	35		80	30	20	
206	2		61	38	196Pとの新旧不明	42(+)	32(+)	38	
207	2		61	−		−	−	60	
208	2		61	38		60	50	10	
209	2		62	38		47	40	40	
210	2		62	38		42	36	26	
211	2		62	38		25	24	16	
212	2		62	34		23	12	7	
213	2	55	62	34		36	20(+)	31	
214	2	55		34		52	40	34	
215	2	55	62	34		75	55	26	
216	2	55	62	34		27	27	54	
217	2		62	34		35	30	20	
218	2		62	35		32	30	18	
219	2	55	62	34		36	25	47	
220	2		62	37		27	15(+)	42	
221	2	55	62	37		55	45	32	
222	2		62	35		40	30	48	
223	2		62	32		45	43	65	
224	2		62	34		31	27	30	
225	2	55	62	31	54土より新	28	21(+)	40	
226	2	55	62	34		40	30	40	
227	2	55	62	34		55	35	55	
228	2		62	34		50(+)	38	25	110図67
229	2	55	62	34		46	41	78	
230	2	55	62	34	55土より新	35	34	26	
231	2	55	62	31・34		36	26	54	

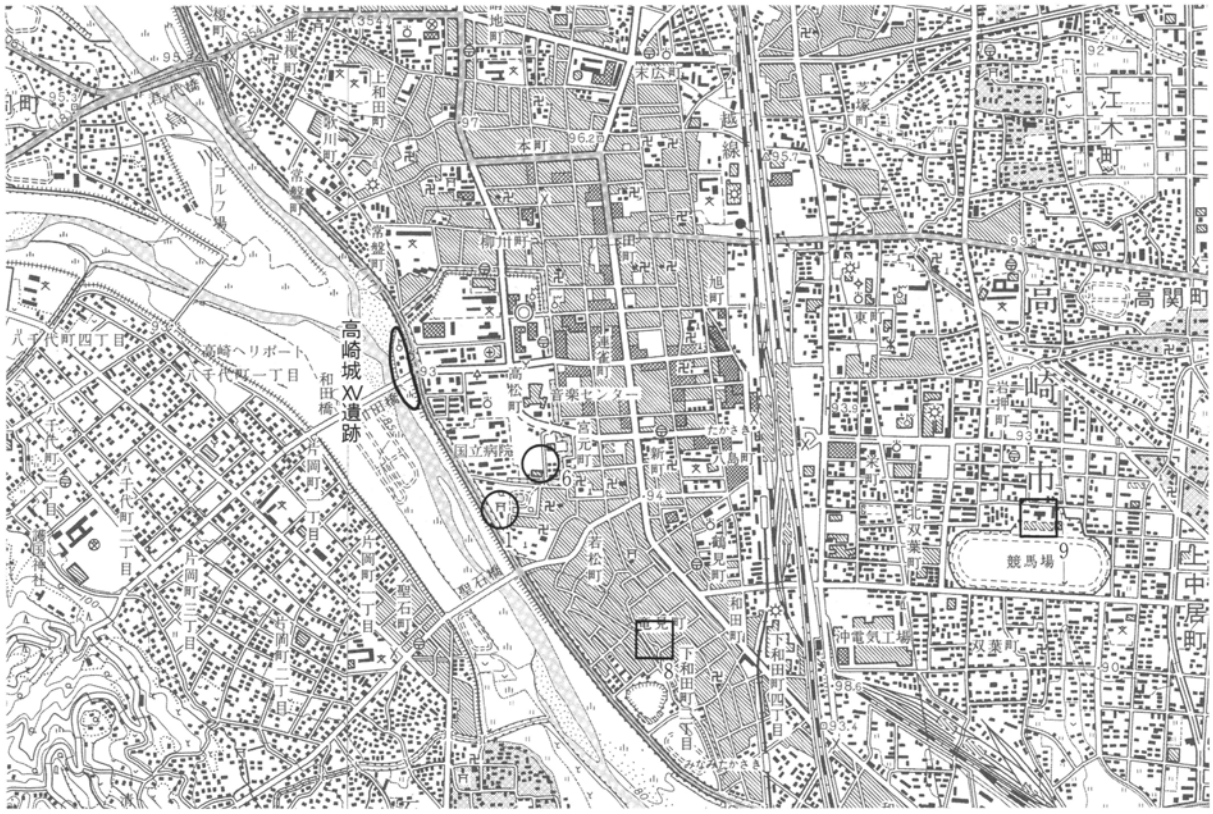
番号	調査区	柱痕平面図番号	断面掲載図番号	平面掲載図番号	重複	長径(軸)(cm)	短径(軸)(cm)	深さ(cm)	出土遺物
233	2		62	34		35	23	8	
234	2		62	34		33	31	8	
236	2	55	62	34		37	31	5	
237	2	55	62	34		44	31	0	
238	2	55	62	34		30	24	3	
239	2		62	34		45	25	3	
240	2	55	62	34		48	45	5	
241	2	55	62	34		37	30	5	
242	2		62	34		30	30	3	
243	2		62	34		25	24	9	
244	2	55	62	34	245Pより古	32	25	7	
245	2	55	62	34	244Pより新	20	15(+)	6	
246	2		62	34		30	26	9	
247	2			34		34(+)	20(+)	3	
248	2	57	62	48		52	51	4	
249	2		62	48		56	46	9	
250	2	57	62	48		45	39	3	
251	2		62	48		42	35	0	
252	2		62	48		44	35	0	
253	2	57	62	48		29	25(+)	0	
254	2	57	62	48		38(+)	30	8	
255	2		62	48		30	23	2	
256	2		62	48		28	16	0	
257	2		62	48		25	19	5	
258	2	57	62	48・52		30	25	4	
259	2		62	45・46・52		64	45	9	
260	2	57	62	45・50		54	48	7	
261	2	57	62	46		32	31	6	
262	2	57	62	—	81土より新	55	—	3	
263	2		62	46・48・52	71土より古	37	31	7	
264	2		62	46・54		25	25	3	
265	2		62	46		34	30	5	
266	2		62	48		31	27	0	
267	2		62	48		24	22	4	
268	2		62	48		31	28	0	
269	2		62	48・52		40	34	4	
270	2		62	—		30	—	2	
272	2		62	54		80	50	2	
273	2		62	48		25	24	2	
274	2	57	62	54		39	36	4	
275	2	57	62	45・50		70	59	4	
276	2		62	45・50		20	17	0	
277	2		62	45・50		27	24	5	
278	2		62	48		25	24	8	
279	2	57	62	41・52	11溝より新	45	40	5	
280	2	57	62	41	新旧不明	45	40	0	
281	2		62	41	新旧不明	37(+)	35	0	
282	2		62	41	11溝より新	42	30	2	
283	2		62	54		58	40(+)	8	
284	2	57	62	46・54		60	53	9	
285	2		62	46		28	23	0	
286	2		62	46・54		20	20	5	
287	2		62	46・54		37	26	1	
288	2		62	46・54		45	36	4	
289	2		62	—		—	—	2	
290	2		62	48・52		22	22	0	
291	2		62	48		32	30	7	
292	2		62	42・54	62土より古	47	38	2	
293	2		62	42	62土より古	53	40	5	

番号	調査区	柱痕平面図番号	断面掲載図番号	平面掲載図番号	重複	長径(軸)(cm)	短径(軸)(cm)	深さ(cm)	出土遺物
294	2	57	62	45		35	25	1	
295	2	57	62	46・54	5住より新	65	43	0	
296	2		59	54	5住より新	24	22	9	
297	2		62	46・54	71土より古	28	26	5	
298	2		62	54	5住より新	42	38	3	
299	2		63	54	5住より新	28	26	2	
300	2		63	46・54	5住より新	41	35	5	
301	2		63	54	5住より新	27	22	8	
302	2		63	—		—	—	8	
303	2	57	63	45	304Pより古	40(+)	30	2	
304	2		63	45	303Pより新	40(+)	27(+)	0	
305	2		63	42		52	40	7	
306	2	57	63	45		43	30(+)	9	
307	2		63	45		55	50	0	
308	2		63	41・54	8住より新	52	50	1	
309	2	57	63	42・43		52(+)	40(+)	6	
310	2		63	46		37	32	3	
311	2		63	45		27	24	2	
312	2		63	45		25(+)	25	6	
313	2	57	63	43		63	60	9	
314	2	57	63	43		50	40	8	
315	2			42		42	35	6	
316	2	57	63	54		40	32	9	
317	2	57	63	43・54		70(+)	46	8	
318	2			42		75	55	9	
319	2	57	63	42		53	48	7	
320	2	57	63	41	90土より新	52	50	6	
321	2	57	63	41		53	47	0	
322	2	56	63	41	343Pより新	50	43	2	
323	2	57	63	41		60	50	6	
324	2		63	42・53		43	35	6	
325	2	57	63	46		45	38	5	
326	2	57	63	46		60	54	2	
327	2		63	45		45	35	0	
328	2		63	43	329Pより新	42	31	5	
329	2		63	43	328Pより古	23	20(+)	8	
330	2		63	43		30	23	0	
331	2		63	42	89土との新旧不明	35	31	1	
332	2	57	63	42		57	52	7	
333	2	57	63	42		35(+)	20(+)	1	
334	2	57	63	41		72	60	7	
336	2		63	46		25	22	5	
337	2		63	43		30	27	5	
338	2			43		42	25(+)	1	
339	2		63	43		42(+)	15(+)	7	
340	2		63	43		35	28	5	
341	2		63	41		55	54(+)	2	
342	2		63	41		58	55	4	
343	2	56	63	41	322Pより古	31	22(+)	6	
344	2	56	63	41		50	42	4	
345	2	57	63	41		51	43	2	
346	2	57	63	44		50	43	7	
347	2		63	41		50	39	4	
348	2		63	41		31	24	5	
349	2		63	41		43	32	2	
350	2	56	63	41		45	30	5	
351	2		63	41		52	45	0	
352	2	56	63	41	94土より新	38	32	7	
353	2	56	63	41	93土より新	38	36	6	

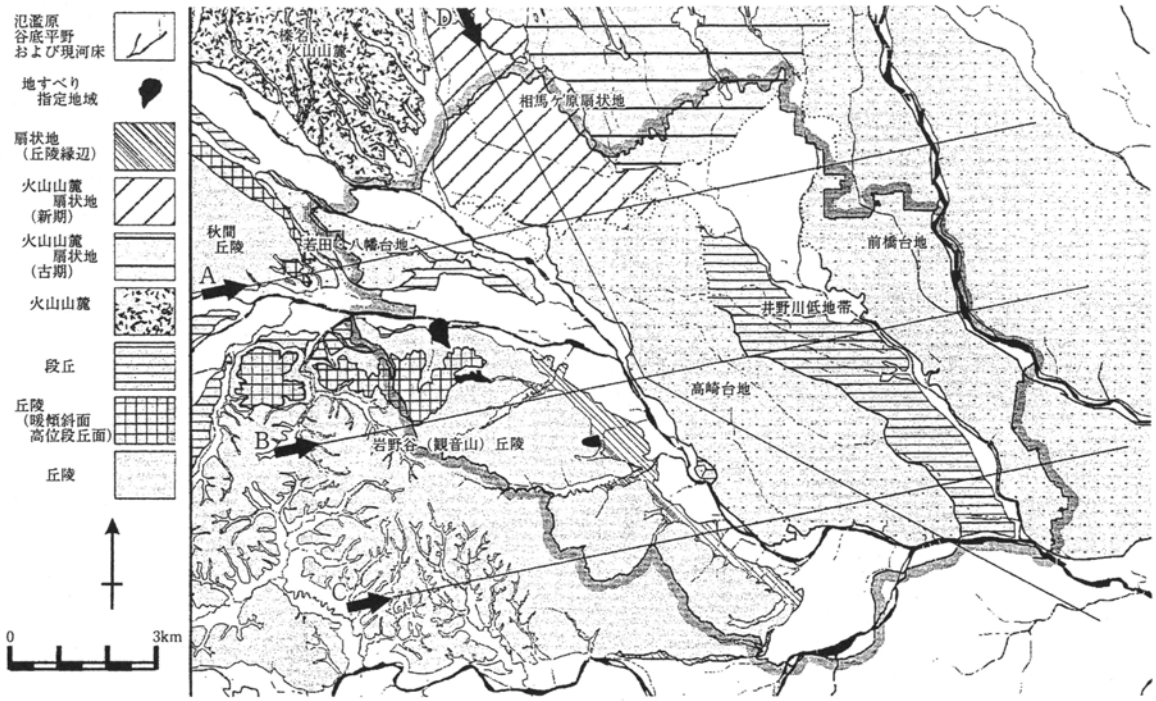
番号	調査区	柱痕平面図番号	断面掲載図番号	平面掲載図番号	重複	長径(軸)(cm)	短径(軸)(cm)	深さ(cm)	出土遺物
354	2		63	41		81	80	0	
355	2	56	63	41		39	33	4	
356	2	56	63	41		40	36	8	
357	2	57	63	45	8溝より古	48	31(+)	5	
358	2	56	63	41		39	36	7	
359	2	57	63	41	93土より新	47	47	0	
360	2	57	63	41		32	30	0	
361	2	57	63	－		－	－	5	
362	2	57	63	41・42	82土より古	40	33	3	
363	2	57	63	45	8溝より古	89(+)	55(+)	5	
364	2		63	41		30	21	1	
365	2			41	新旧不明	22	20(+)	5	
366	2			41	新旧不明	41	35(+)	5	
367	2		63	41		36	27	5	
368	2		63	41		30	26	0	
369	2		63	41		43	38	3	
370	2		63	41		30	27	5	
371	2		63	42・45		52	41	0	
372	2		63	42	83土より古	30	26	0	
373	2		63	41		47	35	3	



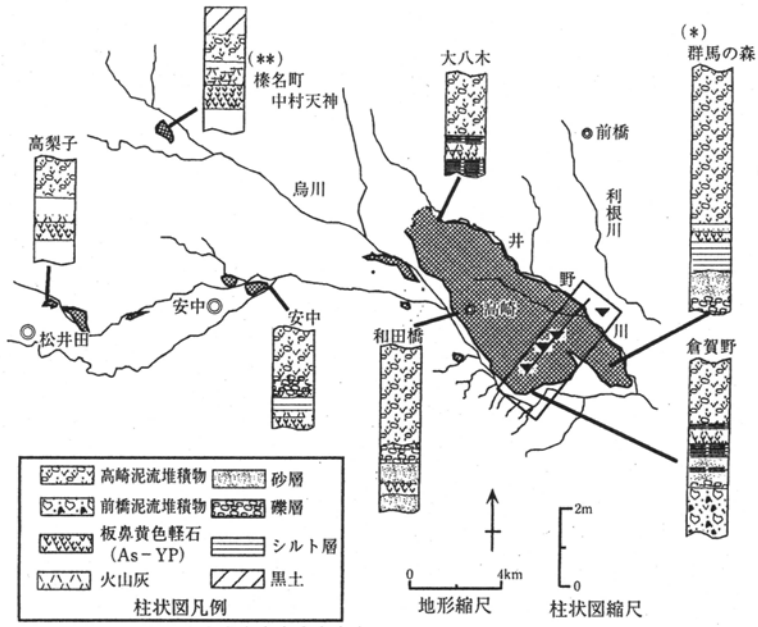
第１図　遺跡位置図　（国土地理院発行20万分の１地勢図「宇都宮」を使用）



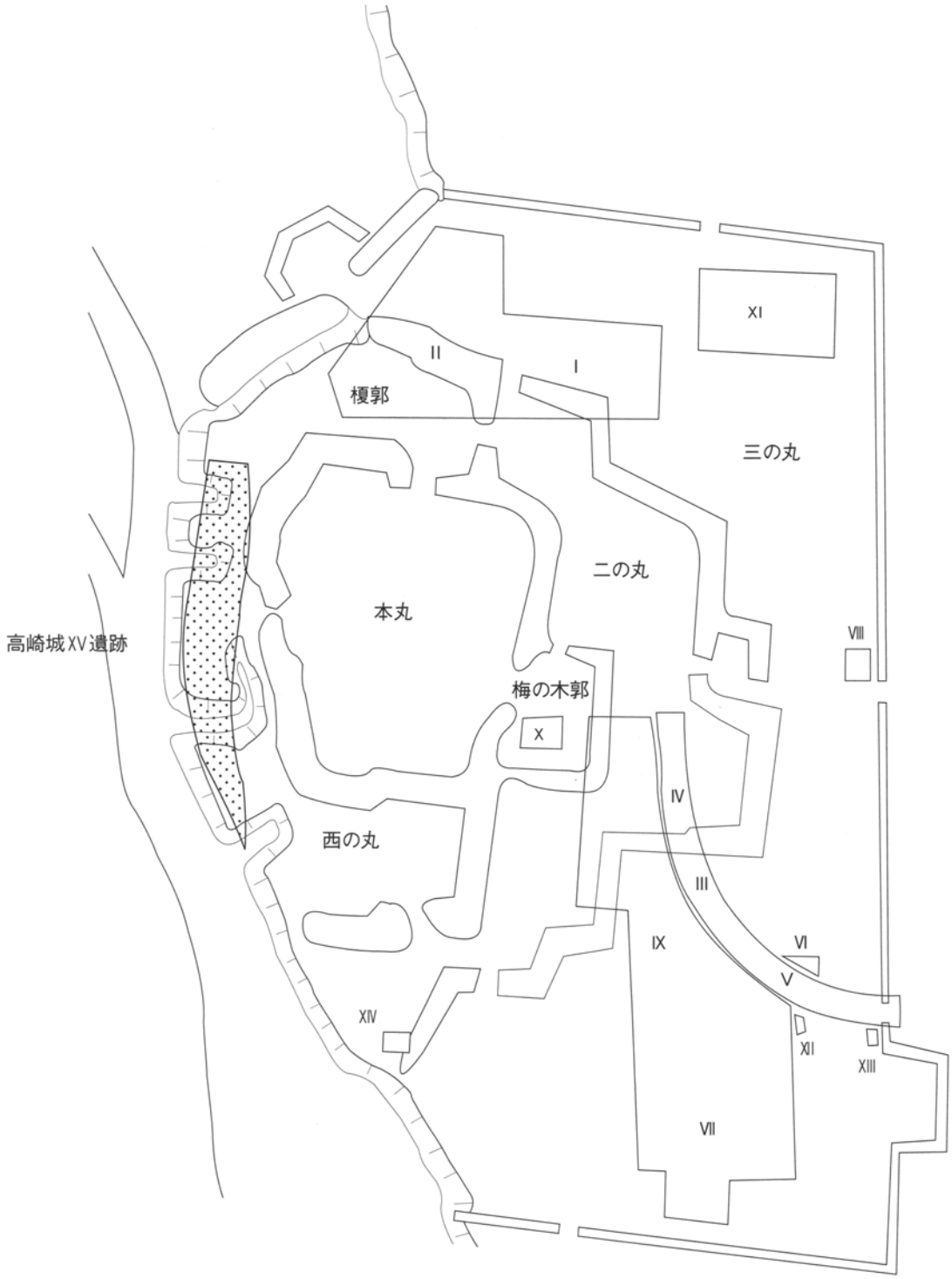
第２図　周辺の遺跡　（国土地理院発行2.5万分の１地形図「高崎」「富岡」を使用）
○古墳時代　□弥生時代



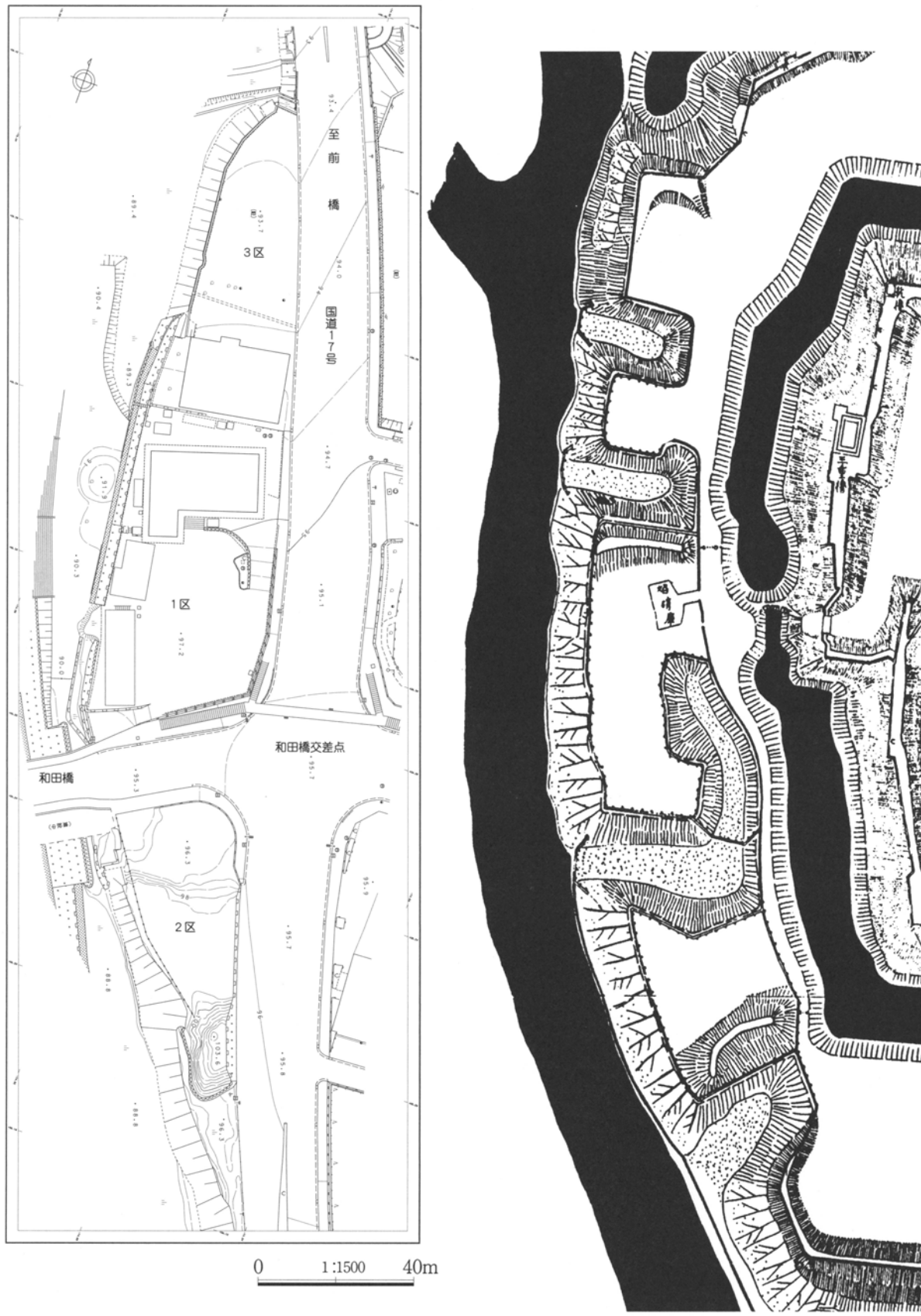
第３図　高崎市域と地形区分図　（『新編　高崎市史　通史編１　原始古代』より）



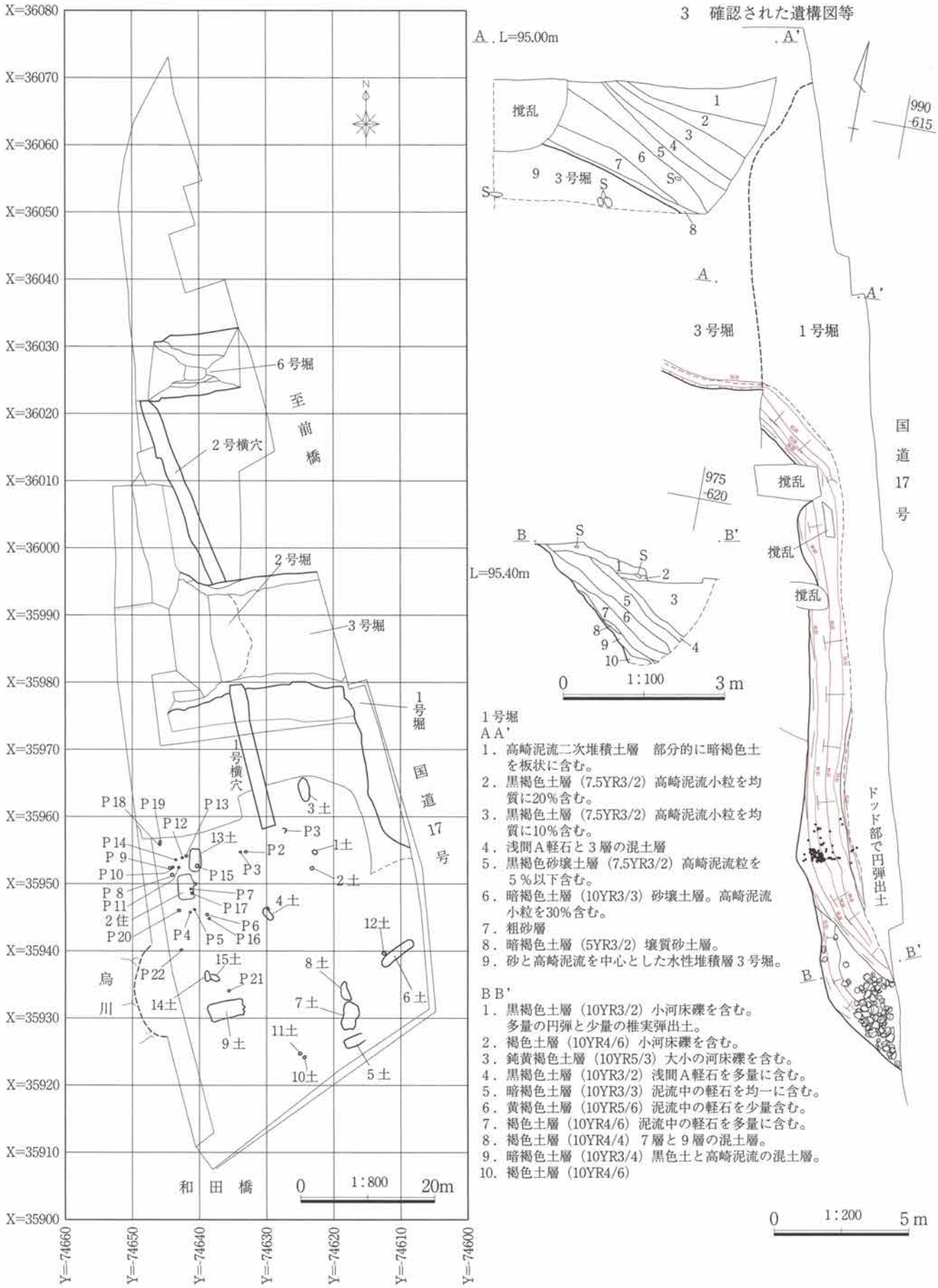
第４図　高崎泥流分布範囲　（『新編　高崎市史　通史編１　原始古代』より）



第５図　高崎城遺跡調査地点位置図



第６図　調査前現況図、高崎城縄張り図（部分）



1号堀

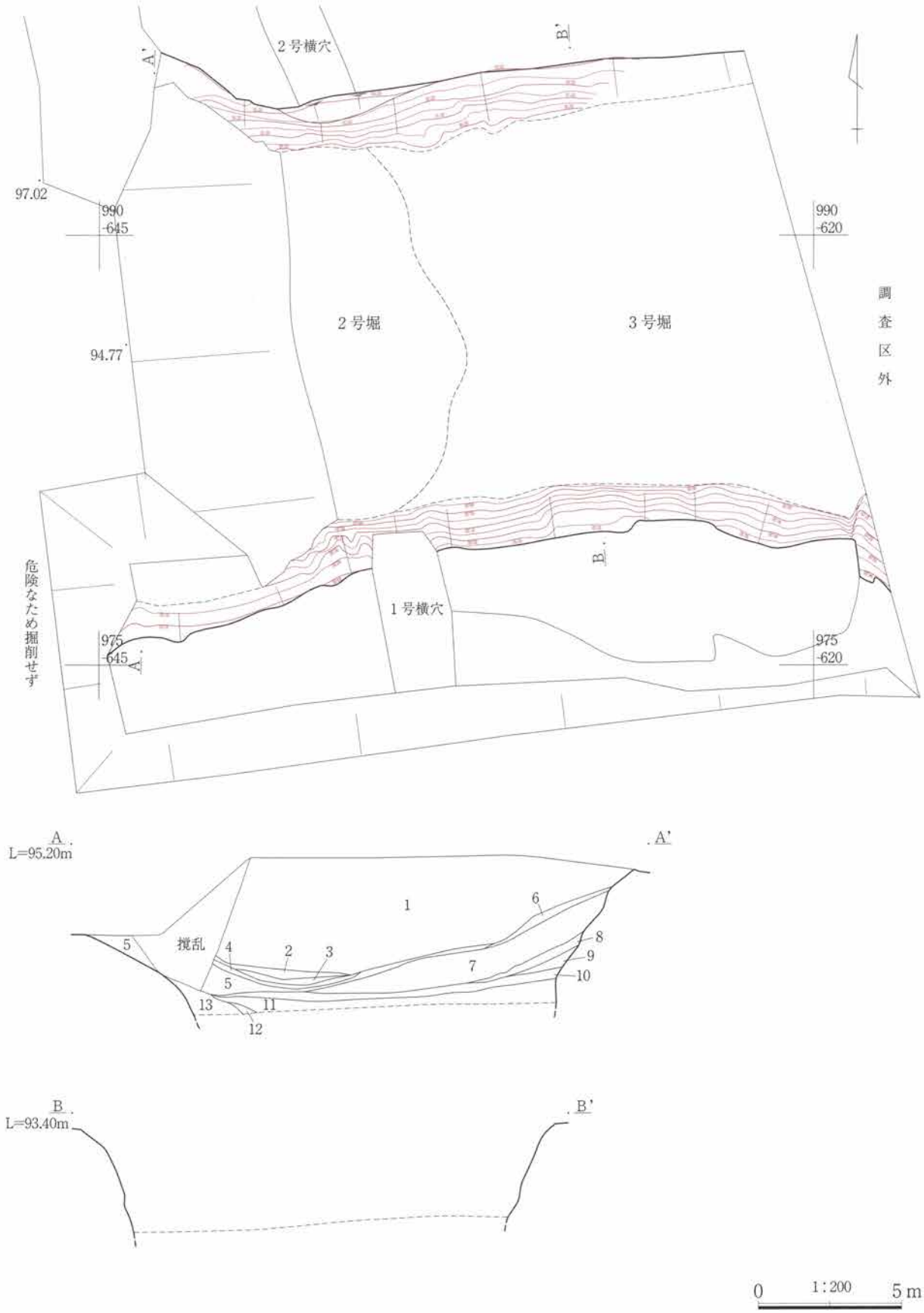
AA'

1．高崎泥流二次堆積土層　部分的に暗褐色土を板状に含む。
2．黒褐色土層（7.5YR3/2）高崎泥流小粒を均質に20％含む。
3．黒褐色土層（7.5YR3/2）高崎泥流小粒を均質に10％含む。
4．浅間A軽石と3層の混土層
5．黒褐色砂壌土層（7.5YR3/2）高崎泥流粒を5％以下含む。
6．暗褐色土層（10YR3/3）砂壌土層。高崎泥流小粒を30％含む。
7．粗砂層
8．暗褐色土層（5YR3/2）壌質砂土層。
9．砂と高崎泥流を中心とした水性堆積層3号堀。

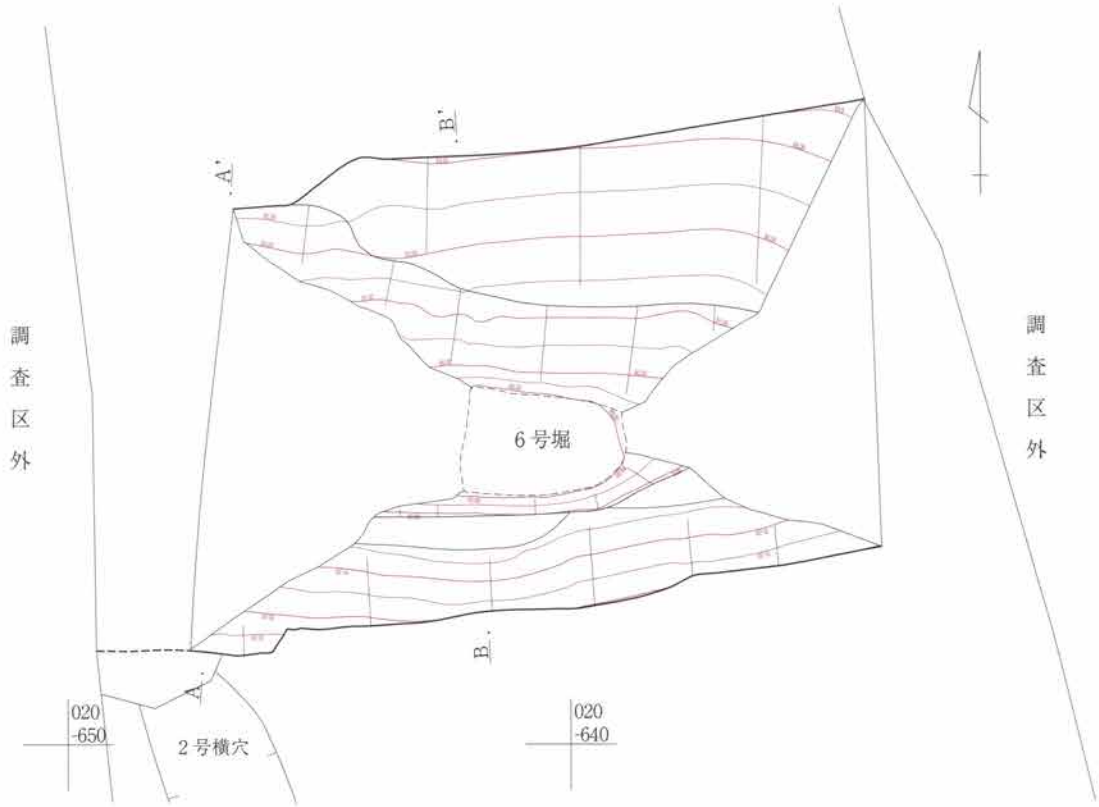
BB'

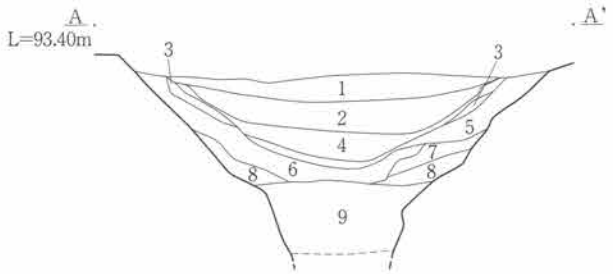
1．黒褐色土層（10YR3/2）小河床礫を含む。多量の円弾と少量の椎実弾出土。
2．褐色土層（10YR4/6）小河床礫を含む。
3．鈍黄褐色土層（10YR5/3）大小の河床礫を含む。
4．黒褐色土層（10YR3/2）浅間A軽石を多量に含む。
5．暗褐色土層（10YR3/3）泥流中の軽石を均一に含む。
6．黄褐色土層（10YR5/6）泥流中の軽石を少量含む。
7．褐色土層（10YR4/6）泥流中の軽石を多量に含む。
8．褐色土層（10YR4/4）7層と9層の混土層。
9．暗褐色土層（10YR3/4）黒色土と高崎泥流の混土層。
10．褐色土層（10YR4/6）

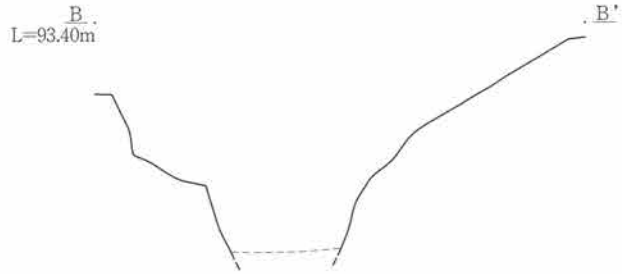
第7図　1区・3区全体図、1号堀平面、断面図


2号横穴
A'
B'
97.02
990
-645
990
-620
2号堀
3号堀
調査区外
94.77
危険なため掘削せず
1号横穴
975
-645
975
-620
A
L=95.20m
A'
1
6
5
撹乱
4
2
3
7
8
9
10
5
13
11
12
B
L=93.40m
B'
0
1:200
5m

第8図　2号堀・3号堀

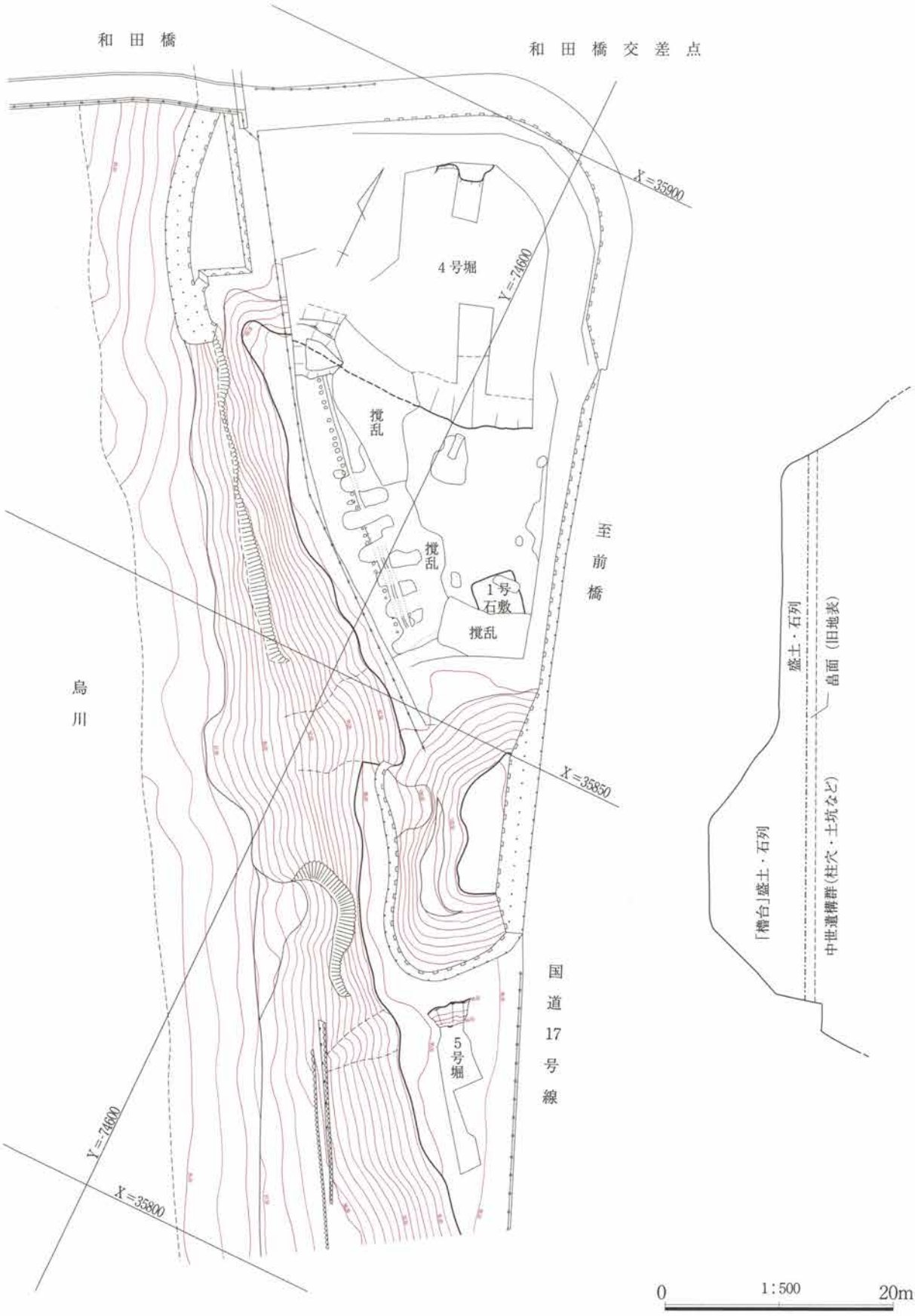




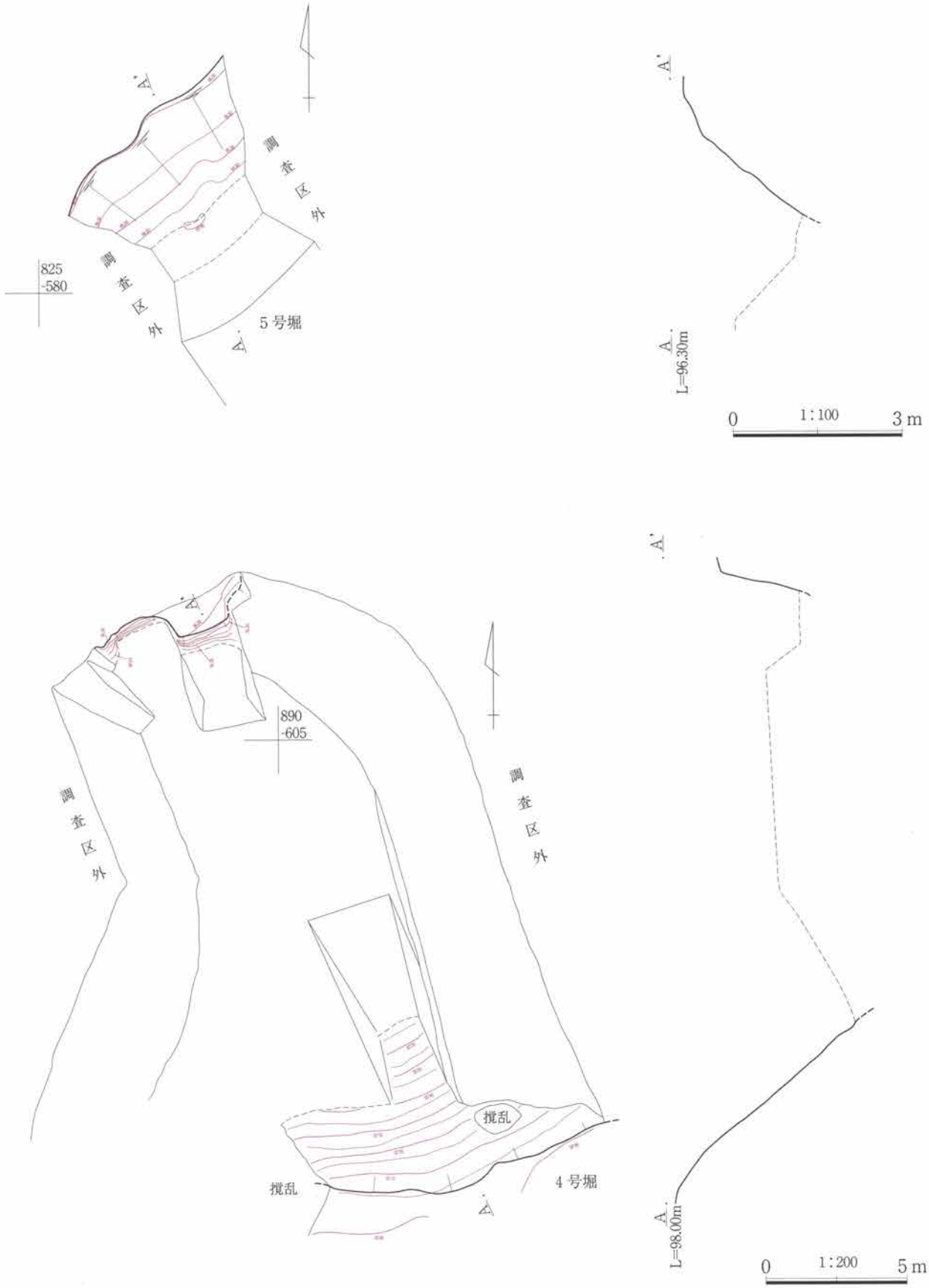


0　1:150　5m

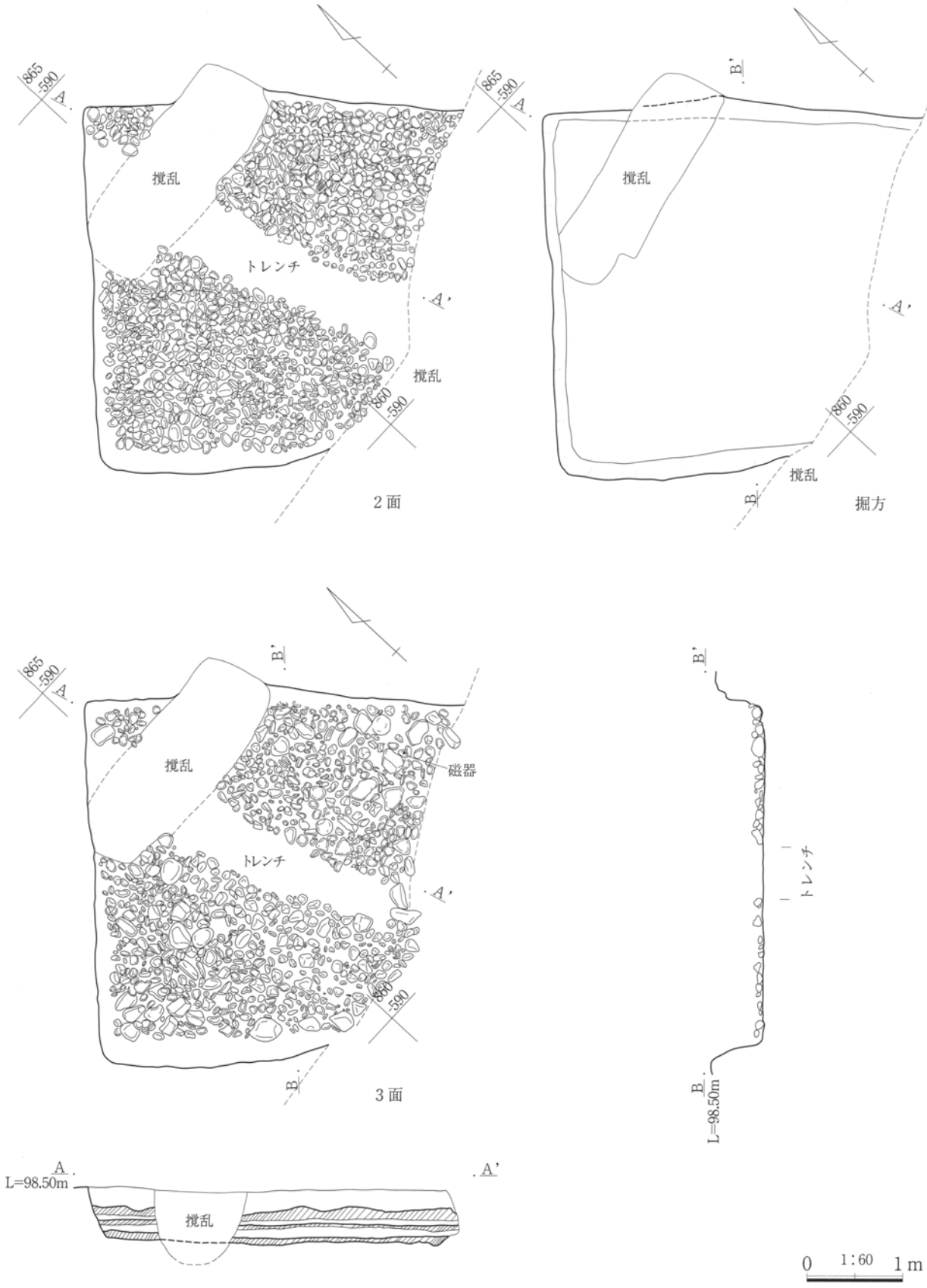
第9図　6号堀



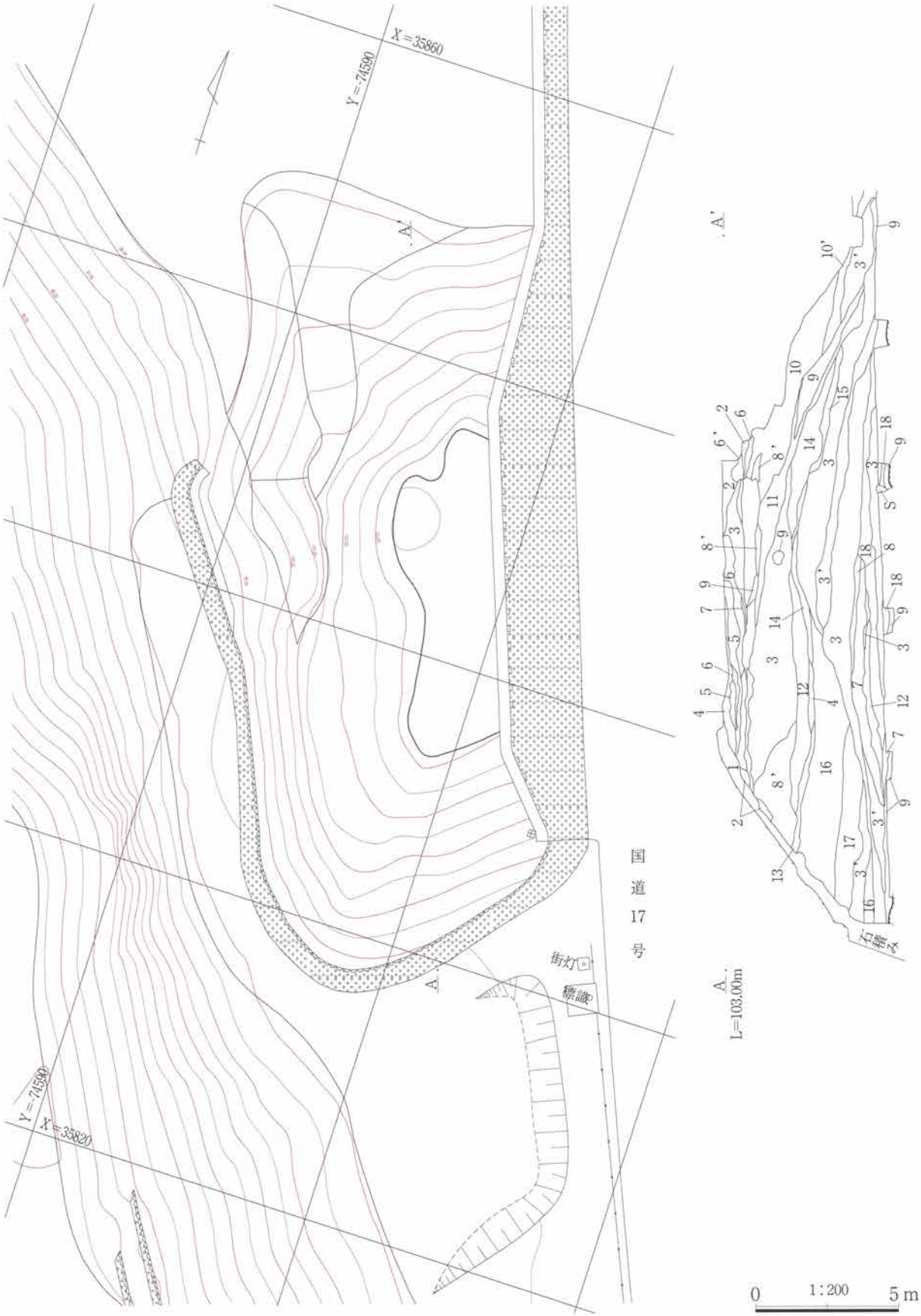
第10図　2区盛土上全体図、断面模式図


A'
調査区外
825
-580
調査区外
A
5号堀
A'
A
L=96.30m
0
1:100
3m
A'
890
-605
調査区外
調査区外
撹乱
撹乱
4号堀
A
A'
A
L=98.00m
0
1:200
5m

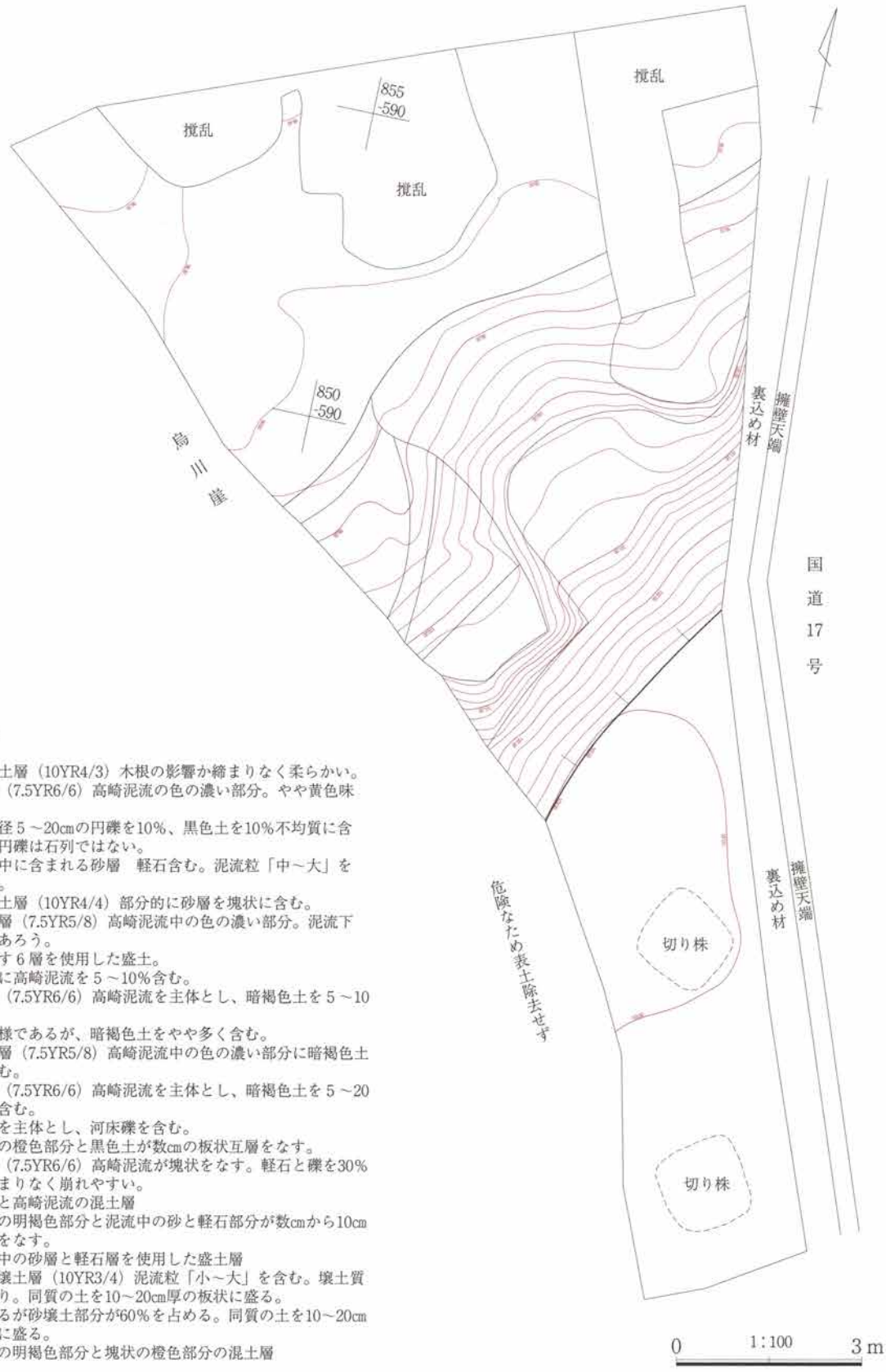
第11図　4号堀・5号堀



第12図　1号石敷遺構

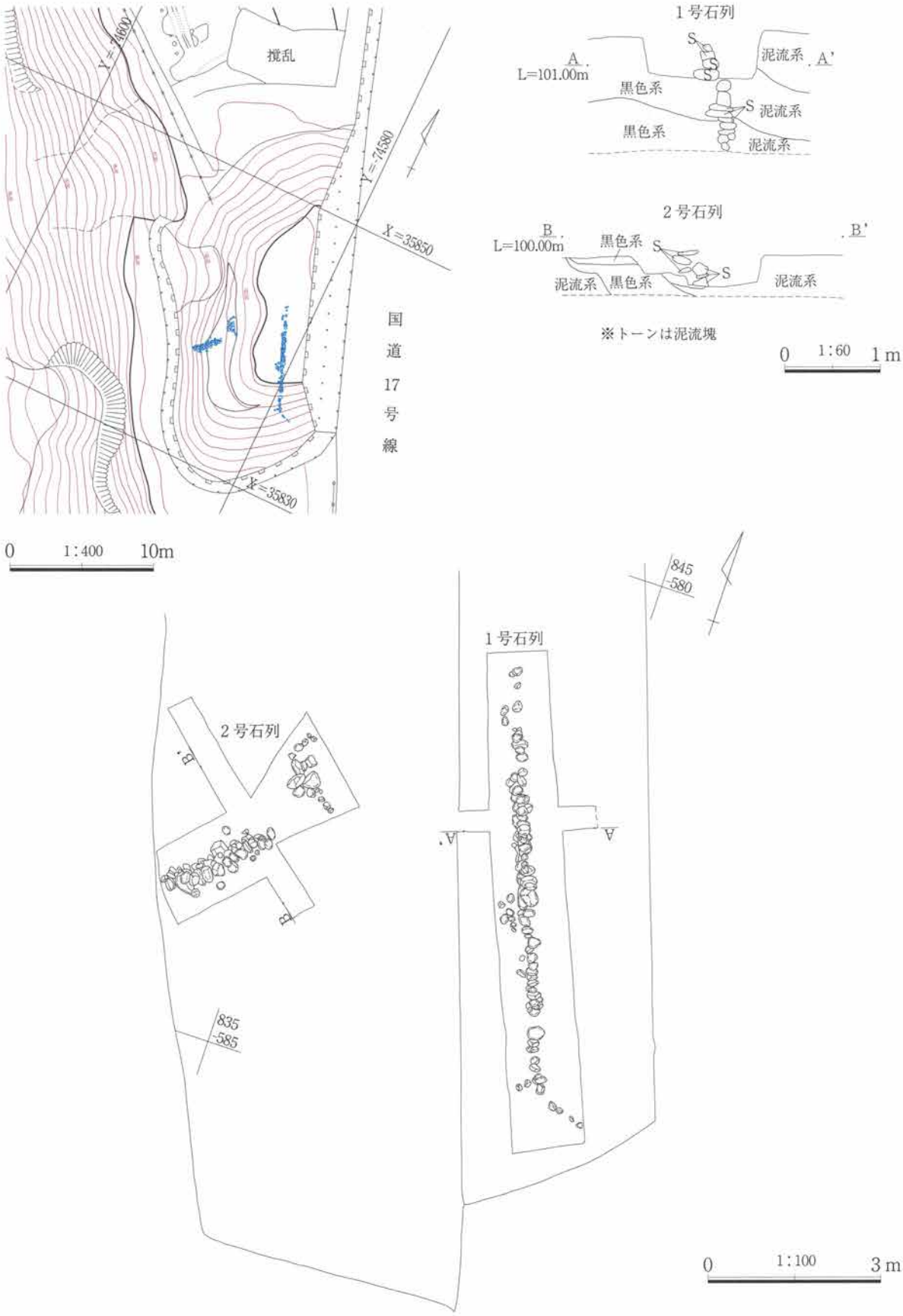


第13図　『和田城櫓台跡』現況図、土層断面図



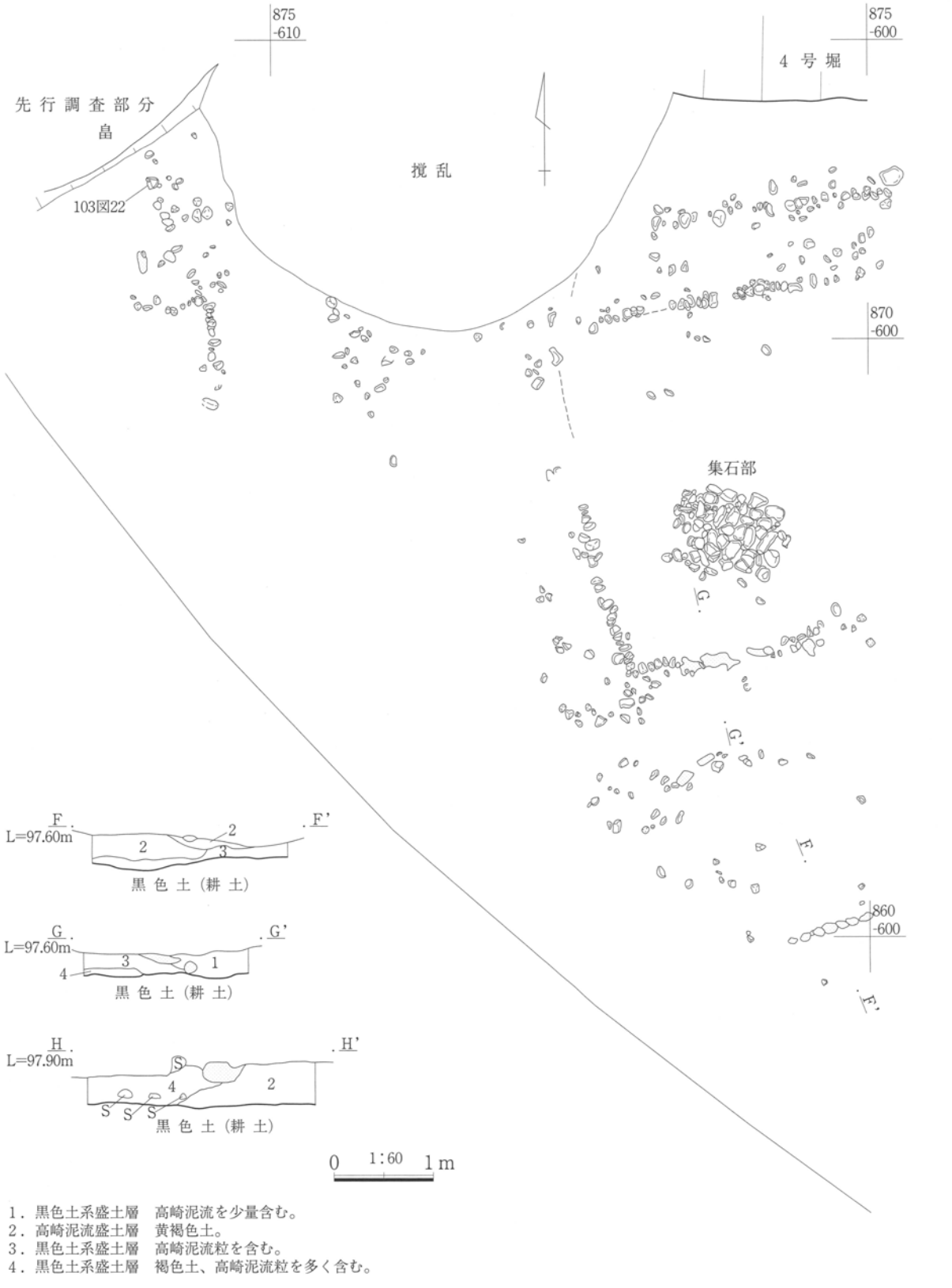
櫓台土層注記
1．表土層
2．鈍黄褐色土層（10YR4/3）木根の影響か締まりなく柔らかい。
3．橙色土層（7.5YR6/6）高崎泥流の色の濃い部分。やや黄色味が強い。
3'．3層に直径5～20cmの円礫を10%、黒色土を10%不均質に含む。この円礫は石列ではない。
4．高崎泥流中に含まれる砂層　軽石含む。泥流粒「中～大」を10%含む。
5．褐色砂壌土層（10YR4/4）部分的に砂層を塊状に含む。
6．明褐色土層（7.5YR5/8）高崎泥流中の色の濃い部分。泥流下部の土であろう。
6'．塊状をなす6層を使用した盛土。
7．暗褐色土に高崎泥流を5～10%含む。
8．橙色土層（7.5YR6/6）高崎泥流を主体とし、暗褐色土を5～10%含む。
8'．8層と同様であるが、暗褐色土をやや多く含む。
9．明褐色土層（7.5YR5/8）高崎泥流中の色の濃い部分に暗褐色土を少量含む。
10．橙色土層（7.5YR6/6）高崎泥流を主体とし、暗褐色土を5～20%粒状に含む。
10'．高崎泥流を主体とし、河床礫を含む。
11．高崎泥流の橙色部分と黒色土が数cmの板状互層をなす。
12．橙色土層（7.5YR6/6）高崎泥流が塊状をなす。軽石と礫を30%含む。しまりなく崩れやすい。
13．暗褐色土と高崎泥流の混土層
14．高崎泥流の明褐色部分と泥流中の砂と軽石部分が数cmから10cm厚の互層をなす。
15．高崎泥流中の砂層と軽石層を使用した盛土層
16．暗褐色砂壌土層（10YR3/4）泥流粒「小～大」を含む。壌土質の部分あり。同質の土を10～20cm厚の板状に盛る。
17．16層に似るが砂壌土部分が60%を占める。同質の土を10～20cm厚の板状に盛る。
18．高崎泥流の明褐色部分と塊状の橙色部分の混土層

第14図　『和田城櫓台跡』残存状態



第15図　『和田城櫓台跡』盛土内石列

第16図　2区盛土内石列全体図、集石部部分図



1．黒色土系盛土層　高崎泥流を少量含む。
2．高崎泥流盛土層　黄褐色土。
3．黒色土系盛土層　高崎泥流粒を含む。
4．黒色土系盛土層　褐色土、高崎泥流粒を多く含む。

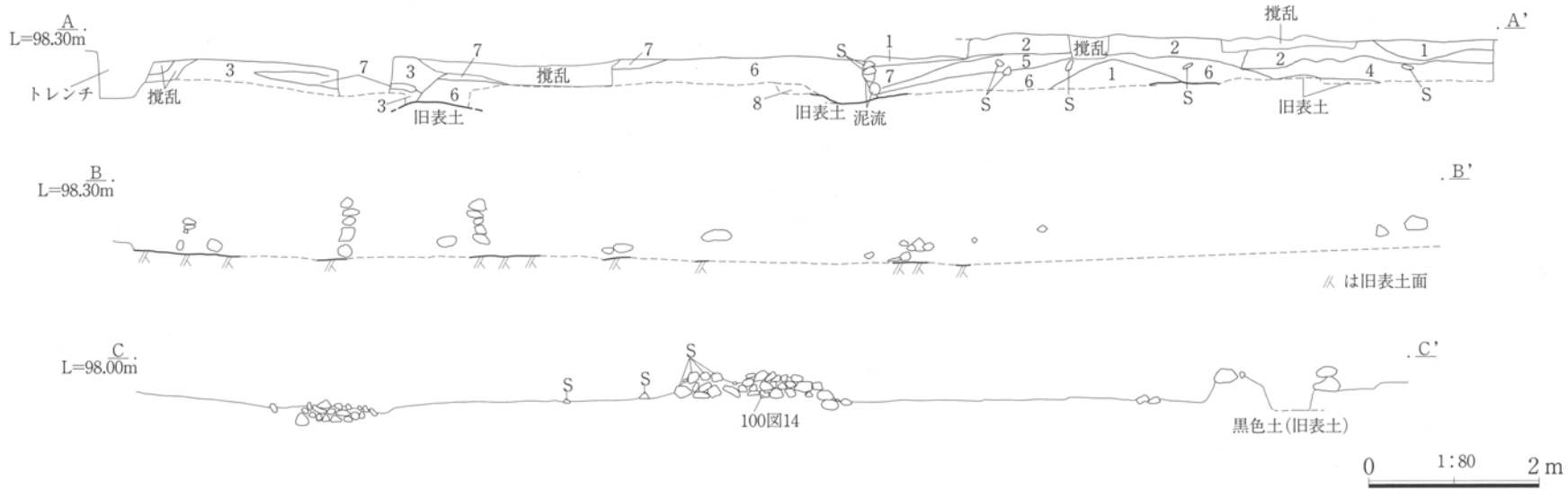
※トーンは泥流塊

0　1:100　3 m

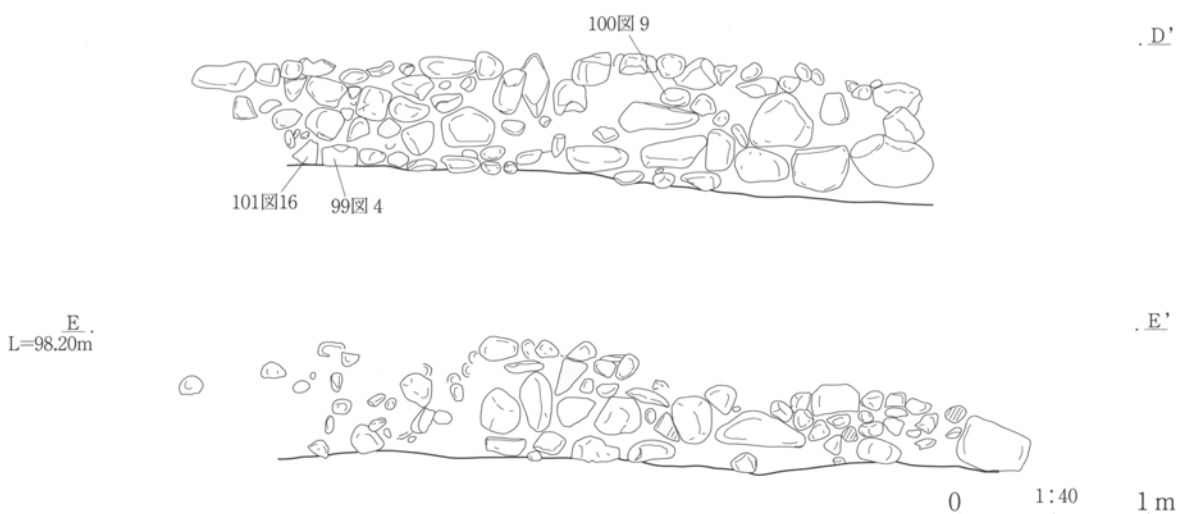
第17図　2区盛土内石列平面図（1）、土層断面図

0　1:100　3 m

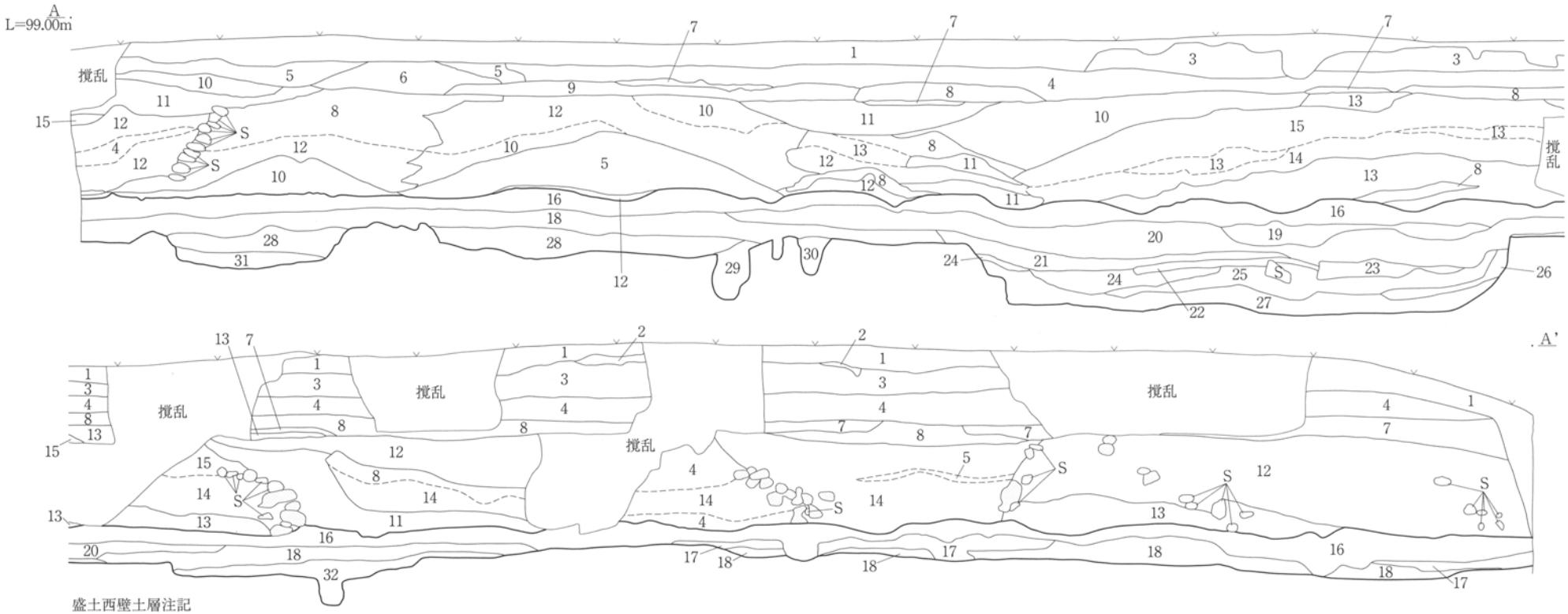
第18図　２区盛土内石列平面図（２）



1．高崎泥流盛土層　小～大の粒状を呈する。
2．高崎泥流盛土層　粒状や塊状を呈さず、締まりがある。
3．高崎泥流を中心とする盛土層　部分的に黒色土粒を含む。
4．黒色土系盛土層　暗褐色土を中心とし、不均質に高崎泥流塊を10％含む。
5．高崎泥流を中心とする盛土層　部分的に暗褐色土塊を含む。
6．黒色土系盛土層　暗褐色土を中心とし、不均質に高崎泥流粒「小」を５％含む。
7．５層と８層の混土層　混ざり方は不均質。
8．黒色土系盛土層　暗褐色土を中心とし、高崎泥流粒「小」を10％含む。



第19図　２区盛土内石列土層断面図・断面図・側面図

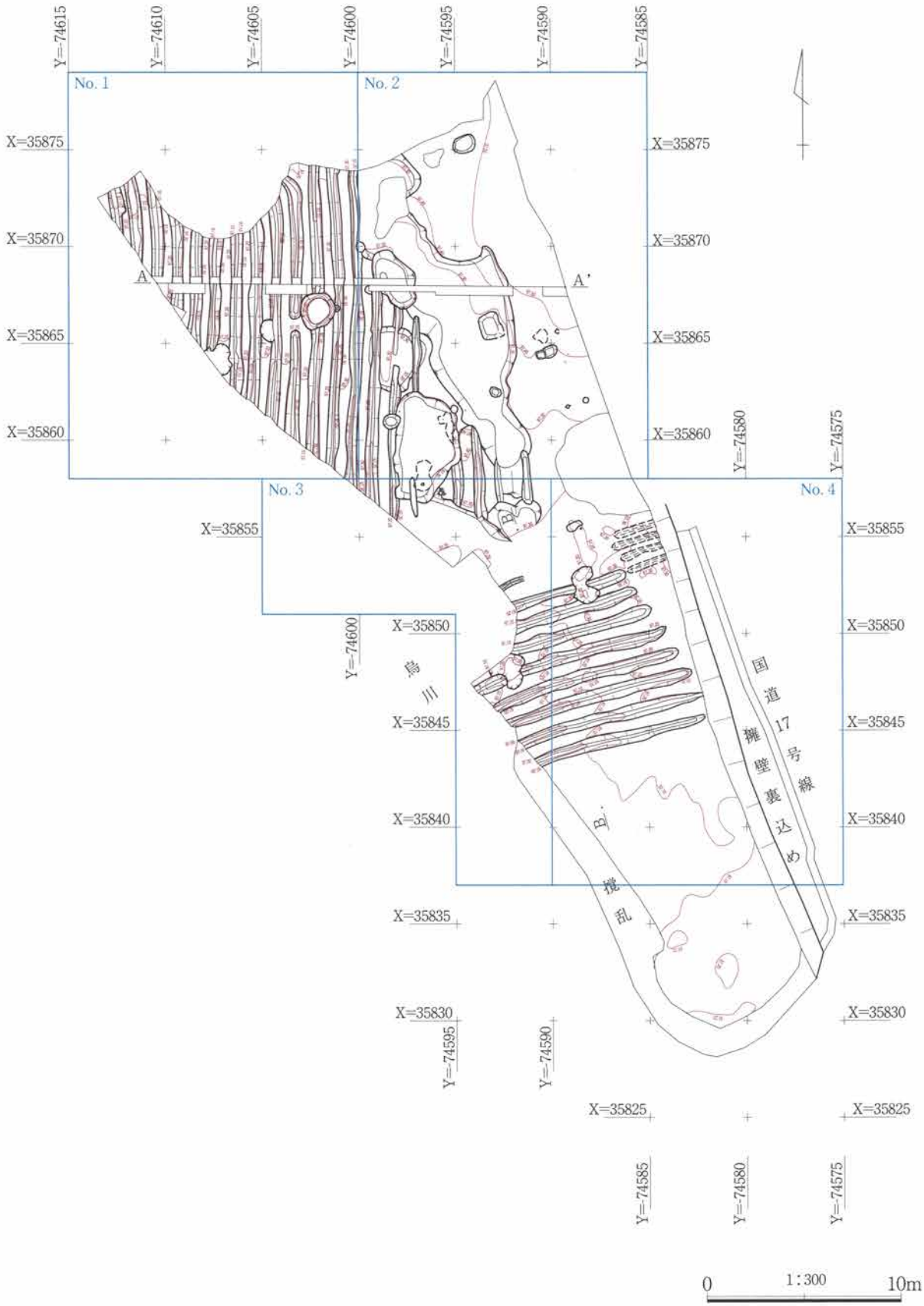


盛土西壁土層注記

1．表土層
2．浅間Ａ軽石の二次堆積層
3．暗褐色土層（7.5YR3/4）木が腐食したような質感の土。締まりなく軟らかい。
4．橙色土層（7.5YR6/6）高崎泥流を主体とし、暗褐色土を５～10％含む。盛土。
5．明褐色土層（7.5YR5/8）高崎泥流中の色の濃い部分。泥流下部の土であろう。
6．暗褐色土に高崎泥流を20～30％含む。盛土。
7．高崎泥流中の砂層と軽石層を使用した盛土層
8．盛土下畠耕作土を中心とし、高崎泥流を５～10％含む。
9．４層と５層の混土層　盛土。
10．橙色土層（7.5YR6/6）高崎泥流の色の濃い部分。やや黄色味が強い。
11．橙色土層（7.5YR6/6）高崎泥流を主体とし、暗褐色土を５～20％粒状に含む。
12．橙色土層（7.5YR6/6）高崎泥流が塊状をなす。軽石と礫を30％含む。締まりなく崩れやすい。盛土。
13．暗褐色土と高崎泥流の混土層
14．暗褐色土に高崎泥流を５～10％含む。
15．盛土下畠耕作土を中心とし、高崎泥流を20～30％含む。
16．黒褐色土層（10YR2/2）旧表土。畠面。
17．褐色土層（10YR4/6）泥流小粒を主体とし、不均質に黒褐色土を20～30％含む。
18．黒褐色土層（10YR2/3）旧表土（耕作土）層より締まりがある。泥流小粒を５％含む。
19．黒褐色土層（10YR2/2）泥流粒「中～大」を不均質に20％含む。24・25土坑。
20．暗褐色土層（10YR3/4）均質な土で他の混入土は見受けられない。24・25土坑。
21．20層に似るが、粒状をなさず、やや軟らかい。24・25土坑。
22．炭化物と灰層　上半に焼土があるが、粒状をなす。24・25土坑。
23．20層に炭化物小片を10～20％含む。24・25土坑。
24．暗褐色土層（10YR3/4）焼土小粒僅かに含む。24・25土坑。
25．黒色灰層　24・25土坑。
26．20層と黒褐色土の混土層　24・25土坑。
27．20層にオリーブ褐色（2.5Y4/4）細砂を不均質に含む。24・25土坑。
28．黒褐色土層（10YR2/2）高崎泥流粒「小～中」を不均質に20％含む。26土坑。
29．黒褐色土層（10YR2/3）高崎泥流中粒20％含む。44ピット。
30．上部に泥流塊、下部に黒褐色土を含む。45ピット。
31．28層と同質であるが、やや黒みが強い。26土坑。
32．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒「小～中」５％含む。

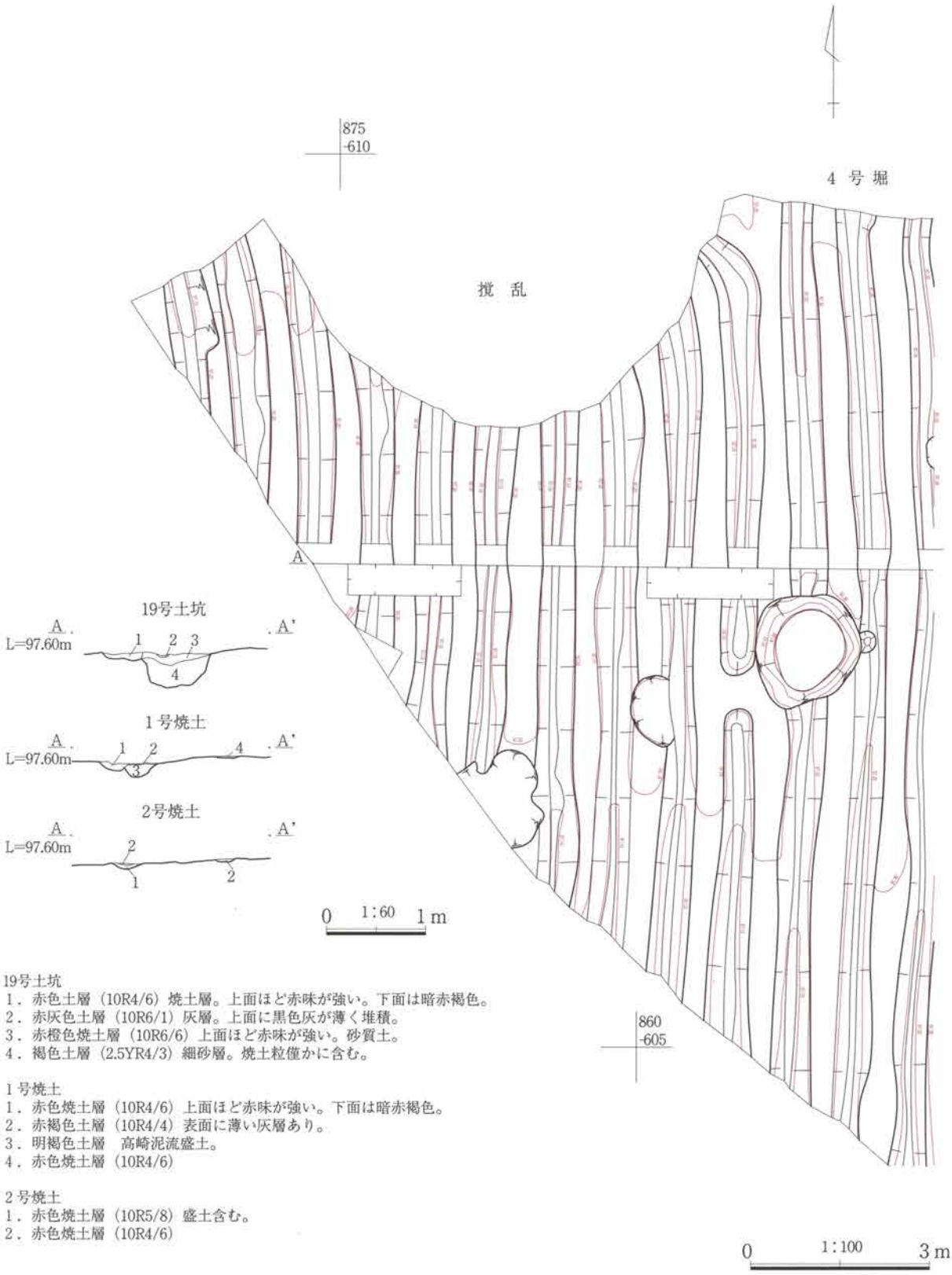
0　1:60　1m

第20図　２区盛土土層断面図



第21図　2区盛土下畠状遺構全体図

No. 1



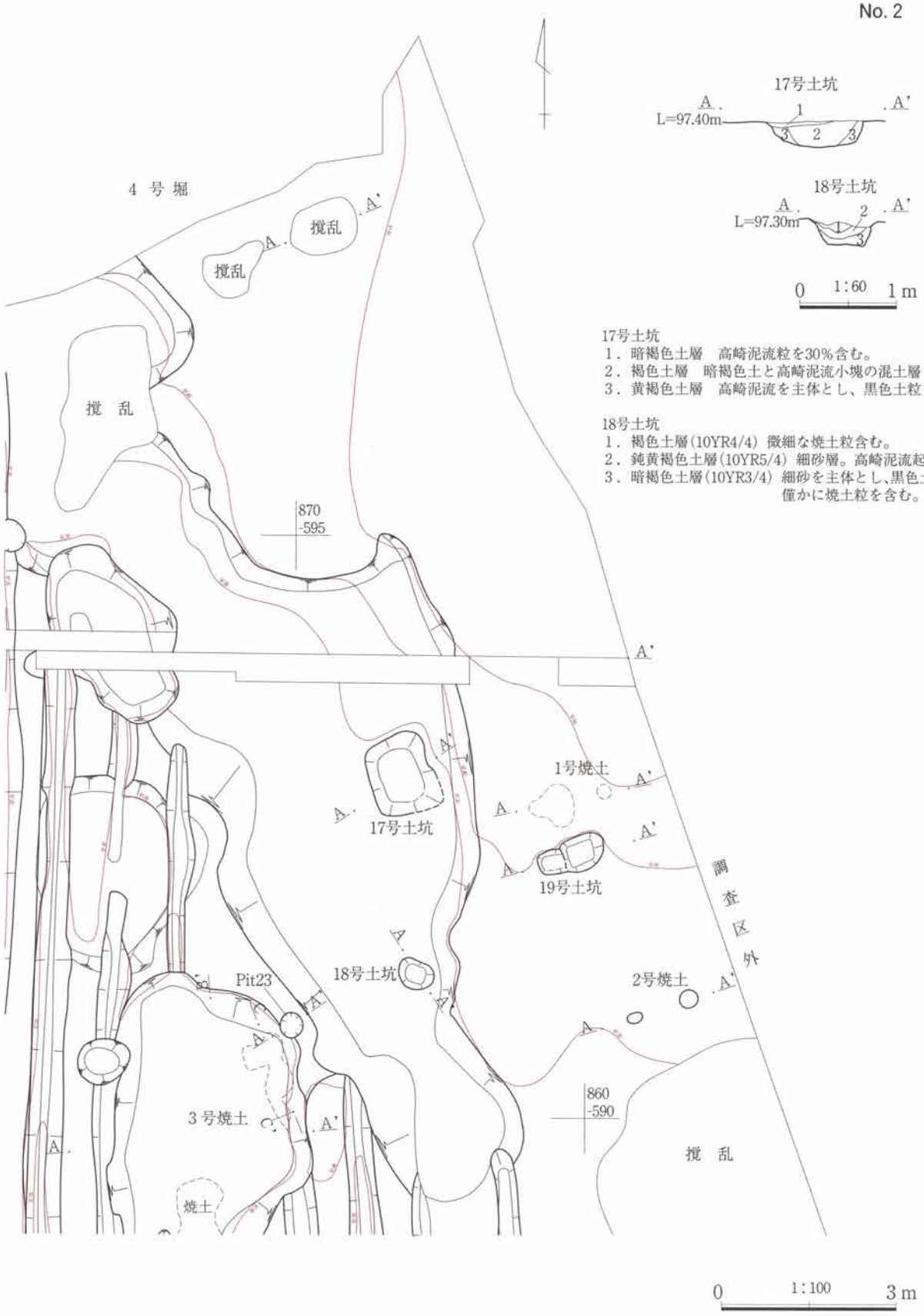
19号土坑
1．赤色土層（10R4/6）焼土層。上面ほど赤味が強い。下面は暗赤褐色。
2．赤灰色土層（10R6/1）灰層。上面に黒色灰が薄く堆積。
3．赤橙色焼土層（10R6/6）上面ほど赤味が強い。砂質土。
4．褐色土層（2.5YR4/3）細砂層。焼土粒僅かに含む。

1号焼土
1．赤色焼土層（10R4/6）上面ほど赤味が強い。下面は暗赤褐色。
2．赤褐色土層（10R4/4）表面に薄い灰層あり。
3．明褐色土層　高崎泥流盛土。
4．赤色焼土層（10R4/6）

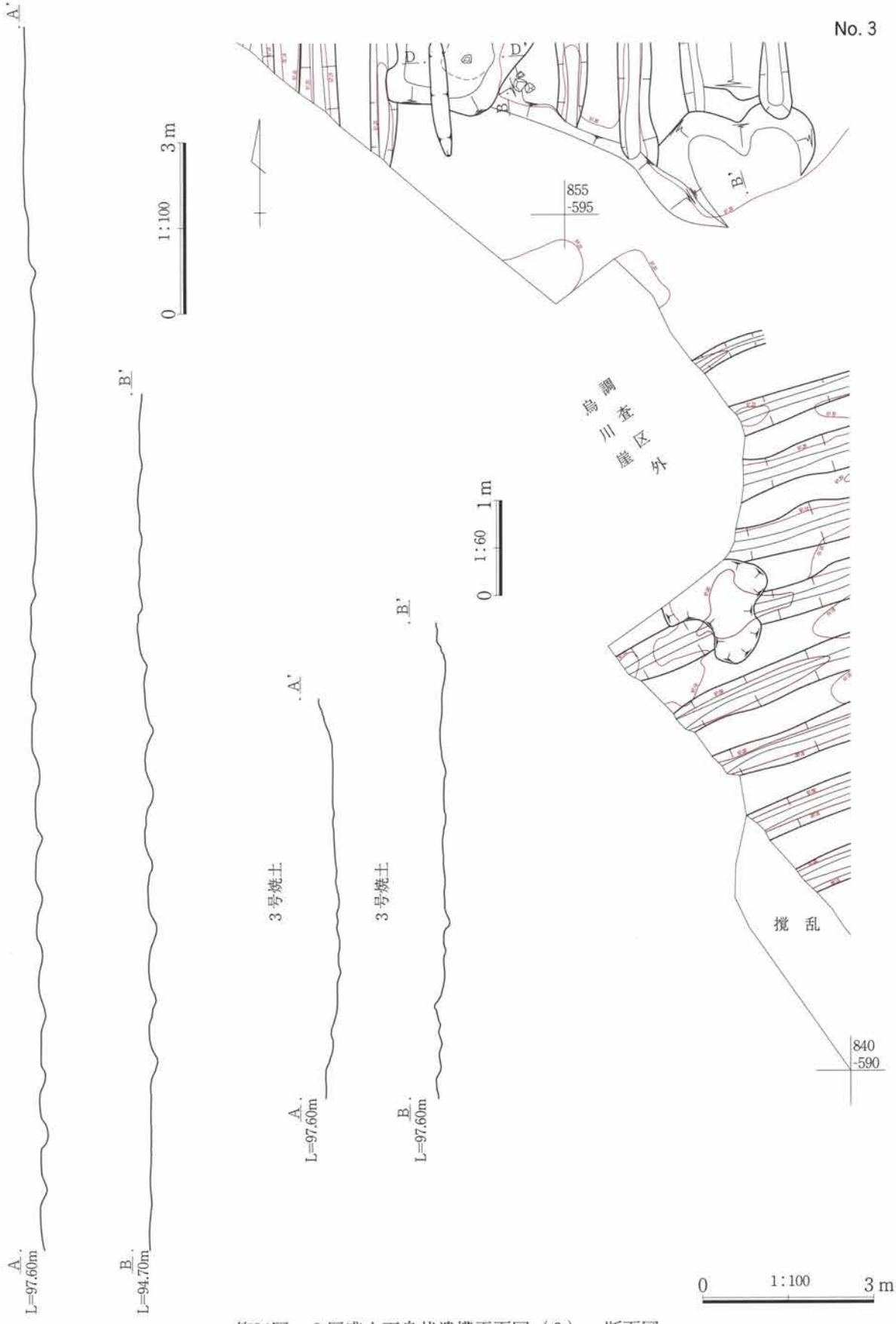
2号焼土
1．赤色焼土層（10R5/8）盛土含む。
2．赤色焼土層（10R4/6）

第22図　2区盛土下畠状遺構平面図（1）、土層断面図

No. 2

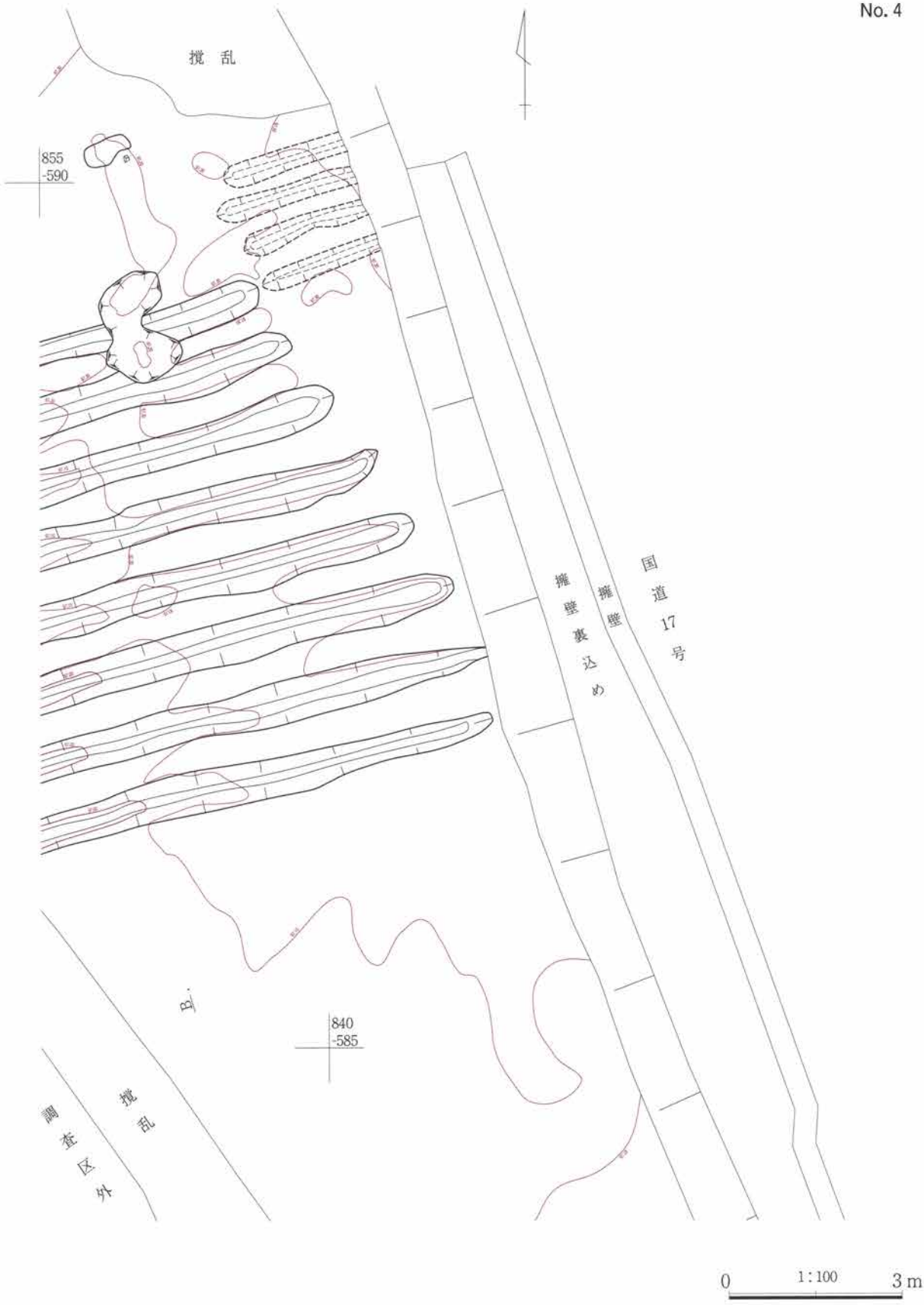


第23図　2区盛土下畠状遺構平面図（2）

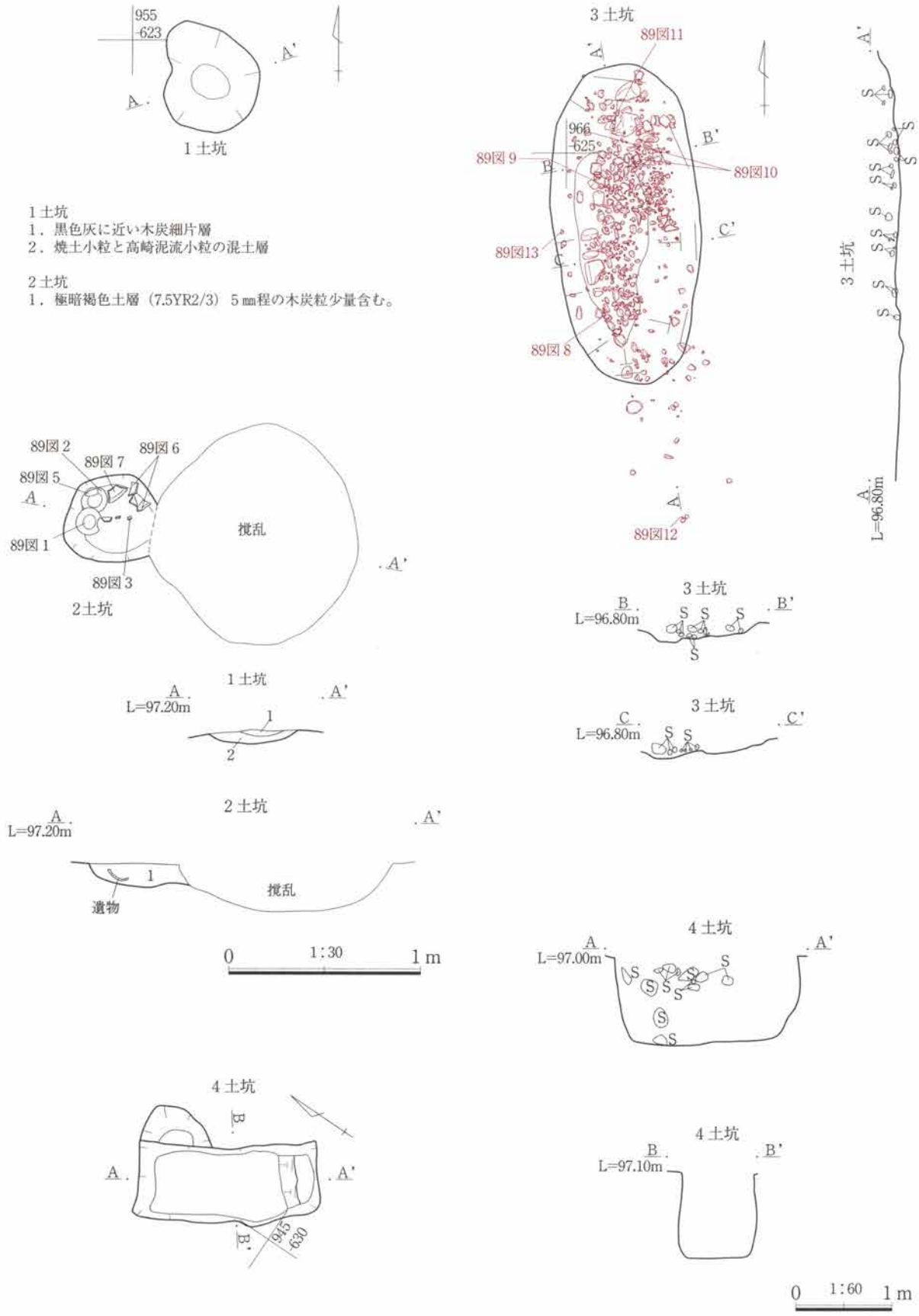


第24図　2区盛土下畠状遺構平面図（3）、断面図

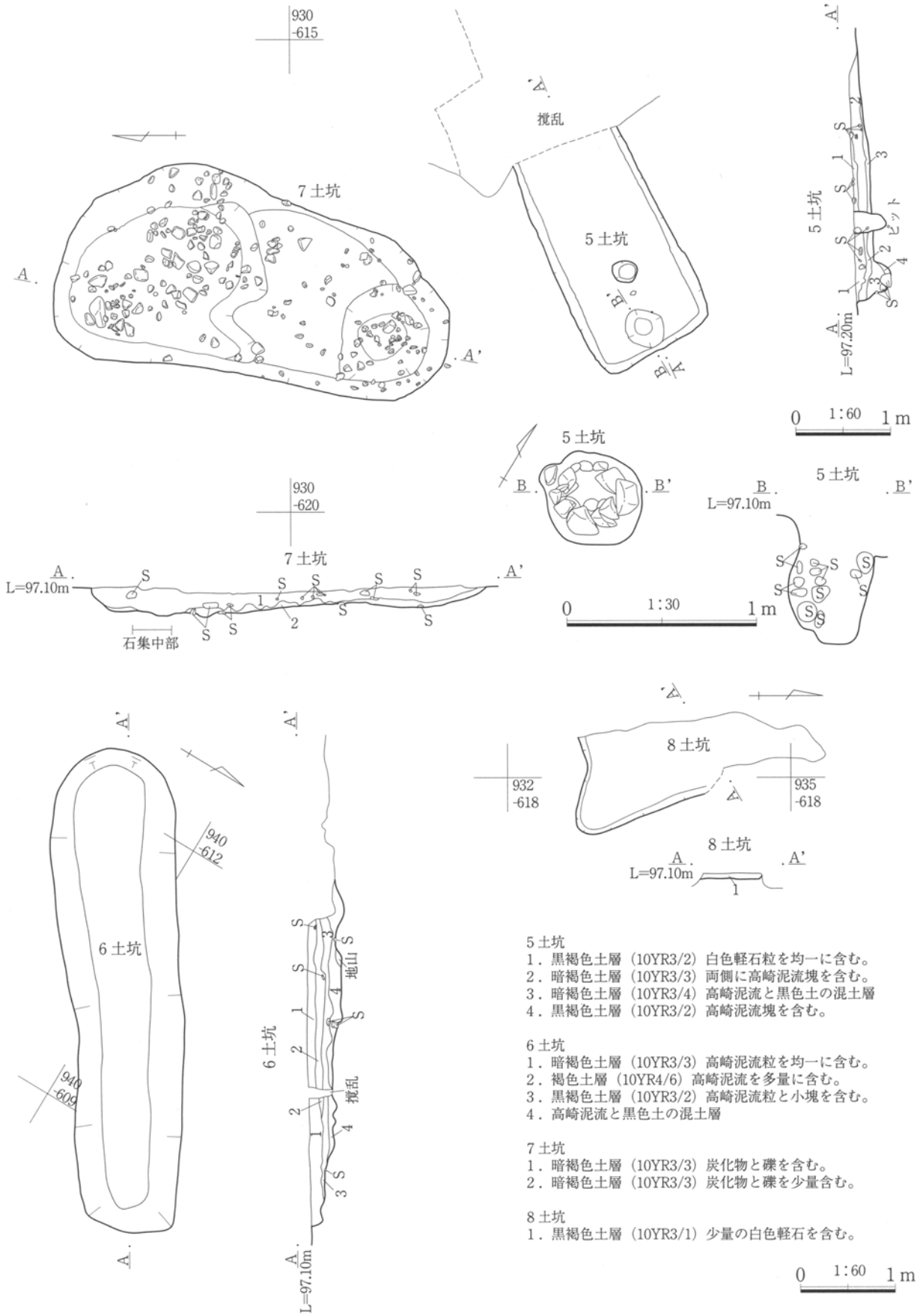
No. 4



第25図　2区盛土下畠状遺構平面図（4）



第26図　1号・2号・3号・4号土坑



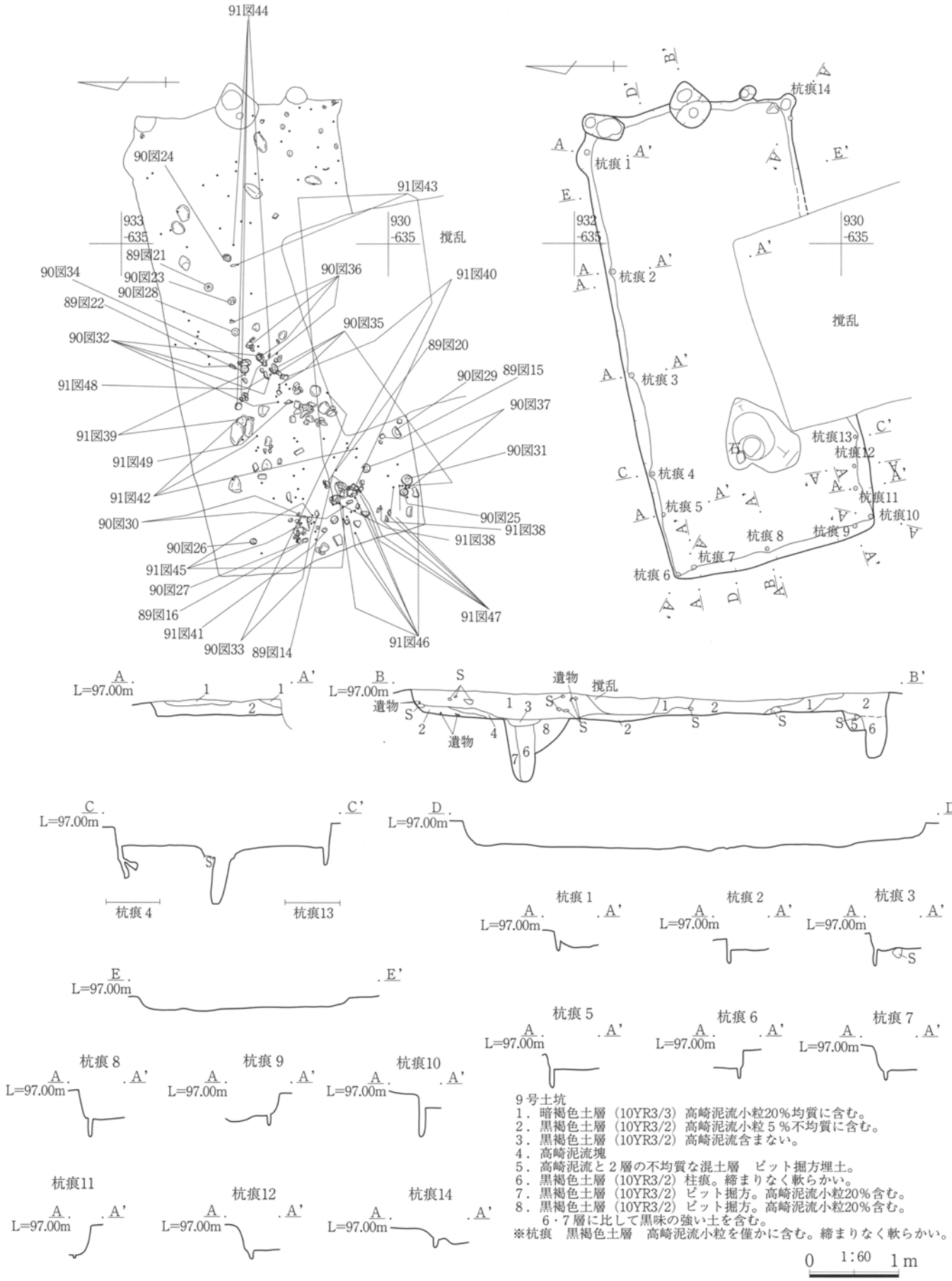
5土坑
1．黒褐色土層（10YR3/2）白色軽石粒を均一に含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）両側に高崎泥流塊を含む。
3．暗褐色土層（10YR3/4）高崎泥流と黒色土の混土層
4．黒褐色土層（10YR3/2）高崎泥流塊を含む。

6土坑
1．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒を均一に含む。
2．褐色土層（10YR4/6）高崎泥流を多量に含む。
3．黒褐色土層（10YR3/2）高崎泥流粒と小塊を含む。
4．高崎泥流と黒色土の混土層

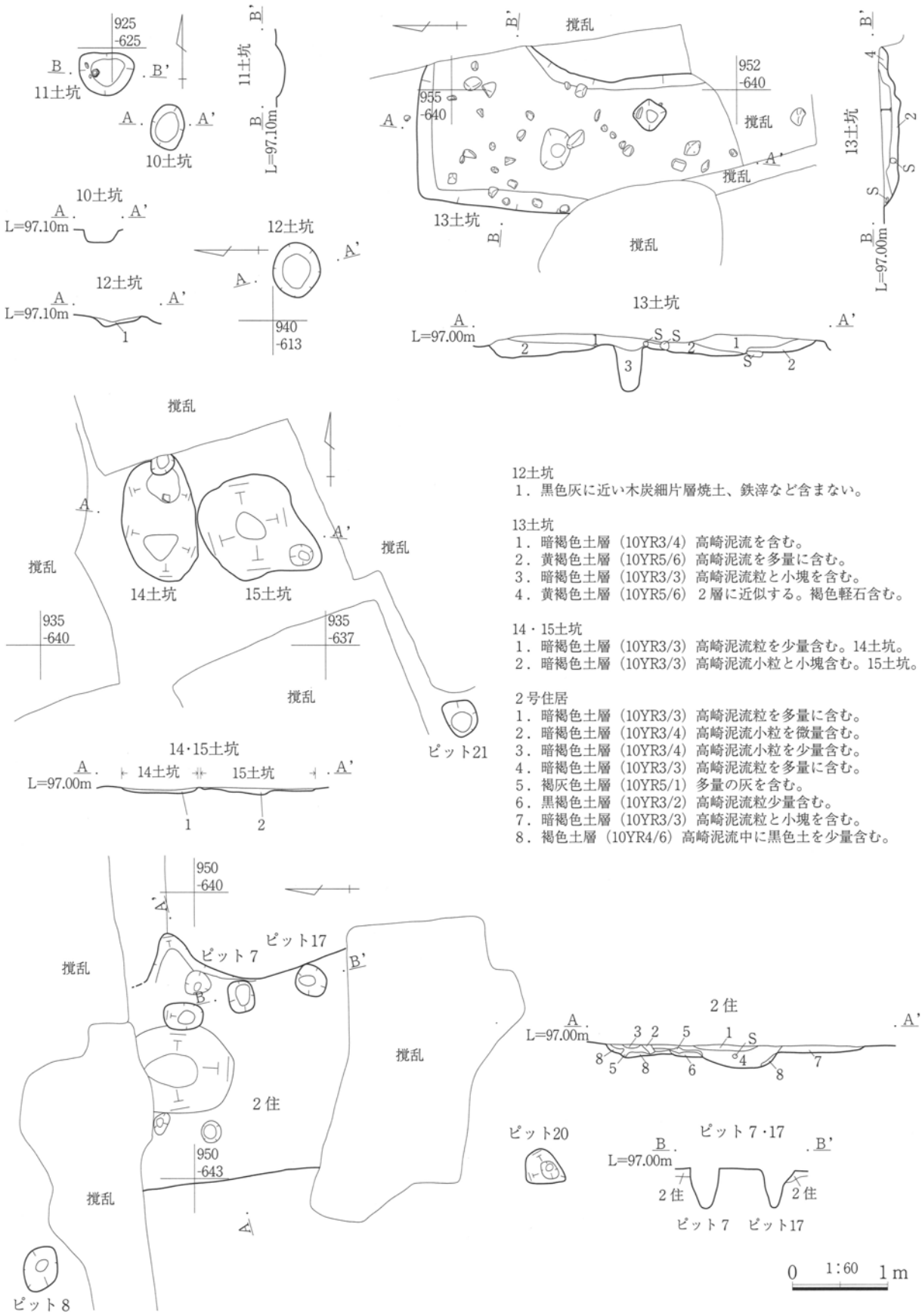
7土坑
1．暗褐色土層（10YR3/3）炭化物と礫を含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）炭化物と礫を少量含む。

8土坑
1．黒褐色土層（10YR3/1）少量の白色軽石を含む。

第27図　5号・6号・7号・8号土坑


91図44
90図24
91図43
933
-635
930
-635
撹乱
89図21
90図34
90図23
90図28
90図36
91図40
89図22
90図35
90図32
89図20
91図48
90図29
89図15
90図37
91図39
91図49
90図31
91図42
90図30
90図25
91図38
91図38
90図26
91図45
90図27
89図16
91図47
91図41
90図33
89図14
91図46
杭痕14
杭痕1
932
-635
930
-635
杭痕2
撹乱
杭痕3
杭痕13
杭痕12
杭痕4
杭痕11
杭痕5
杭痕10
杭痕9
杭痕8
杭痕7
杭痕6
L=97.00m
遺物
撹乱
杭痕4
杭痕13
杭痕1
杭痕2
杭痕3
杭痕5
杭痕6
杭痕7
杭痕8
杭痕9
杭痕10
杭痕11
杭痕12
杭痕14
9号土坑
1．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流小粒20％均質に含む。
2．黒褐色土層（10YR3/2）高崎泥流小粒５％不均質に含む。
3．黒褐色土層（10YR3/2）高崎泥流含まない。
4．高崎泥流塊
5．高崎泥流と２層の不均質な混土層　ピット掘方埋土。
6．黒褐色土層（10YR3/2）柱痕。締まりなく軟らかい。
7．黒褐色土層（10YR3/2）ピット掘方。高崎泥流小粒20％含む。
8．黒褐色土層（10YR3/2）ピット掘方。高崎泥流小粒20％含む。
6・7層に比して黒味の強い土を含む。
※杭痕　黒褐色土層　高崎泥流小粒を僅かに含む。締まりなく軟らかい。
0　1:60　1m

第28図　9号土坑



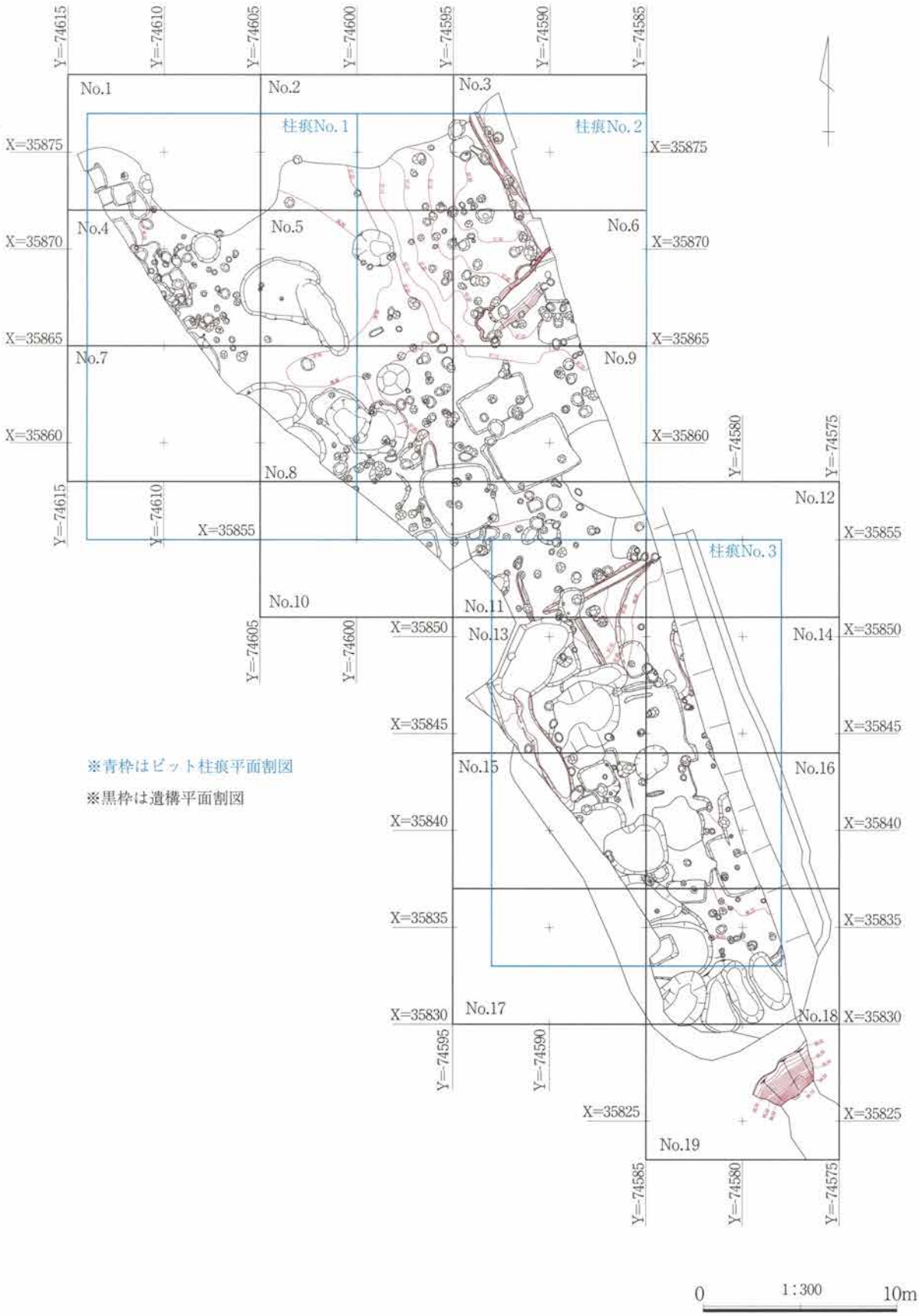
12土坑
1．黒色灰に近い木炭細片層焼土、鉄滓など含まない。

13土坑
1．暗褐色土層（10YR3/4）高崎泥流を含む。
2．黄褐色土層（10YR5/6）高崎泥流を多量に含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒と小塊を含む。
4．黄褐色土層（10YR5/6）２層に近似する。褐色軽石含む。

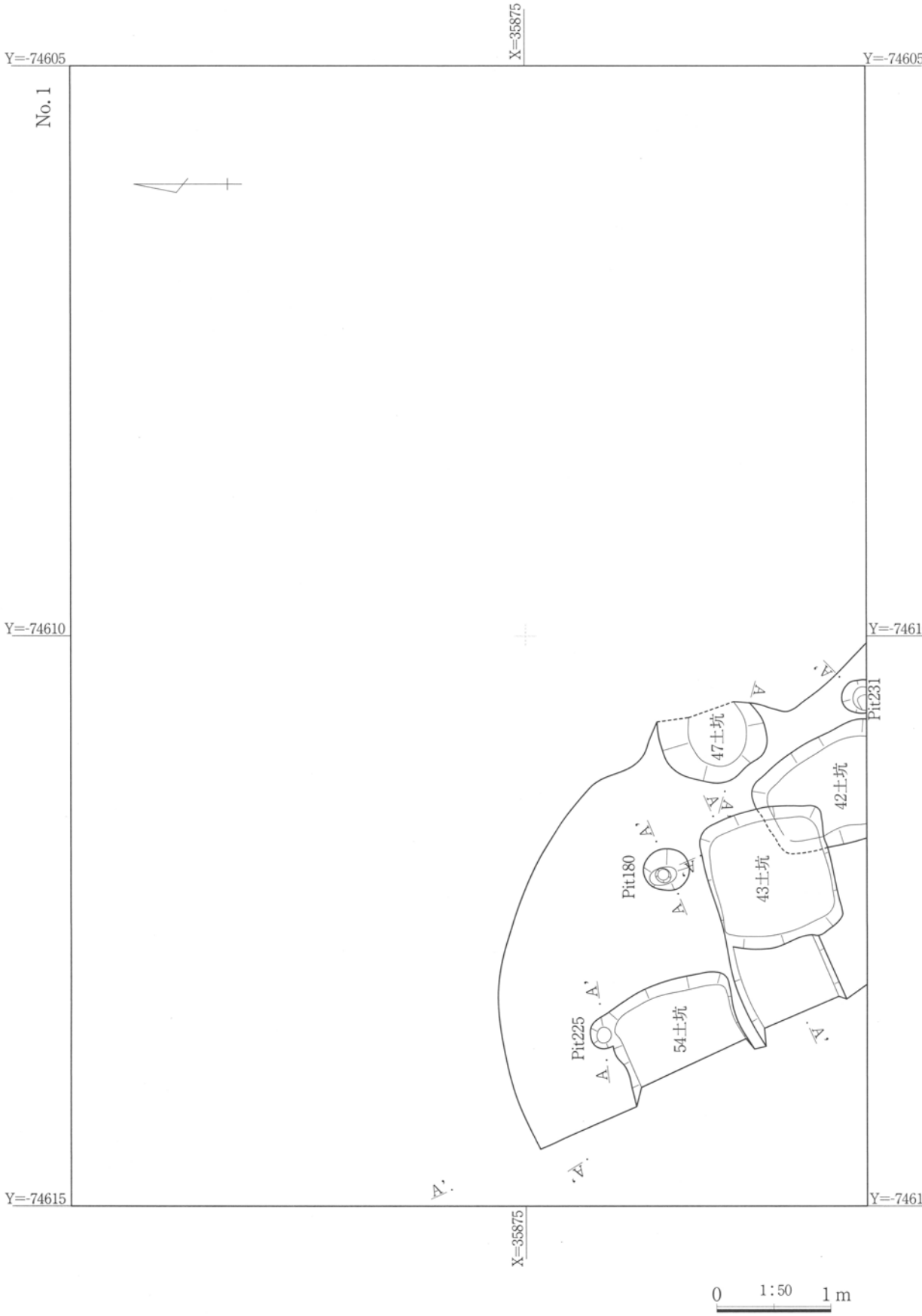
14・15土坑
1．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒を少量含む。14土坑。
2．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流小粒と小塊含む。15土坑。

２号住居
1．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒を多量に含む。
2．暗褐色土層（10YR3/4）高崎泥流小粒を微量含む。
3．暗褐色土層（10YR3/4）高崎泥流小粒を少量含む。
4．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒を多量に含む。
5．褐灰色土層（10YR5/1）多量の灰を含む。
6．黒褐色土層（10YR3/2）高崎泥流粒少量含む。
7．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒と小塊を含む。
8．褐色土層（10YR4/6）高崎泥流中に黒色土を少量含む。

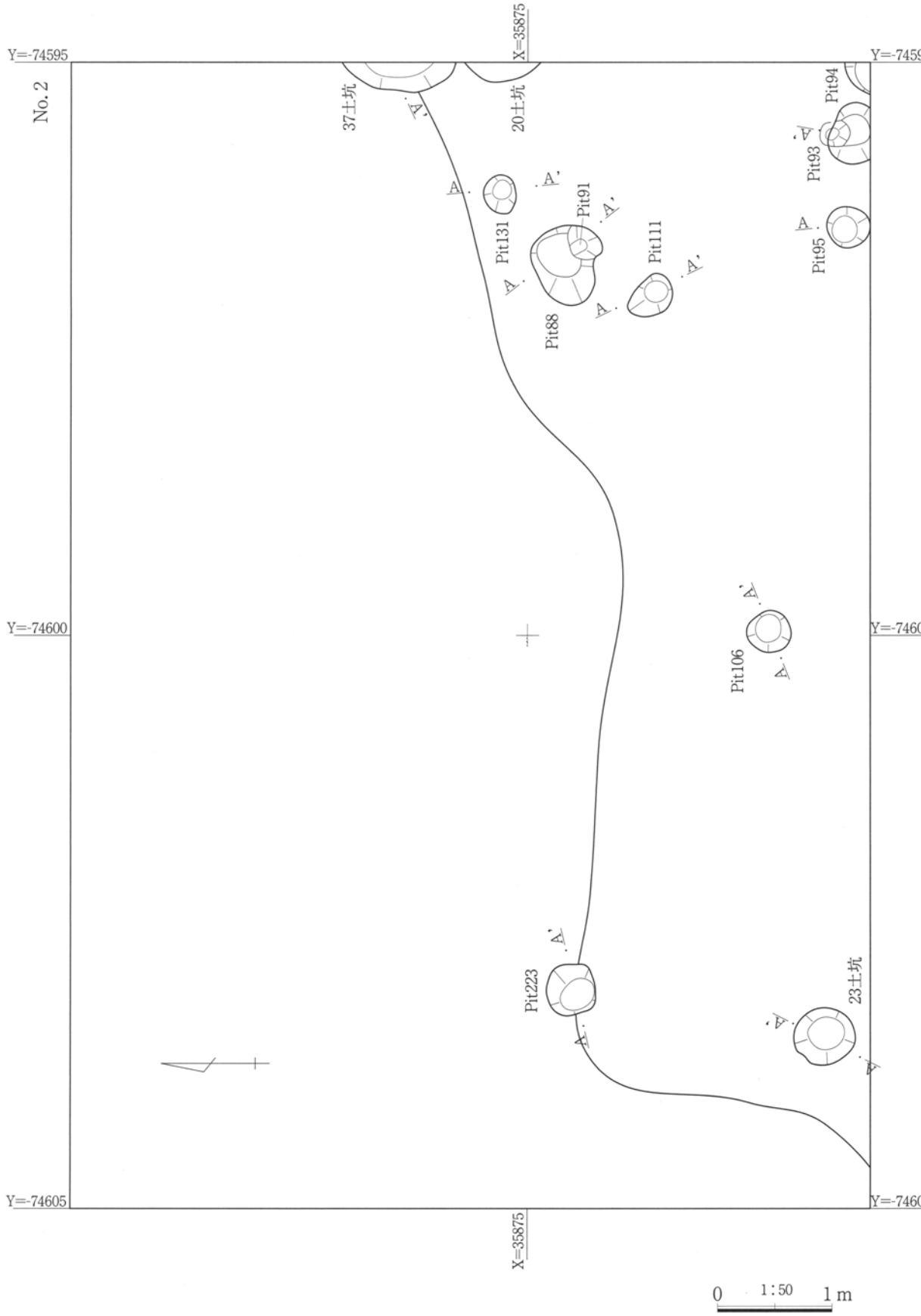
第29図　10号・11号・12号・13号・14号・15号土坑、２号竪穴住居



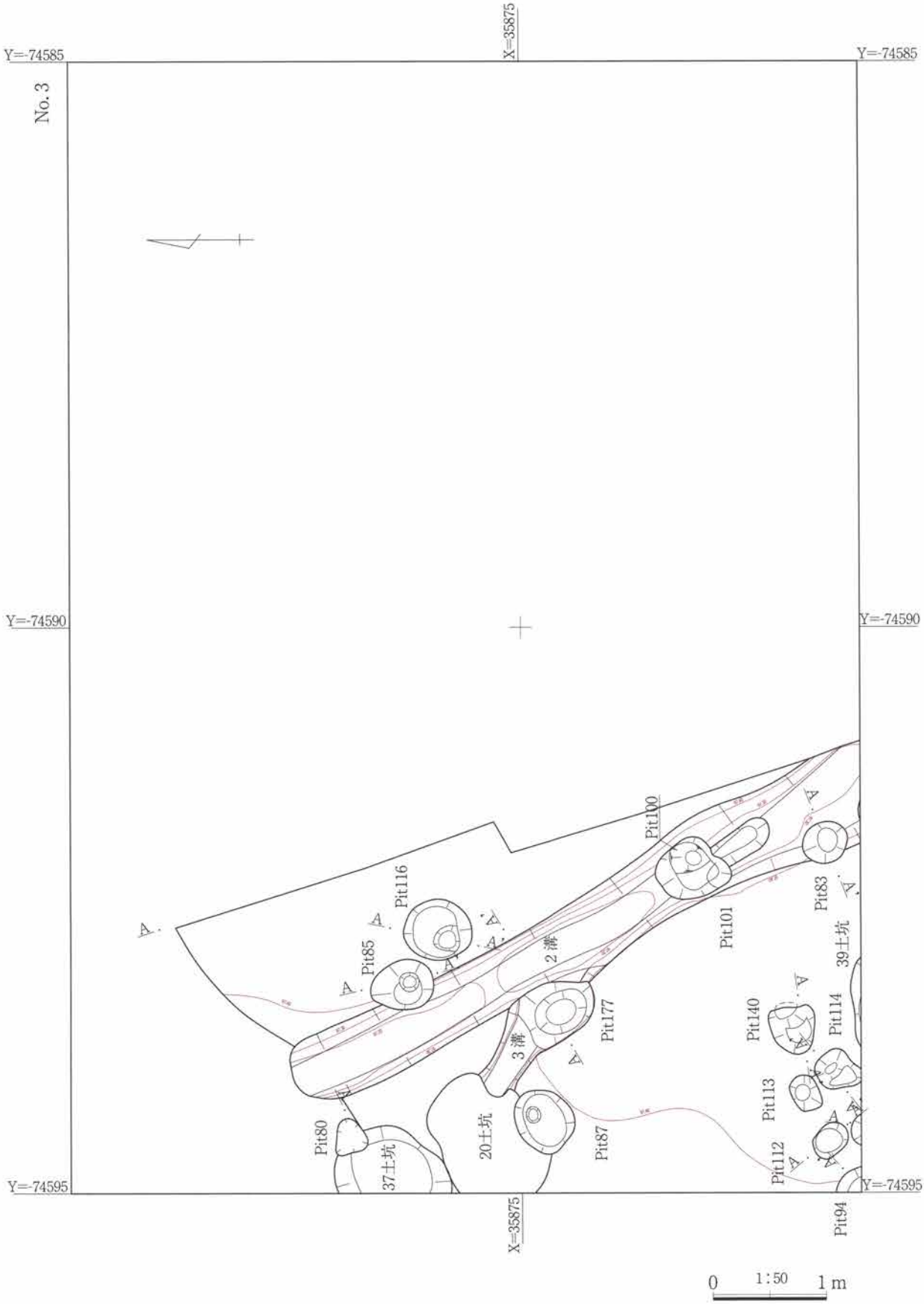
第30図　2区畠状遺構下遺構群平面割図



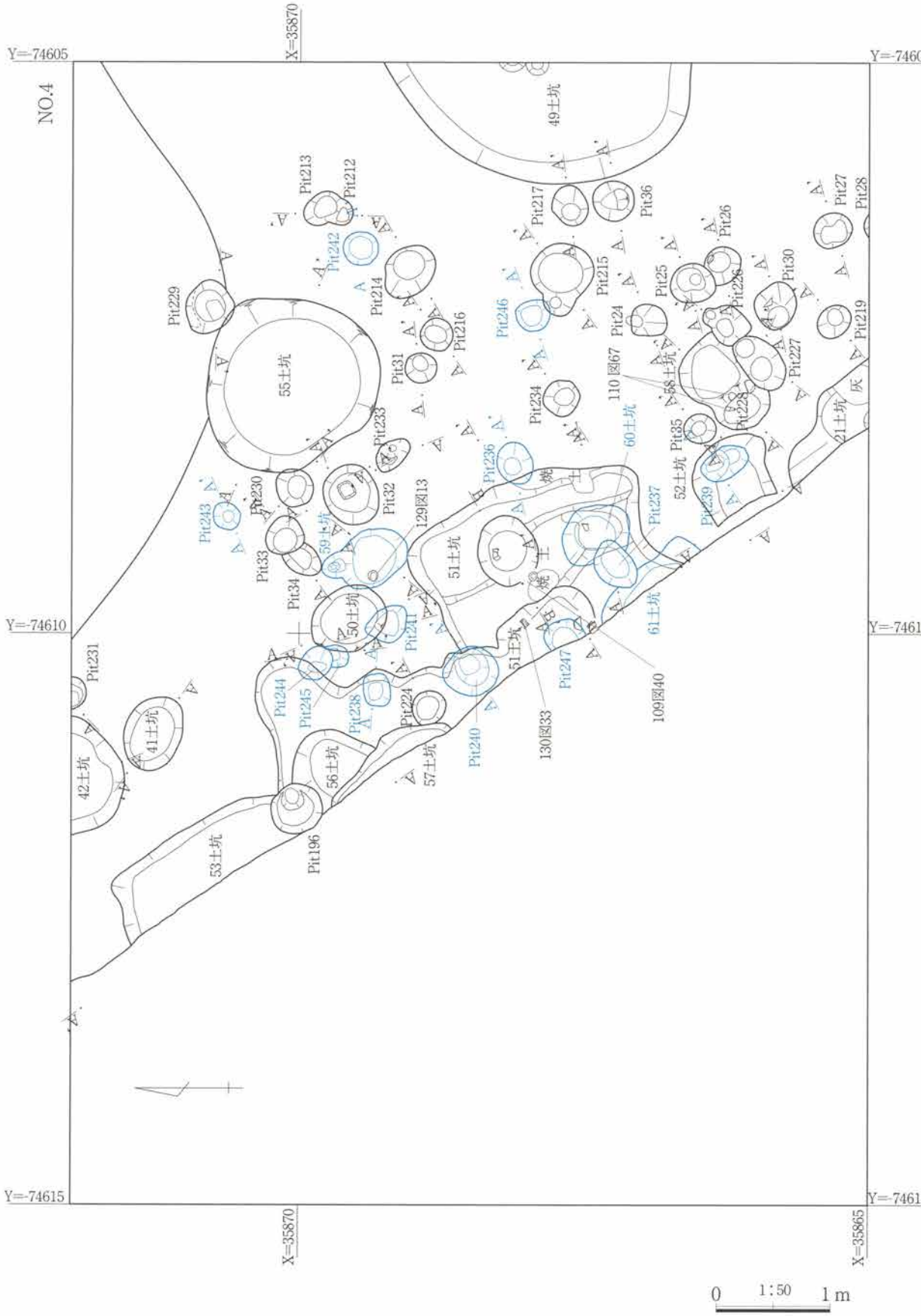
第31図　２区畠状遺構下遺構群平面図（１）



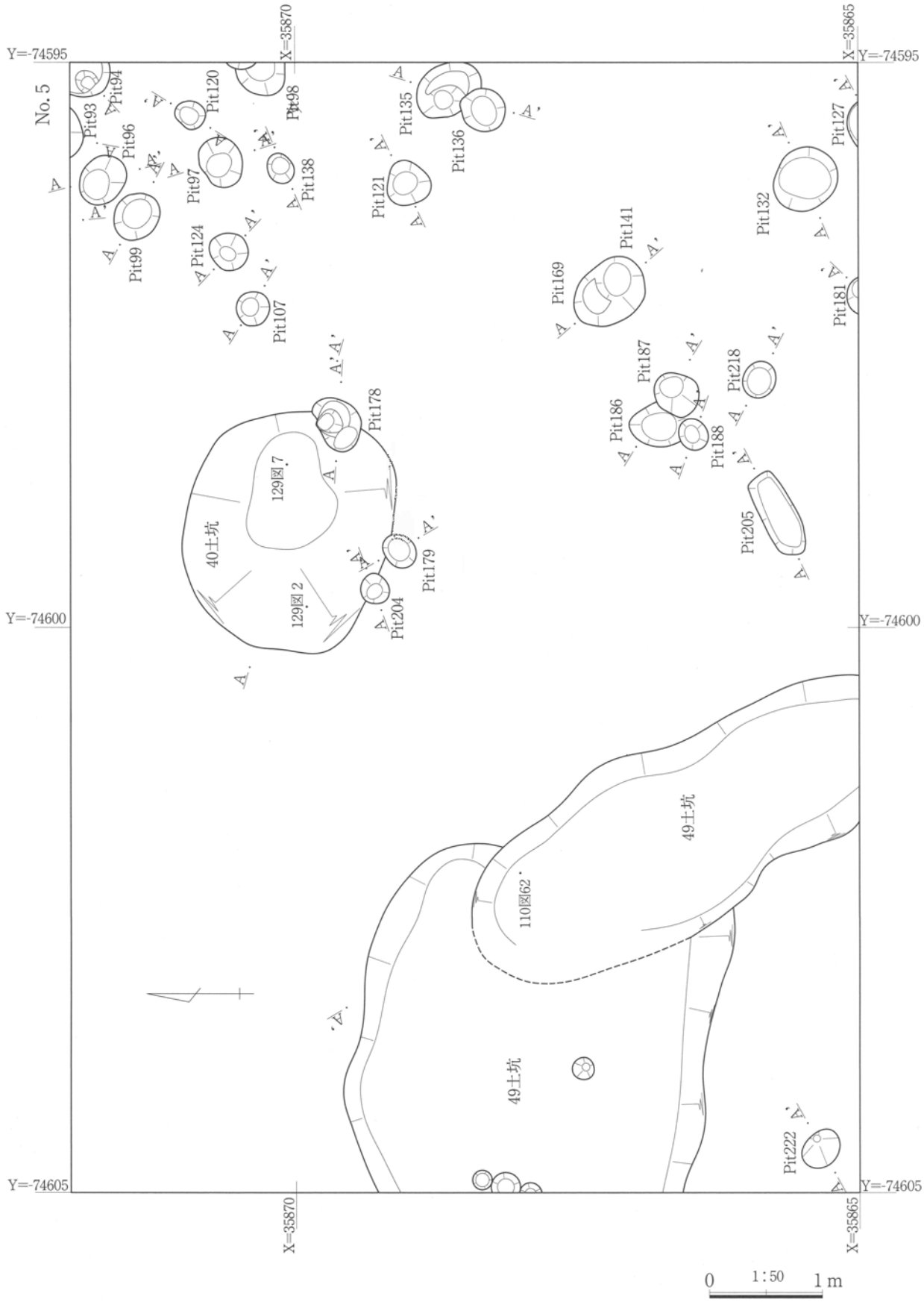
第32図　２区畠状遺構下遺構群平面図（２）



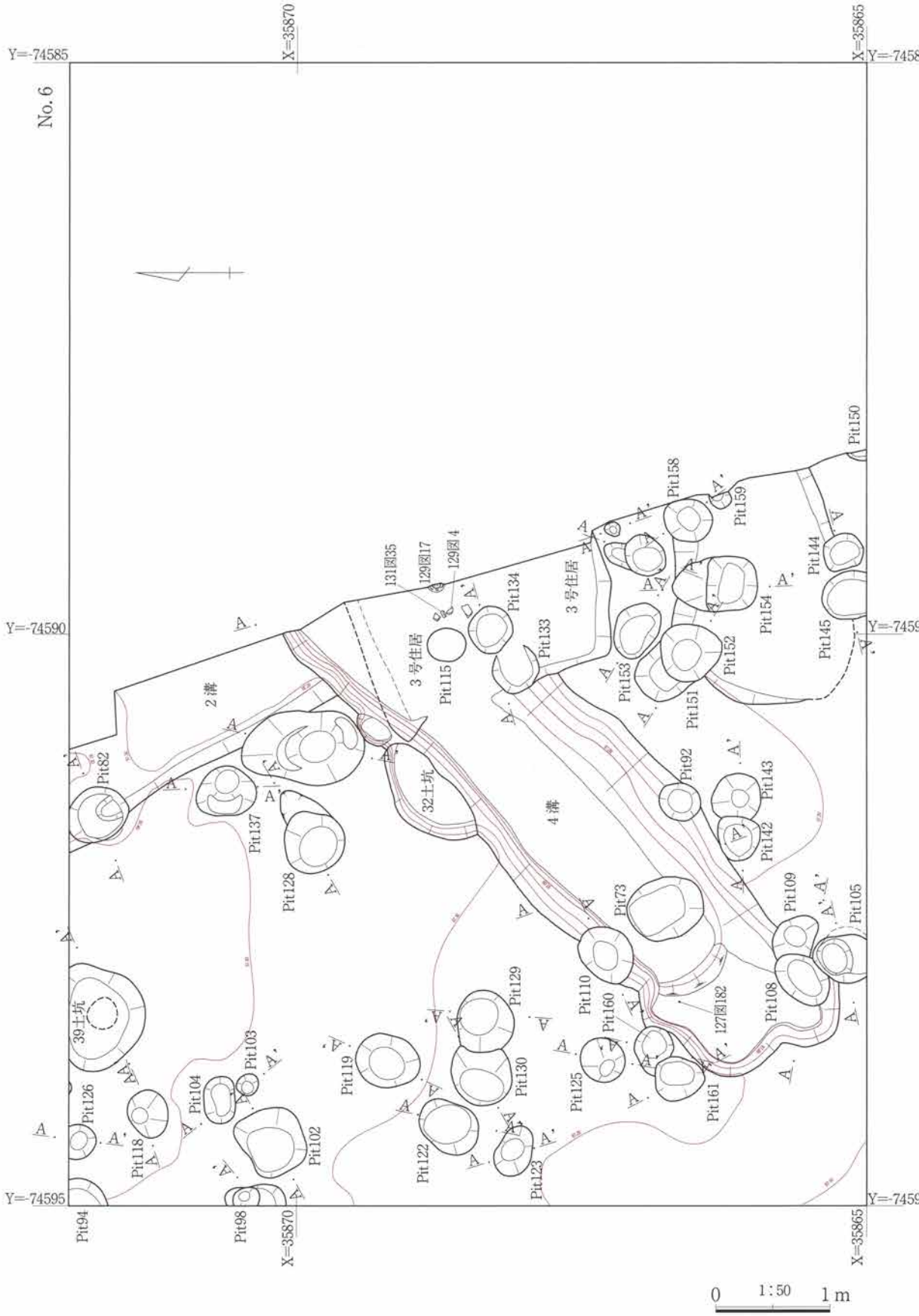
第33図　2区畠状遺構下遺構群平面図（3）



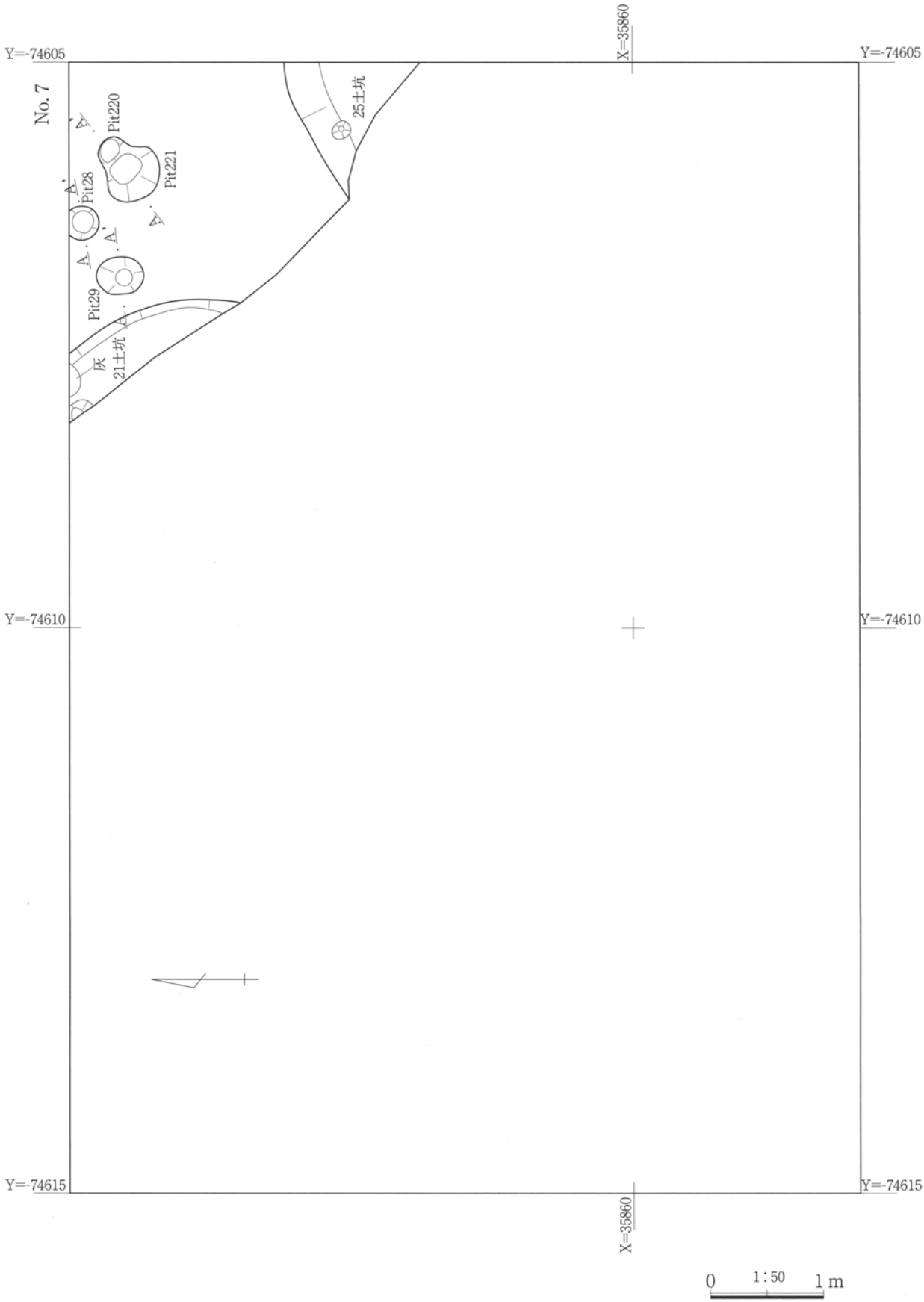
第34図　2区畠状遺構下遺構群平面図（4）



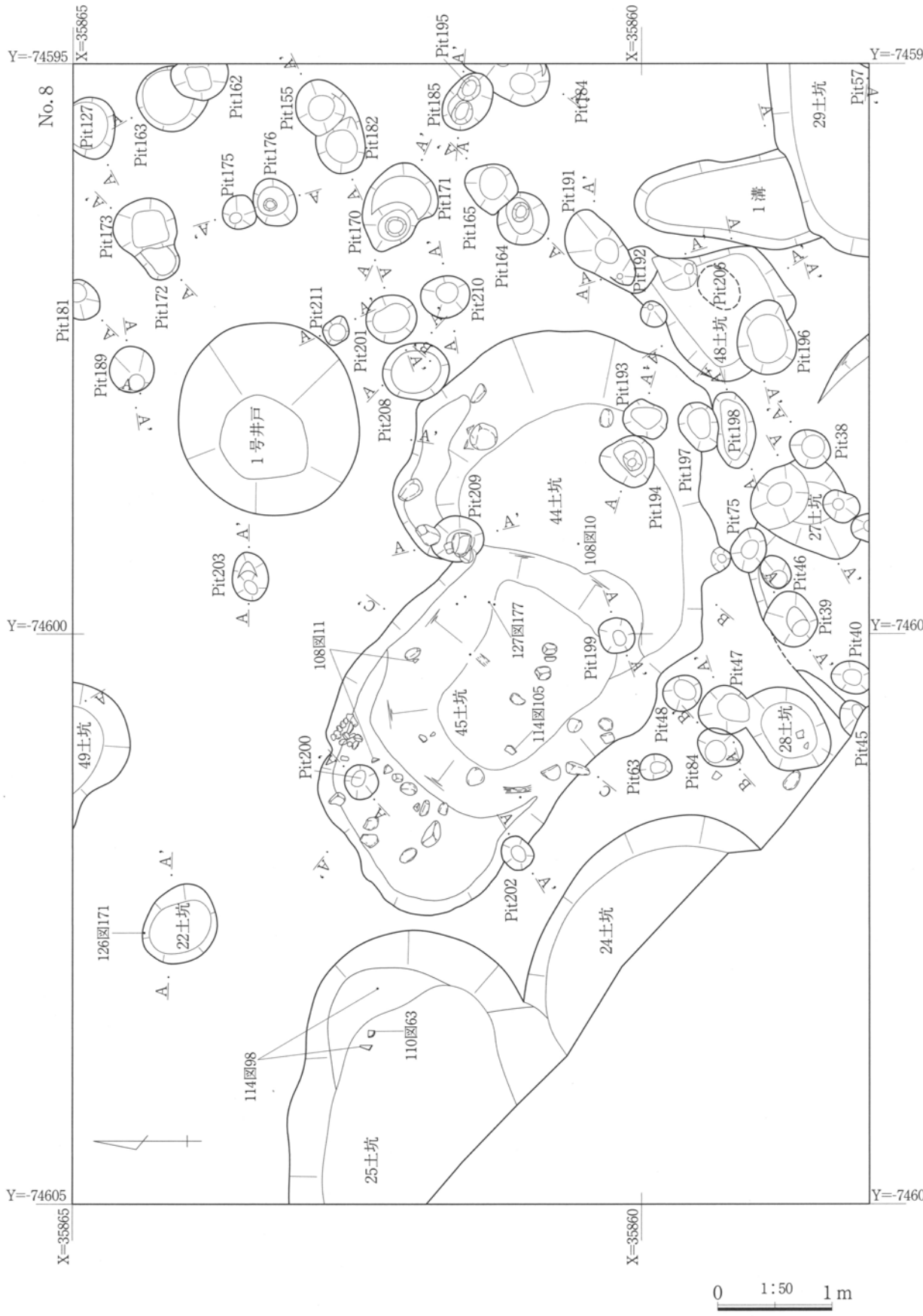
第35図　2区畠状遺構下遺構群平面図（5）



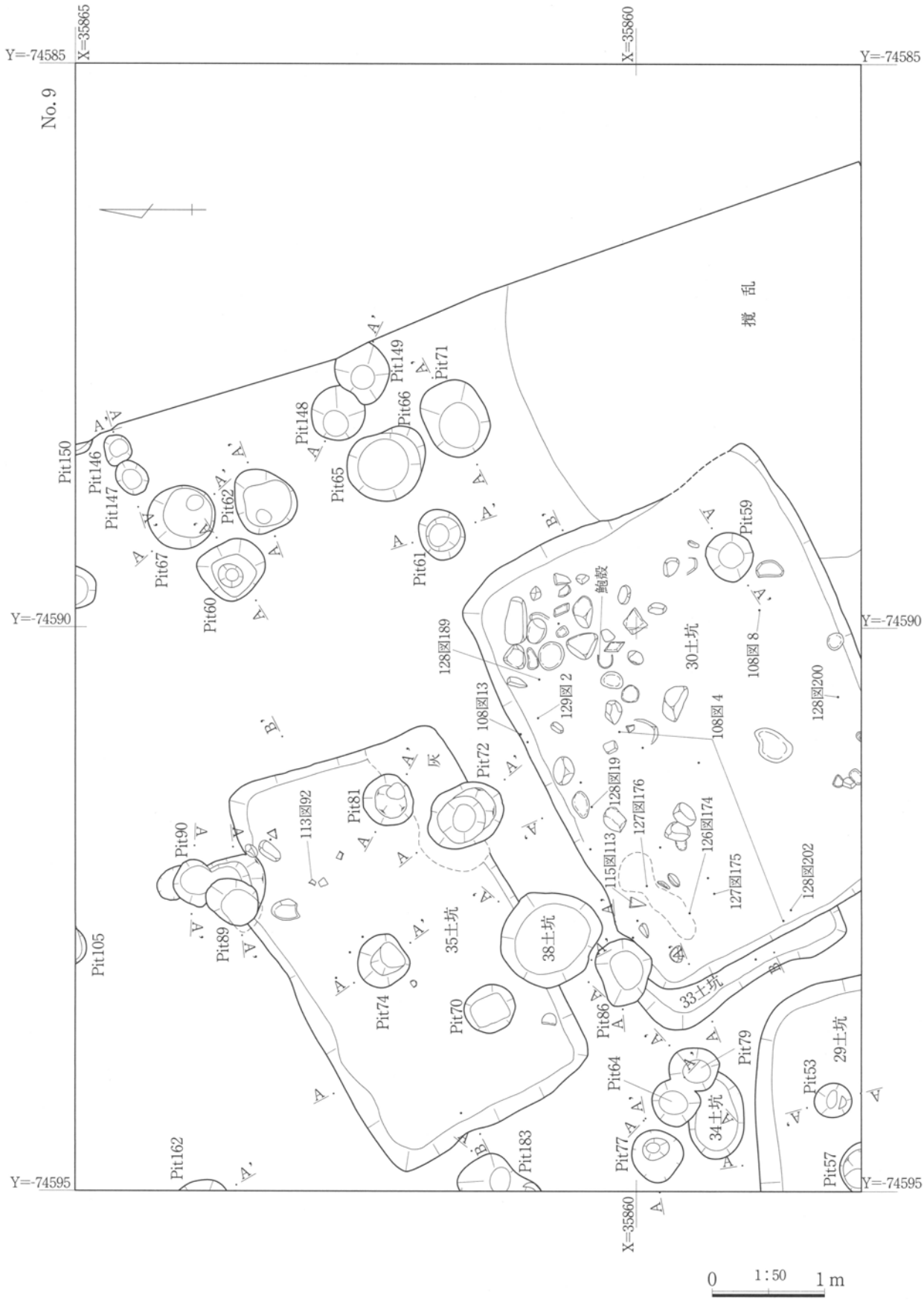
第36図　２区畠状遺構下遺構群平面図（６）



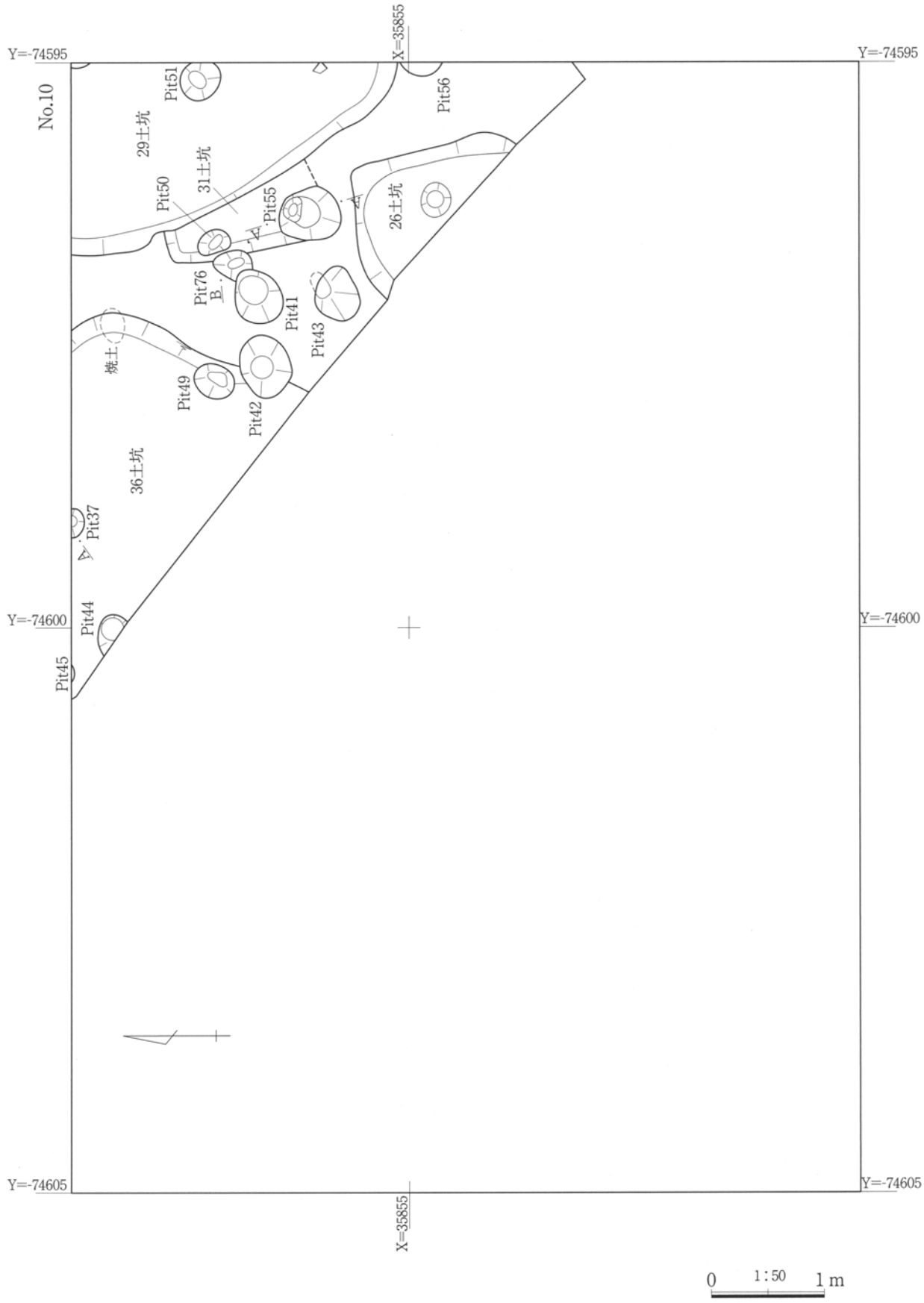
第37図　2区畠状遺構下遺構群平面図（7）



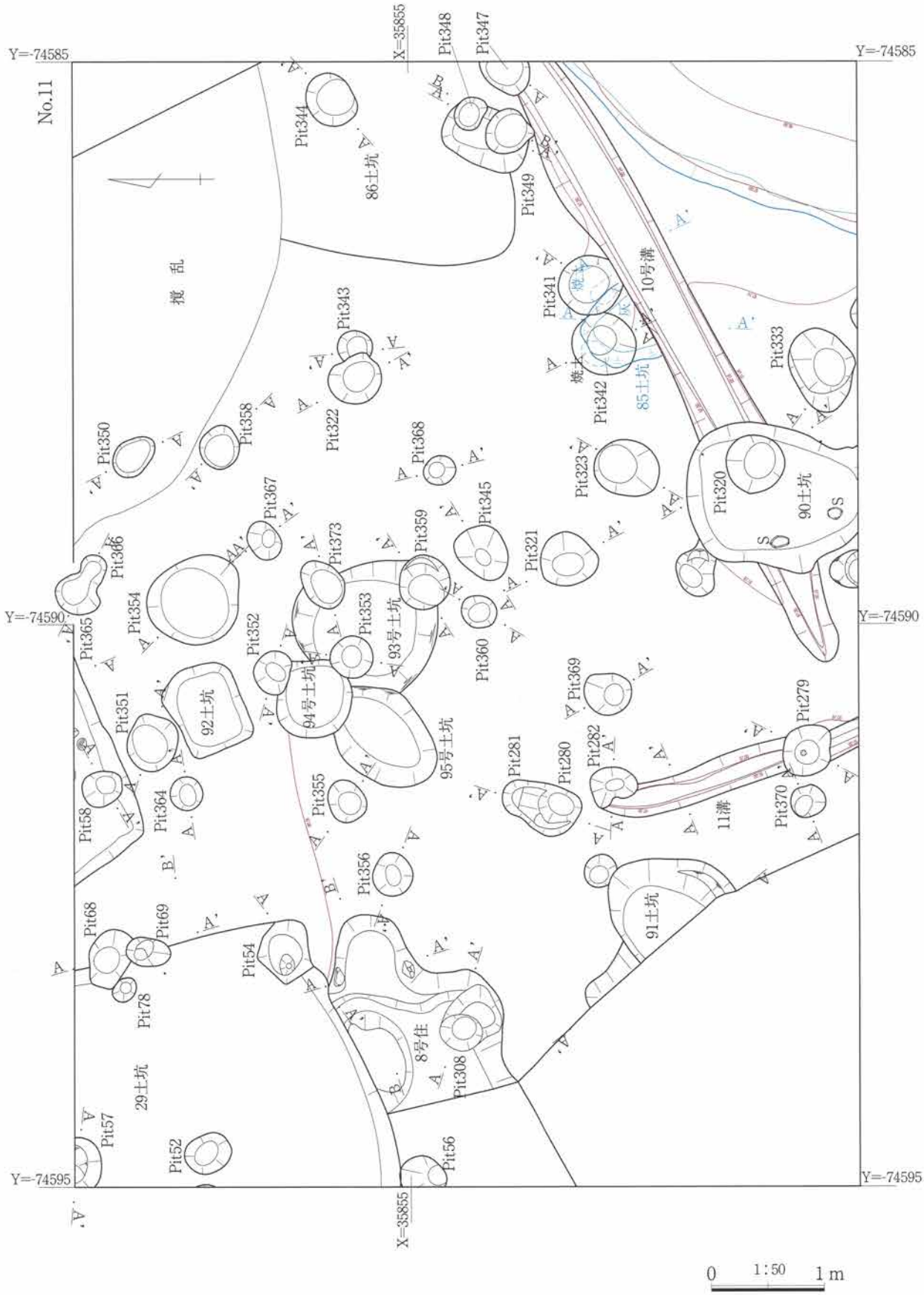
第38図　２区畠状遺構下遺構群平面図（８）



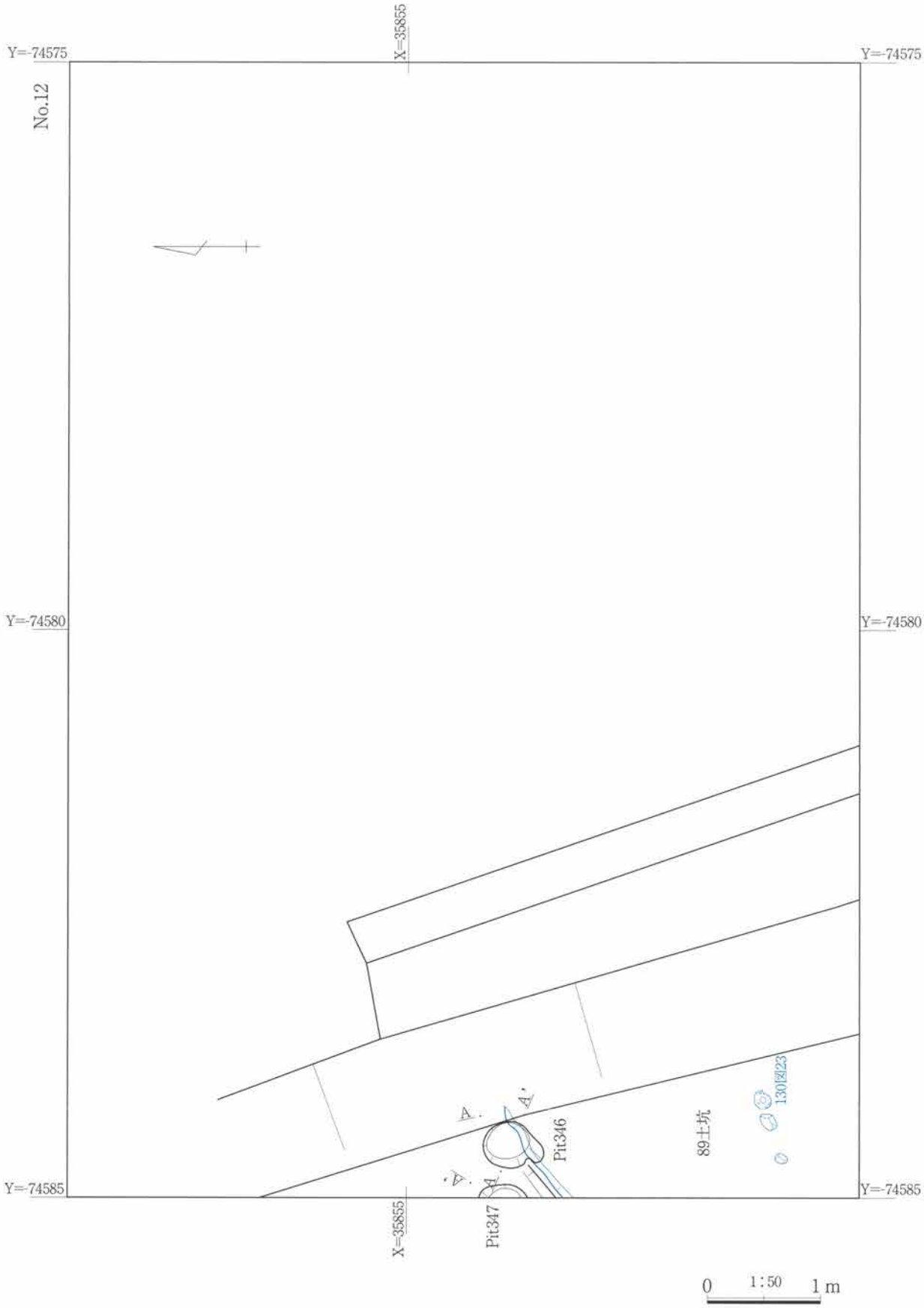
第39図　2区畠状遺構下遺構群平面図（9）



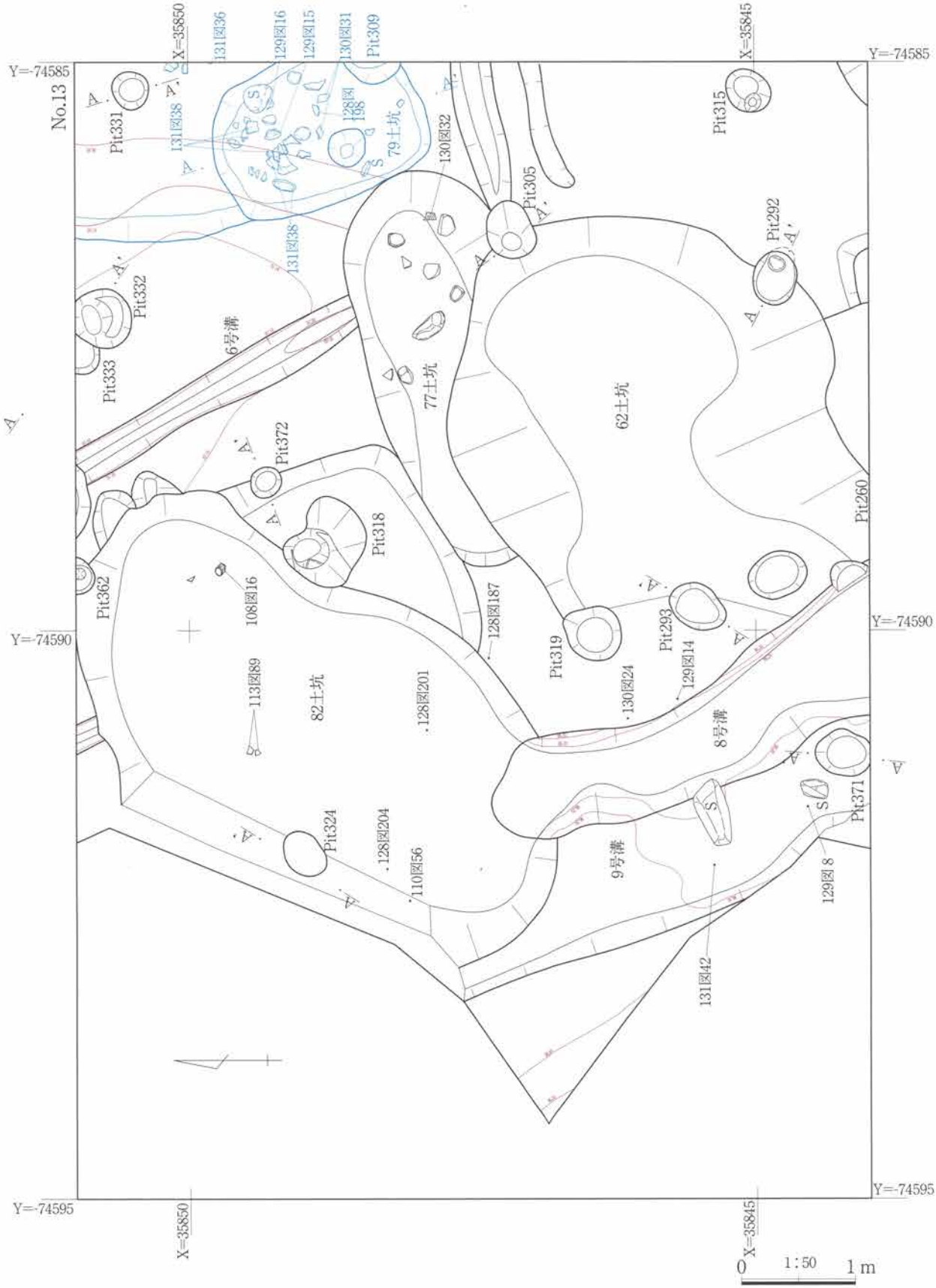
第40図　２区畠状遺構下遺構群平面図（10）



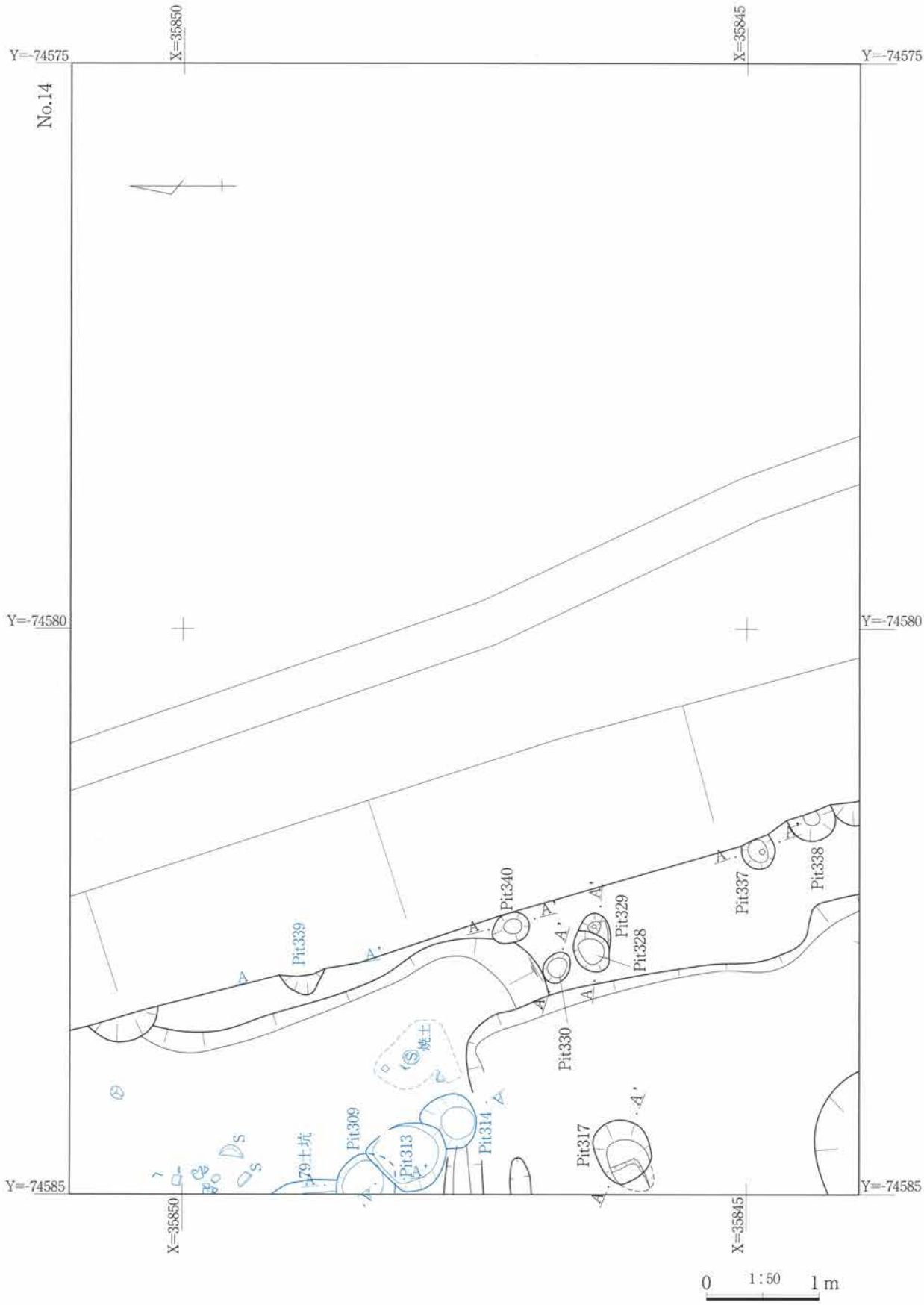
第41図　2区畠状遺構下遺構群平面図（11）



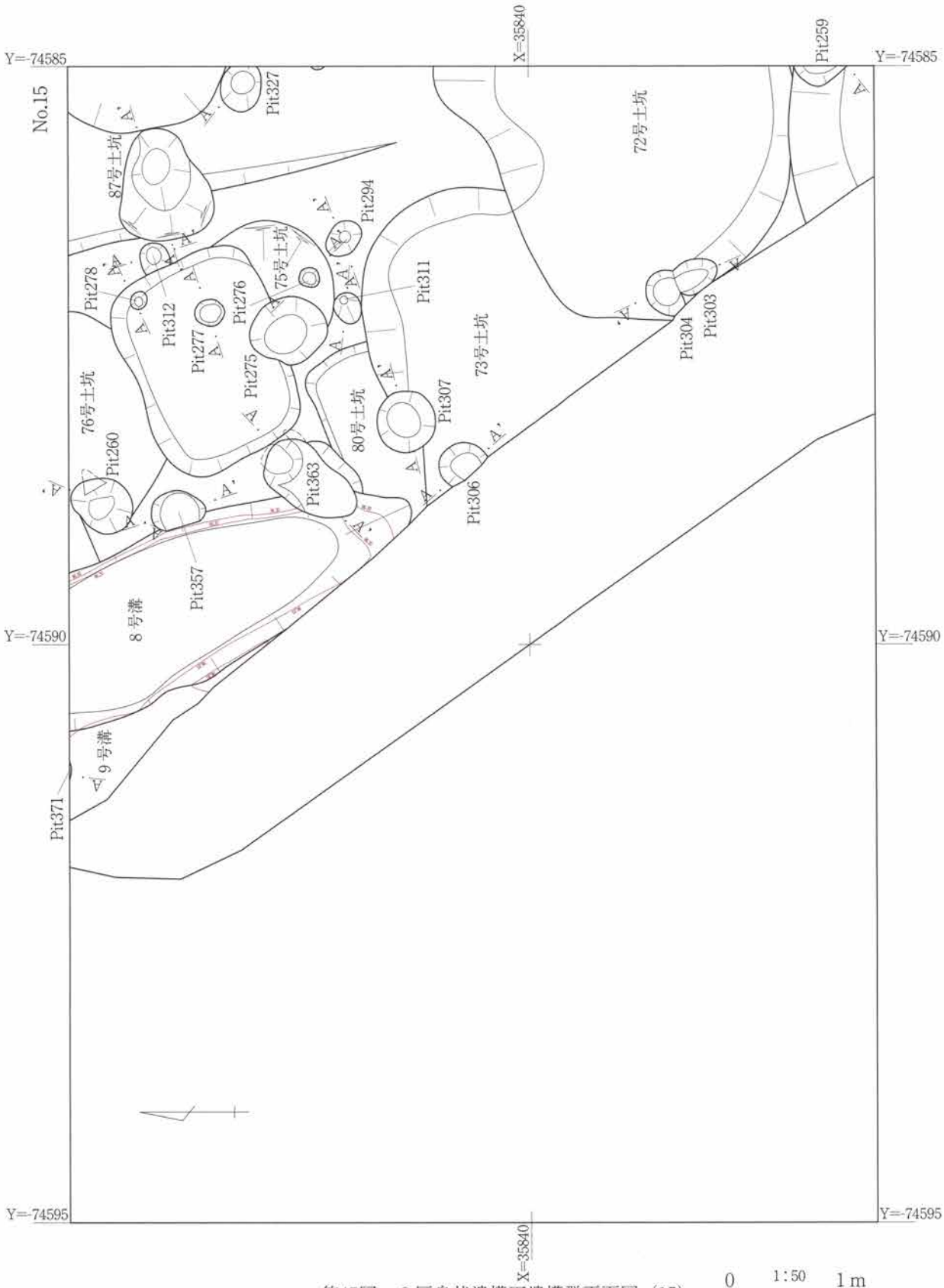
第42図　２区畠状遺構下遺構群平面図（12）



第43図　2区畠状遺構下遺構群平面図（13）

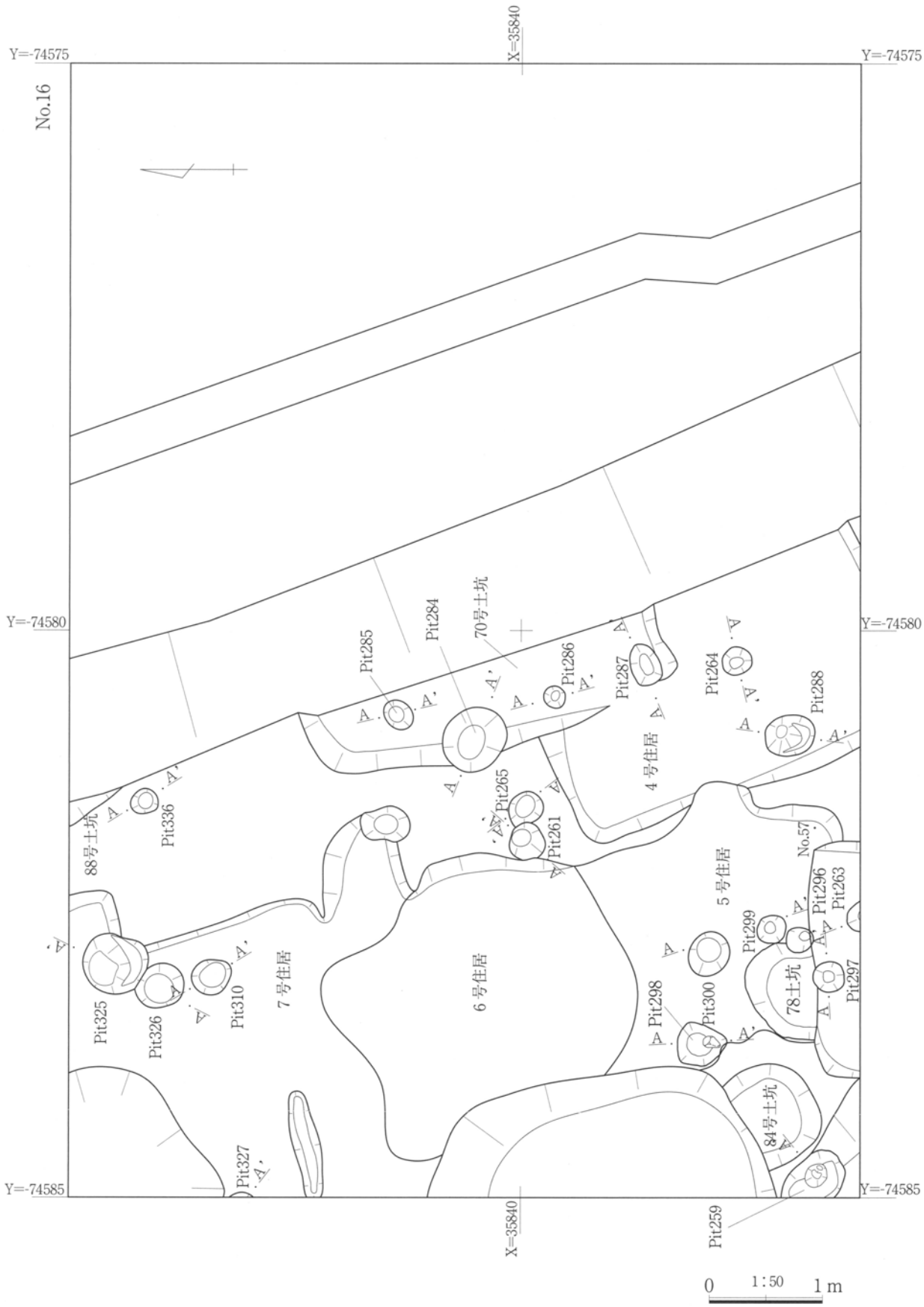


第44図　2区畠状遺構下遺構群平面図（14）

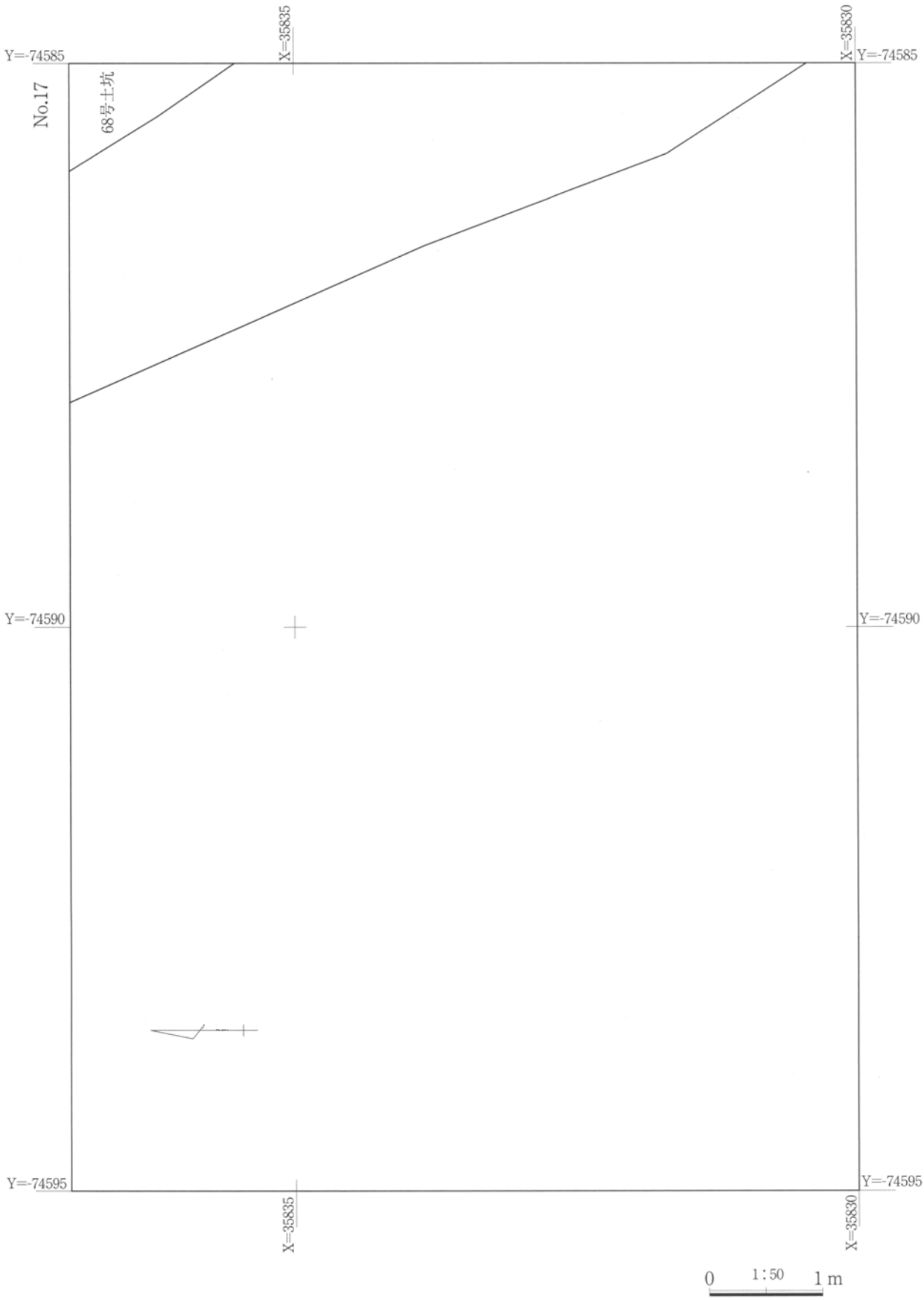


第45図　2区畠状遺構下遺構群平面図（15）

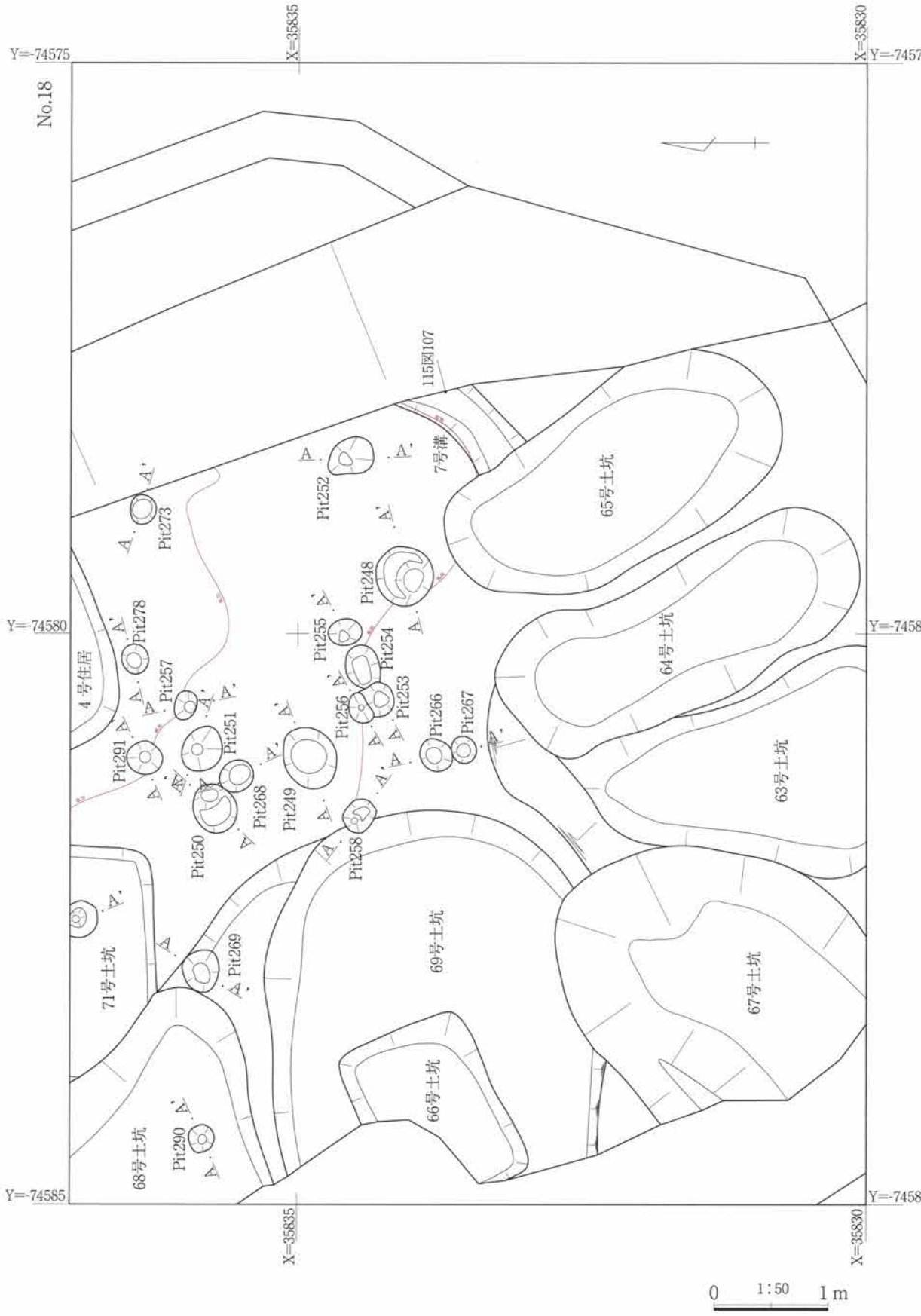
0　1:50　1m



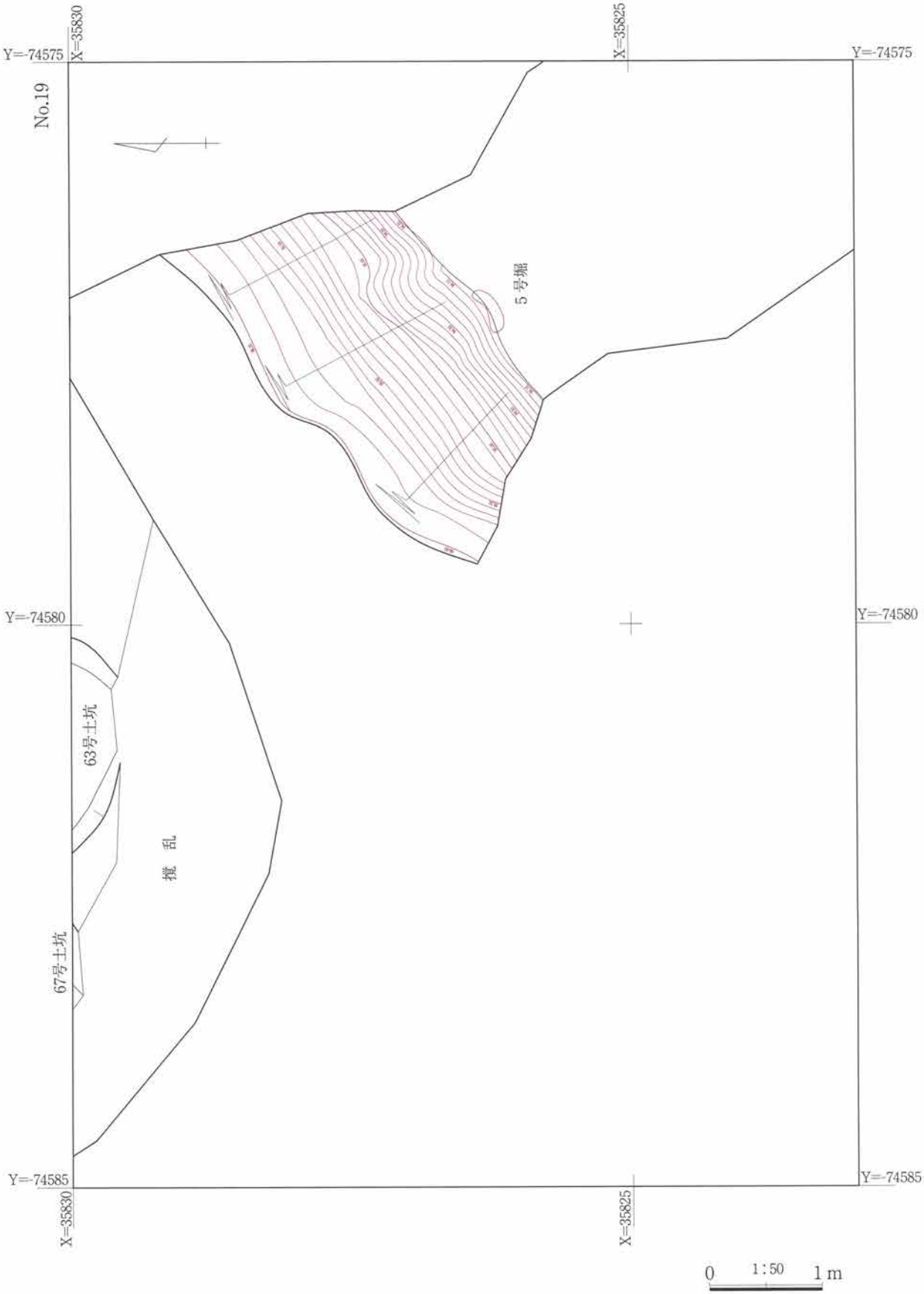
第46図　２区畠状遺構下遺構群平面図（16）



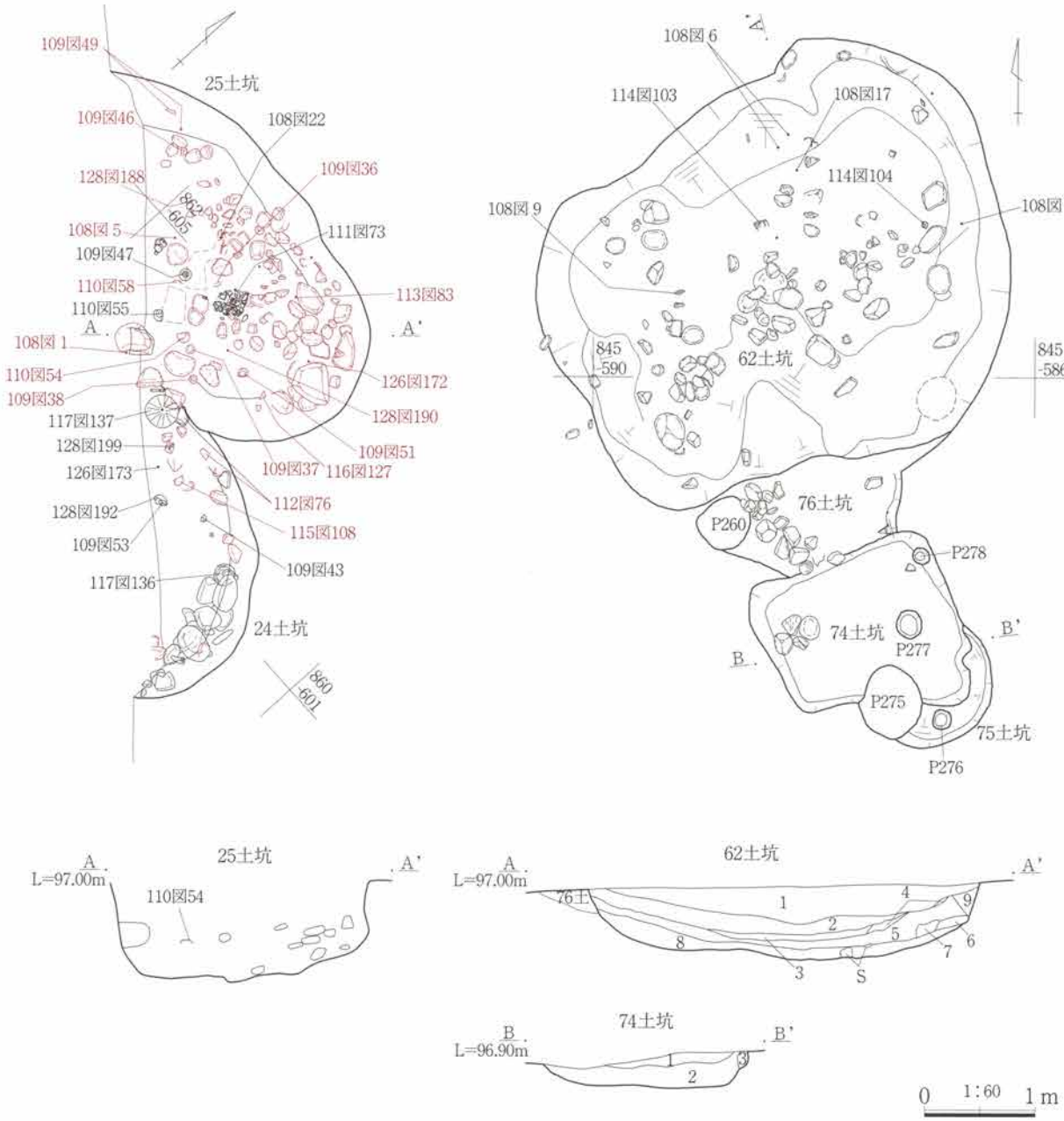
第47図　2区畠状遺構下遺構群平面図（17）



第48図　2区畠状遺構下遺構群平面図（18）



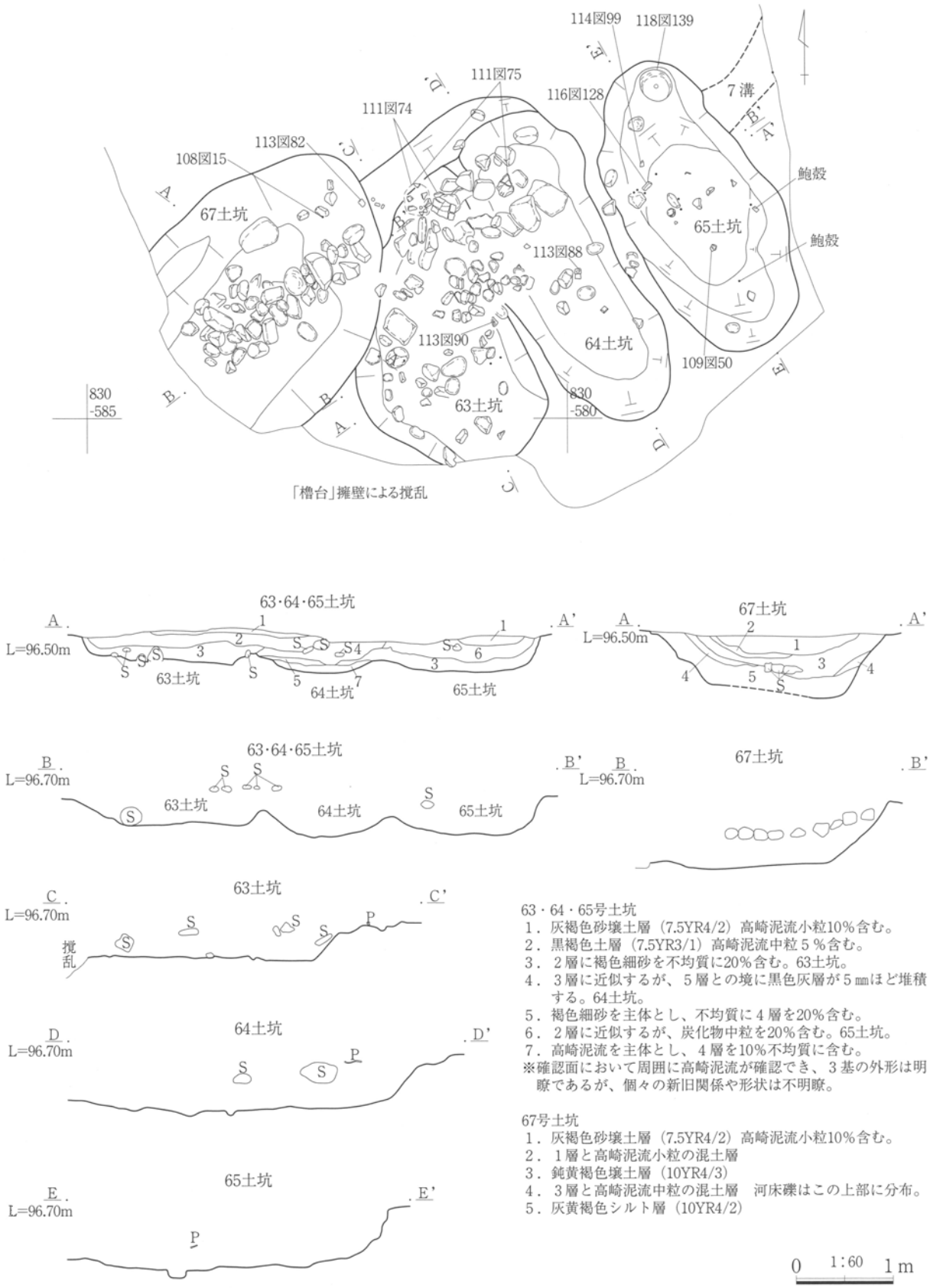
第49図　2区畠状遺構下遺構群平面図（19）



62土坑
1．暗褐色砂壌土層（10YR3/3）下部部分的に細砂含む。
2．暗褐色砂壌土層（10YR3/4）
3．２層に高崎泥流小粒10％含む。
4．灰層
5．暗褐色壌土層（10YR3/3）炭化物小塊５％含む。
6．浅間Ｂ軽石？二次堆積層　軽石を主とし、暗褐色土を５％含む。
7．４層と６層の混土層
8．黒褐色土層（10YR2/3）高崎泥流粒「小～中」20％含む。
9．黒褐色土層（10YR2/2）他の埋土と異なり、硬く粘性がある。

74・75土坑
1．黒褐色壌土層（10YR3/2）高崎泥流小粒10％含む。
2．鈍黄褐色土層（10YR4/3）高崎泥流粒「極小～小」30％含む。
3．暗褐色砂壌土層　浅間Ｂ軽石？を主体とし、暗褐色土を含む。75土坑。

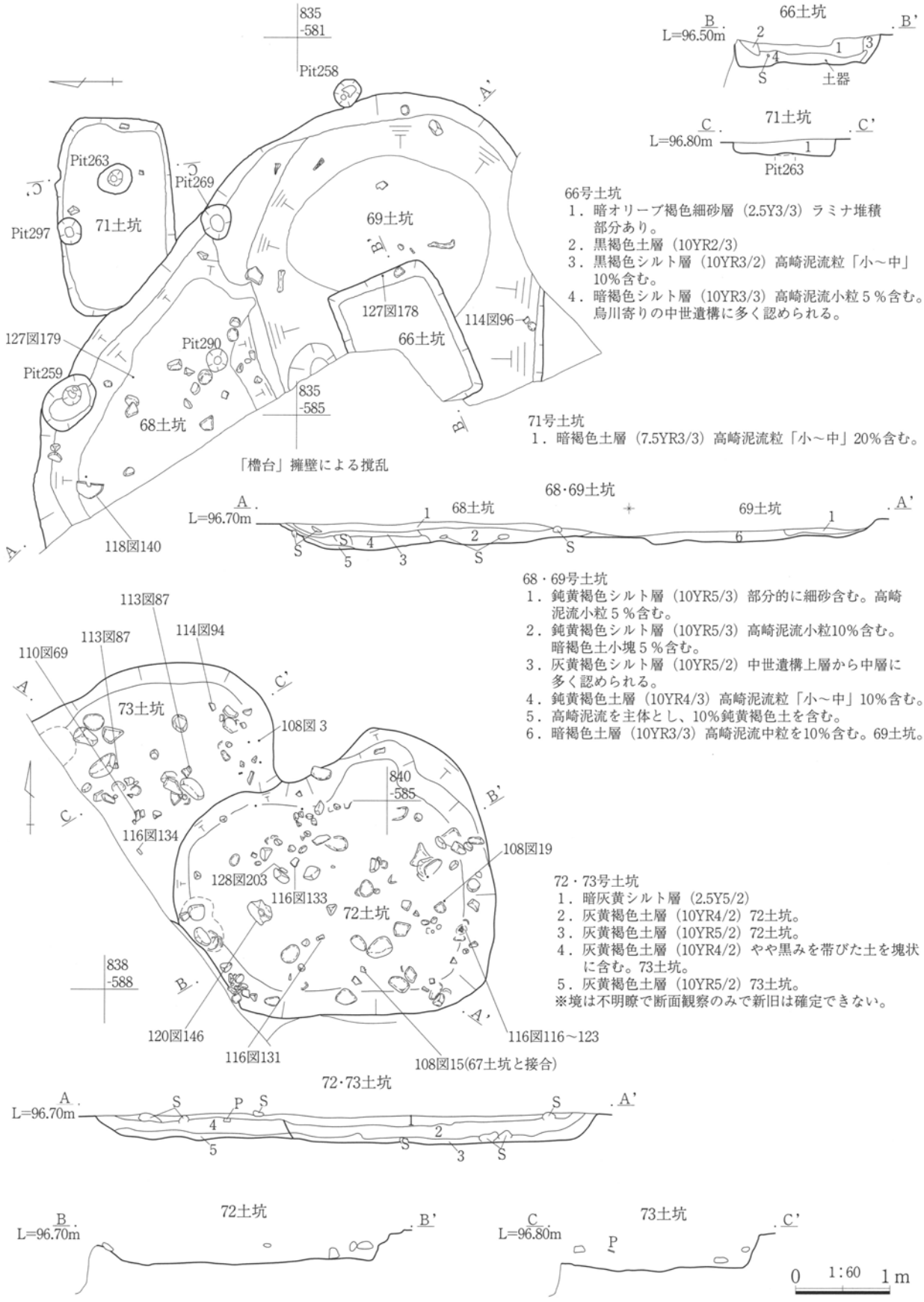
第50図　24・25号土坑、62・74・76号土坑遺物出土状態図



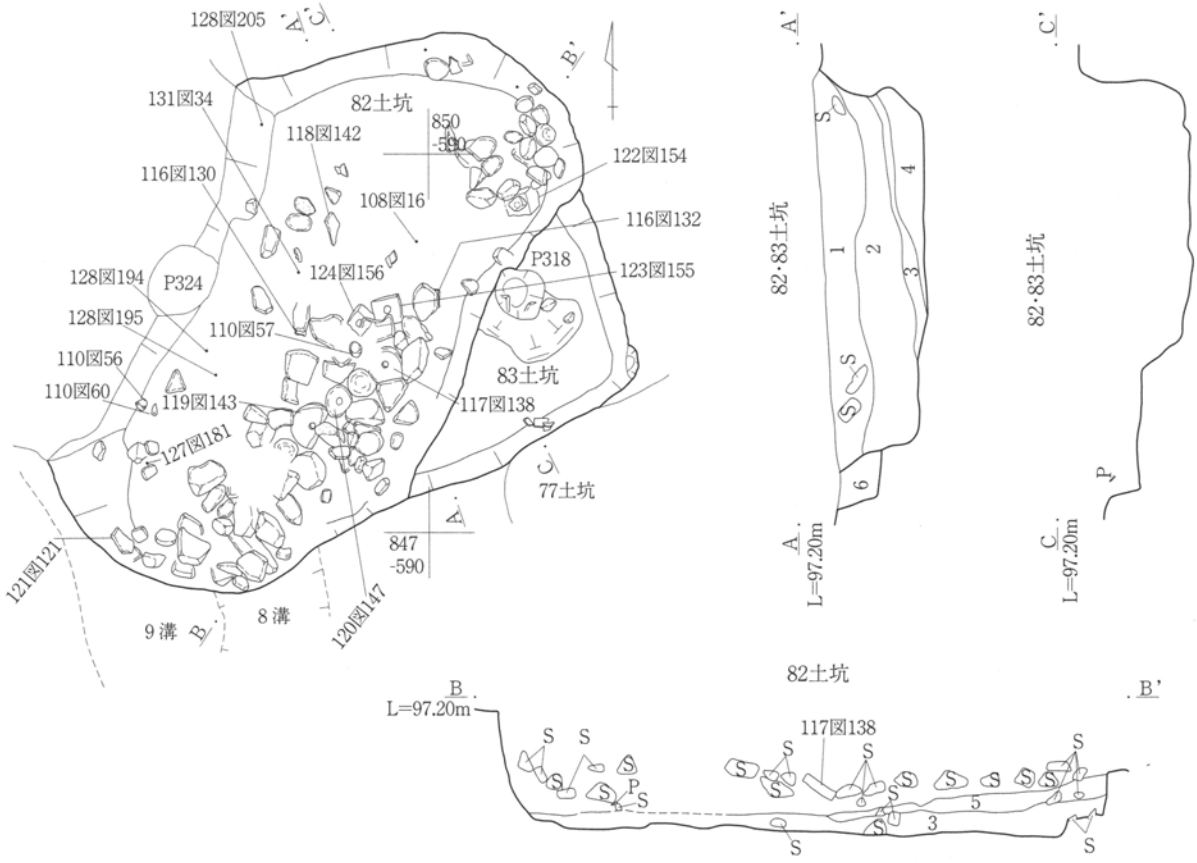
63・64・65号土坑
1．灰褐色砂壌土層（7.5YR4/2）高崎泥流小粒10％含む。
2．黒褐色土層（7.5YR3/1）高崎泥流中粒５％含む。
3．２層に褐色細砂を不均質に20％含む。63土坑。
4．３層に近似するが、５層との境に黒色灰層が５㎜ほど堆積する。64土坑。
5．褐色細砂を主体とし、不均質に４層を20％含む。
6．２層に近似するが、炭化物中粒を20％含む。65土坑。
7．高崎泥流を主体とし、４層を10％不均質に含む。
※確認面において周囲に高崎泥流が確認でき、３基の外形は明瞭であるが、個々の新旧関係や形状は不明瞭。

67号土坑
1．灰褐色砂壌土層（7.5YR4/2）高崎泥流小粒10％含む。
2．１層と高崎泥流小粒の混土層
3．鈍黄褐色壌土層（10YR4/3）
4．３層と高崎泥流中粒の混土層　河床礫はこの上部に分布。
5．灰黄褐色シルト層（10YR4/2）

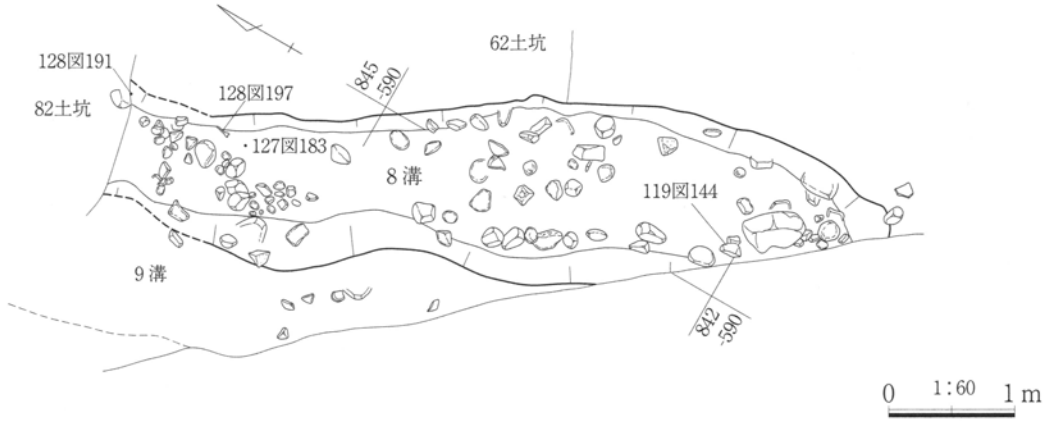
第51図　63・64・65号土坑、67号土坑遺物出土状態図



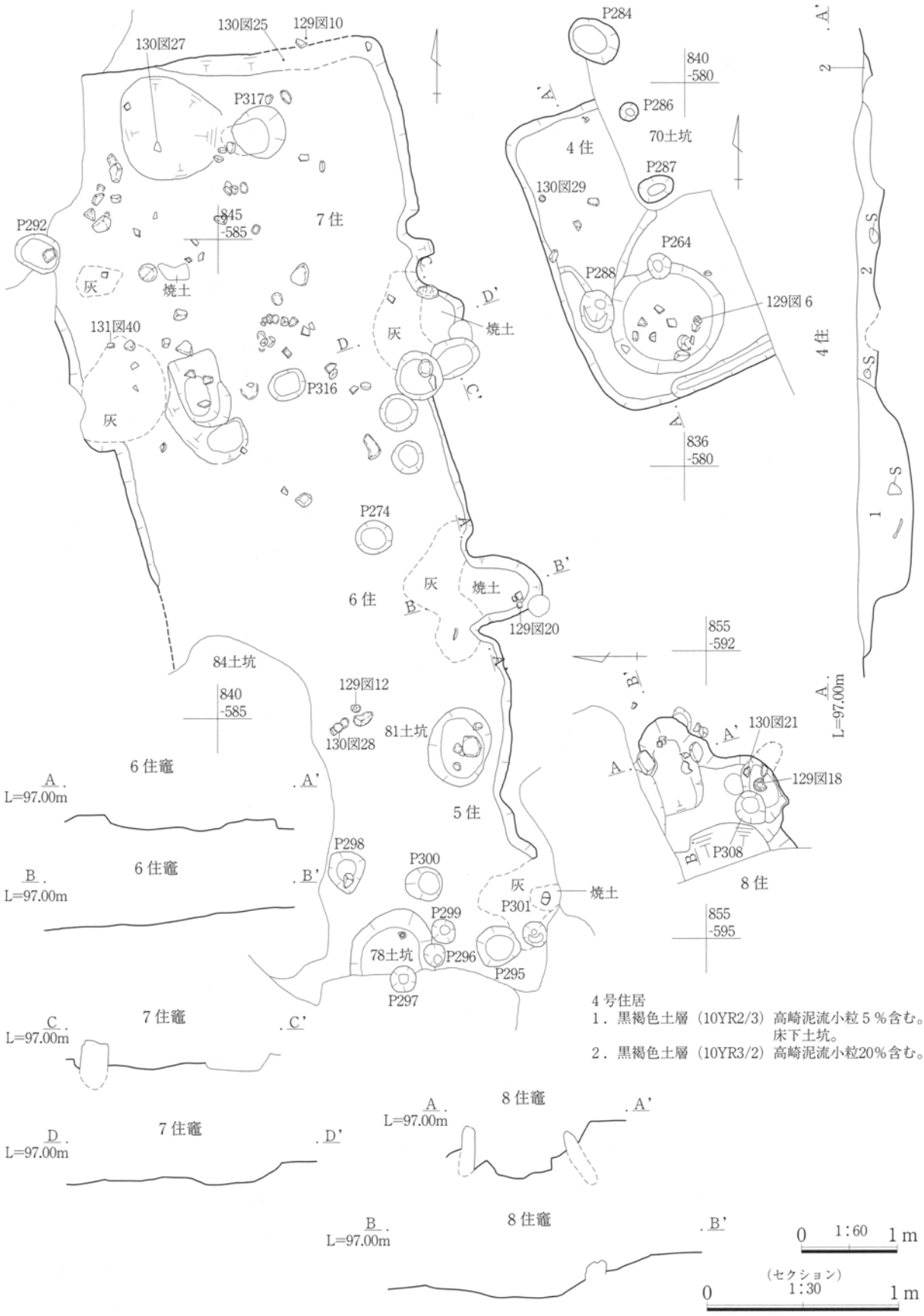
第52図　66号土坑、68・69号土坑、71・72・73号土坑遺物出土状態図



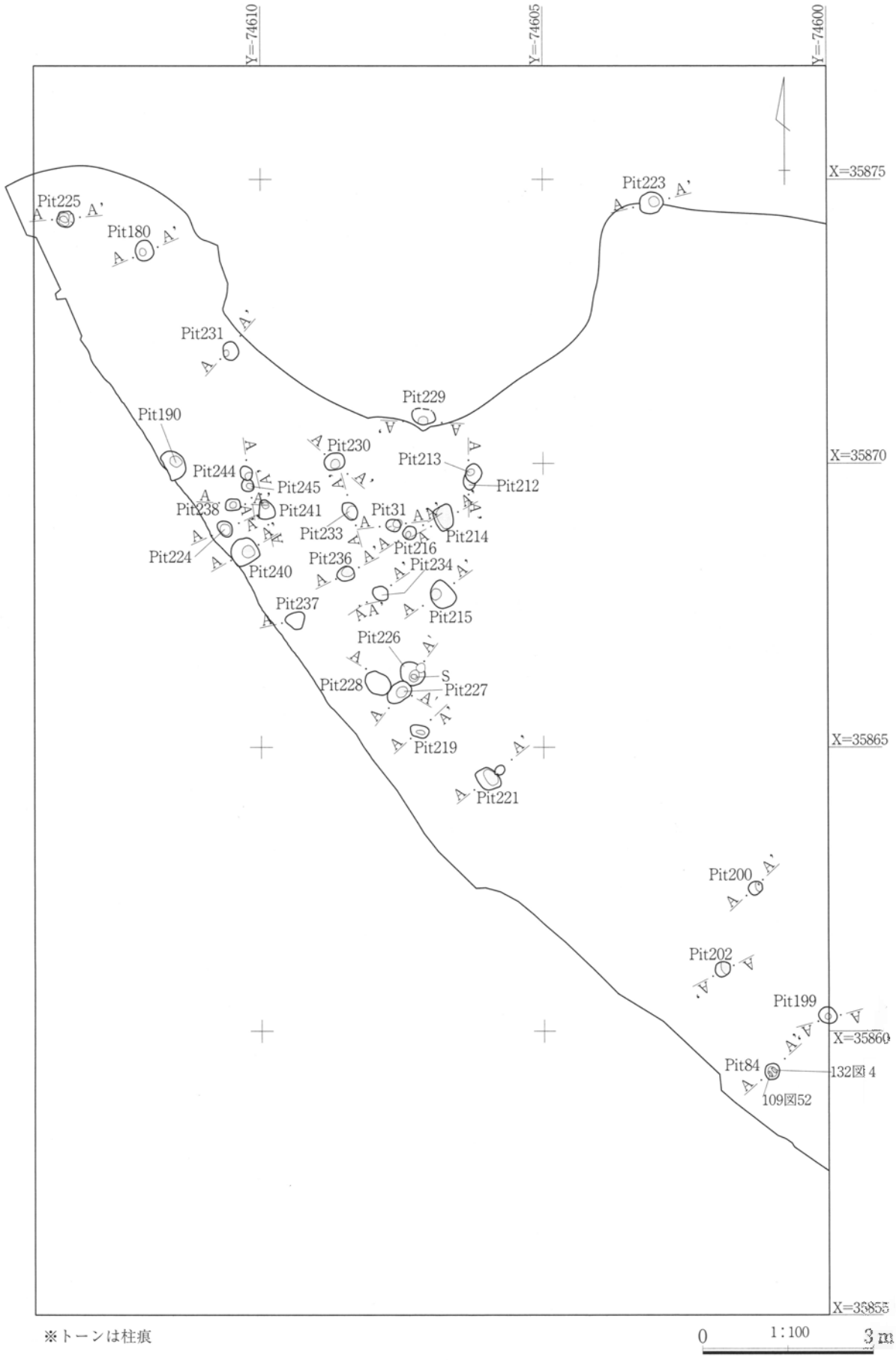
82・83号土坑
1．鈍黄褐色シルト層（10YR4/3）高崎泥流小粒５％含む。中世遺構群西寄りに一般的に認められる堆積土。
2．褐色砂壌土層（10YR4/4）炭化物小粒５％含む。
3．黒褐色土と粒状高崎泥流の混土層
4．黒褐色土層（10YR2/2）
5．黒色灰層
6．黒褐色砂壌土層（10YR2/2）締まりあり硬い。高崎泥流粒「中」を均質に20％含む。83土坑。



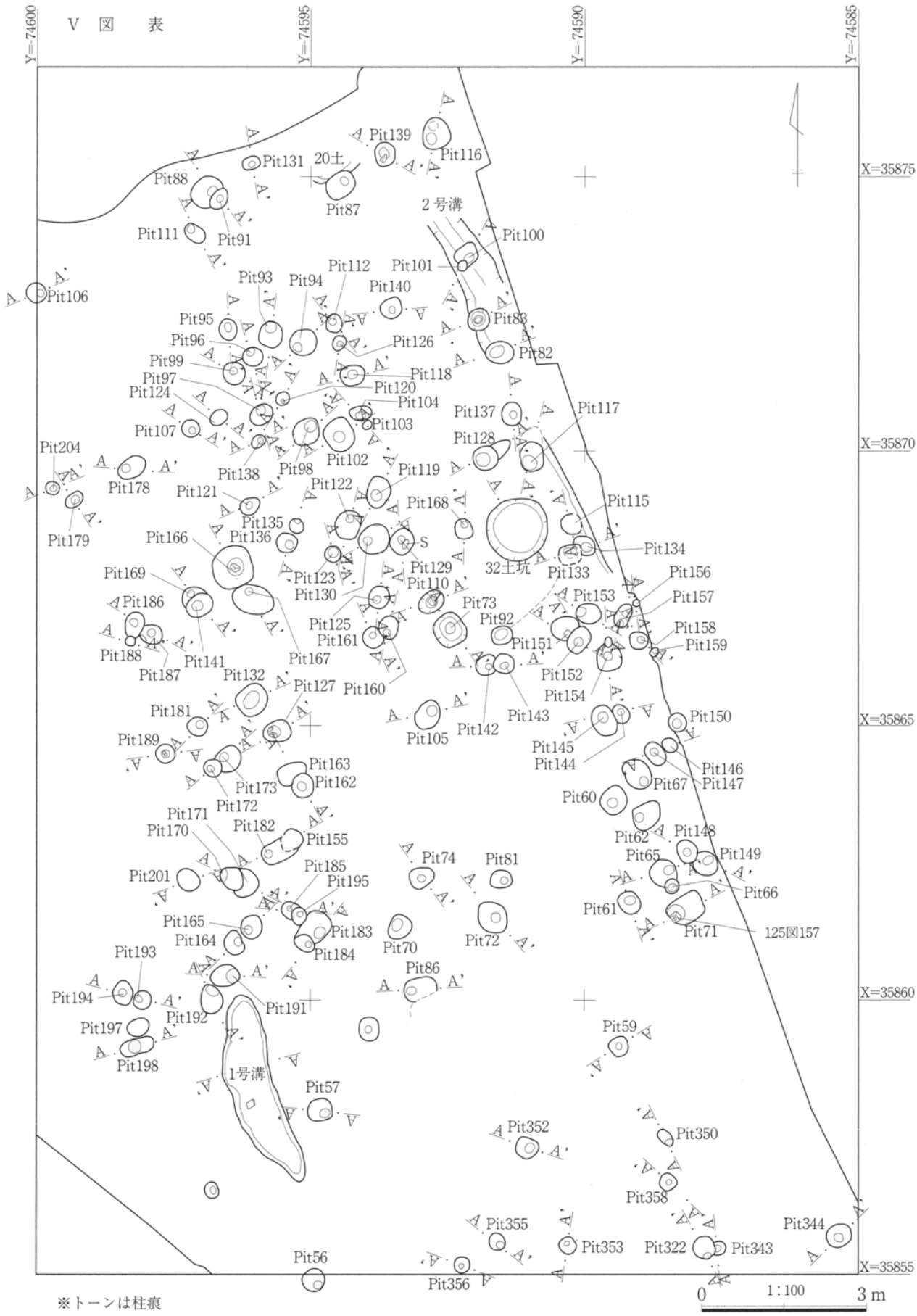
第53図　82・83号土坑、８号溝遺物出土状態図



第54図　４号竪穴住居、５～８号竪穴住居遺物出土状態図

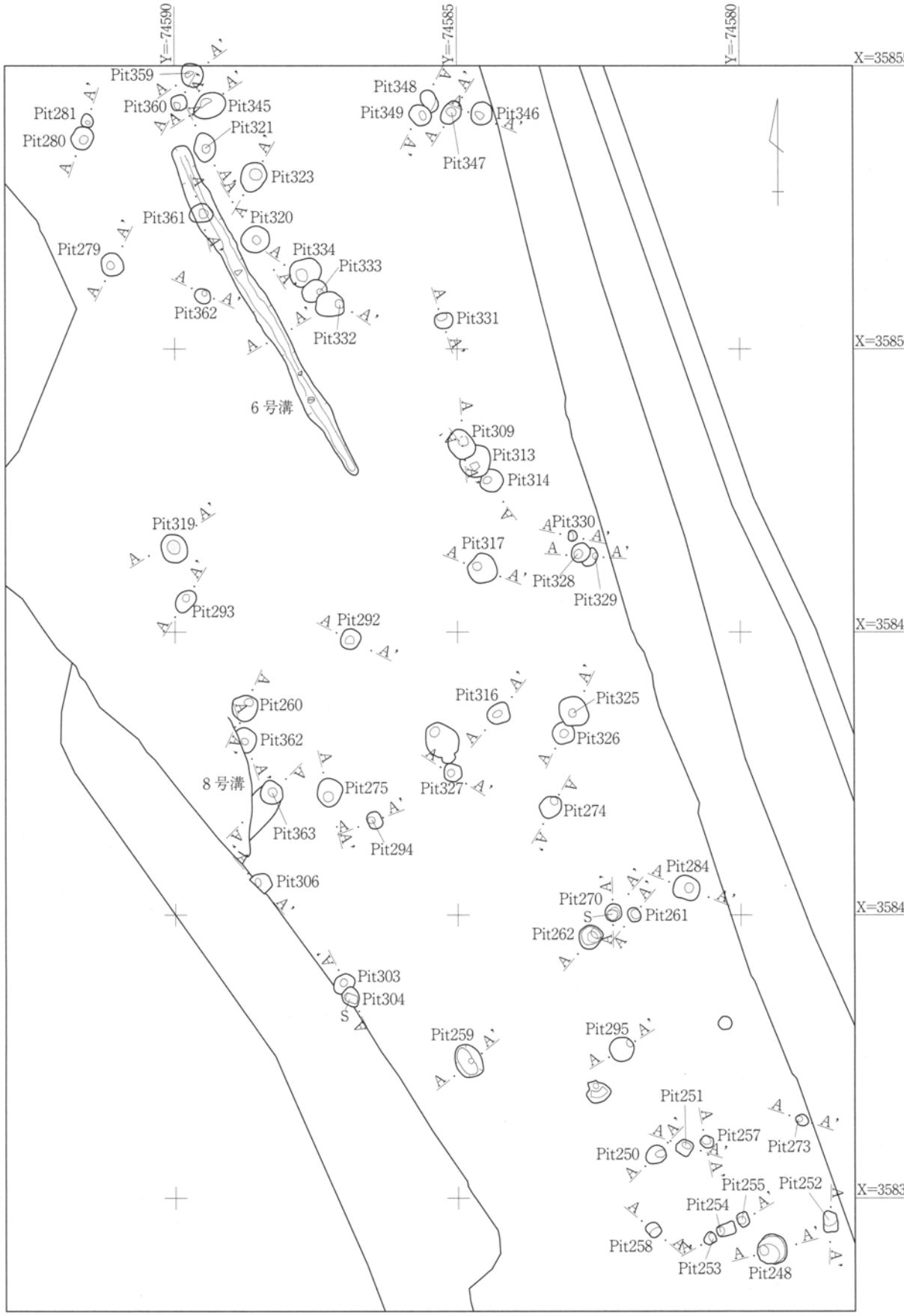


第55図　２区畠状遺構下ピット群柱痕平面図（１）



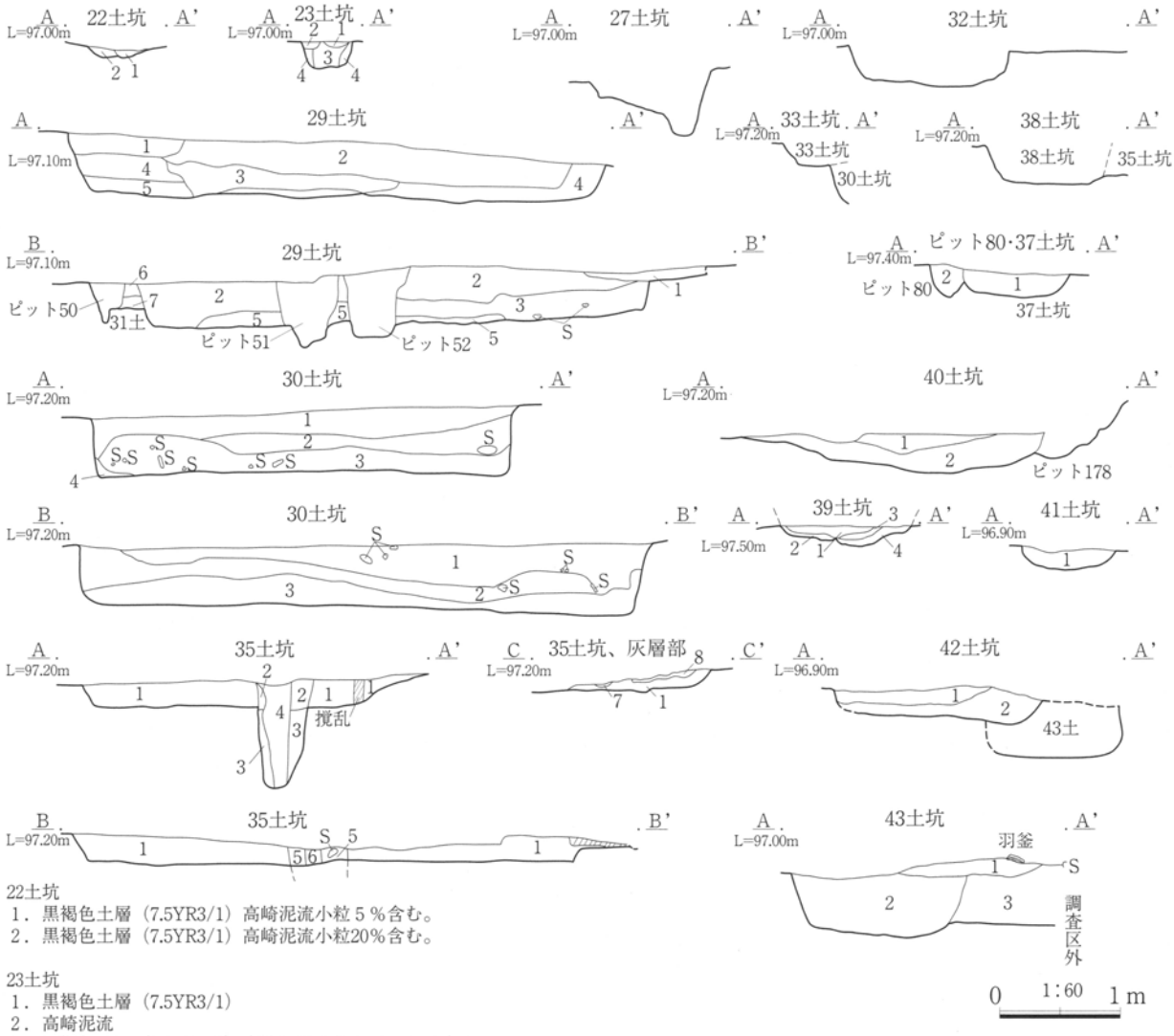
※トーンは柱痕

第56図　2区畠状遺構下ピット群柱痕平面図（2）



※トーンは柱痕

第57図　２区畠状遺構下ピット群柱痕平面図（３）



22土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/1）高崎泥流小粒５％含む。
2．黒褐色土層（7.5YR3/1）高崎泥流小粒20％含む。

23土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/1）
2．高崎泥流
3．黒褐色土層（7.5YR3/1）高崎泥流小粒を５～10％含む。
4．黒褐色土層（7.5YR3/1）高崎泥流含まない。

29・31土坑
1．暗褐色土層（10YR3/4）高崎泥流粒「小～中」不均質に10％含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流小粒30％含む。
3．黒褐色土層（7.5YR3/2）高崎泥流中粒10％含む。
4．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒「小～大」30％不均質に含む。
5．３層と高崎泥流粒「小～中」の混土層
6．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流を含まない。31号土坑。
7．５層に同じ。31号土坑。
ピット50・51・52
色調は５層と区別できないが、粒状をなし、締まりがない。

30土坑
1．暗褐色土層（10YR3/4）泥流をほとんど含まない。
2．１層に黒色土小塊を５％、灰黄褐色土粒を20％含む。
3．褐色土層（10YR4/6）高崎泥流を主体とし、暗褐色土を10～20％不均質に含む。人為埋土と推定。
4．黒褐色土層（10YR2/2）

35土坑
1．極暗褐色土層（7.5YR2/3）高崎泥流粒20％不均質に含む。
2．泥流塊。ピット70掘方
3．黒褐色土層（10YR2/2）締まりあり。ピット70掘方。
4．黒褐色土層（10YR2/3）締まりなく、粒状を呈する。ピット70柱痕。
5．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒10％含む。ピット74掘方。
6．暗褐色土層（10YR3/3）粒状を呈し、締まりなく崩れやすい。ピット74柱痕。
7．灰色灰層（7.5Y5/1）
8．褐灰色灰層（10YR5/1）炭少量含む。

37土坑、ピット80
1．黒褐色土層（7.5YR3/1）高崎泥流小粒を10％含む。37土坑。
2．黒褐色土層（7.5YR3/2）高崎泥流小粒を40％含む。ピット80。

39土坑
1．黒褐色土層（5YR2/2）焼土粒、炭化物粒を５％以下含む。
2．褐灰色細砂層（5YR5/1）灰を少量含む。
3．１層と２層の混土層
4．暗赤褐色土層（5YR3/2）灰20％含む。

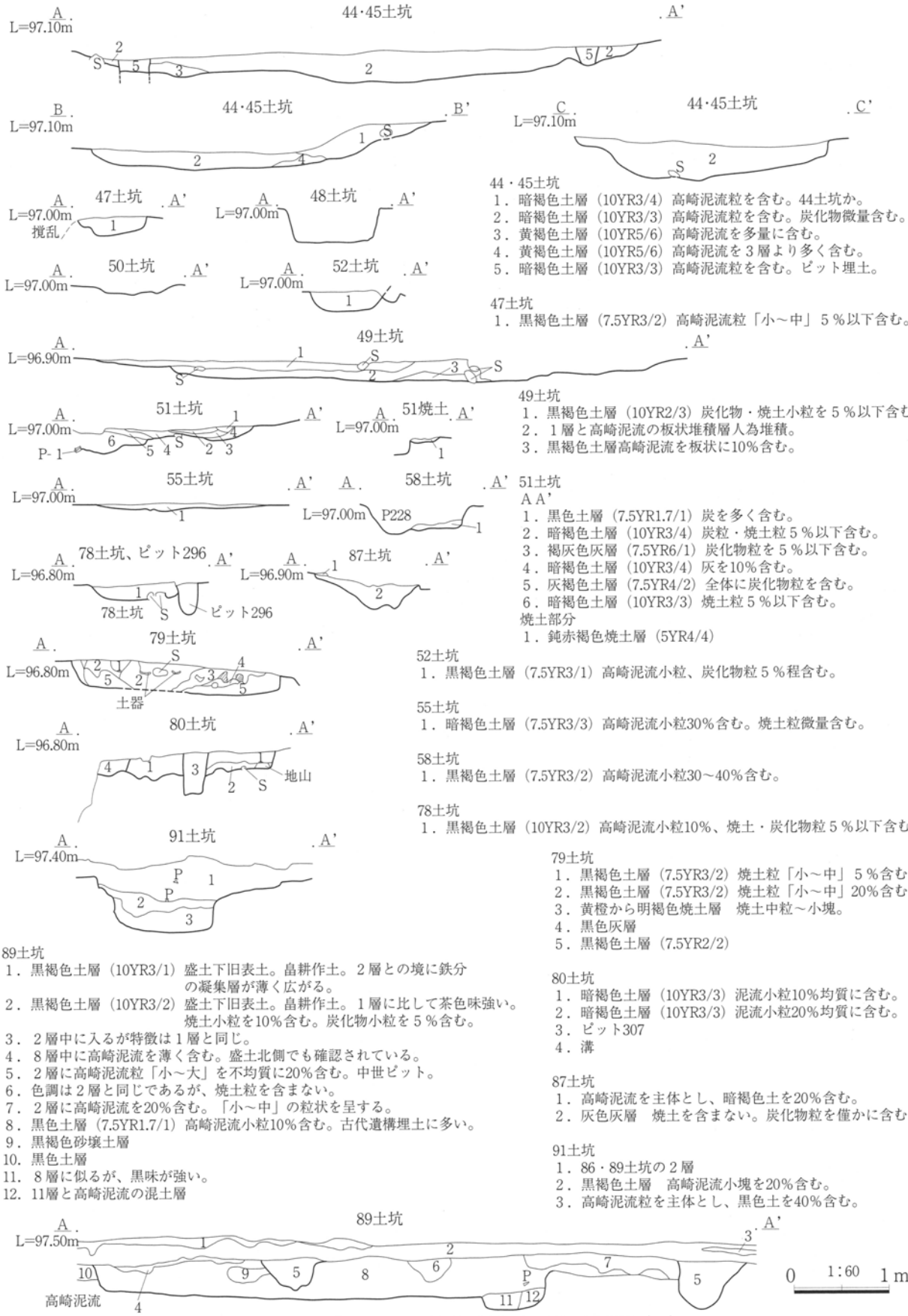
40土坑
1．高崎泥流を主体とし、黒褐色土を10％不均質に含む。
2．黒褐色土層（7.5YR2/2）高崎泥流小粒を10％含む。

41土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/2）焼土・泥流粒５％以下含む。

42土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/1）木炭片、焼土、泥流粒含む。
2．暗褐色土層（7.5YR3/4）高崎泥流小粒を40％含む。

43土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/1）木炭片、焼土、泥流粒含む。
2．暗褐色土層（7.5YR3/4）高崎泥流小粒を40％含む。
3．黒褐色土と高崎泥流粒の混土層

第58図　２区畠状遺構下土坑群断面図（１）



44・45土坑
1．暗褐色土層（10YR3/4）高崎泥流粒を含む。44土坑か。
2．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒を含む。炭化物微量含む。
3．黄褐色土層（10YR5/6）高崎泥流を多量に含む。
4．黄褐色土層（10YR5/6）高崎泥流を３層より多く含む。
5．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流粒を含む。ピット埋土。

47土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/2）高崎泥流粒「小～中」５％以下含む。

49土坑
1．黒褐色土層（10YR2/3）炭化物・焼土小粒を５％以下含む。
2．１層と高崎泥流の板状堆積層人為堆積。
3．黒褐色土層高崎泥流を板状に10％含む。

51土坑
A A'
1．黒色土層（7.5YR1.7/1）炭を多く含む。
2．暗褐色土層（10YR3/4）炭粒・焼土粒５％以下含む。
3．褐灰色灰層（7.5YR6/1）炭化物粒を５％以下含む。
4．暗褐色土層（10YR3/4）灰を10％含む。
5．灰褐色土層（7.5YR4/2）全体に炭化物粒を含む。
6．暗褐色土層（10YR3/3）焼土粒５％以下含む。
焼土部分
1．鈍赤褐色焼土層（5YR4/4）

52土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/1）高崎泥流小粒、炭化物粒５％程含む。

55土坑
1．暗褐色土層（7.5YR3/3）高崎泥流小粒30％含む。焼土粒微量含む。

58土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/2）高崎泥流小粒30～40％含む。

78土坑
1．黒褐色土層（10YR3/2）高崎泥流小粒10％、焼土・炭化物粒５％以下含む。

79土坑
1．黒褐色土層（7.5YR3/2）焼土粒「小～中」５％含む。
2．黒褐色土層（7.5YR3/2）焼土粒「小～中」20％含む。
3．黄橙から明褐色焼土層　焼土中粒～小塊。
4．黒色灰層
5．黒褐色土層（7.5YR2/2）

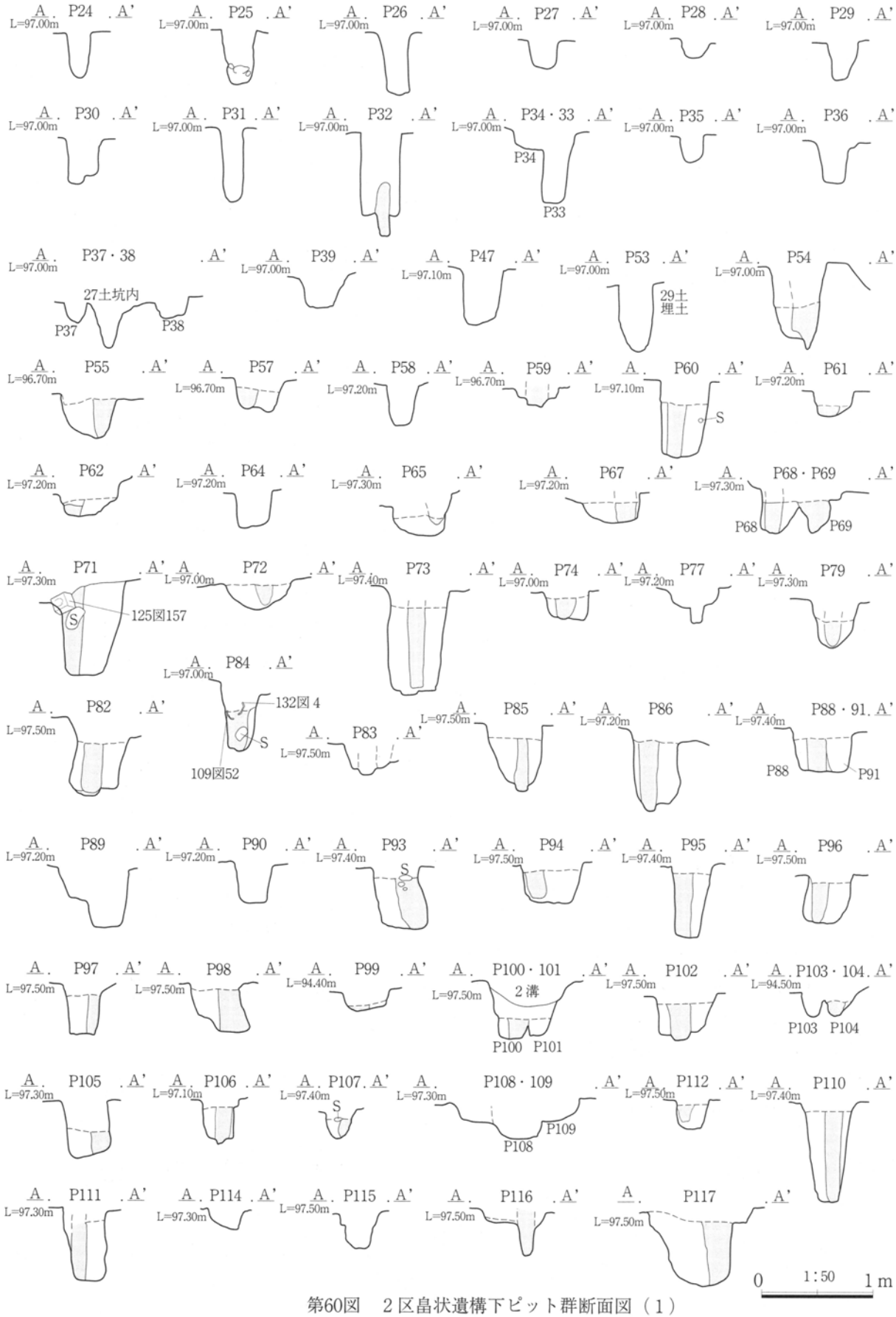
80土坑
1．暗褐色土層（10YR3/3）泥流小粒10％均質に含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）泥流小粒20％均質に含む。
3．ピット307
4．溝

87土坑
1．高崎泥流を主体とし、暗褐色土を20％含む。
2．灰色灰層　焼土を含まない。炭化物粒を僅かに含む。

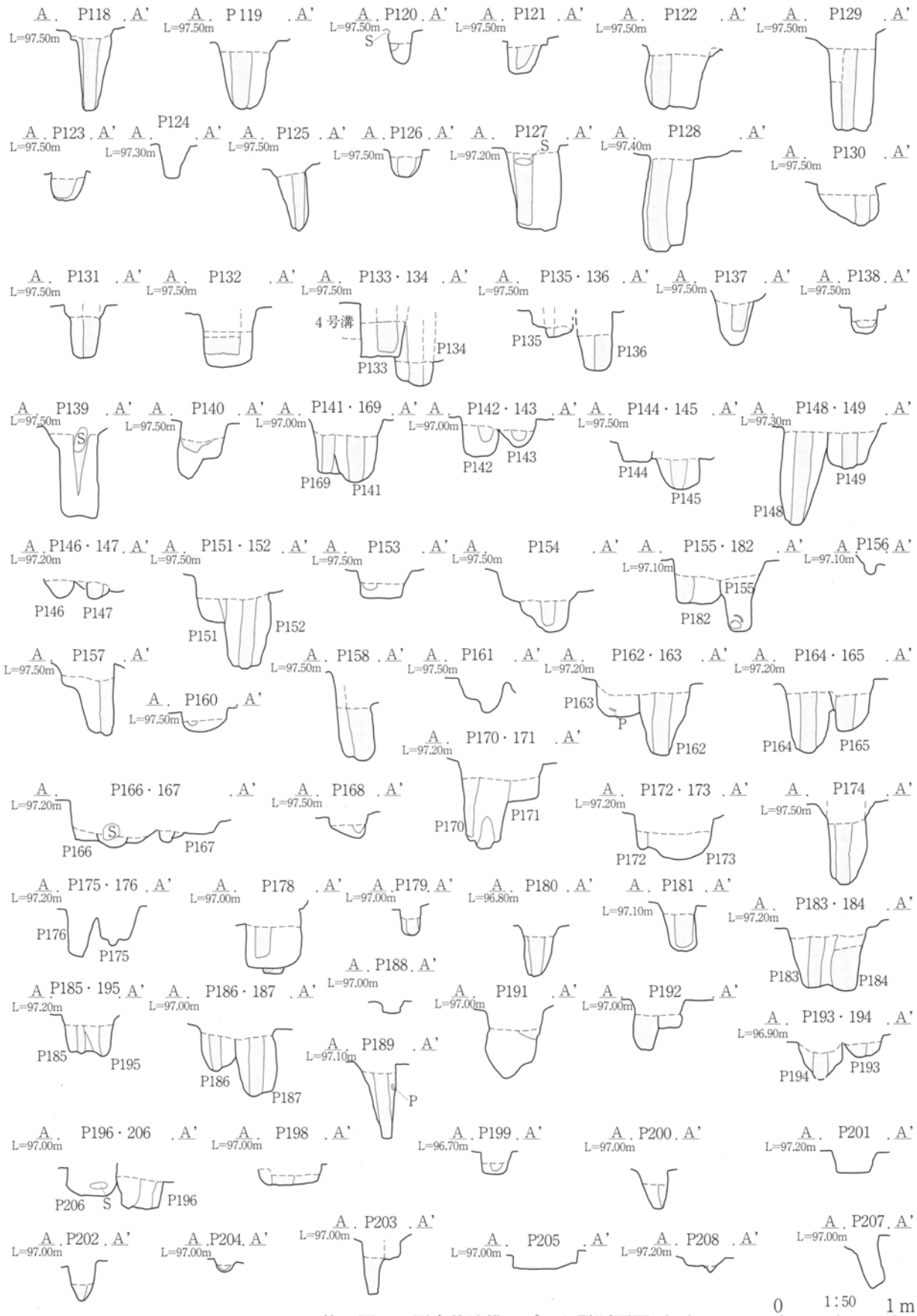
91土坑
1．86・89土坑の２層
2．黒褐色土層　高崎泥流小塊を20％含む。
3．高崎泥流粒を主体とし、黒色土を40％含む。

89土坑
1．黒褐色土層（10YR3/1）盛土下旧表土。畠耕作土。２層との境に鉄分の凝集層が薄く広がる。
2．黒褐色土層（10YR3/2）盛土下旧表土。畠耕作土。１層に比して茶色味強い。焼土小粒を10％含む。炭化物小粒を５％含む。
3．２層中に入るが特徴は１層と同じ。
4．８層中に高崎泥流を薄く含む。盛土北側でも確認されている。
5．２層に高崎泥流粒「小～大」を不均質に20％含む。中世ピット。
6．色調は２層と同じであるが、焼土粒を含まない。
7．２層に高崎泥流を20％含む。「小～中」の粒状を呈する。
8．黒色土層（7.5YR1.7/1）高崎泥流小粒10％含む。古代遺構埋土に多い。
9．黒褐色砂壌土層
10．黒色土層
11．８層に似るが、黒味が強い。
12．11層と高崎泥流の混土層

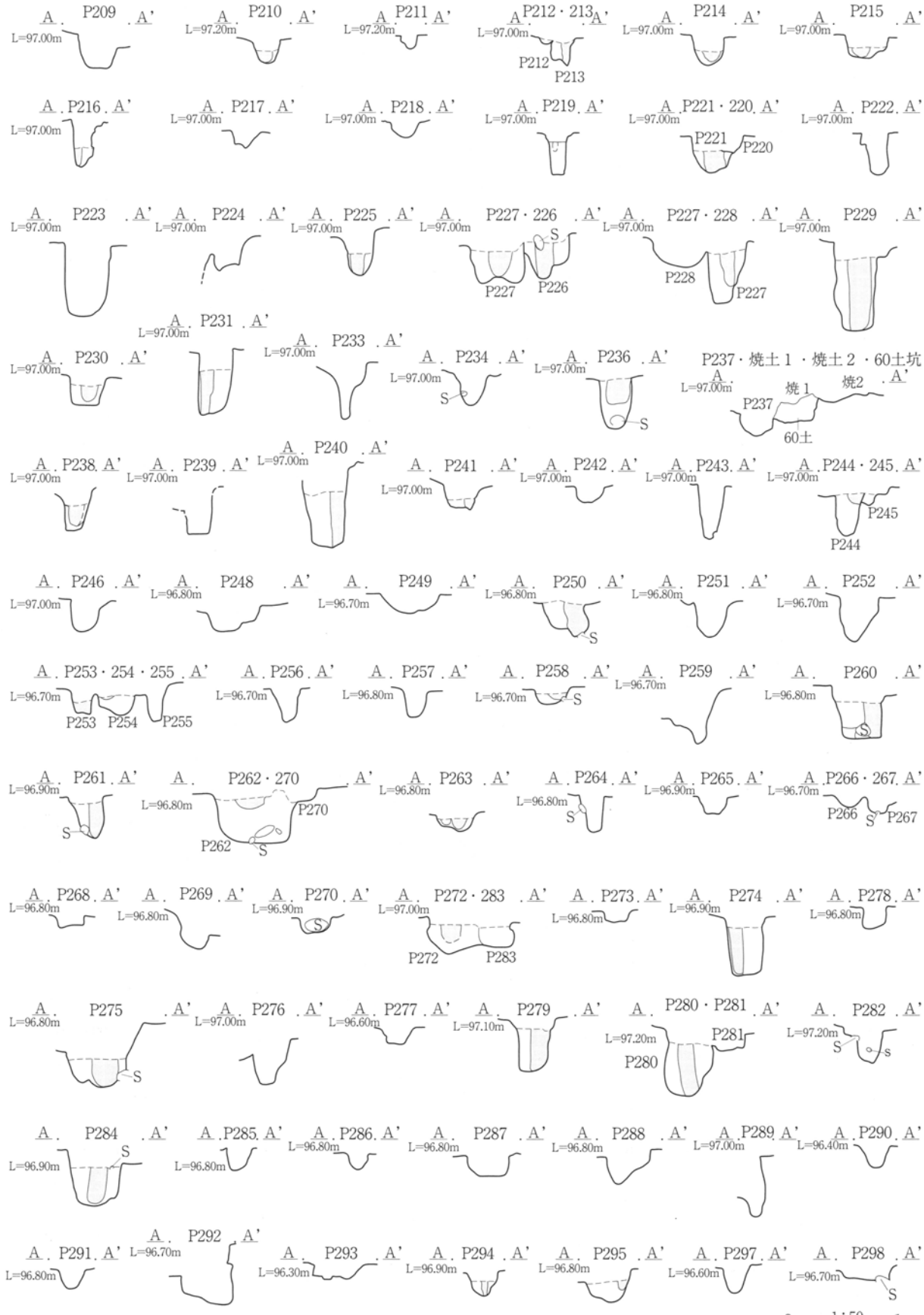
第59図　２区畠状遺構下土坑群断面図（２）



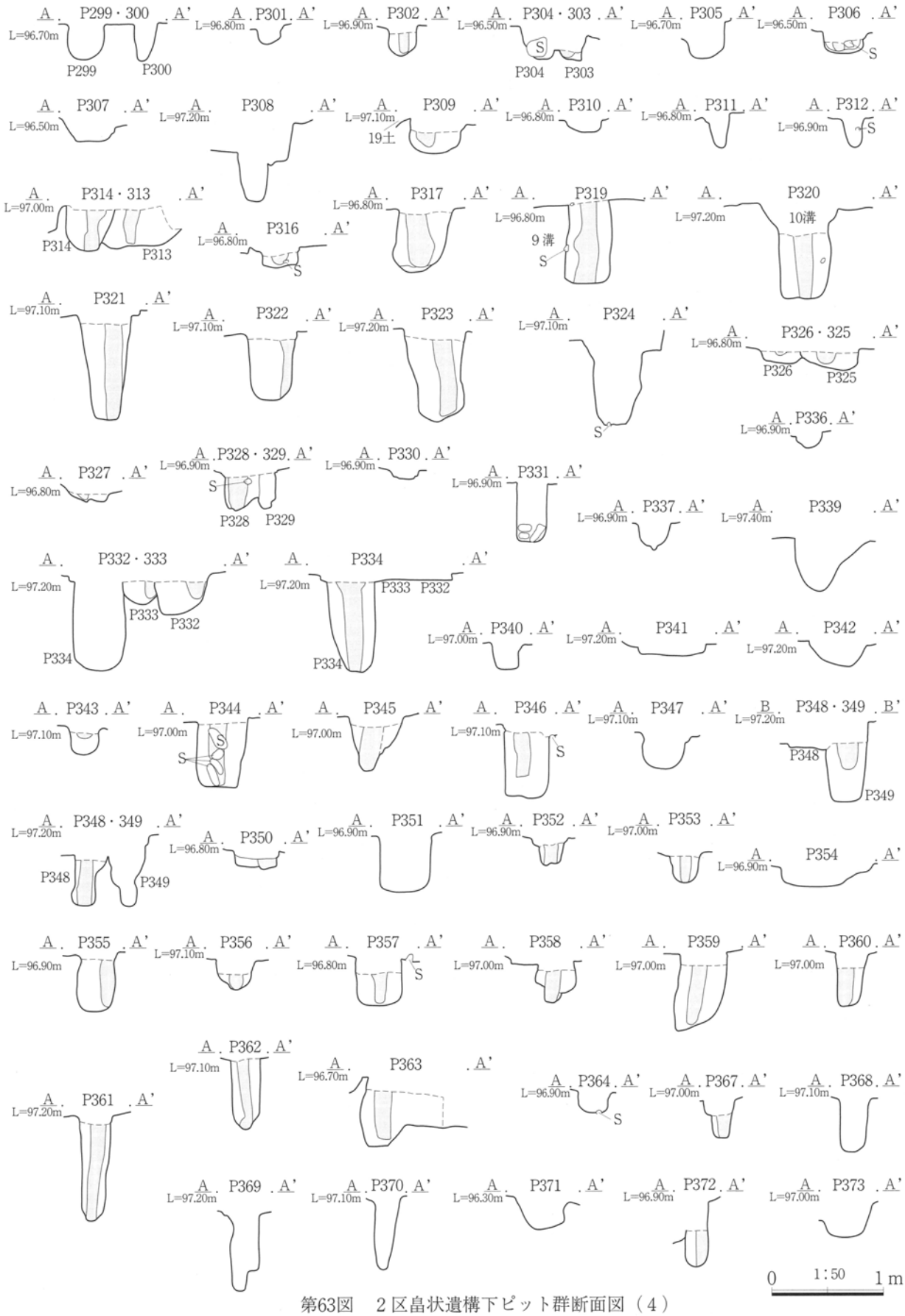
第60図　2区畠状遺構下ピット群断面図（1）



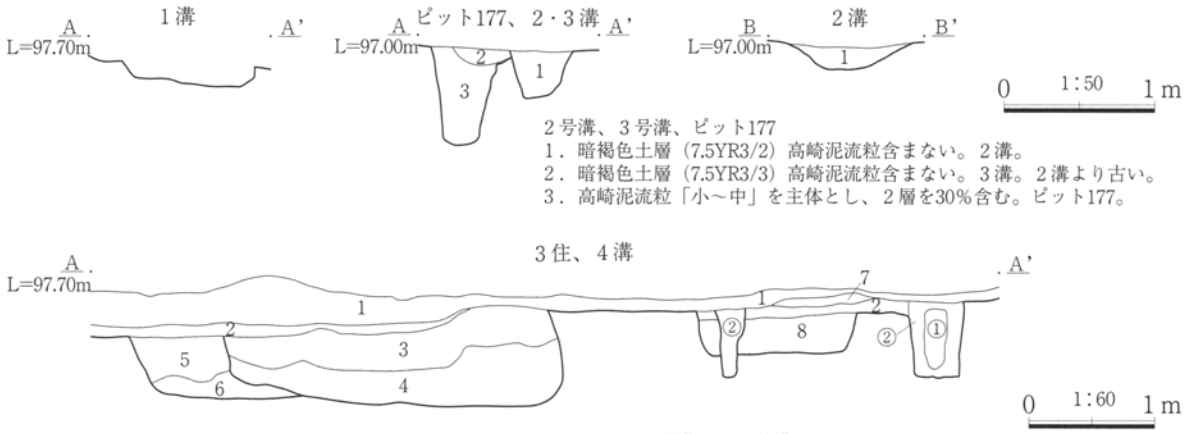
第61図　2区畠状遺構下ピット群断面図（2）



第62図　2区畠状遺構下ピット群断面図（3）



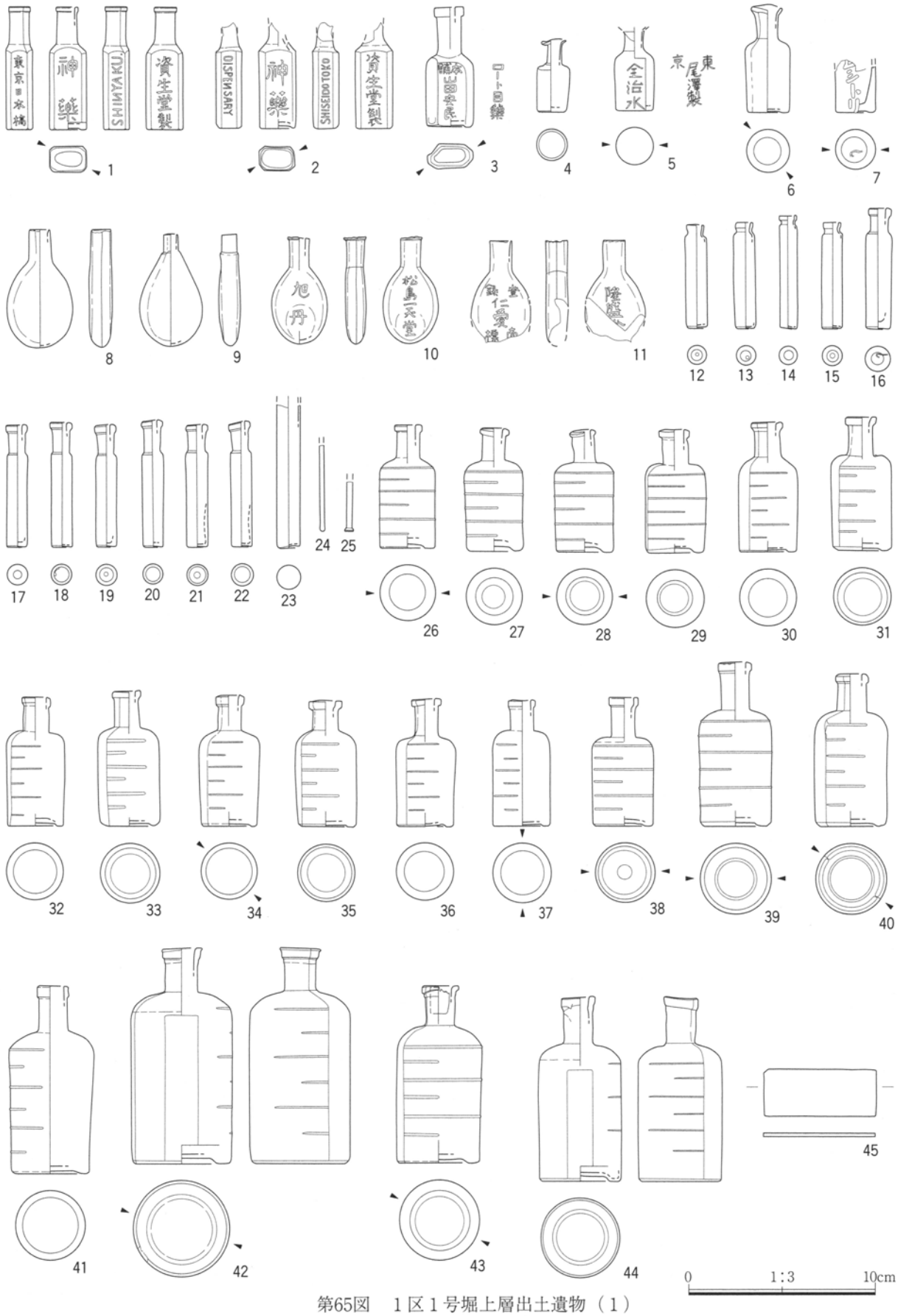
第63図　２区畠状遺構下ピット群断面図（４）



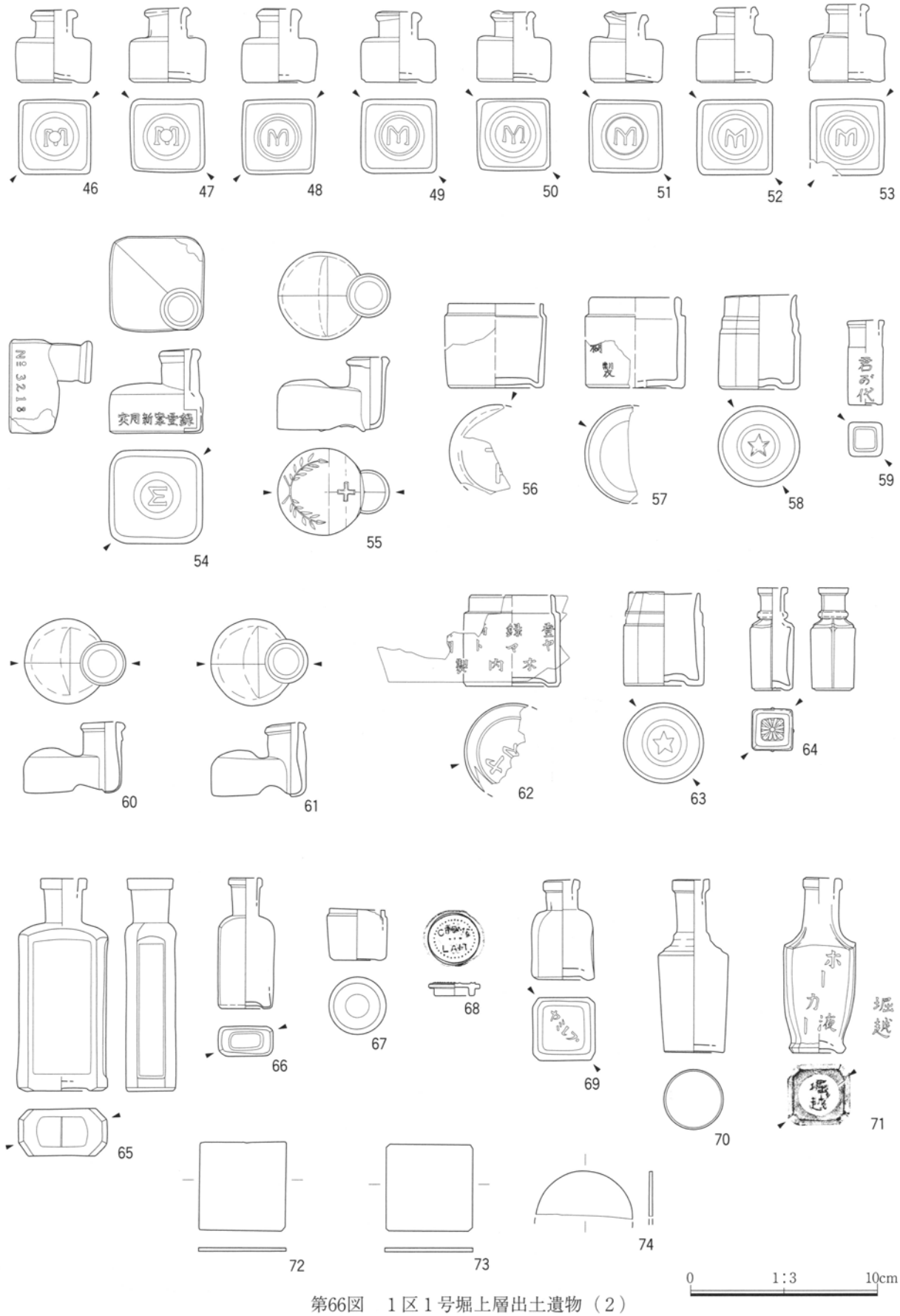
2号溝、3号溝、ピット177
1．暗褐色土層（7.5YR3/2）高崎泥流粒含まない。2溝。
2．暗褐色土層（7.5YR3/3）高崎泥流粒含まない。3溝。2溝より古い。
3．高崎泥流粒「小～中」を主体とし、2層を30%含む。ピット177。

3号住居・4号溝
1．盛土下畠耕作土層
2．黒褐色土層（10YR2/3）焼土粒「小～中」10%含む。
3．黒褐色土層（10YR2/2）焼土や高崎泥流含まない。
4．黒褐色土層（10YR2/2）高崎泥流粒「極小」10%含む。
5．黒色土層　本遺跡埋土中最も黒い土。4溝。
6．黒褐色土層（10YR3/2）高崎泥流粒「極小」20%含む。
7．高崎泥流二次堆積層
8．暗褐色土層（10YR3/3）高崎泥流小粒を30%含む。
① 柱痕
② ピット掘方

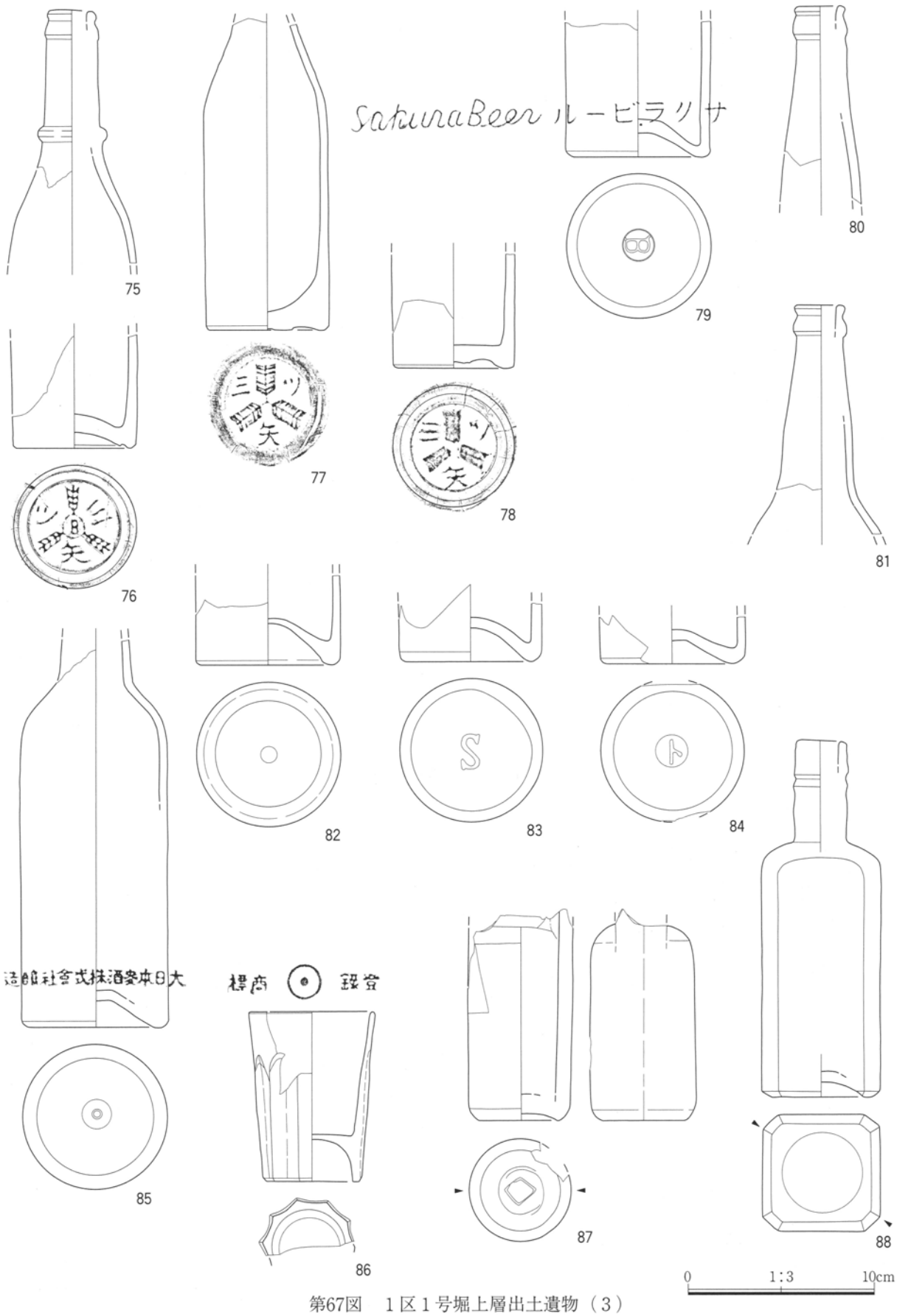
第64図　2区畠状遺構下溝、3号竪穴住居断面図



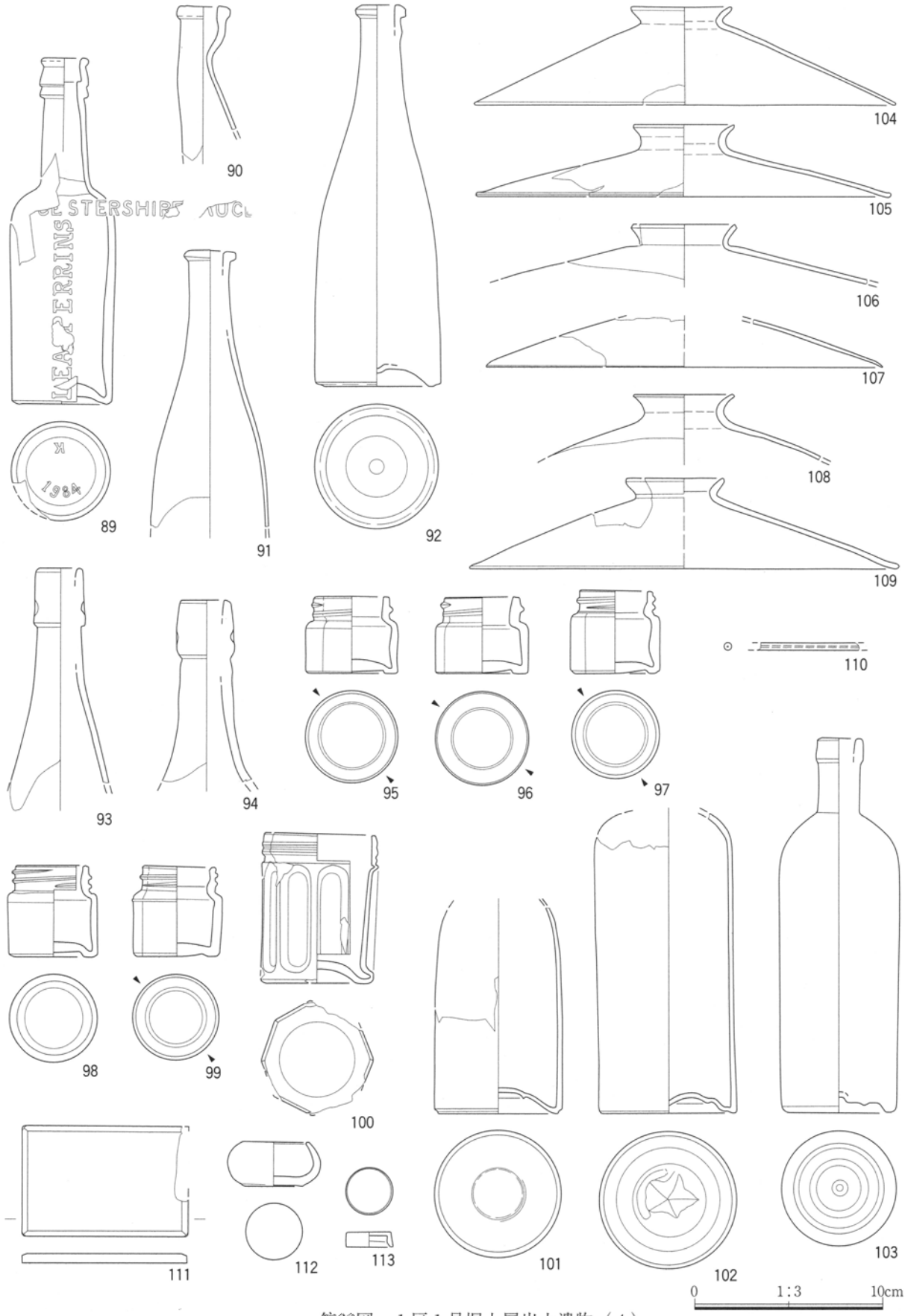
第65図　１区１号堀上層出土遺物（１）



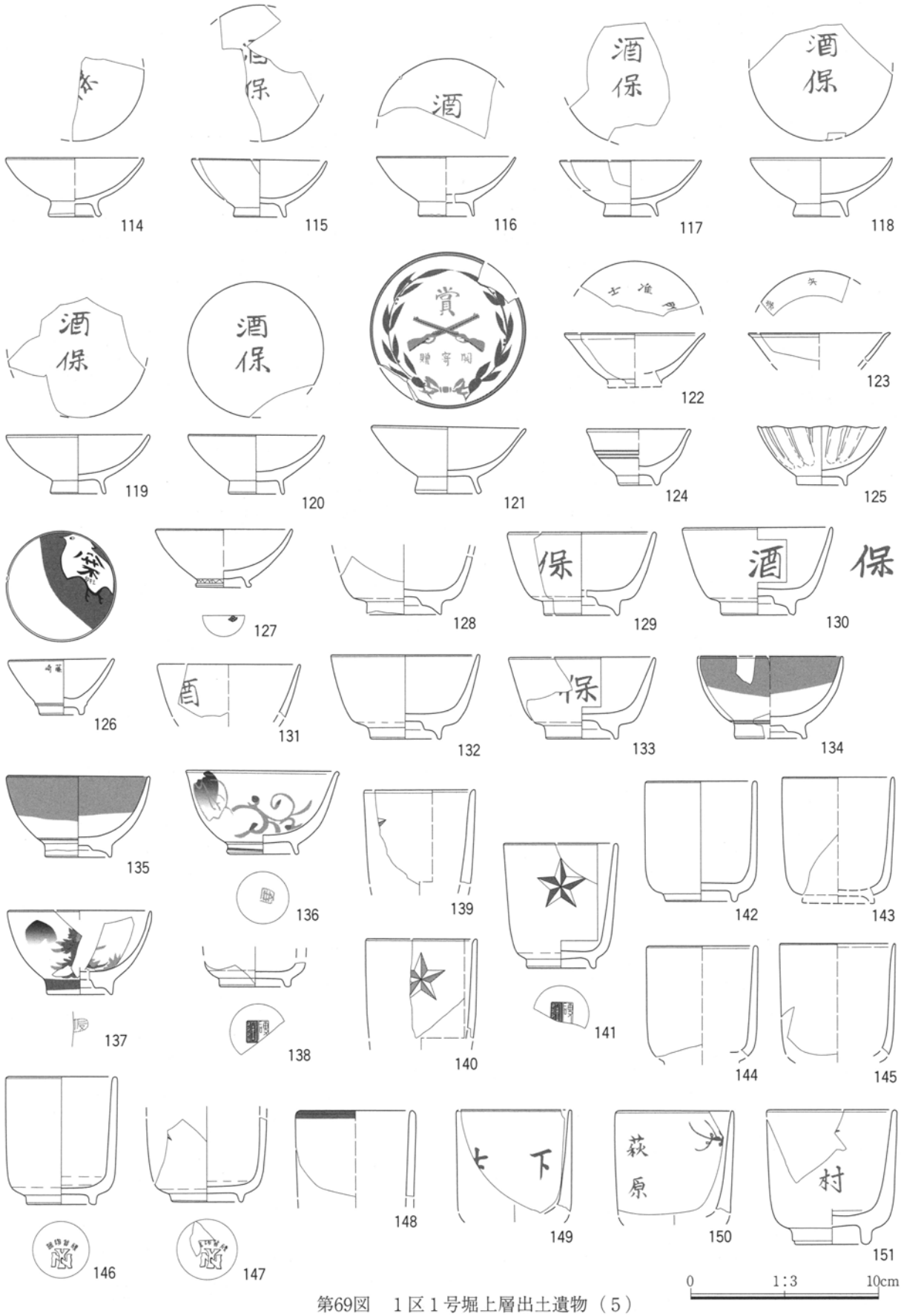
第66図　1区1号堀上層出土遺物（2）



第67図　１区１号堀上層出土遺物（３）

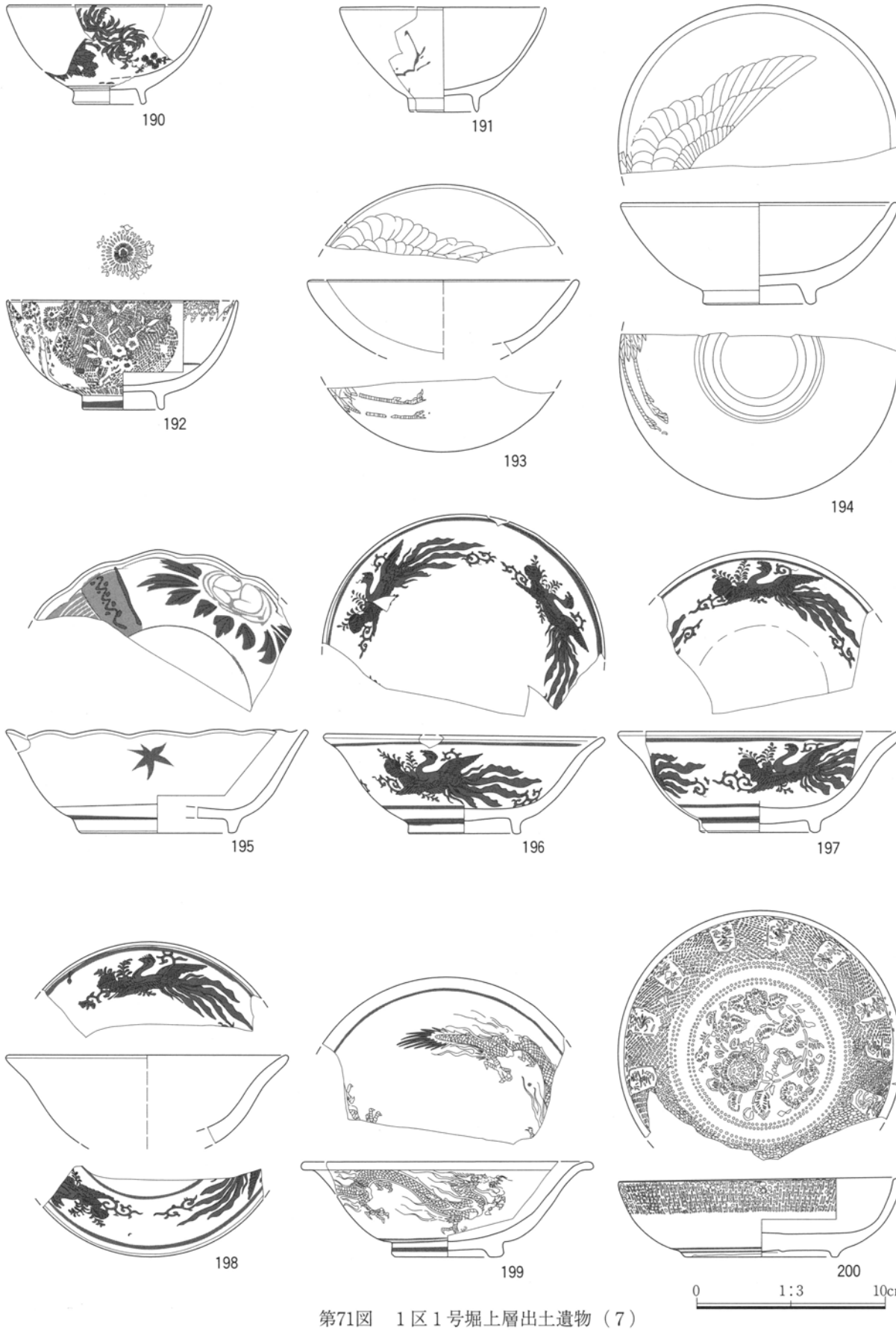


第68図　1区1号堀上層出土遺物（4）

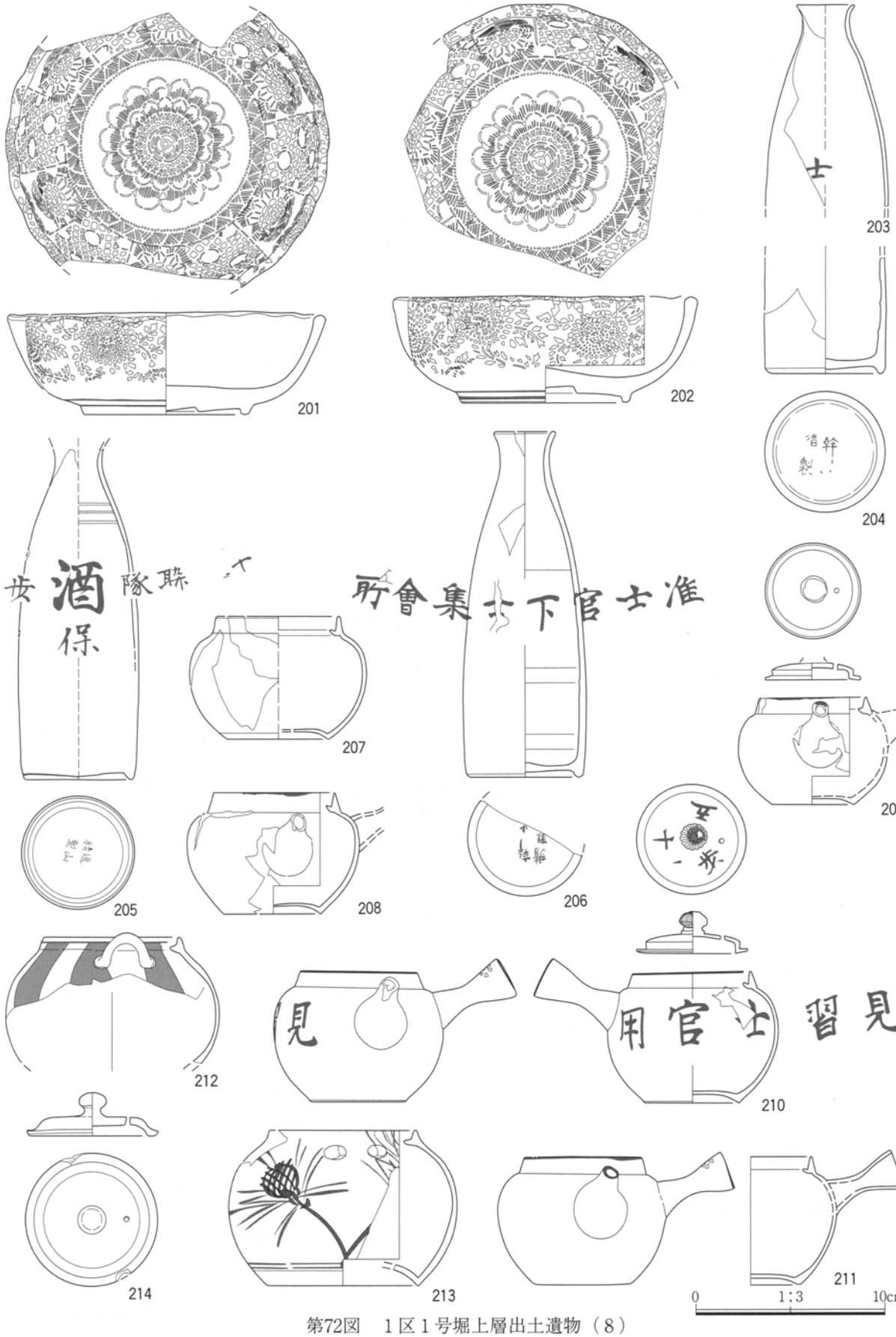


第69図　1区1号堀上層出土遺物（5）

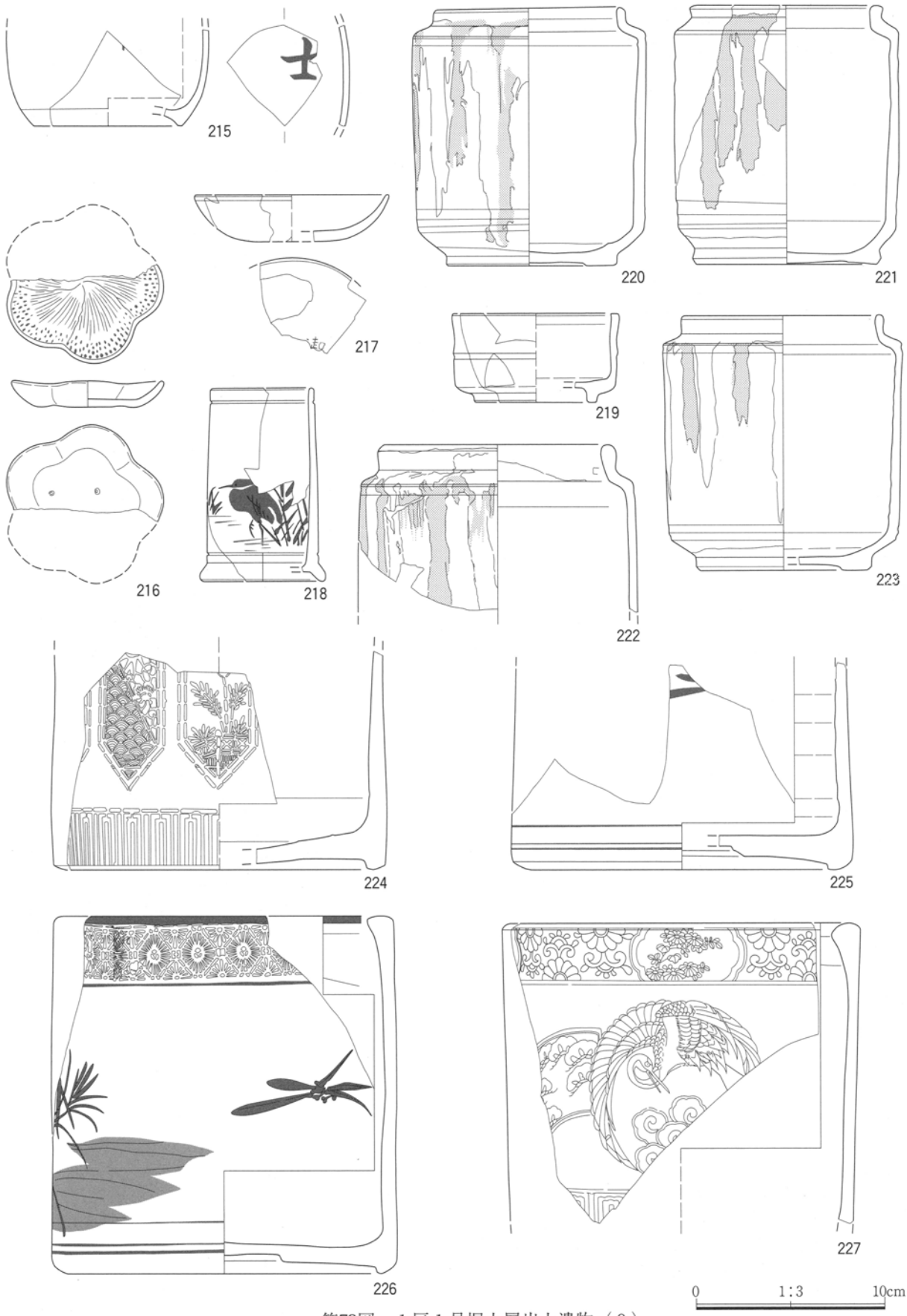
第70図　1区1号堀上層出土遺物（6）



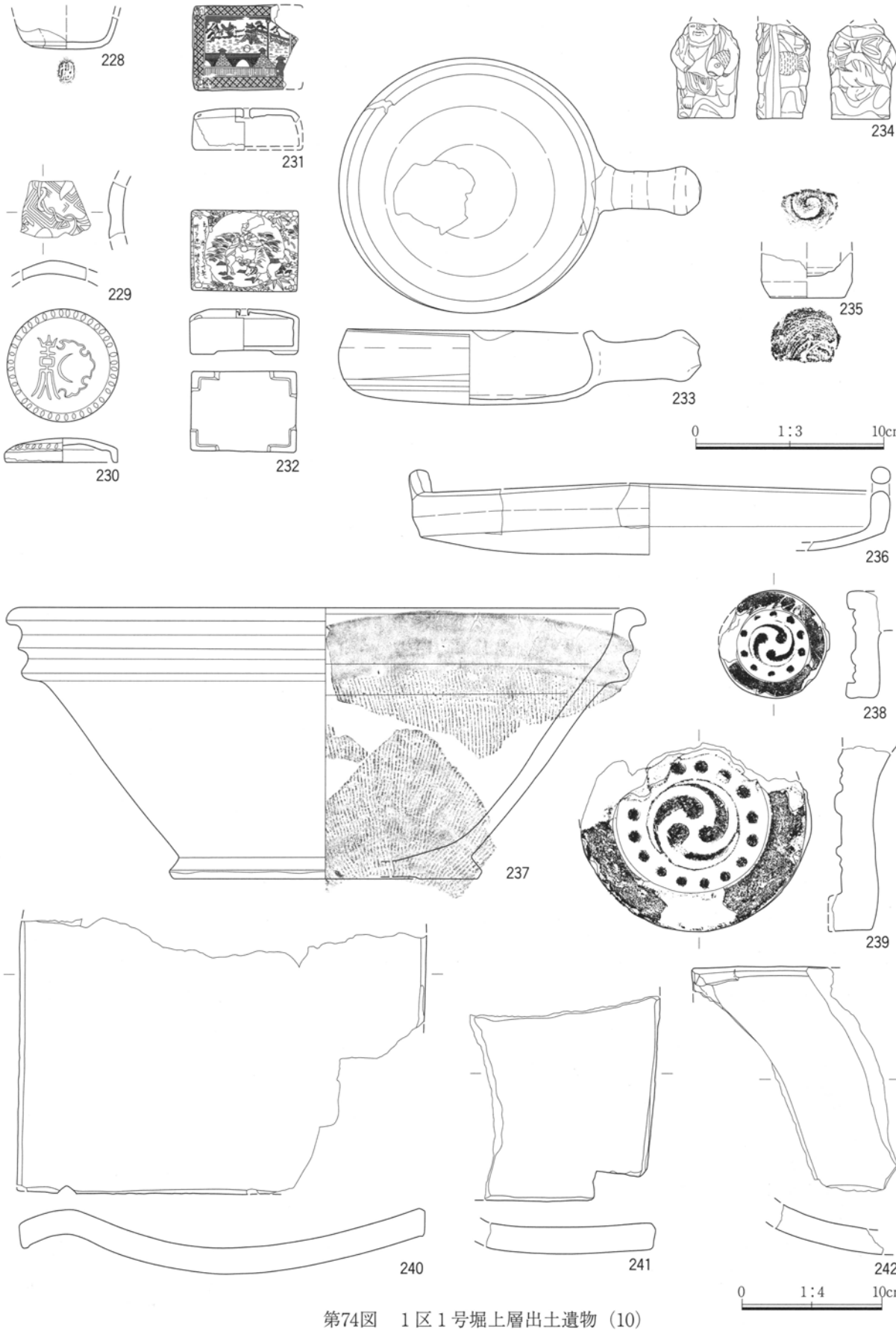
第71図　1区1号堀上層出土遺物（7）



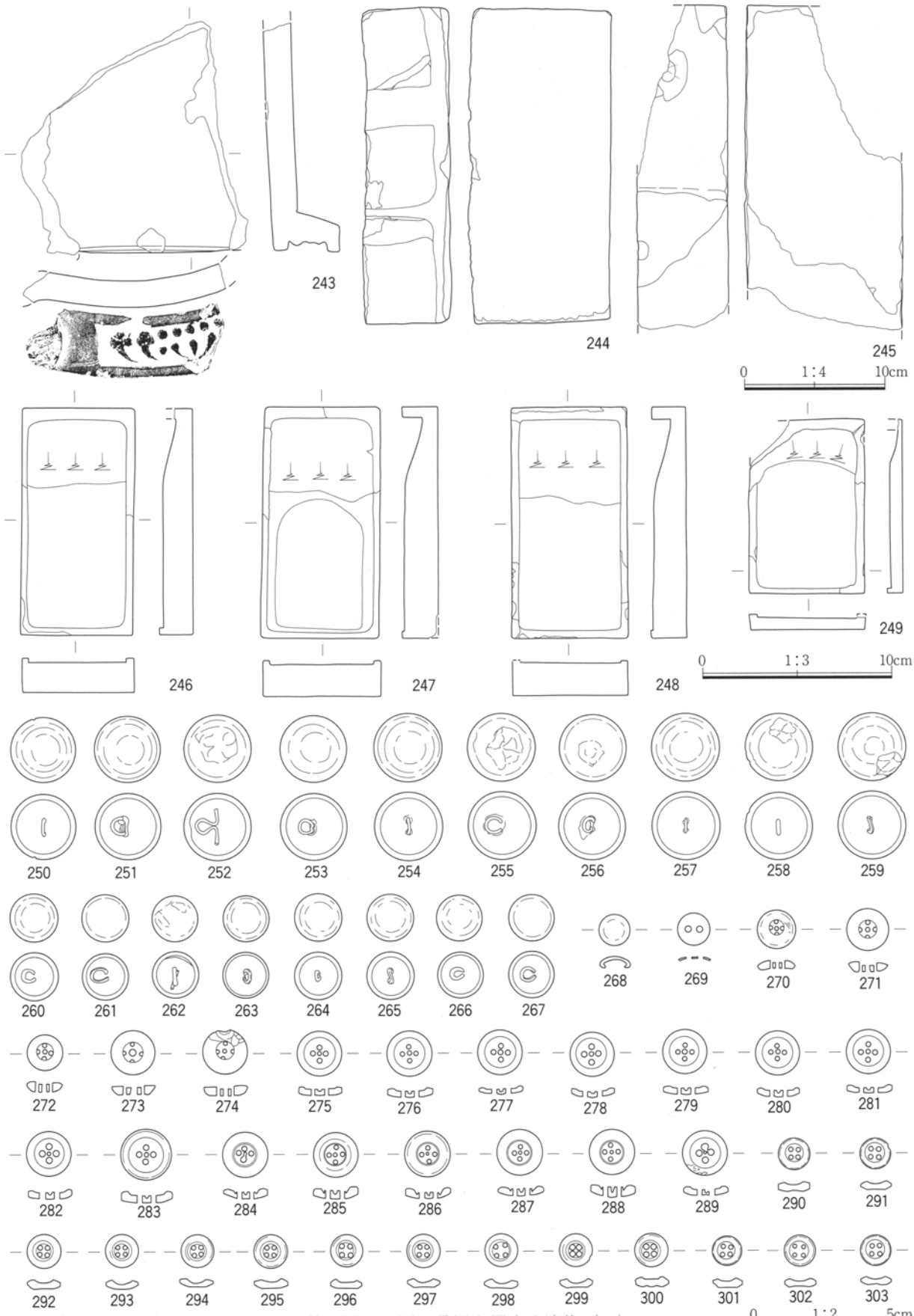
第72図　1区1号堀上層出土遺物（8）



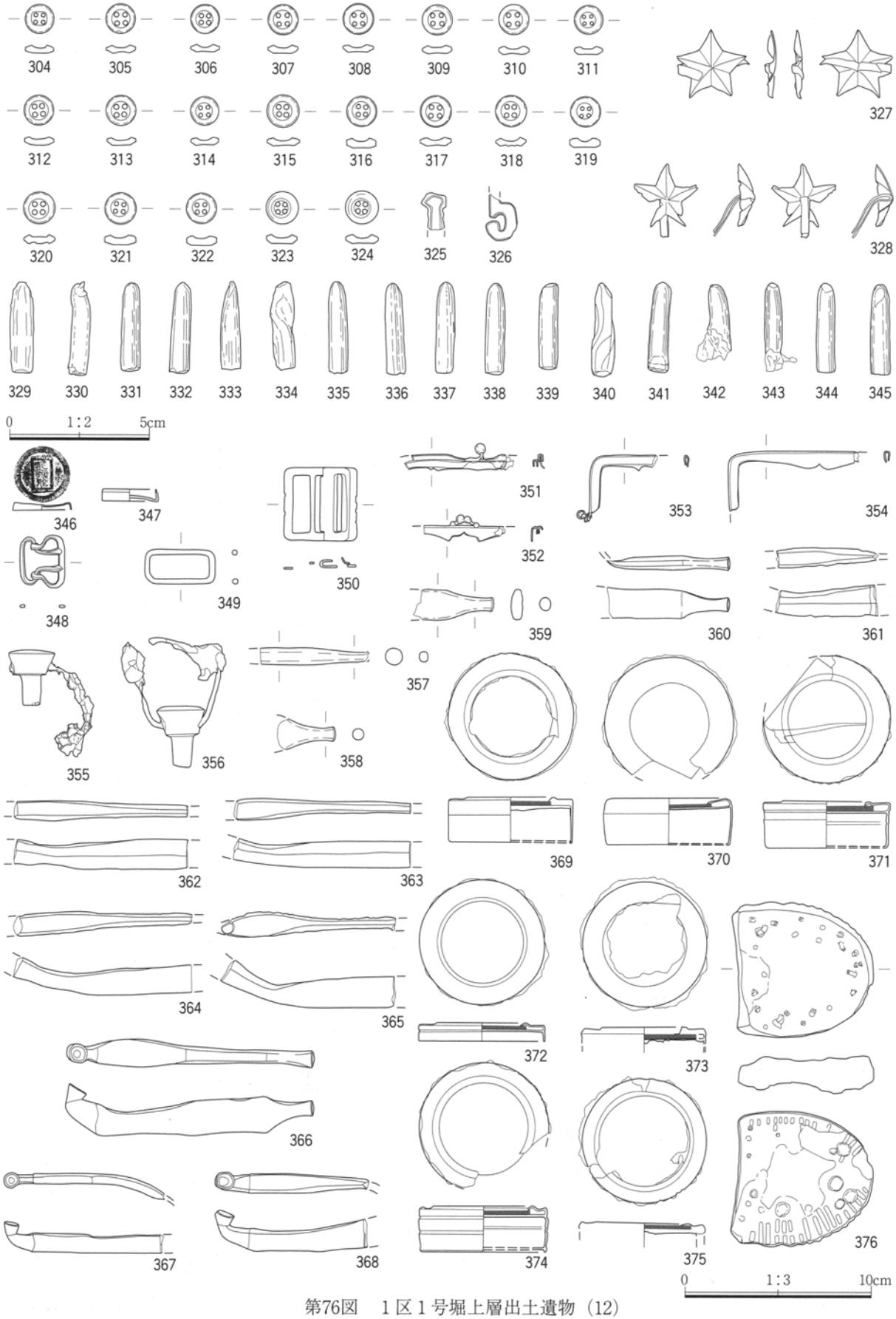
第73図　1区1号堀上層出土遺物（9）



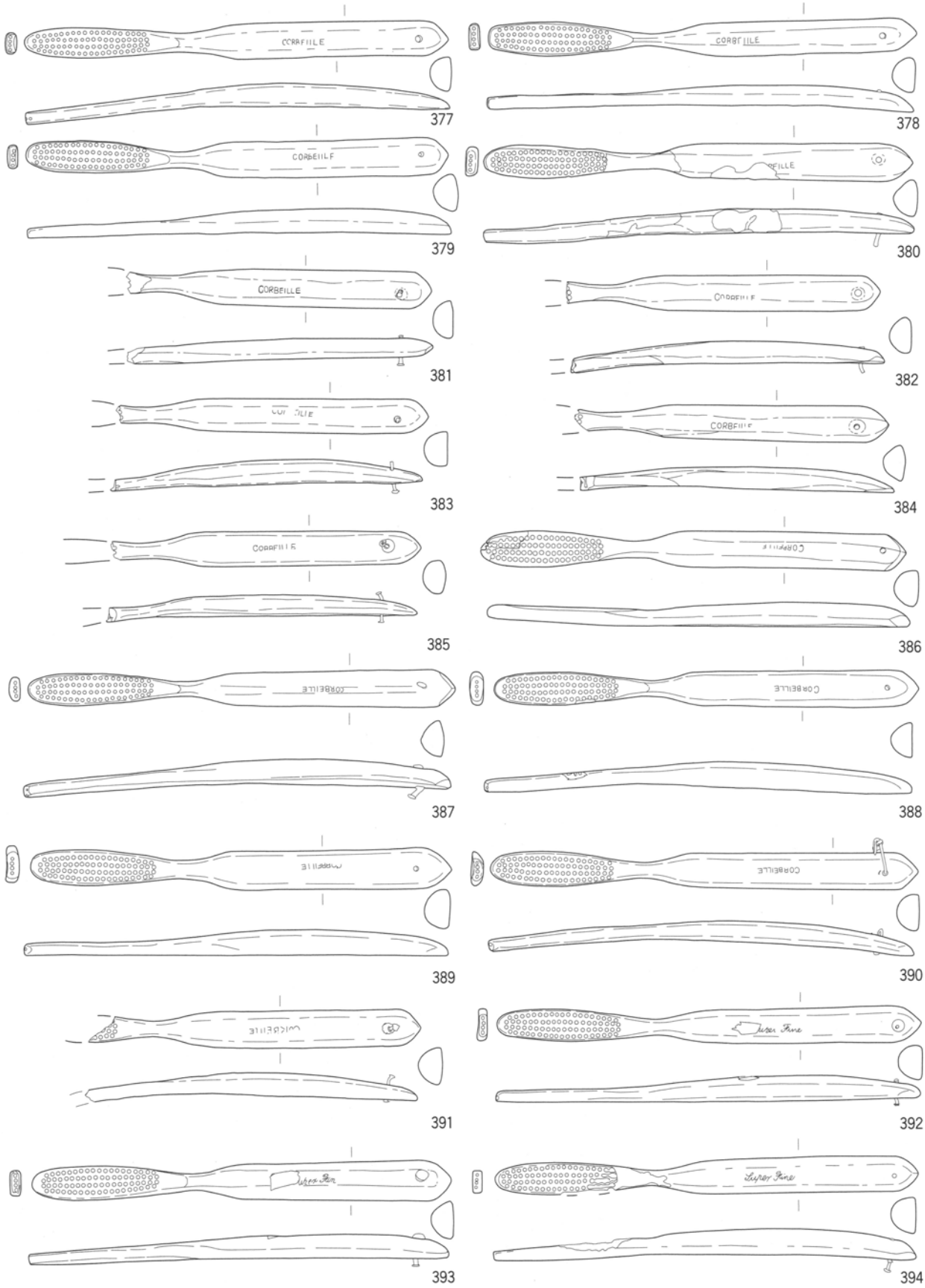
第74図　1区1号堀上層出土遺物（10）



第75図　1区1号堀上層出土遺物（11）

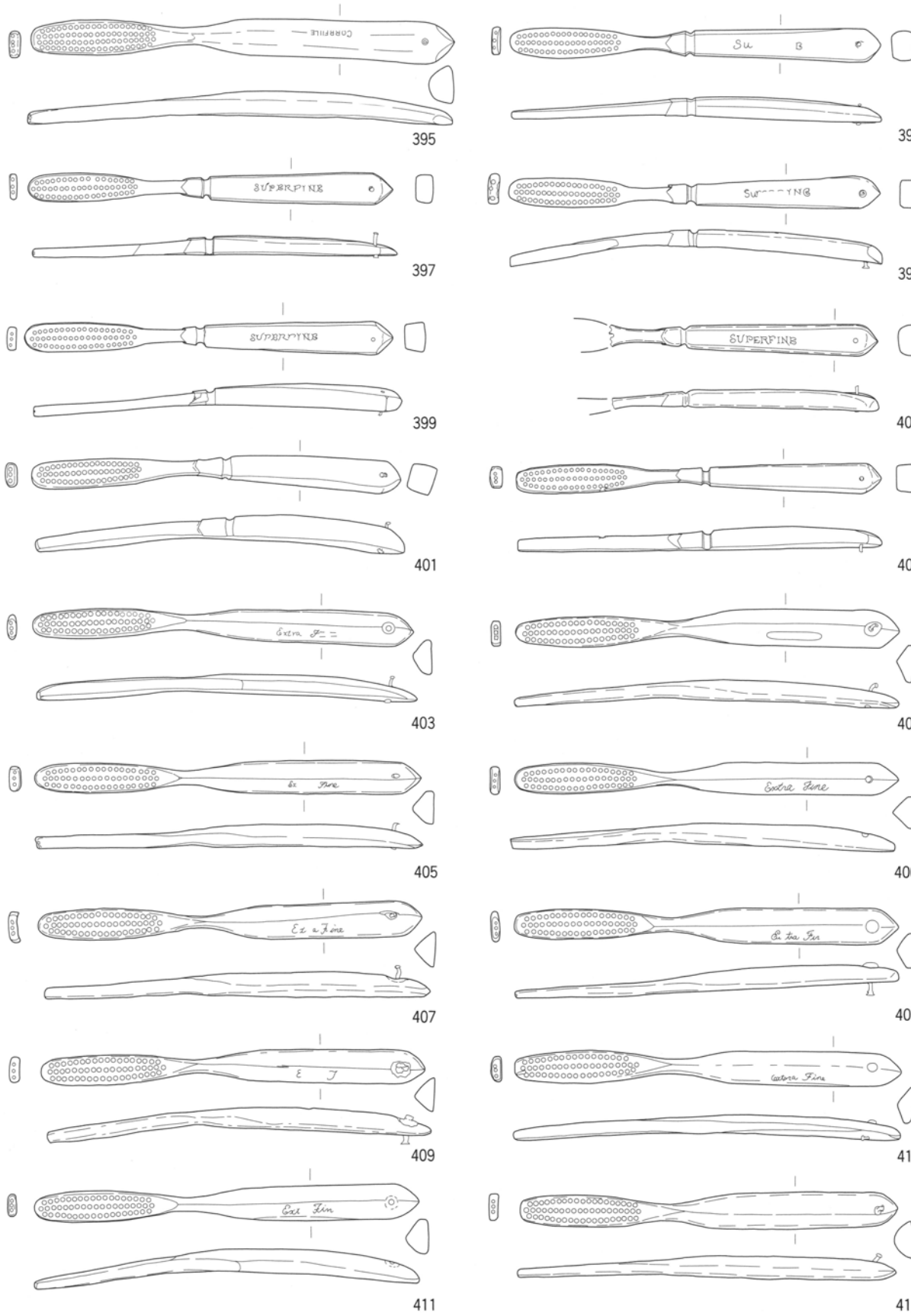


第76図　1区1号堀上層出土遺物（12）



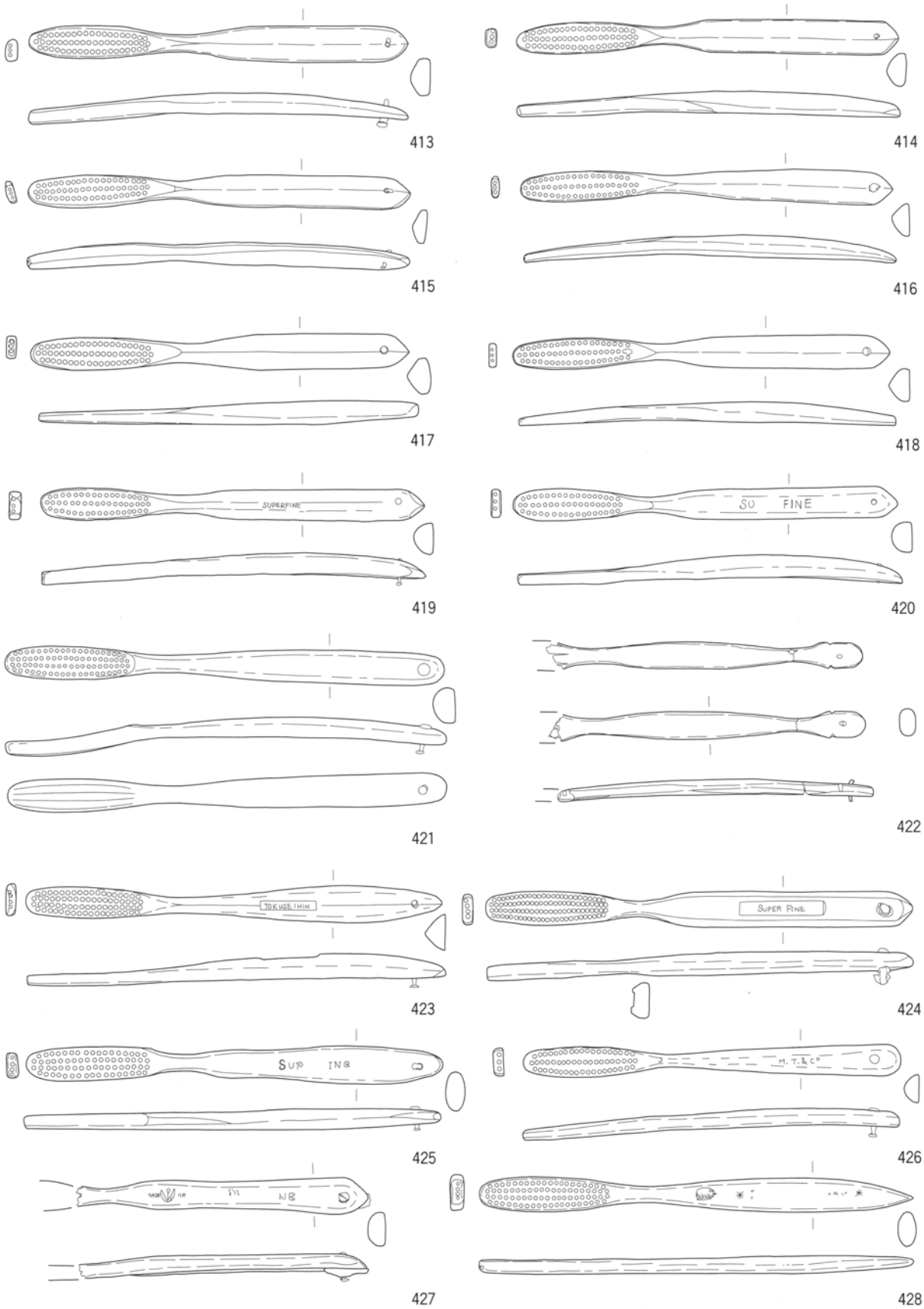
第77図　1区1号堀上層出土遺物（13）

0　1:2　5cm



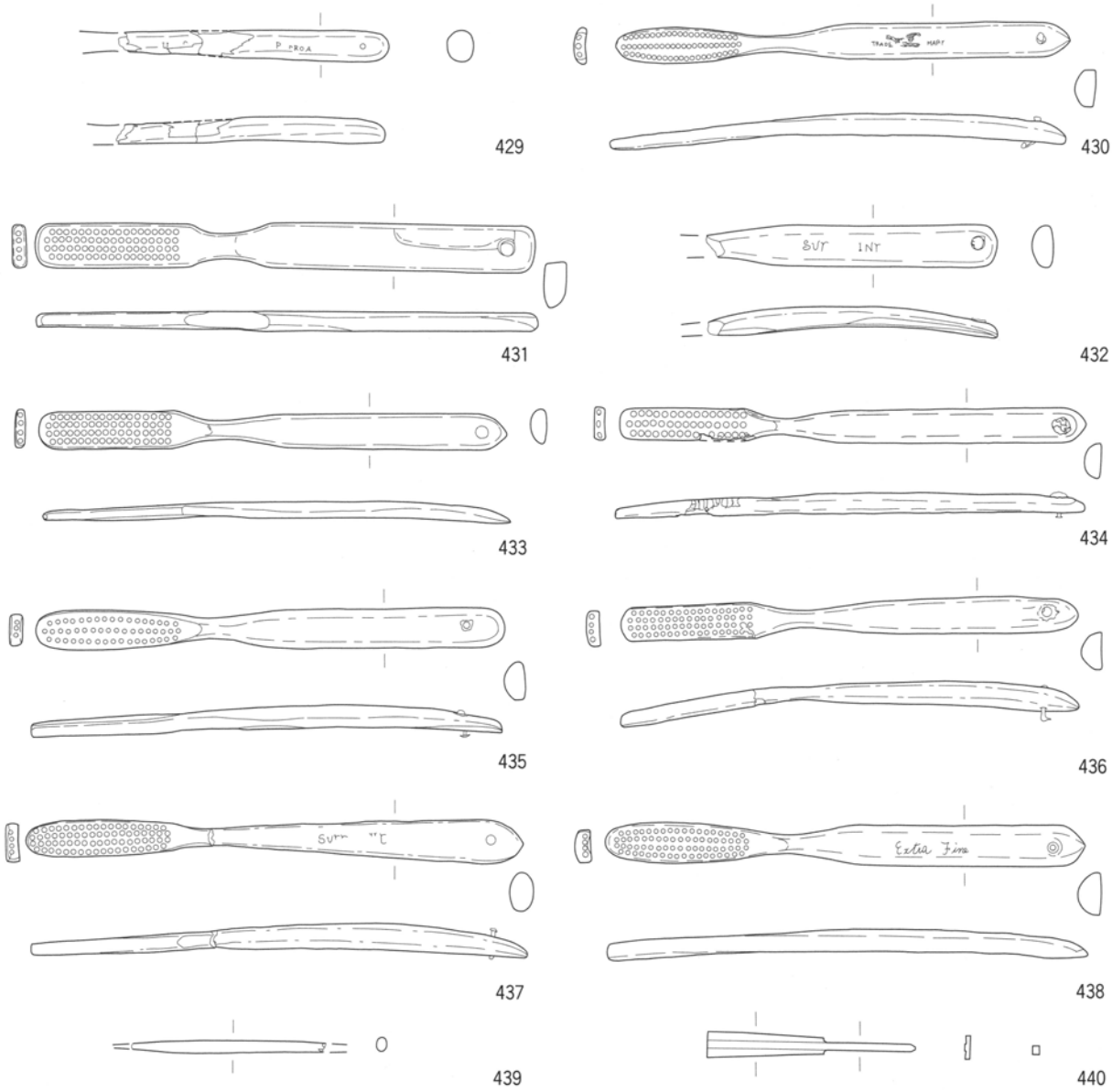
第78図　1区1号堀上層出土遺物（14）

0　1:2　5cm



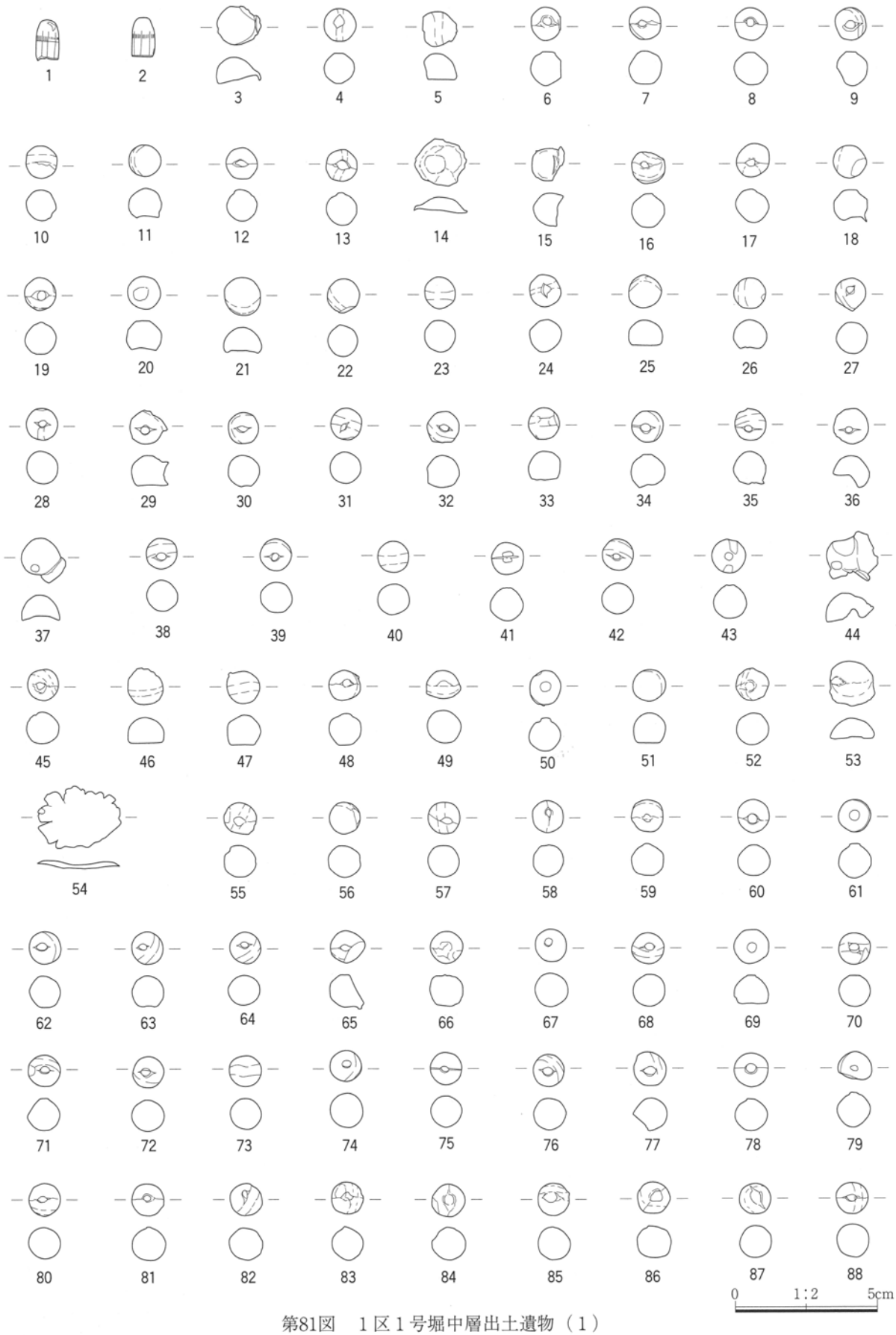
第79図　1区1号堀上層出土遺物（15）

0　1:2　5cm

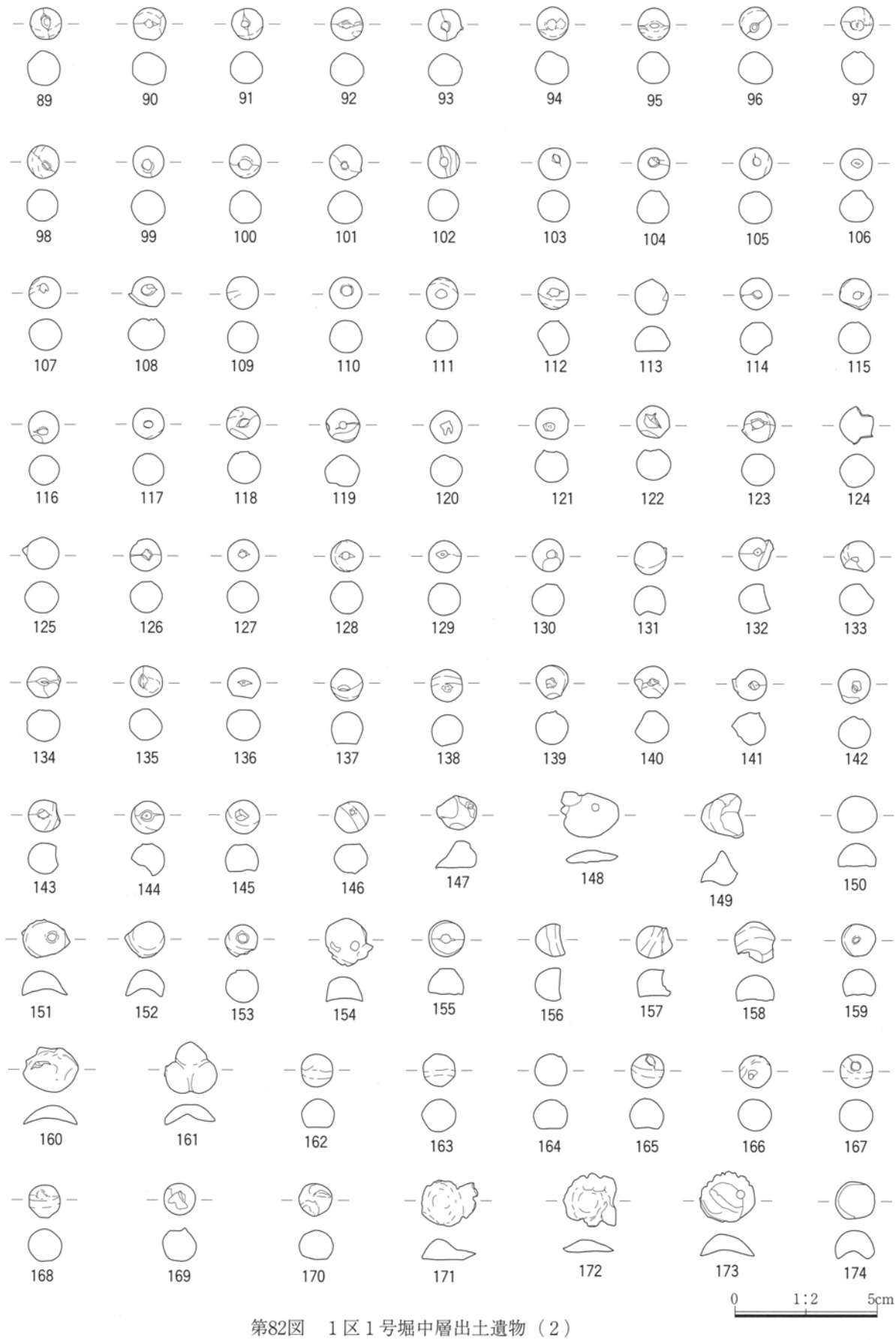


第80図　1区1号堀上層出土遺物（16）

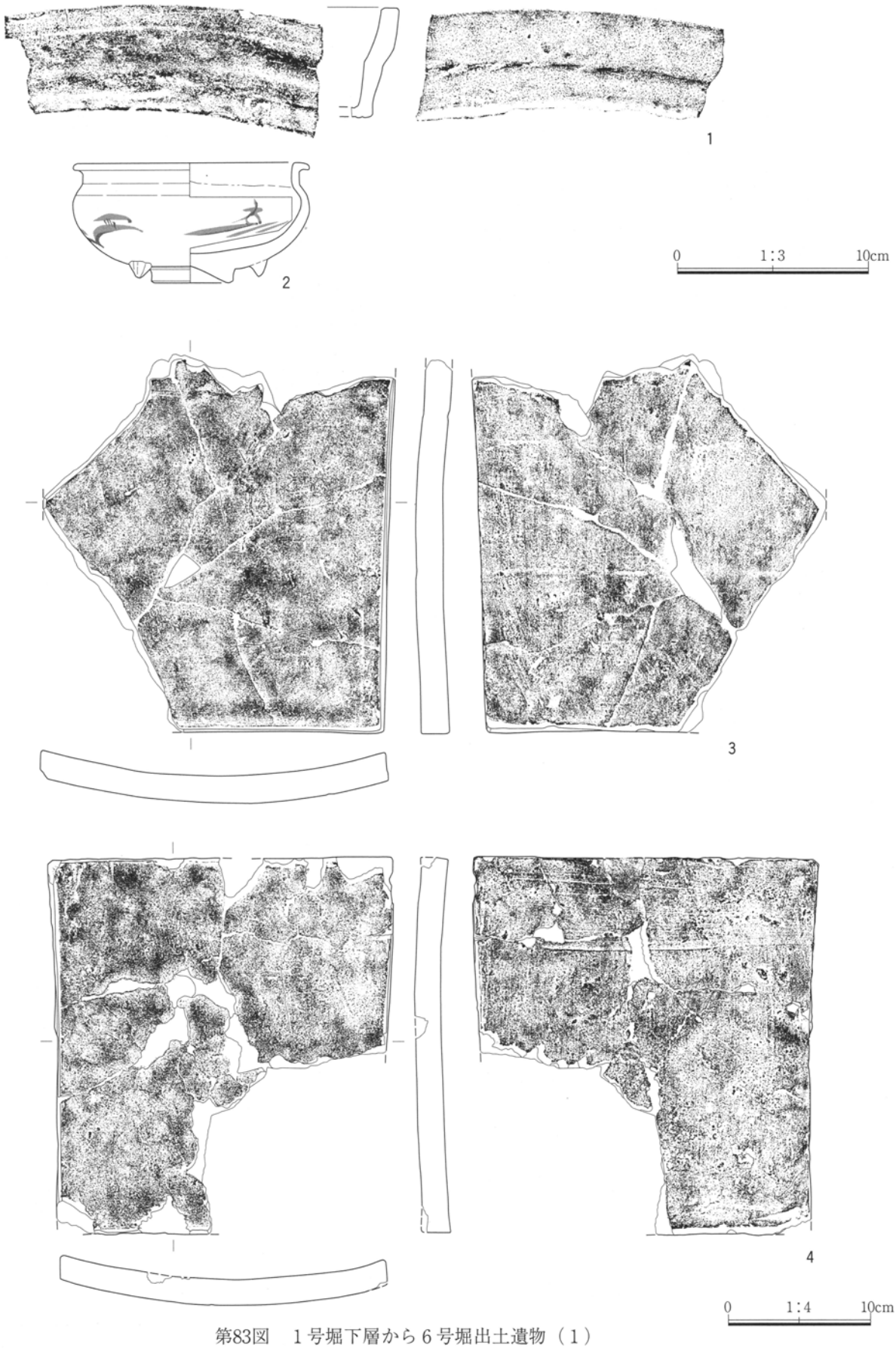
0　1:2　5cm



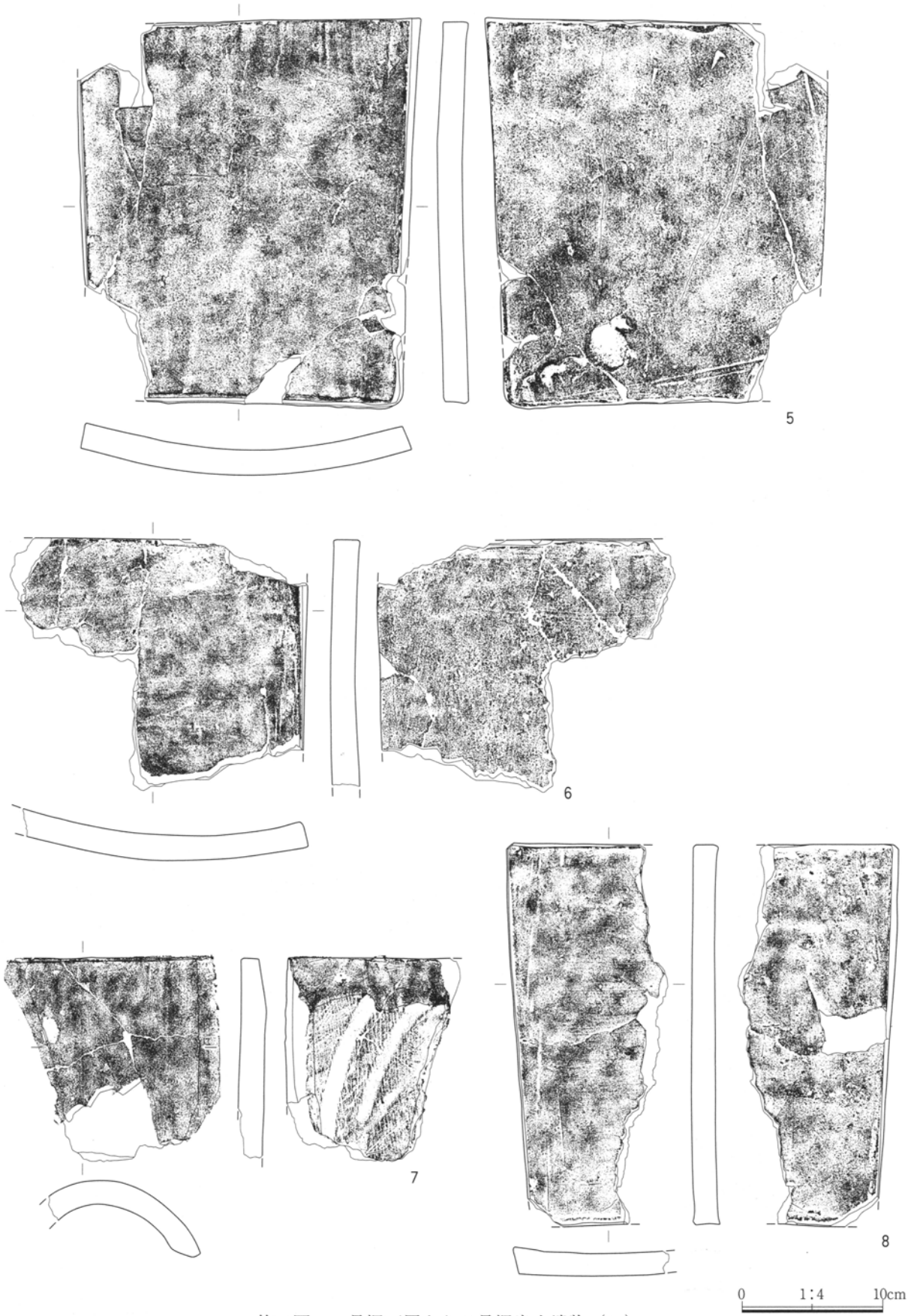
第81図　１区１号堀中層出土遺物（１）



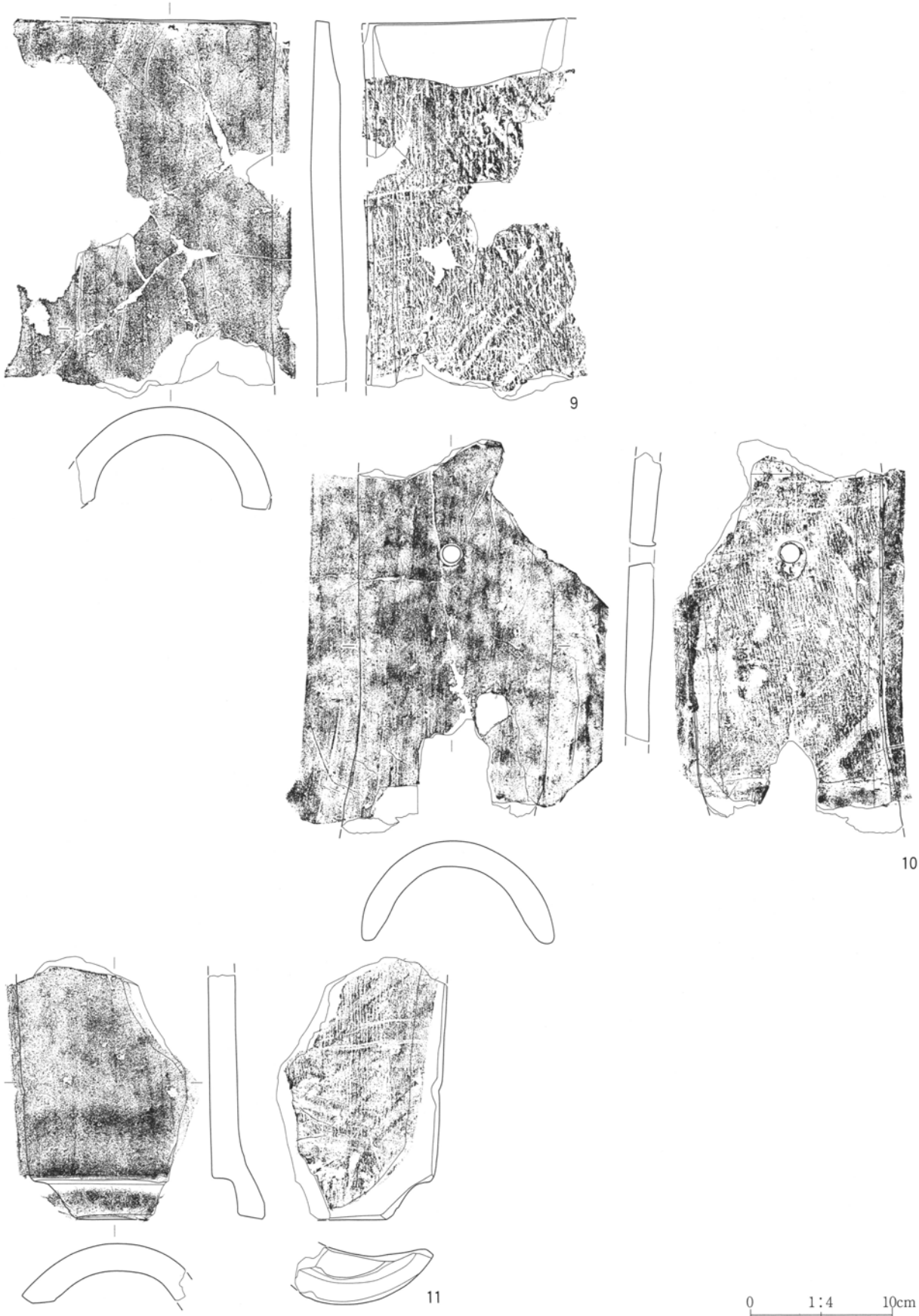
第82図　１区１号堀中層出土遺物（２）



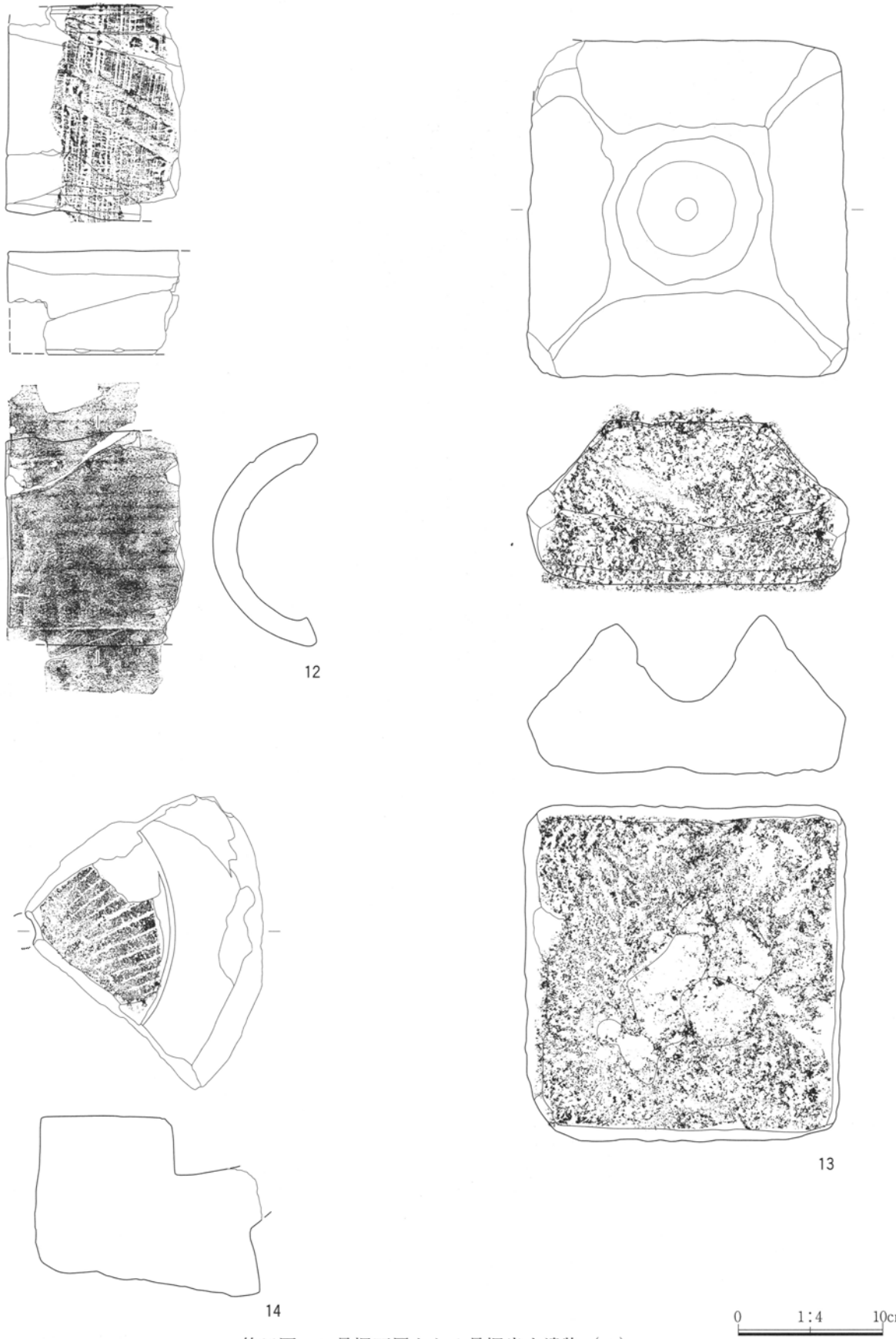
第83図　1号堀下層から6号堀出土遺物（1）



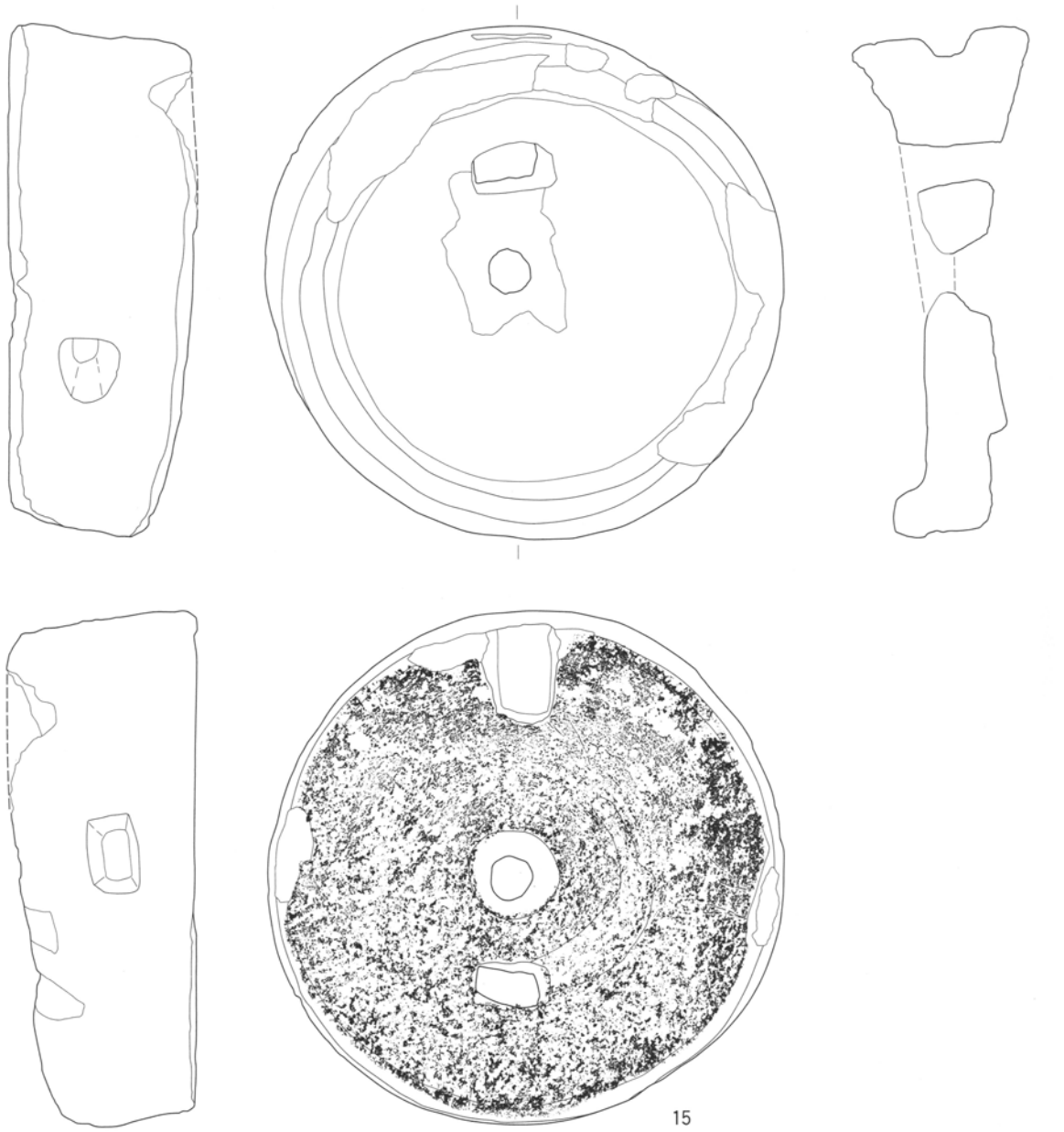
第84図　1号堀下層から6号堀出土遺物（2）



第85図　1号堀下層から6号堀出土遺物（3）



第86図　1号堀下層から6号堀出土遺物（4）

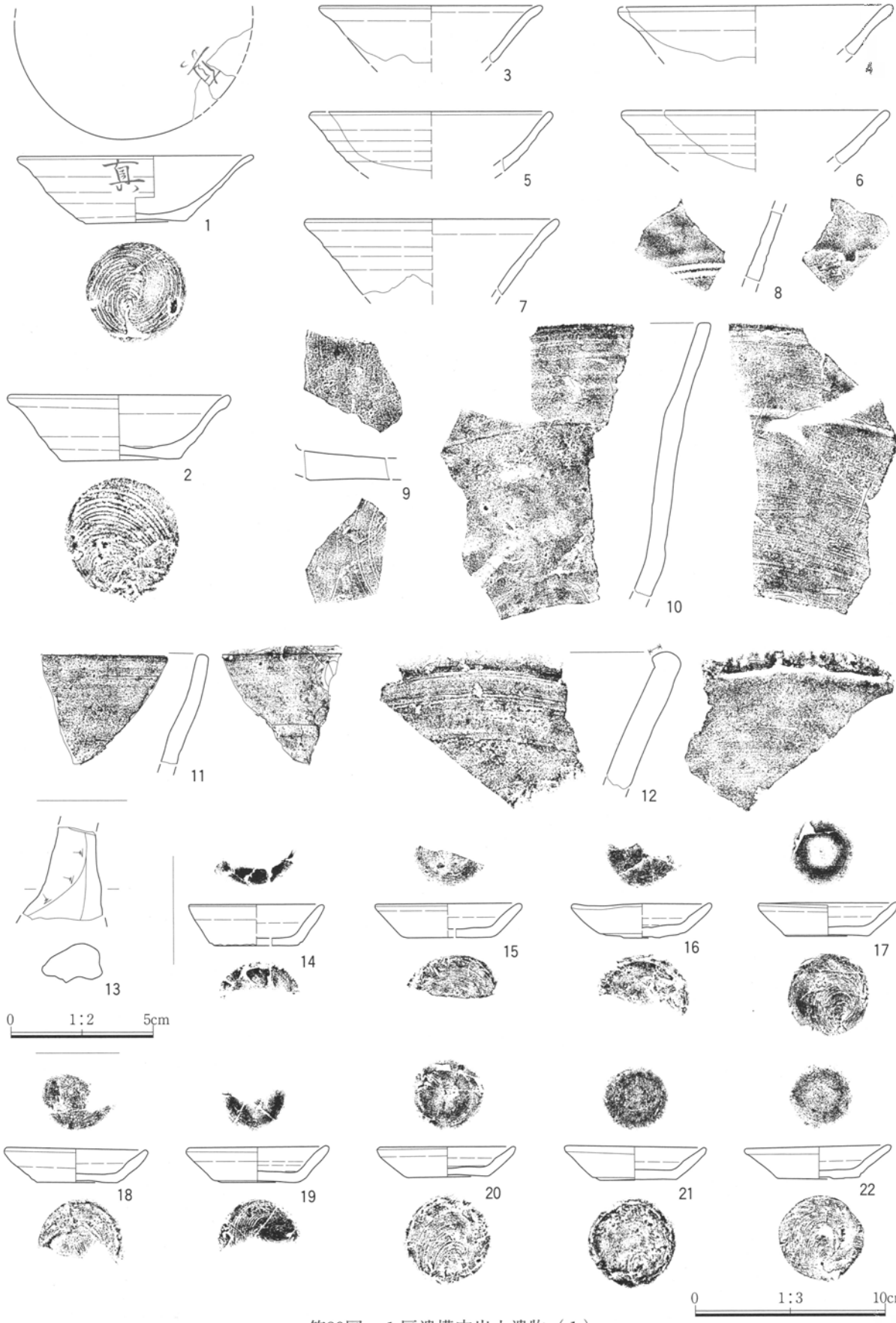


第87図　1号堀下層から6号堀出土遺物（5）

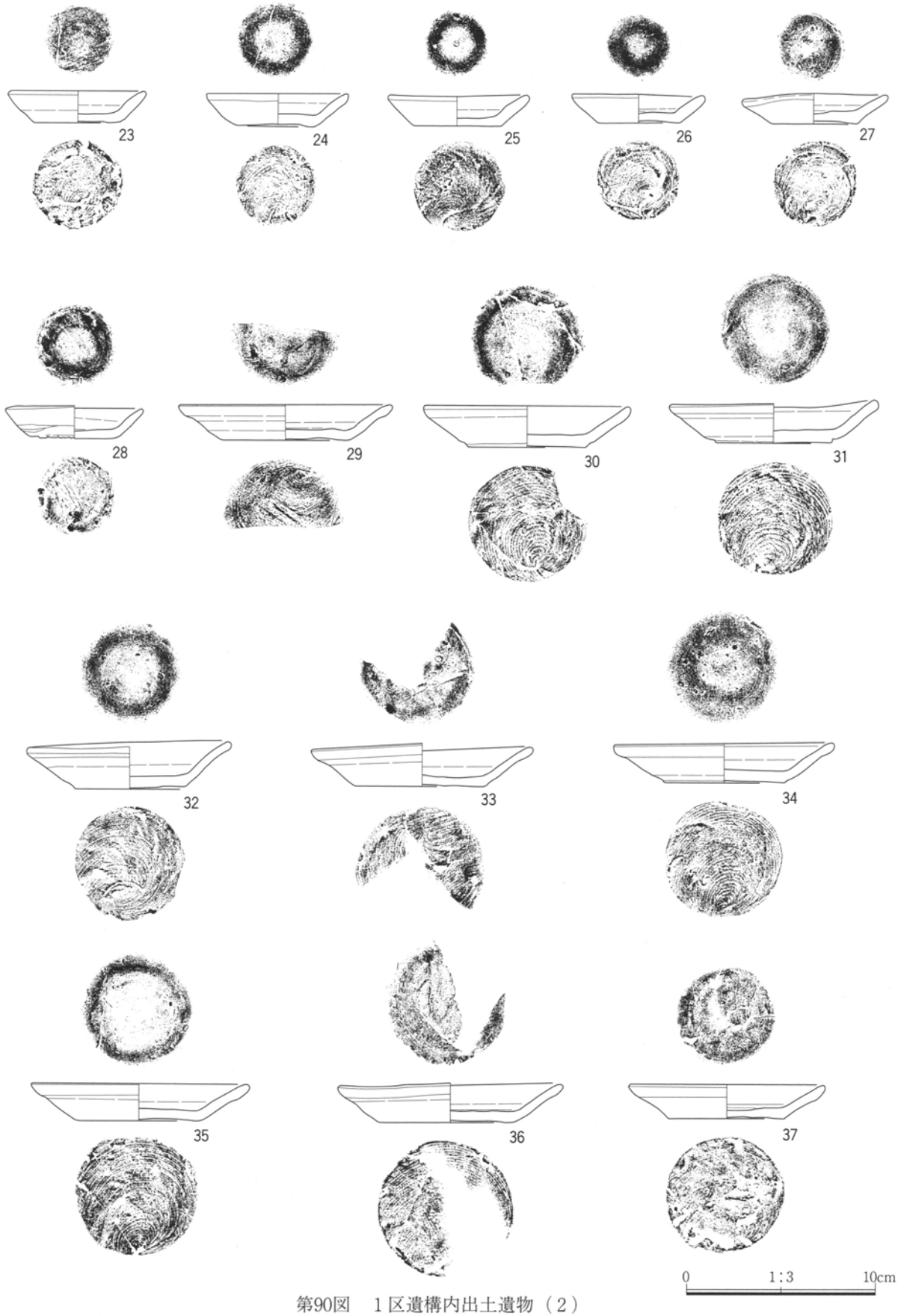
0　1:4　10cm

0　1:1　3cm

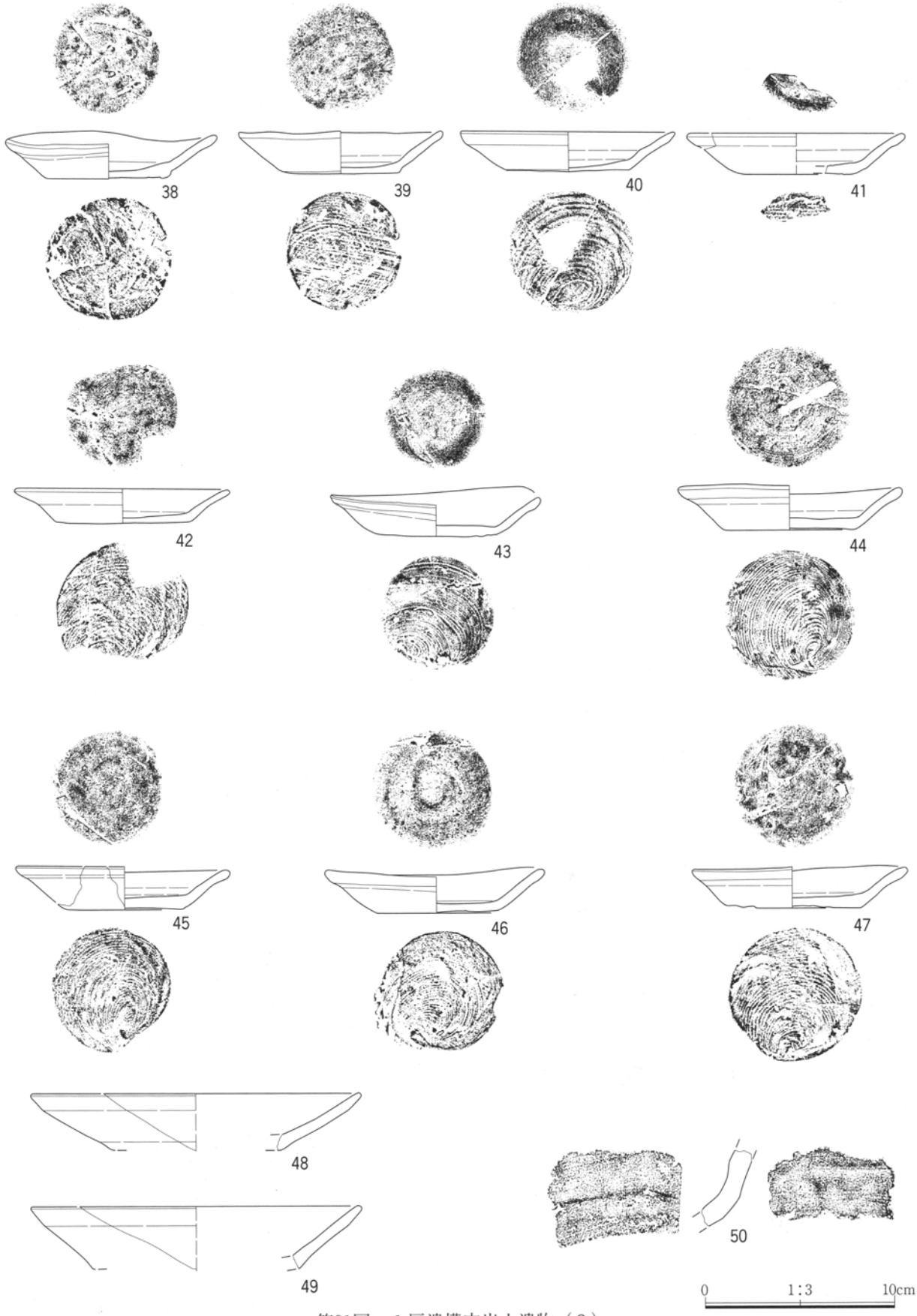
第88図　1号堀下層から6号堀出土遺物（6）



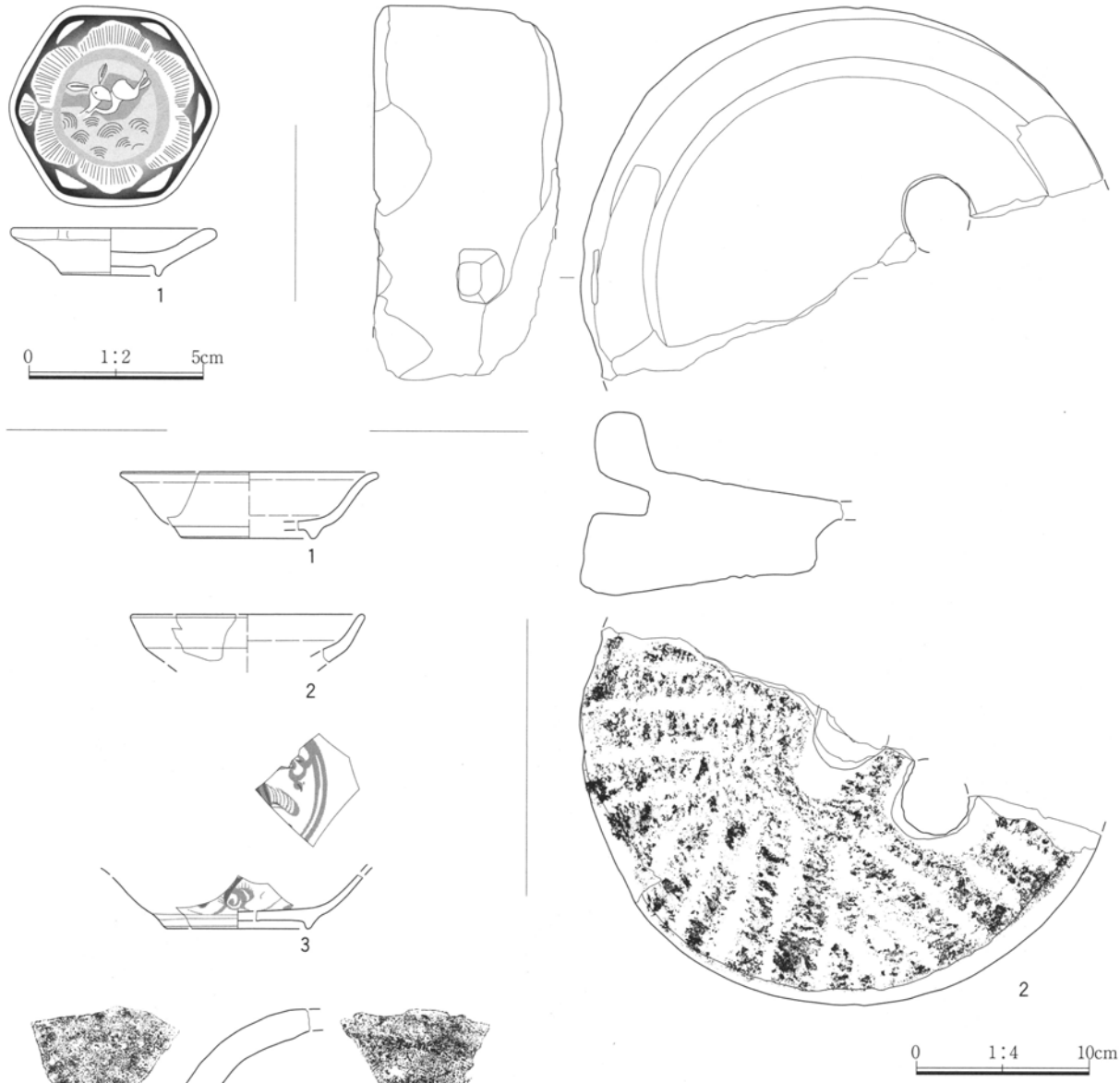
第89図　1区遺構内出土遺物（1）



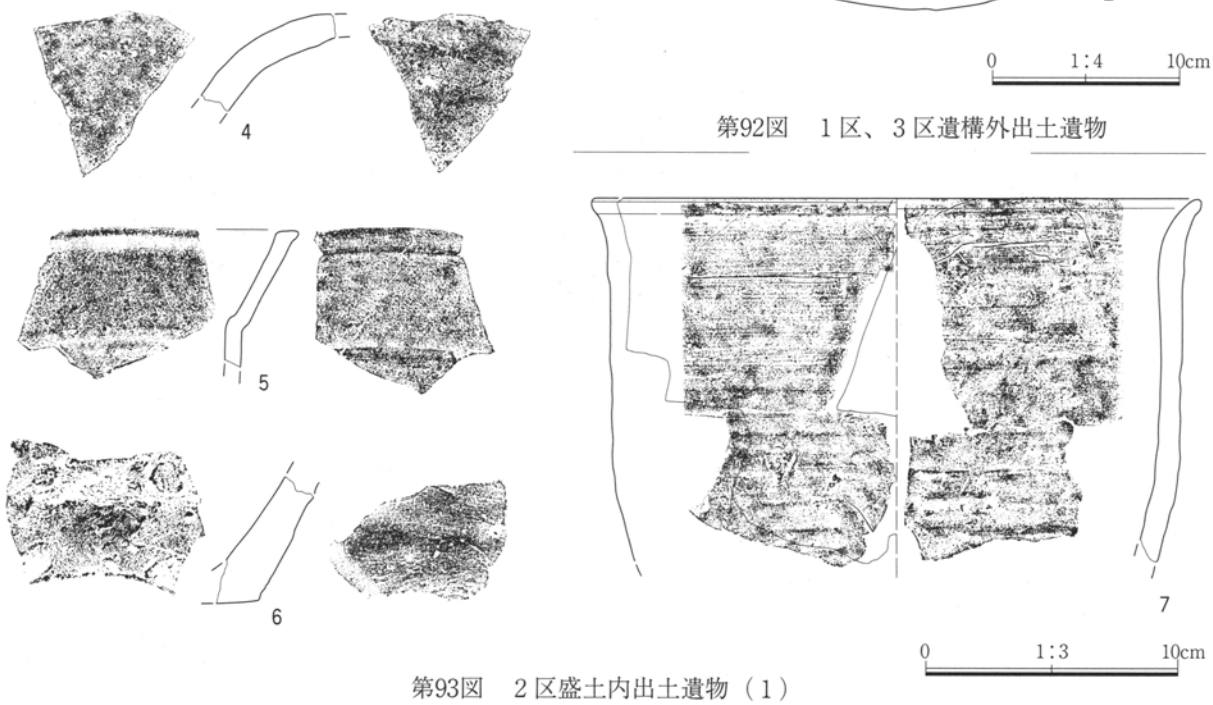
第90図　１区遺構内出土遺物（２）



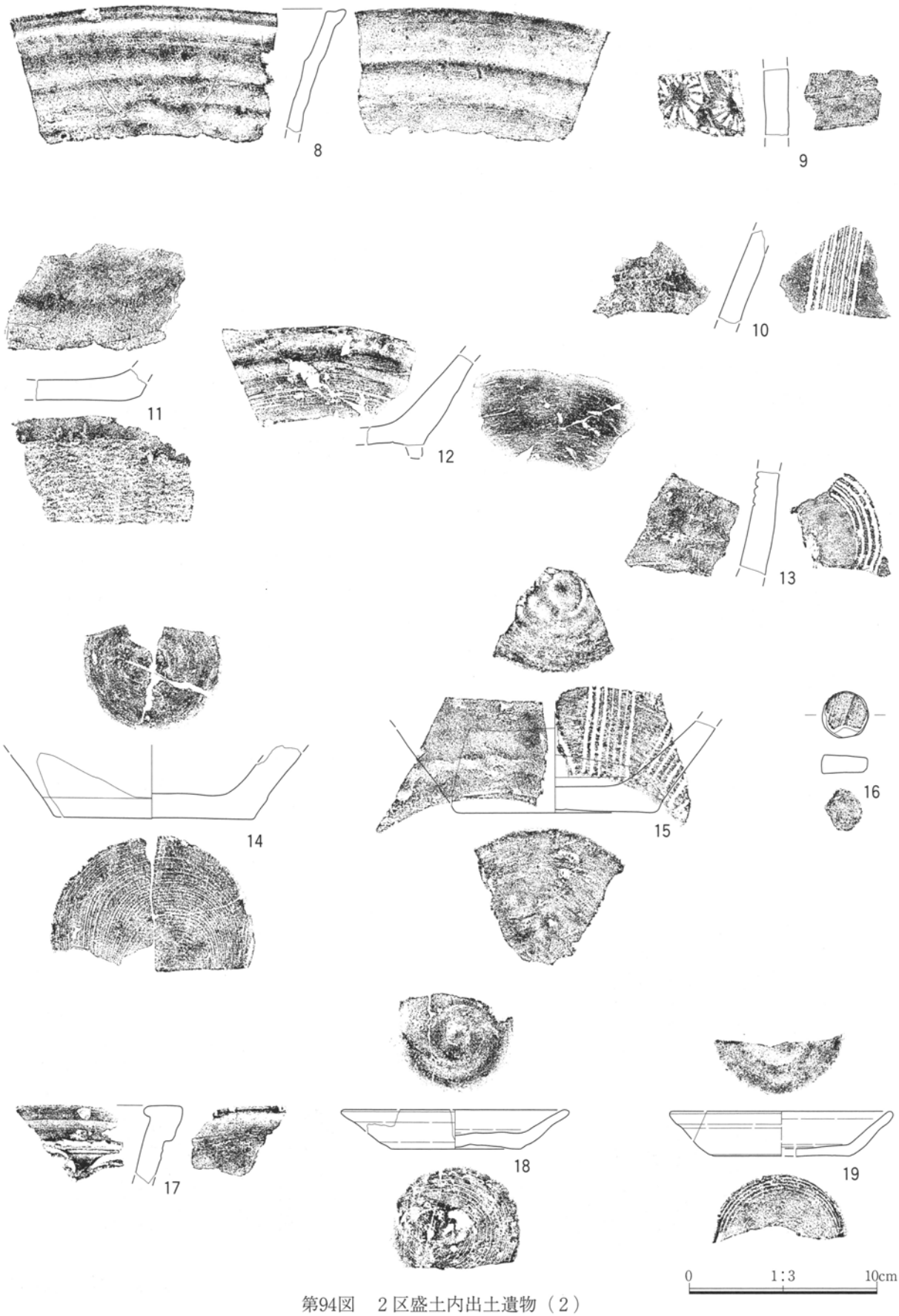
第91図　1区遺構内出土遺物（3）



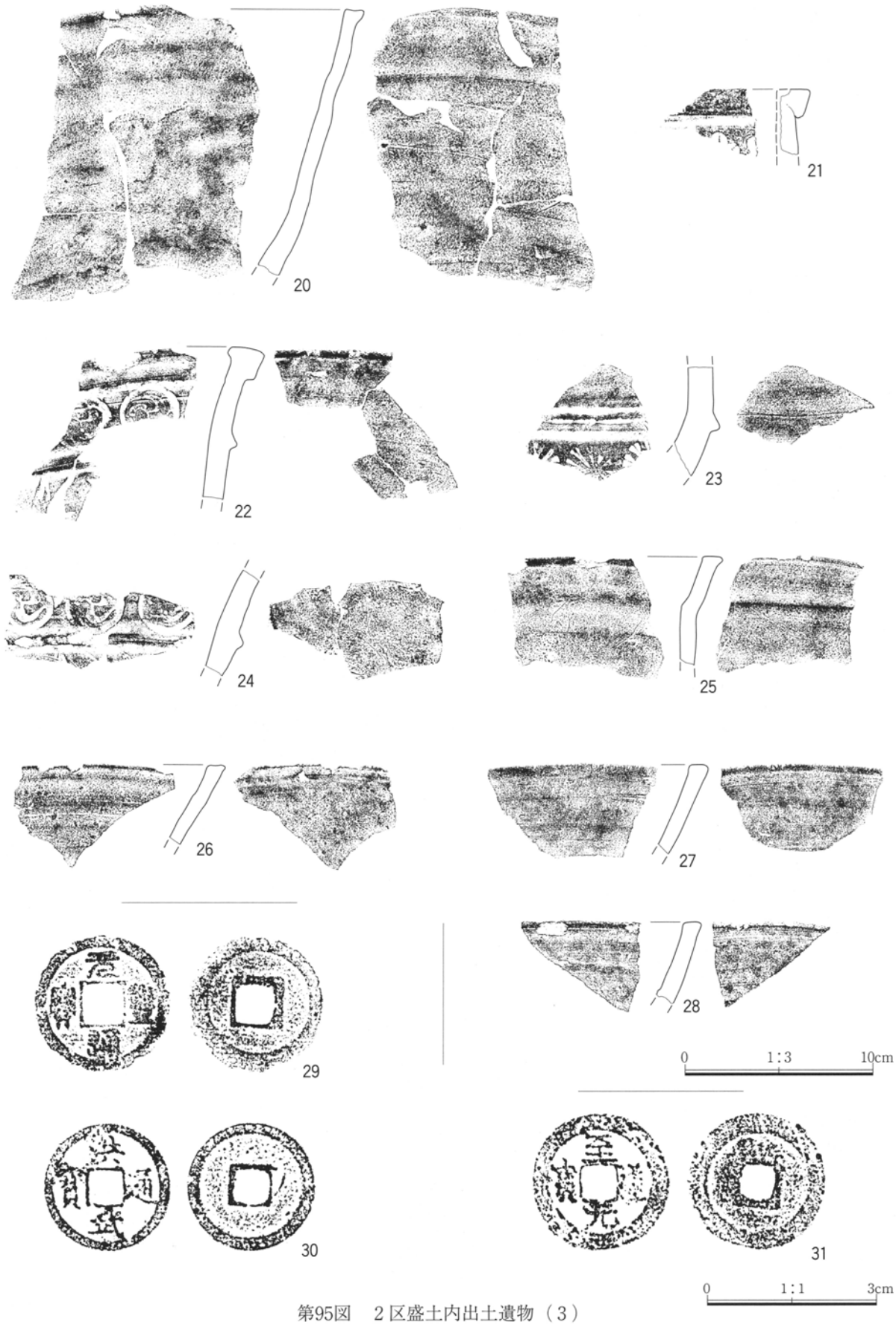
第92図　1区、3区遺構外出土遺物



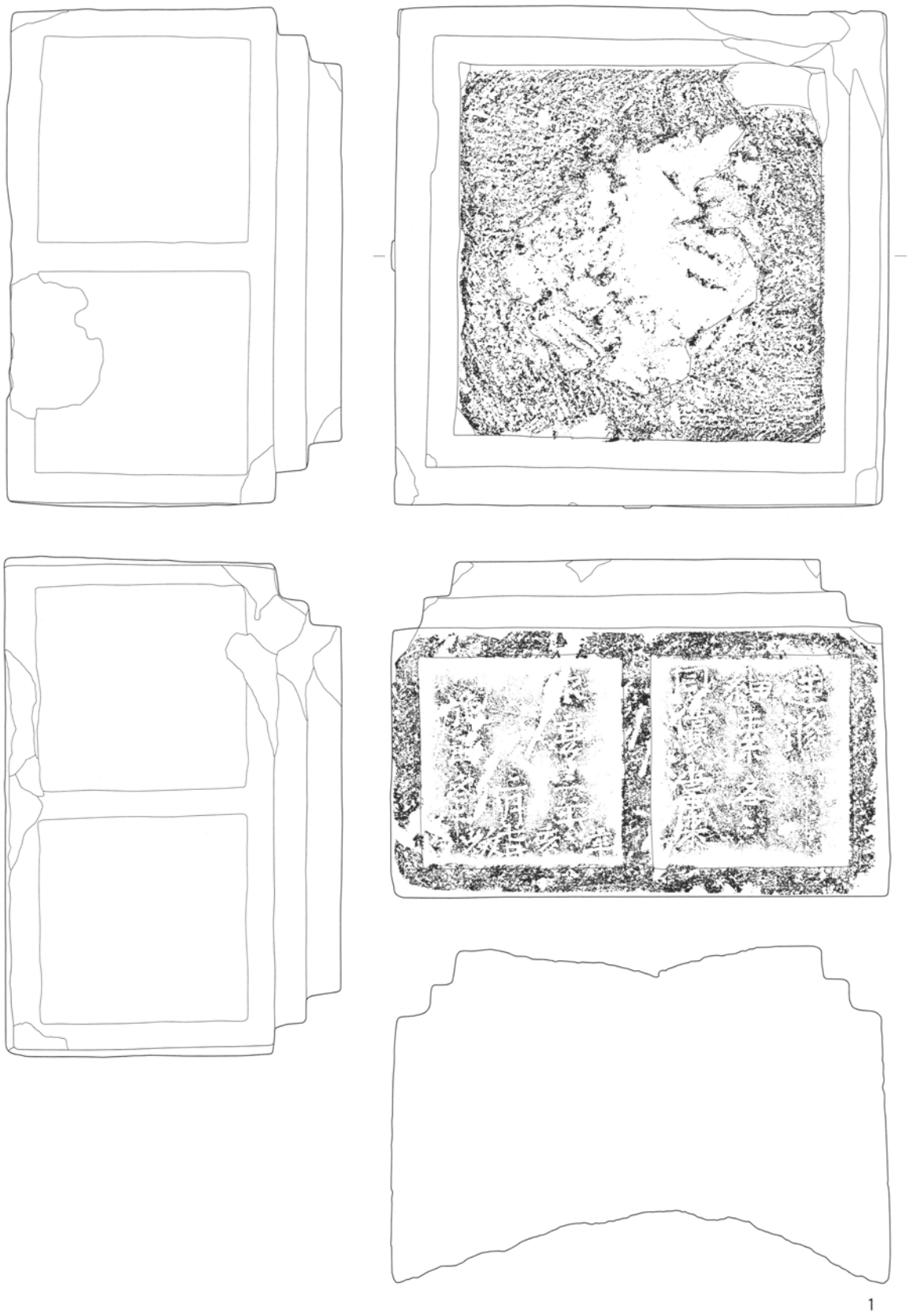
第93図　2区盛土内出土遺物（1）



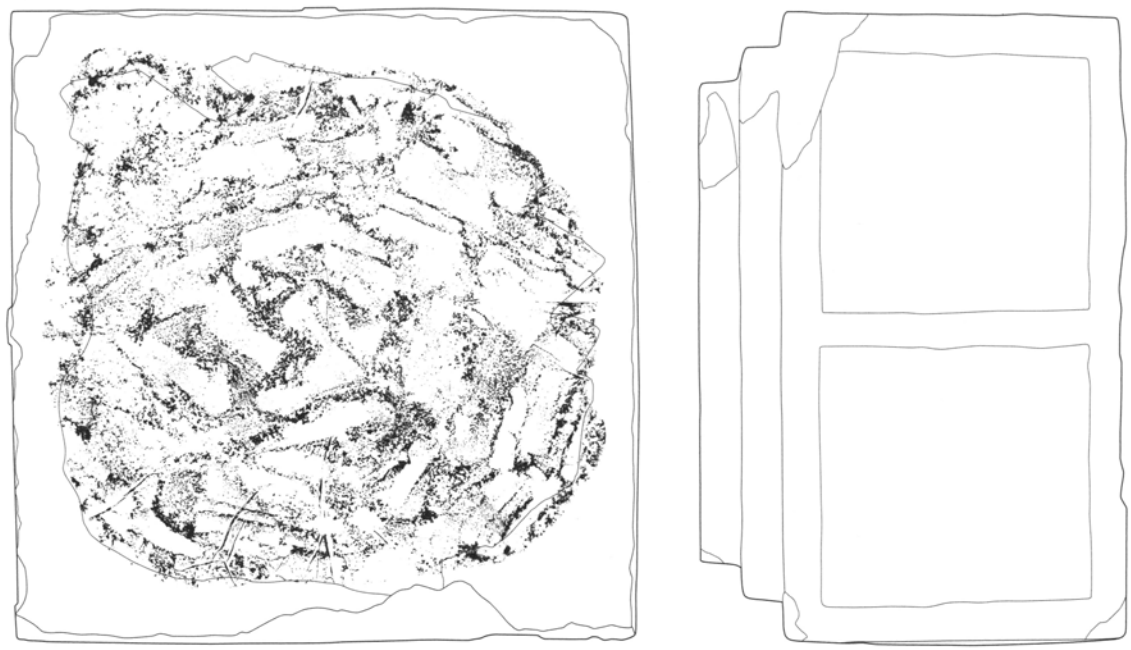
第94図　２区盛土内出土遺物（２）



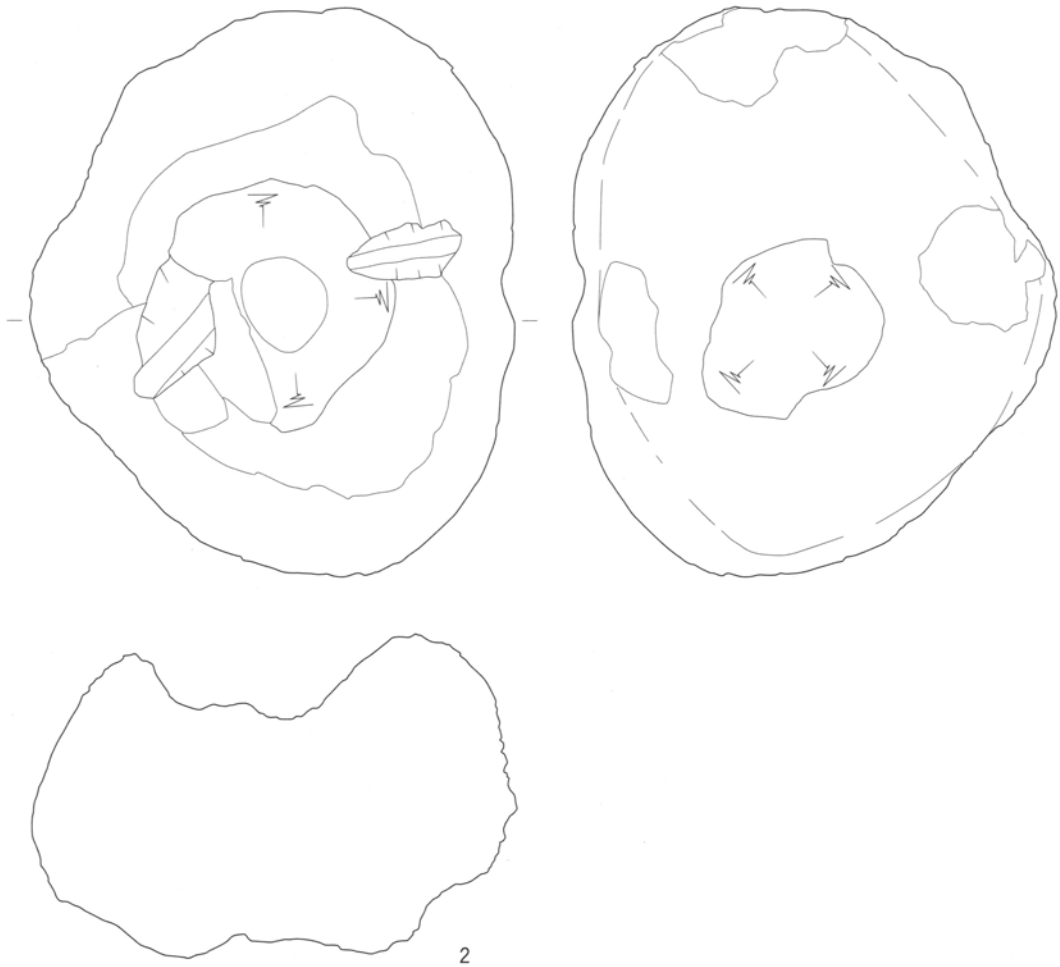
第95図　２区盛土内出土遺物（３）



第96図　２区盛土内石列出土遺物（１）



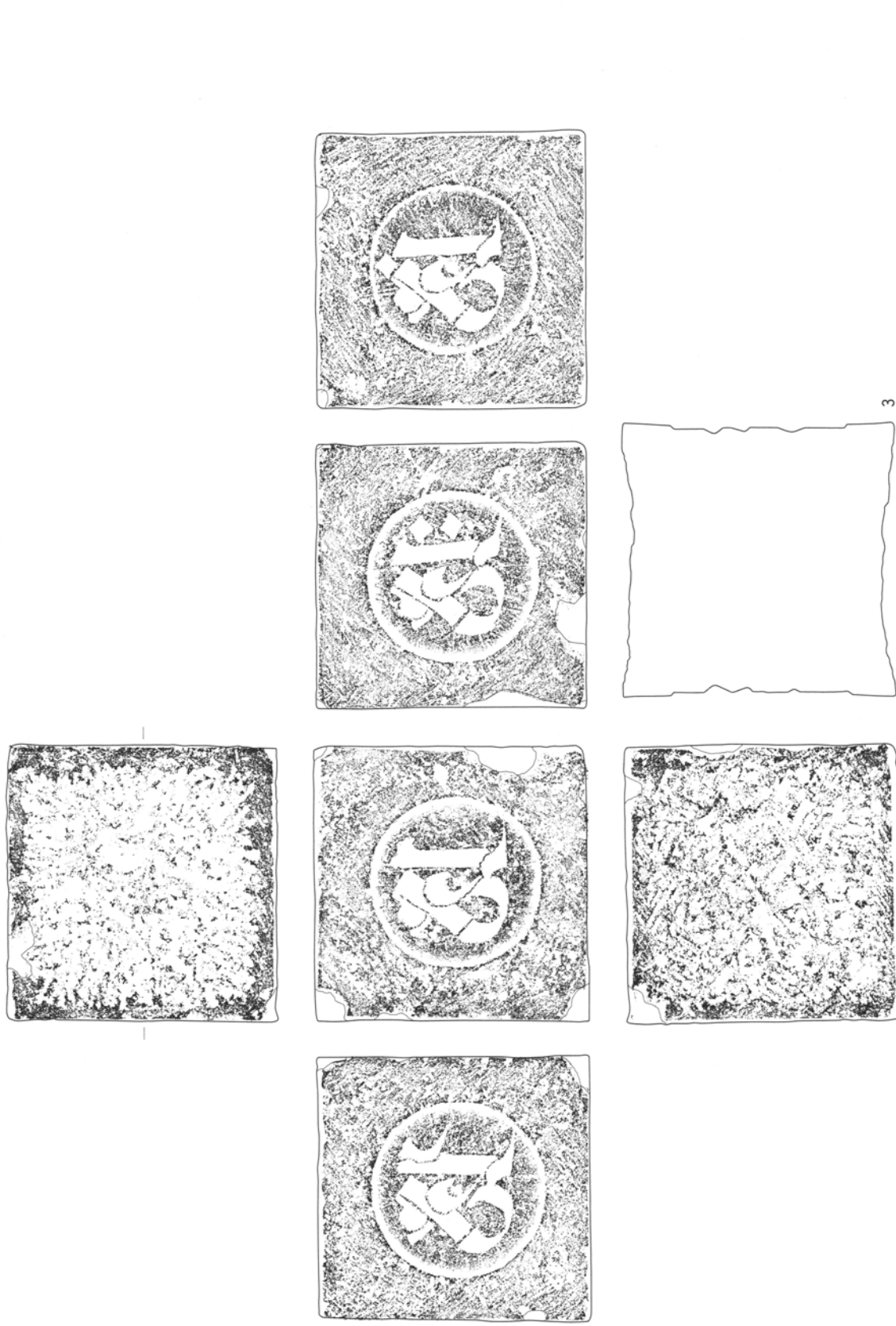
1



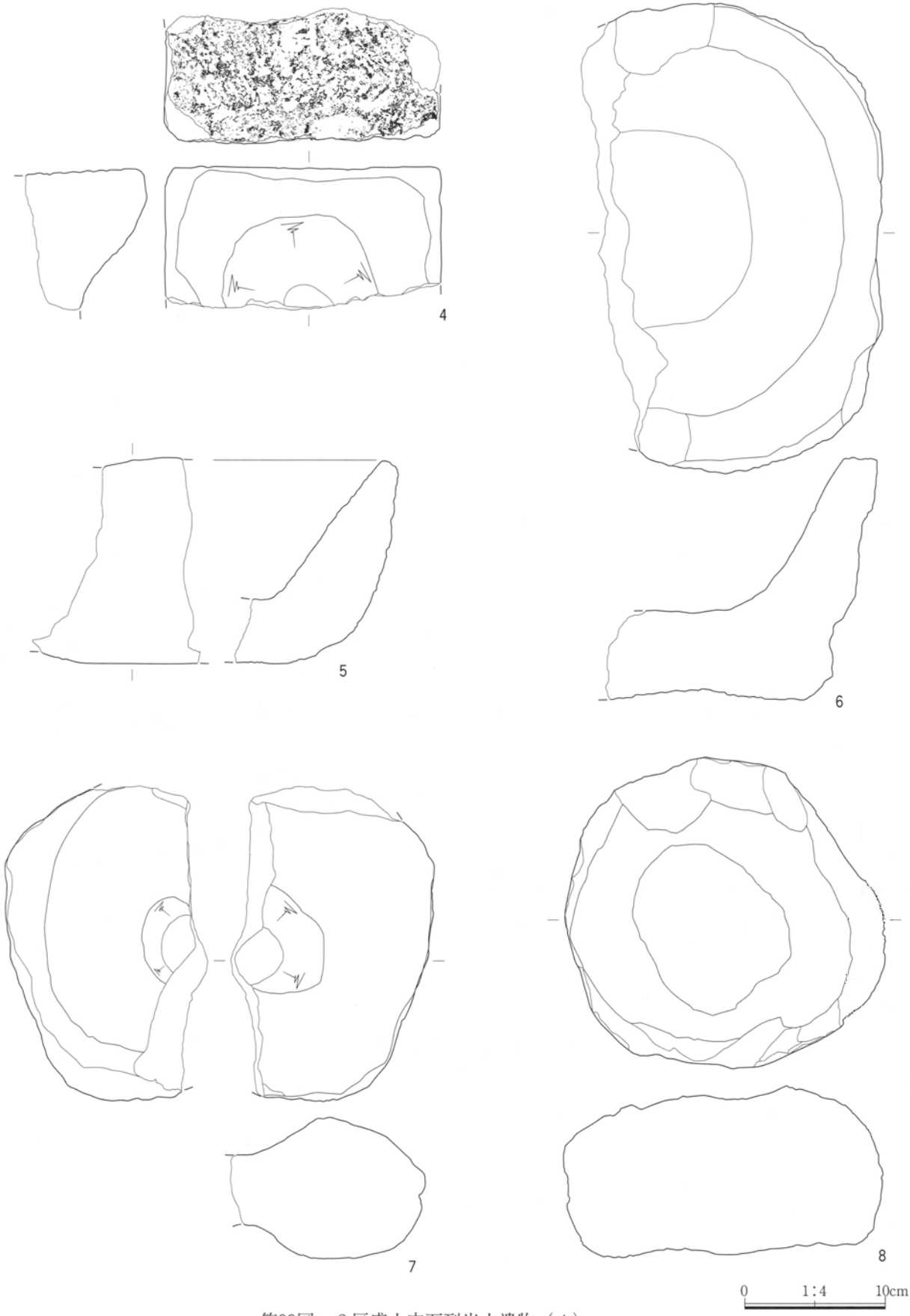
2

0　1:4　10cm

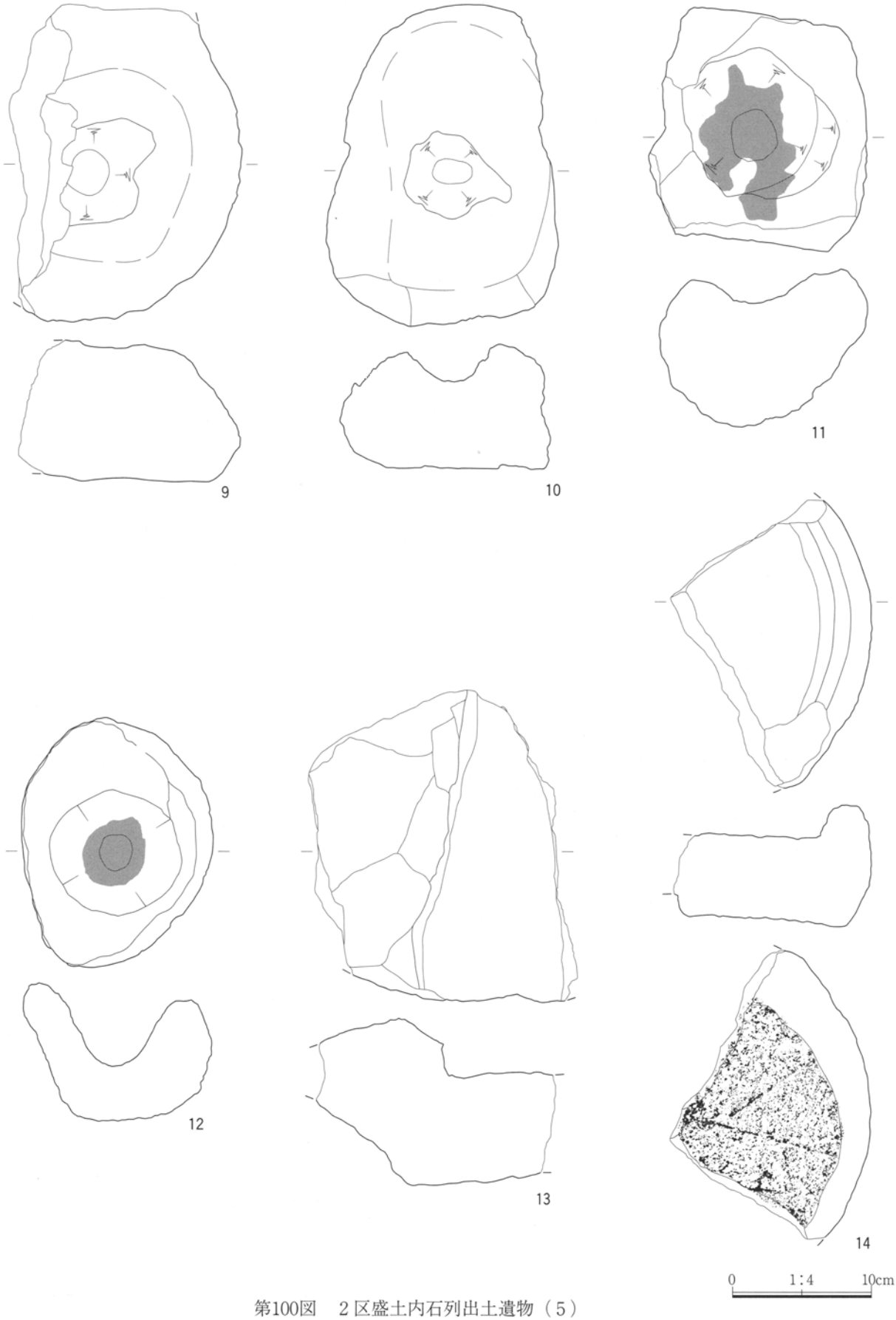
第97図　２区盛土内石列出土遺物（２）



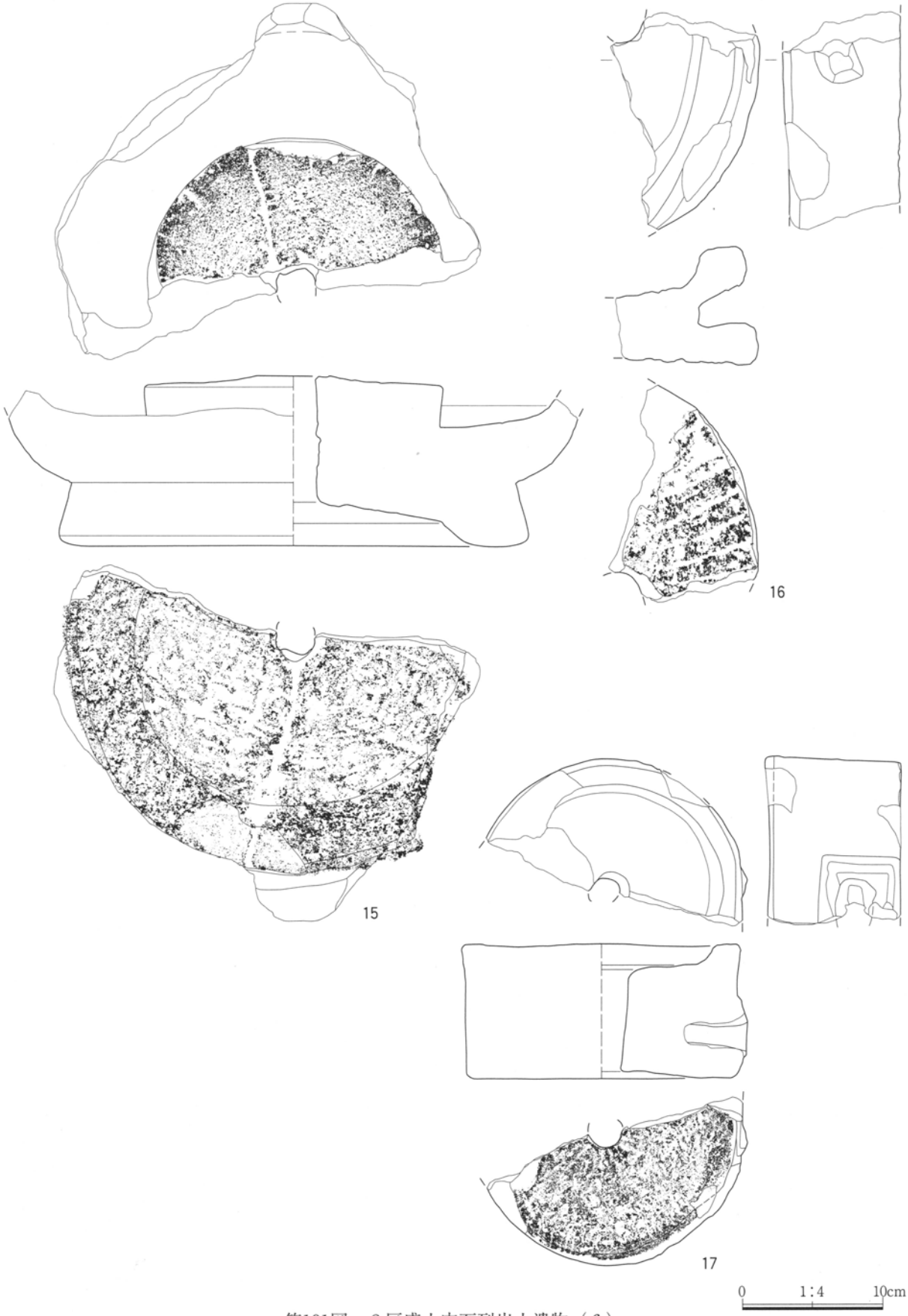
第98図　2区盛土内石列出土遺物（3）



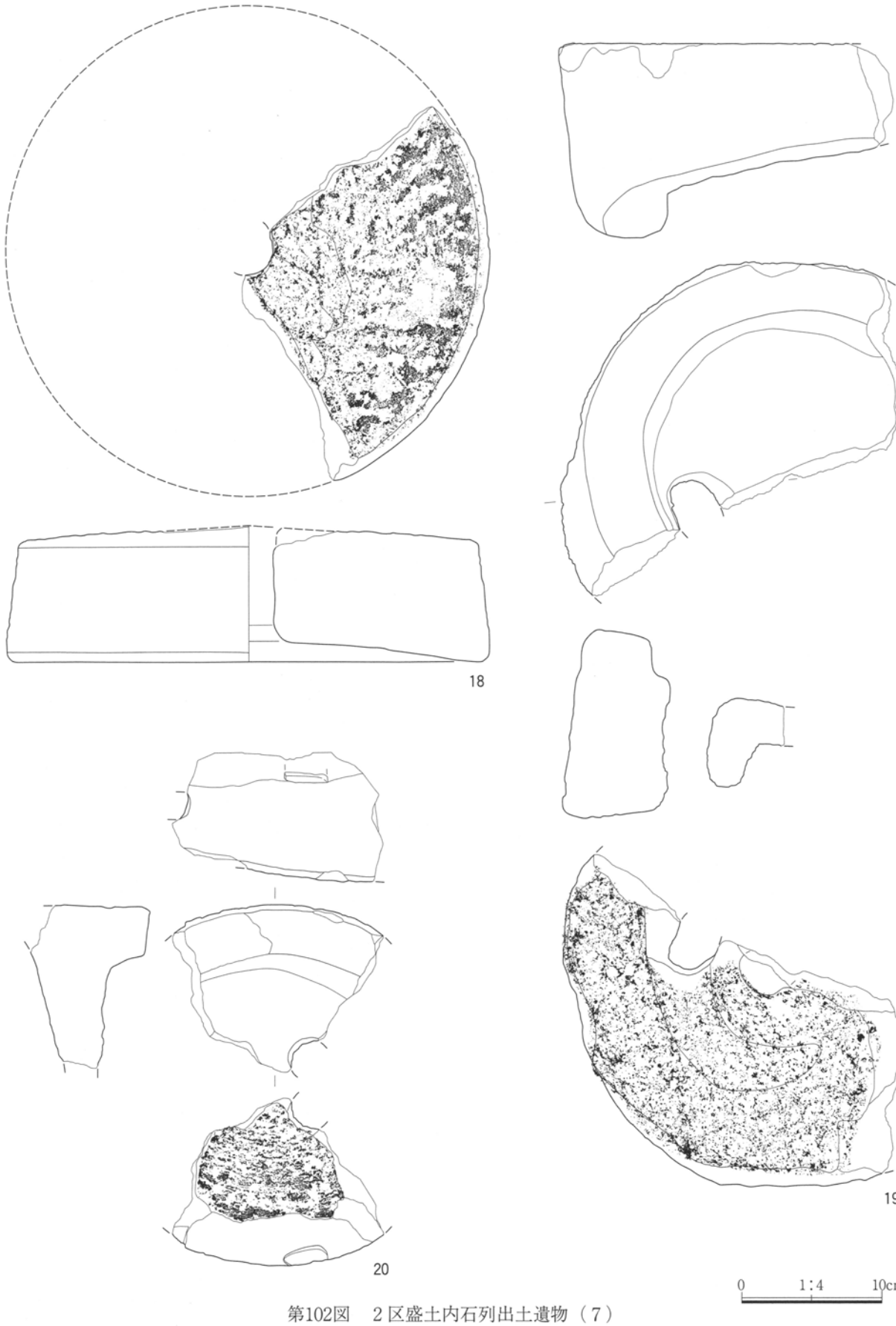
第99図　２区盛土内石列出土遺物（４）



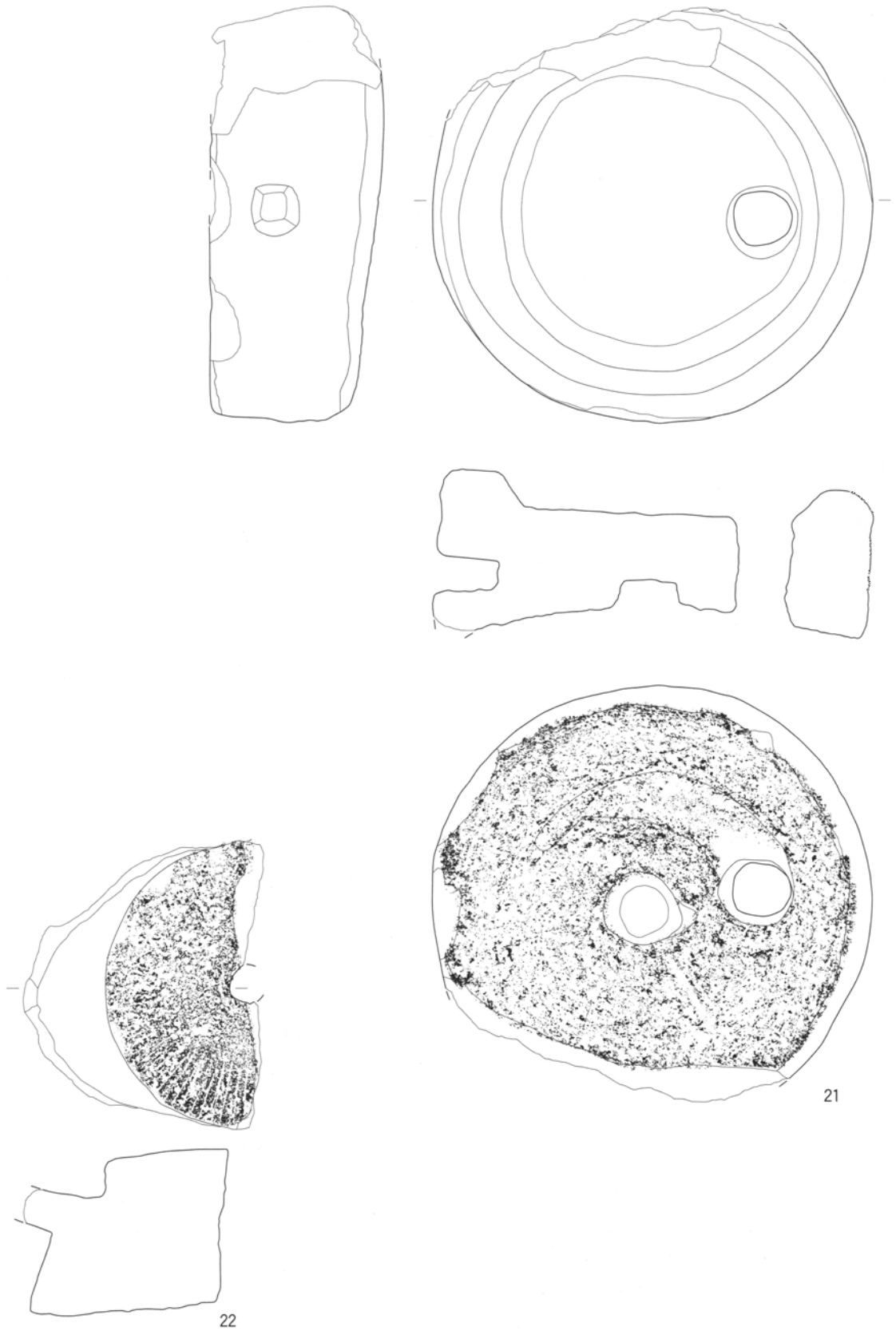
第100図　２区盛土内石列出土遺物（５）



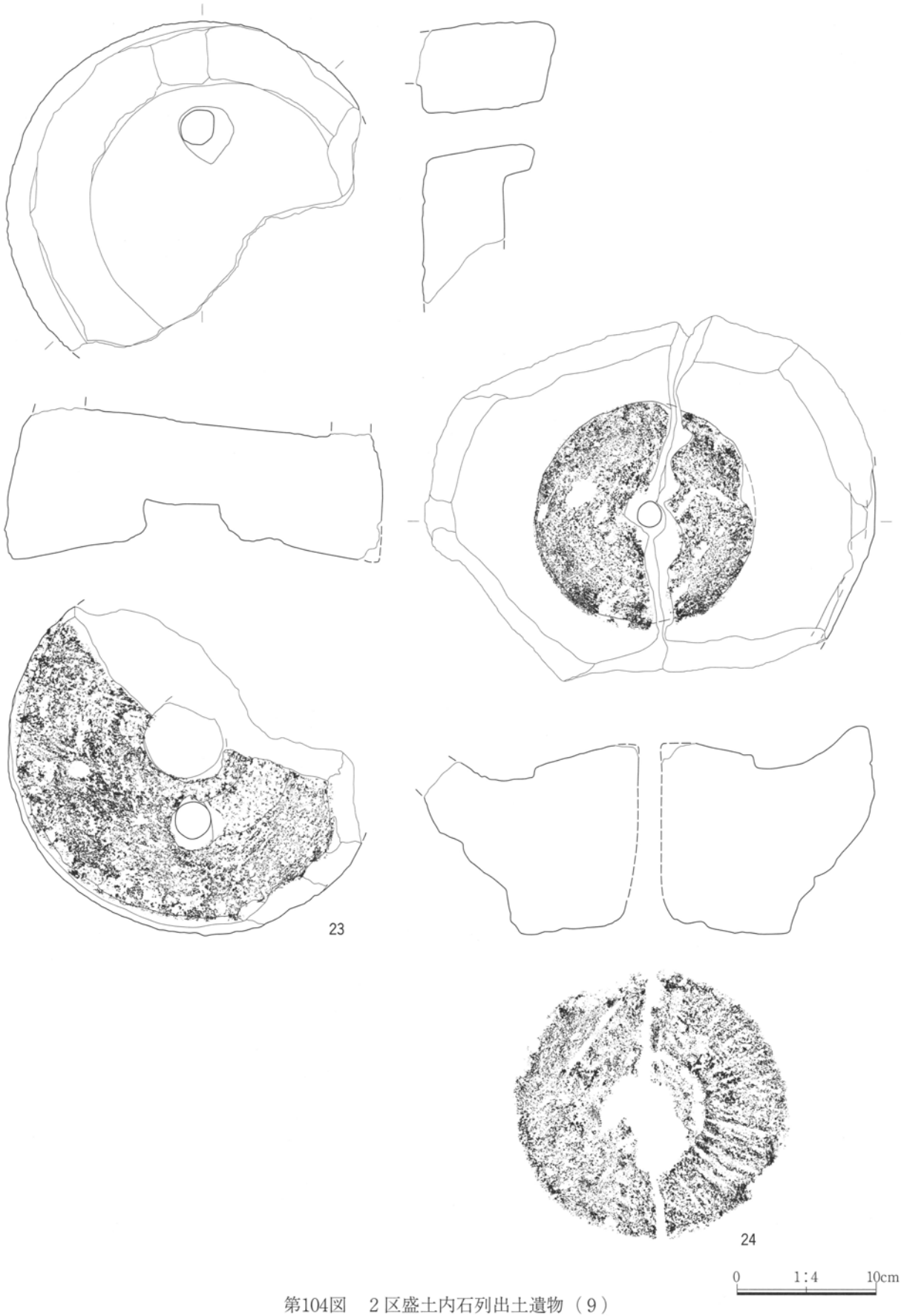
第101図　２区盛土内石列出土遺物（６）



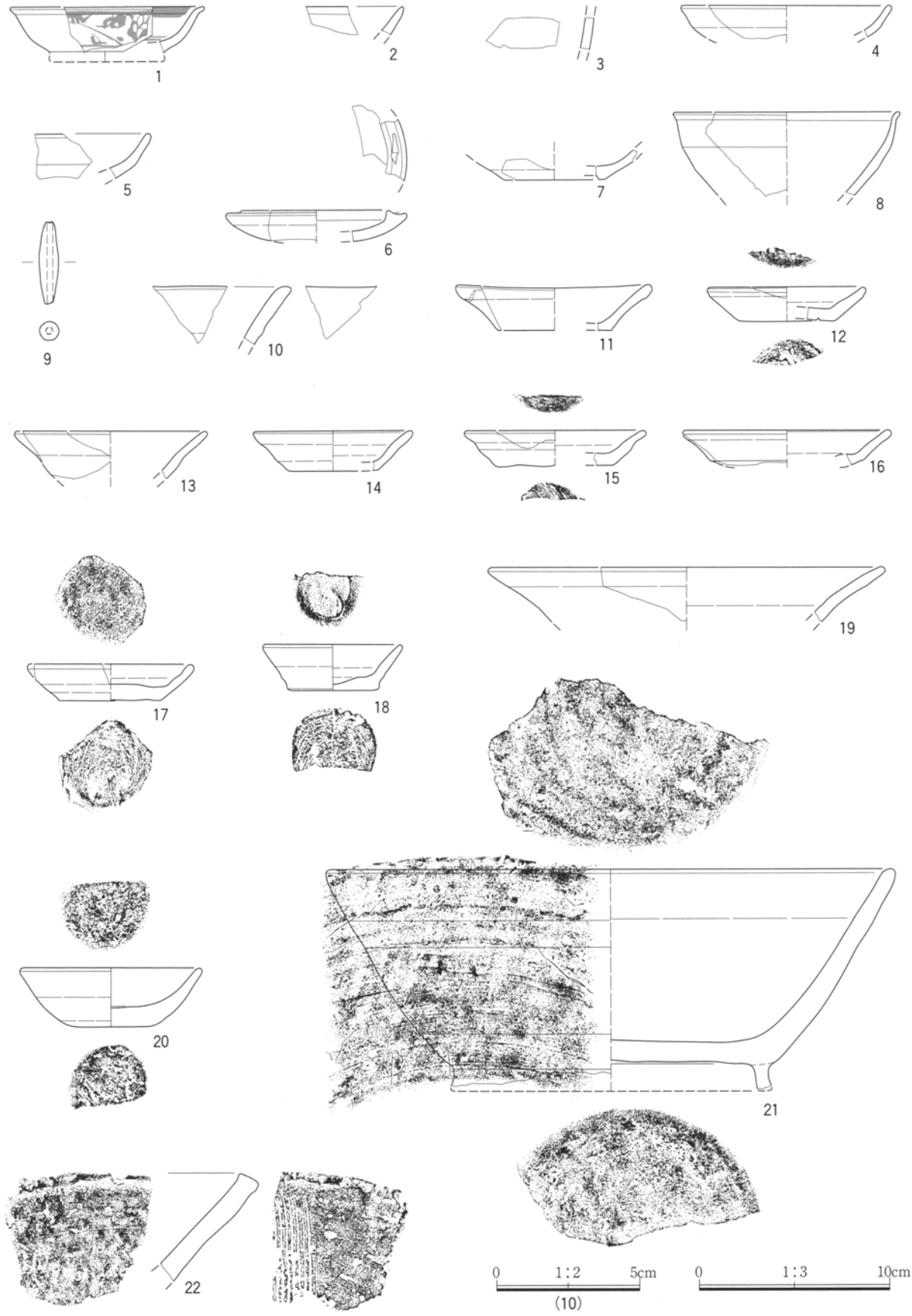
第102図　２区盛土内石列出土遺物（７）



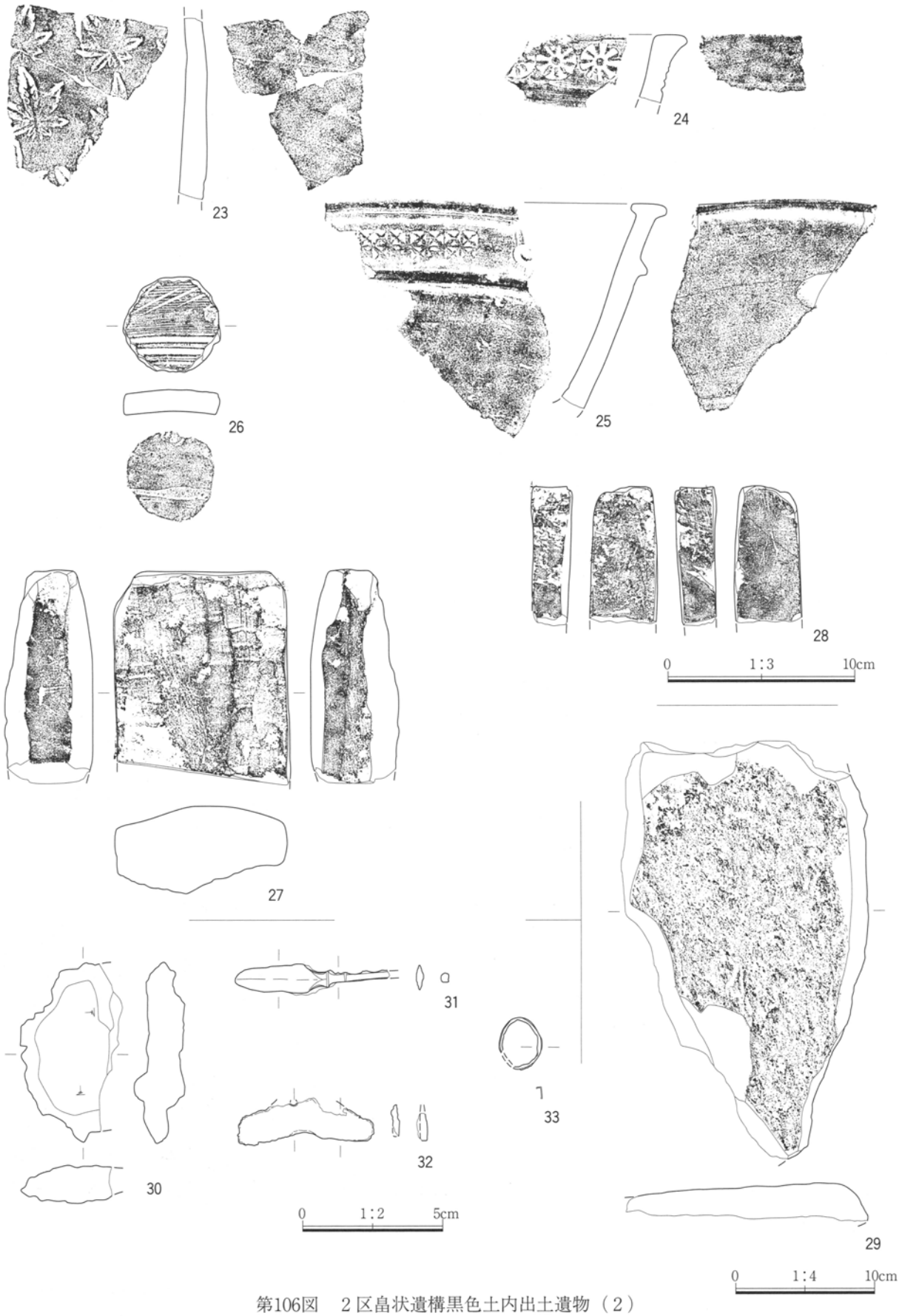
第103図　２区盛土内石列出土遺物（８）



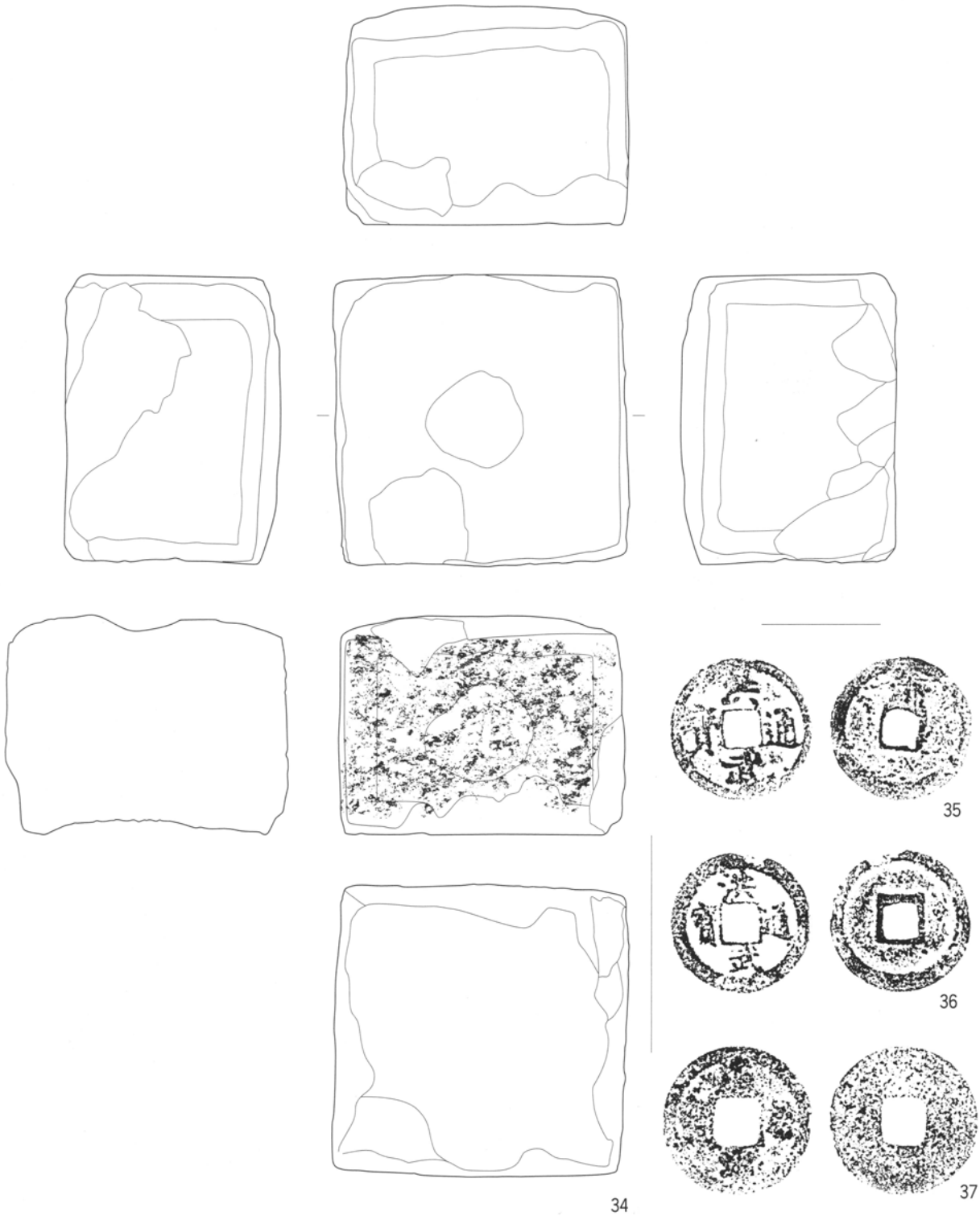
第104図　２区盛土内石列出土遺物（９）



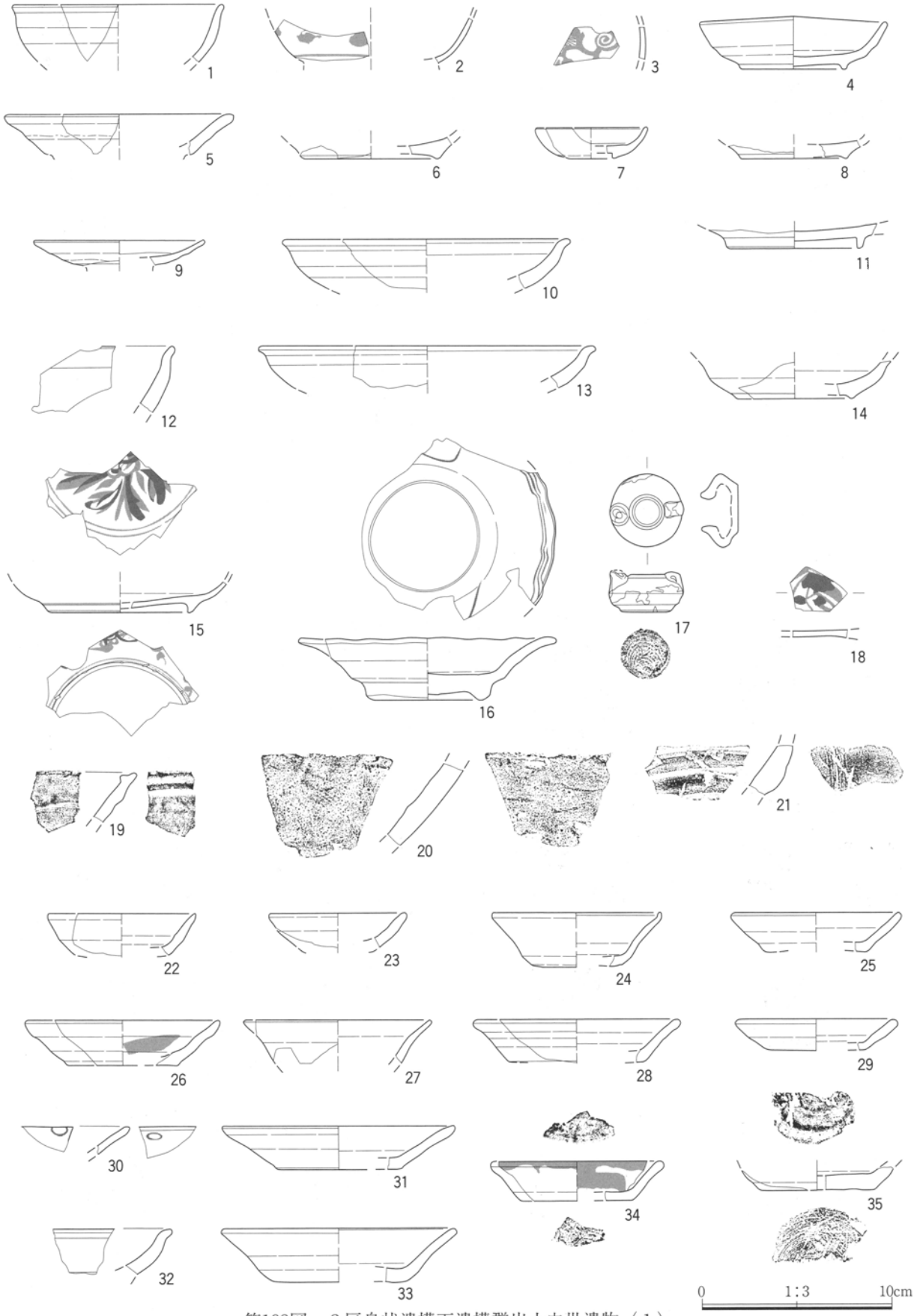
第105図　2区畠状遺構黒色土内出土遺物（1）



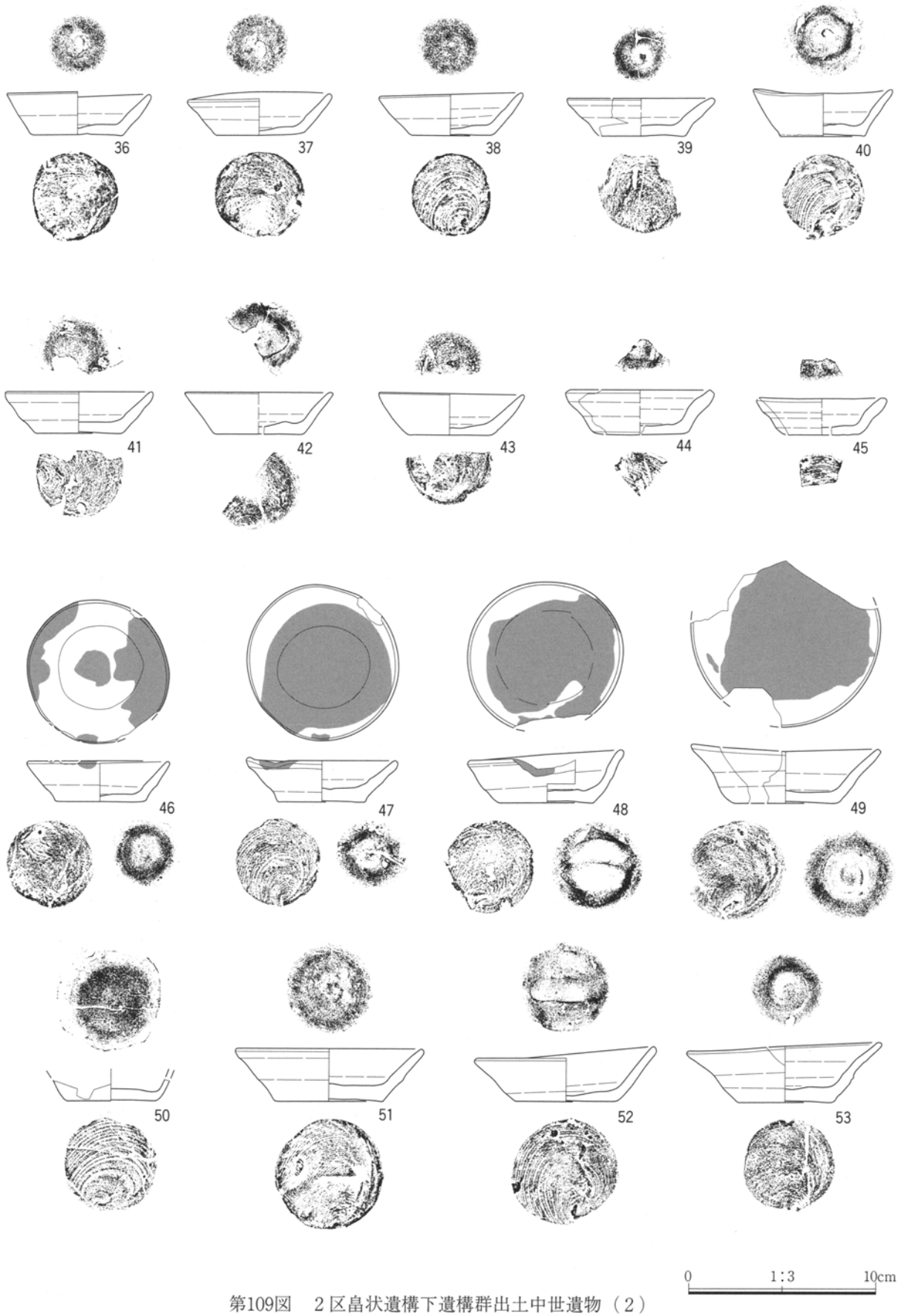
第106図　２区畠状遺構黒色土内出土遺物（２）



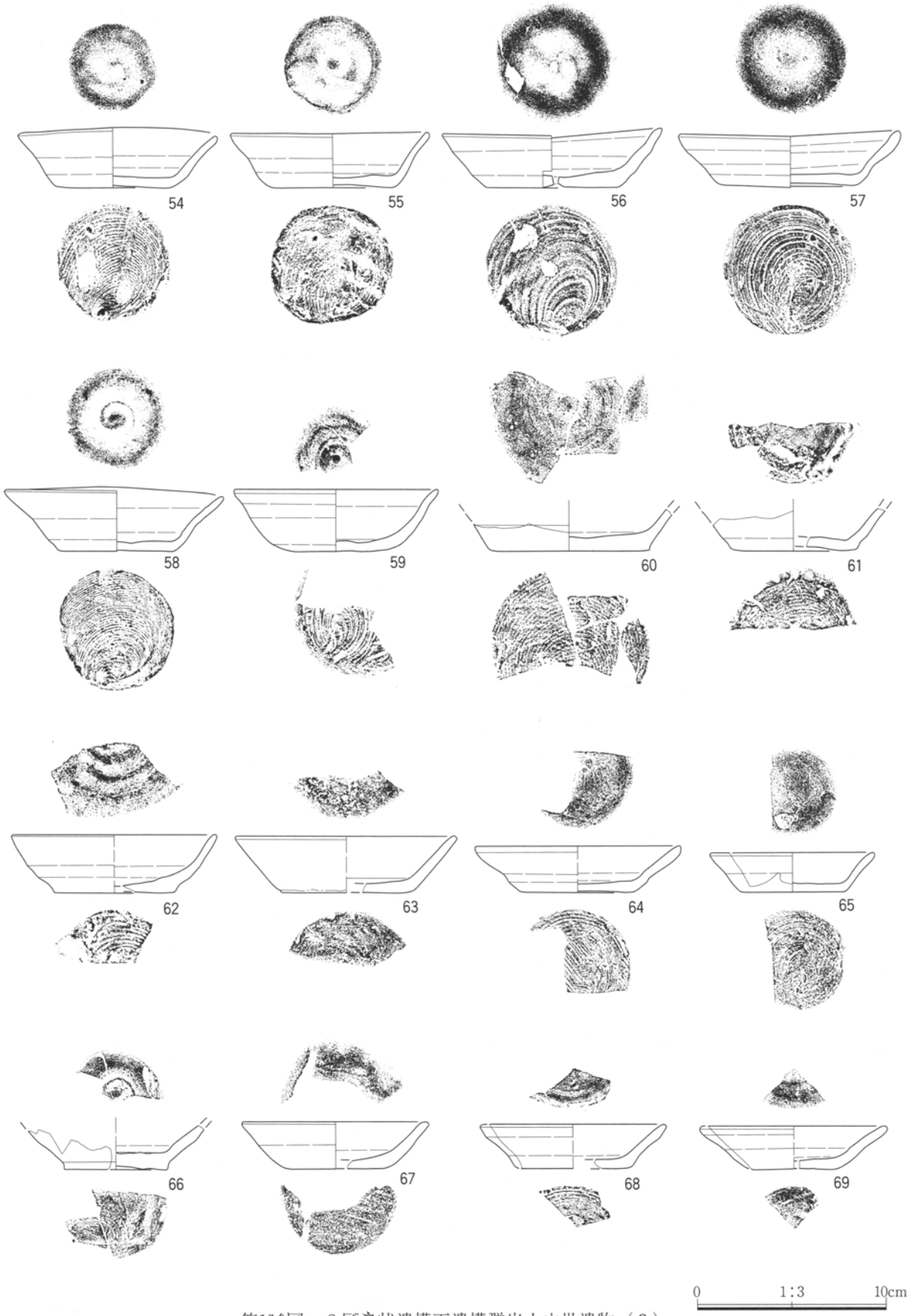
第107図　２区畠状遺構黒色土内出土遺物（３）



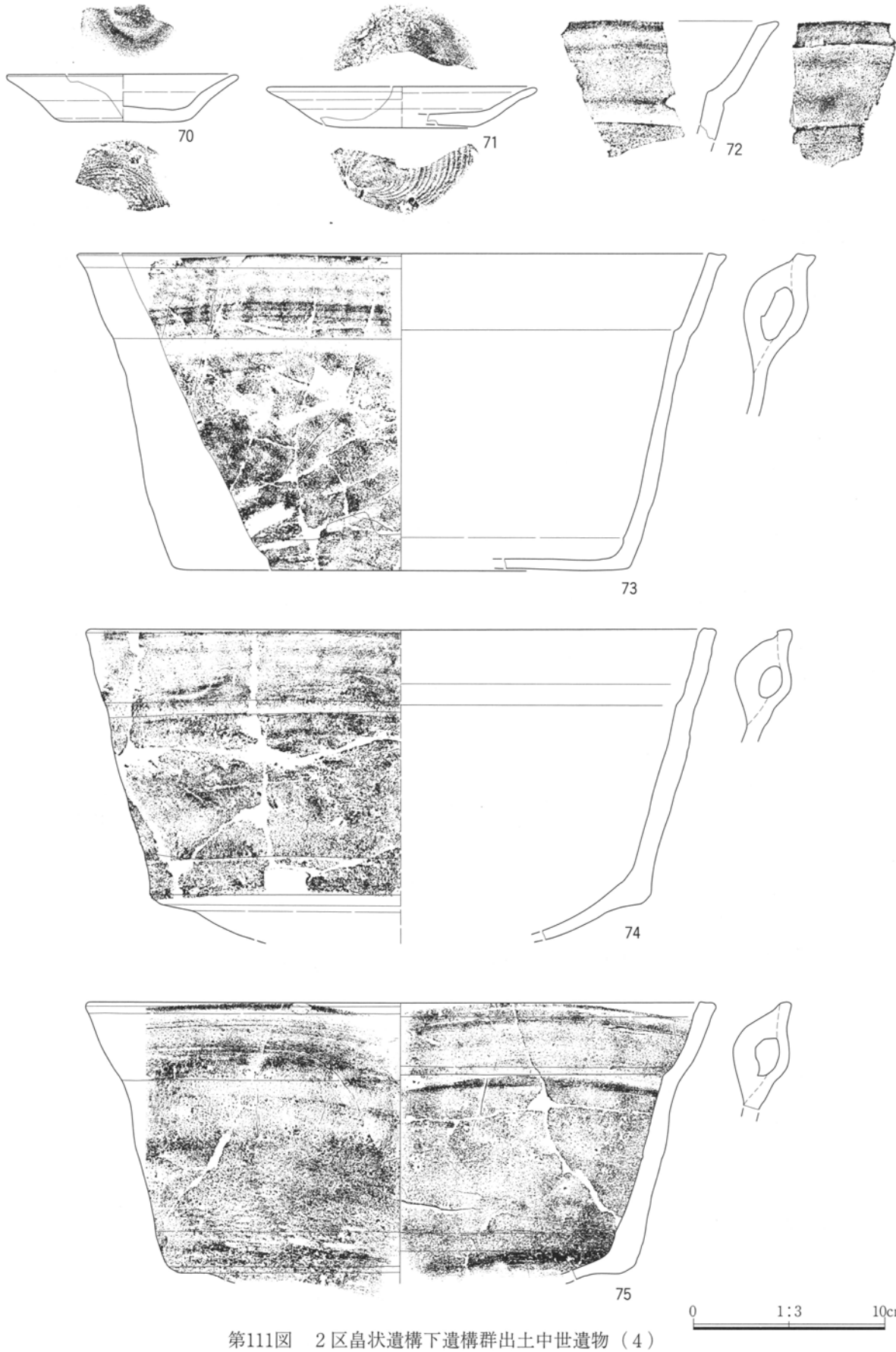
第108図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（１）



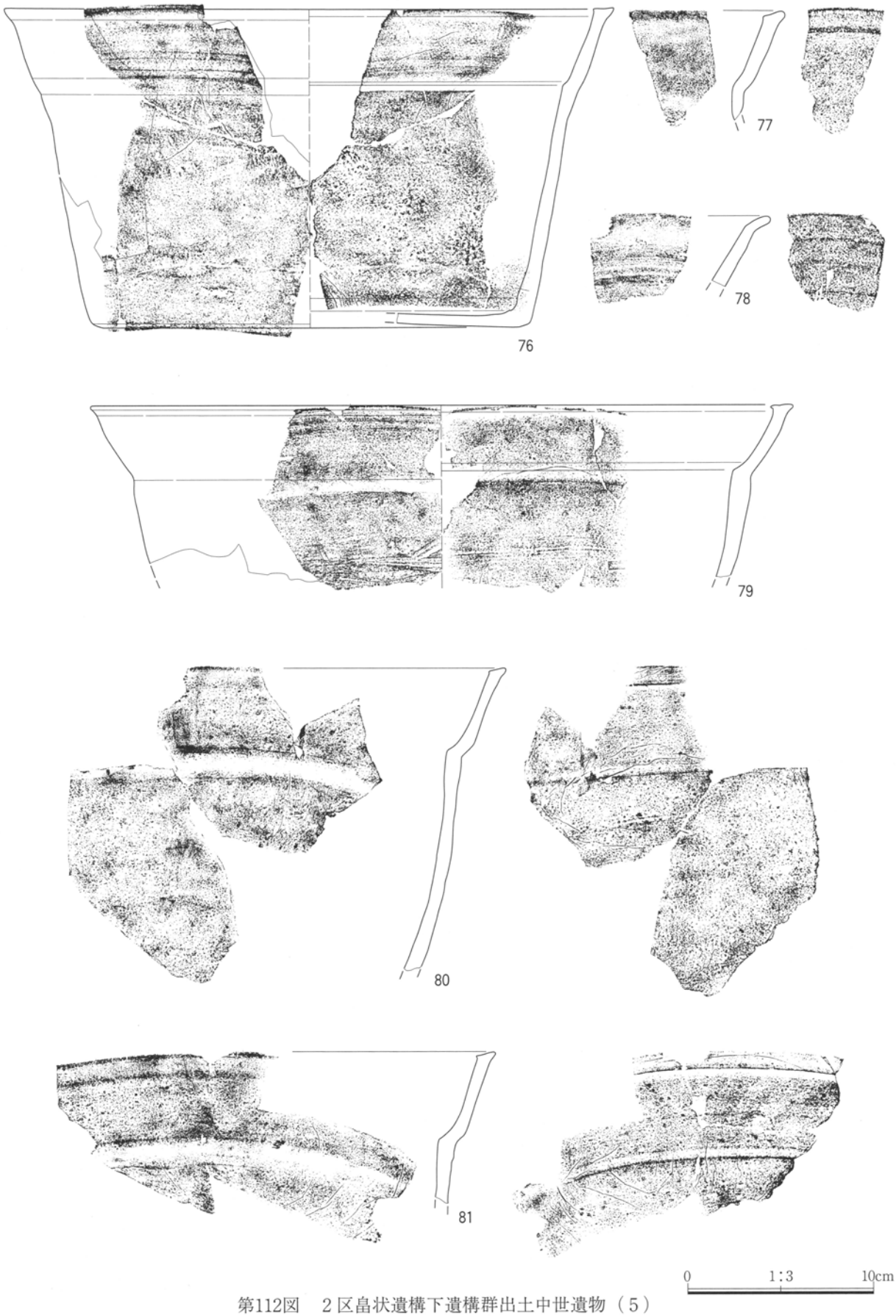
第109図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（２）



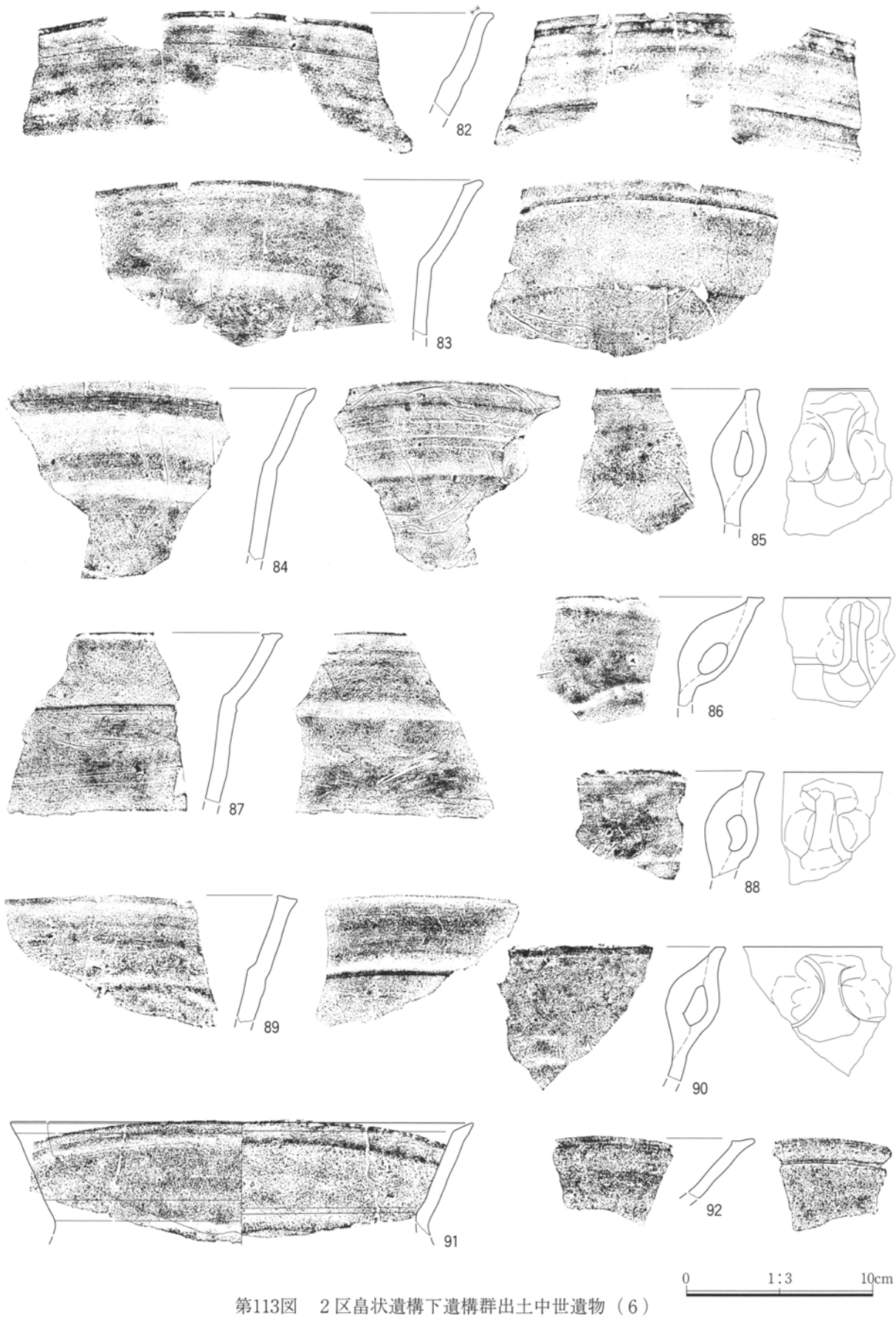
第110図　2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（3）



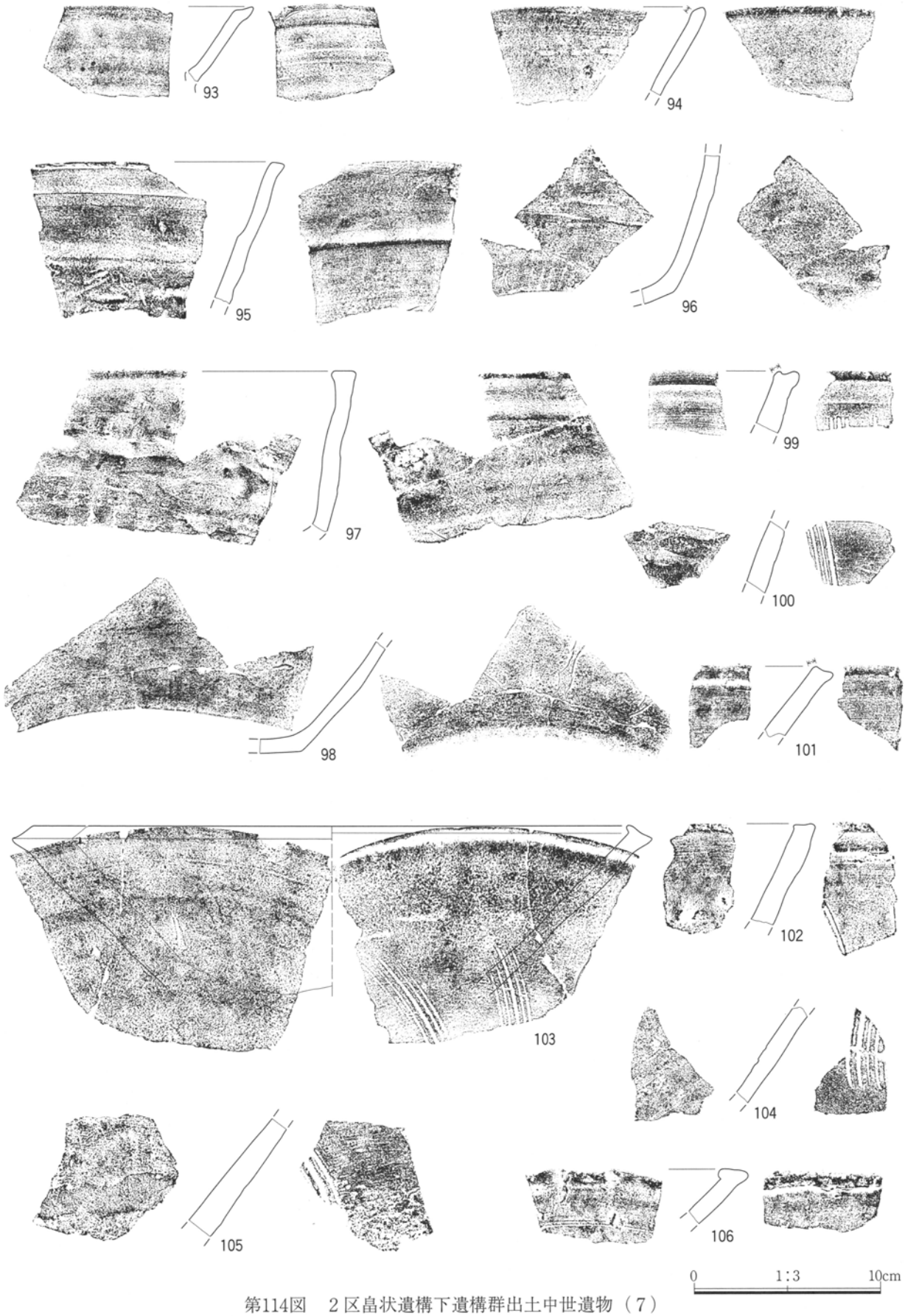
第111図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（４）



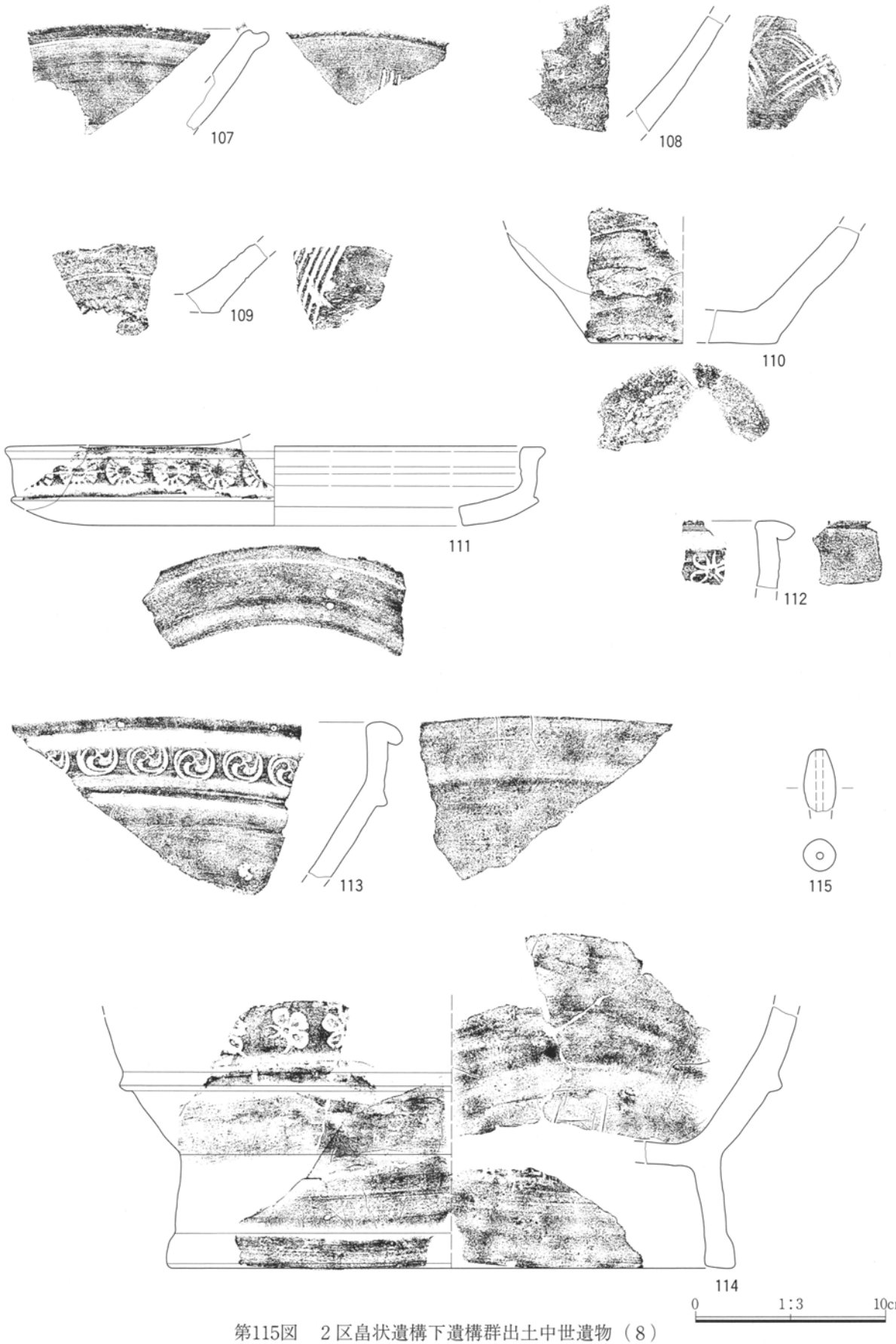
第112図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（５）



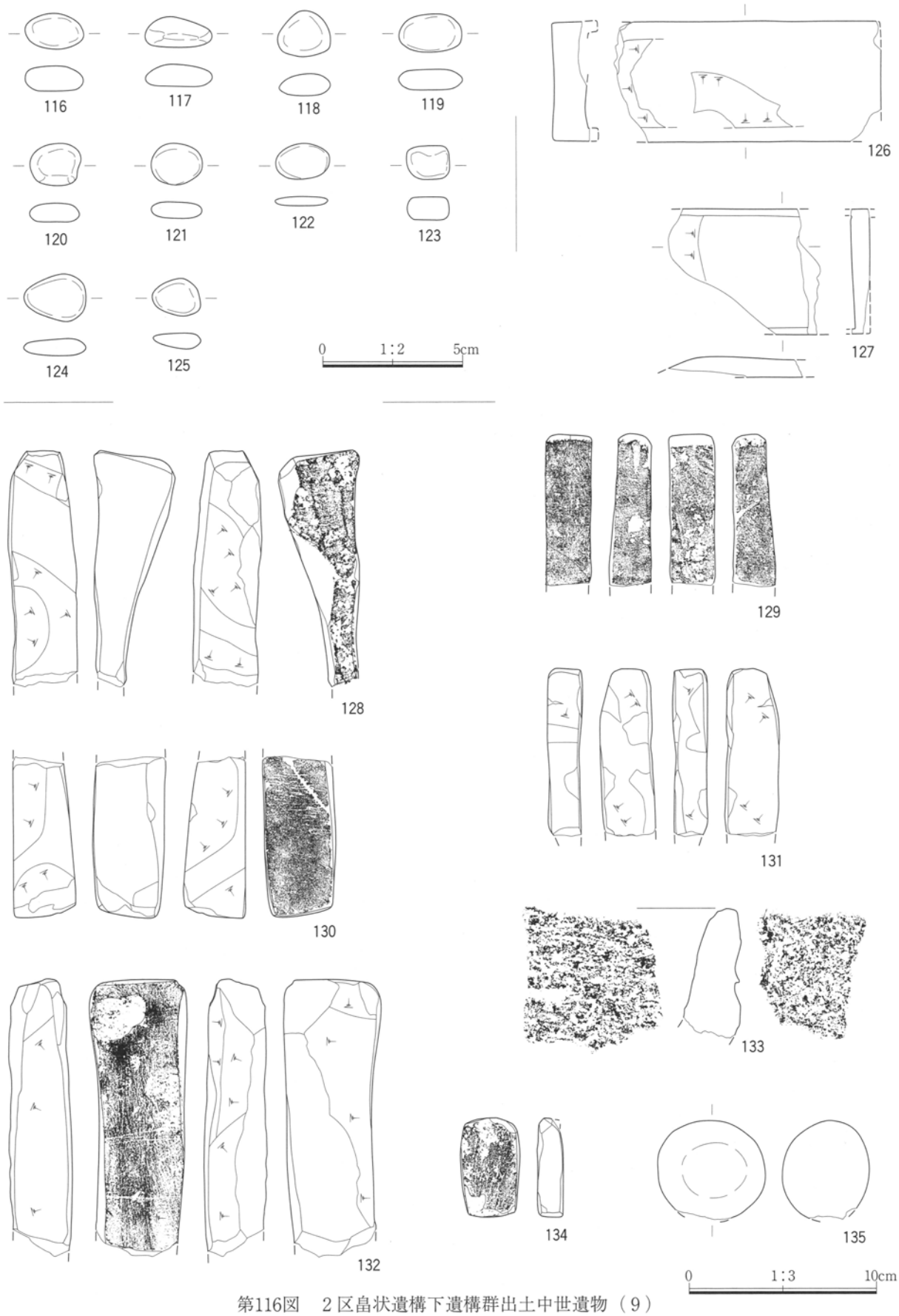
第113図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（６）



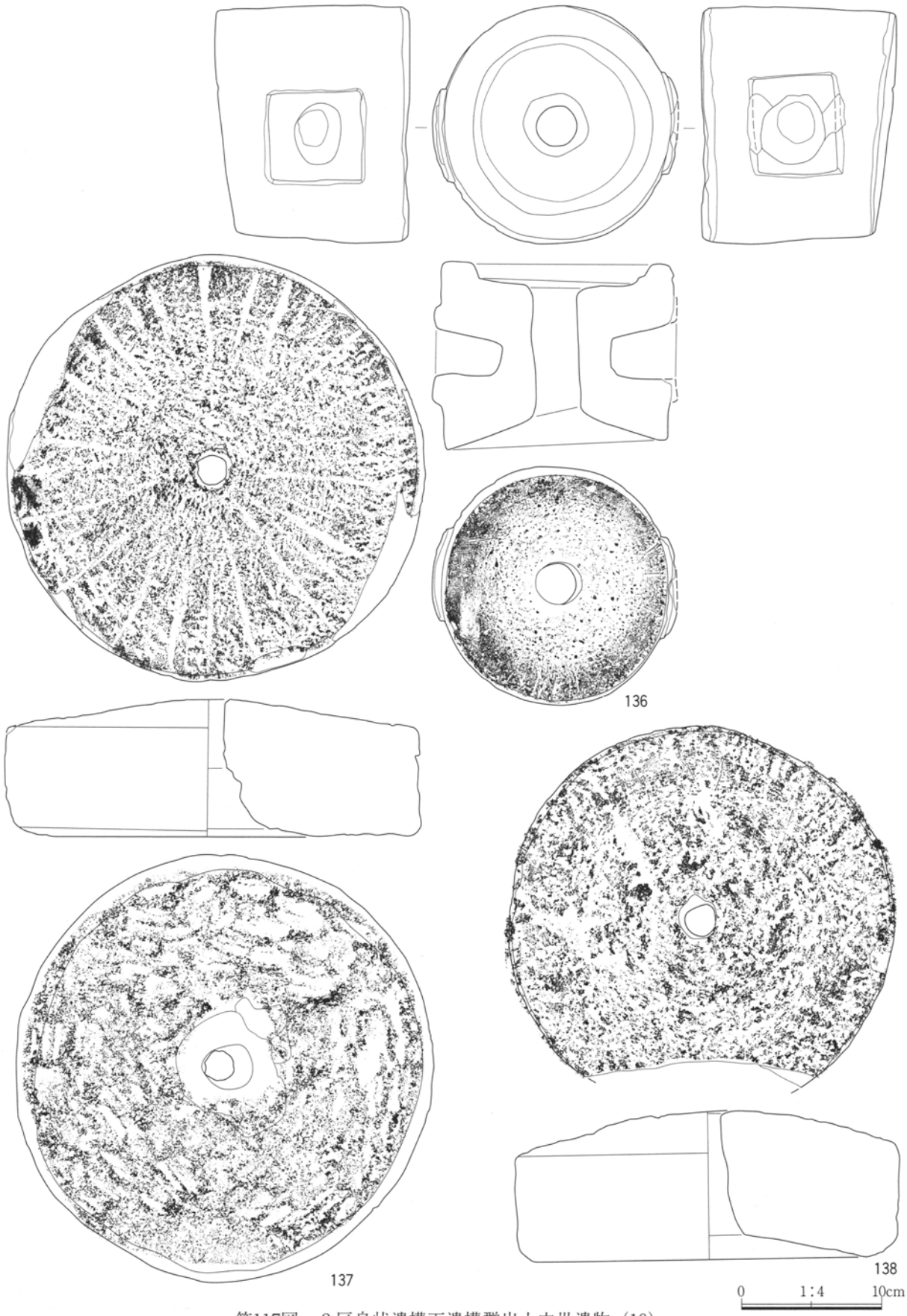
第114図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（７）



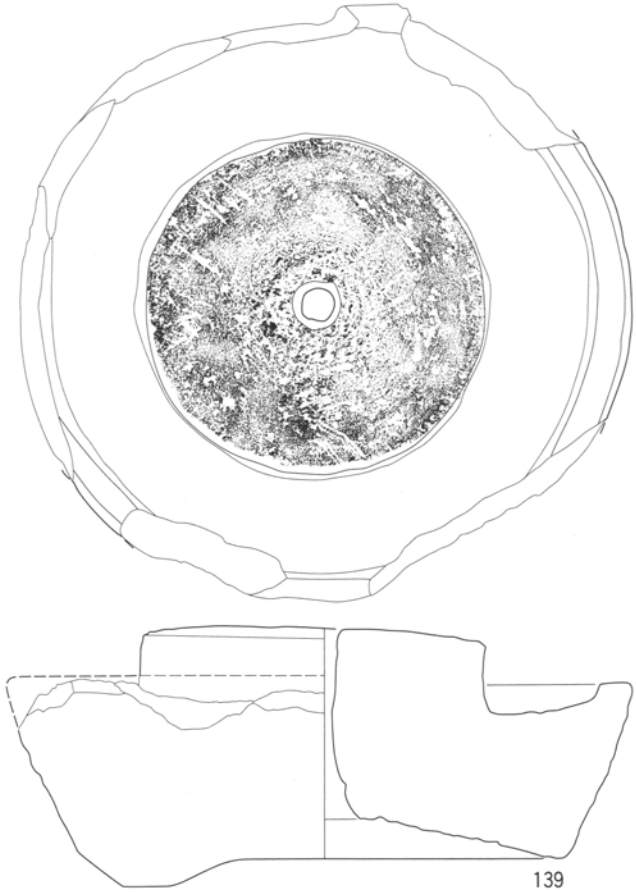
第115図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（８）

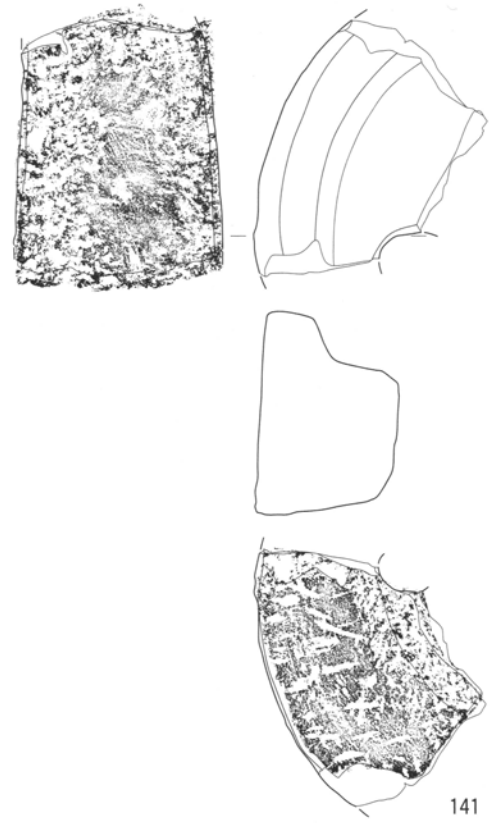


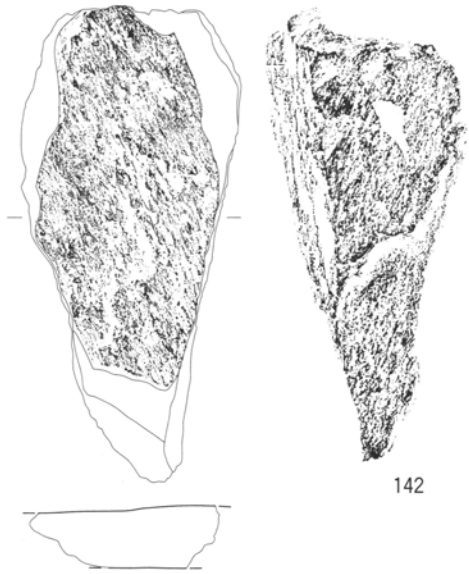
第116図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（９）



第117図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（10）

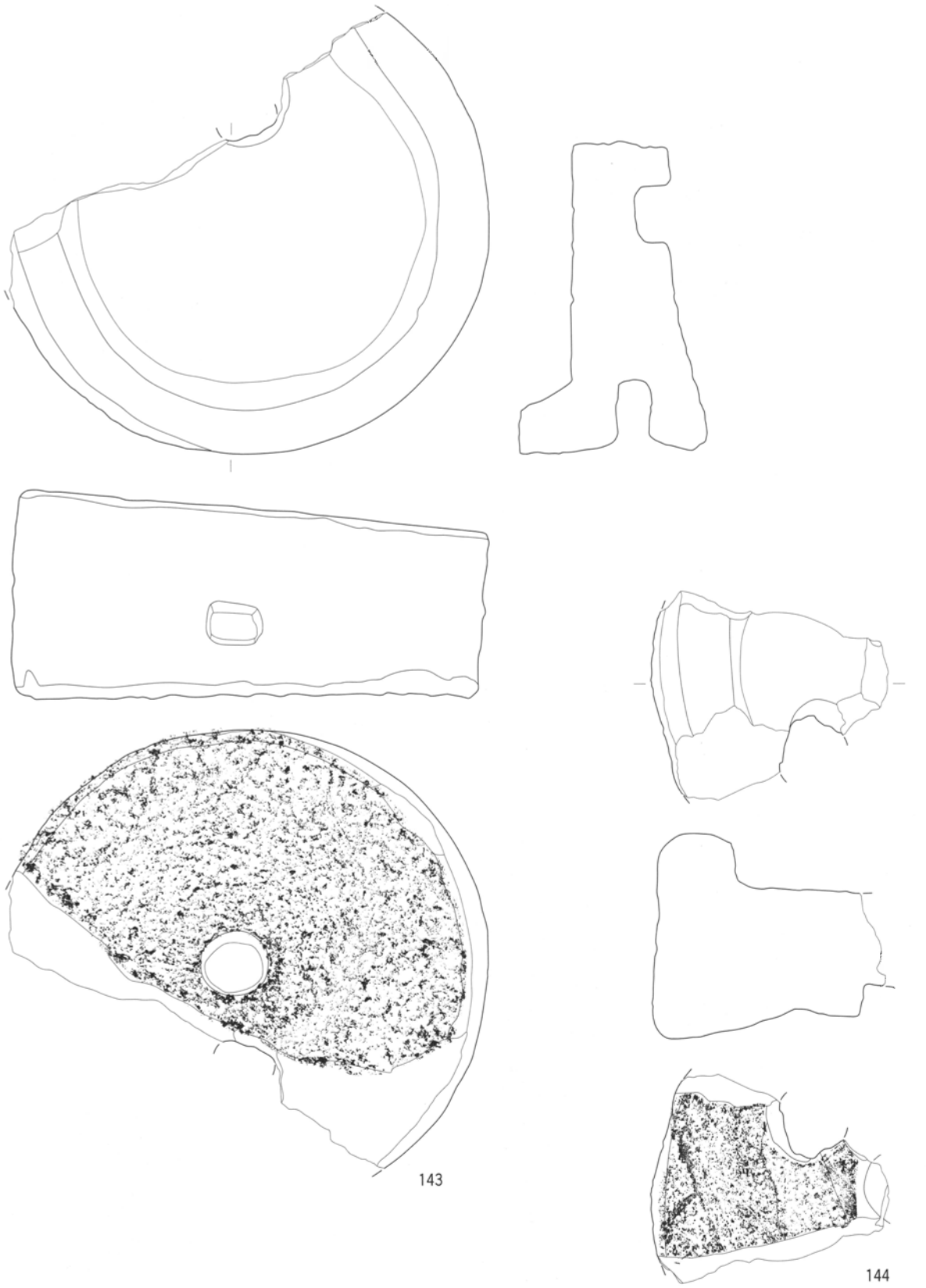




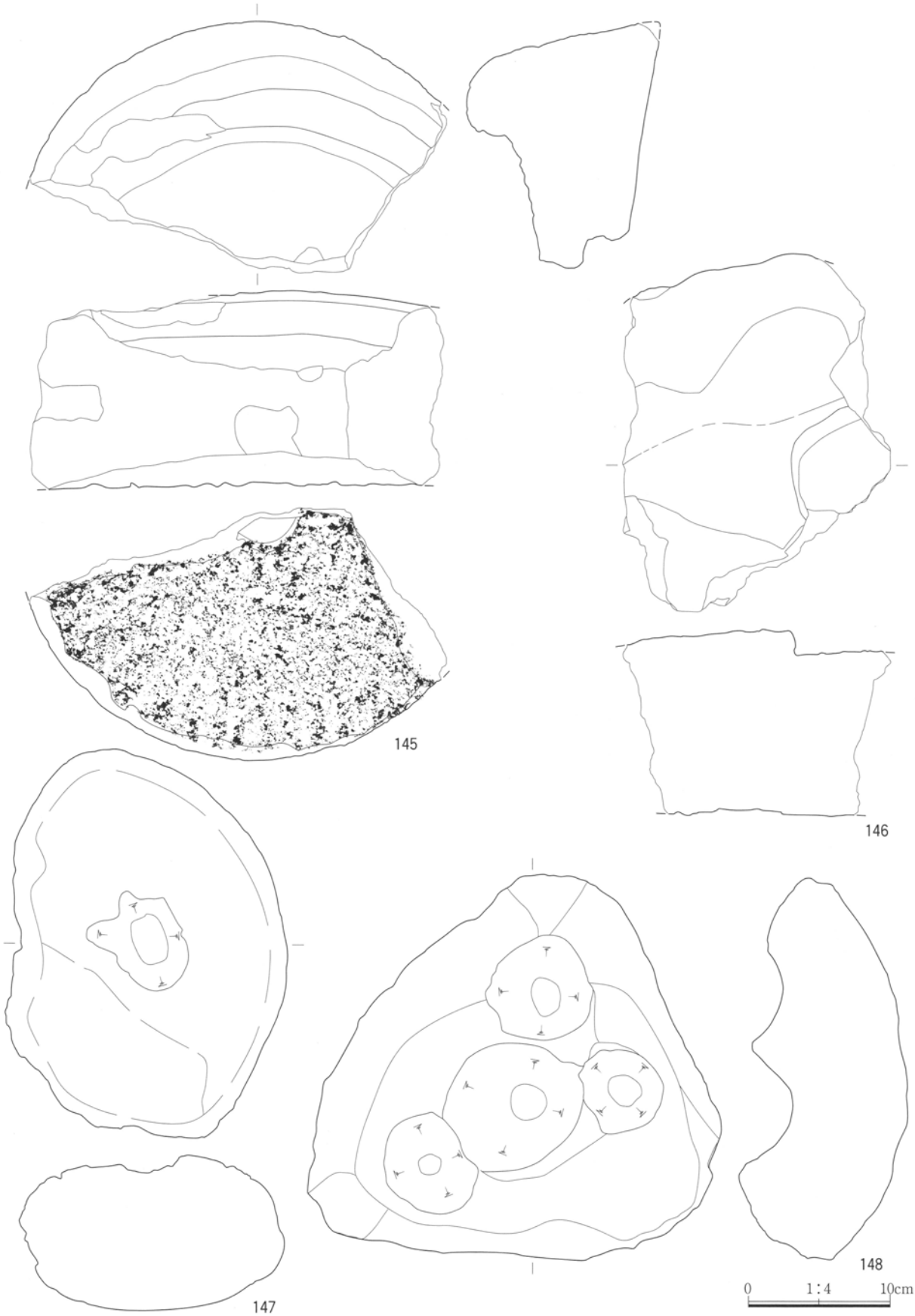


0　1:4　10cm

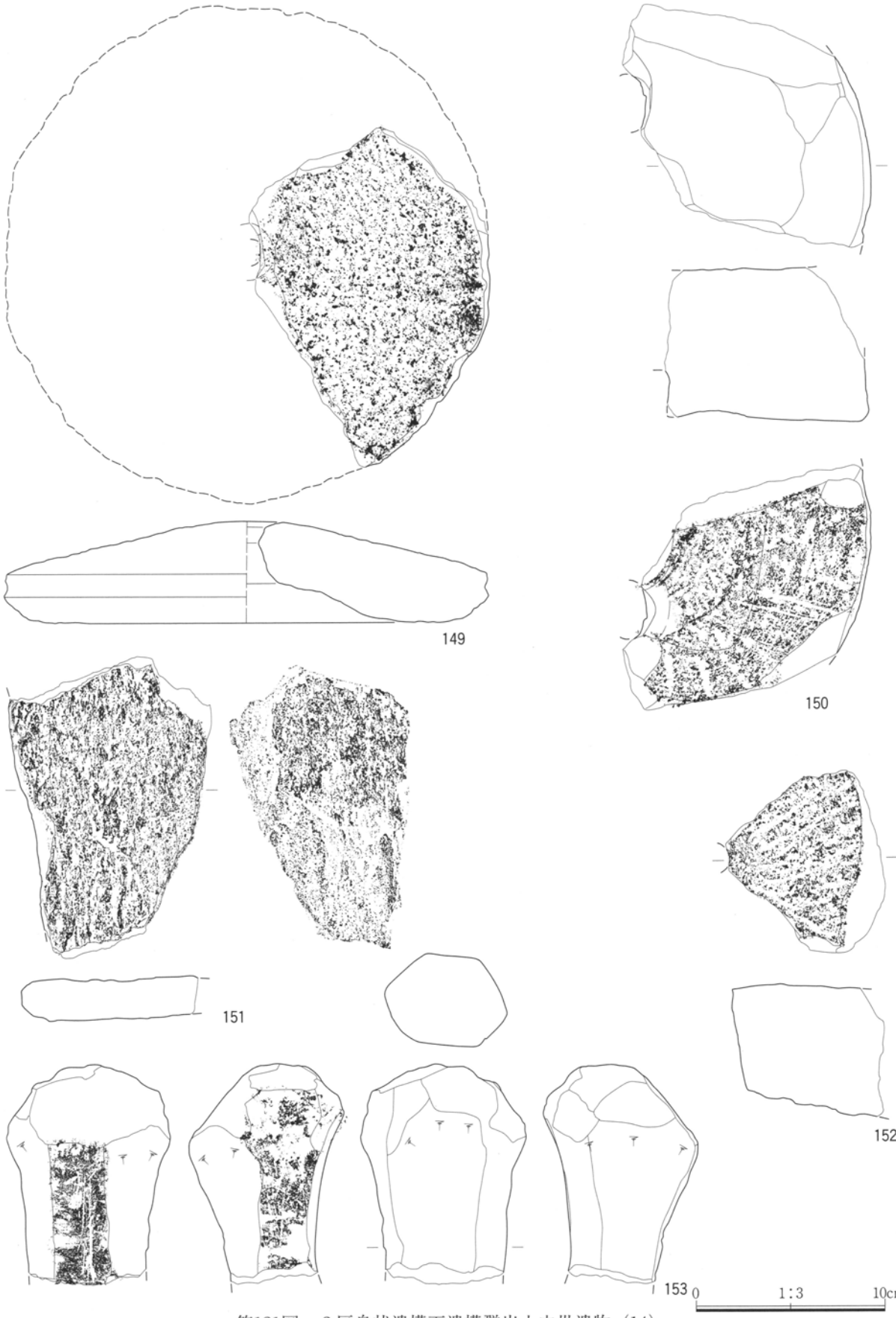
第118図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（11）



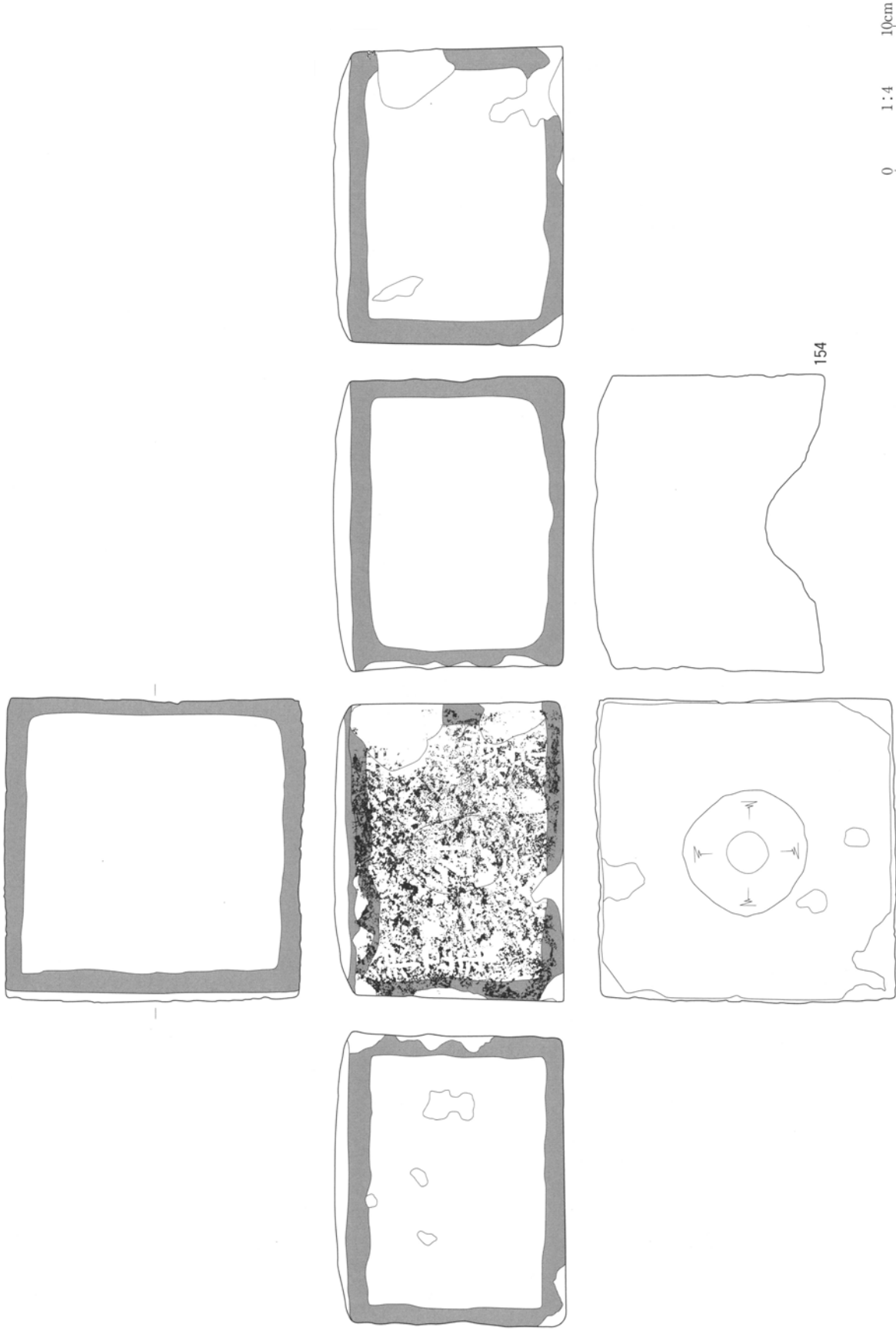
第119図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（12）



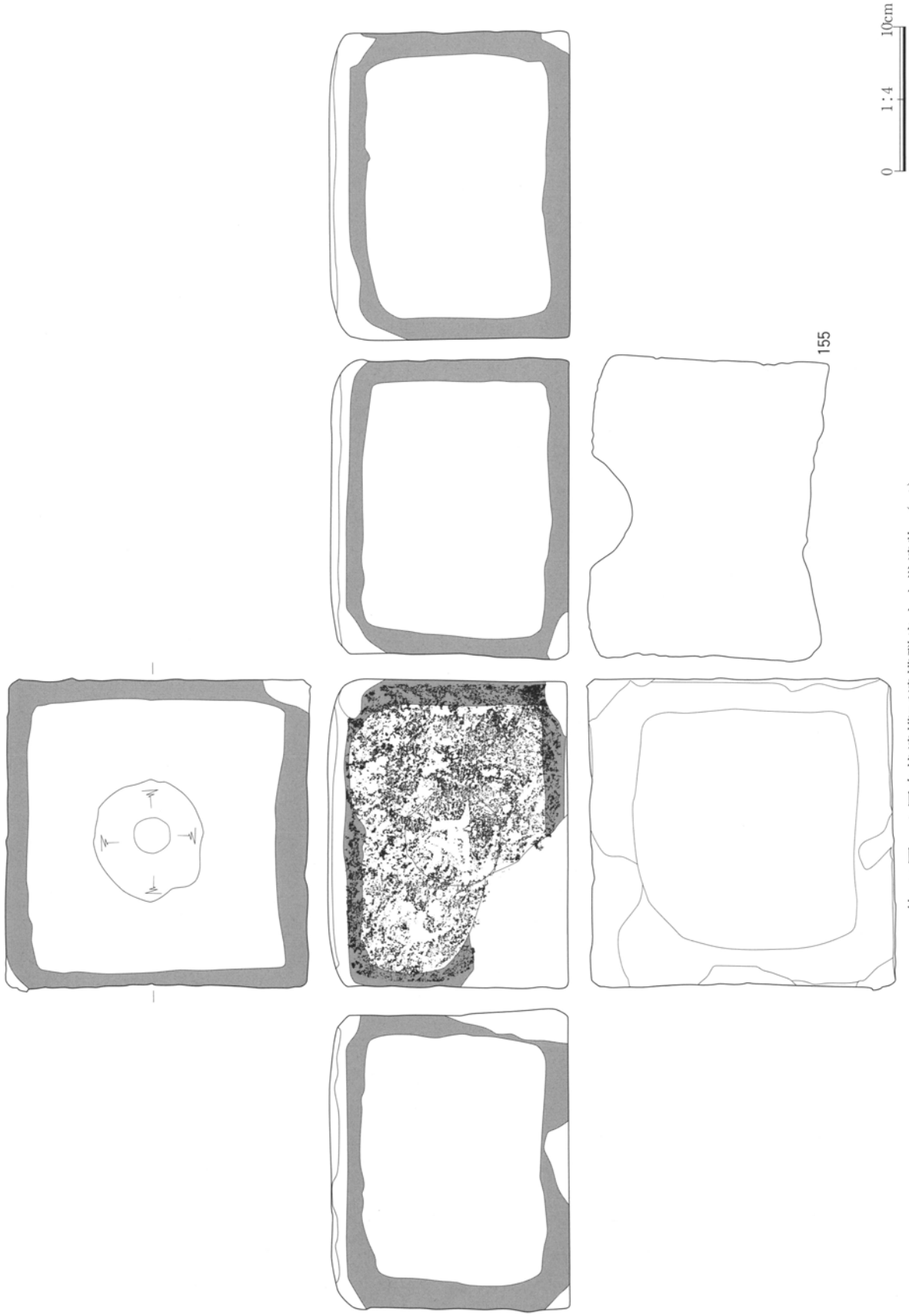
第120図　2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（13）



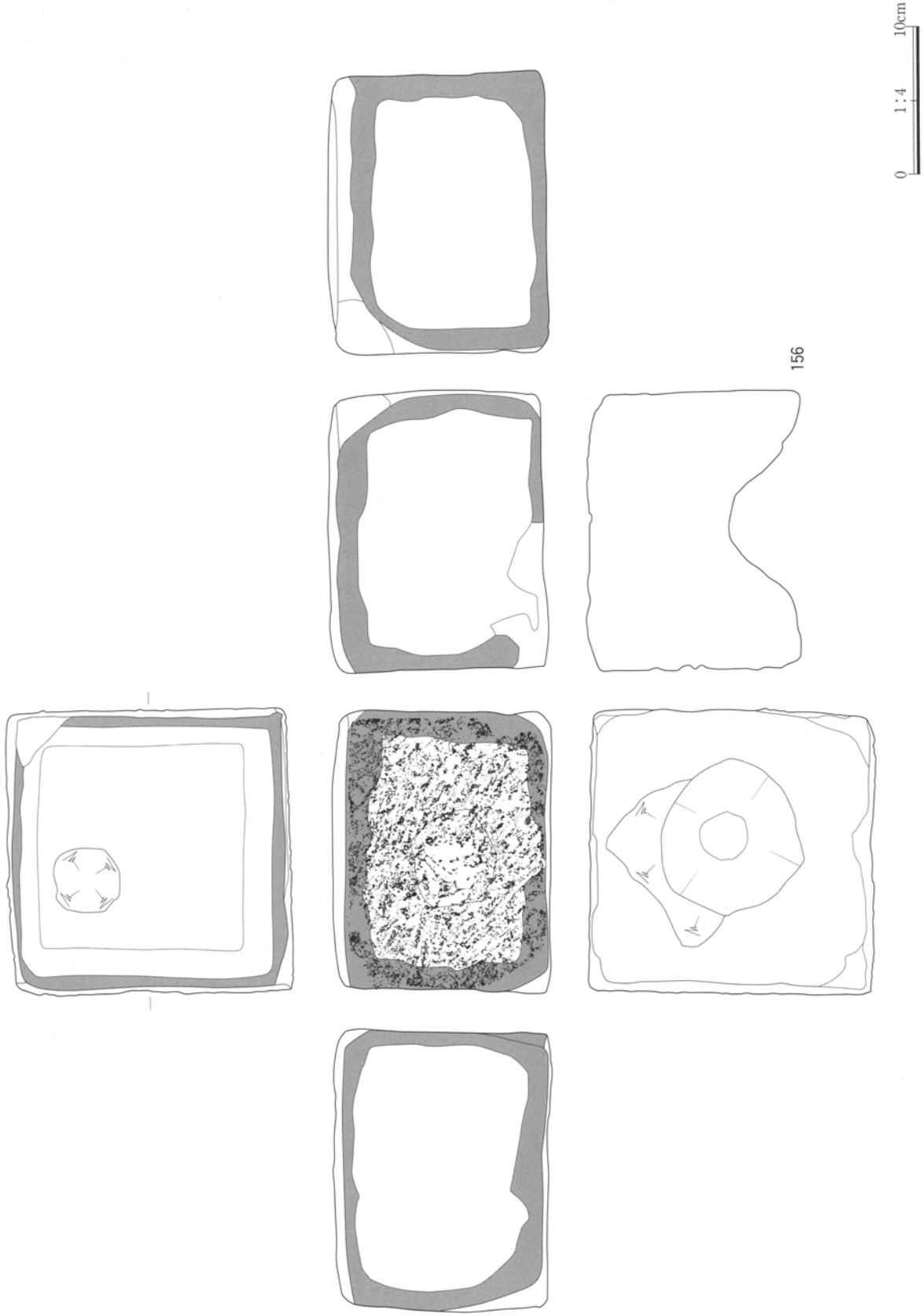
第121図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（14）



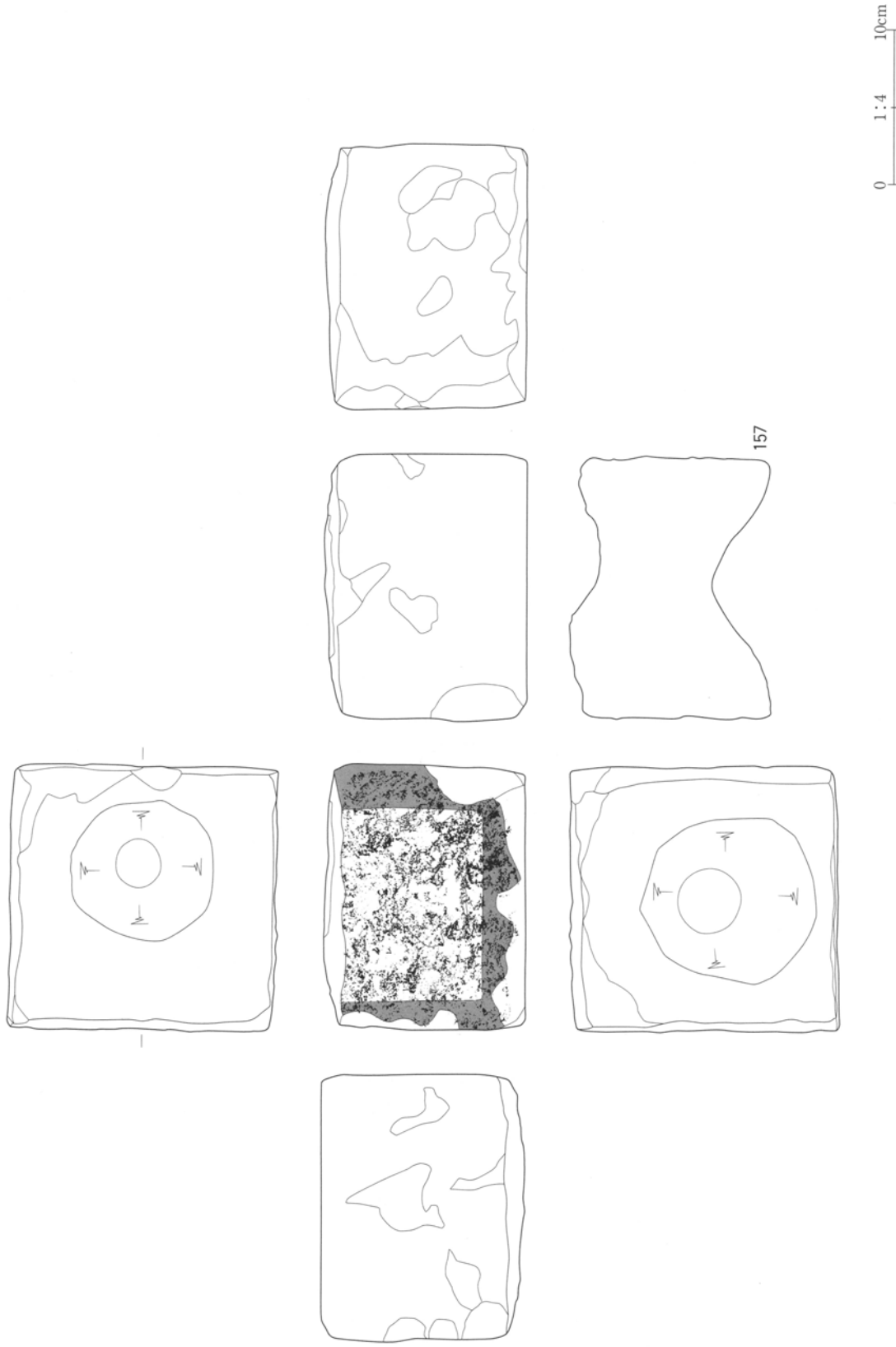
第122図　2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（15）



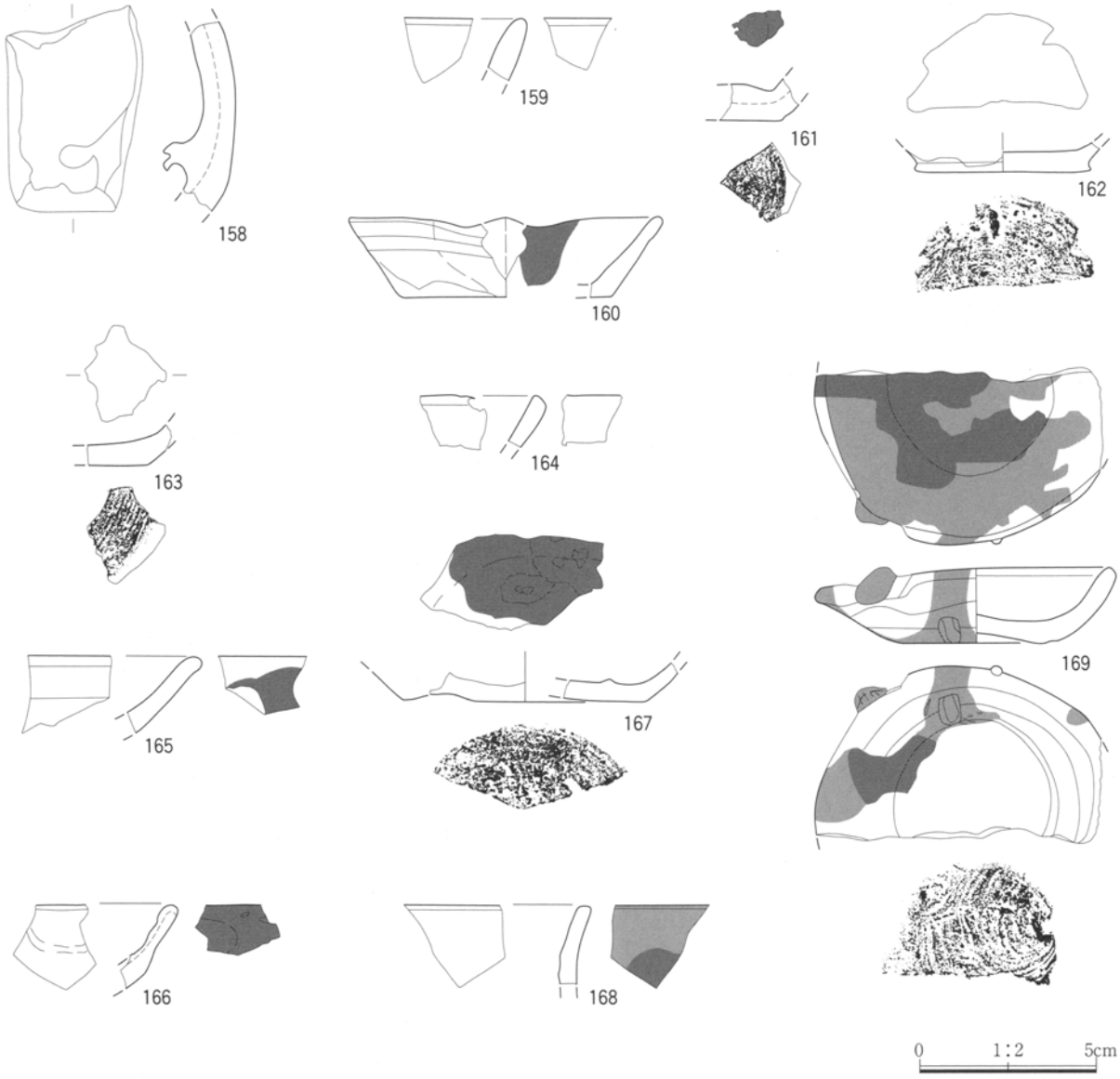
第123図　2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（16）

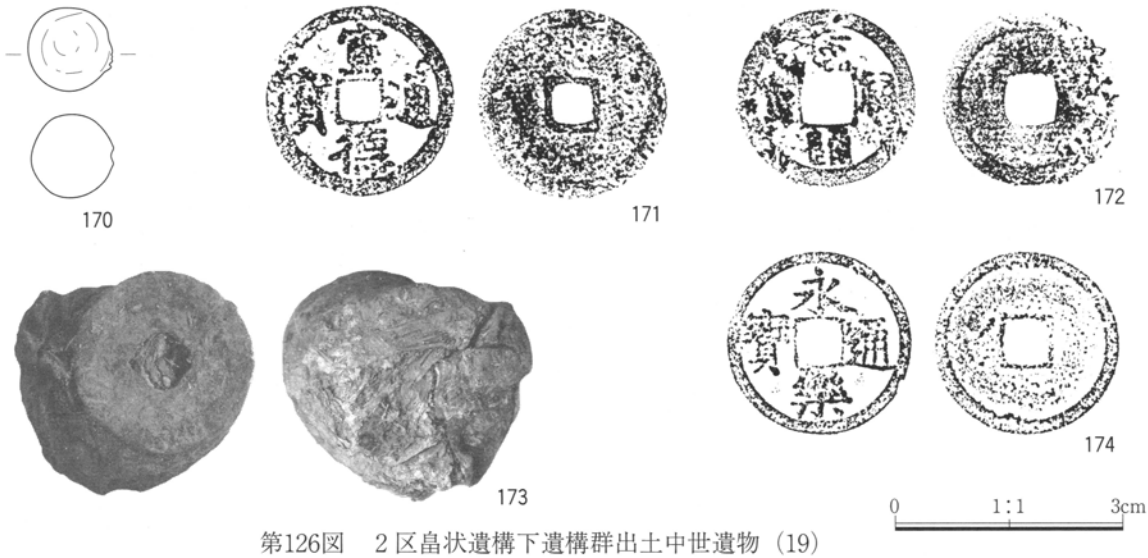


第124図　2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（17）

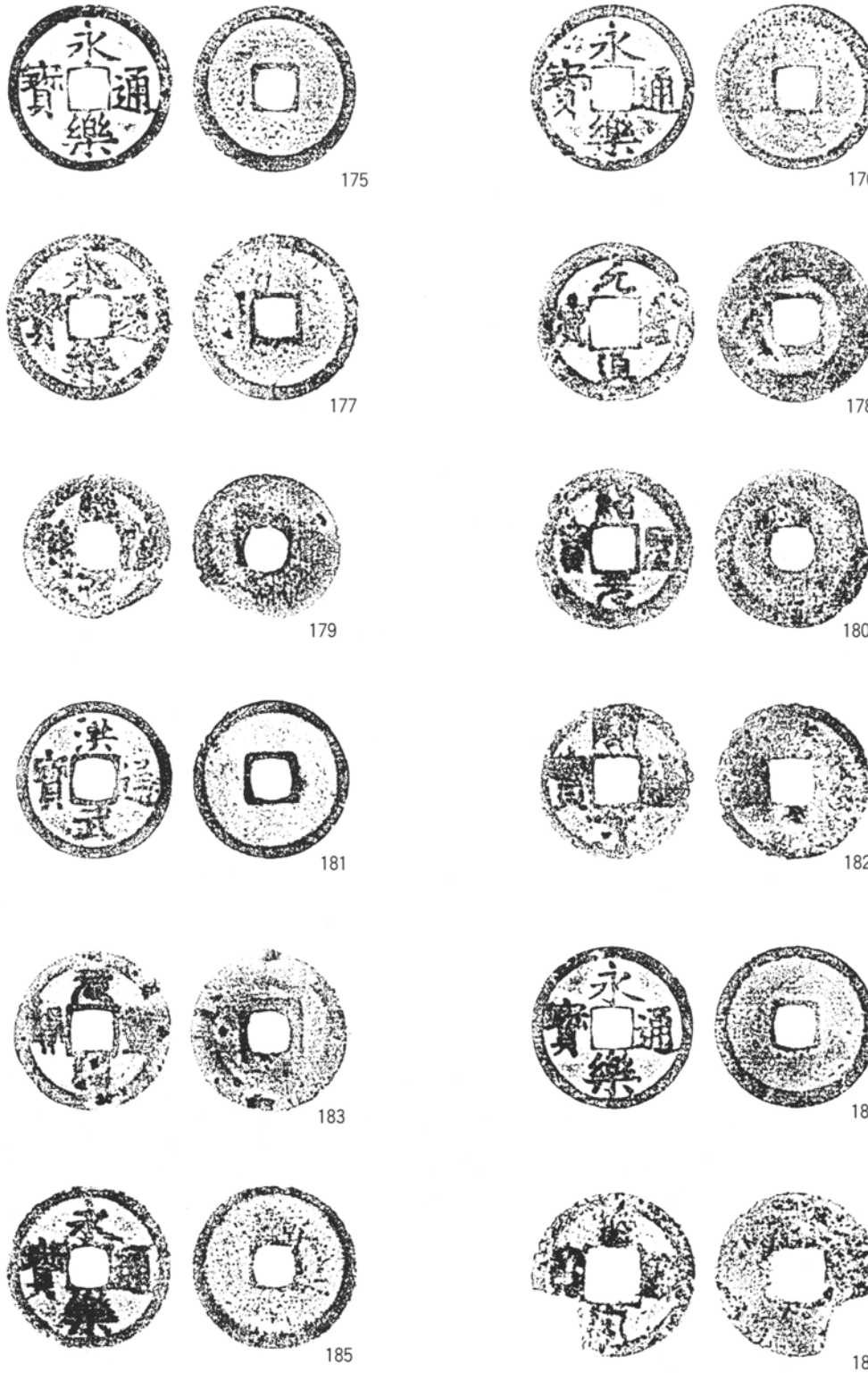


第125図　２区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（18）



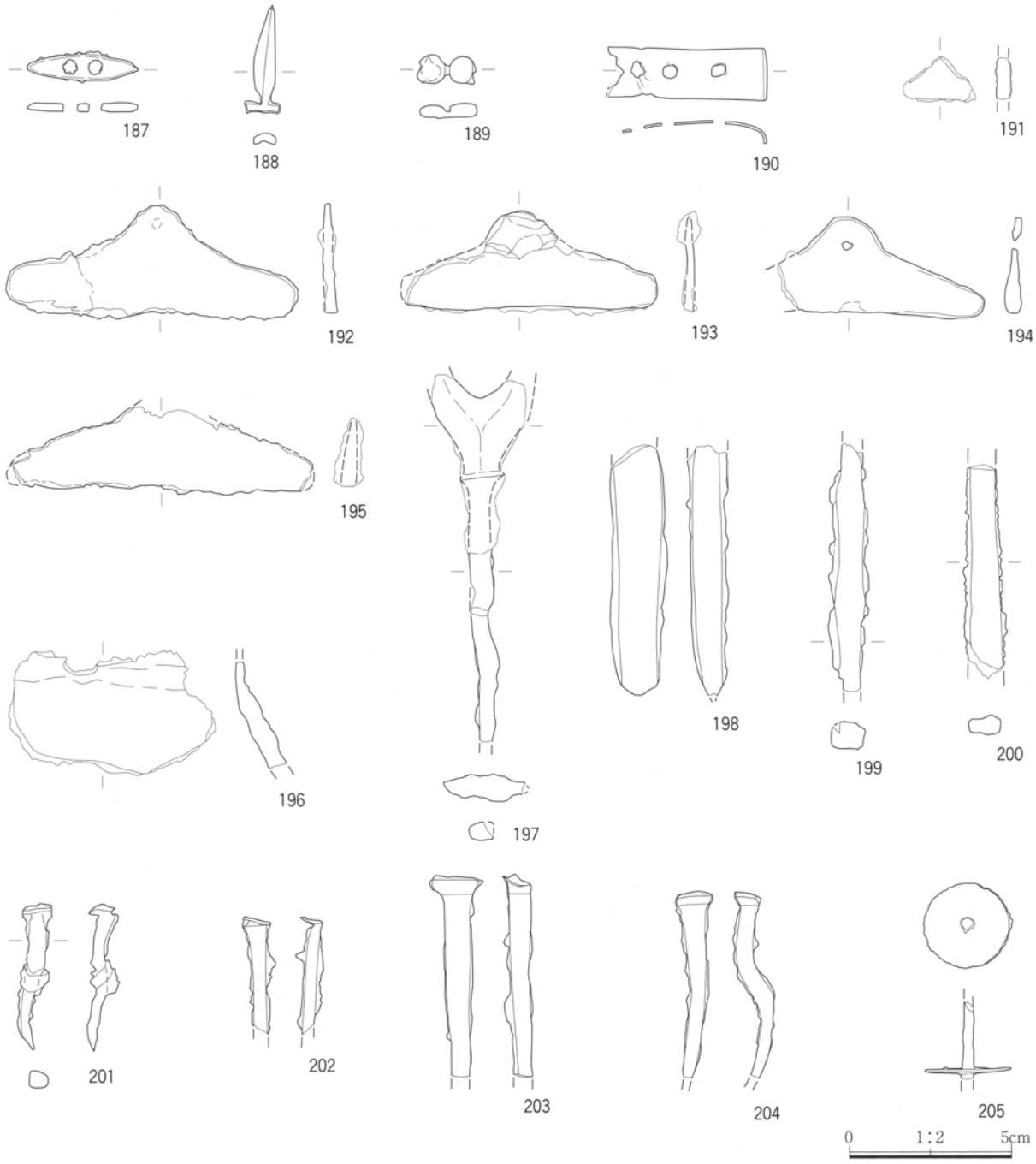


第126図　2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（19）

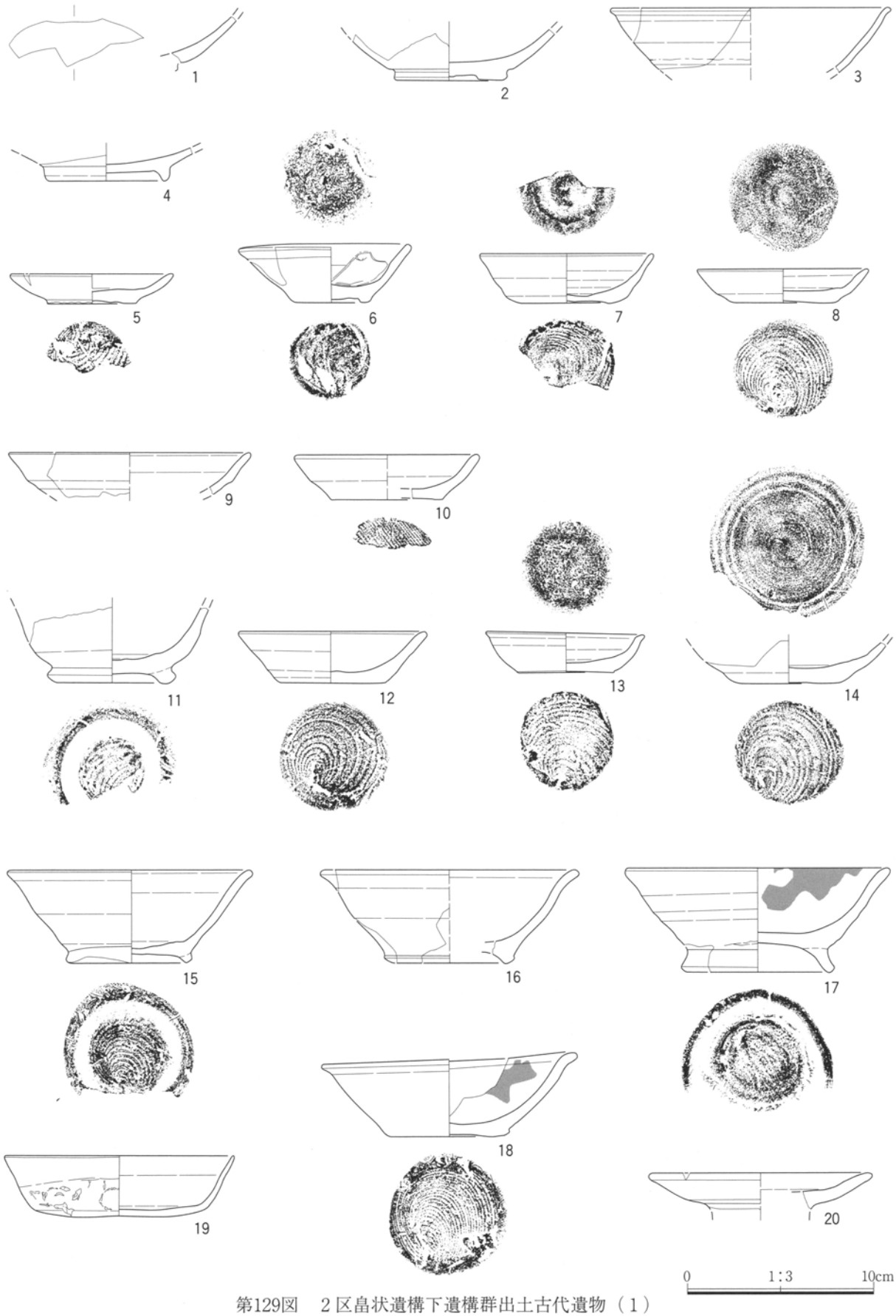


0　1:1　3cm

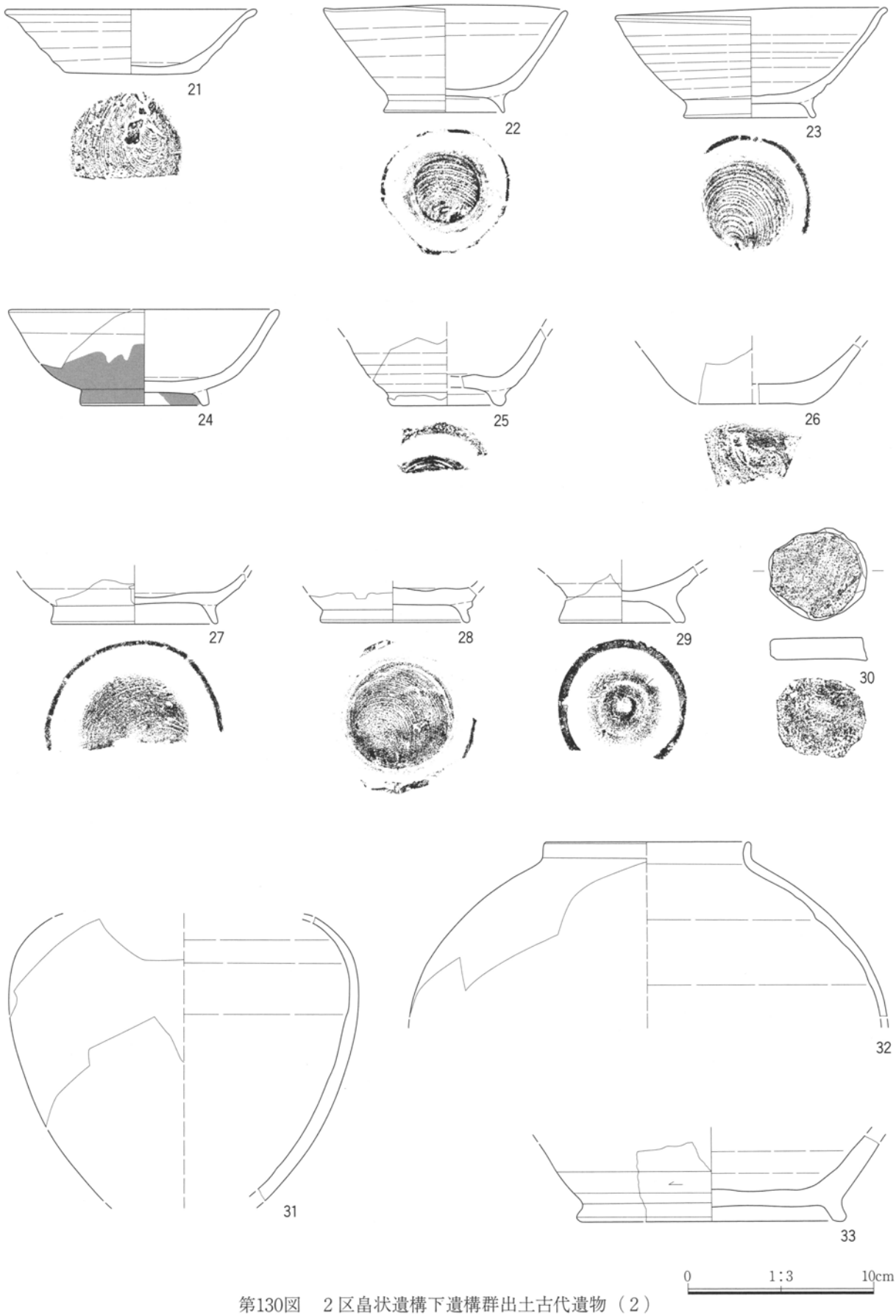
第127図　2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（20）



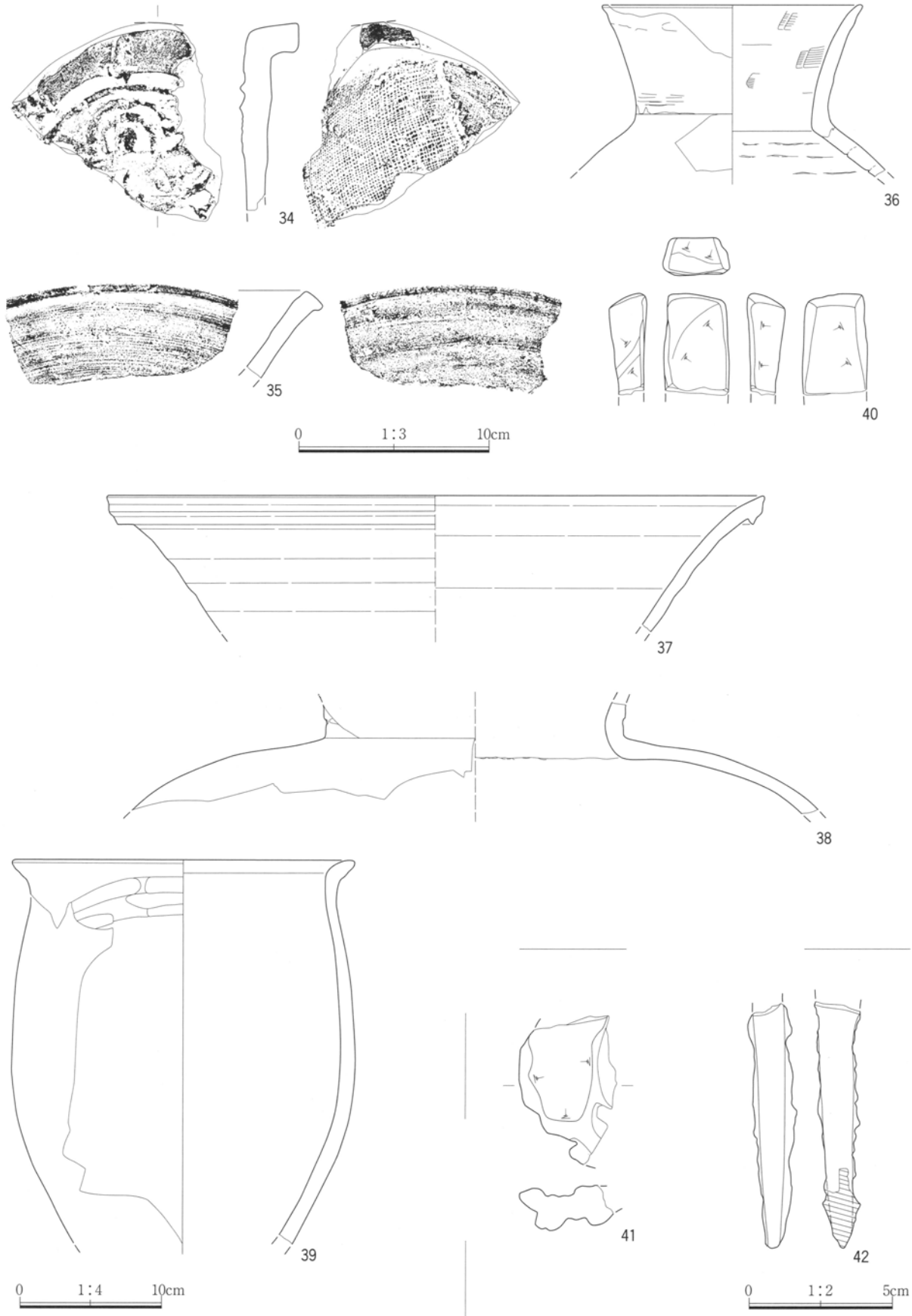
第128図　2区畠状遺構下遺構群出土中世遺物（21）



第129図　２区畠状遺構下遺構群出土古代遺物（１）

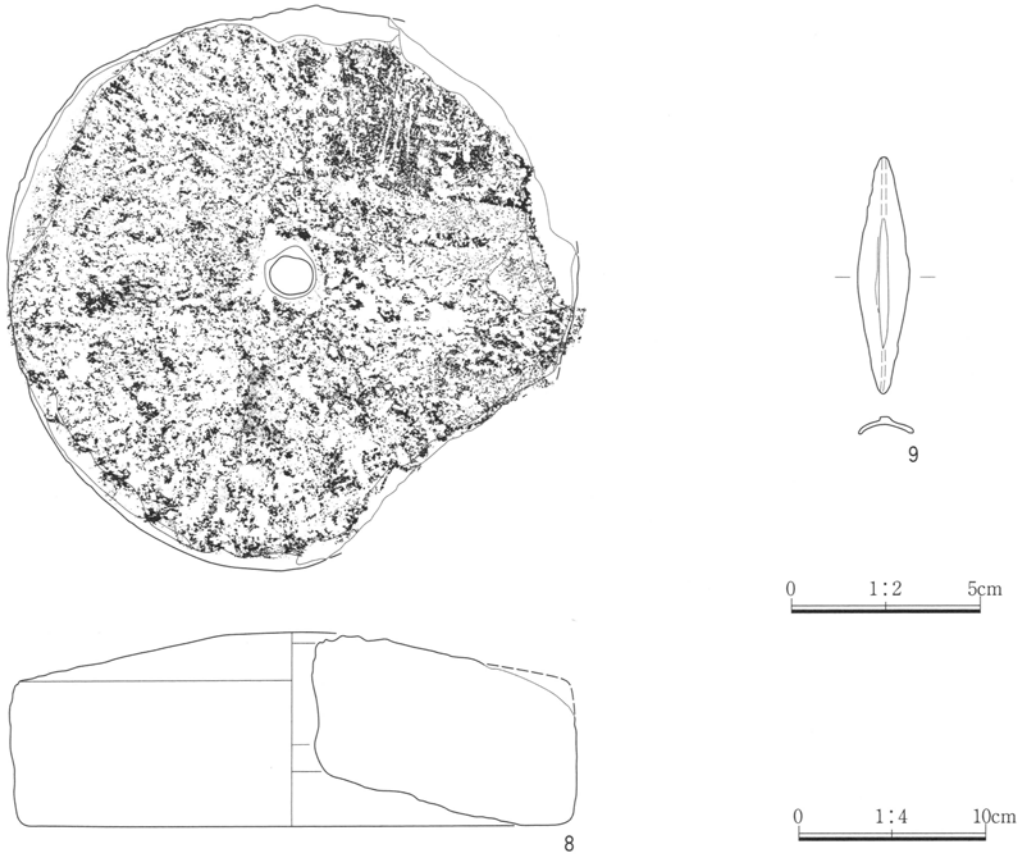


第130図　２区畠状遺構下遺構群出土古代遺物（２）

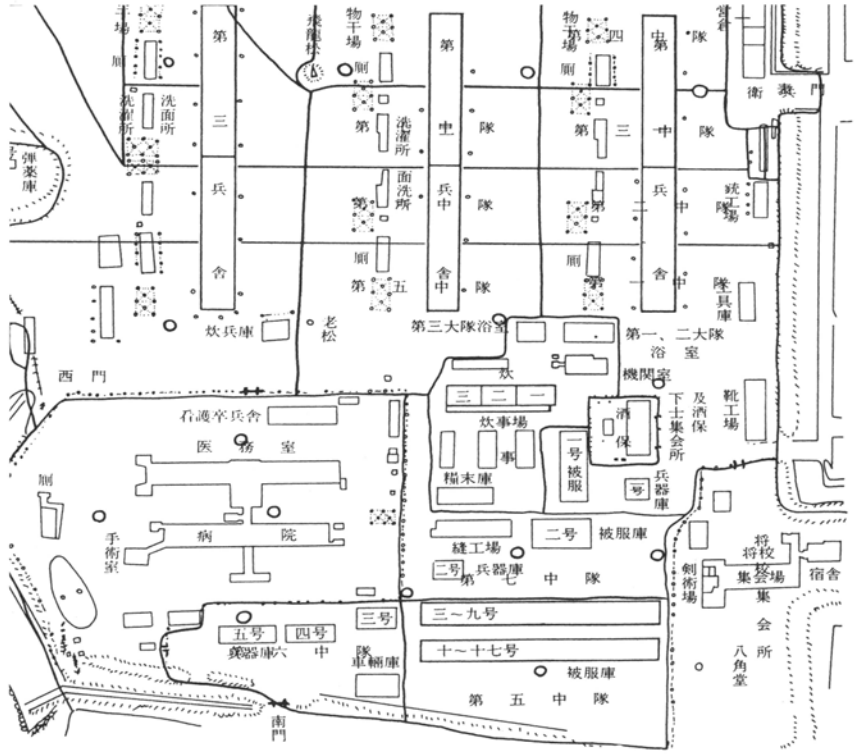


第131図　２区畠状遺構下遺構群出土古代遺物（３）

第132図　遺構外出土遺物（1）及び遺構内出土遺物 補遺

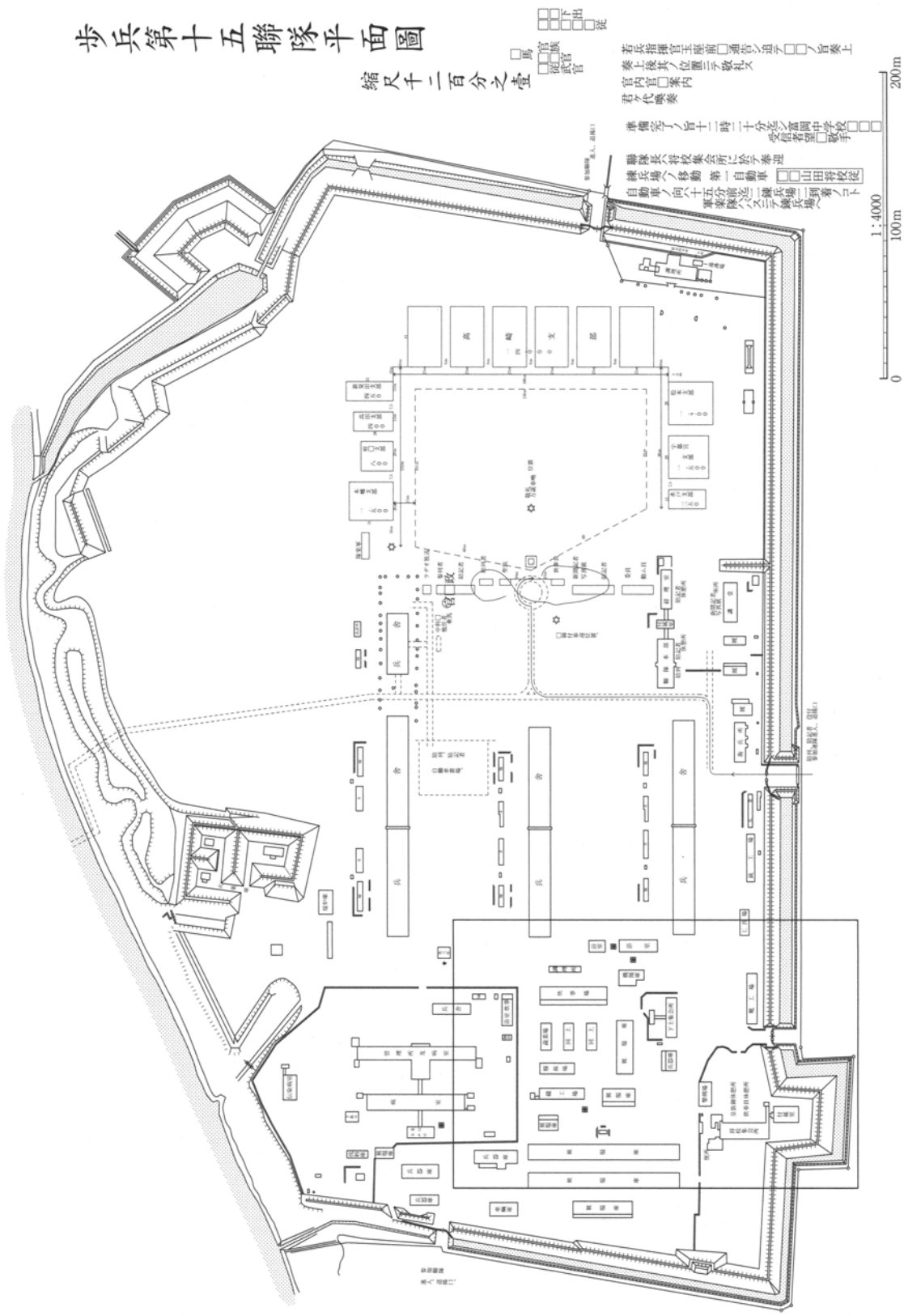


第133図　遺構外出土遺物（2）

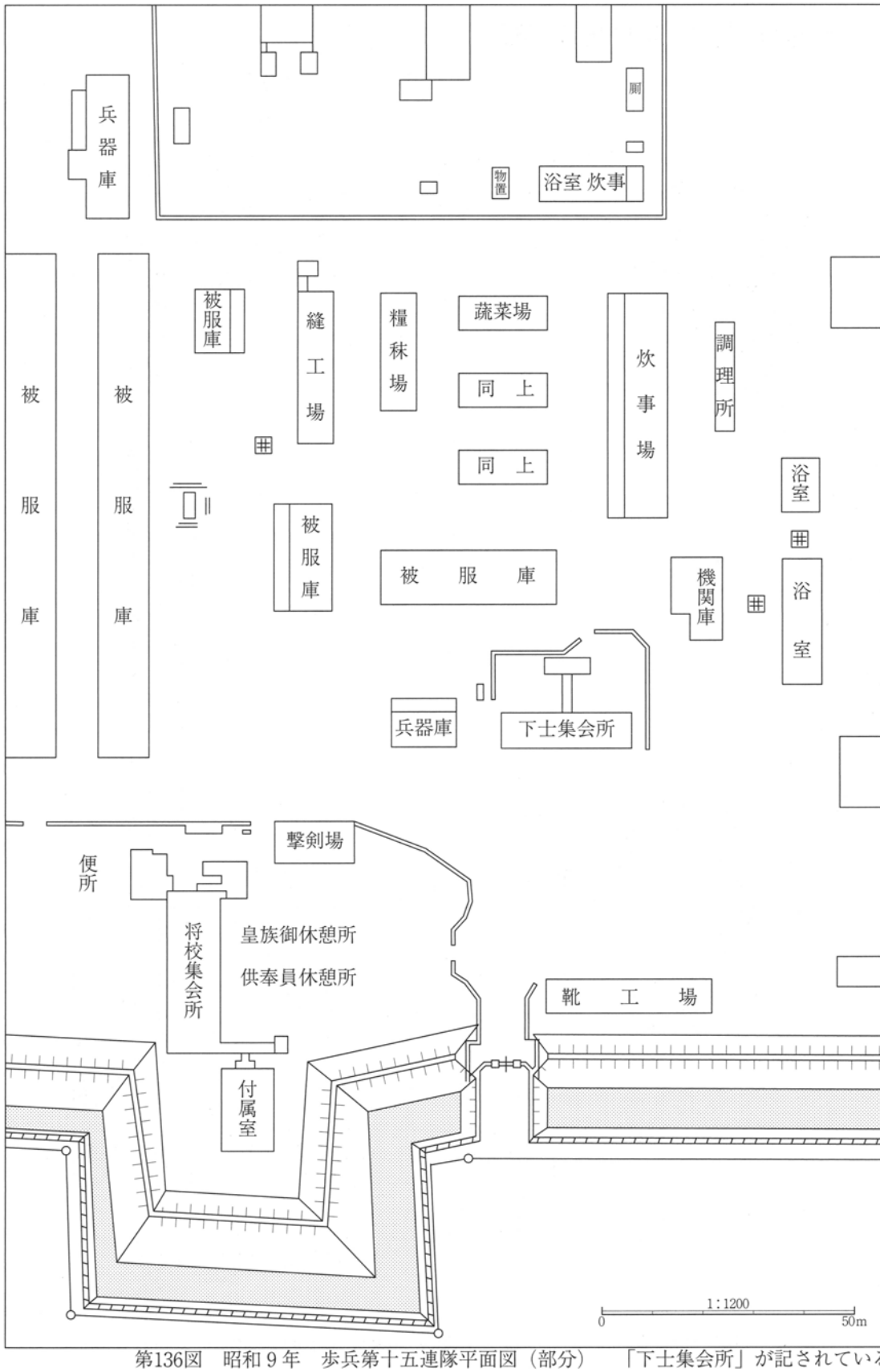


第134図　歩兵第十五連隊営内図　（酒保・下士集会所部分）

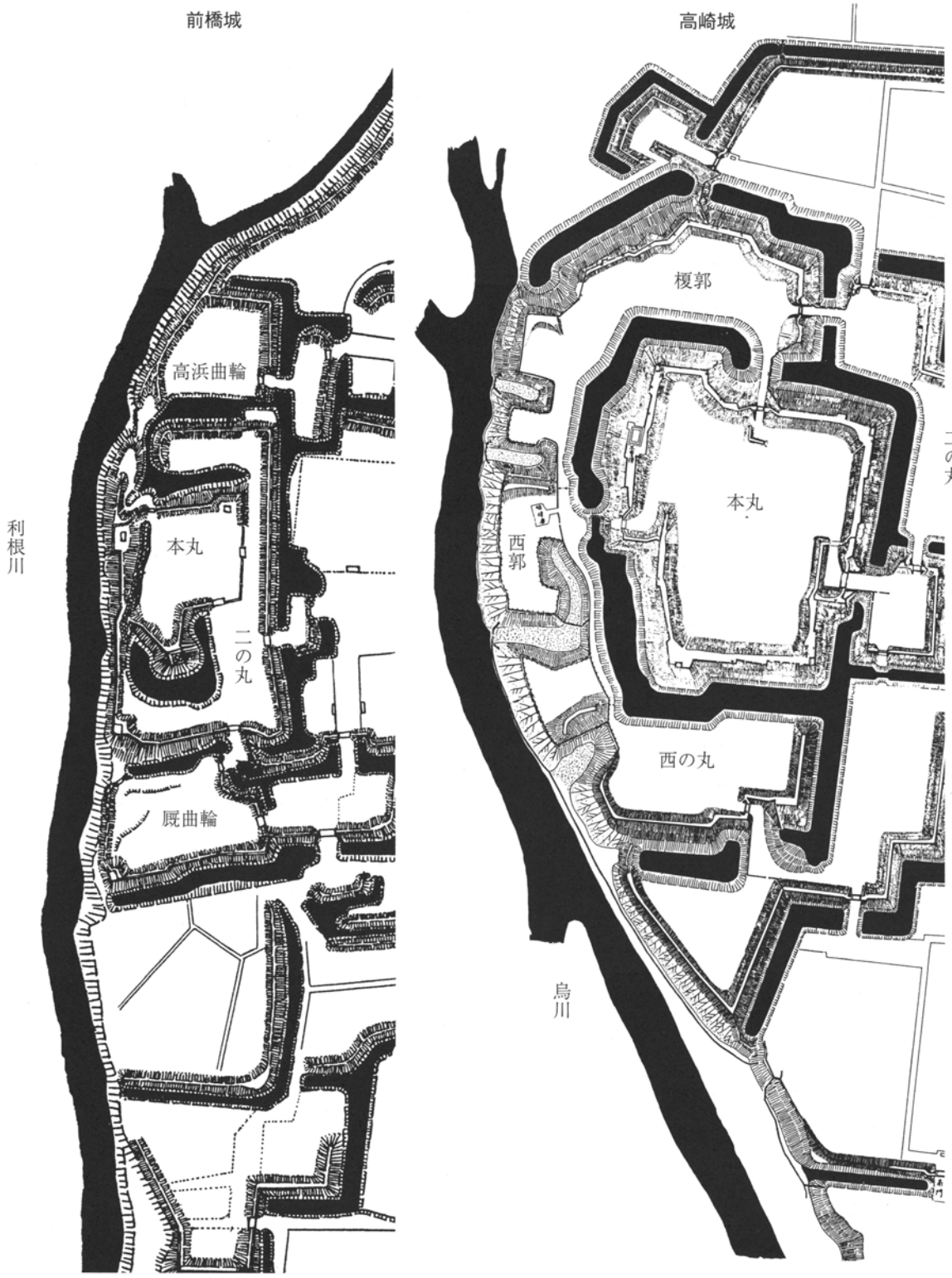
『高崎城遺跡　Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ』1990　高崎市教育委員会より



第135図　昭和９年　歩兵第十五連隊平面図　　群馬県立文書館蔵よりトレース



第136図　昭和９年　歩兵第十五連隊平面図（部分）　「下士集会所」が記されている



（西側部分の大きさがほぼ同じになるように縮尺を調整）
山崎　一　『群馬古城墨址の研究　下巻』群馬県文化振興事業団　1978より抜粋して作成

第137図　前橋城・高崎城縄張り比較図

表３　１号堀上層出土ガラス瓶等観察表

図番号 ＰＬ番号	用途 色調	残存状態	①詳細　②商品名 ③製造会社	①器高　②口径 ③底径　(cm)	特　　徴
第65図１ ＰＬ－25	薬品 瑠璃	完形	①飲み薬　②神薬 ③資生堂	①6.6　②1.2 ③2.0	「神薬」、「SHINYAKU」、「東京日本橋」、「資生堂製」の浮き文字。「N」が左右反転。型痕。
第65図２ ＰＬ－25	薬品 瑠璃	口縁欠損	①飲み薬　②神薬 ③資生堂	①－　②－ ③2.0	「神薬」、[SHISEIDOTOKO]、「資生堂製」、「DISPENSARY」の浮き文字。「N」左右反転。型痕。
第65図３ ＰＬ－25	薬品 瑠璃	完形	①目薬 ②ロート目薬 ③山田安民本舗	①6.4　②1.6 ③2.5	「ロート目薬」、「本舗山田安民」の浮き文字。スポイトかガラス棒を納める場所を窪ませる。型痕。
第65図４ ＰＬ－25	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①1.3　②1.4 ③3.9	口縁部歪む。気泡少ない。型痕。
第65図５ ＰＬ－25	薬品 透明	口縁欠損	①塗り薬 ②全治水 ③本舗尾澤豊太郎	①－　②－ ③2.0	「全治水」、「本舗尾澤製」の浮き文字。型痕。
第65図６ ＰＬ－25	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①5.8　②1.7 ③2.2	口縁部歪む。気泡少ない。型痕。
第65図７ ＰＬ－25	薬品 瑠璃	体部下半	①殺虫剤　②□ムシトリ？　③－	①－　②－ ③2.1	「□ムシトリ」の浮き文字、上半は欠損。型痕。
第65図８ ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①飲み薬　②－ ③－	①6.3　②1.1 ③－	気泡含む。型痕。口縁端部切り離し。
第65図９ ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①飲み薬　②－ ③－	①6.1　②0.8 ③－	口縁部下に段を有する。気泡少ない。型痕。口縁端部切り離し。
第65図10 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①飲み薬　②旭丹 ③松島一天堂	①5.7　②1.2 ③－	江州甲賀郡大原本舗松島一天堂。毒消しの薬瓶。気泡少ない。口縁端部切り離し。型痕。
第65図11 ＰＬ－25	薬品 透明	底部欠損	①飲み薬　②仁愛 ③隆盛堂	①－　②1.2 ③－	「登録商標仁愛」、「隆盛堂」の浮き文字。気泡少ない。口縁端部切り離し。型痕。
第65図12 ＰＬ－25	薬品？ 透明	完形	①－　②－ ③－	①5.1　②0.9 ③1.0	頸部が短く、気泡ほとんど含まない。型痕不明。
第65図13 ＰＬ－25	薬品？ 透明	完形	①－　②－ ③－	①5.2　②0.9 ③1.1	頸部が短く、気泡ほとんど含まない。型痕不明。
第65図14 ＰＬ－25	薬品？ 透明	完形	①－　②－ ③－	①6.1　②1.0 ③1.0	頸部が短く、気泡ほとんど含まない。型痕不明。
第65図15 ＰＬ－25	薬品？ 透明	完形	①－　②－ ③－	①5.2　②0.9 ③1.1	頸部が短く、気泡ほとんど含まない。型痕不明。
第65図16 ＰＬ－25	薬品？ 透明	完形	①－　②－ ③－	①6.5　②1.2 ③1.4	頸部長く、気泡少ない。型痕。
第65図17 ＰＬ－25	薬品？ 透明(薄青)	完形	①－　②－ ③－	①6.6　②1.2 ③1.2	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図18 ＰＬ－25	薬品？ 透明(薄青)	完形	①－　②－ ③－	①6.7　②1.2 ③1.2	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図19 ＰＬ－25	薬品？透明(薄青)	完形	①－　②－ ③－	①6.6　②1.2 ③1.1	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図20 ＰＬ－25	薬品？ 透明(薄青)	完形	①－　②－ ③－	①6.9　②1.2 ③1.1	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図21 ＰＬ－25	薬品？ 透明(薄青)	完形	①－　②－ ③－	①6.6　②1.2 ③1.2	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図22 ＰＬ－25	薬品？ 透明(薄青)	完形	①－　②－ ③－	①6.8　②1.2 ③1.2	頸部長く、気泡含む。型痕。
第65図23	不明 透明	口縁一部欠損	①－　②－ ③－	①7.7　②1.3 ③1.3	平底円筒形。気泡含まない。型痕不明。
第65図24	薬品 透明	上部欠損	①－　②－ ③－	①－　直径0.3 ③－	直径3.0㎜のガラス棒。先端は丸く残存部に白濁した薬品状の付着物残る。
第65図25	薬品 透明	下部	①－　②－ ③－	①－　直径0.3 ③0.5	直径3.0㎜のガラス棒。先端はつぶして平たく広げる。薬品を付ける際に使用するガラス棒であろう。
第65図26 ＰＬ－25	薬品 透明(薄青)	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.6　②1.4 ③3.0	気泡多い。目盛り範囲は1/2・1/4。型痕明瞭。
第65図27 ＰＬ－25	薬品 透明(薄青)	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.6　②1.6 ③3.1	気泡含む。厚みにややムラあり。目盛りは1/2・1/4。型痕明瞭。

図番号 ＰＬ番号	用途 色調	残存状態	①詳細　②商品名 ③製造会社	①器高　②口径 ③底径　(cm)	特　　徴
第65図28 ＰＬ－25	薬品 透明(薄青)	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.6　②1.4 ③3.0	気泡多く含む。目盛りは1/2・1/4。型痕明瞭。頸部傾く。
第65図29 ＰＬ－25	薬品 透明(薄青)	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.6　②1.7 ③2.9	気泡含む。厚みのムラ多い。目盛りは1/2・1/4。型痕明瞭。器壁厚い。
第65図30 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①7.0　②1.7 ③3.1	気泡含む。目盛り範囲は1/4・1/8。型痕明瞭。
第65図31 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①7.2　②1.6 ③3.1	気泡含む。厚みのムラ多い。目盛りは1/4・1/8。型痕明瞭。
第65図32 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.9　②1.5 ③3.0	気泡少量含む。厚みのムラ多い。目盛りは1/4・1/8。型痕明瞭。
第65図33 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①7.3　②1.5 ③3.2	気泡少量含む。目盛りは1/4・1/8。型痕明瞭。
第65図34 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①7.0　②1.6 ③3.0	気泡多く含む。厚みにムラあり。目盛りは1/4・1/8。型痕明瞭。器壁やや薄い。
第65図35 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.8　②1.8 ③3.1	気泡多く含む。目盛りは1/4・1/8。器壁やや薄いが、厚みにムラがある。型痕明瞭。
第65図36 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.9　②1.6 ③3.1	極薄い青色を呈する。気泡多い。目盛り範囲は1/4・1/8。型痕明瞭。
第65図37 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.8　②1.5 ③3.2	気泡含む。目盛り範囲は1/4・1/8。型痕明瞭。目盛りは右付き。
第65図38 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①6.9　②1.6 ③3.2	気泡多く含む。目盛りは、ほぼ1/2・1/4。型痕明瞭。
第65図39 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①8.8　②1.8 ③3.8	気泡少量含む。目盛り1/2・1/4。型痕。
第65図40 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①8.2　②1.7 ③3.8	気泡含む。目盛り1/4・1/8。型痕明瞭。
第65図41 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①10.1　②1.7 ③3.8	気泡多く含む。目盛り1/4・1/8。型痕明瞭。
第65図42 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①11.6　②2.2 ③5.4	気泡少ない。目盛り1/4・1/8。目盛り左側にラベル貼付箇所設ける。頸部傾く。器壁薄く、最も透明度高い。
第65図43 ＰＬ－25	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①9.6　②(2.0) ③4.4	気泡多く含む。目盛り1/2・1/6。型痕明瞭。
第65図44	薬品 透明	完形	①薬瓶　②－ ③－	①9.9　②1.8 ③4.3	気泡少量含む。厚みにややムラあり。目盛り1/4・1/8。目盛り左側にラベル貼付箇所設ける。型痕。
第65図45	医療品 透明	完形	①－　②－ ③－	縦2.5　横6.0 厚0.2	厚みは均一で気泡含まない。スライドガラスであろう。
第66図46 ＰＬ－25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶　②－ ③丸善？	①3.9　②2.5 ③3.9	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図47 ＰＬ－25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶　②－ ③丸善？	①4.0　②2.5 ③4.0	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図48	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶　②－ ③丸善？	①4.0　②1.9 ③4.0	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図49 ＰＬ－25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶　②－ ③丸善？	①3.9　②2.1 ③4.1	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図50 ＰＬ－25	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶　②－ ③丸善？	①3.8　②2.5 ③3.7	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図51 ＰＬ－26	文具 透明(薄青)	完形	①インク瓶　②－ ③丸善？	①3.8　②2.4 ③3.4	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡多く含む。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図52 ＰＬ－26	文具 透明	完形	①インク瓶　②－ ③丸善？	①4.0　②2.1 ③4.0	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図53	文具 透明	体部1/2欠損	①インク瓶　②－ ③丸善？	①4.2　②2.1 ③4.0	方形の体部中央に円形の口が付く。気泡少ない。底部○内に「M」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図54 ＰＬ－26	文具 透明	体部一部欠損	①インク瓶　②－ ③丸善？	①4.5　②2.3 ③5.0	方形の体部隅に円形の口が付く。気泡含む。場所による器壁厚みの違い大きい。底部○内に「M」、横下部に「実用新案登録」、「No 3218」浮き文字。型痕明瞭。
第66図55 ＰＬ－26	文具 透明	完形	①インク瓶　②－ ③－	①4.0　②2.3 ③4.7	円形の体部横に円筒形の口を付ける。気泡少ない。底部に「＋」と植物文をエンボスで表す。型痕。

図番号 ＰＬ番号	用途 色調	残存状態	①詳細　②商品名 ③製造会社	①器高　②口径 ③底径　(cm)	特　　徴
第66図56	文具 透明	1/4	①糊瓶 ②ヤマト糊 ③木内弥吉商店？	①4.5　②(5.1) ③(5.0)	62と同様な瓶。体部残存部に文字なし。底部「(ヤ)？マト」の浮き文字。薄黄緑色がかる。気泡含む。型痕。
第66図57	文具 透明	体部1/2、 口縁部一部	①糊瓶 ②ヤマト糊？ ③木内弥吉商店？	①4.8　②(5.0) ③(5.4)	56・62に比して透明でやや厚い。気泡少ない。体部に「(ヤマト)？糊　(木内)？製」、底部に「(ヤマ)ト」の浮き文字。型痕明瞭。
第66図58 ＰＬ－26	文具？ 透明	完形	①糊？瓶　②－ ③－	①5.1　②3.8 ③4.4	口縁部から肩部二段に作る。気泡少ない。口縁端部切り離し。底部に「★」の浮き文字。型痕明瞭。薄黄緑色がかる。
第66図59 ＰＬ－26	化粧品 透明	完形	①白毛・赤毛染 ②君が代 ③東京山吉商店	①4.6　②2.0 ③1.8	体部は四角柱で頸部は一辺を直径とする円柱形。器表は小さい凹凸がありエンボス状となる。「君が代」の文字が一面に浮き文字。型痕。中身が残る。
第66図60 ＰＬ－26	文具 透明	完形	①インク瓶　②－ ③－	①3.8　②2.3 ③4.4	円形の体部横に円筒形の口を付ける。気泡少ない。器壁厚い。型痕明瞭。薄黄緑色がかる。
第66図61 ＰＬ－26	文具 透明	完形	①インク瓶　②－ ③－	①4.0　②2.1 ③4.3	円形の体部横に円筒形の口を付ける。気泡少ない。器壁厚い。型痕明瞭。薄黄緑色がかる。
第66図62 ＰＬ－26	文具 透明	体部1/2、 口縁部一部	①糊瓶 ②ヤマト糊 ③木内弥吉商店	①4.9　②(4.7) ③(5.2)	体部に「登録商標　ヤマト糊　木内製」、底部に「ヤマ(ト)？」浮き文字。薄黄緑色がかる。気泡含む。型痕。
第66図63 ＰＬ－26	文具？ 透明	口縁一部欠損	①糊？瓶　②－ ③－	①5.0　②(3.8) ③4.3	口縁部から肩部二段に作る。気泡少ない。口縁端部切り離し。底部に「★」をエンボスで表す。型痕明瞭。薄黄緑色がかる。
第66図64 ＰＬ－26	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①5.5　②1.6 ③2.2	頸部内面がすりガラス状となる。共栓。器壁厚いが気泡はほとんどない。体部外面３方に縦位凸線。縦線のない面はラベルを貼付したのであろう。型痕。
第66図65 ＰＬ－26	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①11.4　②2.5 ③4.8	体部の角を大きめに面取りする。4面はラベル貼付用に窪ませる。一カ所ラベル痕付着。底部「｜」をエンボスで表す。型痕。口縁部から頸部内面すりガラス状、共栓。
第66図66 ＰＬ－26	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①7.1　②1.8 ③3.0	器壁は比較的均一で気泡も非常に少ない。型痕。
第66図67 ＰＬ－26	化粧品 白色不透明	完形	①－　②－ ③－	①2.8　②3.0 ③3.1	中にクリーム残る。蓋内面の紙？残る。
第66図68	化粧品 白色不透明	完形	①クリーム ②レートクレーム ③平尾賛平商店	①0.7　②2.8 ③2.2	小型クリーム瓶の蓋。上面に「CREME LAIT」の浮き文字。
第66図69 ＰＬ－26	化粧品？ 透明	完形	①－　②－ ③－	①5.8　②2.0 ③3.3	体部四隅を面取りする。透明度はやや高く、気泡は少ない。底部外面に「プレミヤ」の浮き文字。内面に内容物と思われる白色物質付着。
第66図70 ＰＬ－26	化粧品？ 透明	完形	①－　②－ ③－	①9.2　②2.0 ③3.2	体部・頸部ともに円柱状の瓶。型痕なし。厚みが均一で透明度も高く、気泡少ない。化粧水か椿油に代表される整髪料用瓶と思われる。
第66図71 ＰＬ－26	化粧品 透明	完形	①化粧水 ②ホーカー液 ③堀越嘉太郎商店	①9.4　②2.1 ③3.0	体部から肩部面取り。腰部くびれる。体部に「ホーカー液」、反対側と底部に「堀越」の浮き文字。型痕。
第66図72	化粧用具？ 透明	完形	①－　②－ ③－	縦4.7　横4.6 厚0.2	方形板ガラス。ライオン歯磨缶の鏡と同形・同大、歯磨缶の鏡の可能性あり。
第66図73	化粧用具？ 透明	完形	①－　②－ ③－	縦4.6　横4.7 厚0.2	方形小型鏡。塗装部分的に残る。ライオン歯磨缶の鏡と同形・同大、歯磨缶の鏡の可能性高い。
第66図74	化粧用具？ 透明	1/2	①－　②－ ③－	縦(2.4)　横5.2 厚0.2	円形板ガラス。気泡なく透明度高い。片方の表面に曇ったように付着物が残り、鏡の可能性もある。
第67図75	飲料 緑	肩部以上	①サイダー ②三ツ矢サイダー？ ③－	①－　②2.6 ③－	色調と厚さから三ツ矢サイダー瓶であろう。王冠栓。頸部に凸帯巡る。
第67図76 ＰＬ－26	飲料 緑	底部	①サイダー ②三ツ矢サイダー ③－	①－　②－ ③6.6	底部に三ツ矢マークと左回りに「三ツ矢」浮き文字。底部内面はドーム状を呈する。型痕不明。三ツ矢マークは細く、中心には○内に「Ｂ」の表記。
第67図77 ＰＬ－26	飲料 緑	頸部以下	①サイダー ②三ツ矢サイダー ③－	①－　②－ ③6.6	底部に三ツ矢マークと右回りに「三ツ矢」の浮き文字。底部内面はほぼ平坦。大小の気泡含む。型痕不明。

図番号 ＰＬ番号	用途 色調	残存状態	①詳細　②商品名 ③製造会社	①器高　②口径 ③底径　(cm)	特　　徴
第67図78 ＰＬ－26	飲料 緑	底部	①サイダー ②三ツ矢サイダー ③－	①－　②－ ③6.5	底部に三ツ矢マークと右回りに「三ツ矢」の浮き文字。底部内面はほぼ平坦。型痕不明。
第67図79 ＰＬ－26	麦酒 濃茶	底部	①ビール ②サクラビール ③帝国麦酒か桜麦酒（株）	①－　②－ ③7.7	型痕明瞭。体部下位に「サクラ・ビール」、筆記体で「Sakura Beer」の浮き文字。底部キック状に窪み、中央○内に「Ｂ」の浮き文字。
第67図80	麦酒 茶	口縁部から 頸部	①－　②－ ③－	①－　②2.5 ③－	王冠栓。型痕。
第67図81	麦酒 茶	口縁部から 肩部	①－　②－ ③－	①－　②2.6 ③－	王冠栓。型痕。
第67図82	麦酒？ 茶	底部	①－　②－ ③－	①－　②－ ③7.8	型痕不明。残存部に浮き文字なし。底部内面キック状に窪む。
第67図83	麦酒？ 茶	底部	①－　②－ ③－	①－　②－ ③7.7	型痕。体部残存部に浮き文字なし。底部内面ドーム状に盛り上がる。底部中央「Ｓ」浮き文字。
第67図84	麦酒？ 茶	底部	①－　②－ ③－	①－　②－ ③7.8	体部下位浮き文字あるが、ごく一部のため判読不能。底部キック状に窪む。中央に「ト」浮き文字。
第67図85 ＰＬ－26	麦酒 茶	肩部以下	①ビール　②－ ③大日本麦酒株式会社	①－　②－ ③7.9	型痕明瞭。縦方向に伸びる気泡含む。体部下位に「大日本麦酒株式会社醸造」、「登録◎商標」の浮き文字。底部キック状に窪み、中央に「○」の浮き記号。
第67図86	飲食器 透明	底部1/2 口縁部一部	①－　②－ ③－	①9.1　②(6.4) ③(5.0)	剣先コップ。器壁厚い。高台高く、ドーム状に窪む。底部内面は僅かに膨らむ。気泡含む。型痕不明。
第67図87 ＰＬ－27	飲料 青緑	体部	①ラムネ　②－ ③－	①－　②－ ③5.5	頸部くびれ部以下が残存。底部に菱形エンボス。器壁は非常に厚い。型痕。
第67図88 ＰＬ－26	飲料？ 透明	完形	①洋酒？　②－ ③－	①19.2　②2.2 ③6.4	体部四隅面取り。透明度高く気泡少ない。底部ドーム状に窪む。型痕。
第68図89 ＰＬ－27	調味料 透明(薄黄緑)	肩部一部欠損	①ソース ②リーペリン ③リー＆ペリン	①18.3　②2.5 ③5.3	王冠栓。体部縦位に「LEA&PERRINS」、肩部横位に「(WOR)CESTERSHIRE(SA)UCE」、底部に「K」、「1984」の浮き文字。イギリス、リー＆ペリン社のウスターソース。型痕明瞭。
第68図90	不明 青	口縁部	①－　②－ ③－	①－　②2.9 ③－	頸部二次比熱で変形。
第68図91	調味料？ 青	肩部以上	①－　②－ ③－	①－　②2.8 ③－	縦方向に長い大小の気泡含む。口縁部は上方から押さえて平坦に作る。型痕不明。
第68図92 ＰＬ－27	調味料？ 青	口縁一部欠損	①－　②－ ③－	①20.2　②2.7 ③6.7	縦方向に長い気泡少量含む。型痕不明。底部内面ドーム状に盛り上がる。中央は外方に突出する。黒い内容物？が付着。
第68図93 ＰＬ－27	不明 青	口縁部	①－　②－ ③－	①－　②2.5 ③－	縦方向に長い気泡含む。機械栓。型痕不明。
第68図94 ＰＬ－27	不明 青	口縁部	①－　②－ ③－	①－　②2.8 ③－	縦方向に長い気泡含む。機械栓。型痕不明瞭。
第68図95 ＰＬ－27	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①4.1　②3.8 ③4.9	気泡少ない。型痕明瞭。ねじ山部と体部の型痕はほぼ90°ずれる。
第68図96 ＰＬ－27	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①4.1　②4.1 ③5.0	気泡少ない。型痕明瞭。ねじ山部と体部の型痕はほぼ90°ずれる。
第68図97 ＰＬ－27	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①4.5　②3.3 ③4.8	気泡少ない。型痕明瞭。ねじ山部と体部の型痕はほぼ90°ずれる。
第68図98 ＰＬ－27	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①4.8　②3.9 ③4.7	底部の厚み不均質。気泡少ない。肩部に凸線1条巡る。体部型痕不明瞭。ねじ山部型痕明瞭。体部型痕不明瞭。
第68図99 ＰＬ－27	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①4.8　②3.8 ③4.6	気泡少ない。型痕明瞭。ねじ山部と体部の型痕はほぼ90°ずれる。
第68図100 ＰＬ－27	不明 透明	口縁部1/2 欠損	①－　②－ ③－	①8.0　②5.9 ③6.0	体部九カ所窪ませる。ねじ栓。器壁薄い。体部型痕不明。ねじ山部型痕明瞭。底部ドーム状に窪ませる。
第68図101	不明 緑	底部	①－　②－ ③－	①－　②－ ③6.8	底部付近器壁厚く、体部は薄くなる。縦方向に長い大小の気泡含む。底部は窪む。型痕不明。
第68図102	不明 緑	底部完 体部1/2	①－　②－ ③－	①－　②－ ③7.2	器壁薄い。縦方向に長い大小の気泡含む。型痕不明。底部に星形。
第68図103 ＰＬ－27	不明 緑	完形	①－　②－ ③－	①19.7　②2.4 ③6.1	体部は円筒形で頸部は急激に細くなる。縦方向に長い気泡含む。型痕なし。底部は円形凸線中央を窪ませる。
第68図104 ＰＬ－27	電傘 白色不透明	1/2	①－　②－ ③－	①5.2　②5.4 ③(22.6)	外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕残る。

図番号 ＰＬ番号	用途 色調	残存状態	①詳細　②商品名 ③製造会社	①器高　②口径 ③底径　(cm)	特　　徴
第68図105	電傘 白色不透明	1/8	①－　②－ ③－	①3.8　②5.4 ③22.2	外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕残る。
第68図106	電傘 乳白不透明	上部	①－　②－ ③－	①－　②5.4 ③－	外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕残る。
第68図107	電傘 乳白不透明	傘部1/8	①－　②－ ③－	①－　②－ ③(21.2)	106と同質。外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕残る。
第68図108	電傘 透明	上部	①－　②－ ③－	①－　②5.4 ③－	厚みのある透明ガラス内面に白色ガラスを約0.1㎜厚で合わせる。外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕残る。
第68図109 ＰＬ－27	電傘 透明	2/3	①－　②－ ③－	①14.8 ②(7.0) ③(23.0)	108と同質。透明ガラス内面に約0.2㎜厚の白色ガラスを合わせる。外面器表は滑らか。内面は成型時の線状痕残る。
第68図110	不明 透明	一部	①－　②－ ③－	①－　直径0.38 ③－	直径3.8㎜のガラス棒中心に直径0.6㎜の穴があく。透明度高く温度計か？型痕不明。
第68図111	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	縦5.9　横8.8 厚0.5	厚い長方形板ガラス。片面の周囲を斜めに面取りする。透明度高く気泡含まない。
第68図112 ＰＬ－27	不明 透明	口縁一部欠損	①－　②－ ③－	①2.4　②3.6 ③3.0	口縁端部内面ざらつきがあり、共栓と考えられる。器壁厚く、気泡少ない。透明度高い。型痕なし。
第68図113	不明 透明	完形	①－　②－ ③－	①0.8　②2.3 ③2.5	器壁均一で気泡は含まない。透明度高く、医療用もしくは実験用器の蓋か。口縁部内面の半分ほどを斜めに削る。

表４　１号堀上層出土陶磁器類観察表

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	残存状態	①器高　②口径 ③底径　(cm)	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第69図114	磁器 盃	1/4	①3.2　②(7.4) ③(2.7)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「(酒) 保」。
第69図115	磁器 盃	1/2	①3.1　②7.3 ③2.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図116	磁器 盃	1/2	①3.2　②(7.5) ③(3.0)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒 (保)」。
第69図117	磁器 盃	底部完 口縁部一部	①3.0　②(7.6) ③3.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図118 ＰＬ－27	磁器 盃	底部完 口縁部1/2	①3.1　②7.8 ③3.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図119 ＰＬ－27	磁器 盃	底部完 口縁部一部	①3.1　②7.7 ③3.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図120 ＰＬ－27	磁器 盃	口縁一部欠損	①3.1　②7.3 ③3.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。見込み青の上絵具で「酒保」。
第69図121 ＰＬ－27	磁器 盃	口縁一部欠損	①3.6　②8.3 ③3.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。口縁端部と「賞」、「関寄贈」、銃とリボンを金の上絵。植物の葉と茎を緑、実を赤の上絵具で描く。
第69図122	磁器 盃	1/3	①－　②(7.5) ③－	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部内面に「…所准士…」上絵痕。上絵具の色は不明。「准士官下士官集会所」か。
第69図123	磁器 盃	1/4	①－　②(7.6) ③－	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。口縁部内面に黒色上絵具で「…兵第…」。「歩兵第十五連隊」であろう。
第69図124 ＰＬ－28	磁器 盃	1/3	①3.0　②(5.5) ③(2.0)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部外面３条の染付横線。
第69図125 ＰＬ－28	磁器 盃	1/2	①3.1　②(6.8) ③2.7	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。口縁部輪花。白磁か。
第69図126 ＰＬ－28	磁器 盃	完形	①3.0　②5.7 ③2.4	①不明 ②良好③白色	制作地不詳。口縁部外面に金で「藤崎」。内面は吹き墨と筆で千鳥の染付。赤の上絵具で「フジサキ印」、黒の上絵具でフジサキ印を描く。
第69図127 ＰＬ－28	磁器 盃	1/2	①3.1　②7.4 ③3.1	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部外方に広がる。高台外面に鋸歯状文・高台内不明銘染付。
第69図128	磁器 碗	底部1/2	①－　②－ ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無釉。体部外面に青の上絵具で「酒保」か。
第69図129	磁器 碗	1/2	①3.9　②(8.0) ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無釉。体部外面に青の上絵具で「(酒) 保」。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	残存状態	①器高　②口径 ③底径　(cm)	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第69図130 ＰＬ－28	磁器 碗	口縁部1/3 欠損	①4.7　②8.0 ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無釉。体部外面に青の上絵具で「酒保」。文字の配置は表裏の関係。
第69図131	磁器 碗	口縁部小片	①－　②(7.6) ③－	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部外面に青の上絵具で「酒（保)」。
第69図132 ＰＬ－28	磁器 碗	2/3	①4.5　②8.0 ③3.9	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無釉。体部外面に青の上絵具で「酒保」か。
第69図133 ＰＬ－28	磁器 碗	口縁1/3 底部2/3	①4.4　②(8.0) ③3.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無釉。体部外面に青の上絵具で「酒（保)」。
第69図134	磁器 小碗	口縁1/4 底部2/3	①4.4　②(7.8) ③3.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無釉。体部下位外面２条の染付界線。口縁部吹き墨。底部二次的比熱。高台一部に溶けたガラス付着。
第69図135 ＰＬ－28	磁器 小碗	2/3	①4.3　②7.8 ③3.7	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無釉。体部下位外面２条の染付界線。口縁部吹き墨。
第69図136 ＰＬ－28	磁器 小碗	完形	①4.5　②8.2 ③3.9	①不明　②良好 ③不明	制作地不詳。外面手描きの蔓性植物文を３方に染付る。高台内不明銘。透明釉青みがかる。
第69図137 ＰＬ－28	磁器 小碗	1/2	①4.5　②(7.8) ③3.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内無釉。外面赤絵具で夕日？、緑と黄色で植物、高台外面黒絵具で上絵付け。体部に金で不明銘。
第69図138 ＰＬ－28	硬質陶器 湯飲み	1/3	①－　②－ ③3.8	①緻密　②良好 ③乳白色	制作地不詳。吊り焼き。高台端部まで施釉。透明釉に細かい貫入。高台内に銅版転写？による方形枠内に篆書風「硬陶」銘。
第69図139	硬質陶器 湯飲み	1/4	①－　②(6.0) ③－	①緻密　②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。体部外面銅板転写？による「☆」マーク染付。
第69図140 ＰＬ－28	硬質陶器 湯飲み	1/6	①－　②(6.0) ③－	①緻密　②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。体部外面銅版転写？による「☆」マーク染付。
第69図141 ＰＬ－28	硬質陶器 湯飲み	1/2	①6.7　②6.2 ③3.8	①緻密　②良好 ③乳白色	制作地不詳。高台端部まで施釉。吊り焼き、高台端部にピン痕一カ所残る。透明釉に細かい貫入。高台内に銅版転写？による方形枠内に篆書風「硬陶」銘、体部外面に「☆」マーク。☆マークは滲んでやや不鮮明。
第69図142 ＰＬ－28	硬質陶器 湯飲み	口縁1/2 底部完	①6.4　②6.0 ③3.8	①緻密 ②非常に良い ③白色	制作地不詳。透明釉に貫入なく、小片であれば磁器との区別が付きにくい。高台端部まで透明釉施釉。吊り焼き、高台端部にピン痕三カ所残る。無文。
第69図143	硬質陶器 湯飲み	1/5	①－　②(6.0) ③－	①緻密　②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。現存部無文。外面半分ほど二次比熱により釉が泡立つ。
第69図144	硬質陶器 湯飲み	1/3	①－　②(6.0) ③－	①緻密　②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。現存部無文。
第69図145	硬質陶器 湯飲み	1/3	①－　②(6.2) ③－	①緻密　②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に細かい貫入。現存部無文。
第69図146 ＰＬ－28	硬質陶器 湯飲み	口縁1/3 底部完	①6.8　②(6.0) ③3.7	①緻密　②良好 ③乳白色	日本硬質陶器株式会社製。透明釉に細かい貫入。高台端部まで施釉。吊り焼き、高台端部にピン痕二カ所残る。高台端部一部欠損。高台内薄緑のＮＹ組み合わせマーク上に右から「硬質陶器」印。
第69図147	硬質陶器 湯飲み	体部一部 底部完	①－　②－ ③3.8	①緻密　②良好 ③乳白色	日本硬質陶器株式会社製。透明釉に細かい貫入。高台端部まで施釉。吊り焼き、高台端部にピン痕三カ所残る。高台内薄緑のＮＹ組み合わせマーク上に右から「硬質陶器」印。体部に「☆」マーク染付一部残る。
第69図148	磁器 湯飲み	1/3	①－　②(6.4) ③－	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。口縁端部から外面金色上絵具による太い圏線。
第69図149 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	1/3	①－　②(6.2) ③－	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。残存部外面、青色上絵具で「下士」の文字。「下士集会所」か。
第69図150 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	1/3	①－　②(6.4) ③－	①ガラス質 ②やや良好 ③灰白色	瀬戸・美濃か。外面、黒・金・赤の上絵具で植物文。黒の上絵具で「萩原」の名字。
第69図151 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	口縁部一部 底部1/2	①7.2　②6.8 ③4.0	①ガラス質 ②やや良好 ③僅かに灰白色	瀬戸・美濃。外面青の上絵具で「？村」の名字。高台端部外面釉境に小さい段差。
第70図152 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	口縁部一部 底部完	①7.2　②6.6 ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。外面上絵具で「西澤」の名字。上絵具すべて剥落し、色は不明。高台端部外面釉境に小さい段差。
第70図153 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	1/2	①7.0　②(6.2) ③(3.8)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。文様はすべて金色の上絵。口縁部外面３条、高台脇１条の圏線。体部に☆マーク。高台端部外面釉境に小さい段差。
第70図154	磁器 湯飲み	下半	①－　②－ ③4.0	①ガラス質 ②やや良好 ③灰白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部に文様ない。器壁僅かに灰色味を帯びる。高台端部外面釉境に小さい段差。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	残存状態	①器高　②口径 ③底径　(cm)	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第70図155	磁器 湯飲み	下半	①－　②－ ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部無文。高台端部外面釉境に小さい段差。
第70図156	磁器 湯飲み	1/3	①7.0　②(6.4) ③(4.0)	①ガラス質 ②やや良好 ③灰白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。器壁僅かに灰色味を帯びる。残存部無文。二次被熱。
第70図157	磁器 湯飲み	口縁部一部 底部1/3	①6.9　②(6.4) ③4.2	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部無文。高台端部外面釉境に小さい段差。
第70図158 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	口縁部1/2 底部完	①7.0　②6.4 ③4.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部無文。高台端部外面釉境に小さい段差。
第70図159 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	完形	①7.1　②6.3 ③3.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。器壁厚い。残存部無文。高台端部外面釉境に小さい段差。
第70図160 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	1/6	①－　②(3.1) ③－	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。外面○内に「善」の上絵。○の輪郭は朱色、○輪郭内と文字は茶色味を帯びた赤で描く。
第70図161	磁器 湯飲み	1/8	①7.4　②(6.3) ③(3.2)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃か。外面黄緑で植物を黒の吹き墨で月？を下絵付け。外面の一部と高台外面金の上絵具。
第70図162	磁器 湯飲み	完形	①6.8　②6.2 ③3.9	①－　②良好 ③白色	制作地不詳。外面一方に桃の下絵。輪郭は呉須、葉は緑色。実の中央はピンクの吹き墨。
第70図163	磁器 湯飲み	口縁1/4 底部1/2	①6.1　②(5.5) ③(3.6)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。外面赤と黄緑の上絵具で植物文。
第70図164	磁器 湯飲み	口縁一部 底部1/2	①7.7　②(6.7) ③(4.2)	①ややガラス質 ②良好③白色	九谷？体部下端茶色の下絵。体部に黄緑で朝顔の蔓と葉を、ピンクと青の上絵具で花を描く。輪郭は黒絵具。高台外面赤の上絵具で圏線。高台内赤の上絵具で不明銘。
第70図165 ＰＬ－28	磁器 湯飲み	口縁部一部 底部2/3	①8.1　②(6.6) ③4.6	①ガラス質 ②良好③白色	九谷。口縁部外面と高台脇・高台外面、松の幹は茶色の下絵付け。松葉や茶色下絵部の文様は金上絵。松葉は黄緑、鶴は白と黒、枠は赤の上絵付け。高台内赤上絵で楕円内に「九谷」銘。
第70図166	磁器 湯飲み	1/6	①－　②(6.6) ③－	①ガラス質 ②やや良好 ③灰白色	瀬戸・美濃。口縁部外面緑色絵具下絵で２条の圏線。国民食器か。
第70図167	陶器？ 湯飲み	1/2	①6.4　②(6.0) ③(3.2)	①緻密　②良好 ③乳白色	制作地不詳。透明釉に貫入。色調は硬質陶器に似る。高台端部無釉。外面黒の下絵具で草花を描き、花の中央は緑色絵具を盛り上げる。
第70図168 ＰＬ－28	陶器 湯飲み	口縁1/3 底部2/3	①6.7　②(6.4) ③4.2	①黒色粒 ②良好 ③青灰色	相馬。内面から口縁部外面墨入り貫入の灰釉。口縁部外面下部金上絵具で波状文。体部外面から高台外面鉄泥。高台内小判形の「相馬」押印。
第70図169 ＰＬ－28	陶器 湯飲み	1/2	①6.0　②6.2 ③3.6	①緻密　②良好 ③淡黄色	制作地不詳。透明釉に非常に細かい貫入。赤と緑の上絵具で花卉文。高台端部無釉。
第70図170 ＰＬ－28	磁器 飯碗	口縁1/3欠 損	①5.7　②11.2 ③4.2	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図171	磁器 飯碗	1/4	①－　②－ ③(4.0)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図172	磁器 飯碗	口縁部1/4 底部完	①5.8　②11.0 ③4.7	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図173	磁器 飯碗	底部1/2	①－　②－ ③4.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図174 ＰＬ－28	磁器 飯碗	口縁一部欠 損	①5.6　②11.0 ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図175 ＰＬ－28	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.2　②11.3 ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図176	磁器 飯碗	1/4	①－　②－ ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図177	磁器 飯碗	底部完	①－　②－ ③4.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図178	磁器 飯碗	ほぼ完形	①5.6　②11.2 ③4.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図179	磁器 飯碗	1/3	①5.6　②11.4 ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図180 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.7　②11.2 ③4.0	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	残存状態	①器高　②口径 ③底径　(cm)	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第70図181 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部一部 欠損	①5.7　②11.3 ③(4.0)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図182 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部1/2 欠損	①5.5　②11.5 ③3.9	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図183 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.9　②10.8 ③4.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図184 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.4　②10.8 ③4.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図185 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.4　②11.4 ③4.5	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図186 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部一部 欠損	①5.6　②11.4 ③4.3	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図187	磁器 飯碗	口縁部1/2 欠損	①5.6　②11.5 ③3.7	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台端部を除き青緑色釉。
第70図188	磁器 飯碗	口縁部1/8 底部1/2	①4.6　②(10.4) ③(4.4)	①－ ②やや焼成不良 ③灰白色	制作地不詳。平碗。高台端部を除き茶色釉。外面白色絵具と金絵具の上絵残る。底部器壁非常に薄い。
第70図189 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部1/4 欠損	①5.9　②11.8 ③4.6	①－　②良好 ③灰白色	制作地不詳。丸碗。高台端部を除き茶色釉。
第71図190	磁器 飯碗	1/4	①5.3　②(11.0) ③(4.0)	①－　②やや不良③灰白色	制作地不詳。丸みの少ない丸碗。高台脇圏線手描き。主文様は銅版転写による染付。釉薬やや白濁する。器表も灰白色。
第71図191	磁器 飯碗	口縁部一部 底部1/2	①5.6　②(11.0) ③(3.6)	①－　②やや良好③灰白色	瀬戸・美濃か。平碗。外面手描きによる染付。
第71図192 ＰＬ－29	磁器 飯碗	口縁部1/2 欠損	①5.8　②(12.4) ③4.4	①－　②良好 ③白色	製作地不詳。大振りの型紙摺り丸碗。
第71図193	磁器 鉢	1/4	①－　②(14.6) ③－	①－　②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目から外面にかけて鳥が飛翔する姿を銅板転写により施す。
第71図194 ＰＬ－29	磁器 鉢	1/2	①5.4　②14.5 ③6.0	①－　②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目から外面にかけて鳥が飛翔する姿を銅板転写により施す。
第71図195 ＰＬ－29	磁器 鉢	1/4	①5.5　②(16.2) ③(8.4)	①－　②やや不良③灰白色	製作地不詳。体部下位と下端の圏線を除きすべて上絵。蛇の目凹型高台。
第71図196 ＰＬ－29	磁器 鉢	口縁部1/3 底部完	①5.4　②(15.0) ③6.0	①－　②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目と外面に鳳凰を銅板転写により描く。
第71図197	磁器 鉢	1/3	①5.4　②(15.0) ③6.4	①－　②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目と外面に鳳凰を銅板転写により描く。
第71図198	磁器 鉢	1/4	①－　②(15.0) ③－	①－　②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目と外面に鳳凰を銅板転写により描く。
第71図199 ＰＬ－29	磁器 鉢	口縁部1/3 底部1/2	①5.0　②(15.6) ③(6.0)	①－　②良好 ③白色	瀬戸・美濃か。器壁が厚く、浅い鉢。内目と外面に龍を銅板転写により描く。
第71図200 ＰＬ－29	磁器 鉢	口縁部2/3 底部完	①4.1　②15.0 ③8.1	①－　②良好 ③白色	肥前か。型紙摺り。蛇の目凹型高台。
第72図201 ＰＬ－32	磁器 鉢	口縁部1/2 底部完	①17.2　②5.4 ③8.8	①－　②良好 ③白色	肥前か。型紙摺り。蛇の目凹型高台。
第72図202 ＰＬ－32	磁器 鉢	口縁部1/4 底部完	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③白色	肥前か。型紙摺り。蛇の目凹型高台。
第72図203	磁器 徳利	口縁から体 部上半	①－　②(3.1) ③－	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部に「士」の上絵痕。色は残らない。類品から青色か。
第72図204 ＰＬ－32	磁器 徳利	底部	①－　②－ ③6.4	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。高台内に「幹山精製」銘。
第72図205 ＰＬ－32	磁器 徳利	口縁部欠損	①－　②－ ③5.6	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部に「歩（兵）第十（五）聯隊酒保」の上絵痕。「酒」に青色上絵具残る。高台内「逸山精製」銘。
第72図206 ＰＬ－32	磁器 徳利	口縁部底部 1/2欠損	①18.3　②3.3 ③6.2	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部に「准士官下士集會所」の上絵痕。一部に青色上絵具残る。高台内「幹山精製」銘。
第72図207	陶器 急須	2/3	①6.5　②6.7 ③5.4	①緻密　②良好 ③－	制作地不詳。底部外面と周縁、内面を除き鉄釉。体部に取っ手貼り付け痕一部残る。接合しないが、同一個体で受け部あり。
第72図208	陶器 急須	蓋なし　取 っ手欠損	①6.4　②6.5 ③5.6	①緻密　②良好 ③－	制作地不詳。万古風焼締陶器。底部外面周縁布痕。注ぎ口端部欠損。口縁端部薄く施釉し、光沢を有する。210と同形・同大。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	残存状態	①器高　②口径 ③底径　(cm)	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第72図209 ＰＬ－32	陶器 急須	取っ手・つまみ欠損	①5.2　②5.7 ③4.4　①0.9 ②口底5.1	①緻密　②良好 ③－	制作地不詳。万古風焼締陶器。底部外面布痕。小型。注ぎ口端部欠損。口縁端部薄く施釉。
第72図210 ＰＬ－32	陶器 急須	ほぼ完形	①7.0　②6.3 ③5.1　①2.3 ②口底5.9	①緻密　②良好 ③－	制作地不詳。万古風焼締陶器。底部外面布痕。取っ手上面に桜花の透かし。注ぎ口・取っ手・口縁端部とつまみ上部に金彩。体部に青の上絵具で「見習士官用」、蓋天井部外面に青の上絵具で「歩、十五」
第72図211 ＰＬ－32	陶器 急須	蓋なし 身完形	①6.8　②6.3 ③5.2	①緻密　②良好 ③－	制作地不詳。万古風焼締陶器。底部外面周縁布痕。取っ手上面桜花透かし。注ぎ口・口縁・取っ手端部薄く施釉し、光沢を有する。210と同形・同大。
第72図212	磁器 土瓶	口縁部1/2 体部一部	①－　②(7.3) ③－	①－　②良好 ③白色	制作地不詳。受け部と受け部下位無釉。外面界線内に幅広の縦縞。下位には界線２条。弦受け１個残存。
第72図213	磁器 土瓶	1/3	①8.2　②7.8 ③8.0	①－　②良好 ③白色	制作地不詳。受け部と体部下位以下を除き透明釉。体部外面簡略化した花卉文を染付る。弦受け部欠損。
第72図214	磁器 土瓶蓋	完形	①2.3　②－ ③口底7.0	①－　②やや良好③灰白色	制作地不詳。白磁。口縁端部下面無釉。第73図215の蓋か。
第73図215	磁器 土瓶	小片	①－　②－ ③(8.0)	①－ ②やや良好 ③灰白色	制作地不詳。外面高台脇以下を除き透明釉。体部外面に青の上絵具で描いた文字の一部残る。同一個体と思われる体部片に「士」青色上絵あり。
第73図216 ＰＬ－32	陶器 皿	1/2	①1.4　②(8.1) ③(5.2)	①－　②良好 ③－	珉平か。型押しで花弁状に形作る。五弁であろう。貫入のある瑠璃釉全面施釉。底部外面に目痕二カ所残る。底部外面に刻印なし。
第73図217	土器 かわらけ	1/5	①2.5　②(10.3) ③－	①夾雑物含まず ②良好　③－	打ち型成形。体部外面丁寧な回転篦削り。見込み「御？…」の浮き文字。
第73図218 ＰＬ－32	陶器 箸立	1/4	①10.3 ②5.5 ③(6.6)	①緻密　②良好 ③－	高台端部を除き透明釉。釉に貫入。体部外面に緑で植物、白土でサギ盛り上げるように描く。水面は呉須、サギの足と嘴、翼の輪郭は鉄絵具で描く。絵付けはすべて下絵。京・信楽系か。
第73図219	磁器 段重？	1/4	①4.7　②(9.0) ③(6.6)	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。体部外面に中位に凹線。残存部無文。接合しないが口縁部が残存する同一個体の口縁端部と内面の釉を剥ぐ。鉢か段重の身。
第73図220 ＰＬ－33	陶器 甕	口縁部1/2 底部完	①13.7 ②10.0 ③9.2	①－　②良好 ③－	益子・笠間。口縁端部上面から内面無釉。高台内から口縁部白化粧後透明釉。口縁部から鉄釉と青緑釉流す。高台脇以下無釉。内面鉄釉薄く施釉。
第73図221	陶器 甕	口縁部一部 底部完	①13.7 ②(10.3) ③9.7	①－　②良好 ③－	益子・笠間。口縁端部上面から内面無釉。高台内から口縁部白化粧後透明釉。口縁部から鉄釉と青緑釉流す。高台脇以下無釉。内面鉄釉薄く施釉。
第73図222	陶器 甕	口縁部1/2 体部一部	①－　②12.8 ③－	①－　②良好 ③－	益子・笠間。口縁端部上面から内面無釉。外面白化粧後透明釉。口縁部から鉄釉と青緑釉流す。内面鉄釉薄く施釉。
第73図223 ＰＬ－33	陶器 甕	口縁部1/5 底部完	①13.5 ②(10.8) ③9.0	①－　②良好 ③－	益子・笠間。口縁端部上面から内面無釉。高台内から口縁部白化粧後透明釉。口縁部から鉄釉と青緑釉流す。高台脇以下無釉。内面鉄釉薄く施釉。
第73図224	磁器 火鉢	1/5	①－　②－ ③(17.7)	①緻密　②良好 ③白色	体部外面透明釉。体部外面型紙による染付。
第73図225	陶器 火鉢	1/2	①－　②－ ③(18.0)	①白・黒鉱物 ②やや不良 ③－	体部外面白化粧後透明釉。手描きによる染付。底部内外面窯道具痕。釉に粗い貫入。
第73図226 ＰＬ－33	陶器 火鉢	口縁部1/2 底部完	①19.1 ②(18.0) ③18.4	①白・黒鉱物 ②やや不良 ③－	口縁部内面から体部外面白化粧後透明釉。釉に粗い貫入。口縁外面型紙、他は手描きによる染付。
第73図227	磁器 火鉢	1/4	①－　②(19.0) ③－	①緻密　②良好 ③白色	口縁部内面から体部外面透明釉。外面銅板転写染付。
第74図228	陶器 不詳	底部	①－　②－ ③3.2	①細砂　②良好 ③灰白色	相馬。内面墨入り貫入の灰釉。外面1/2薄い灰釉。底部外面楕円形の「相馬」押印。
第74図229 口絵３	青磁 鉢？	体部小片	①－　②－ ③－	①ややガラス質 ②－　③白色	幕末三田青磁鉢の小片。青磁釉は２層で厚く掛ける。型造り。
第74図230 ＰＬ－32	クロム青磁 蓋	完形	①1.3　②6.0 ③－	①－　②良好 ③－	天井部・口縁部外面クロム青磁釉。天井部内面透明釉。口縁端部と内面無釉。無釉部に朱肉付着。
第74図231 ＰＬ－32	磁器 水滴	天井部と側面	①2.2　縦4.4 横－	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。銅板転写。文様の左側に当たる側面無釉。内面天井部と側面は型に押しつけた際の指痕顕著。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	残存状態	①器高　②口径 ③底径　(cm)	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第74図232 ＰＬ－32	磁器 水滴	ほぼ完形	①2.4　縦4.4 横5.8	①ガラス質 ②良好③白色	瀬戸・美濃。銅板転写。文様の下部に当たる側面無釉。下面はＬ字状の低い脚を付ける。内面天井部と側面は型に押しつけた際の指痕顕著。
第74図233 ＰＬ－32	軟質施釉陶 手付き焙烙	完形	①4.0　②13.2 ③－	①夾雑物含まず ②良好　③－	口縁部内面以下と取っ手接合部に透明釉。本体は轆轤成形。外面回転篦削り。
第74図234 ＰＬ－32	土器 人形	頭部欠損	①－　　幅3.7 厚2.8	①赤色粒　②良好　③鈍橙	表裏の型造りで中央で貼り合わせ。下部に破裂を防ぐ小円孔。下部を除き黒変。
第74図235 ＰＬ－32	土器 焼塩壺	底部	①－　②－ ③4.0	①金色鉱物 ②良好　③橙	左回転轆轤成形。底部厚い。胎土・器形ともに在地土器とは異なる。器形と成形痕から焼塩壺とした。
第74図236	土器 焙烙	3/4	①6.0　②34.2 ③－	①赤色粒 ②良好　③－	型作り。口縁部横撫で。口縁部内面横位磨き。底部内面一方向の磨き。器表黒色。底部外面は周縁を除き酸化炎で色が戻る。大きい耳を口縁端部に貼り付ける。耳は相対する位置二カ所残存する。
第74図237	陶器 すり鉢	口縁部1/2 底部2/3	①19.1　②(45.4) ③22.1	①黒色粒 ②良好　③－	益子・笠間。口縁部内面から体部外面柿釉。口縁部は三段に作る。口縁端部丸みを帯びる。
第74図238	瓦 軒桟瓦	巴部分	①－　②－ ③厚2.9	①黒色鉱物 ②不良　③－	燻し瓦だが燻し不十分。裏面接合部カキヤブリ痕。高崎城の瓦か。
第74図239	瓦 軒丸瓦	瓦当部	①－　②－ 厚2.2	①白色鉱物 ②やや不良 ③－	焼き締まりない。器表黒灰色、器表下3.0～5.0㎜灰白色、中央付近黒色。高崎城の瓦であろう。
第74図240	瓦 桟瓦	2/3	①－　②－ 厚1.8	①間隙あり ②良好　③－	燻し瓦。大きさはJIS規格60形に近い。足深桟瓦。
第74図241	瓦 桟瓦	1/4	①－　②－ 厚1.9	①間隙あり ②やや不良 ③－	器表3.0㎜程は酸化炎気味、胎土は還元炎で青灰色。高崎城の瓦か。
第74図242	瓦 一文字軒瓦	1/6	①－　②－ 厚1.7	①間隙あり ②良好　③－	燻し瓦。軒先部右上に押印。
第75図243	瓦 軒桟瓦	1/4	①－　②－ 厚1.9	①間隙あり ②良好　③－	燻し瓦。胎土青灰色。
第75図244	煉瓦 赤煉瓦	完形	①－　②－ 厚6.2	①－　②不良 ③－	焼き歪みがあり、いわゆる「焼き過ぎ」煉瓦である。幅は僅かにJIS規格外、長さは片面が規格外でもう一方は規格内、厚さは規格内である。両平面に切り離し痕。
第75図245	煉瓦 赤煉瓦	2/3	①－　②－ 厚6.4	①－　②良好 ③－	焼き締まりない。長さ22.0㎝以上で幅、厚さ共にJIS規格より大きい。規格制定以前の赤煉瓦。
第75図246 ＰＬ－33	石製品 硯	海側壁欠損	縦12.1　横6.0 厚1.8	①－　②－ ③－	陸部の摩滅少ない。
第75図247 ＰＬ－33	石製品 硯	海側壁一部欠損	縦12.3　横6.3 厚1.9	①－　②－ ③－	陸部の摩滅少ない。
第75図248 ＰＬ－33	石製品 硯	側壁一部欠損	縦12.3　横6.2 厚1.9	①－　② ③－	陸部の摩滅少ない。
第75図249	石製品 硯	側壁2/3欠損	縦9.2　横6.2 厚0.8	①－　②－ ③－	厚さ7.5㎜と薄い小型硯。陸部の摩滅少ない。

表５　１号堀上層出土釘類観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①直径　②厚さ（㎜）	特　　徴
第75図250	銅・合金 釘（大）	完形	①23.26～23.18　②2.7	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釘」。メッキは不明。
第75図251	銅・合金 釘（大）	完形	①23.71～23.86　②3.6	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釘」。メッキは不明。糸留め部に糸残存。
第75図252	銅・合金 釘（大）	裏板欠損	①23.95～23.65　②3.3	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釘」。メッキは不明。糸留め部は表板に接合。
第75図253	銅・合金 釘（大）	完形	①23.20～22.28　②3.2	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釘」。メッキは不明。
第75図254 ＰＬ－33	銅・合金 釘（大）	完形	①23.81～22.75　②3.6	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釘」。メッキは不明。
第75図255	銅・合金 釘（大）	完形	①23.81～22.99　②3.6	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釘」。メッキは不明。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①直径　②厚さ（㎜）	特　　徴
第75図256	銅・合金 釦（大）	完形	①24.10～24.08　②3.8	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図257	銅・合金 釦（大）	完形	①22.70～22.80　②4.4	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図258	銅・合金 釦（大）	完形	①24.16～24.01　②4.4	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図259	銅・合金 釦（大）	完形	①23.92～22.89　②3.5	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図260	銅・合金 釦（中）	完形	①17.01～17.05　②2.0	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図261	銅・合金 釦（中）	完形	①16.52～16.39　②2.4	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図262	銅・合金 釦（中）	裏板欠損	①16.00～16.77　②1.5	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。糸留め部表板に貼り付ける。
第75図263 ＰＬ－33	銅・合金 釦（中）	完形	①16.53～16.45　②2.1	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図264	銅・合金 釦（中）	完形	①16.66～16.76　②1.8	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図265 ＰＬ－33	銅・合金 釦（中）	完形	①17.01～16.97　②2.0	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図266	銅・合金 釦（中）	完形	①16.49～16.70　②1.7	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図267	銅・合金 釦（中）	完形	①16.86～16.96　②2.2	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図268 ＰＬ－33	銅・合金 釦（小）	糸留め部欠損	①11.93～12.01　②0.5	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」。メッキは不明。
第75図269 ＰＬ－33	銅・合金 釦（小）	裏板	①11.79～11.63　②0.3	薄い銅板を合わせて作る「合わせ釦」の裏板か。メッキは不明。
図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①直径　②厚さ（㎜） ③重さ（ｇ）	特　　徴
第75図270 ＰＬ－33	骨製品 釦	完形	①13.89～13.84　②3.89　③0.7	５穴。側面算盤玉形。表面穴部のみ窪む。
第75図271 ＰＬ－33	骨製品 釦	完形	①14.99～14.97　②3.42　③0.8	５穴。側面算盤玉形。表面穴部のみ窪む。
第75図272	骨製品 釦	完形	①12.99～12.81　②3.88　③0.5	５穴。側面算盤玉形。表面穴部のみ窪む。
第75図273 ＰＬ－33	骨製品 釦	完形	①15.89～15.66　②3.44　③0.8	５穴。側面逆台形。表面穴部のみ窪む。側面に接合痕。５穴の板とドーナツ状板の貼り合わせか。
第75図274	骨製品 釦	一部欠損	①15.83～15.60　②3.89　③1.1	５穴。側面逆台形。表面穴部のみ窪む。側面に接合痕。５穴の板とドーナツ状板の貼り合わせか。ドーナツ状部分一部剥がれる。
第75図275 ＰＬ－33	骨製品 釦	完形	①15.76～15.75　②3.53　③1.0	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。
第75図276 ＰＬ－33	骨製品 釦	完形	①16.13～16.05　②3.62　③1.1	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。
第75図277	骨製品 釦	完形	①16.28～16.00　②2.70　③0.6	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。
第75図278	骨製品 釦	完形	①15.89～15.85　②3.45　③0.8	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。
第75図279	骨製品 釦	完形	①15.86～15.77　②3.65　③0.9	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。
第75図280	骨製品 釦	完形	①15.77～15.70　②3.53　③0.8	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。
第75図281	骨製品 釦	完形	①15.96～15.96　②3.34　③0.7	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。
第75図282	骨製品 釦	完形	①16.07～16.05　②3.71　③0.9	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。
第75図283 ＰＬ－33	骨製品 釦	完形	①18.52～18.50　②4.08　③1.2	275と同形であるが、やや大きい。４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅3.0㎜の土手状を成す。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①直径　②厚さ（㎜） ③重さ（ｇ）	特　　徴
第75図284 ＰＬ－33	骨製品 釦	完形	①16.22～16.20　②3.88　③1.2	４穴。穴の位置偏る。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周囲は幅広く土手状を成す。
第75図285	骨製品 釦	完形	①16.16～16.14　②4.20　③1.2	４穴。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周囲は幅広く土手状を成す。
第75図286	骨製品 釦	完形	①16.83～16.81　②4.01　③1.1	４穴。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周囲は幅広く土手状を成す。
第75図287	骨製品 釦	完形	①16.75～16.74　②3.36　③1.0	４穴。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周囲は幅広く土手状を成す。
第75図288	骨製品 釦	完形	①16.24～16.16　②4.67　③1.2	４穴。中心に小さい窪み。穴部は平坦で周縁に小溝を巡らし、周囲は幅広く土手状を成す。
第75図289	骨製品 釦	一部欠損	①15.95～15.92　②3.48　③0.8	４穴。中心に小さい窪み。周縁は幅2.0㎜の土手状を成す。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①直径　②厚さ （㎜）③重さ(g)	色　調	特　　徴
第75図290 ＰＬ－33	ガラス製品 釦	完形	①10.96～10.83 ②3.05　③0.5	純白。	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約2.0㎜。
第75図291 ＰＬ－33	ガラス製品 釦	完形	①10.86～10.42 ②2.75　③0.4	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8㎜。
第75図292 ＰＬ－33	ガラス製品 釦	完形	①11.49～11.47 ②2.97　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第75図293	ガラス製品 釦	完形	①11.37～11.31 ②2.98　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第75図294	ガラス製品 釦	完形	①11.38～11.34 ②2.81　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第75図295	ガラス製品 釦	完形	①11.70～11.69 ②2.99　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第75図296	ガラス製品 釦	完形	①11.60～11.49 ②3.01　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2㎜。
第75図297	ガラス製品 釦	完形	①11.70～11.63 ②3.01　③0.5	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第75図298	ガラス製品 釦	完形	①11.22～11.11 ②2.75　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第75図299	ガラス製品 釦	完形	①11.57～11.49 ②3.12　③0.5	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第75図300	ガラス製品 釦	完形	①11.47～11.43 ②3.17　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2㎜。
第75図301	ガラス製品 釦	完形	①10.58～10.59 ②2.84　③0.4	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0㎜。
第75図302	ガラス製品 釦	完形	①10.82～10.92 ②2.73　③0.4	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0㎜。
第75図303	ガラス製品 釦	完形	①10.63～10.58 ②2.76　③0.3	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0㎜。
第76図304	ガラス製品 釦	完形	①10.60～10.45 ②2.79　③0.3	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2㎜。
第76図305	ガラス製品 釦	完形	①10.51～10.46 ②2.61　③0.3	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0㎜。
第76図306	ガラス製品 釦	完形	①10.57～10.56 ②2.72　③0.3	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8㎜。
第76図307	ガラス製品 釦	完形	①10.69～10.67 ②2.71　③0.3	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0㎜。
第76図308	ガラス製品 釦	完形	①10.96～10.85 ②2.49　③0.3	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8㎜。
第76図309	ガラス製品 釦	完形	①10.75～10.73 ②2.81　③0.4	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0㎜。
第76図310	ガラス製品 釦	完形	①10.94～10.93 ②2.67　③0.4	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2㎜。
第76図311	ガラス製品 釦	完形	①10.37～10.33 ②2.95　③0.3	光沢のある白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8㎜。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①直径　②厚さ (㎜) ③重さ(g)	色　調	特　　徴
第76図312	ガラス製品 釦	完形	①10.78～10.71 ②2.76　③0.4	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2㎜。
第76図313	ガラス製品 釦	完形	①10.68～10.65 ②2.70　③0.3	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8㎜。
第76図314	ガラス製品 釦	完形	①10.44～10.40 ②2.72　③0.3	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8㎜。
第76図315	ガラス製品 釦	完形	①11.67～11.66 ②2.95　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0㎜。
第76図316	ガラス製品 釦	完形	①10.92～10.89 ②3.05　③0.4	純白。	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第76図317	ガラス製品 釦	完形	①11.11～10.98 ②2.96　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.0㎜。
第76図318	ガラス製品 釦	完形	①11.04～11.01 ②2.97　③0.4	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約0.8㎜。
第76図319	ガラス製品 釦	完形	①10.72～10.70 ②2.99　③0.4	純白。	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。
第76図320	ガラス製品 釦	完形	①11.29～11.26 ②3.13　③0.4	灰色味帯びる白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2㎜。
第76図321	ガラス製品 釦	完形	①10.87～10.86 ②3.12　③0.5	純白。	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.8㎜。
第76図322	ガラス製品 釦	完形	①10.72～10.70 ②3.06　③0.4	純白。	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.6㎜。
第76図323	ガラス製品 釦	完形	①11.42～11.38 ②2.89　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.2㎜。
第76図324	ガラス製品 釦	完形	①11.52～11.52 ②3.01　③0.4	白色	４穴。表側穴部窪む。周縁部厚さ約1.4㎜。

表６　１号堀上層出土金属製品類等観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①器高　②口径　③底径（㎝）	特　　徴
第76図325 ＰＬ－33	銅・合金 襟章	1/2	①－　②－　③－	襟用連隊番号「１」の上部片。
第76図326 ＰＬ－33	銅・合金 襟章	2/3	①－　②－　③－	襟用連隊番号「５」の下部片。
第76図327 ＰＬ－33	銅・合金 徽章	ほぼ完形	①－　②－　③－	襟もしくは肩徽の陸軍星マーク。裏面留め具は開いた状態。
第76図328 ＰＬ－33	銅・合金 徽章	一部欠損	①－　②－　③－	襟もしくは肩徽の陸軍星マーク。327に比して高さもあり、シャープな星マーク。
第76図329	銅・合金 ライフル弾	被甲	径7.80 径7.55 長32.56 重2.4 (㎜)　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せたものと思われる。二次被熱のためか弾芯がなく空洞。
第76図330 ＰＬ－33	銅・合金 ライフル弾	一部欠損	径7.44 径7.16 長32.46 重10.3 (㎜)　(g)	頭部変形のため断定できないが、円頭と思われる。鉛弾芯に銅の被甲を被せる。頭部付近曲がる。胴部から尾部に旋状痕残る。
第76図331 ＰＬ－33	銅・合金 ライフル弾	完形	径7.35 径7.74 長31.63 重10.1 (㎜)　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に不明瞭な旋状痕残る。
第76図332 ＰＬ－33	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.95 径6.89 長32.37 重10.3 (㎜)　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。
第76図333 ＰＬ－33	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.64 径6.99 長31.76 重2.1 (㎜)　(g)	頭部は尖頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せたものと思われる。二次被熱のためか弾芯がなく空洞。胴部から尾部に旋状痕残る。やや変形。
第76図334	銅・合金 ライフル弾	完形	径7.50 径6.26 長31.06 重10.2 (㎜)　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。中央と尾部は叩きつぶされたように変形。頭部僅かに潰れる。
第76図335	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.88 径6.85 長32.46 重10.4 (㎜)　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。
第76図336	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.86 径7.15 長32.56 重2.6 (㎜)　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せたものと思われる。二次被熱のためか弾芯がなく空洞。胴部から尾部に旋状痕残る。
第76図337	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.67 径7.08 長32.55 重10.2 (㎜)　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①器高　②口径　③底径（cm）	特　　徴
第76図338 ＰＬ－33	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.44 径7.07 長32.40 重9.7 (mm)　　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。頭部僅かに潰れる。
第76図339 ＰＬ－33	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.65 径6.71 長31.36 重10.1 (mm)　　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。頭部潰れる。二次被熱のためか、弾芯に空洞が生じる。
第76図340	銅・合金 ライフル弾	完形	径5.25 径7.86 長33.13 重9.5 (mm)　　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。尾部潰れる。
第76図341	銅・合金 ライフル弾	完形	径5.28 径7.98 長1.84 重10.1 (mm)　　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。旋状痕不明瞭。頭部と尾部潰れる。
第76図342	銅・合金 ライフル弾	尾部欠損	径5.96 径7.21 長26.71 重6.0 (mm)　　(g)	頭部丸い。胴部は叩かれたような凹みや潰れがあり、尾部は破れている。弾芯は溶け出していないが、二次被熱痕あり。
第76図343	銅・合金 ライフル弾	尾部欠損	径6.72 径7.19 長32.10 重9.3 (mm)　　(g)	頭部丸い。尾部破れて弾芯見える。尾部は横から潰されたような痕跡あり。
第76図344	銅・合金 ライフル弾	完形	径6.77 径6.97 長31.90 重10.0 (mm)　　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。旋状痕不明瞭。
第76図345	銅・合金 ライフル弾	完形	径7.12 径7.01 長32.22 重10.3 (mm)　　(g)	頭部は円頭。鉛の弾芯に銅の被甲を被せる。胴部から尾部に旋状痕残る。
第76図346 ＰＬ－34	金属製品 薬容器蓋	完形	①0.4　②3.1　③3.0	天井部外面に「登録商標」、方形区画に「龍角散」の浮き文字。
第76図347	金属製品 薬容器身	完形	①0.6　②2.9　③3.0	土圧等で歪むが、円形薄型の容器。金属の種類や大きさ・形状から「龍角散」容器（346）の身と考えられる。
第76図348 ＰＬ－34	銅・合金 尾錠	一部欠損	①－　②－　③－	枠が遊環となり、剣先状になった部分（２本）を孔に通すのではなく突き刺すタイプのバックル。
第76図349	銅・合金 不明	完形	①－　②－　③－	断面円形、平面形長方形。ベルト金具であろう。
第76図350 ＰＬ－34	銅・合金 尾錠	完形	①－　②－　③－	板状のバックル。断面「Ｕ」字状に折り返した部分が可動部。
第76図351	銅・合金 財布金具	一部	①－　②－　③－	がま口金具の留め具付近破片。留め具は１個のみの残存だが、二つの金具が合わさっており、閉まった状態での廃棄であろう。銀色のメッキ一部残る。革が一部残る。
第76図352	銅・合金 財布金具	一部	①－　②－　③－	がま口金具の留め具付近破片。留め具は閉まった状態。銀色のメッキ一部残る。
第76図353	銅・合金 財布金具	一部	①－　②－　③－	がま口金具の蝶番から上部にかけての破片。蝶番に円形小遊環。銀色のメッキ一部残る。354と同一個体の可能性高い。
第76図354	銅・合金 財布金具	一部	①－　②－　③－	がま口金具の角から上部にかけての破片。銀色のメッキ一部残る。353と同一個体の可能性高い。
第76図355 ＰＬ－34	磁器／鉄 機械栓	針金部1/2 欠損	①－　②－　③－	蓋は磁器製。閉栓時外気に触れる部分に透明釉。コルクもしくはゴムのパッキンは残らない。
第76図356 ＰＬ－34	磁器／鉄 機械栓	一部欠損	①－　②－　③－	蓋は磁器製。閉栓時外気に触れる部分に透明釉。コルクもしくはゴムのパッキンは残らない。
第76図357	銅・合金 煙管	吸い口	①－　②－　③－	断面円形の吸い口。
第76図358	銅・合金 煙管	吸い口	①－　②－　③－	吸い口付近扁平。刀豆煙管。
第76図359	銅・合金 煙管	吸い口	①－　②－　③－	扁平な胴部から吸い口に至る。刀豆煙管。
第76図360	銅・合金 煙管	吸い口付近	①－　②－　③－	扁平な胴部から吸い口に至る。刀豆煙管。
第76図361	銅・合金 煙管	胴部	①－　②－　③－	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れる。使用時の叩打によるものか。刀豆煙管。
第76図362	銅・合金 煙管	胴部	①－　②－　③－	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。側面中央接合痕。刀豆煙管。
第76図363	銅・合金 煙管	胴部	①－　②－　③－	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。側面中央接合痕。刀豆煙管。
第76図364 ＰＬ－34	銅・合金 煙管	胴部	①－　②－　③－	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。刀豆煙管。
第76図365	銅・合金 煙管	胴部	①－　②－　③－	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。側面中央接合痕。刀豆煙管。
第76図366 ＰＬ－34	銅・合金 煙管	完形	①長13.5　②－　③－	刀豆煙管。胴部は扁平であるが、頸部付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	残存状態	①器高　②口径　③底径（cm）	特　　徴
第76図367 ＰＬ－34	銅・合金 煙管	火皿、胴部	①－　②－　③－	胴部は扁平であるが、頸付近上面は潰れて湾曲する。使用時の叩打によるものか。側面中央接合痕。胴部に比して火皿小さい。刀豆煙管。
第76図368 ＰＬ－34	銅・合金 煙管	吸い口欠損	①－　②－　③－	小型刀豆煙管。胴部扁平で頸部との境に僅かな段差。胴部上面の頸部付近を一段高く、厚くする。
第76図369 ＰＬ－34	金属製品 歯磨粉缶	1/2	①2.4　②6.7　③6.7	蓋を閉じた状態で腐食。蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に類品がある。
第76図370	金属製品 歯磨粉缶	底部欠損	①2.5　②6.6　③6.6	蓋を閉じた状態で腐食。蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に類品がある。
第76図371	金属製品 歯磨粉缶	底部欠損	①2.5　②6.8　③6.5	蓋を閉じた状態で腐食。蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。状態の良い箇所の側面の断面観察から、蓋側は身に被さり、1.2cm程の高さと推定される。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に類品がある。
第76図372	金属製品 歯磨粉缶	蓋部分	①1.0　②6.8　③－	蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に類品がある。
第76図373	金属製品 歯磨粉缶	蓋部分	①－　②6.7　③－	蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に類品がある。
第76図374	金属製品 歯磨粉缶	蓋一部と底部欠損	①2.5　②6.9　③6.8	蓋を閉じた状態で腐食。蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に類品がある。
第76図375	金属製品 歯磨粉缶	天井部	①－　②6.8　③－	蓋と推定される側の天井外面中央にガラス製鏡をはめ込む。小林富次郎商店「ライオン歯磨」に類品がある。
第76図376	皮革製品 軍靴踵		①－　②－　③－	革製軍靴の踵部分。裏に金属釘等が打ち込まれている。６枚貼り合わせ。踵外側には鉄板が貼られていた可能性あり。

表７　１号堀出土歯ブラシ等観察表

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	植毛行数 （頭部を上にして左から）	①全長　②頭部幅 ③把柄幅　④把柄部厚（cm）	刻印状態	特　　徴
第77図377 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.1　②1.1 ③0.75　④0.8	CORBEILLE 鮮明	頭部先端に４列穿孔。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔に緑青付着しないが、金具は欠損しているであろう。
第77図378 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.2　②1.2 ③1.15　④0.8	CORBEILLE やや不明瞭	頭部先端４列穿孔。頸部細い。把柄部僅かに外湾。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。
第77図379 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.1　②1.2 ③1.4　④0.9	CORBEILLE 上部欠損	頭部先端４列穿孔。頸部と把柄部境は明瞭。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具なし、緑青付着せず。
第77図380 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.25　②1.15 ③1.3　④0.8	CORBEILLEか ILLE鮮明	頭部先端４列穿孔。頸部細い。把柄部横断面は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹面、金具端部の当たり痕あり。背側は金具を中心に半径6.0mm範囲に円形擦り痕あり。
第77図381	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.3　④0.7	CORBEILLE 鮮明	把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周辺に吊り孔端部当たり痕。背側は表面が荒れており擦れ痕不明。
第77図382	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.3　④0.75	CORBEILLE 下部不鮮明	把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周辺に吊り金具端部当たり痕。背側吊り金具を中心に半径5.0mmの範囲に擦れ痕。
第77図383	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.2　④0.85	CORBEILLE 一部不鮮明	把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径7.0mmの範囲に擦れ痕。
第77図384	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.3　④0.8	CORBEILLE 鮮明	把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔に金具なし。腹側尻孔周辺に吊り金具端部当たり痕。背側吊り金具を中心に半径7.0mmの範囲に擦れ痕。
第77図385 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.2　④0.8	CORBEILLE 下部不鮮明	把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周辺に吊り金具端部当たり痕。背側吊り金具を中心に半径7.0mmの範囲に擦れ痕。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	植毛行数 （頭部を上にして左から）	①全長　②頭部幅 ③把柄幅　④把柄部厚（cm）	刻印状態	特　　徴
第77図386 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.1　②1.3 ③1.3　④0.85	CORBEILLE BEILL下半 不鮮明	頭部先端欠損するが、４列穿孔であろう。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔に吊り金具と周辺の緑青付着なし。腹側尻孔周縁2.0㎜に僅かな円形傷跡。頸部内湾するが背側のヒビによる変形であろう。
第77図387 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.2　②1.2 ③1.3　④0.8	CORBEILLE LLE鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。
第77図388 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.1　②1.2 ③1.3　④0.7	CORBEILLE 鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面は蒲鉾形。把柄部僅かに外反。把柄尻孔に吊り金具なし、周囲に緑青付着なし。植毛面一部欠損。
第77図389 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.1　②1.3 ③1.35　④1.0	CORBEILLE 下部1/3不鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面形は蒲鉾形。頸部くびれる。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径6.0㎜円形擦れ痕。
第77図390 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.15　②1.2 ③1.3　④0.7	CORBEILLE 鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔銅製針金を通して吊り金具の代用とする。周囲緑青付着。背側尻孔を中心に半径7.0㎜の範囲に擦れ痕。この痕跡から、針金は当初吊り金具破損後に付けたものと解される。
第77図391 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.3　④0.8	CORBEILLE 一部不鮮明	把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周辺に吊り金具端部当たり痕。背側吊り金具を中心に半径9.0㎜の範囲に擦れ痕。
第77図392 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.1　②1.1 ③1.2　④0.85	Super Fine S欠損、他は鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具両端欠損。腹側尻孔周縁2.0㎜に円形くぼみ、ドーム状端部の痕跡か。背側は7.0㎜程の円形擦れ痕。
第77図393	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①14.9　②1.2 ③1.35　④0.8	Super Fine S欠損、他は鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具腹側端部はドーム状をなし、背側端部は平坦に仕上げる。背側吊り金具周辺幅7.0㎜程の円形擦り痕。
第77図394 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	19：20：20：19	①15.0　②1.1 ③1.25　④0.9	Super Fine 鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周辺に金具端部当たり痕。背側吊り金具を中心に半径8.0㎜の範囲に明瞭な擦り痕。
第78図395 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	20：21：21：20	①14.3　②1.2 ③1.3　④0.9	CORBEILLE 鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具なし、緑青付着せず。
第78図396	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①12.9　②1.0 ③1.2　④0.75	SUPERFINEか SU INE判 読可能	頭部先端３列穿孔。把柄部横断面形は方形。頸部と把柄部境３面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部僅かに外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に7.0㎜ほど円形に擦り痕。
第78図397 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①12.7　②1.0 ③1.0　④0.6	SUPERFINE 鮮明	頭部先端３列穿孔。頸部と把柄部境３面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部横断面は方形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径6.0㎜ほどの範囲に明瞭な擦れ痕。
第78図398	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①12.9　②1.0 ③1.1　④0.6	SUPERFINE 不鮮明	頭部先端３列穿孔。頸部と把柄部境３面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部横断面は方形。頸部外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に6.0㎜ほど円形に明瞭な擦り痕。
第78図399 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①12.8　②1.0 ③1.0　④0.7	SUPERFINE 鮮明	頭部先端３列穿孔。頸部と把柄部境３面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部横断面は方形。頸部外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径5.0㎜ほどの範囲に明瞭な擦り痕。
第78図400 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.1　④0.7	SUPERFINE 鮮明	把柄部横断面形は方形。頸部と把柄部境３面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄部僅かに外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径9.0㎜の範囲に擦り痕。
第78図401	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①12.9　②1.0 ③1.1　④0.9	なし摩滅か	頭部先端３列穿孔。頸部と把柄部境、背側を除き段差と「U」字状の溝を設ける。把柄部横断面形は方形。全体に外湾。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。
第78図402 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①12.7　②1.0 ③0.9　④0.6	なし摩滅か	頭部先端３列穿孔。把柄部横断面形は方形。頸部と把柄部境３面に段差と「U」字状溝を付ける。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に6.0㎜ほど円形に擦り痕。
第78図403 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.2　②1.1 ③1.2　④0.7	Extra Fine EF以外は不明瞭	頭部先端に３列穿孔。把柄部中央に稜線。把柄尻孔に吊り金具、周囲緑青付着。把柄部外湾。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	植毛行数 （頭部を上にして左から）	①全長　②頭部幅 ③把柄幅　④把柄部厚（cm）	刻印状態	特　　徴
第78図404	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.3　②1.0 ③1.3　④0.7	Extra Fine 上部不鮮明	頭部先端３列穿孔。把柄部中央に明瞭な稜線。把柄尻孔に銅製金具、周囲に緑青付着。
第78図405	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.4　②1.1 ③1.2　④0.8	Extra Fine Ex Finが判読可能	頭部先端３列穿孔。把柄部中央み明瞭な稜線。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。
第78図406	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.4　②1.1 ③1.15　④0.8	Extra Fine tra　不鮮明	頭部先端３列穿孔。把柄部稜線明瞭。頸部僅かに外反。把柄尻孔に金具と緑青の付着なし。両面の尻孔周縁2.0㎜に円形傷跡。
第78図407 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.3　②1.1 ③1.2　④0.7	Extra Fine xtra 不鮮明	頭部先端３列穿孔。頸部くびれる。把柄部中央明瞭な稜線。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。柄部に比して頭部大きい。
第78図408	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.4　②1.05 ③1.25　④0.7	Extra Fine x不鮮明	頭部先端３列穿孔。把柄部中央明瞭な稜線。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具腹側端部はドーム状をなし、背側端部は平坦に仕上げる。ドーム状をなす金具端部は把柄部に食い込む。背側吊り金具周辺幅7.0㎜程の円形擦り痕。
第78図409	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.3　②1.0 ③1.2　④0.7	Extra Fine か　Eのみ鮮明	字体と形態から刻印はExtraFineであろう。頭部先端３列穿孔。頸部くびれる。把柄部中央稜線明瞭。頸部外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側緑青付着範囲は金具を中心に半径4.0㎜の円形。吊り金具腹側端部はドーム状をなし、背側端部は平坦に仕上げる。ドーム状をなす金具端部は把柄部に食い込む。
第78図410 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.4　②1.15 ③1.2　④0.55	Extra Fine Extra上半不鮮明	頭部先端３列穿孔。把柄部中央明瞭な稜線。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径6.0㎜範囲に擦れ痕。
第78図411 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	18：19：18	①13.4　②1.1 ③1.2　④0.8	Extra Fine 鮮明	頭部先端３列穿孔。把柄部中央明瞭な稜線。頸部から把柄部外湾。把柄尻孔吊り金具なく、周囲に緑青も付着しない。しかし、腹側尻孔周囲には金具端部の当たり痕らしき円形痕あり。背側尻孔周囲半径5.0㎜範囲に円形擦り痕があり、吊り金具は存在したと考えられる。
第78図412	骨製品 歯ブラシ	19：20：19	①13.1　②1.1 ③1.3　④0.8	なし	頭部先端３列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。頸部僅かに外反。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。
第79図413	骨製品 歯ブラシ	19：20：19	①13.2　②1.1 ③1.3　④0.7	なし	頭部先端３列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。全体に緩く外湾。
第79図414	骨製品 歯ブラシ	19：20：19	①13.2　②1.1 ③1.2　④0.7	なし	頭部先端３列穿孔。頸部と把柄部境やや明瞭。把柄部中央鈍い稜線。頸部から把柄部僅かに外湾。把柄尻孔に吊り金具なし、周囲に緑青付着なし。
第79図415	骨製品 歯ブラシ	19：20：19	①13.3　②1.1 ③1.2　④0.5	なし 摩滅か	頭部先端３列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。僅かに外湾。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。腹側尻孔周縁から2.0㎜に円形擦れ痕、背側に幅広の弧状擦れ痕。
第79図416	骨製品 歯ブラシ	19：20：19	①12.9　②1.05 ③1.1　④0.6	なし	頭部先端３列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。把柄尻孔に吊り金具なく、緑青も付着せず。全体に緩く外湾。背側尻孔周囲光沢があるが擦り痕はない。
第79図417	骨製品 歯ブラシ	19：20：19	①13.1　②1.1 ③1.2　④0.8	なし	頭部先端３列穿孔。把柄部中央明瞭な稜線。把柄尻孔に吊り金具なく、緑青も付着せず。背側尻孔周囲の擦れ痕なし。腹側には端部の当たり痕らしき円形痕あり。
第79図418	骨製品 歯ブラシ	19：20：19	①13.1　②1.1 ③1.2　④0.7	なし	頭部先端３列穿孔。把柄部中央鈍い稜線。頸部付近緩く外湾。把柄尻孔吊り金具なく、緑青の付着もなし。把柄尻孔周囲の擦れ痕などもない。
第79図419 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	17：18：17	①13.3　②1.1 ③1.1　④0.7	SUPERFINE 鮮明	頭部先端３列穿孔。植毛孔間隔不揃い。把柄部僅かに外湾。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。
第79図420	骨製品 歯ブラシ	17：18：17	①13.4　②1.1 ③1.1　④0.7	SUPERFINEか SU　FINE判読可能	頭部先端３列穿孔。把柄部横断面形蒲鉾形。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具先端は欠損。背側金具を中心に半径8.0㎜の円形に擦れ痕。
第79図421 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	20：21：21：20	①15.2　②1.2 ③1.1　④0.8	なし	頭部背側に４列の溝。頸部外反。植毛面は凹湾。把柄部僅かに外湾。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔に吊り金具、周囲緑青付着。頭部も薄く緑青付着。
第79図422 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	３列植毛	①－　②－ ③0.95　④0.5	なし	頭部背側に３列の溝。把柄部中央が膨らみ、頸部と把柄尻部くびれる。把柄尻部に両側面から切り込み入る。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具から半径6.0㎜範囲擦れ痕。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	植毛行数 （頭部を上にして左から）	①全長　②頭部幅 ③把柄幅　④把柄部厚（cm）	刻印状態	特　　徴
第79図423 ＰＬ－30	骨製品 歯ブラシ	18：19：19：18	①14.4　②1.1 ③1.3　④0.7	TOKUSEIHIN 鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部横断面形は三角形。把柄部稜線部を平坦に削り刻印を施す。把柄尻孔吊り金具、周辺に緑青付着。
第79図424 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	25：26：26：25	①14.8　②1.2 ③1.2　④0.6	SUPER FINE 鮮明	頭部先端４列穿孔。頸部明瞭にくびれる。把柄部横断面形は台形。把柄部中央長方形に窪ませ、刻印を打つ。把柄尻孔に吊り金具、周囲に緑青付着。出土資料中最も多毛束植である。
第79図425 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	17：18：18：17	①14.4　②1.15 ③1.3　④0.7	SUPERFINE？ ＳＮＥは鮮明	頭部先端４列穿孔。把柄部断面形状は楕円形。頸部くびれる。把柄部が緩くくびれる唯一の例。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。把柄部に比して頭部大きい。
第79図426 ＰＬ－31	骨製品歯 ブラシ	19：20：19	①13.1　②1.05 ③1.1　④0.5	M.T.&C 鮮明	刻印「Ｃ」の右に円形くぼみがあるが、中が白く傷の可能性がある。頭部先端３列穿孔。把柄部細く、頸部から尻部に向かうにしたがい太くなる。把柄部断面形は蒲鉾形。
第79図427 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.2　④0.6	草花状マーク左にTRADE、右にMARKか。把柄中央刻印は判読不能。	把柄部横断面形は薄い蒲鉾形。把柄部中央がくびれる。把柄尻孔吊り金具、周囲緑青付着。背側金具に革？の吊り紐残る。
第79図428 口絵４	骨製品 歯ブラシ	20：21：21：20	①15.1　②1.25 ③1.2　④0.6	頸部に像マーク、把柄中央に「米　AR　米」不鮮明	把柄部横断面形は楕円形。把柄尻孔なし。把柄尻尖る。把柄部中央刻印は米マーク間に最低12文字であるが、最後の３文字目と２文字目のみ判読可能。像マークは、鼻を巻いた像の側面。
第80図429 口絵４	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③0.9　④0.75	判読不能	把柄部腹側約4.3cm間に刻印あるが、判読不能。把柄部横断面形はほぼ円形。把柄尻孔吊り金具なく、緑青の付着もない。しかし、腹側尻孔周囲に金具端部と思われる当たり痕。背側の尻孔を中心とした半径6.0mm範囲には擦れ痕があり、吊り金具が存在した可能性が高い。
第80図430	骨製品 歯ブラシ	21：22：21	①13.1　②1.0 ③1.0　④0.6	TRADE MARK 間に鳥飛翔マーク	「MARK」刻印は二重に押される。鳥が飛翔しているマークは羽と足以外は摩滅して不明。頭部先端３列穿孔、穿孔部同一素材で塞ぐ。穿孔部頸部くびれる。全体に緩く外湾。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径8.0mmの範囲に擦れ痕。
第80図431 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ？	18：18：18：18	①14.5　②1.3 ③0.6　④0.6	なし	頭部先端に４列穿孔。頸部明瞭にくびれる。把柄部は平坦だが、一部厚み不足で無調整の箇所あり。把柄尻孔周囲に緑青が付着するが、孔の径が大きく、直接吊り下げたと考えられる。歯ブラシではない可能性がある。
第80図432	骨製品 歯ブラシ	不明	①－　②－ ③1.25　④0.65	SUPERFINEか SU　INE鮮明	把柄部横断面形は薄い蒲鉾形。把柄部外湾。直径4.0mmの把柄尻孔に円筒形金具残る、周囲緑青付着。腹側の尻孔周囲に金具端部当たり痕。
第80図433	骨製品歯 ブラシ	17：17：17：17	①13.5　②1.1 ③1.0　④0.5	なし摩滅か	頭部先端４列穿孔。頸部は細くくびれ、境が明瞭。頭部は大きいが、全体は薄い。把柄尻孔大きく吊り金具が残存しないが、周囲に緑青付着。
第80図434 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	15：15：15	①13.5　②0.9 ③1.0　④0.5	なし	頭部先端３列穿孔、穿孔部同一素材で塞ぐ。頸部くびれる。把柄部横断面形は低い蒲鉾形。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具腹側端部はドーム状をなす。背側は幅広の円形擦れ痕明瞭。
第80図435 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	17：18：17	①13.6　②1.15 ③1.2　④0.6	なし	頭部先端３列穿孔。把柄部横断面形は薄い蒲鉾形。把柄部僅かに外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。腹側の吊り金具にワッシャー状の金属板残る。
第80図436 ＰＬ－31	骨製品 歯ブラシ	17：17：17：17	①13.2　②1.0 ③1.05　④0.55	なし	頭部先端４列穿孔。頭部幅と把柄部幅ほぼ同じ。把柄部横断面形蒲鉾形。頭部接合。頸部外反するが、頭部破損時の変形か。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。吊り金具腹側端部はドーム状をなし、背側端部は平坦に仕上げる。ドーム状をなす金具端部は把柄部に食い込む。背側吊り金具周辺幅9.0mm程の円形擦り痕。
第80図437	骨製品 歯ブラシ	18：19：19：18	①14.4　②1.05 ③1.2　④0.7	SU　E SUPER FINEか	頭部先端４列穿孔。刻印摩滅。頸部くびれる。把柄部横断面形は楕円形。把柄部緩く外湾。把柄尻孔吊り金具、周囲に緑青付着。背側吊り金具を中心に半径5.0mm範囲に円形擦り痕。

図番号 ＰＬ番号	種　別 器　種	植毛行数 （頭部を上にして左から）	①全長　②頭部幅 ③把柄幅　④把柄部厚（cm）	刻印状態	特　　徴
第80図438	骨製品 歯ブラシ	18：19：19：18	①13.9　②1.2 ③1.2　④0.7	Extra Fine	頭部先端４列穿孔。頸部くびれる。把柄部横断面形は蒲鉾形。把柄尻孔に吊り金具なし、緑青付着せず。両面の孔周囲に円形の擦れ痕。
第80図439 ＰＬ－31	骨製品 楊枝？	－	①－　②－ ③0.3　④0.3	－	片側の尖り気味にする。先端と尾部欠損。
第80図440 ＰＬ－31	骨製品 楊枝？	－	①6.0　②0.7 ③0.25　④0.2	なし	厚さ2.0㎜程の羽子板状を呈す。中央は0.5㎜厚く、棒状をなす。先端は両面から斜めに削るが完全には尖らせず、端部は1.0㎜水平面を残す。また、厚みはそのままで薄くは削らない。

表８　１号堀中層出土鉛弾観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 名称	出土位置	①～③直径・長さ（㎜）④重さ（ｇ）	特　　徴
第81図１ ＰＬ－34	鉛製品 椎実弾	１号堀中層	①7.78　②7.78　③13.60　④5.2	頭部側面変形。旋状痕明瞭。
第81図２ ＰＬ－34	鉛製品 椎実弾	１号堀中層	①8.08　②8.02　③13.80　④5.3	頭部小さい当たり痕。旋状痕明瞭。
第81図３	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.81　②12.01　③－　④7.1	半球状をなす。１ｇ程軽いため、一部欠損か。
第81図４	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.43　②11.50　③11.25　④8.2	湯口0.45㎜突出。
第81図５	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.08　②－　③－　④8.3	二カ所平らに潰れる。
第81図６	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.71　②11.69　③11.92　④8.2	湯口痕明瞭、0.85㎜突出。二カ所小さく潰れる。
第81図７	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.36　②11.52　③12.31　④8.4	湯口痕明瞭、0.82㎜突出。型痕一部残る。一カ所潰れる。
第81図８	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.38　②11.51　③11.65　④8.2	湯口痕明瞭、0.31㎜突出。湯口付近型痕残る。変形なし。
第81図９	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.82　②11.83　③12.04　④8.1	湯口0.29㎜突出。一カ所平らに潰れる。
第81図10	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.45　②11.33　③11.21　④8.2	湯口不明瞭、0.18㎜突出。二カ所小さく潰れる。
第81図11	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.46　②11.69　③－　④8.3	一カ所やや大きく潰れる。
第81図12	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.44　②11.50　③11.51　④8.1	湯口0.37㎜突出、形状は乱れる。一カ所小さく潰れる。
第81図13	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.53　②11.52　③11.75　④8.1	湯口痕明瞭、0.74㎜突出。変形なし。
第81図14	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③－　④7.7	厚さ6.7㎜程に大きく潰れる。
第81図15 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.19　②11.98　③10.18　④－	型の合わせ目明瞭。幅2.0～3.0㎜の平坦面巡る。射出痕か？一方潰れてやや変形。
第81図16	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.41　②－　③11.87　④8.2	湯口痕0.47㎜突出。一カ所平らに変形。
第81図17	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.31　②11.68　③11.58　④8.2	湯口不明瞭、0.23㎜突出。複数箇所小さく変形。
第81図18	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.67　②12.10　③－　④8.2	二カ所潰れる。型痕一部残る。湯口不明。
第81図19	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.30　②11.39　③11.69　④8.1	湯口痕明瞭、0.75㎜突出。変形なし。
第81図20	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.72　②12.16　③－　④8.2	一カ所やや大きく潰れる。一カ所擦れたような痕跡。
第81図21	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.62　②12.57　③－　④8.1	半球状に大きく変形。
第81図22	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.67　②11.50　③11.76　④8.1	一カ所小さく潰れる。湯口不明。

図番号 ＰＬ番号	種別 名称	出土位置	①～③直径・長さ（㎜）④重さ（ｇ）	特　　徴
第81図23	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.71　②11.64　③11.40　④8.0	湯口痕不明。目立つ変形なし。
第81図24	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.74　②11.70　③12.27　④8.3	湯口痕不明瞭、0.28㎜突出。目立つ変形なし。
第81図25	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.10　②－　③12.15　④8.1	湯口痕明瞭、0.58㎜突出。1/3程平らに変形。
第81図26	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.48　②－　③11.38　④8.0	湯口痕不明。一カ所大きな凹み。
第81図27	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.37　②11.40　③11.70　④8.1	湯口痕明瞭、0.43㎜突出。三カ所小さく潰れる。
第81図28	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.65　②11.43　③11.86　④8.1	湯口土がこびり付き不明瞭。0.3㎜程突出。三カ所小さい潰れ。
第81図29	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.01　②－　③－　④8.2	湯口痕明瞭、0.33㎜突出。二カ所大きく凹む。
第81図30	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.20　②11.31　③11.68　④8.0	湯口痕明瞭、0.27㎜突出。二カ所小さく潰れる。
第81図31	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.49　②11.53　③11.88　④8.2	湯口痕0.34㎜突出。型痕残る。二カ所小さく窪む。
第81図32	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③11.79　④8.3	湯口痕明瞭、0.47㎜突出。湯口付近型痕残る。三カ所潰れる。
第81図33	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.47　②－　③11.85　④8.1	湯口痕明瞭、0.29㎜突出。二カ所潰れる。
第81図34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.56　②11.53　③－　④8.2	湯口痕明瞭、0.32㎜突出。型痕残る。約2.0㎜幅の平坦面周囲に巡る。射出痕？
第81図35	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.52　②11.31　③－　④8.3	湯口痕明瞭、0.42㎜突出。二カ所潰れる。幅2.0～3.0㎜の平坦面周囲に巡る。射出痕？
第81図36	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.30　②－　③－　④8.1	湯口痕明瞭、0.57㎜突出。一カ所大きく窪む。
第81図37 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①13.31　②12.85　③－　④7.8	ほぼ半球状を呈する。
第81図38	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.28　②11.22　③11.57　④8.2	湯口痕不明瞭、0.30㎜突出。幅２･３㎜の平坦面周囲に巡る。射出痕？
第81図39	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.38　②11.37　③11.77　④8.3	湯口痕0.27㎜突出。一カ所小さく潰れる。
第81図40	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.62　②11.51　③11.35　④8.3	型痕一部残る。幅２･３㎜の平坦面周囲に巡り、湯口痕潰す。射出痕？
第81図41 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.64　②11.62　③11.49　④8.2	湯口痕。一部凹む。
第81図42	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.69　②11.47　③11.67　④8.3	湯口痕明瞭、0.65㎜突出。型痕一部残る。幅２・３㎜の平坦面周囲に巡り、一部湯口痕潰す。射出痕？
第81図43 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.57　②11.44　③11.60　④8.2	湯口痕明瞭、0.53㎜突出。型痕残る。
第81図44 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③－　④8.0	潰れ著しく、変形。
第81図45	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.45　②11.25　③11.70　④7.9	湯口痕明瞭、0.55㎜突出。型痕残る。一カ所僅かな潰れ。
第81図46	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.68　②－　③12.81　④7.8	半球状に潰れる。
第81図47	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.60　②11.66　③－　④8.0	1/3程潰れる。
第81図48	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.49　②11.28　③11.61　④8.1	湯口痕0.33㎜突出。湯口付近型痕残る。
第81図49	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.00　②12.22　③－　④8.0	1/3程潰れる。湯口痕半分残り、0.59㎜突出。
第81図50 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.21　②－　③11.98　④8.1	湯口痕明瞭、1.04㎜突出。三カ所小さい潰れ。型痕明瞭。
第81図51	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.78　②－　③11.31　④8.2	一カ所大きく潰れる。幅２･３㎜の平坦面帯状に残る。射出痕？

図番号 ＰＬ番号	種別 名称	出土位置	①～③直径・長さ（㎜）④重さ（ｇ）	特　　徴
第81図52	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.57　②11.47　③11.72　④8.1	湯口痕明瞭、0.78㎜突出。一カ所小さく潰れる。
第81図53	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③－　④7.9	中央で6.5㎜厚までドーム状に潰れる。一部広がる。
第81図54 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③－　④5.7	厚さ2.0㎜程に潰れる。一部欠損か。
第81図55	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③11.46　④8.2	幅2･3㎜の平坦面巡り、湯口痕を潰し、不明瞭にする。射出痕？三カ所小さく潰れる。新旧関係は、古い順に湯口、射出痕？、潰れ。
第81図56	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.55　②11.44　③11.78　④8.0	小さい凹凸があり湯口不明。幅約2.0㎜の平坦面巡る。射出痕？
第81図57	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.30　②11.51　③11.59　④8.1	湯口痕明瞭、0.58㎜突出。湯口痕脇に鋳込み不良と思われる小さい凹み一カ所。
第81図58	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.60　②11.95　③11.48　④8.1	幅2･3㎜の平坦面巡り、湯口痕を潰す。射出痕？
第81図59	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.29　②11.50　③11.70　④8.1	湯口痕明瞭、0.36㎜突出。幅2･3㎜の帯状平坦面、射出痕？
第81図60	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.40　②11.52　③11.70　④8.0	湯口痕明瞭、0.82㎜突出。型痕明瞭。
第81図61 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.58　②11.25　③11.67　④8.1	湯口痕明瞭、0.75㎜突出。湯口付近型痕残る。無傷。
第91図62	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.55　②11.52　③11.63　④8.1	湯口痕明瞭、0.61㎜突出。幅約2.0㎜の平坦面巡る。射出痕？
第81図63	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.63　②11.32　③11.52　④8.1	湯口0.32㎜突出。幅約3.0㎜の平坦面巡る、射出痕？一部凹む。
第81図64	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.44　②11.40　③11.54　④8.2	湯口痕明瞭、0.45㎜突出。湯口痕付近型痕明瞭。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第81図65	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.64　②11.74　③－　④8.3	湯口痕不明瞭、0.39㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？約1/3が潰れて平らになる。
第81図66	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.45　②－　③11.35　④8.1	湯口痕明瞭、0.27㎜突出。二カ所小さく潰れる。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第81図67	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.31　②－　③11.75　④8.0	湯口痕明瞭、0.27㎜突出。両脇には明瞭な型痕。一カ所小さく潰れる。
第81図68	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.38　②11.45　③11.73　④8.3	湯口痕明瞭、0.34㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所小さく凹む。
第81図69 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.41　②11.39　③－　④8.0	湯口痕明瞭、0.82㎜突出。型痕一部残る。一カ所凹む。
第81図70	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.42　②11.52　③11.67　④8.1	湯口痕明瞭、0.64㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？三カ所小さく凹む。
第81図71	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.38　②11.53　③11.55　④8.0	湯口痕明瞭、0.39㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？二カ所小さく凹む。
第81図72	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.60　②11.35　③11.72　④8.2	湯口明瞭、0.44㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第81図73	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.52　②11.52　③11.67　④8.0	湯口痕不明瞭。幅2･3㎜の平坦面巡る。射出痕？が湯口を潰す。二カ所小さく凹む。
第81図74	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.49　②11.42　③11.55　④8.0	湯口痕明瞭。0.24㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所小さく凹む。
第81図75	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.35　②11.41　③11.29　④8.1	湯口痕明瞭、0.42㎜突出。湯口両脇に明瞭な型痕。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第81図76	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.42　②11.74　③11.53　④8.1	湯口痕0.31㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第81図77	鉛製品 円弾	１号堀中層	①12.01　②－　③12.18　④8.1	湯口痕0.29㎜突出。一カ所大きく潰れる。
第81図78	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.40　②11.20　③11.89　④8.1	湯口痕明瞭、0.73㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第81図79	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.72　②－　③12.32　④7.9	湯口痕0.44㎜突出。1/3程潰れる。潰れのない部分もやや変形。幅2･3㎜の平坦面、射出痕？
第81図80	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.63　②11.36　③11.37　④8.0	湯口痕不明瞭、0.18㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所小さく凹む。

図番号 ＰＬ番号	種別 名称	出土位置	①～③直径・長さ（㎜）④重さ（ｇ）	特　　徴
第81図81	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.54　②11.45　③11.72　④8.2	湯口痕0.47㎜突出。一カ所小さく凹む。
第81図82	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.36　②11.69　③11.58　④8.1	湯口痕明瞭、0.50㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る。射出痕？が湯口痕の一部を削る。
第81図83	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.48　②11.51　③11.40　④8.3	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第81図84	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.56　②11.41　③11.55　④8.2	湯口痕明瞭、0.62㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る。射出痕？湯口の一部削る。一カ所潰れる。
第81図85	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.47　②11.59　③11.76　④8.1	湯口痕不明瞭、0.12㎜突出。一カ所潰れ。
第81図86	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.55　②11.58　③11.56　④8.1	湯口痕明瞭、0.63㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所小さい潰れ。
第81図87	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.28　②11.23　③12.01　④8.3	湯口痕0.27㎜突出。湯口痕両脇型痕明瞭。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第81図88	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.53　②11.56　③11.78　④8.3	湯口痕0.27㎜突出。型痕巡る。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図89	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.40　②11.35　③11.82　④8.2	湯口痕0.32㎜突出。型痕巡る。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図90	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.88　②11.78　③11.82　④8.3	湯口痕0.18㎜突出。型痕巡る。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図91	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.46　②11.42　③11.60　④8.2	湯口痕明瞭、0.48㎜突出。湯口痕両脇の型痕明瞭。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図92	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.43　②11.58　③11.43　④8.3	湯口痕0.66㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所小さい潰れ。
第82図93	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.30　②－　③11.44　④8.2	湯口痕明瞭、0.30㎜突出。型痕巡る。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕?一カ所小さい潰れ。
第82図94	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.39　②11.42　③11.85　④8.2	湯口痕明瞭、0.51㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所小さい潰れ。
第82図95	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.35　②11.49　③11.57　④7.8	湯口痕0.32㎜突出。土の付着により射出痕？不明瞭。
第82図96	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.34　②11.26　③11.35　④8.0	湯口痕0.24㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図97	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.34　②11.41　③11.71　④7.9	湯口痕明瞭、0.64㎜突出。一カ所凹む。
第82図98	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.44　②11.62　③11.61　④8.3	湯口痕0.33㎜突出。湯口付近型痕残る。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所小さい凹み。
第82図99	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.44　②11.43　③11.89　④8.3	湯口痕0.51㎜突出。型痕巡る。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図100	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.41　②11.56　③11.91　④8.3	湯口痕明瞭、0.77㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？三カ所小さい凹み。
第82図101	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.56　②11.63　③11.61　④8.2	湯口痕0.16㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る。射出痕？湯口痕一部削る。
第82図102	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.39　②11.42　③11.78　④8.0	三カ所窪む。腐食のためか表面に小さい凹凸多い。
第82図103	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.58　②11.36　③11.59　④8.3	一カ所潰れる。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？型痕残る。
第82図104	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.40　②11.65　③11.65　④8.2	湯口痕0.23㎜突出。型痕残る。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？二カ所潰れ。
第82図105	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.35　②11.85　③11.21　④8.3	湯口痕不明瞭、0.16㎜突出。型痕不明瞭。
第82図106	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.24　②－　③11.84　④8.2	湯口痕明瞭、0.42㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕?型痕残る。一カ所潰れ。
第82図107	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.46　②11.49　③11.75　④8.2	湯口痕明瞭、0.55㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？二カ所潰れ。
第82図108	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.76　②－　③12.06　④8.2	湯口痕明瞭、1.17㎜突出。1/3程潰れてやや変形。型痕残る。
第82図109	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.61　②11.43　③11.67　④8.1	湯口痕不明。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所凹む。

図番号 ＰＬ番号	種別 名称	出土位置	①～③直径・長さ（㎜）④重さ（ｇ）	特　　徴
第82図110	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.50　②11.48　③11.40　④8.2	湯口痕明瞭、0.30㎜突出。湯口両脇型痕明瞭。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図111	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.54　②11.49　③11.81　④8.2	湯口痕明瞭、0.47㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図112	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.59　②11.26　③12.14　④8.3	湯口痕、0.18㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図113	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.73　②－　③11.96　④7.8	湯口痕明瞭、0.55㎜突出。1/3強潰れる。
第82図114	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.41　②11.20　③－　④8.0	湯口痕0.10㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る。射出痕？湯口痕潰す。
第82図115	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.34　②－　③11.80　④8.1	湯口痕0.13㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図116	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.48　②－　③11.57　④8.1	湯口痕明瞭、0.42㎜突出。湯口両脇に明瞭な型痕。一カ所潰れ。
第82図117	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.22　②11.21　③11.54　④8.2	湯口痕突出は0.13㎜と低いが、円形に形良く残る。湯口痕両脇の型痕明瞭。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図118	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.50　②－　③11.68　④8.1	湯口痕明瞭、0.22㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図119	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.92　②－　③－　④8.2	湯口痕不明瞭、0.14㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所凹む。
第82図120	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.28　②－　③11.31　④8.0	湯口痕不明瞭、0.17㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？型痕残る。
第82図121	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.34　②－　③11.72　④8.3	湯口痕不明。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所凹む。
第82図122	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③11.70　④8.1	三カ所凹む。湯口痕不明。
第82図123	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.37　②－　③11.61　④8.3	湯口痕、0.34㎜突出。湯口痕両脇型痕明瞭。二カ所凹む。
第82図124 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.88　②－　③－　④8.2	湯口痕明瞭、0.33㎜突出。二カ所凹む。
第82図125 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.38　②11.78　③－　④8.1	湯口痕0.46㎜突出。一部変形。
第82図126	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.52　②11.77　③11.58　④8.2	湯口痕、0.57㎜突出。型痕残る。
第82図127	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.23　②11.35　③11.30　④7.8	湯口痕不明瞭、0.16㎜突出。
第82図128	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.67　②11.38　③11.34　④8.0	湯口痕明瞭、0.39㎜突出。湯口痕両脇の型痕明瞭。
第82図129	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.57　②11.40　③11.58　④8.2	湯口0.24㎜突出。
第82図130	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.56　②－　③11.39　④8.1	湯口0.21㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図131	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.71　②－　③11.68　④8.2	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ変形。
第82図132	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.76　②11.82　③－　④8.3	湯口0.13㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図133	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.84　②－　③－　④8.1	1/3ほど凹む。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第81図134	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.41　②11.48　③11.80　④8.3	湯口痕明瞭。0.51㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？二カ所凹む。
第82図135	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.48　②11.21　③11.97　④8.4	湯口痕0.27㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図136	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.47　②－　③11.52　④8.2	湯口痕0.33㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る。射出痕？湯口痕を半分潰す。
第82図137	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.43　②－　③11.55　④8.5	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図138	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.43　②11.40　③11.65　④8.2	湯口痕不明瞭、0.20㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。

図番号 ＰＬ番号	種別 名称	出土位置	①～③直径・長さ（㎜）④重さ（ｇ）	特　　徴
第82図139	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.57　②11.34　③－　④8.1	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所凹む。
第82図140	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.64　②－　③－　④8.2	湯口痕明瞭、幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所凹む。
第82図141	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.43　②11.46　③－　④8.3	湯口痕0.17㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所凹む。
第82図142	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.44　②11.47　③－　④8.0	湯口痕0.25㎜突出。一カ所凹む。
第82図143	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.50　②－　③11.67　④8.2	湯口痕0.20㎜突出。型痕明瞭。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所凹む。
第82図144	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③12.34　④8.1	湯口痕明瞭、0.29㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？約1/3潰れ。
第82図145	鉛製品 円弾	1号堀中層	①12.08　②－　③12.01　④8.2	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？1/3潰れる。
第82図146	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.64　②11.62　③11.47　④8.1	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れる。
第82図147	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④8.3	二カ所潰れ、二カ所凹む。
第82図148	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④5.4	湯口痕明瞭。最大厚５㎜に潰れる。一部欠損か。
第82図149	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④7.9	歪に変形する。
第82図150	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④8.1	湯口痕0.25㎜突出。最大厚８㎜のドーム状に潰れる。
第82図151	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④8.2	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？高さ約７㎜の歪なドーム状に変形。
第82図152	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④7.9	高さ約7.5㎜の歪なドーム状に変形。
第82図153	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.78　②－　③11.73　④8.3	湯口痕明瞭、0.43㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所凹む。
第82図154	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④8.1	湯口痕明瞭、0.47㎜突出。高さ約３㎜の歪なドーム状に変形。
第82図155	鉛製品 円弾	1号堀中層	①12.44　②12.46　③－　④8.4	湯口痕明瞭、0.22㎜突出。湯口痕両脇の型痕明瞭。約1/3潰れドーム状をなす。
第82図156	鉛製品 円弾	1号堀中層	①12.41　②－　③－　④8.2	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？約1/3潰れドーム状をなす。
第82図157	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.68　②－　③－　④8.0	歪に変形する。
第82図158	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④8.1	二カ所潰れる。
第82図159	鉛製品 円弾	1号堀中層	①12.17　②－　③－　④8.3	約1/3潰れる。型痕残る。
第82図160	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④7.9	厚さ約6.5㎜に潰れる。
第82図161 ＰＬ－34	鉛製品 円弾	1号堀中層	①－　②－　③－　④7.9	最大厚約7.2㎜に潰れる。平面形は三ツ輪状を呈する。
第82図162	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.69　②11.80　③－　④8.2	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れ。
第82図163	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.48　②11.32　③11.79　④8.0	湯口痕0.39㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？型痕と異なる小溝巡る。
第82図164	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.52　②－　③11.40　④8.1	一カ所潰れる。湯口痕不明瞭。
第82図165	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.66　②11.67　③－　④8.1	一カ所潰れる。
第82図166	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.41　②－　③11.73　④8.1	幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？尖った物に当たったような凹みと擦れたような凹み各一カ所。
第82図167	鉛製品 円弾	1号堀中層	①11.67　②－　③11.77　④8.1	湯口痕明瞭、0.43㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？一カ所潰れる。

図番号 ＰＬ番号	種別 名称	出土位置	①～③直径・長さ（㎜）④重さ（ｇ）	特　　徴
第82図168	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.44　②11.54　③11.83　④8.2	湯口痕明瞭、0.41㎜突出。幅2･3㎜の平坦面巡る、射出痕？
第82図169	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.45　②11.39　③－　④8.0	湯口痕不明瞭、0.17㎜突出。湯口痕両脇型痕。一カ所凹む。
第82図170	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③11.59　④8.0	四カ所潰れる。
第82図171	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③－　④8.0	高さ約7.2㎜の歪なドーム状に変形。
第82図172	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③－　④5.8	厚さ約５㎜に潰れる。一部欠損か。
第82図173	鉛製品 円弾	１号堀中層	①－　②－　③－　④8.1	高さ約7.4㎜のドーム状に変形。
第82図174	鉛製品 円弾	１号堀中層	①11.71　②－　③13.52　④8.1	一カ所「く」の字状に大きく凹む。

表９　盛土上および高崎城期の出土遺物観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（㎝）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第83図１	内耳土器 焙烙形	１号堀 ７層	2/3	①5.8　②(30.8) ③－	①－　②A ③10YR5/3鈍黄褐	口縁部に歪みがあり、直径推定不可能。口縁端部上面やや凹む。内面に段差あり。
第83図２ ＰＬ－34	肥前磁器 香炉	４号堀	一部欠損	①6.2　②12.5 ③4.3	①－　②良好 ③灰白色	外面に簡略化した海浜風景を描く。器表に光沢があり、昭和30年代のゴミの中から出土しており、伝世品が廃棄された可能性が高い。
第83図３	平瓦	２号堀 下層	2/3	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好 ③－	他の瓦に比して焼成が柔らかめで断面が、中心から黒色、灰白色、黒灰色のサンドイッチ状を呈する。大きさも大きく、他の瓦より古い可能性が高い。
第83図４	平瓦	２号堀 下層	3/4	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好 ③－	２号堀出土瓦中大きさが判明する数少ない資料。凸面に比して凹面は丁寧に調整される。燻しも良好である。
第84図５	平瓦	２号堀 下層	一部欠損	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好 ③－	２号堀出土瓦中大きさが判明する数少ない資料。凸面に比して凹面は丁寧に調整される。燻しも良好である。
第84図６	平瓦	２号堀 下層	一部	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好　③－	凸面に比して凹面は丁寧に調整される。燻しも良好である。
第84図７	丸瓦	２号堀 下層	一部	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好　③－	凸面は縦方向の撫で痕、凹面布痕残る。凹面にコビキＢ痕残る。
第84図８	平瓦	２号堀 下層	測縁部	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好　③－	凸面に比して凹面は丁寧に調整される。凸面の燻しは不良で灰白色を呈する。
第85図９	丸瓦	２号堀 下層	先端と側 面欠損	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好　③－	凸面は縦方向の撫で痕、凹面布痕残る。凹面にコビキ痕残る。
第85図10	軒丸瓦	２号堀 下層	瓦頭、玉 縁欠損	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好　③－	瓦頭接合部にカキヤブリ。凸面は縦方向の撫で痕、凹面布痕残る。凹面にコビキＢ痕残る。
第85図11	丸瓦	２号堀 下層	玉縁部	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好　③－	凸面は縦方向の撫で痕、凹面布痕残る。凹面にコビキＢ痕残る。
第86図12	丸瓦	２号堀 下層	面取り部	①－　②－ ③－	①夾雑物少ない ②良好　③－	凸面は縦方向の撫で痕、凹面にコビキＢ痕明瞭に残る。
第86図13	五輪塔 火輪	２号堀	完形	①－　②－ ③－	上面にほぞ穴を設ける。下面の反りは弱い。	
第86図14	茶臼形 下臼	６号堀	1/5	①－　②－ ③－	はんぎり欠損。黒色を呈し、発泡のよい石材を使用。調整は丁寧で石の凹凸は少ない。摺り面には細い目が残る。摺り面の半分ほどが擦れ、周縁ほど滑らかとなる。	
第87図15	粉挽き形 上臼	４号堀	一部欠損	①－　②－ ③－	軸受け部が抜ける。摩滅により当初引き手穴が摺り面に出る。供給口側側面に引き手穴を付けようとした跡がある。摺り面は周縁に向かうほど滑らかである。偏減りが著しく、周縁部で４㎝の比高差がある。供給口は長方形を呈する。	

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第88図16	粉挽き形 上臼	２号堀	1/3	①－　②－ ③－	軸受け穴と供給口の一部が残る。偏減りが著しく、周縁で2.5cmの比高差がある。一部に目が残り、放射状を呈していた可能性がある。引き手穴残る。	
図番号 ＰＬ番号	種別 銭種	出土位置	残存状態	①②直径　③④内輪径　⑤厚さ （mm）		備　　考
第88図17	銭貨 元祐通寶	４号堀	一部欠損	①－　②24.30　③19.42　④－ ⑤1.04～1.13		北宋1086年初鋳。篆書

表10　１区・３区　堀以外出土遺物観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第89図１ ＰＬ－34	須恵器 坏	２号土坑 底面	一部欠損	①3.6　②12.7 ③5.3	①須恵１　②良好 ③2.5Y6/2灰黄 ・2.5Y4/1黄灰	底部外面右回転糸切り無調整。口縁部内外面に各一カ所「真」墨書。
第89図２ ＰＬ－34	須恵器 坏	２号土坑 底面	完形	①3.5　②11.9 ③6.5	①須恵１　②良好 ③2.5Y6/1黄灰	底部外面右回転糸切り無調整。最大で１cm程の礫含む。底部内面中央突出する。
第89図３	須恵器 坏	２号土坑 ＋９cm	1/4	①(3.0) ②12.0 ③－	①須恵１ ②やや不良 ③5Y7/1灰白	口縁部外反。
第89図４	須恵器 坏	２号土坑	1/4	①－　②(14.4) ③－	①須恵２　②良好 ③5Y6/1灰 ・2.5Y6/2灰黄	口縁部外反。
第89図５	須恵器 坏	２号土坑 89図２土器内	1/5	①(3.1) ②13 ③－	①須恵Ａ　②やや不良　③5Y3/2オリーブ黒	口縁部直線的に開く。
第89図６	須恵器 坏	２号土坑 ＋６cm	1/5	①－　②(14.2) ③－	①須恵Ａ　②やや不良　③2.5Y4/1黄灰	口縁部直線的に開く。5と同一個体の可能性あり。
第89図７	須恵器 坏	２号土坑 ＋８cm	1/3	①(4.0) ②13.5 ③－	①須恵Ｂ　②酸化炎　③5YR6/4鈍橙	口縁端部やや肥厚し、外反する。
第89図８	施釉陶器 盤類	３号土坑 ＋８cm	体部小片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③断2.5Y6/2灰黄	古瀬戸後Ⅰから Ⅲ期。外面と内面上半に灰釉。外面下部に凹線２条巡る。
第89図９	施釉陶器 盤類	３号土坑 ＋７cm	底部小片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③断2.5Y7/2灰黄	古瀬戸後Ⅰから Ⅲ期。底部外面回転篦削り。内面灰釉を拭ったような跡。胎土や色調が8と近似し、同一個体の可能性がある。
第89図10	内耳土器 鍋形	３号土坑 ＋５cm	口縁部から体部下位片	①－　②－ ③－	①Ｂ　②Ｂ、良好 ③内5Y5/1灰 ・外5Y4/1灰	外面体部下端篦削り。口縁端部丸味を帯びる。
第89図11	内耳土器 鍋形	３号土坑 ＋10cm	口縁部小片	①－　②－ ③－	①Ｂ　②Ｄ、良好 ③10YR1.7/1黒 ・10YR7/4鈍黄橙	燻し焼成。内面に比して外面黒い。口縁端部は丸味を帯びる。
第89図12	すり鉢	３号土坑	口縁部片	①－　②－ ③－	①Ｂ　②Ｂ、良好 ③5Y5/1灰	口縁部外面から内面の調整は丁寧。口縁端部内面の器表擦れる。
第89図13 ＰＬ－34	鉄滓？ 流動滓	３号土坑	小片	①－　②－ ③－	①－　②－ ③－	横断面が蒲鉾状を呈し、下部に土の付着が認められる。また、流れ出した際の皺も残り、鉄生産に伴う流出滓先端付近の破片と推定される。
第89図14	土器 皿	９号土坑 底面	1/2	①2.2　②7.2 ③4.6	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁やや強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図15	土器 皿	９号土坑 ＋４cm	1/3	①1.8　②7.8 ③4.8	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	内面底部周縁やや強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図16 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋４cm	1/2	①1.8　②(7.3) ③(4.5)	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁やや強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図17 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋４cm	口縁部1/4欠損	①1.75 ②7.4 ③4.5	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁やや強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図18 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋４cm	1/2	①2.8　②7.4 ③4.3	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第89図19 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋１～３cm	1/3	①1.9　②7.3 ③4.1	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図20 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋８cm	口縁部1/4 欠損	①1.6　②7.4 ③4.4	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図21 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋５cm	完形	①1.8　②7.6 ③4.5	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第89図22 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋３cm	完形	①1.7　②7.8 ③4.4	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図23 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋２cm	完形	①1.7　②7.4 ③4.6	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図24 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋４cm	完形	①1.7　②7.6 ③4.05	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図25 ＰＬ－34	土器 皿	９号土坑 ＋11cm	完形	①1.55 ②7.55 ③4.7	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/6橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図26 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋12cm	完形	①1.55 ②7.15 ③4.3	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/6橙	内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図27 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋６cm	完形	①1.6　②7.8 ③4.5	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	底部から口縁部歪む。内面底部周縁やや強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図28 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 底面	完形	①1.8　②7.4 ③4.8	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	底部内面撫で。内面底部周縁強い回転横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。体部外面一部爆ぜる。
第90図29	土器 皿	９号土坑 ＋21cm	1/2	①1.9　②(11.4) ③(6.6)	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	口縁端部玉縁状。底部内面撫で、周縁強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整、板状厚痕。
第90図30 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋７cm	2/3	①2.2　②11.0 ③6.3	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。周縁強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図31 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋11cm	完形	①2.3　②11.1 ③6.1	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	口縁端部玉縁状。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図32 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 底面～＋３cm	口縁一部 欠損	①2.55 ②11.0 ③6.0	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。やや歪む。底部内面弱い撫で、周縁強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図33 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋１～４cm	1/5欠損	①2.1　②11.8 ③7.0	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/6橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図34 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 底面～４cm	口縁一部 欠損	①2.1　②11.8 ③6.4	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図35 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 底面～11cm	口縁一部 欠損	①2.0　②11.7 ③6.5	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/6橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第90図36 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 底面～＋４cm	底部一部 欠損	①2.1　②11.7 ③7.1	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。底部内面弱い撫で、周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整、板状厚痕。
第90図37 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋１～８cm	口縁部1/3 欠損	①1.8　②10.5 ③6.2	①Ａ　②良好 ③10YR7/4鈍黄橙	口縁端部玉縁状。底部内面撫で、周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整、板状厚痕。
第91図38 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋１～３cm	口縁部1/4 欠損	①2.5　②11.0 ③6.4	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	歪み著しい。口縁端部玉縁状。底部内面弱い撫で、周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整、一部板状厚痕？
第91図39 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 底面～２cm	完形	①2.3　②10.8 ③6.2	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/6橙	口縁端部玉縁状。底部内面やや強い撫で。底部外面左回転糸切り無調整、板状厚痕多い。
第91図40 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋３～10cm	一部欠損	①2.1　②11.5 ③6.6	①Ａ　②良好 ③7.5YR6/6橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91図41	土器 皿	９号土坑 ＋４cm	1/5	①2.4　②(11.6) ③(6.2)	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。底部内面やや強い撫で。底部外面左回転糸切り無調整、板状厚痕多い。
第91図42	土器 皿	９号土坑 ＋２～３cm	口縁部3/4 欠損	①1.9　②11.5 ③7.3	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部僅かに玉縁状。周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91図43 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 底面～５cm	口縁部1/4 欠損	①2.6　②11.2 ③6.3	①Ａ　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	歪み著しい。口縁端部玉縁状。底部内面撫で、周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第91図44 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 底面～５cm	口縁部1/3 欠損	①2.5　②11.9 ③7.0	①A　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91図45	土器 皿	９号土坑 底面～６cm	口縁一部 底部完	①2.35 ②11.3 ③6.2	①A　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。底部内面弱い撫で、周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91図46 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋４cm	一部欠損	①2.3　②11.7 ③6.5	①A　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91図47 ＰＬ－35	土器 皿	９号土坑 ＋３～８cm	口縁部1/3 欠損	①2.25 ②11.4 ③7.2	①A　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	口縁端部玉縁状。周縁やや強い横撫でにより凹む。底部外面左回転糸切り無調整。
第91図48	土器 皿	９号土坑 ＋23cm	小片	①(3.0) ②(17.4) ③－	①A　②良好 ③7.5YR7/6橙	左回転轆轤調整。大型。
第91図49	土器 皿	９号土坑 ＋22cm	1/6	①(3.4) ②(17.4) ③－	①A　②良好 ③7.5YR7/6橙	左回転轆轤調整。大型。外面口縁部下僅かに膨らむ。底部直上で欠損。
第91図50	内耳土器 鍋形	９号土坑 底面	小片	①－　②－ ③－	①B　②C、良好 ③5YR6/6橙	丸底。体部外面黒色。
第92図１ 口絵３	製作地不詳 青磁	３区遺構外	完形	①2.0　②9.0 ③4.6	①－　②良好 ③－	轆轤成形で、文様は型で付ける。高台内透明釉。文様は波兎。高台端部の微少な欠けから見ると、胎土はガラス質で透明感のある白色を呈する。青磁釉は厚く掛けるが、三田青磁ではない。
第92図２	粉挽き形 上臼	３区	1/2	①－　②－ ③	偏減りが著しく、周縁部で2.3cmの比高差がある。かなり明瞭に目が残る。目のパターンは６分画、５本であろう。当然のことながら、この目は当初のものではないであろう。	

表11　２区盛土内出土遺物観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第93図１ 口絵３	中国磁器 白磁皿	櫓台盛土	1/5	①2.9　②(11.2) ③(5.8)	①－　②良好 ③－	高台端部鉄分により明褐色味を帯びる。体部下位は内湾し、口縁部は水平に近く小さく開く。白磁皿Ｃ群。
第93図２	大窯 皿	櫓台盛土	口縁部小 片	①－　②(10.0) ③－	①－　②やや不良 ③－	口縁部外面は轆轤目により外反するように見える。灰釉を施す。３片接合。
第93図３ 口絵３	中国磁器 染付皿	盛土	1/4	①－　②－ ③(6.0)	①－　②良好 ③－	「玉取り獅子」尾部付近の底部片。染付皿Ｂ1群。
第93図４	常滑陶器 甕？	盛土	頸部片？	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	外面灰釉掛かる。内面上位に薄く灰釉掛かる。
第93図５	内耳土器 鍋形	盛土	口縁部細 片	①－　②－ ③－	①B　②A、良好 ③2.5Y4/1黄灰 ・10YR6/2灰黄褐	器壁薄いが、焼成はサンドイッチ状をなす。胎土中央から、灰白色、灰赤色、器表が灰黒色を呈する。口縁部内面と体部境の段差は低いものの明瞭である。２片接合。
第93図６	在地土器 すり鉢	盛土	体部下位 片	①－　②－ ③－	①B　②D、良好 ③10YR5/1褐灰	還元焼成。内面使用により平滑となる。残存部にすり目は認められない。
第93図７ ＰＬ－35	在地土器 甕？	盛土	1/5	①－　②(24.4) ③－	①D　②C？、良好　③2.5YR2/1赤黒・2.5YR4/3鈍赤褐	器表付近は一部を除き黒色を呈するが、当初のものか否か不明。胎土は中世内耳と同じであるが、古代土釜に似た器形である。内外面の調整は、土釜に比して遙かに丁寧であり、中世の所産と考えられる。
第94図８	内耳土器 鍋形	盛土	口縁部片	①－　②－ ③－	①C　②D、良好 ③7.5YR3/1黒褐	口縁端部正面凹む。端部正面は内傾する。口縁部内面と体部境の段差は明瞭であるが、外面の屈曲部は消失し、直線的となる。屈曲部の名残は轆轤目状の調整痕として残る。鍋形と焙烙形の中間的な器形か？
第94図９	在地土器 火鉢？	盛土	体部細片	①－　②－ ③－	①B　②D、良好 ③10YR3/1黒褐	胎土断面灰赤色、器表付近灰白色、器表黒灰色。外面に菊花状押印。
第94図10	在地土器 すり鉢	盛土	体部細片	①－　②－ ③－	①D　②A、良好 ③10YR4/1褐灰 ・10YR4/4褐	７本単位のすり目を入れる。胎土中央から灰白色、やや赤身を帯びた青灰色、灰白色、器表は灰黒色。15と同一個体の可能性高い。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第94図11	内耳土器 鍋形？	盛土	底部小片	①－　②－ ③－	①皿Ｄ　②Ａ、良好 ③7.5YR5/3鈍褐	断面灰白色で器表が鈍橙色を呈する。器壁厚く平底。鍋形若しくは焙烙形の底部であろう。
第94図12	常滑陶器 片口鉢	盛土	体部下位 小片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③7.5YR6/6橙	焼き締まりはあるが、酸化炎焼成である。高台欠損。内面はすり鉢として使用しているようで、非常に平滑である。県内の常滑片口鉢はすり鉢として使用されている。２片接合。
第94図13	在地土器 すり鉢	盛土	体部下位 細片	①－　②－ ③－	①Ｃ　②Ｄ、良好 ③7.5YR3/1黒褐 ・7.5YR5/4鈍褐	内面に５本単位のすり目を施す。内面下位は使用により器表摩滅する。内面に二次的な被熱痕。
第94図14	在地土器 すり鉢	盛土	底部2/3	①－　②－ ③10.7	①Ｄ　②Ｄ、良好 ③N5/灰	胎土灰白色、器表面青灰色。左回転糸切り無調整。内面すり目なし。内面体部下位から底部周縁使用により平滑となる。底部と体部の境、屈曲部に使用痕は認められず、擂り粉木の使用が想定される。３片接合。
第94図15	在地土器 すり鉢	盛土	底部片	①－　②－ ③－	①Ｄ　②Ａ、良好 ③2.5Y5/1黄灰 ・2.5Y7/1灰白	７本単位のすり目を放射状に入れる。体部内面下位から底部周縁は使用により器表摩滅する。特に底部周縁と体部下端の幅1.5cmの範囲はやや凹む。この使用痕から擂り粉木の使用は明らかである。胎土中央から灰白色、やや赤身を帯びた青灰色、灰白色、器表は灰黒色。底部外面撫で。
第94図16 ＰＬ－35	土製品 円盤	盛土	完形	径2.5 厚1.0	①Ｃ　②Ｄ、良好 ③5YR3/2暗赤褐 ・5YR5/6明赤褐	直径2.3cmと小型の円盤。内耳鍋形の体部片を打ち欠き、周縁を擦って成形する。
第94図17	在地土器 火鉢？	盛土	口縁部細 片	①－　②－ ③－	①Ｂ　②Ｄ？、良好 ③5YR5/6明赤褐	外面と断面は暗赤色だが、内面器表から3.0mm程は橙色を呈する。不完全な燻し焼成か。口縁部上面は平坦で、内面は突出する。外面は折り返したように幅広くする。外面口縁部下に押印。
第94図18	在地土器 皿	盛土	口縁部一 部 底部3/4	①2.1　②(12.3) ③7.0	①Ｂ　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。体部は外方に開き、器高は低い。口縁部下で外反する。内面体部下端と底部周縁、強い横撫でにより凹線状に凹む。３片接合。
第94図19	在地土器 皿	盛土	1/2	①2.4　②12.0 ③(7.2)	①Ｂ　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。口縁部僅かに内湾する。体部と底部の境は明瞭。
第95図20 ＰＬ－35	内耳土器 鍋形	櫓台盛土	1/6	①－　②－ ③－	①Ｃ　②Ｃ、良好 ③内7.5YR5/3鈍褐・断5YR5/3鈍赤褐	外面器表黒色。口縁部器壁やや薄い。口縁端部内外面丸く突出する。口縁端部上面凹む。４片接合。
第95図21	在地土器 火鉢？	櫓台盛土	口縁部細 片	①－　②－ ③－	①Ｂ　②Ｄ、やや不良　③7.5YR4/3褐・7.5YR4/1褐灰	24に似た口縁部形状であるが、外面の幅がやや狭い。内面は剥離する。口縁部外面に菱形状の押印を巡らす。
第95図22	在地土器 火鉢？	櫓台盛土	口縁部片	①－　②－ ③－	①Ｂ　②Ｄ、やや不良 ③10YR3/1黒褐 ・5YR6/4鈍橙	口縁端部内面凸出する。外面は端部を幅広く取り、中央を凹線状に窪ませる。外面口縁部下に凸帯を巡らし、上部に巴文押印を巡らせる。凸帯下部にも施文するようだが、残存部が小さく不明。24と同一個体の可能性がある。３片接合。
第95図23	在地土器 火鉢？	櫓台盛土	体部細片	①－　②－ ③－	①Ｄ　②Ａ、良好 ③10YR2/1黒 ・7.5YR5/4鈍褐	色調は、胎土中央から灰白色、鈍褐色、器表は黒灰色。外面に凸帯を巡らせ、上位に菊花状の押印を巡らす。
第95図24	在地土器 火鉢？	櫓台盛土	口縁部片	①－　②－ ③－	①Ｂ　②Ｄ、やや不良　③10YR3/1黒褐・5YR5/6明赤褐	外面口縁部下に凸帯を巡らし、上部に巴文押印を巡らせる。凸帯下部にも施文するようだが、残存部が小さく不明。22と同一個体の可能性がある。２片接合。
第95図25	内耳土器 鍋形	櫓台盛土	口縁部小 片	①－　②－ ③－	①Ｂ　②Ａ、良好 ③7.5YR2/1黒	断面の色調は、中央から褐灰色、鈍赤褐色、器表が黒色。口縁端部内外面は小さく突出する。口縁部は短く、外面は強い横撫でにより口縁部を外反させる。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第95図26	内耳土器 鍋形	櫓台盛土	口縁部小片	①－　②－ ③－	①C　②A、良好 ③10YR6/2灰黄褐・10YR2/1黒	器壁薄いが、断面はサンドイッチ状をなす。中央から灰白色、褐灰色、灰白色、器表は黒灰色を呈する。口縁部内面上位は強い横撫でにより、低い段差がある。
第95図27	内耳土器 鍋形	櫓台盛土	口縁部小片	①－　②－ ③－	①B　②C、良好 ③10YR5/3鈍黄褐・5YR6/4鈍橙	口縁端部は外方に丸く突出する。端部上面はやや内傾し、僅かに凹む。
第95図28	内耳土器 鍋形	櫓台盛土	口縁部小片	①－　②－ ③－	①B　②A、良好 ③内7.5YR7/4鈍橙・断7.5YR7/3鈍橙	胎土の中央から、黒色、明褐灰色、器表付近は明褐色を呈する。外面煤付着。口縁端部はごく僅かに肥厚する。上面もごく僅かに凹む。
図番号 ＰＬ番号	種別 銭種	出土位置	残存状態	①②直径　③④内輪径　⑤厚さ （mm）		備　　考
第95図29	銭貨 元豊通寶	盛土	完形	①24.56　②24.57　③19.95 ④19.79　⑤1.12～1.30		北宋1078年。篆書
第95図30	銭貨 洪武通寶	盛土	完形	①23.12　②23.10　③18.98 ④18.80　⑤1.34～1.63		明1368年。マ頭通、単点通
第95図31	銭貨 至道通寶	櫓台盛土	完形	①24.92　②24.67　③17.83 ④17.32　⑤1.31～1.52		北宋995年。真書

表12　２区盛土内石列出土遺物観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第96･97図 1	宝篋印塔 基部	石列	完形	辺32.0　高21.5		１面に文字を刻む。逆修であるが、永享三年辛亥の紀年銘あり。
第97図２	石製品 凹み石	石列	完形	①－　②－ ③－		丸味を有する角閃石安山岩の１面に凹みを付ける。凹みの調整はやや粗い。
第98図３ 口絵４	宝篋印塔 塔身	石列	ほぼ完形	①－　②－ ③－		上面と下面は全体に浅く凹ませる。側面は４面共に月輪を一段掘り下げて墨を入れた後、薬研堀の梵字を刻む。側面周縁の一部に墨の縁取り明瞭に残る。
第99図４	五輪塔 地輪？	石列	1/4	①－　②－ ③－		底面に凹みを付ける。１面に墨を丸く塗り、中に梵字を彫り込む。
第99図５	石製品 鉢	石列	小片	①－　②－ ③－		器高14cm程の石鉢片。内外面の調整は丁寧で、形も整っている。使用により内面はやや滑らかとなる。
第99図６	石製品 鉢	石列	1/2	①－　②－ ③－		平面の外形は隅丸方形を呈すると思われる。外面の調整は粗いが、内面は丁寧に仕上げる。石質が粗いが、内面は使用により滑らかとなる。
第99図７	石製品 凹み石	石列	1/2	①－　②－ ③－		ほぼ方形を呈する角閃石安山岩の中央に凹みを有する。凹みは両面にあり、片方が大きく深い。
第99図８	石製品 未製品？	石列	一部欠損	①－　②－ ③－		扁平な円形を呈する角閃石安山岩。裏面は欠損するが、表面は平坦で、中央が僅かに凹む。未製品か。
第100図９	石製品 凹み石	石列	1/2	①－　②－ ③－		ほぼ円形を呈する角閃石安山岩の1面中央に浅い凹みを付ける。凹みの無い側はほぼ平坦。
第100図10	石製品 凹み石	石列	完形	①－　②－ ③－		不整長方形を呈する角閃石安山岩の１面中央に凹みを付ける。
第100図11	石製品 凹み石	石列	2/3	①－　②－ ③－		周囲を削って直方体とし、１面に粗く凹みを付ける。凹み内は黒変するが、使用痕は観察できない。
第100図12	石製品 凹み石	石列	完形	①－　②－ ③－		小さく厚みのある角閃石安山岩の１面に凹みを付ける。凹みは径に比して深い。また、凹み底部付近は黒みを帯び、滑らかとなっている。凹み全体の調整も丁寧で、浅い凹み石とは用途が異なるであろう。
第100図13	石製品 不詳	石列	不明	①－　②－ ③－		角閃石安山岩の１面に段を付ける。段部分の調整は丁寧で凹凸が少ない。用途不明。
第100図14	粉挽き形 上臼	石列	1/4	①－　②－ ③－		角礫凝灰岩製。摺り面周縁は欠損。残存部では軸受け周辺が最も平滑である。
第101図15	茶臼形 下臼	櫓台石列	1/2	①－　②－ ③－		底面は高台状に削り出す。周縁に放射状をなすと思われる狭く深い目が一部残る。拓本でも明瞭なように、中央と周縁との平滑差の差は歴然としている。石材は発泡し、黒色を呈する。大きさの割に軽い。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第101図16	粉挽き形 上臼	石列	一部	①－　②－ ③－		供給口からものくばり部の小片。引き手穴は小さい。目の残りはよい。
第101図17	茶臼形 上臼	石列	1/2	①－　②－ ③－		偏減りが認められ、残存部で7.0㎜の比高差がある。摺り面は中央と周縁が平滑となる。目は中央に僅かに残る。
第102図18	粉挽き形 下臼	檜台１石列	1/3	①－　②－ ③－		摺り面は周縁ほど滑らかとなる。残存する目は分画を無視した配列である。残存部で５㎜程の偏減り。
第102図19	粉挽き形 上臼	石列	1/2	①－　②－ ③－		角礫凝灰岩製。ものくばりの凹みは不明瞭。偏減りが著しく、残存部周縁で6.5㎝もの比高差がある。
第102図20	粉挽き形 上臼	石列	小片	①－　②－ ③－		摺り面周縁欠損。摺り面は周縁に向かうほど滑らかである。
第103図21	粉挽き形 上臼	石列	一部欠損	①－　②－ ③－		角礫凝灰岩製。偏減りが著しく、周縁部で2.4㎝の比高差がある。摺り面周縁部は平滑である。
第103図22	茶臼形 下臼	石列	1/2	①－　②－ ③－		細い傷のような目が僅かに残る。偏減りがあるようで、周縁でも場所によって平滑さが異なる。
第104図23	粉挽き形 上臼	檜台石列１	2/3	①－　②－ ③－		上縁はきれいに取れており、打ち欠かれているようである。供給口は小さく、軸受けは径が大きい。上縁内側で2.3㎝の比高差があり、偏減りが著しい。目は残存しない。摺り面は周縁部が比較的滑らかである。
第104図24	茶臼形 下臼	石列	周縁欠損	①－　②－ ③－		底面に放射状の刻線があるが、形状から上臼の転用とは考えられない。摺り面の状態は比較的良く、周縁ほど平滑さが増す。２片接合。石は黒色を呈し、発泡していて大きさの割に軽い。

表13　２区盛土下畠状遺構黒色土内出土遺物観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第105図１ 口絵３	中国製 染付皿	黒色土	1/5	①－　②10.3 ③－	①－　②良好 ③－	呉須の発色は比較的良い。染付皿Ｂ１群。
第105図２ 口絵３	越州窯系 青磁碗	黒色土	口縁部細片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	口縁端部は尖り気味。釉は薄い。粗い貫入入る。３と同一個体の可能性がある。
第105図３ 口絵３	越州窯系 青磁碗	黒色土	体部細片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	釉は薄く、粗い貫入入る。２と同一個体の可能性がある。
第105図４ 口絵３	大窯 皿	黒色土	口縁部片	①－　②(11.0) ③－	①－　②良好 ③－	器壁薄く、口縁部僅かに外湾する。灰釉。４片接合。２段階。
第105図５	大窯 皿	黒色土	口縁部小片	①－　②－ ③－	①－　②やや不良 ③－	口縁部外面は轆轤目により外反するように見える。灰釉を施す。第93図２と同一個体の可能性がある。２片接合。２段階。
第105図６ 口絵３	大窯 器種不詳 ３～４段階	黒色土	口縁部 1/7	①(1.6)　②－ ③－	①－　②良好 ③－	内外面黒褐色の鉄釉。口縁端部を内面に突出させ、端部を広く取る。端部正面は凹線状に窪み、細い紐状粘土の貼り付け痕が認められる。口縁端部割れ口には釉の盛り上がりも認められ、欠損部にも細い紐状のものが貼り付けられた可能性がある。
第105図７	大窯 丸皿	黒色土	体部下位小片	①(1.5)　②－ ③5.3	①－　②良好 ③－	内面黒褐色の鉄釉、外面は錆釉状に薄く掛かる。底部外面は碁笥底状をなす。鉄釉稜皿底部片か。２段階。
第105図８ 口絵３	大窯 天目碗	黒色土	口縁部から体部	①－　②(12.0) ③－	①－　②やや不良 ③－	１段階。鉄釉薄く施す。胎土に白色鉱物含む。
第105図９ ＰＬ－35	土製品 錘	黒色土	完形	縦4.3 横1.0 厚1.0	①皿Ｃ　②やや不良　③10YR5/2 灰黄褐	細く長い土錘。やや焼成不良で軟質な焼き上がり。
第105図10 ＰＬ－35	在地土器 皿(取鍋)	黒色土	口縁部小片	①－　②－ ③－	①不明　②不明 ③2.5Y6/1黄灰色	内面は釉を掛けたような光沢があり、深さ２㎜程までヒビが入る。胎土は外側が青灰色から灰白色を呈するが、内面側２㎜程は灰黒色を呈する。取鍋として使用されたと考えられる。
第105図11 ＰＬ－35	在地土器 皿	黒色土	1/5	①2.4　②(10.3) ③(6.0)	①Ｃ　②良好 ③7.5YR4/6褐	体部緩く外湾する。口縁部に油付着。特に外面は厚く付着する。灯明皿として使用。
第105図12	在地土器 皿	黒色土	1/5	①1.8　②(8.4) ③(5.0)	①Ｅ　②良好 ③10YR3/1黒褐 ・5YR5/3鈍赤褐	底部回転糸切り無調整。轆轤左回転。器壁は体部中位で厚くなり、口縁部内面は横撫でにより窪む。口縁端部外面小さく窪む。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第105図13	在地土器 皿	黒色土	1/6	①－　②(10.0) ③－	①B　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	体部外湾する。
第105図14	在地土器 皿	黒色土	1/4	①2.1　②(8.4) ③(4.8)	①C　②良好 ③5YR5/4鈍赤褐	轆轤左回転。体部外湾する。
第105図15	在地土器 皿	黒色土	口縁部1/6 底部1/3	①(1.9)　②(9.6) ③－	①B　②良好 ③7.5YR5/4鈍褐	轆轤左回転。内面底部と体部境強い横撫でにより窪む。
第105図16	在地土器 皿	黒色土	1/4	①(1.8)　②(10.8) ③－	①B　②良好 ③7.5YR6/6橙	轆轤左回転？体部外湾する。２片接合。
第105図17 ＰＬ－35	在地土器 皿	黒色土	底部3/4	①1.9　②8.4 ③5.4	①E　②良好 ③5YR5/4鈍赤褐	左回転糸切り無調整。体部直線的に開く。体部に比して底部の器壁厚い。
第105図18 ＰＬ－35	在地土器 皿	黒色土	1/2	①2.4　②(7.2) ③(4.8)	①B　②良好 ③5YR6/6橙	左回転糸切り無調整。底部内面強い撫でにより器厚が半分以下となる。外面に板状圧痕は認められないが、植物茎状圧痕や糸切り痕の潰れは認められる。内面体部と底部境強い横撫でにより凹線状に窪む。９号土坑出土小型皿に比して体部は直線的で、器高もやや高い。２片接合。
第105図19	在地土器 皿	黒色土	口縁部片	①－　②(20.8) ③－	①B　②良好 ③7.5YR5/3鈍褐	大型皿の口縁部片。口縁部は直線的で、体部下位は外湾する。
第105図20 ＰＬ－35	須恵器？ 皿	黒色土	口縁部1/3 底部2/3	①3.1 ②(9.6) ③4.0	①C　②やや不良 ③7.5YR7/4鈍橙	右回転糸切り無調整。内面体部と底部境不明瞭。器表剥離する。
第105図21 ＰＬ－35	在地土器 鉢	黒色土	1/4	①(11.7) ②30.0 ③(16.8)	①鍋B　②良好 ③5YR6/6橙 ・2.5Y3/1黒褐	底部外面砂底。高台下部欠損するが、欠損部が摩滅していることから、欠損後も使用されたと推定。底部内面にすり鉢としての使用痕は認められない。口縁端部内面摩滅。
第105図22	在地土器 すり鉢	黒色土	片口部片	①－　②－ ③－	①B　②D、良好 ③10YR4/1褐灰	１単位９本以上のすり目を口縁部付近まで引き上げる。内面下位使用によりやや平滑となる。口縁端部内面は平滑ではないが、器表剥離する。
第106図23	在地土器 火鉢？	黒色土	体部小片	①－　②－ ③－	①皿D　②C、良好　③2.5YR5/4鈍赤褐・10YR2/1黒	内面器表のみ黒灰色。外面楓押印を散らす。３片接合。
第106図24	在地土器 火鉢？	黒色土	口縁部細片	①－　②－ ③－	①B　②B、良好 ③10YR5/1褐灰	口縁端部外面を外方に張り出させ、上面を広くする。口縁部外面に菊花状押印を巡らす。文様下には低く細い凸帯を巡らす。
第106図25 ＰＬ－36	在地土器 火鉢	黒色土	口縁部から体部下位片	①(11.0) ②(38.0) ③－	①B　②A、良好 ③10YR5/2灰黄褐	断面中央から褐灰色、鈍橙色で器表が黒褐色を呈する。体部外面は丁寧な篦削り。口縁端部を内外に突出させて上面を幅広くする。外面口縁部下に大きい凸帯を巡らせ、口縁端部との間に格子状の押印を施す。欠け口部に小さい円形の凹線が認められる。中央は盛り上がるが、上部欠損する。貼り付け痕は認められず。竹管状施文具による押厚で盛り上がったものと考えられる。内面下端には強い横撫でが認められ、底部付近と推定される。内面中位以下はやや黒変しており、使用痕の可能性もあるが、上部は酸化していない。
第106図26 ＰＬ－36	須恵器 円盤	黒色土	完形	①長5.2 ②厚1.1 ③－	①B　②良好 ③内2.5Y5/1黄灰 ・外10YR4/1褐灰	須恵器甕片の周囲を打ち欠いて円盤状に成形する。角は僅かに削る。
第106図27 ＰＬ－36	石製品 砥石？	黒色土	1/2？	①長(11.4) ②幅9.4 ③厚4.8	①－　②－ ③－	幅広で中央が厚い。広い面は平坦ではないが、擦れており平滑となる。幅の狭い面は、一方が平坦ではないが平滑となり、他方は砥石同様の減り具合である。
第106図28 ＰＬ－36	石製品 砥石	黒色土	1/2	①長(7.4)　②幅3.6　③厚2.2	①－　②－ ③－	幅広の２面を主に使用する。幅の狭い１面には調整時の削り痕残る。
第106図29	石造物 板碑	２区黒色土下	基部片	①－　②－ ③－	基部片か。片面は剥がれて残存しない。	
第106図30 ＰＬ－36	椀状滓	盛土	2/3	長6.1 幅3.4＋1.2	小型で楕円形に近い形状を呈する椀状鉄滓。	

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第106図31	鉄製品 鏃	黒色土	茎欠損	①－　②－ ③－	定角型式。	
第106図32	鉄製品 火打金	畠下遺構外	1/2？	高－　幅－ 厚0.2～0.5	錆がひどく、全体形状は不明であるが、山形を呈することは確かである。頂部と推定される部分に円孔が1/2明瞭に残る。刃部中央が窪むが、錆がひどい部分であり、使用痕か否かは不明。	
第106図33	銅製品 不詳	黒色土	完形？	①－　②－ ③－	銅若しくは合金製。薄い板を円形にし、一方を曲げている。外面は銀色を呈し、メッキされている可能性がある。用途不明。	
第107図34 口絵4	五輪塔 地輪？	黒色土	一部欠損	①－　②－ ③－	角閃石安山岩製の粗製小型品。下面は全体に浅く凹め、上面は丸味を帯びる。上面中央は小さく凹める。正面に小さく梵字を刻んだ後、円形に墨を入れる。表面の凹凸が多く、梵字は不明瞭。側面と上面周縁に墨の縁取りをしている可能性があるが、不明瞭。	
図番号 ＰＬ番号	種別 銭種	出土位置	残存状態	①②直径　③④内輪径　⑤厚さ （mm）		備　　考
第107図35	銭貨 洪武通寶	畠	完形	①23.91　②24.07　③19.91 ④19.87　⑤1.37～1.61		明1368年。重点通、背浙
第107図36	銭貨 洪武通寶	黒色土	完形	①23.63　②23.58　③17.28 ④17.15　⑤1.32～1.39		明1368年。マ頭通、単点通
第107図37	銭貨 不詳	黒色土	完形	①24.80　②24.91　③20.12 ④19.99　⑤0.89～1.30		判読困難。

表14　２区畠状遺構群出土中世遺物観察表

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第108図１	大窯 天目碗	24･25号土坑 ＋36cm	口縁部小片	①－　②(11.2) ③－	①－　②良好 ③－	鉄釉。禾目などは認められない。１段階。
第108図２ 口絵３	中国磁器 染付碗	174号ピット	体部下位片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	器壁は薄く、体部内湾する。底部内面と高台脇に１条の界線を巡らす。体部外面呉須の発色濃い。器表は僅かに青みを帯びる。
第108図３ 口絵３	中国磁器 染付碗	73号土坑 ＋13cm	体部細片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	体部細片で外面染付。内面無文。
第108図４ 口絵３	大窯 皿	30号土坑 ＋18・33cm	2/3	①2.8　②(10.0) ③(5.6)	①－　②良好 ③－	底部内面厚く灰釉溜まる。３段階（後）。
第108図５	大窯 縁釉皿	24･25号土坑 ＋５cm	口縁部小片	①－　②(12.2) ③－	①－　②良好 ③－	小皿小片。口縁部に灰釉を施す。１段階。
第108図６ 口絵３	大窯 皿	62号土坑 ＋37・46cm	1/3	①－　②－ ③(7.0)	①－　②良好 ③－	内面と高台脇灰釉溜まる。貫入入る。高台内も薄く灰釉掛かる。１・２段階
第108図７ 口絵３	中国磁器 白磁小皿	62号土坑 ＋24cm	1/5	①(1.6) ②(3.0) ③(2.2)	①－　②やや不良 ③－	やや焼成不良であるのか、胎土が灰白色に近い。そのため、釉も灰色味を帯びる。底部内面蛇の目釉剥ぎ。高台脇以下無釉。高台脇の釉は削り取る。碁笥底状を呈する。
第108図８ 口絵３	大窯 皿	30号土坑 ＋26cm	底部小片	①－　②－ ③(5.6)	①－　②良好 ③－	底部内面灰釉溜まる。高台内釉白濁。２・３段階。
第108図９ 口絵３	中国磁器 白磁皿	62号土坑 ＋15cm	1/2	①－　②(9.0) ③－	①－　②良好 ③－	口縁部のみ白磁釉掛ける。白磁皿Ｂ群。
第108図10 口絵３	大窯 端反皿	45号土坑 ＋８cm、 210号ピット 黒色土	1/3	①－　②(15.3) ③－	①－　②良好 ③－	大窯端反大皿。内外面に灰釉を施す。釉に粗い貫入。二次的な被熱痕。大窯Ⅰ期。210ピットと耕作土出土片と接合。接合しないが、同一個体の可能性がある破片も複数出土。
第108図11 口絵３	中国磁器？ 白磁？皿	45号土坑 ＋３・７cm	底部完形	①(13.0)　②－ ③7.2	①－　②不良 ③－	胎土は緻密で灰白色。透明釉は貫入入る。高台端部は無釉で鉄分により茶色を呈する。中国製白磁皿Ｃ群の焼成不良であろう。黒色土出土片を含め、７片接合。
第108図12 口絵３	大窯 天目碗	１号井戸 上層	口縁部から体部片	①－　②－ ③－	①－　②不良 ③－	胎土は鈍い橙色を呈し、釉も鈍い黄褐色を呈している。口縁部下の内湾は丸味を帯び、端部は小さく外反する。２段階。
第108図13 口絵３	大窯 端反皿	30号土坑 ＋43cm	口縁部片	①－　②(18.0) ③－	①－　②良好 ③－	口縁部小さく外反する。灰釉に粗い貫入。二次被熱により釉荒れる。１段階。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第108図14 口絵３	大窯 端反皿？	１号井戸 上層	体部から 底部片	①(2.0)　②－ ③(6.2)	①－　②良好 ③－	全面に灰釉を施す。口縁端部は欠損するが、端反部が認められる。小型端反皿であろう。１段階。
第108図15 口絵３	中国磁器 染付皿	72号土坑 ＋23cm 67号土坑 ＋17cm	底部1/2	①－　②－ ③(7.7)	①－　②良好 ③－	底部内面染付。呉須の発色は良く、無文部もきれいである。67号土坑出土片と接合。
第108図16 口絵３	中国磁器 青磁皿	82号土坑 ＋16・19cm	口縁部1/6 底部完形	①3.35　②13.7 ③6.0	①－　②良好 ③－	龍泉窯系青磁皿。高台内無釉。内面篦による施文。
第108図17 口絵３	施釉陶器 水滴	62号土坑 ＋21cm	完形	①2.2　②2.0 ③2.6	①－　②－ ③－	古瀬戸後期。
第108図18 口絵３	中国磁器 染付	89号ピット	底部細片	①－　②－ ③－	①－　②やや不良 ③－	器種不詳。底部内面染付。残存部外面無文。胎土は薄い灰白色を呈し、器表も灰色味を帯びている。
第108図19 口絵３	古瀬戸 卸し皿	72号土坑 ＋22cm	口縁部小 片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	古瀬戸後Ⅱ・Ⅲ期か。口縁部に灰釉掛ける。口縁部内面に凸帯を巡らす。体部内面に卸し目。後Ⅲ。
第108図20	常滑陶器 甕	８号溝	体部細片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	やや薄手の常滑甕体部下位片。
第108図21	古瀬戸 すり鉢	１号井戸 上層	体部細片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	内外面錆釉。６本単位のすり目を入れる。すり目は使用により摩滅する。古瀬戸のすり鉢。 割れ口摩滅する。後Ⅳ新。
第108図22	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋29cm	1/3	①－　②(7.9) ③－	①B　②－ ③7.5YR5/4鈍褐	９号土坑出土小型皿に比してやや器高が高くなるようである。
第108図23	在地土器 皿	30号土坑	1/3	①(1.8)　②(7.4) ③－	①C　②良好 ③7.5YR5/4鈍褐	小型皿。器壁やや厚い。轆轤回転方向不明。
第108図24	在地土器 皿	51号土坑	1/4	①2.9　②(9.0) ③(4.8)	①B　②良好 ③7.5YR5/3鈍褐	轆轤回転方向不明。体部外湾し、口縁端部は内湾気味。
第108図25	在地土器 皿	62号土坑	1/4	①－　②9.0 ③－	①B　②良好 ③内10YR3/2黒褐 ・外10YR5/3鈍黄褐	轆轤左回転。体部下位は外湾し、口縁部は内湾気味に立ち上がる。
第108図26	在地土器 皿	45号土坑	小片	①(2.4) ②(10.2) ③(5.9)	①B　②良好 ③10YR4/1褐灰	口縁部玉縁状をなす。内面黒色物質薄く付着。黒色物表面に皺が認められ、漆の可能性もある。
第108図27	在地土器 皿	24号土坑	1/3	①－　②(10.0) ③－	①B　②良好 ③10YR5/3鈍黄褐	体部中位外反。器壁やや薄い。５片接合。
第108図28	在地土器 皿	82･83号土坑	1/3	①－　②(11.0) ③－	①B　②良好 ③5YR5/4鈍赤褐	轆轤左回転。体部中位で緩く外反する。２片接合。
第108図29	在地土器 皿	162号ピット	1/5	①1.7　②(8.6) ③(5.0)	①B　②良好 ③5YR6/4鈍橙	体部に比して底部器壁やや薄い。体部と口縁部外面の轆轤目顕著。
第108図30	在地土器 皿	62号土坑	口縁部細 片	①－　②－ ③－	①C　②良好 ③5YR6/6橙	口縁端部内外面に「○」の墨書。
第108図31	在地土器 皿	64号土坑	1/4	①(2.3) ②(12.3) ③(6.5)	①A　②良好 ③5YR6/6橙	器高が低く体部から口縁部が開く。９号土坑出土皿と同様な胎土、器形。体部中位の器壁が薄くなり、口縁部で再び肥厚する。轆轤左回転。５片接合。
第108図32 口絵３	大窯 端反皿	62号土坑	口縁部小 片	①－　②－ ③－	①－　②良好 ③－	灰釉はやや薄く、粗い貫入入る。二次被熱受ける。１段階。
第108図33	在地土器 皿	30号土坑	1/3	①2.8　②(12.4) ③(7.0)	①D　②良好 ③5Y5/6オリーブ	中型皿。体部から口縁部外湾する。轆轤左回転。４片接合。
第108図34	在地土器 皿	１号井戸 上層	1/5	①2.1　②(9.2) ③(6.0)	①D　②良好 ③5YR4/4鈍赤褐	体部外湾する。内面底部と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。口縁部内面から口縁端部外面油？付着する。
第108図35	搬入土器？ 皿	８号溝	1/3	①(12.0)　②－ ③6.0	①緻密　②良好 ③2.5Y5/2暗灰黄	回転糸切り無調整。海面骨針多量に含む。胎土の特徴は、海面骨針を抜きにしても他の出土遺物とは明らかに異なる。
第109図36 ＰＬ－36	在地土器 皿	25号土坑 ＋13cm	完形	①2.3　②7.8 ③4.9	①B　②良好 ③7.5YR6/6橙	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。底部内面中央窪む。
第109図37 ＰＬ－36	在地土器 皿	25号土坑 ＋６cm	口縁一部 欠損	①2.3　②7.7 ③4.8	①B　②良好 ③7.5YR6/6橙	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。底部内面中央窪む。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第109図38 ＰＬ－36	在地土器 皿	25号土坑 ＋18cm	完形	①2.2　②7.7 ③4.5	①B　②良好 ③5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。底部内面中央窪む。
第109図39	在地土器 皿	25号土坑	口縁部一部、底部完	①(2.0)　②(8.0) ③4.6	①B　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙 ・7.5YR4/1褐灰	左回転糸切り無調整。体部中位やや厚い。
第109図40 ＰＬ－36	在地土器 皿	51号土坑 ＋９cm	完形	①2.5　②7.5・7.9　③4.5	①B　②良好 ③7.5YR5/4鈍褐	左回転糸切り無調整。口縁部歪む。体部から口縁部直線的に開く。
第109図41 ＰＬ－36	在地土器 皿	84号ピット	1/2	①(2.2) ②(8.0) ③(4.7)	①B　②良好 ③7.5YR5/3鈍褐	左回転糸切り無調整。底部内面軽い指撫で。底部外面板状圧痕僅かに残る。底部周縁横撫で強く、凹線状に窪む。９号土坑出土小型皿に比して器高やや高い。
第109図42 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑	口縁部1/3 底部2/3	①2.25　②(8.0) ③(4.8)	①B　②良好 ③5YR6/4鈍橙	糸切り回転方向不明。底部内面指撫で。５片接合。
第109図43 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋53cm	1/3	①2.3　②7.8 ③4.5	①B　②良好 ③内7.5YR5/3鈍褐・外10YR2/1黒	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。底部内面中央窪む。体部外面下位轆轤目弱く、内湾するかのように見える。
第109図44	在地土器 皿	24･25号土坑	1/4	①2.4　②(8.0) ③(5.0)	①C　②良好 ③5YR3/4暗赤褐	底部内面強い指撫で。底部外面板状圧痕明瞭。内面、体部と底部境の横撫で強く、凹線状に窪む。器壁やや厚い。
第109図45	在地土器 皿	42号土坑	1/5	①2.0　②(7.0) ③(4.0)	①E　②良好 ③5YR6/6橙	小型皿。轆轤右回転。体部下端の器壁薄く、体部から口縁部は厚い。
第109図46 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋５cm	口縁一部欠損	①2.2　②7.7 ③4.9	①B　②良好 ③10YR5/2灰黄褐	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。底部内面中央窪む。内面から口縁体部外面油付着。
第109図47 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋79cm	完形	①2.2　②8.2 ③4.8	①D　②良好 ③7.5YR5/2灰褐	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。内面黒く変色する。小さく欠損した口縁端部に煤か油付着。外面端部下端は高台状に小さく直立する。
第109図48 ＰＬ－36	在地土器 皿	82号土坑	口縁一部欠損	①2.8　②8.3 ③5.1	①B　②良好 ③10YR6/3鈍黄橙	左回転糸切り無調整。内面底部と体部境、強い横撫でにより凹線状に窪む。底部内面指撫で。内面油付着。欠損した口縁部にも煤か油付着。
第109図49 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋50～55cm	口縁部2/3 底部完	①3.15　②10.2 ③5.6	①B　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙 ・7.5YR4/1褐灰	左回転糸切り無調整。内面油付着。体部中位外反。３片接合。
第109図50	在地土器 皿	65号土坑 ＋26cm	底部	①(1.1)　②－ ③5.0	①C　②良好 ③10YR6/4鈍黄橙	左回転糸切り無調整。３片接合。
第109図51 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋16cm	口縁一部欠損	①2.8　②10.0 ③5.8	①D　②良好 ③5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。底部内面と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。底部外面圧痕あり。外面体部下端、強い横撫でによりやや窪む。
第109図52 ＰＬ－36	在地土器 皿	84号ピット	完形	①2.9 ②9.8・10.0 ③5.4	①B　②良好 ③5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。底部内面明瞭な指撫で。底部外面板状圧痕僅かに残り、糸切り痕の潰れも目立つ。体部と底部内面境横撫で強く、凹線状に窪む。体部中位外反する。
第109図53 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋59cm	口縁1/2 底部完	①3.2　②10.3 ③5.1	①C　②良好 ③10YR5/2灰黄褐	左回転糸切り無調整。底部内面と体部下端境横撫でにより凹線状に窪む。外部中位で外反する。
第110図54 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋28cm	口縁1/2欠損	①3.2　②10.65 ③6.1	①C　②良好 ③明褐	左回転糸切り無調整。底部内面指撫で。底部内面と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。体部中位で外反する。
第110図55 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋77cm	口縁1/3欠損	①2.95　②10.6 ③6.3	①C　②良好 ③鈍褐	左回転糸切り無調整。底部内面指撫で。底部内面と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。体部中位外面強い横撫でを境に外反する。
第110図56 ＰＬ－36	在地土器 皿	82号土坑 ＋20・36cm	口縁一部欠損	①3.15　②11.8 ③7.2	①D　②良好 ③7.5YR7/4鈍橙	左回転糸切り無調整。底部内面と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。口縁部内面横撫でにより内湾気味。底部中央焼成後の穿孔。
第110図57 ＰＬ－36	在地土器 皿	82号土坑 ＋64cm	完形	①3.0　②11.8 ③7.3	①D　②良好 ③10YR6/3鈍黄橙	左回転糸切り無調整。外面体部下位、強い横撫でにより外反する。口縁部内面は内面の強い横撫でにより内湾気味となる。口縁部器壁は厚く、王縁状をなす。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第110図58 ＰＬ－36	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋10cm	口縁1/4欠損	①3.4　②11.7 ③6.2	①BorD　②良 ③5YR6/4鈍橙	左回転糸切り無調整。体部中位外反する。底部内面と体部境強い横撫でにより凹線状に窪む。
第110図59	須恵器 坏	25号土坑	1/2	①3.3　②(11.0) ③(7.0)	①2　②やや不良 ③10YR6/4鈍黄橙	右回転糸切り無調整。体部内湾気味で口縁部小さく外反。
第110図60	在地土器 皿	82号土坑 ＋35cm	底部1/2	①(2.2)　②－ ③8.4	①E　②良好 ③5YR5/6明赤褐	大型皿の底部片。左回転糸切り無調整。５片接合。
第110図61	在地土器 皿	68号土坑	1/2	①(2.1)　②－ ③(6.4)	①B　②やや不良 ③7.5YR6/6橙	左回転糸切り無調整。底部内面撫で。底部外面板状圧痕残る。３片接合。
第110図62	須恵器 坏	49号土坑 ＋10cm	1/3	①3.1　②(11.0) ③(6.5)	①C　②良好 ③5YR5/6明赤褐	轆轤右回転。体部から口縁部内湾する。
第110図63 ＰＬ－37	在地土器 皿	24･25号土坑 ＋３cm	1/2	①3.0　②(11.8) ③(7.2)	①C　②良好 ③5YR4/4鈍赤褐	左回転糸切り無調整。内面器壁荒れる。
第110図64 ＰＬ－37	在地土器 皿	１号井戸 上層	1/3	①2.5　②(11.0) ③(6.0)	①C　②良好 ③7.5YR6/4鈍橙	体部外面中央横撫でにより窪む。底部内面指撫で。底部外面板状圧痕多い。左回転糸切り無調整。内面底部と体部境強い横撫でにより窪む。
第110図65	在地土器 皿	82･83号土坑	口縁部一部 底部2/3	①2.1　②(8.8) ③5.4	①C　②良好 ③10YR3/1黒褐	断面器表共に黒味を帯びるが、当初の色調ではないと推測される。器高低く、体部は緩く外反する。左回転糸切り無調整。２片接合。
第110図66	在地土器 皿	82･83号土坑	1/4	①－　②－ ③(5.6)	①B　②良好 ③7.5YR5/4鈍褐	底部器壁厚い。左回転糸切り無調整。内面底部周縁強い横撫でにより凹線状に凹む。体部は直線的に立ち上がり、器高は高めであろう。３片接合。
第110図67 ＰＬ－37	須恵器？ 皿	228号ピット ＋10・14cm	1/2	①2.5　②(10.0) ③(5.4)	①B　②不良 ③10YR8/3浅黄橙	底部静止糸切り無調整。焼き締まりが非常に弱く、器表摩滅する。体部内湾気味で、口縁部小さく外反する。古代須恵器か。４片接合。
第110図68	在地土器 皿	67号ピット	1/4	①2.3　②(10.0) ③(6.0)	①B　②良好 ③7.5YR6/6橙	轆轤左回転。底部回転糸切り無調整。口縁端部玉縁状をなす。
第110図69	在地土器 皿	73号土坑 ＋20cm	1/4	①2.1　②(10.0) ③(5.0)	①A　②良好 ③2.5YR5/6橙	器高低く、体部と口縁部開く。体部中位外反し、口縁部微かに玉縁状をなす。色調は異なるが、胎土・器形は９号土坑出土皿に近似する。
第111図70	在地土器 皿	30号土坑	1/3	①2.5　②(12.2) ③(6.4)	①D　②良好 ③5YR6/6橙	中型皿。体部から口縁部外湾する。轆轤左回転。７片接合。
第111図71	在地土器 皿	172号ピット	口縁部一部 底部1/2	①(2.15) ②(8.0) ③(14.2)	①C　②良好 ③5YR6/6橙	左回転糸切り無調整。大型皿。体部は広く開き、口縁部は更に外反する。大きさの割に器壁薄く、焼成も良好。
第111図72	内耳土器 鍋形	１号井戸 上層	口縁部小片	①－　②－ ③－	①C ②A？、良好 ③断N4/灰	胎土は断面が黒灰色を呈し、器表付近の0.6㎜程が灰褐色を呈する。器表は黒から黒灰色。口縁端部は内傾し、作りはシャープである。端部内面は小さく突出する。口縁部下の段差は内外面共に明瞭。
第111図73 ＰＬ－37	内耳土器 鍋形	24･25号土坑 ＋30cm	1/3	①(16.1) ②(34.0) ③(24.0)	①C　②良好 ③7.5YR5/3鈍褐	口縁部やや厚く、端部外面を外方につまみ出す。内耳は小さい。平底。68片接合。
第111図74 ＰＬ－37	内耳土器 鍋形	63号土坑 ＋25・37cm	1/2	①(16.2) ②33.0 ③－	①C　②良好 ③内5YR6/4鈍橙 ・外5YR1.7/1黒	丸底。細片28片が接合しているが、同一場所で押しつぶされたような状態で出土している。
第111図75 ＰＬ－37	内耳土器 鍋形	64号土坑 ＋25・43cm	1/3	①(14.5) ②(33.0) ③－	①C　②C、良好 ③内7.5YR6/4鈍橙・外2.5Y3/1黒褐	63土坑７を含む８片接合。口縁部から体部下端器表黒色、内面は底部と下端の器表黒色。口縁端部内面面取り。口縁端部外面は小さく突出する。
第112図76 ＰＬ－37	内耳土器 鍋形	24･25号土坑 ＋33～86cm	1/4	①17.3 ②(33.0) ③(23.7)	①C　②C、良好 ③5YR4/2灰褐 ・5YR5/4鈍赤褐	口縁端部ほぼ水平で、中央やや凹む、端部内面は僅かに突出する。口縁端部外面は突出する。器壁やや厚い。平底。体部外面下端篦削り。９片接合。
第112図77	内耳土器 鍋形	45号土坑	小片	①－　②－ ③－	①B　②A、良好 ③10YR4/1褐灰	口縁端部僅かに凹み、内傾する。端部内面小さく突出する。端部外面は小さく外反。
第112図78	内耳土器 鍋形？	28号土坑	口縁部小片	①－　②－ ③－	①C　②A、やや不良　③2.5Y4/1黄灰	口縁端部平坦で、強く内傾する。口縁端部外片。口縁部外面に紐作り痕。近世の鉢形鍋に似た口縁部形状である。

図番号 ＰＬ番号	種別 器種	出土位置	残存状態	①器高　②口径 ③底径（cm）	①胎土　②焼成 ③色調	成形、調整の特徴など
第112図79 ＰＬ－37	内耳土器 鍋形	73号土坑 ＋14cm	1/5	①－　②(38.0) ③－	①C　②A？良好 ③内10YR3/1黒褐 ・外10YR2/1黒	断面は黒灰色を呈し、器表付近のみ暗赤褐色を呈する。外面器表は黒色。口縁端部上面僅かに凹む。端部内外面突出する。口縁部内湾気味に立ち上がる。器壁やや厚い。
第112図80 ＰＬ－37	内耳土器 鍋形	１号井戸 下層	1/6	①－　②－ ③－	①D　②C、良好 ③内10YR5/3鈍黄褐・外10YR3/1黒褐	外面器表黒色。口縁端部上面は平坦で、内面は小さく突出する。端部形状はシャープである。内面口縁部と体部境の段差も大きく明瞭。同場所外面の横撫では強く、段差も明瞭。３片接合。
第112図81 ＰＬ－38	内耳土器 鍋形	1号井戸 下層	1/5	①－　②－ ③－	①B　②A、良好 ③断10YR5/4黄褐	胎土の色調は、断面中央から褐灰色、鈍橙色で、器表が黒色。器表の黒色部下に漸移部は認められない。80同様口縁端部の作りはシャープで、口縁部下内外面の段差は明瞭。器形の特徴は酷似するが、色調が異なる。３片接合。
第113図82	内耳土器 鍋形	67号土坑 ＋４cm	口縁部片	①－　②－ ③－	①B　②C、良好 ③内5YR6/4鈍橙 ・外7.5YR4/2灰褐	口縁端部正面僅かに凹む。端部外面突出する。口縁端部内面擦り減る。擦り減り方は一様ではない。使用痕であろうが、下部が無く詳細不明。４片接合。
第113図83	内耳土器 鍋形	24･25号土坑 ＋18cm	口縁部片	①－　②－ ③－	①B　②A、良好 ③断N4/灰	口縁端部平坦で内傾する。口縁端部内面小さく突出する。５片接合。
第113図84	内耳土器 鍋形	24･25号土坑	小片	①－　②－ ③－	①C　②D ③断7.5YR6/4鈍橙	口縁端部は平坦で、内傾する。耳貼り付け部付近片。器壁やや厚い。
第113図85	内耳土器 鍋形	63号土坑	耳部片	①－　②－ ③－	①C　②C、良好 ③5YR6/4鈍橙 ・断7.5YR6/3鈍褐	外面器表黒色。口縁端部幅やや狭く、外面の突出も小さい。
第113図86	内耳土器 鍋形	82号土坑	耳部片	①－　②－ ③－	①D　②C、良好 ③5YR4/4鈍赤褐 ・5YR2/1黒褐	口縁部器壁薄い。外面器表黒色。口縁端部上面は内傾し、中央が凹む。端部外面は外方に小さく突出する。
第113図87	内耳土器 鍋形	73号土坑 ＋21cm	小片	①－　②－ ③－	①C　②A？良好 ③内10YR5/2灰黄褐・外10YR2/1黒	断面は黒灰色を呈し、器表付近のみ暗赤褐色を呈する。外面器表は黒色。口縁端部上面僅かに凹む。端部内外面突出する。口縁部内湾気味に立ち上がる。器壁やや厚い。内面器表の色調はやや異なるが、第122図79と同一個体の可能性がある。
第113図88	内耳土器 鍋形	64号土坑 ＋８cm	耳部片	①－　②－ ③－	①C　②C、良好 ③内7.5YR6/4鈍橙・外10YR2/1黒	外面器表黒色。口縁端部外面小さく突出する。口縁端部上面は平坦。
第113図89	内耳土器 鍋形	82号土坑 ＋22・27cm	小片	①－　②－ ③－	①B　②C、良好 ③5YR5/4鈍赤褐 ・5YR2/1黒褐	器壁やや厚い。口縁部端部浅い凹線巡る。端部内外面小さく突出する。外面器表黒色。
第113図90	内耳土器 鍋形	63号土坑 ＋７cm	耳部片	①－　②－ ③－	①C　②C、良好 ③5YR5/4鈍赤褐 ・5YR2/1黒褐	外面黒色。口縁端部幅は狭い。体部器壁はやや厚いが口縁部は薄い。
第113図91	内耳土器 鍋形	82･83号土坑	口縁部片	①－　②(25.0) ③－	①C　②A、良好 ③内10YR5/1褐灰 ・外10YR2/1黒	口径やや小さく、器壁は厚い。口縁端部上面内傾し、中央付近僅かに凹む。外面器表黒色。２片接合。
第113図92	内耳土器 鍋形	35号土坑 ＋22cm	口縁部小片	①－　②－ ③	①B　②A、良好 ③2.5Y6/1黄灰	口縁端部僅かに凹み、内傾する。口縁部外面、僅かに凹む。口縁部端部内面小さく突出する。
第114図93	内耳土器 鍋形	８号溝	口縁部小片	①－　②－ ③－	①C　②D、良好 ③断5YR5/4鈍赤褐	口縁端部内傾し、上面はやや窪む。端部外面短く外反する。
第114図94	内耳土器 鍋形	73号土坑 ＋３cm	小片	①－　②－ ③－	①D　②B、良好 ③内2.5Y4/1黄灰 ・外2.5Y6/1黄灰	器壁薄く、焼成は還元炎。口縁端部上面は内傾し、端部内面の器面は摩滅する。使用痕であろう。口縁部のみの破片であり、使用状況は不明。
第114図95	内耳土器 鍋形	82号土坑	口縁部片	①－　②－ ③－	①C　②D ③10YR4/2灰黄褐	口縁端部上面僅かに丸味を帯びる。口縁部内面小さく面取りする。口縁部内面と体部との段差は大きい。